別記様式第２号（その１の１）

基　本　計　画　書

基　本　計　画									
事　項		記　入　欄							備　考
計画の区分		学部の学科の設置							
フリガナ 設置者		ガッコウホウジン　ジョウヨウガクエン 学校法人　常陽学園							
フリガナ 大学の名称		トウキョウイリョウガクインダイガク 東京医療学院大学(University of Tokyo Health Sciences)							
大学本部の位置		東京都多摩市落合4丁目11番							
大学の目的		本学は、教育基本法及び学校教育法の精神に則し、建学の精神の下に、幅広い教養と保健医療に関する専門の知識と技術の教授研究を通じて、広く国民の健康に貢献できる人材を育成することを目的とする。							
新設学部等の目的		保健医療学部看護学科では、看護の専門職として幅広い教養と高い倫理観のもとに人への優しさ及び専門の知識と確かな技術を備え、常に、看護に関する探究心を持ち、臨床の実践と研究を通じて社会に貢献できる人材の育成を目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次 人	人		年　月 第　年次		
	保健医療学部 ［Faculty of Health Sciences］ 看護学科 ［Department of Nursing］	4	80	—	320	学士（看護学）	平成28年4月 第1年次	東京都多摩市落合4丁目11番	
	計		80	—	320				
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）		該当なし							

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	※助産師希望者は、必修科目128単位のほかに助産学科目25単位を履修し、合計150単位以上履修していること（助産学科目のうち3単位は卒業要件の「専門基礎分野・専門分野の科目から3単位」の履修と見なすため合計150単位となる）。
		講義	演習	実験・実習	計		
	保健医療学部 看護学科	82科目	33科目	14科目	129科目	128単位	

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
			人	人	人	人	人	人	人
	新設分	保健医療学部　看護学科	9 (5)	4 (1)	9 (5)	6 (5)	28 (16)	3 (1)	40 (9)
		計	9 (5)	4 (1)	9 (5)	6 (5)	28 (16)	3 (1)	40 (9)
	既設分	保健医療学部　リハビリテーション学科	13 (－)	5 (－)	4 (－)	3 (－)	25 (－)	2 (－)	44 (44)
		計	13 (－)	5 (－)	4 (－)	3 (－)	25 (－)	2 (－)	44 (44)
	合　計		22 (5)	9 (1)	13 (5)	9 (5)	53 (16)	5 (1)	94 (53)

教員以外の職員の概要

職種	専任	兼任	計
	人	人	人
事務職員	19 (15)	1 (1)	20 (16)
技術職員	1 (1)	— (—)	1 (1)
図書館専門職員	1 (1)	5 (5)	6 (6)
その他の職員	— (—)	— (—)	— (—)
計	21 (17)	5 (5)	26 (22)

校地等

区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
校舎敷地	13,578 ㎡	— ㎡	— ㎡	13,578 ㎡
運動場用地	5,880 ㎡	— ㎡	— ㎡	5,880 ㎡
小計	19,458 ㎡	— ㎡	— ㎡	19,458 ㎡
その他	3,889 ㎡	— ㎡	— ㎡	3,889 ㎡
合計	23,347 ㎡	— ㎡	— ㎡	23,347 ㎡

校地等は多摩市から借用
面積：23,347㎡
期間：H21.4から30年間

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	11,397.97 ㎡ (11,397.97 ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	11,397.97 ㎡ (11,397.97 ㎡)

校舎の一部は多摩市から借用
面積：4539.65㎡
期間H21.4から30年間

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設
	20 室	14 室	15 室	1 室 (補助職員 -人)	— 室 (補助職員 -人)

大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数
	保健医療学部 看護学科	28 室

図書・設備

新設学部等の名称	図書〔うち外国書〕 冊	学術雑誌〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点
保健医療学部看護学科	13,285〔2,183〕 (13,285〔2,183〕)	129〔38〕 (129〔38〕)	14〔14〕 (14〔14〕)	168 (168)	5,318 (5,318)	69 (69)
計	13,285〔2,183〕 (13,285〔2,183〕)	129〔38〕 (129〔38〕)	14〔14〕 (14〔14〕)	168 (168)	5,318 (5,318)	69 (69)

学科単位での特定不能なため、大学全体の数

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数
	436.36 ㎡	105	30,000

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	784.25 ㎡	—	—

大学全体
体育館は多摩市から借用
面積:784.25㎡
期間:H21.4から30年間

経費の見積り及び維持方法の概要

区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
教員１人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	—	—
共同研究費等		3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	—	—
図書購入費	18,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	—	—
設備購入費	115,181千円	—	—	—	—	—	—

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,930千円	1,630千円	1,630千円	1,630千円	— 千円	— 千円

学生納付金以外の維持方法の概要：資産運用収入、雑収入　等

図書購入費には電子ｼﾞｬｰﾅﾙ14契約（14ﾀｲﾄﾙ）・ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの整備費（運用ｺｽﾄ含む）を含む。

既設大学等の状況

大学の名称：東京医療学院大学

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		東京都多摩市落合4丁目11番
保健医療学部 リハビリテーション学科	4	100		400		1.19	平成24年度	
理学療法学専攻	4	70	—	280	学士（理学療法学）	1.21	平成24年度	
作業療法学専攻	4	30	—	120	学士（作業療法学）	1.13	平成24年度	

附属施設の概要	該当なし

学校法人 常陽学園　設置認可等に関わる組織の移行表

平成27年度	入学定員	編入学定員	収容定員		平成28年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
東京医療学院大学					東京医療学院大学				
保健医療学部					保健医療学部				
リハビリテーション学科					リハビリテーション学科				
理学療法学専攻	70	－	280		理学療法学専攻	70	－	280	
作業療法学専攻	30	－	120		作業療法学専攻	30	－	120	
					看護学科	80	－	320	学部の学科設置（認可申請）
	100	－	400			180	－	720	
専門学校東京医療学院					専門学校東京医療学院				
理学療法学科 昼間部（3年制）	32	－	96	→	理学療法学科 昼間部（3年制）	32	－	96	
理学療法学科 夜間部（4年制）	30	－	120		理学療法学科 夜間部（4年制）	30	－	120	
	62	－	216			62	－	216	
東京医療福祉専門学校					東京医療福祉専門学校				
はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧科	46	－	138	→	はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧科	46	－	138	
はり・きゅう科 昼間部	30	－	90		はり・きゅう科 昼間部	30	－	90	
教員養成科（鍼灸マッサージ）	25	－	50		教員養成科（鍼灸マッサージ）	25	－	50	
柔道整復科	30	－	90		柔道整復科	30	－	90	
	131	－	368			131	－	368	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養分野	ものの見方・考え方	哲学	１前	2			○								兼１	
		科学と技術	１後	1			○								兼１	
		歴史学	２前	1			○								兼１	
		倫理学	２前	1			○								兼１	
		身体論	１前	1			○								兼１	
		生命倫理	３前		1		○								兼１	
		情報と人間	２前	1			○								兼１	
		情報活用演習	３前		1			○							兼１	
	生活と文化	家族と社会	３前		1		○								兼１	
		文学の中の人間	３前		1		○								兼１	
		法と人権	２後		1		○								兼１	
		生活と経済学	３前		1		○								兼１	
		文化と健康	１後	1			○								兼１	
		東京の中の多摩を知るセミナー	１後		1			○							兼１	
		芸術論	４後		1		○								兼１	
	人間と環境	生物と進化	１前		1		○								兼１	
		生命科学	１後	1			○								兼１	
		物理学	１前		1		○								兼１	
		環境科学	４後		1		○								兼１	
	グローバルコミュニケーション	コミュニケーション論	１前	1			○								兼１	
		日本語表現	１後	1			○								兼１	
		英語Ⅰ（読む・書く基礎Ⅰ）	１前	1			○								兼１	
		英語Ⅱ（読む・書く基礎Ⅱ）	１後	1			○								兼１	
		英語Ⅲ（医療英語）	２前	1			○								兼１	
		英語Ⅳ（日常会話）	２後	1			○								兼１	
		英語Ⅴ（英語論文読解）	３前		1		○								兼１	
		韓国語（基礎会話）	４後		1		○								兼１	
		異文化体験セミナー	４前		1			○							兼１	
	大学における学び	学習と教育	１前	1			○								兼１	
		スタディスキルセミナー	１前		1			○		2		1				共同
		問題解決技法	３前		1			○				1	2			共同
		ボランタリーワークセミナー	３前		1			○		1		1	2			共同
		小計（３２科目）	－	16	17	0	－			3		1	2	0	兼21	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎分野	専門基礎科目	形態機能学Ⅰ	1前	1			○								兼1	
		形態機能学Ⅱ	1前	1			○								兼1	
		形態機能学Ⅲ	1後	1			○								兼1	
		形態機能学Ⅳ	1後	1			○								兼1	
		生化学（栄養学含）	1前	1			○								兼1	
		病理学	1後	1			○								兼1	
		臨床薬理学	2前	1			○								兼1	
		感染免疫学	1後	2			○								兼1	
		診断・治療学Ⅰ	2前	2			○								兼1	
		診断・治療学Ⅱ	2前	2			○								兼1	
		診断・治療学Ⅲ	2後	2			○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		臨床心理学	3前	1			○								兼1	
		医療と法	2前	1			○								兼1	
		保健統計学	3前		1		○								兼1	
		疫学	3前		1		○								兼1	
		生涯発達論	1後	2			○								兼1	
		社会保障論	2後	1			○								兼1	
		チーム医療論	3前	1			○								兼1	
		小計（１８科目）	－	21	2	0	－			0	0	0	0	0	兼15	
専門分野	看護の専門職性の発展の基盤	専門職の世界	1前	1				○		4	1	3	2			共同
		セルフディブロップメント	1前	1				○		4	1	3	2			共同
		キャリアディブロップメント	2後	1				○		2	1	3	1			共同
		医療チーム内のマネジメント	3前	1				○		3	1	5	1			共同
		医療以外の多職種との交流と発展	4前	1				○		2	1	1	2			共同
		キャリアマネジメント論	4前		1			○		1		2	1			共同
		小計（６科目）		5	1	0	－			8	4	9	6	0	－	
	看護実践の基盤	基礎看護学概論	1前	1			○			1						
		看護学援助論	1前	1			○				1					
		看護学技術論	1前	1			○			1						
		基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術）	1前	1			○			1			1			共同
		基礎看護学方法論Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	1後	1			○			1						
		基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術）	1後	1			○				1					
		基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開）	1後	1			○					1	1			共同
		基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）	1前	1				○		2	1	2	2			共同
		基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	1後	1				○		3	1	1	1			共同
		基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）	1後	1				○		2	1	2	2			共同
		基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開）	2前	1				○		3	1	3	1			共同
		基礎看護学実習Ⅰ	1前	1					○	8	3	6	3			共同

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門分野	看護実践の基盤	基礎看護学実習Ⅱ	1前	1					○	8	3	6	3			共同
		基礎看護学実習Ⅲ	2後	2					○	5	4	7	4			共同
		成人看護学概論	2前	1			○			1						
		成人看護学方法論Ⅰ	2前	1			○					1				
		成人看護学方法論Ⅱ	2前	1			○								兼1	
		成人看護学方法論Ⅲ	2後	1			○								兼1	
		成人看護学方法論Ⅳ	2後	1			○			1		1				共同
		成人看護学演習	2後	1				○		1		2	2			共同
		成人看護学実習Ⅰ	3前～4前	3					○	1	1	2	1	2		共同
		成人看護学実習Ⅱ	3前～4前	3					○	1	1	2	1	2		共同
		老年看護学概論	2前	1			○			1						
		老年看護学援助論	2前	1			○				1					
		老年看護学方法論	2後	1			○			2			1			共同
		老年看護学演習	2後	1				○		2	2		1			共同
		老年看護学実習Ⅰ	3前～4前	2					○	2	2		1			共同
		老年看護学実習Ⅱ	3前～4前	2					○	2	3	1	1			共同
		小児看護学概論	2前	1			○					1				
		小児看護学方法論Ⅰ	2前	1			○			1		2				共同
		小児看護学方法論Ⅱ	2後	1			○					1				
		小児看護学演習	2後	1				○		1		2				共同
		小児看護学実習	3前～4前	2					○	2		2				共同
		母性看護学概論	2前	1			○			1						
		母性看護学方法論Ⅰ	2前	1			○					1				
		母性看護学方法論Ⅱ	2前	1			○						1			
		母性看護学演習	2後	1				○		1		1	1			共同
		母性看護学実習	3前～4前	2					○	1		1	2			共同
		精神看護学概論	2前	1			○			1						
		精神看護学援助論	2後	2			○					1				
		精神看護学演習	2後	1				○		1		1				共同
		精神看護学実習	3前～4前	2					○	1		1				共同
		在宅看護学概論	3前	1			○				1					
		在宅看護学方法論	3前	2			○					2				共同
		在宅看護学演習	3前	1				○			1	2	1			共同
		在宅看護学実習	3前～4前	2					○		1	2	1			共同
		医療安全論	3前	1			○					2				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		災害看護学	4後		1		○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門分野	看護実践の基盤	看護倫理学	4後		1		○								兼1
		公衆衛生看護学概論	3前	1			○								兼1
		統合実習Ⅰ	4後	1					○	7	4	8	2		共同
		統合実習Ⅱ	4後	2					○	8	4	7	2		共同
		助産学概論	3前		1		○			1					
		基礎助産学Ⅰ	3前		2		○			1					
		基礎助産学Ⅱ	3前		2		○						1		
		健康教育技法	3前		1		○						1		
		助産診断・技術学概論	3前		1		○			1					
		助産診断・技術学方法論	3前		1		○						1		
		助産診断・技術学演習Ⅰ	3通		2			○		1			1		共同
		助産診断・技術学演習Ⅱ	3後		1			○		1			1		共同
		助産診断・技術学演習Ⅲ	3後		1			○		1			1		共同
		地域母子保健学	3後		1		○			1			1		共同
		助産管理学	3前		1		○			1					
		助産学実習	4通		11				○	1		1	1		共同
		小計（６４科目）	－	64	27	0	－			9	4	9	6	2	兼5
	看護の探究の基盤	看護の探究Ⅰ	1前	1			○					1		3	
		看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）	4通		5			○		3	1	1	1		共同
		看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）	4通		5			○		1		1	1		共同
		看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）	4通		5			○		2	2		1		共同
		看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）	4通		5			○		2		1			共同
		看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）	4通		5			○		2		1			共同
		看護の探究Ⅶ（精神看護学領域研究）	4通		5			○		1		1			共同
		看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）	4通		5			○			1	2	1		共同
		看護の探究Ⅸ（助産学領域研究）	4通		5			○		1			1		共同
		小計（９科目）	－	1	40	0	－			9	4	8	5	3	－
合計（１２９科目）			－	107	87	0	－			9	4	9	6	3	兼40

学位又は称号	学士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必修科目107単位の他に選択科目として、看護探究の基盤科目から5単位、教養科目から13単位、専門基礎科目・専門分野の科目から3単位を履修し、合計128単位以上を履修すること。（履修科目単位の上限：年間43単位） ※助産師国家試験受験資格希望者は、そのほかに助産学科目25単位を履修し、合計150単位以上履修していること（助産学科目のうち3単位は卒業要件の「専門基礎分野・専門分野の科目から3単位」の履修と見なすため合計150単位となる）。	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業時間	９０分

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養分野	ものの見方・考え方	哲学	人間は多様な「考え方」を持っている。その背景には、「主観」「客観」という認識の仕方や、「二元論」「全体論」「関係論」などが潜んでいる。古代ギリシア以来、哲学が「愛知」という意味であることを深く考え、「世界観」「人間観」などの「観」方が「知」によって形成されていることを学ぶ。	
		科学と技術	本科目では、「科学的な」と言われる「ものの見方・考え方」と「技術」に貫かれている「操作性」の本質的な違いについて、両者の歴史的発展過程をとおして理解する。	
		歴史学	歴史学（historiography）とは、過去の史料を評価・検証する過程を通して歴史の事実、及びそれらの関連を追究する学問である。この科目をとおして、物事の歴史的見方を学ぶ。	
		倫理学	倫理学は、人間の道徳規範と善の問題を研究対象とする。「いかにいきるべきか」を根源から問う。本科目では、「他者」に対して「援助行為」をとる看護専門職として、何が「善」でるあるかなど、人間の価値観がどのように形成されていくのかその基本的な考え方を理解する。	
		身体論	近代以来、身体は精神の「入れもの」に位置づけられてきた。また、現代医学は、身体の部分の「入れ替え」を可能にしている。看護学を学ぶ過程では、人間の身体を「形態・機能」として理解する内容がある。本科目は、人間の身体を「形態・機能」とは異なる見方があることを理解し、「身体」という概念を広げ深めることを目標にする。	
		生命倫理	現代社会では、生殖補助医療、出生前診断、安楽死・尊厳死、臓器移植、死の判定基準等、医療の現場における倫理的諸問題が日常レベルの話題となっている。本科目では、これらの事象に対して、看護専門職としてのアプローチの方向を考える力を醸成することを目標にする。	
		情報と人間	情報とは、人間が判断したり行動を起こしたりするために必要な種々の媒体を介しての知識である。つまり、人間は得た知識を「情報」として活用し、それに基づいて判断したり行動を起こしているのである。どのような知識を「情報」とするかは個別性がある。本科目では、人間は情報を必要とし、その活用に関する理論や研究を学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養分野	ものの見方・考え方	情報活用演習	「情報と人間」の学びをふまえ、「情報リテラシー」として今日の情報活用の方法であるコンピュータを介した活用方法を演習し、情報検索、情報活用の方法を学ぶ。	
	生活と文化	家族と社会	家族は、人間のつながりの原点であると言われる。その「つながり」とはなにか。現代は「家族」が崩壊しているといわれるが、何が「崩壊」しているのか。家族の有り様と社会の変化との関連を理解し、家族についての考え方を深める。	
		文学の中の人間	文学の中には、現実に生きている人間からは知ることが困難な、生きている過程の喜怒哀楽、或いは死の世界のとらえ方など、多様で豊かな「人間像」が表されている。本科目は、文学を通して、「人間観」を深めることを目標にする。	
		法と人権	専門職業人としての、態度や志向性を理解するための基礎として、社会生活の中での法の役割・機能・義務と責任や看護に関連する法制度について学ぶ。また、人権を守るとはどういうことなのか、現代の日本社会において生起している人権に関する諸問題について考察することにより、人権擁護に努める態度を養う。	
		生活と経済学	人間の生活は経済的活動なしには成立しない。本科目では、経済学の基礎的知識を学び、経済学の観点から人間の生活を理解することを目標とする。	
		文化と健康	健康は、単に身体の状態だけの問題ではない。平均余命の延長が示すように、文化の有り様が健康と密接に関連していることを、多くの事例をとおして理解する。	
		東京の中の多摩を知るセミナー	大学は「学問の府」であるといわれるが、その「所在」の環境は、「大学」の発展と学生の学びに密接に関係している。本大学が所在する「東京」と「多摩」をキーワードにして、「地域環境」を知ること、「地域社会の発展」について実践的活動を通して考える。	

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養分野	生活と文化	芸術論	芸術は人間の感性を磨くと言われる。美しさとは何か、人間がなぜ美しいものに感動するのか、「心を豊かにする」、「情緒に溢れる」「深く心にしみいる」「人間が魂を揺さぶられる」等等、「感性を磨くとはどのようなことか」について、音楽鑑賞等を通して体験的に理解すると共に、自身の生き方の中で感性を豊かに磨き続ける契機とする。また、社会、文化における芸術の位置づけを考察する。	
	人間と環境	生物と進化	生物にかかわる現象について、生命と生物の視点でわかりやすく学ぶ。特に、個体としての生命や種の維持のための生殖や進化についても概観する。高等学校で生物を履修していない学生の生物の導入的授業でもある。	
		生命科学	本科目では、生命現象の基本について理解を深め、遺伝子診断や遺伝子組み換え食品など、日常生活における生物学的な諸問題を理解し、適切に判断できることを目標とする。	
		物理学	本科目では、物理現象の基礎となる単位の理解、力のバランスや速度・加速度などの物体の動き、気体や流体の圧力に関する基礎的知識を学び、看護ケアや医療機器操作の基本的原理を理解することを目標にする。	
		環境科学	地球環境、自然生態系の特徴を人間の活動との相互関係から理解する。いわゆる環境問題は、生物、無機的自然環境と人間の科学的・技術的発展、経済的発展、文化・生活様式の発展は密接に関連していることを歴史的経緯を踏まえつつ理解し考察する。	
	グローバルコミュニケーション	コミュニケーション論	コミュニケーションとは、人間のみならず、あらゆる生命体が他者や環境との間で、モノ、情報、価値、意味の交換をし、それに基づいた相互作用として理解されている。本科目では、日常経験と神経生理学的、対人的、組織的水準から人間のコミュニケーションについて比較検討し、「相互作用」の意味の理解を深める。また、非言語／言語的コミュニケーション、説明、社会的交換、交流分析、生産的議論等の処理論を学び、看護専門職としてのコミュニケーションのあり方を考究する基盤とする。	

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養分野	グローバルコミュニケーション	日本語表現	日常生活において人々は、自由自在に自国語（日本語）を操っている。一方、言葉は時代や社会と共に変化し、同時代に生きながら、異なる年代間の相互理解が困難な現象も見られる。本科目では、学生自身が日常使用している「日本語」の表現について「対象化」して見つめ、考えることを目標にする。	
		英語Ⅰ（読む・書く基礎Ⅰ）	高等学校までに学んだ基礎的な英語の知識を補完しながら、高等学校までの簡単な文法の知識をもとに、書くことと読むことの基礎的学習を行う。	
		英語Ⅱ（読む・書く基礎Ⅱ）	英語Ⅰよりもやや難しい内容の文章（エッセイ等）を扱い、論旨の的確な読み取りと書けることを目標にする。	
		英語Ⅲ（医療英語）	人体の構造と機能の名称、診断･治療の名称、医療機器の名称およびそれらに関連した看護に関する用語の英語表現を学ぶ。	
		英語Ⅳ（日常会話）	今日では、英語はグローバル言語として、異なる言語を持つ諸外国の人々とのコミュニケーション手段として使用されている。相手の母国語を知らなくとも、日常の会話ができるようになることを目標にする。	
		英語Ⅴ（英語論文読解）	看護学の学びの中には、ある事柄についての根拠や原理に関する理論や研究的知見、諸事象についての異なる考え方、解釈を知ることが含まれている。それらを理解するために、その内容が表示された「原文」（多くは、英語）を読めるようになることを目標に学習する。	
		韓国語（基礎会話）	国際的視野拡大のために隣国韓国の文化に触れながら、韓国語であいさつ・自己紹介ができる基礎会話について学ぶ。	
		異文化体験セミナー	「異文化」を手がかりとした他者理解の実践を行う。人間を様々な価値観や習慣、生活様式を持つ集団の中に生まれ、育ち、死んでいくものとしての理解をしていくセミナーである。価値観が多様化・個別化していると言われる現代において、他者を自分とのつながりにおいて考えることを学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養分野	大学における学び	学習と教育	一般に、人間は教えられて学習すると捉えられている。また、人間はこどもへの教育を組織的に授ける体制を整えてきた。本科目では、こうした既存の考え方から脱して、「人間は本来学習する存在である」ということ、その観点から見たときの「教育」のあり方を考察する。	
		スタディスキルセミナー	大学における学習では、高校までの学びと異なり、「講義」「演習」「実習」「セミナー」等をとおして、「与えられる」学習から、授業内容について、自ら「意味」を読み取り、深め、広く考えられるようになることが重要である。そのために、大学生としてのスタディスキルを磨くことには、十分な意味がある。具体的には、「ノートテイキング」「プレゼンテーションのスキル」、「図書、図書館」の効果的な活用等についての効果的な方法を習得する。	共同
		問題解決技法	人間は様々な問題に遭遇して生きている。問題を解決するには、手当たり次第の方法もあるが、本科目では、その問題を見極め、解決方法を探り、計画的に解決していくという「問題解決技法」を学び、日常の問題解決のみならず、看護における計画的展開の基礎とする。	共同
		ボランタリーワークセミナー	人間は、社会の中で、誰かに依頼されたり、仕事や義務として決まっているわけでもないが、他者に手をさしのべたり、またさしのべられたりして生きている。いわゆる「共生」社会は、人間のこのような「主体的」「自主的な」関わりの行為によって成り立っている。本セミナーでは、ボランティア活動の実践や、「共生」社会についての理論研究、実践事例の研究、学生相互の討論や発表などをとおして、人間は本来的に主体的であり、自主的であることを、自らの活動を通して学ぶ。	共同
専門基礎分野	専門基礎科目	形態機能学Ⅰ	「人間」を理解する仕方の一つに、身体の形態とその機能から捉える見方がある。人の身体の形態はどのような構造をしているのか、その構造はどのような機能をもっているのか、その機能はどのように調節されているのか、その構造と機能は、どのように日常生活と関連しているのかを理解し、病理学、診断・治療学、および看護学の基礎とする。 形態機能学Ⅰでは、人体の基本構造としての細胞、組織、器官系、および成長、老化、生殖の過程また、人体の恒常性について、ホメオダイナミックス（動的平衡）という見方から学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎分野	専門基礎科目	形態機能学Ⅱ	形態機能学Ⅱでは、形態機能学Ⅰを踏まえ、骨格系、筋系、脳・神経系、皮膚・感覚器系の構造と機能を理解し、人間の日常の行動がどのように形作られているかを理解し、睡眠と休息、運動が不可欠であること、そのメカニズムについて理解する。	
		形態機能学Ⅲ	形態機能学Ⅲでは、消化器系、呼吸器系、循環器系の構造と機能について、各々を関連付けながら理解する。	
		形態機能学Ⅳ	形態機能学Ⅳでは、腎・泌尿器系の構造と機能について、形態機能学Ⅲで学んだ循環器系と関連づけながら、日常の排泄行動について理解する。また、人間の生殖器の構造と機能について理解する。	
		生化学（栄養学含）	本科目は、体内で行われる正常な物質の働きを知り、物質レベルの基本的な生化学を理解した上で、食事として摂取された物質の働きという視点での栄養学について学ぶ。	
		病理学	人のからだに生じている病的変化がどのように成り立っているのかを、特徴的な組織・細胞から、循環障害、炎症、代謝障害、先天異常、腫瘍の５病変から総論的に概観し様々な病気や病態を理解するための基礎的知識を学ぶ。	
		臨床薬理学	薬はなぜ効くのか。薬効とはなにか。薬と生体との相互作用とそのメカニズム、薬効に影響を及ぼす要因について理解し、薬による疾病の予防、治療に関する基礎的知識を学ぶ。また、臨床で使用される薬に関連する法律と薬の取り扱いと管理のあり方を理解する。	

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎分野	専門基礎科目	感染免疫学	人間と微生物との関係から感染症の成立過程および微生物に対する人間の防御機構を理解する。具体的内容は、ヒトと感染・感染症の機構と種類、免疫と生体防御機構、感染症の予防と感染防御対策等を学ぶ。	
		診断・治療学Ⅰ	形態機能学Ⅰ～Ⅳ、病理学を基礎として主要な疾病の病態と治療を学習する。診断・治療学Ⅰでは呼吸器系・循環器系・消化器系・血液系・内分泌系・アレルギー疾患等を中心に学ぶ。	
		診断・治療学Ⅱ	形態機能学Ⅰ～Ⅳ、病理学を基礎として主要な疾病の病態と治療を学習する。診断・治療学Ⅱでは母性に関するもの、小児疾患に関するものを中心に学ぶ。	
		診断・治療学Ⅲ	形態機能学Ⅰ～Ⅳ、病理学を基礎として主要な疾病の病態と治療を学習する。診断・治療学Ⅲでは精神障害および老年疾患について学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （55 渡辺修一郎／7回）老年期疾患の診断と治療 （56 紫藤昌彦／8回）精神疾患の診断と治療	オムニバス方式
		臨床心理学	現代社会において人々は、多様な心理的問題を抱えながら生きている。人々の精神的健康の維持･増進を援助するためには、心理的問題を抱えながら生きていることについて理解し、それらを予測し、軽減するための援助に関する知識を必要とする。具体的には、カウンセリング、心理療法、集団心理療法、家族療法など、パーソナリティを理解するための基礎的知識を学習する。	
		医療と法	専門職業人として、変動する保健医療福祉の現場に対応した各種法律や施策について学ぶ。特に、保健師助産師看護師法を中心とした看護に関する法、医療に関する法、保健衛生に関する法、薬事・環境に関する法、社会福祉・保険に関する法、労働に関する法を概観し医療と法について学習する。	
		保健統計学	本科目は健康問題の健康指標を正しく理解するために、統計資料の読み方や統計調査の方法について学ぶ。健康に関する人口統計指標や国民・地域住民の保健衛生状態について健康指標の意味するものについても概観する。	

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎分野	専門基礎科目	疫学	疫学は、人間集団の健康現象に着目して、それに関連する要因の頻度の分布を明らかにし、疾病の予防、ケア活動の根拠となる学問である。疫学の方法論、サーベイランス、スクリーニング等を理解し、健康事象を説明するために必要なプロセス（データ収集、分析、評価）を学習する。	
		生涯発達論	人間を生涯にわたって発達する存在としてとらえ、胎生期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期、壮年期、老年期の各期を身体的、心理的、社会的発達の側面から理解する。発達の基本概念と発達理論についても学び、発達的視点に基づく学習を深める。	
		社会保障論	看護専門職として個人や集団に対して社会保障制度の活用や、保健・医療・福祉サービスの連携を行うために社会保障や社会福祉制度について深く学ぶ。社会保障の歴史的変遷を概観し現代社会の変化や社会保障・社会福祉の動向から各種法律や政策についても学習する。	
		チーム医療論	看護専門職として、保健医療福祉を含めた総合的なサービスを提供するために、病気や障害を抱えた対象の問題に対してどのようにチームアプローチをするかを学ぶ。他の専門職種や職種間コミュニケーションについても概観する。	
専門分野	看護の専門職性の発展の基盤	専門職の世界	「専門職」と言われる職業、それに携わっている人々の考え方、活動、世界観、価値観、人間観（他者との関係）、倫理観（専門職倫理）、職業観を概観しながら学び、「専門職の世界」がどのような世界かを知る。 Vocation,ocupation,profession,calling各々の意味およびボランティアとの相違についても考える。同業他者との交流や他領域との交流や社会における看護職への期待も考察する。一年次の演習科目である。	共同
		セルフディブロップメント	人間の多様性の理解と個人の尊厳（考え方、心理的状態、身体的相違、文化、言語、生活様式、価値観）、自己と他者、関係性、アイデンティティ、人間としての成長（考え方の発展、経験の蓄積、健康維持・増進）を概観し自己省察と自己の成長発展を考える。看護の専門職性の発展の基盤となる科目であり、「専門職の世界」と共に、１年次の演習科目である。	共同

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	看護の専門職性の発展の基盤	キャリアディブロップメント	看護職としてのキャリアの多様性とキャリアデザイン（内的キャリアー外的キャリア）、職業的アイデンティティ、職業の社会的位置づけ等、看護専門職としての発展を多角的に考える。２年次の演習科目である。	共同
		医療チーム内のマネジメント	看護ケアの特徴（ケアにおける個人的関わりと組織的関わり≪コミュニケーションの質≫）、看護チームの構成（「新人、中堅、ベテラン」、「プリセプター、リーダー、管理的責任者」）調整の必要性、看護チームにおける協働のマネジメントから看護の質について考える。３年次の演習科目である。	共同
		医療以外の多職種との交流と発展	看護の発展に必要な多職種との交流や共同とネットワークについて考える。４年次での演習科目であり、１年次、２年次、３年次の学習が進むにしたがって漸次積み上げた最後の学習となる。	共同
		キャリアマネジメント論	「キャリアディベロップメント」で理解した「キャリア」の意味を、さらに「教育と学習の機会（卒後教育、継続教育）」、「雇用－報酬－昇進」などについて考察を深め、看護の専門職としてのキャリアを「マネージメント」することについての理解を深める。4年次の演習（選択科目）である。	共同
	看護実践の基盤	基礎看護学概論	看護を学ぶスタートとして「看護とは」を考える導入的な科目である。看護の歴史的変遷から看護の発展過程を概観するとともに、看護の目的や役割機能、先人の看護理論や看護実践の構造についても学ぶ。また、社会の中での看護実践を支える法（保健師助産師看護師法等）や看護倫理綱領から倫理的根拠についても概説する。	
		看護学援助論	看護は、「看護」という「援助関係」の構築の過程であると言える。したがって、看護を理解するということは、対象者との「援助関係」とはどのようなものであるかを理解することが不可欠である。本科目では、人間の社会における多様な「援助関係」について知るとともに、「看護」という「援助」とその「関係」の有り方について理解する。	
		看護学技術論	看護実践としての技術の概念的理解をする。特に、看護技術の意味するもの、看護実践における看護技術の位置づけ、看護技術の特性についての理解を深め、看護技術習得のための動機づけとする。	

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	看護実践の基盤	基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術）	看護の対象である生活する人間の生命活動および日常生活上のニードについて理解を深め、健康維持・向上や回復を援助するための基礎を学ぶ。環境、食事、排泄、清潔、睡眠等の日常生活行動の持つ意味、およびニードを充足するために必要な援助方法について学ぶ。看護実践における安全、安楽、自立、感染予防、ボディメカニクス、環境に関する原理原則について学習する。感染予防としての標準予防策、ボディメカニクスの基礎としての良肢位の保持と安楽な体位や体位変換、病床環境について学ぶ。	共同
		基礎看護学方法論Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	ヘルスアセスメントの概念を理解し、基本的なフィジカルアセスメントについて学ぶ。対象の何を、どうみるかを考えながら、症状や徴候から情報を収集し、状態を判断する過程を学ぶ。	
		基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術）	検査・治療過程における看護職者の役割について理解し、検査・治療に伴う基礎的な知識や技術について学ぶ。特に、検査時の看護、薬物療法中の看護、創傷の管理、標準感染予防策、医療機器の取り扱い、救急法について理解する。	
		基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開）	対象者に適切な看護を提供するための観察・情報収集と分析の方法およびその根底にある考え方を学ぶ。看護を計画的で系統的に実践する意味を理解し、そのための展開方法について学ぶ。	共同
		基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）	方法論Ⅰで学んだ科学的根拠を踏まえ、基本的な生活援助技術について、安全で安楽な援助技術の基本を習得する。この演習では、生活援助技術の形・型を習得することよりも、なぜそのような形・型をとる必要があるかを検討したり、他の方法を検討したりすることを重視する。	共同
		基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	方法論Ⅱで学んだ内容に基づき、フィジカルアセスメント情報の収集の方法を演習をとおして習得する。具体的には、健康歴のインタビューの方法、身体各部位のアセスメントの方法（視診、触診、打診、聴診）、身体機能のアセスメントの方法を習得する。	共同

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	看護実践の基盤	基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）	方法論Ⅲで学んだ内容に基づき、薬物療法中の看護、創傷の管理、標準感染予防策、医療機器の取り扱い、救急法について具体的に演習を行う。	共同
		基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開）	方法論Ⅳで学んだ内容について、看護を計画的に展開するというその実際をシミュレーションを通して学ぶ。具体的には、「計画」を立案するまでの過程と「計画の実施」の間で、援助の対象者の「変化」があること、その「変化」にどのように対応するかを考えられるようになることを重視する。	共同
		基礎看護学実習Ⅰ	病院における看護活動、療養者の生活の場である病院環境と看護の役割機能について知る。入学直後の「病院見学」をすることにより、「医療」「看護」という世界を知ることへの「導入」とし、大学において看護学を学ぶ動機付けとする。	共同
		基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰに続く実習である。一日の看護活動の見学や参加体験、患者とのコミュニケーションの見学を通して、「医療」「看護」における関わりは、「コミュニケーション」という関係形成によって成立していることを知り、看護学における「関わり形成」の重要性を学ぶ動機づけとする。	共同
		基礎看護学実習Ⅲ	医療機関において、日常生活に関する看護実践過程を展開することで、看護実践力の基本を学び看護観の醸成をすることをねらいとする。具体的には、対象の健康状態と日常生活の観点から、対象に適した看護技術を安全に提供すること、実践過程を通して対象との援助関係を形成する体験をする。初めて、看護の対象者を「受け持って」実践する。	共同
		成人看護学概論	ライフサイクルにおける成人期の位置づけを理解し、成人期にある対象の特徴・発達課題および成人期の生活と健康に影響を及ぼす諸因子について学ぶ。①成人期の特徴②成人期の生活と健康③保健・医療・福祉システム④看護アプローチの基本⑤成人看護に有用な理論等を学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	看護実践の基盤	成人看護学方法論Ⅰ	慢性的経過をたどり、生涯にわたって生活のコントロールが必要な成人期にある対象の健康障害について理解し、疾病の認知や受容、セルフケア能力を高めるための援助、家族サポートについて学ぶ。 ①慢性の呼吸機能障害を持つ対象の支援 ②慢性の代謝機能障害を持つ対象の支援 ③慢性の内部環境調節機能障害を持つ対象の支援 ④慢性の栄養摂取・消化機能障害を持つ対象の支援	
		成人看護学方法論Ⅱ	急性期から回復期にある成人期の対象を理解し、侵襲的治療を受ける対象やその家族のＱＯＬを高めるための看護実践について学ぶ。 ①急性の循環機能障害を持つ対象の看護 ②急性の消化・吸収機能障害を持つ対象の看護 ③急性の呼吸機能障害を持つ対象の看護	
		成人看護学方法論Ⅲ	生活の再構築が必要な成人期にある対象の健康障害について理解し、生活の再構築を支援するための看護実践について学ぶ。 ①運動機能障害を持つ患者の対象の再構築支援 ②消化・吸収機能障害を持つ対象の生活の再構築支援 ③性・生殖機能障害を持つ対象の生活の再構築支援 ④脳・神経機能障害を持つ対象の生活再構築支援	
		成人看護学方法論Ⅳ	成人期にある対象の健康障害について学び、がん疾患を持つ対象の看護を実践するために必要な知識・技術・態度について事例を通して学ぶ。 がん疾患を持つ成人期にある対象とその家族への支援を通して、①化学療法②放射線療法③がん性疼痛④死をめぐる意志決定を余儀なくされている対象者の苦痛を深く理解し、グリーフケアの必要性とそのあり方を学ぶ。	共同
		成人看護学演習	方法論Ⅰ～Ⅳでの学習内容を臨地実習で活用できることを目的とした演習を行う。具体的には、呼吸管理、循環管理（点滴管理を含む）、感染管理等について、事例を通して学ぶ。	共同
		成人看護学実習Ⅰ	成人期の健康課題・問題を持つ対象と家族への看護実践能力を習得する。具体的には、慢性的経過をたどり、生涯にわたって生活のコントロールが必要な成人期にある対象の特徴を理解し、疾病・障害の受容、生活の再構築、セルフケアにむけた看護実践について学ぶ。	共同

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	看護実践の基盤	成人看護学実習Ⅱ	成人期の健康課題・問題を持つ対象と家族への看護実践能力を習得する。具体的には、手術療法を必要とする患者の特徴を理解し、急性期から回復期における看護実践について学ぶ。	共同
		老年看護学概論	老年期にある対象の発達課題および加齢に伴う身体的・心理的・社会的特徴を理解し、老年期にある対象とその家族に看護を提供するために必要な機能と役割について学ぶ。また、高齢社会の動向を通して、高齢者の生活に関連する保健医療福祉の現状と課題についても概観する。	
		老年看護学援助論	老年期にある様々な健康状況の対象とその家族の看護に必要な基礎的知識について学ぶ。特に高齢者の生活の機能の基本を理解し、生活を維持・増進するための看護について学ぶ。	
		老年看護学方法論	治療処置を受ける高齢者の看護を学び、高齢者看護の特徴を理解する。あわせて、認知症高齢者の看護や老年期における終末期ケアの特徴と援助の方法について理解する。	共同
		老年看護学演習	高齢者の生活を支える看護技術について学ぶ。 ①高齢者の皮膚の清潔②高齢者の食事援助③高齢者の口腔ケアと義歯の取り扱い方④排泄の援助⑤高齢者の歩行と運動⑥高齢者の脱水と褥瘡予防等	共同
		老年看護学実習Ⅰ	療養中の健康障害を持つ老年期の対象を理解し、個々の状態に応じた看護実践について学ぶ。特に、加齢現象と健康障害が関連して起こる問題について考える。	共同

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	看護実践の基盤	老年看護学実習Ⅱ	終末期にある健康障害を持つ老年期にある対象を理解し、個々の状態に応じた看護実践について学ぶ。特に、対象の生活史を踏まえながら、苦痛の緩和やＱＯＬについて考え看取りの看護について考える。	共同
		小児看護学概論	人間のライフサイクルのスタートである小児期の成長発達は、人間の生涯発達に大きく影響する。未成熟であるがゆえに、様々な疾患に罹患したり、事故にも遭遇しやすい。この授業では、小児各期における成長発達を土台に、健康な小児の日常生活や現代社会を取り巻く諸問題や子育て支援についても概観する。	
		小児看護学方法論Ⅰ	疾病や入院が小児とその家族に与える影響と援助について理解する。 ①各発達段階にある健康を障害された小児の看護 ②疾病や入院による影響 ③ストレスを緩和するための看護 ④入院中の小児の医療安全・小児の事故 ⑤活動制限の必要な小児と家族の看護 ⑥隔離が必要な小児と家族の看護	共同
		小児看護学方法論Ⅱ	疾病や入院が小児とその家族に与える影響と援助について理解する。特に、看護の計画的実践を行うための健康上のアセスメントについて理解を深める。また、保健・医療・福祉チームとの連携についても学ぶ。 ①長期経過をたどる小児と家族の看護 ②急性症状のある小児と家族の看護 ③手術を受ける小児と家族の看護 ④痛みのある小児と家族の看護 ⑤終末期にある小児と家族の看護	
		小児看護学演習	小児期にある対象とその家族を理解し、成長・発達段階、健康状態に応じた看護実践について学ぶ。看護事例を用いながら、バイタルサイン測定・身体計測、酸素療法、与薬方法、点滴固定、採尿、腰椎穿刺時の固定、ベッド上での安静方法等を学習する。	共同

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	看護実践の基盤	小児看護学実習	小児期の成長発達の特徴および、その成長発達過程における疾患、障害を持つ意味についての理解を踏まえ、実際に入院中の小児のケアを通して、児自身への援助のみならず、家族への援助も学習する。	共同
		母性看護学概論	女性のライフサイクル各期（思春期・成熟期・更年期・老年期）における身体的・心理社会的な健康状態の特徴と健康課題およびその看護について理解する。また、母性看護や生命倫理、母性看護の歴史的変遷について理解する。さらに母子保健の変遷と動向をリプロダクティブヘルス・ライツの視点からグローバルに学び、現代社会の問題を女性とパートナーへの支援としての母性・父性の概念についても概観する。	
		母性看護学方法論Ⅰ	妊娠期・分娩期の生理的変化と適応、および母親と家族の心理的変化について理解し、ヘルスアセスメントの視点に必要な看護と保健指導について学ぶ。	
		母性看護学方法論Ⅱ	産褥期・新生児期の生理的な変化と適応、および母子に必要な看護と保健指導、母親役割、父親役割について学ぶ。	
		母性看護学演習	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期のケアに特有の看護技術を習得する。具体的には、「妊婦の健康診査」「面接技術」「分娩期の呼吸法と補助動作」「乳房ケア」「子宮復古への援助」「バイタルサイン測定」「沐浴と諸計測」等を習得する。	共同
		母性看護学実習	母性看護の対象（妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族）を理解し、母子ともに健康に過ごせるように、母子とその家族に対する看護実践に必要な知識・技術・態度を習得し、生命の尊厳について学ぶ。	共同
		精神看護学概論	精神看護と精神医療の概念をとらえ、それらに関する法律や制度および地域社会における精神保健について学ぶ。さらに、我が国の精神保健医療および福祉制度の現状と課題について学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	看護実践の基盤	精神看護学援助論	本科目では精神看護における援助の考え方として、精神看護における患者－看護者関係のあり方、心の健康の保持増進への援助、精神障害者との関わり方、セルフケアの援助、患者家族の理解と援助について、看護の倫理と人権擁護と共に理解する。また、地域精神保健活動における資源の活用などを含めた精神看護における看護の実際を事例を通して学び、理解を深める。	
		精神看護学演習	心の健康の保持増進を行うための援助および精神看護に特有な援助技術について、「関わり」の在り方や「その過程」を振り返る方法を「演習」する。	共同
		精神看護学実習	精神に障害を持った対象を理解し、個別的な看護実践について学ぶ。特に、対象との関係を形成する対人関係技術と精神状態をアセスメントする技術を用いて、対象に現れている精神症状が、日常生活行動にどのように影響しているかを知り、日常生活行動の維持向上にむけた看護実践について学ぶ。また、対象とのコミュニケーションを通して、自分自身を見つめ、自己洞察する力や共感的に理解する力を養う。	共同
		在宅看護学概論	地域で生活しながら療養する人々とその家族の特徴を学ぶとともに、在宅で療養する人々を取り巻く社会の変化と生活の質の重視、自己決定の尊重等の人々の価値観の変化、保健・医療・福祉等の諸制度、関連職種との連携・協働のあり方の理解を通して、看護の役割を学ぶ。	
		在宅看護学方法論	地域で生活しながら療養する人々とその家族が心身の健康を維持し、生活の自立への支援のために必要な看護の方法について学ぶ。また、在宅ケアにおけるコーディネーターとしての看護の役割と機能についても理解する。	共同
		在宅看護学演習	在宅における看護技術について演習を行い、在宅療養者やその家族に安全な援助が提供できる方法を理解する。 ①在宅看護用具の工夫②健康状態に応じた生活行動援助③在宅コミュニケーション技術④訪問演習	共同

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	看護実践の基盤	在宅看護学実習	在宅で生活・療養している人々とその家族を理解し、在宅看護が実践できる基礎的な能力を養う。訪問看護ステーション・地域包括支援センターにおける役割や機能について、実践を通して学ぶ。	共同
		医療安全論	人間の生存にとっての安全の重要性を認識し、看護・医療における安全の確立に向けた考え方を学ぶ。 ①人間の生存と安全 ②安全の確立と人間の能力 ③安全確立と社会システム・文化 ④看護・医療における安全の問題 ⑤安全と看護・医療の専門性（自立性、倫理性、責任と義務） ⑥安全と看護・医療の専門性（危険の予測・識別・回避） ⑦看護・医療における安全に対する価値づけと文化の醸成（オムニバス形式/全8回） （①和賀徳子/5回） 安全の重要性について、学生自身が身体化された形で安全を意識し、価値づけるための「確かさ」について学び、医療安全の基礎について考える。 （⑮廣瀬京子/3回） 具体的な安全文化の醸成について考察する。	オムニバス方式
		災害看護学	災害時における医療の特色と看護のあり方について理解する。 ①災害時に看護が果たす役割②災害サイクルに沿った看護③トリアージ④災害が人々の生命や生活に及ぼす影響	
		看護倫理学	教養分野における「倫理学」および「生命倫理」の理解を踏まえ、倫理の原則や倫理規定から、看護職に求められる倫理について学習するとともに、現在の医療・看護の場において看護職が遭遇する倫理的問題・ジレンマ等についての学習を通して、看護職としての倫理観を構築すること、さらに、倫理的問題解決のために活用できる理論・対処方略について学習し、倫理的視点から看護職として適切な判断・行動が取れるようになることをねらいとする。	
		公衆衛生看護学概論	3年次までに学習した個人および家族への看護を踏まえ、公衆衛生看護の理念、目的、活動の方法を学び、人間の健康とその援助について、生活環境や社会情勢の変化に対応しつつ、個人のみならず地域・集団を対象とした人々の健康維持・増進への援助について考察し、看護の考え方の幅を広げることを目的とする。	
		統合実習Ⅰ	３年間学んだ、実習を中心とした既習の知識や技術を統合させて、学びの総括から、自己の課題を見出すことを主眼とした１週間の実習である。	共同

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	看護実践の基盤	統合実習Ⅱ	今までの実習での学びを統合し、看護・医療チームの一員として、援助の優先順位や時間管理を考慮した看護実践について学び、看護専門職としての自己の将来像をイメージしながら看護活動を統合することを目指した実習である。	共同
		助産学概論	人の一生を通して、性と生殖について支援する助産師の役割と責務について、歴史的な変遷を振り返りながら学び、助産学の特性を理解する。	
		基礎助産学Ⅰ	専門基礎分野の「形態機能学Ⅲ」、「診断・治療学Ⅱ」および「母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ」の理解を深めつつ、妊・産・褥婦の生理と病態、新生児、乳幼児の生理と病態および助産関連の基礎医学について助産学の基礎として理解を深める。	
		基礎助産学Ⅱ	専門基礎科目で習得した「リプロダクション系」の形態と機能の理解を踏まえ、母子の健康に係わる妊婦・胎児・乳幼児の栄養と母子の健康に影響する環境要因について理解する。	
		健康教育技法	リプロダクティブヘルスの考え方を基盤にして、女性とその家族の健康支援に関する看護の役割の理解を基に、健康教育の方法、カウンセリングに関する基礎知識およびカウンセリング技法について学ぶ。	
		助産診断・技術学概論	妊娠期から分娩期、産褥期、新生児期のケアに必要なアセスメント、助産技術の基本原理と技術について総論的に学ぶ。	
		助産診断・技術学方法論	助産過程の展開に必要な知識・技術について学ぶ。また、妊婦・褥婦・新生児の健康状態に関するアセスメントおよび具体的支援方法について学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	看護実践の基盤	助産診断・技術学演習Ⅰ	妊娠経過の正常・異常を診断するための理解と、最新の診断技術について習得する。また、妊産婦の主体性を尊重した出産を支援する意味についても学ぶ。①妊娠期の助産診断に必要な健康診査②妊娠期に必要な助産技術（超音波等）②妊娠期に必要な助産技術（CTGの判読と対応）③妊娠期の保健指導④妊娠期の集団指導・個別指導（ﾊｲﾘｽｸ妊産婦）	共同
		助産診断・技術学演習Ⅱ	分娩期の診断と、正常経過にある産婦のケアについての演習を行う。また、分娩期における緊急事態（会陰の切開および裂傷に伴う縫合、新生児蘇生、止血処置、児の異常に対する産婦・家族への支援等）やハイリスク事例の対応について学ぶ。分娩各期に必要な助産技術、介助術の意義を理解する。	共同
		助産診断・技術学演習Ⅲ	褥婦の健康生活と新生児の育児の援助に必要な技術について習得する。また、ハイリスク褥婦・新生児の援助についても学ぶ。新生児出生直後の健康評価と処置（鼻口腔吸引、臍帯切断）、全身観察（奇形の有無等）の技術を理解する。胎児附属物の観察と計測技術を理解する。ハイリスク褥婦へのカウンセリング技法について学ぶ。	共同
		地域母子保健学	住民の多様なニーズに対応した母子保健サービスを提供できるための知識および保健・医療・福祉関係者と連携・協働しながら地域の母子保健を推進することを学ぶ。	共同
		助産管理学	助産業務についての管理、助産師に関連する各種関係法規、助産所の管理・運営についての基本や周産期医療システムについても広く学ぶことを目標にしている。また、周産期における医療安全の確保と医療事故への対応についても学ぶ。	
		助産学実習	助産の対象となる人々に対して、科学的根拠に基づく助産診断・技術を統合した助産活動を実践することを通して、助産における看護実践能力を高めることを目的にしている。実習を通して助産実践に関わるアセスメント能力、助産技術を習得する。また、助産診断に基づき、正常分娩に関する助産技術を習得する。母子及び家族に関しては、助産学の視点から母子や家族の健康を増進し、地域への継続した支援に繋がる援助ができることを目指している。	共同

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	看護の探究の基盤	看護の探究Ⅰ	看護の知を探究する能力の基盤を形成するために、看護実践における質的量的に異なる多様な疑問や、学問的問いを具体的な形にして問い、その知を明確化するための基礎的な作法を学ぶ。①問いのたちあがり②知の検索の方法（質的・量的）③探究方法（what・why・howを探究する）④批判の方法（知の確かさ・不確かさ）⑤研究と論文の作法	
		看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）	看護の探究Ⅰの学習を受けて、基礎看護学領域における研究疑問に基づき、研究テーマを選択し、研究方法の計画、実施、論文の作成を実施する。	共同
		看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）	看護の探究Ⅰの学習を受けて、成人看護学領域における研究疑問に基づき、研究テーマを選択し、研究方法の計画、実施、論文の作成を実施する。	共同
		看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）	看護の探究Ⅰの学習を受けて、老年看護学領域における研究疑問に基づき、研究テーマを選択し、研究方法の計画、実施、論文の作成を実施する。	共同
		看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）	看護の探究Ⅰの学習を受けて、小児看護学領域における研究疑問に基づき、研究テーマを選択し、研究方法の計画、実施、論文の作成を実施する。	共同
		看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）	看護の探究Ⅰの学習を受けて、母性看護学領域における研究疑問に基づき、研究テーマを選択し、研究方法の計画、実施、論文の作成を実施する。	共同
		看護の探究Ⅶ（精神看護学領域研究）	看護の探究Ⅰの学習を受けて、精神看護学領域における研究疑問に基づき、研究テーマを選択し、研究方法の計画、実施、論文の作成を実施する。	共同

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

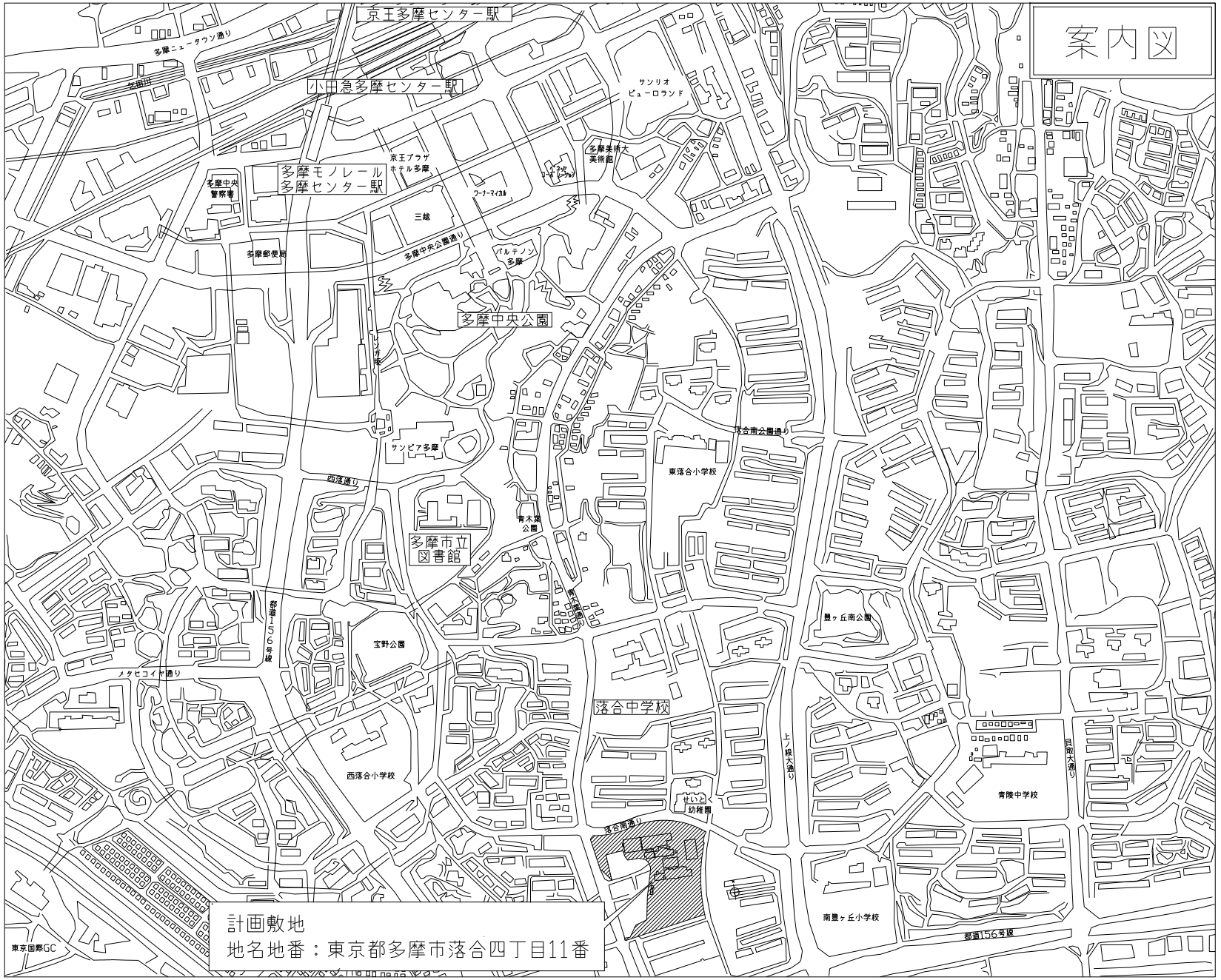
（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	看護の探究の基盤	看護の探究Ⅷ （在宅看護学領域研究）	看護の探究Ⅰの学習を受けて、在宅看護学領域における研究疑問に基づき、研究テーマを選択し、研究方法の計画、実施、論文の作成を実施する。	共同
		看護の探究Ⅸ （助産学領域研究）	看護の探究Ⅰの学習を受けて、助産学領域における研究疑問に基づき、研究テーマを選択し、研究方法の計画、実施、論文の作成を実施する。	共同

東　京　都　全　図


N
奥多摩町
青梅市
瑞穂町
清瀬市
板橋区
足立区
日の出町
羽村市
武蔵村山市
東村山市
東久留米市
北区
葛飾区
檜原村
あきる野市
福生市
東大和市
西東京市
練馬区
豊島区
荒川区
立川市
小平市
中野区
文京区
台東区
墨田区
昭島市
国分寺市
武蔵野市
小金井市
杉並区
新宿区
江戸川区
国立市
三鷹市
千代田区
日野市
府中市
渋谷区
中央区
江東区
八王子市
調布市
港区
多摩市
稲城市
狛江市
世田谷区
目黒区
品川区
町田市
大田区

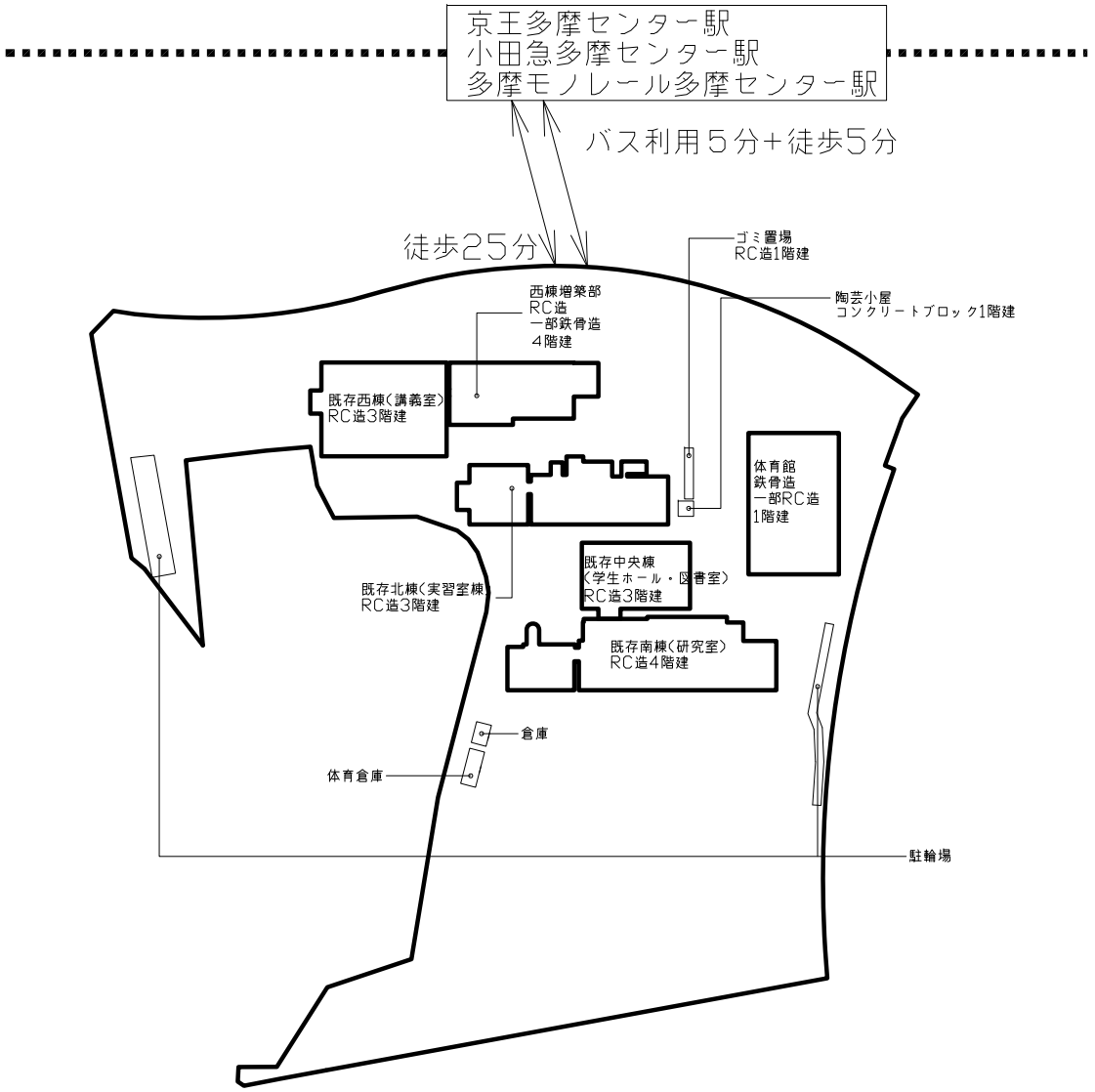
案内図


京王多摩センター駅
小田急多摩センター駅
多摩ニュータウン通り
多摩川
サンリオ
ピューロランド
京王プラザ
ホテル多摩
多摩美術大
美術館
多摩モノレール
多摩センター駅
多摩中央
警察署
三越
ワーナーマイカル
多摩郵便局
多摩中央公園通り
パルテノン
多摩
多摩中央公園
サンピア多摩
落合南公園通り
東落合小学校
西落通り
青木第
公園
多摩市立
図書館
都道156号線
宝野公園
メタセコイヤ通り
落合中学校
豊ヶ丘南公園
上ノ根大通り
目取大通り
青陵中学校
せいとく
幼稚園
落合通り
西落合小学校
南豊ヶ丘小学校
都道156号線
東京国際GC
計画敷地
地名地番：東京都多摩市落合四丁目11番

真北

地 23,347m2
所在地：東京都多摩市落合四丁目11番

アクセス





基準建物面積表	
既存南棟	3,039.85 ㎡
既存北棟	1,581.60 ㎡
既存西棟	2,029.74 ㎡
西棟増築部	3486.46 ㎡
既存中央棟	1245.88 ㎡
陶芸小屋	14.44 ㎡
合計	11,397.97 ㎡

東京医療学院大学学則　（案）

第１章　　総則

（目的）

第１条　東京医療学院大学（以下「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法に基づき、建学の精神の下に、幅広い教養と保健医療に関する専門の知識と技術を教授研究し、もって広く国民の健康に貢献できる人材を育成することを目的とする。

（自己点検及び評価）

第２条　本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的を達成するために、教育研究活動等の状況について自ら点検し、評価を行い、その結果を公表するものとする。

（学部、学科及び学生定員）

第３条　本学に、保健医療学部を置く。

２　保健医療学部にリハビリテーション学科及び看護学科を置く。

３　リハビリテーション学科に理学療法学専攻及び作業療法学専攻を置き、入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

専 攻 名	入学定員	収容定員
理学療法学専攻	７０人	２８０人
作業療法学専攻	３０人	１２０人

４　看護学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

	入学定員	収容定員
看護学科	８０人	３２０人

（学部及び学科における教育研究上の目的）

第４条　保健医療学部は、個人の尊厳と平等の理念に基づいて教育研究を行い、多様化する保健医療の分野で社会の要請に応えることのできる知識や技術を有し、コミュニケーション能力に優れた質の高い人材の育成を目的とする。

２　リハビリテーション学科は、理学療法及び作業療法の分野の専門職として、

幅広い教養と高い倫理観のもとに人への優しさ及び専門の知識と確かな技術を備え、常に、リハビリテーションに関する探究心を持ち、臨床の実践と研究を通じて社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

3　看護学科は、看護の専門職として幅広い教養と高い倫理観のもとに人への優しさ及び専門の知識と確かな技術を備え、常に、看護に関する探究心を持ち、臨床の実践と研究を通じて社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

（修業年限）

第5条　学部の修業年限は、4年とする。

（在学年限）

第6条　学生は、8年を超えて在学することができない。ただし、第25条から第27条までの規定により入学した学生は、第28条の規定により定められた在学すべき年限の2倍に相当する年限を超えて在学することができない。

第2章　　学年、学期及び休業日

（学年）

第7条　学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

（学期）

第8条　学年は、次の2期に分ける。

前期　　4月1日から9月30日まで

後期　　10月1日から翌年3月31日まで

（休業日）

第9条　休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に定める休日

(3) 開学記念日　10月24日（大学設置認可日）

(4) 夏季休業　8月15日から9月30日まで

(5) 冬季休業　12月25日から1月6日まで

(6) 春季休業　3月21日から3月31日まで

2　前項の規定にかかわらず、学長は特に必要と認める場合は休業日を変更し、又は臨時の休業日を定めることができる。

第３章　　教育課程及び履修等

（教育課程）

第 10 条　教育課程は、本学における教育上の目的を達成するため、リハビリテーション学科は授業科目を特色科目、教養科目、専門基礎科目及び専門科目に区分し、看護学科は授業科目を教養分野、専門基礎分野、専門分野に区分して編成する。

２　学生が履修すべき授業科目及び単位数は、別表第１のとおりとする。

３　授業科目の履修方法その他必要な事項については、別に定める。

（授業の方法等）

第 11 条　授業は、講義、演習、実験、実習、実技若しくはこれらの併用により実施する。

２　学生に対して、授業の方法、内容及び一年間の授業計画をあらかじめ明示するものとする。

（1 年間の授業期間）

第 12 条　1 年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを原則とする。

（教育内容等の改善のための組織的な研修等）

第 13 条　授業の内容及び方法の改善を図るため、組織的な研修及び研究を実施するものとする。

（単位数の計算）

第 14 条　各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15 時間から 30 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。

(3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合は、その組み合わせに応じて、前 2 号に規定す

る基準を考慮して本学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。
2　前項の規定にかかわらず、卒業研究については、学修の成果を考慮して単位数を定める。

（他の大学等における授業科目の履修及び単位認定）
第 15 条　本学が教育研究上有益と認めるときは、他の大学又は外国の大学等との協議に基づき、学生が当該大学等において履修した授業科目について修得した単位を、60 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

（入学前の既修得単位の認定）
第 16 条　本学が教育研究上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学に入学した後の授業科目の履修により修得した者とみなすことができる。
2　前項の単位認定は、編入学、転学等の場合を除き、前条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

（試験）
第 17 条　各授業科目を履修した者には、単位認定のための試験を行う。試験は原則として学期末に行う。
2　試験は、筆記、口述、論文により行うものとする。ただし、演習、実験、実習及び実技等については、学修の評価及び出席状況を勘案して行うことができる。
3　疾病その他正当な理由により受験できなかった者には、追試験を行うことがある。
4　試験の成績が不合格のため、所定の単位を修得できなかった授業科目については、再試験を行うことがある。
5　各授業科目の受講時間が 3 分の 2 に満たないときは、原則としてその科目の試験を受けることはできない。また、実習については、実習時間の 5 分の 1 以上欠席した場合には、実習の評価を受けることはできない。

（成績）
第 18 条　授業科目の試験の成績は、S（100 点から 90 点）、A（89 点から 80 点）、B（79 点から 70 点）、C（69 点から 60 点）、D（59 点以下）の 5 段階

に区分し、S、A、B、C を合格とし、D を不合格とする。

（単位の授与）

第 19 条　授業科目を履修し、試験に合格した者には、所定の単位を授与する。

第 4 章　　入学、休学及び退学等

（入学時期）

第 20 条　入学の時期は、学年の始めとする。

（入学資格）

第 21 条　本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者

(3) 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 専修学校の高等課程（修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第 1 号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（廃止前の大学入学資格検定規定による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

(8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等の学力があると認めた者で、18 歳に達した者

（入学の出願）

第 22 条　入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて提出しなければならない。

２　提出の時期及び方法については、別に定める。

（入学試験）

第 23 条　前条の入学を志願する者に対しては、試験を行い、その成績等により

選考する。
２　前条に規定する選考は、教授会の意見を聴いて学長が決定する。

（入学手続及び入学許可）
第 24 条　前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、指定の期日までに、入学に関する所定の書類を提出するとともに、入学金及びその他の納付金を納入しなければならない。
２　学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

（再入学）
第 25 条　本学を卒業した者又は退学した者で、本学への再入学を志願する者があるときは、学長は教授会の意見を聴いて再入学を許可することができる。
２　第 43 条に定める懲戒処分により退学した者には、再入学を許可しない。

（編入学）
第 26 条　他の大学を卒業した者又は退学した者で、本学への編入学を志願する者があるときは、学長は教授会の意見を聴いて相当年次への編入学を許可することができる。

（転入学）
第 27 条　他の大学に在学する者で、本学への転入学を志願する者があるときは、学長は教授会の意見を聴いて転入学を許可することができる。

（再入学等の場合の取扱い）
第 28 条　前 3 条に規定する入学を許可された者が既に履修した授業科目及び単位数の認定並びに在学すべき年限の取扱いについては、教授会の意見を聴いて学長が決定する。

（転専攻）
第 29 条　リハビリテーション学科内にあって転専攻を志願する者があるときは、学長は転専攻を許可することができる。

（休学）
第 30 条　疾病その他やむを得ない理由により 1 カ月以上修学することができない者は、保証人連署の休学願に医師の診断書又は理由書を添えて学長に提出し、休学の許可を得なければならない。

2　疾病その他の理由により修学することが適当でないと認められる者については、学長は教授会の意見を聴いて休学を命ずることができる。

（休学期間）

第 31 条　休学期間は、1 年以内とする。ただし、特別の理由があると認められる場合は、学長は 1 年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

2　休学期間は、通算して 4 年を超えることができない。

3　休学期間は、第 6 条に定める在学年限には算入しない。

（復学）

第 32 条　休学期間中にその理由がなくなったときは、学長の許可を得て復学することができる。

（留学）

第 33 条　外国の大学で学修することを志願する者は、学長の許可を得て留学をすることができる。

2　第 6 条に定める在学年限に算入できる留学期間は、1 年以内とする。ただし、特別の理由があると認められる場合は、学長は 1 年を限度として留学期間の延長を認めることができる。

3　留学による授業科目の履修及び単位認定については、第 14 条の規定を準用する。

（転学）

第 34 条　他の大学への入学又は転入学を志願しようとする者は、保証人連署の転学願を学長に提出し、転学の許可を得なければならない。

（退学）

第 35 条　疾病その他やむを得ない理由により退学しようとする者は、保証人連署の退学願に学生証を添えて学長に提出し、退学の許可を得なければならない。

（除籍）

第 36 条　学生が次の各号の一に該当するときは、学長は教授会の意見を聴いて除籍することができる。

(1) 第 6 条に定める在学年限を超えた者

(2) 第 31 条第 2 項に規定する休学期間を超えてなお修学できない者

(3) 死亡した者又は長期間にわたり行方不明の者
(4) 学費の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

第5章　卒業及び学位の授与

（卒業）
第37条　本学に4年以上在学して所定の課程を修了し、かつ、試験に合格して所定の単位を授与された者について、学長は教授会の意見を聴いて卒業を認定する。

（学位の授与）
第38条　学長は、卒業を認定した者に対して、次の学位を授与する。

リハビリテーション学科
　理学療法学専攻　　学士（理学療法学）
　作業療法学専攻　　学士（作業療法学）
看護学科　　学士（看護学）

第6章　　研究生、科目等履修生及び聴講生

（研究生）
第39条　本学において特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、学長は教授会の意見を聴いて研究生として入学を許可することができる。
２　研究生に関する必要な事項は、別に定める。

（科目等履修生）
第40条　本学において一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、学長は教授会の意見を聴いて科目等履修生として入学を許可することができる。
２　科目等履修生に関する必要な事項は、別に定める。

（聴講生）
第41条　本学において一又は複数の授業科目を聴講することを志願する者があるときは、学長は教授会の意見を聴いて聴講生として入学を許可することが

できる。
２　聴講生に関する必要な事項は、別に定める。

第７章　　賞罰

（表彰）
第 42 条　学生として表彰に値する行為があった者に対して、学長は教授会の意見を聴いて表彰することができる。
２　表彰に関する規定は、別に定める。

（懲戒）
第 43 条　学生が、学則その他本学の定める諸規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をしたときは、学長は教授会の意見を聴いて懲戒することができる。
２　前項の懲戒の種類は、訓告、停学及び退学とする。
３　前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。
(1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
(2) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者
(3) 正当な理由がなくて、出席が常でない者
(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
４　懲戒処分の手続きに関する規定は、別に定める。

第８章　　入学検定料、入学金及び授業料等

（入学検定料）
第 44 条　本学に入学を志願する者は、出願に際しては別に定める入学検定料を納付しなければならない。

（入学時の納付金）
第 45 条　入学、再入学、編入学若しくは転入学を許可された者は、別に定める入学金、及び授業料、実験実習費、施設整備費（以下「学費」という。）を所定の期日までに納付しなければならない。
２　研究生、科目等履修生及び聴講生に係る納付金については、別に定める。

（学費の納付）

第 46 条　学費は、毎年 4 月 30 日までに一括納付を原則とする。

２　前項にかかわらず、次の二期に分けて納付することができる。

(1) 前期分　　4 月末日まで　年額の 2 分の 1 に相当する額

(2) 後期分　　10 月末日まで　年額の 2 分の 1 に相当する額

（納付金の返還）

第 47 条　既に納付した納付金は、返還しない。ただし、特段の事情があると認められた場合は、返還することができる。

（休学の場合の学費）

第 48 条　休学期間中の学費は免除する。ただし、前期又は後期の途中において休学又は復学する場合は、休学又は復学した日の属する期分の学費を納付しなければならない。

（退学、停学及び除籍の場合の学費）

第 49 条　退学を許可され、又は命じられた者及び除籍された者は、その日の属する期分の学費を納付しなければならない。

２　停学を命じられた者は、停学期間中の学費を納付しなければならない。

（学費の減免等）

第 50 条　第 46 条の規定にかかわらず、次の各号の一に該当する場合は、所定の手続きを経て、学費の全部又はその一部を減免し、若しくは延納又は分納することができる。

(1) 天災その他の災害等、やむを得ない理由により学費の納付が困難であると認められる者

(2) 前号以外の経済的理由等、やむを得ない理由により学費の納付が困難であると認められる者

(3) その他本学が定める規程等において学費の減免が規定されている者

第 9 章　　職員組織及び教授会

（職員組織）

第 51 条　本学に、学長、学部長、学科長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員及びその他必要な職員を置く。

２　学長が必要と認めたときは、副学長を置くことができる。

（教授会）
第 52 条　本学に教授会を置く。
２　教授会に関する規定は、別に定める。

第 10 章　　図書館

（図書館）
第 53 条　本学に、図書館を置く。
２　図書館に関する必要な事項は、別に定める。

第 11 章　　公開講座

（公開講座）
第 54 条　本学に公開講座を設けることができる。

第 12 章　　補則

（学則の改廃）
第 55 条　本学則の改廃は、学長を経て、理事会の議決を必要とする。

附　則
この学則は、平成 23 年 10 月 24 日大学設置認可の日から施行する。
附　則
この学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。
附　則
この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

別表　第１（第 10 条第２項関係）

（1）保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	備考
特色科目		大学導入論	1	1		
		ボランティア入門	1	1		
		生命倫理	1	2		
教養科目	人間と社会	学びの技法	1	1		
		教育学	1		2	
		心理学概論	1	2		
		人間発達学	1	2		
		老年学	3		2	
		法学入門	1		1	
		歴史郷土学	1		1	
	科学的思考	情報処理（基礎）	1		1	
		情報処理（応用）	1	1		
		環境科学	1		1	
		生命科学入門	1		1	
		行動科学	1		1	
		自然科学概論	1	2		
		物理学入門	1	1		
		統計学	1	2		
		スポーツ医学	1		1	
		福祉工学	3		1	
	コミュニケーション・英語	コミュニケーション論	1	1		
		カウンセリング入門	1	1		
		日本語表現法	1		1	
		英語（基礎）	1		1	
		英語（英会話）	1		1	
		保健医療英語入門	3	1		
		保健医療英語講読	3		1	
	健康と社会	スポーツ・レクリエーション	1		1	
		東洋手技療法入門	3		1	
		栄養学	2		1	
		公衆衛生学	2	1		
		医療安全管理	2	1		
専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖学（人体の構造）	1	2		
		解剖学Ａ演習（運動器・神経系）	2	2		
		解剖学Ｂ演習（内臓・脈管系）	2	2		
		生理学	1	2		
		生理学演習	2	2		
		生理学実習	2	1		
		運動学	2	2		
		運動学演習	2	1		
		運動学実習	2	1		
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	1	1		
		病理学概論	2	1		
		薬理学概論	2		1	
		内科学	2	2		
		外科学概論	2		1	
		整形外科学	2	2		
		神経内科学	2	2		
		精神医学	2	2		
		小児科学	2	1		
		脳神経外科学	2	1		
		医用画像解析学概論	3	1		
		言語聴覚学概論	2		1	
	保健医療福祉とリハビリテーションの概念	リハビリテーション概論	1	1		
		リハビリテーション医学	3	1		
		リハビリテーションチームワーク概論	1	1		
		社会福祉概論	1		2	
		保健医療制度概論	3		2	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数		備考
				必修	選択	
専門科目	基礎理学療法学	理学療法学概論１（理学療法導入論）	1	2		
		理学療法学概論２（理学療法トピックス）	4	2		
		理学療法学研究法	3	1		
		理学療法管理法	4	1		
	理学療法評価学	理学療法評価学 A （四肢周径・バイタルサイン等評価）	1	1		
		理学療法評価学 A 演習 （四肢周径・バイタルサイン等評価）	1	1		
		理学療法評価学 B （関節可動域・筋力等評価）	2	1		
		理学療法評価学 B 演習 （関節可動域・筋力等評価）	2	1		
		理学療法評価学 C （障害別評価）	2	1		
		理学療法評価学 C 演習 （障害別評価）	2	1		
	理学療法治療学	理学療法技術論 A （成人中枢神経系疾患）	3	2		
		理学療法技術論 B （運動器系）	3	2		
		理学療法技術論 C （小児中枢神経系）	3	1		
		理学療法技術論 D （神経筋疾患）	3	2		
		理学療法技術論 E （循環器・代謝系）	3	2		
		理学療法技術論 F （呼吸器系）	3	2		
		運動療法 A（基礎運動療法）	2	1		
		運動療法 B（病態運動療法）	3	1		
		運動療法 C（運動器系運動療法）	3	1		
		運動療法 D（外傷性疾患運動療法）	3	1		
		運動療法 E（中枢神経系運動療法）	3	1		
		日常生活活動学（理学療法）	3	1		
		日常生活活動学演習（理学療法）	3	2		
		物理療法学	2	2		
		物理療法学演習	2	1		
		義肢学（理学療法）	3	1		
		装具学（理学療法）	3	1		
	地域理学療法学	地域リハビリテーション学	3	2		
		地域の保健医療福祉	1	1		
		地域理学療法学	3	1		
		地域理学療法学演習	4	1		
専門科目	臨床実習	臨床見学体験実習（理学療法）	2	1		
		評価実習（理学療法）	3	6		
		総合臨床実習（理学療法）	4	12		
	卒業研究	卒業研究（理学療法）	4	2		

卒業要件			
卒業に必要な修得単位数 126 単位（１年間の履修登録上限単位数は、42 単位とする。）			
科目	合計	必修	選択
特色科目	4 単位	4 単位	0 単位
教養科目	26 単位	16 単位	10 単位
専門基礎科目	34 単位	31 単位	3 単位
専門科目	62 単位	62 単位	0 単位
合計	126 単位	113 単位	13 単位

（2）保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	備考
特色科目		大学導入論	1	1		
		ボランティア入門	1	1		
		生命倫理	1	2		
教養科目	人間と社会	学びの技法	1	1		
		教育学	1		2	
		心理学概論	1	2		
		人間発達学	1	2		
		老年学	3		2	
		法学入門	1		1	
		歴史郷土学	1		1	
	科学的思考	情報処理（基礎）	1		1	
		情報処理（応用）	1	1		
		環境科学	1		1	
		生命科学入門	1		1	
		行動科学	1		1	
		自然科学概論	1	2		
		物理学入門	1		1	
		統計学	1	2		
		スポーツ医学	1		1	
		福祉工学	3		1	
	コミュニケーション・英語	コミュニケーション論	1	1		
		カウンセリング入門	1	1		
		日本語表現法	1		1	
		英語（基礎）	1		1	
		英語（英会話）	1		1	
		保健医療英語入門	3	1		
		保健医療英語講読	3		1	
	健康と社会	スポーツ・レクリエーション	1		1	
		東洋手技療法入門	3		1	
		栄養学	2		1	
		公衆衛生学	2	1		
		医療安全管理	2	1		
専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖学（人体の構造）	1	2		
		解剖学A演習（運動器・神経系）	2	2		
		解剖学B演習（内臓・脈管系）	2	2		
		生理学	1	2		
		生理学演習	2	2		
		生理学実習	2	1		
		運動学	2	2		
		運動学演習	2	1		
		運動学実習	2	1		
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	1	1		
		病理学概論	2	1		
		薬理学概論	2		1	
		内科学	2	2		
		外科学概論	2		1	
		整形外科学	2	2		
		神経内科学	2	2		
		精神医学	2	2		
		小児科学	2	1		
		脳神経外科学	2	1		
		医用画像解析学概論	3	1		
		言語聴覚学概論	2		1	
	保健医療福祉とリハビリテーションの概念	リハビリテーション概論	1	1		
		リハビリテーション医学	3	1		
		リハビリテーションチームワーク概論	1	1		
		社会福祉概論	1		2	
		保健医療制度概論	3		2	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数		備考
				必修	選択	
専門科目	基礎作業療法学	作業療法学概論	1	1		
		基礎作業学概論	1	1		
		基礎作業学演習Ａ（作業別技法）	1	1		
		基礎作業学演習Ｂ（作業分析等）	2	1		
		作業療法学研究法	3	1		
		作業療法管理法	3	1		
	作業療法評価学	作業療法評価学Ａ（身体）	2	1		
		作業療法評価学Ａ演習（身体）	2	1		
		作業療法評価学Ｂ（精神）	2	1		
		作業療法評価学Ｂ演習（精神）	2	1		
		作業療法評価学Ｃ（発達）	2	1		
		作業療法評価学Ｃ演習（発達）	2	1		
	作業治療学	身体障害作業療法治療学１（身体機能回復理論）	3	2		
		身体障害作業療法治療学２（疾患別治療学）	3	2		
		身体障害作業療法治療学演習	3	1		
		精神障害作業療法治療学１（精神機能回復理論）	3	2		
		精神障害作業療法治療学２（疾患別治療学）	3	2		
		精神障害作業療法治療学演習	3	1		
		発達障害作業療法治療学１（発達促進理論）	3	1		
		発達障害作業療法治療学２（疾患別治療学）	3	1		
		発達障害作業療法治療学演習	3	1		
		老年期作業療法治療学	3	2		
		老年期作業療法治療学演習	3	1		
		高次脳機能障害作業療法治療学	3	1		
		高次脳機能障害作業療法治療学演習	3	1		
		日常生活活動学（作業療法）	3	1		
		日常生活活動学演習（作業療法）	3	1		
		義肢学（作業療法）	3	1		
		装具学（作業療法）	3	1		
		職業関連作業療法学	3	1		
	地域作業療法学	地域リハビリテーション学	3	2		
		地域の保健医療福祉	1	1		
		地域作業療法学	3	1		
		地域作業療法学演習	4	1		
専門科目	臨床実習	臨床見学体験実習（作業療法）	2	1		
		評価実習（作業療法）	3	6		
		総合臨床実習（作業療法）	4	16		
	卒業研究	卒業研究（作業療法）	4	2		

卒業要件			
卒業に必要な修得単位数 126 単位（１年間の履修登録上限単位数は、44 単位とする。）			
科目	合計	必修	選択
特色科目	4 単位	4 単位	0 単位
教養科目	23 単位	15 単位	8 単位
専門基礎科目	34 単位	31 単位	3 単位
専門科目	65 単位	65 単位	0 単位
合計	126 単位	115 単位	11 単位

別表　第1(第10条第2項関係)
(3)保健医療学部看護学科

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	備考
教養分野	ものの見方・考え方	哲学	1	2		
		科学と技術	1	1		
		歴史学	2	1		
		倫理学	2	1		
		身体論	1	1		
		生命倫理	3		1	
		情報と人間	2	1		
		情報活用演習	3		1	
	生活と文化	家族と社会	3		1	
		文学の中の人間	3		1	
		法と人権	2		1	
		生活と経済学	3		1	
		文化と健康	1	1		
		東京の中の多摩を知るセミナー	1		1	
		芸術論	4		1	
	人間と環境	生物と進化	1		1	
		生命科学	1	1		
		物理学	1		1	
		環境科学	4		1	
	グローバルコミュニケーション	コミュニケーション論	1	1		
		日本語表現	1	1		
		英語Ⅰ(読む・書く基礎Ⅰ)	1	1		
		英語Ⅱ(読む・書く基礎Ⅱ)	1	1		
		英語Ⅲ(医療英語)	2	1		
		英語Ⅳ(日常会話)	2	1		
		英語Ⅴ(英語論文読解)	3		1	
		韓国語(基礎会話)	4		1	
		異文化体験セミナー	4		1	
	大学における学び	学習と教育	1	1		
		スタディスキルセミナー	1		1	
		問題解決技法	3		1	
		ボランタリーワークセミナー	3		1	
専門基礎分野	専門基礎科目	形態機能学Ⅰ	1	1		
		形態機能学Ⅱ	1	1		
		形態機能学Ⅲ	1	1		
		形態機能学Ⅳ	1	1		
		生化学(栄養学含)	1	1		
		病理学	1	1		
		臨床薬理学	2	1		
		感染免疫学	1	2		
		診断・治療学Ⅰ	2	2		
		診断・治療学Ⅱ	2	2		
		診断・治療学Ⅲ	2	2		
		臨床心理学	3	1		
		医療と法	2	1		
		保健統計学	3		1	
		疫学	3		1	
		生涯発達論	1	2		
		社会保障論	2	1		
		チーム医療論	3	1		
専門分野	看護の専門職性の発展の基盤	専門職の世界	1	1		
		セルフディブロップメント	1	1		
		キャリアディブロップメント	2	1		
		医療チーム内のマネジメント	3	1		
		医療以外の多職種との交流と発展	4	1		
		キャリアマネジメント論	4		1	
	看護実践の基盤	基礎看護学概論	1	1		
		看護学援助論	1	1		
		看護学技術論	1	1		
		基礎看護学方法論Ⅰ(生活援助技術)	1	1		
		基礎看護学方法論Ⅱ(ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ)	1	1		
		基礎看護学方法論Ⅲ(臨床看護技術)	1	1		
		基礎看護学方法論Ⅳ(看護の計画的展開)	1	1		
		基礎看護学演習Ⅰ(生活援助技術)	1	1		
		基礎看護学演習Ⅱ(ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ)	1	1		
		基礎看護学演習Ⅲ(臨床看護技術)	1	1		
		基礎看護学演習Ⅳ(看護の計画的展開)	2	1		
		基礎看護学実習Ⅰ	1	1		

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数		備考
				必修	選択	
専門分野	看護実践の基盤	基礎看護学実習Ⅱ	1	1		
		基礎看護学実習Ⅲ	2	2		
		成人看護学概論	2	1		
		成人看護学方法論Ⅰ	2	1		
		成人看護学方法論Ⅱ	2	1		
		成人看護学方法論Ⅲ	2	1		
		成人看護学方法論Ⅳ	2	1		
		成人看護学演習	2	1		
		成人看護学実習Ⅰ	3･4	3		
		成人看護学実習Ⅱ	3･4	3		
		老年看護学概論	2	1		
		老年看護学援助論	2	1		
		老年看護学方法論	2	1		
		老年看護学演習	2	1		
		老年看護学実習Ⅰ	3･4	2		
		老年看護学実習Ⅱ	3･4	2		
		小児看護学概論	2	1		
		小児看護学方法論Ⅰ	2	1		
		小児看護学方法論Ⅱ	2	1		
		小児看護学演習	2	1		
		小児看護学実習	3･4	2		
		母性看護学概論	2	1		
		母性看護学方法論Ⅰ	2	1		
		母性看護学方法論Ⅱ	2	1		
		母性看護学演習	2	1		
		母性看護学実習	3･4	2		
		精神看護学概論	2	1		
		精神看護学援助論	2	2		
		精神看護学演習	2	1		
		精神看護学実習	3･4	2		
		在宅看護学概論	3	1		
		在宅看護学方法論	3	2		
		在宅看護学演習	3	1		
		在宅看護学実習	3･4	2		
		医療安全論	3	1		
		災害看護学	4		1	
		看護倫理学	4		1	
		公衆衛生看護学概論	3	1		
		統合実習Ⅰ	4	1		
		統合実習Ⅱ	4	2		
		助産学概論	3		1	
		基礎助産学Ⅰ	3		2	
		基礎助産学Ⅱ	3		2	
		健康教育技法	3		1	
		助産診断･技術学概論	3		1	
		助産診断･技術学方法論	3		1	
		助産診断･技術学演習Ⅰ	3		2	
		助産診断･技術学演習Ⅱ	3		1	
		助産診断･技術学演習Ⅲ	3		1	
		地域母子保健学	3		1	
		助産管理学	3		1	
		助産学実習	4		11	
	看護の探究の基盤	看護の探究Ⅰ	1	1		
		看護の探究Ⅱ(基礎看護学領域研究)	4		5	
		看護の探究Ⅲ(成人看護学領域研究)	4		5	
		看護の探究Ⅳ(老年看護学領域研究)	4		5	
		看護の探究Ⅴ(小児看護学領域研究)	4		5	
		看護の探究Ⅵ(母性看護学領域研究)	4		5	
		看護の探究Ⅶ(精神看護学領域研究)	4		5	
		看護の探究Ⅷ(在宅看護学領域研究)	4		5	
		看護の探究Ⅸ(助産学領域研究)	4		5	

科目	合計	必修	選択
教養分野	33 単位	16 単位	17 単位
専門基礎分野	23 単位	21 単位	2 単位
専門分野	138 単位	70 単位	68 単位
合計	194 単位	107 単位	87 単位
卒 業 要 件			
卒業に必要な修得単位数128単位(1年間の履修登録上限単位数は、43単位とする。)			

東京医療学院大学教授会規程

（目的）

第１条　この規程は、東京医療学院大学学則第 55 条第 2 項に基づき、教授会について必要な事項を定めることを目的とする。

（構成）

第２条　教授会は、学長、専任の教授、准教授及び講師をもって構成する。

２　学長が必要と認めたときは、他の教職員を出席させて意見を求めることができる。

（招集）

第３条　学長は、教授会を招集し、議長となる。

２　学長に事故あるときは、あらかじめ学長が指名した者がその職務を代行する。

（開催）

第４条　教授会は、8 月を除き、原則として毎月 1 回開催する。

２　教授会は、定数の過半数の出席を要する。ただし、別に定める委任状を提出した場合には、当該者は出席とみなす。

３　学長が必要と認めるときは、臨時に教授会を開催することができる。

（審議事項）

第５条　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。

(1)　学生の入学、卒業及び課程の修了

(2)　学位の授与

(3)　前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

２　教授会は、前項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

（議決）

第６条　教授会で議決をとるときは、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

２　前項の出席者には、委任状提出者は含まないものとする。

（委員会）
第７条　教授会の審議を円滑に行うため、次に掲げる委員会を置く。
(1) 教務委員会
(2) 学生委員会
(3) 入学試験委員会
(4) 自己点検・評価委員会
２　前項の委員会のほか、学長は必要に応じ委員会を置くことができる。
３　委員会に関する細則は、別に定める。

（非公開の原則）
第８条　教授会及び前条に定める委員会は、非公開を原則とする。

（担当部署）
第９条　教授会に関する事務は、事務局総務課が担当する。

（改廃）
第 10 条　この規程の改廃は、学長を経て、理事会の議決を必要とする。

附　則
１．この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

２．平成 23 年 10 月 24 日施行の東京医療学院大学教授会規則は、平成 27 年 3 月 31 日をもってこれを廃止する。

設置の趣旨等を記載した書類

目次

一　設置の趣旨及び必要性	・・・・・・・・・・	1
二　学部・学科等の特色	・・・・・・・・・・	6
三　学科の名称及び学位の名称	・・・・・・・・・・	7
四　教育課程の編成の考え方及び特色	・・・・・・・・・・	8
五　教員組織の編成の考え方及び特色	・・・・・・・・・・	15
六　教育方法、履修指導方法及び卒業要件	・・・・・・・・・・	16
七　施設、設備等の整備計画	・・・・・・・・・・	19
八　入学者選抜の概要	・・・・・・・・・・	21
九　取得可能な資格	・・・・・・・・・・	23
十　実習の具体的計画	・・・・・・・・・・	23
十一　管理運営	・・・・・・・・・・	55
十二　自己点検・評価	・・・・・・・・・・	57
十三　情報の公表	・・・・・・・・・・	58
十四　教育内容等の改善を図るための組織的な取組	・・・・・・・・・・	59
十五　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	・・・・・・・・・・	62

設置の趣旨等を記載した書類

一　設置の趣旨及び必要性

1　看護学科設置の趣旨

（1）常陽学園の沿革

①「学校法人常陽学園」の始まりは、江戸時代後期の吉田久庵 1 世によって創始された吉田流あん摩術を継承した平川荘作が、昭和 25 年に中央区八丁堀に創立した「東京マッサージ師養成所」にある。

平川荘作は、太平洋戦争終戦後の混乱期に、あん摩治療ほど人に優しい治療法はないとの信念の下、吉田流あん摩術の発展と人材の育成のため「あん摩マッサージ指圧師」に特化した養成所を設立し、「人に優しい」をモットーに「技術と心のバランスの取れた人材の育成」を目指していたものである。以来、この言葉が常陽学園の教育・人材育成における基本理念となっている。

② 昭和 54 年には、東洋医学の発展を目指して、はり師、きゅう師及びあん摩マッサージ指圧師の三つの免許が同時に取得可能な「はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧科」を増設して、「東京鍼灸マッサージ学校」に改編した。更に、平成元年に学校名を「東京医療福祉専門学校」と改称し、現在に至っている。

③ 平成 4 年 11 月には、「学校法人常陽学園」を設立した。

④ 平成 9 年には、高齢社会の進行、医療技術の高度化・専門化に伴って、医療・保健・福祉施設等におけるリハビリテーション医療の重要性を見通し、「理学療法学科（夜間部）」及び「作業療法学科（昼間部）」を増設した。

⑤ 平成 14 年には、理学療法士及び作業療法士を昼間部と夜間部のそれぞれにおいて育成すべく、「理学療法学科（昼間部）」と「作業療法学科（夜間部）」を増設し、これにより整備された「理学療法学科（昼間部・夜間部）」と「作業療法学科（昼間部・夜間部）」を東京医療福祉専門学校から分離・独立させて「専門学校東京医療学院」を設立した。

⑥ 平成 24 年には、東京医療学院大学保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻、作業療法学専攻を設置し、在校生は 1～3 年生まで 349 名が在籍している。（平成 26 年 5 月 1 日時点）

（資料 1：学校法人常陽学園沿革）

（2）看護学科設置の趣旨・目的

① 人々が豊かで安心して健康に暮らせる世の中を、いかにして構築していくかが 21 世紀の重要な課題の一つである。近年の日本国民の健康水準は、科学技術の進歩、国民生活の質の向上、公衆衛生の普及などにより、高まっている。その一方、少子・高齢社会が進行し、これらの 2 つの方向から、より一層の健康増進や生活の質の維持･向上への対応が求められている。

経済の急速な発展や情報の高度化及びグローバル化は、価値観の多様性を創出し、一方では、経済格差を生み出し、過度のストレスによる多様な精神的疾患を発生させ、アンバランスな食事摂取、運動や睡眠不足などの不規則な生活による生活習慣病のみならず、高齢者の孤独な生活なども生みだし、他方では、女性の社会進出を促進している。これにより、結婚、妊娠・出産・育児を期待される青年期・成人期の女性の晩婚化、高齢出産、さらには、従来から社会問題とされてきた核家族という家族構成が広く浸透していること、また、保育園への待機児童の解消が進んでいないという行政的課題も重なり、育児環境が整わず、安心して「子どもを産めない社会」が作り出されている。また、高学歴社会と言われるわが国では、18 歳人口の大学進学率は 1992～2009 の間に 27%から 50%に伸張し、今後さらに 55%まで伸びると予測されている（濱口道成：高校と大学　IDE　現代の高等教育、P.３、2014）。これは、誕生した子どもの「育児」を考えるにあたって、高等教育を受けさせるというところまで、長期に亘って親としての関わりが必要であることから、その経済的負担から、自ずと複数の子どもを産み育てることを回避する傾向を生み出し、このような要因によって、容易には「少子社会」が解消されにくい社会構造が作りだされている。

以上のような人口構成の少子化と高齢化という現象は、一方では、人間の生存にとって根本的な問題である「生殖」を脅かし、他方では、誕生から死までの成長発達過程において、「健やかに成長し、職業を持ち、結婚、出産、育児をし、安心して死を迎えること」という極めて当たり前の「生活」が望めない社会を鮮明に浮き上がらせている。このような人間の「生殖」と「生活」が脅かされているということは、この二つの方向から、健康へのアプローチが必要であることが明白である。

言うまでもなく、このような健康問題に関する取り組みは、社会的な最重要課題となっている。その課題解決の対応策の一つとして、看護及び助産の知識及び技術の活用がある。特に妊娠･出産・育児への援助と環境整備を直接的に行える助産師の活用は
不可欠である。

② 看護及び助産の知識及び技術は、障害のある人だけではなく、少子・高齢社会の進行や社会構造の変化に伴う健康増進や生活の質の維持･向上を支援するために不可欠である。今日では、看護及び助産の場は、病院等の医療機関から生活の場である在宅・地域へと確実に広がりを見せている。このため看護及び助産の従事者には、専門的な知識や技術とともに、病院等から地域に至る様々な場所において、個々人ごとに異なる多様なニーズに対応でき

る幅広い教養や高い倫理観などの資質が求められている。

③ 本学は、このような状況を踏まえ、保健医療を通して社会に貢献すべく「人に優しい」をモットーとする「技術と心のバランスの取れた人材の育成」を目指す基本理念のもとに、ア）幅広い教養と高い倫理観を備え、社会の変化に応え得る専門知識と技術を有し、イ）医療機関や福祉施設等において活躍するとともに、ウ）地域における保健医療のリーダーとして貢献できる人材を育成することを目的として「人に優しく、社会に貢献できる人材の育成」を建学の精神とする大学である。

④ 本学の教育理念は「仁愛・知識・技術」である。この教育理念は、学園の基本理念及び建学の精神を具現化するものとして、次のように定義している。「仁愛」とは、個々人の立場を理解し、「人に優しく思いやりのある心」による行動や態度を為すことである。「知識」とは、保健医療や看護及び助産に必須な専門知識を有していることのみならず、常に、専門性を向上させる学習意欲と課題解決に向けた探究心を備えることである。「技術」とは、個々人によって異なる疾病や障害、健康増進や生活の質の維持・向上に対処できる技術ばかりではなく、常に学習や研究を行い、最新の知識や技術を身につけて提供することである。

⑤ 本学では、この教育理念を実現するために、先ず、幅広い教養と高い倫理観を修得する教育を行う。その上で、対象者の立場を理解し「人に優しく思いやりのある心」での行動や態度を為すための教育を行う。それと同時に、看護及び助産に関する基礎から応用に至る専門知識と技術を身につけ、他職種と協働するためのコミュニケーション能力及び生涯にわたって学習するという心構えを身につけるための教育を行う。これにより、看護及び助産の専門職業人として「人に優しく、社会に貢献できる人材の育成」を目指す。

2　社会の要請

（1）看護及び助産に関する高度な教育研究の必要性

① 高齢社会及び少子社会の進行を始めとする社会構造の変化は、一方で、多くの人に疾病や障害を生じさせ、また、他方で、少子社会は、単に「少子」という人口の問題だけではなく、長く将来にわたって、家庭における世代交代、社会的分業、労働人口の構成、ここからさらに社会の政治・経済、文化など、人々の生活基盤を根本から揺るがす問題を孕んでおり、疾病や傷害への対応のみならず、少子・高齢社会における健康課題として、支援を必要とする要因ともなっている。そして、このことが、看護及び助産の知識と技術による支援を必要とする対象者の増加にも繋がっている。また、今日では、疾患や治療に関す情報が容易に得られることから、それらの情報をもとに医療に対する明確な考えを表明する人も増加してきている。看護及び助産の従事者には、対象者の健康の状態に応じて適切に対応できる専門の知識と技術を身につけるとともに、幅広い教養と高い倫理観を備え、他職種の協働者及び対象者とのコミュニケーションを図り、対象者の立場を理解して行動で

きる感性豊かな人間性が求められる。

② また、科学技術の進歩は、医療の高度化をもたらし、対象者の病気や障害の症状を明らかにしてきただけではなく、生殖医療など最新の知識と技術に基づく最も適した医療の提供を可能としてきた。看護及び助産の従事者には、対象者に適した最新の知識と技術に基づく医療を提供することを目的に、常に、最新の情報に関心を持ち、生涯にわたっての学習意欲と課題の解決に向けて研究するという資質が求められる。

③ 本学では、このような要請に応えるため、学術の中心として保健医療分野を専門とする専任教員スタッフが、保健医療に関する課題の解決に向けて真理を探究し、最新の知識と技術をもとに、保健医療を通して社会に貢献できる教育研究を行う。人材の育成に当たっては、看護及び助産の従事者として必要とされる幅広い教養と高い倫理観を備え、対象者の立場を理解し対応することのできる「人に優しく思いやりのある心」を育む教育を根幹とする。その上で基礎から応用に至る専門知識と技術を修得し、さらに、最新の知識と技術を求めて、卒業後も生涯にわたる学習意欲と課題解決に向けて探究し、研究するための知識と態度を身につけるための教育を行い、地域の保健医療のリーダーとして社会へ貢献できる看護及び助産の専門職業人を育成する。

（2）地域への貢献

① 大学は、知の拠点として、地域社会に貢献することが期待されている。このため、大学が地域における学術･文化の拠点として果たすべき役割は、大学にとって大きな使命の一つである。少子・高齢社会の進行を始めとする社会構造の変化に対応して、健康増進や生活の質の維持・向上のための支援を効果的に行うためには、地域の行政機関や病院等の医療機関・福祉施設等の関係機関と大学が、連携して行く必要がある。

本学看護学科は、東京都の多摩地域において開かれた大学づくりを進め、本学が持つ人的･知的資源をもとに、地域の保健医療及び福祉の向上に貢献する。多摩市とは、人的交流や事業の相互協力についての連携に関する協定を結び、行政計画等への参画、市民講座の共催などを通して、地域の保健医療及び福祉に貢献している。また、住民の健康づくりのための公開講座や大学施設の開放を通して、地域住民が大学の存在をより身近に感じられるように交流を深める。これらの活動を通して、青年期や成人期の女性及びそのパートナーや、幼児期から初等中等教育の段階にある幼児・学童・生徒、そして高齢者が健康維持への関心を高められるように関わることで、地域に貢献する。

② 助産師教育の必要性

本学が所在する東京都多摩市および近隣の 5 地域を見ると、老年人口の割合が平成 27 年の推計値は、20.5（稲城市）から 26.5（多摩市）であり、一方、出生率では、平成 23 年には全国は 8.3、東京都は 8.2、多摩地域は 7.8 であり、（厚生労働省「人口動態統計」「東京都福祉局「人口動態統

計」より」)、東京都では、平成 17 年度を底に、以後微増に転じ始めているものの、文字通り、少子・高齢社会の姿が明確に現れている。

先に述べたように、この二つの方向から突きつけられている健康問題へ対応するためには、看護及び助産の専門職による知識技術の活用が不可欠である。しかしながら、助産師数の割合をみると、東京都が 25.2、多摩地域全体では 19 であるが多摩市は 3.4 と極めて低い状況にある（「東京都医療施設-平成 22 年度医療施設（動態）調査・病院報告結果報告書-」（平成 22 年 10 月 1 日現在)）より)。このことは、多摩地域において、長く出生の割合が低かったことから、助産師への需要も低かったものと推測されるが、本学が実習施設として依頼した病院（５施設）における平成 25 年度および平成 26 年度の延べ分娩数を見ると、

病院の規模により差があるものの、年間 260 例から 990 例まであり、いずれも平成 25 年度より平成 26 年度の方が増加している。(資料 19)このためであろうと思われるが、助産師教育の実習の依頼に対しては、施設側から積極的に実習施設としての申し出があったことや、実習施設として依頼していない近隣の病院からも、助産師教育への問い合わせがあり、助産師教育への期待が高いことが示されている。また、実習施設を含め、近隣の病院だけではなく、広く関東地域の病院が助産師の募集広告を新聞紙上や電車内に掲げており、助産師教育へのニーズは高いことが明らかである。

さらに、多摩市にとっては、直近の課題は高齢者の健康問題であることは明らかであるが、一方では、少子化の問題に何らかの道筋が見出せることも重要な課題であり、多摩市長より文部科学大臣宛に出されている看護学科設立への要望書のなかでは、助産師教育への期待が述べられている。(資料 20)

これまで述べてきたように、少子・高齢社会における「少子化」の問題に対応するためには、実践的な助産師の育成のみではなく、「少子社会」における健康問題を打開できるような研究課題を見いだし、創造的に研究的に取り組むことができる基礎的な能力を持った助産師の育成が必要であると考える。

本看護学科では、看護師の養成はもとよりのこと、看護における専門性を踏まえ、助産の専門性を活かし、保健医療福祉に貢献できような助産活動に従事する助産師の養成（10 人選抜制）をする。

二　学部・学科の特色

１　学部の特色

本学の保健医療学部は、保健医療分野のうちリハビリテーション専門職業人としての理学療法士と作業療法士を育成する。新たな学科として、看護師、助産師を育成する「看護学科」を増設する。

保健医療の従事者には、今、対象者の立場を理解して医療を提供することが強く求められている。このため、本学部では、「仁愛・知識・技術」という教育理念を実現するため、専門職業人として必要な専門知識と技術とともに、幅広い教養と高い倫理観のもと、保健医療の専門職業人として求められる対象者の立場を理解して対応することのできる「人に優しく思いやりのある心」を育む教育に重点を置いている。また、基礎から応用に至る専門知識と技術のほか、常に、最新の知識と技術を求め、卒業後も生涯にわたる学習意欲と課題解決に向けて探究し、研究するという心構えを身につけるための教育を行い、看護及び助産の地域の保健医療のリーダーとして社会に貢献できる人材を育成する。

２　看護学科の特色

中央教育審議会答申「わが国の高等教育の将来像」（平成 17 年 1 月）で提言されている「高等教育の多様化と個性・特色の明確化」で大学に提示されている 7 つの機能のうち、本学は、保健医療学部として保健医療分野の専門職業人の育成と知の拠点として地域社会への貢献を目指しているため、次の機能を担うものである。

（１）保健医療分野の多様化に対応できる人材育成機能

近年、看護の保健医療分野における対象者の範囲は、少子・高齢社会の進行など社会構造の変化等に伴い、身体や精神に障害のある人から高齢者の健康増進や生活の質の維持・向上のための支援を必要とする人たちへと広がり、また、医療現場も病院等の医療機関から在宅など地域へと拡大してきている。

本学では、このように多様化する保健医療分野において、幅広い教養と高い倫理観のもとに対象者の立場を理解して対応することのできる「人に優しく思いやりのある心」と基礎から応用に至る専門知識と技術を身につけるとともに、常に、最新の知識と技術を求め生涯にわたる学習意欲と課題解決に向けて探究し、研究する心構えをもって医療機関や福祉施設等で活躍し、地域の保健医療のリーダーとして社会に貢献できる看護及び助産の専門職業人を育成するものである。

（2）地域への貢献

大学は、知の拠点として、地域社会に貢献することが期待されている。このため、大学が地域における学術・文化の拠点として果たすべき役割は、大学にとって大きな使命の一つである。高齢社会の進行を始めとする社会構造の変化に対応して、健康増進や生活の質の維持・向上のための支援を効果的に行うためには、地域の行政機関や病院等の医療機関・福祉施設等の関係機関と大学がそれぞれ連携して行く必要がある。

本学は、東京都の多摩地域において開かれた大学づくりを進め、本学が持つ人的･知的資源をもとに、地域の保健医療及び福祉の向上に貢献する。多摩市とは、人的交流や事業の相互協力についての連携に関する協定を結び、行政計画等への参画、市民講座の共催などを通して、地域の保健医療及び福祉に貢献している。また、住民の健康づくりのための公開講座等の開催、大学施設の開放などにより地域に貢献する。

上記の 2 つの機能は、中央教育審議会答申の示す 7 つの機能のうち「特定の専門分野の教育・研究」及び「社会貢献機能」に該当するものであり、本学では、これらの機能に比重を置いた教育研究に取り組み、推進していくこととしている。

三　学科の名称及び学位の名称

1　学科の名称

本学科の学科名は、教育研究が保健医療のうち、看護学および助産学であるので「看護学科」とし、あらたに看護学および助産学を教育研究領域とする「看護学科」を設置した。

「看護学科」

英訳名称：(Department of Nursing)

2　学位の名称

看護学科を修了したものには、学士の学位を与える。

学士（看護学）

英訳名称：Bachelor（Nursing）

四　教育課程の編成の考え方及び特色

１　大学の教育理念

近年の保健医療分野において、社会構造の変化に起因する疾病や障害、少子・高齢社会おける健康増進や生活の質の維持･向上のためのリハビリテーション及び看護の知識と技術による支援と、医療現場の在宅など地域への広がりは、リハビリテーション及び看護、助産の従事者の活動領域を拡大させ、様々な場所で、対象者の態様に応じて適切に対応できる資質が求められる。本学では、これら社会の要請に適正に応えるべく、様々な人を対象とする保健医療の専門職業人として、幅広い教養と高い倫理観のもとに対象者の立場を理解し、「人に優しく思いやりのある心」とともに専門知識と技術を備え、卒業後においても最新の知識と技術を、学習して提供できるような人材を育成することを目的に、本学の教育理念は、建学の精神を踏まえ「仁愛・知識・技術」としている。

２　学部、学科の教育目標

保健医療学部では、多様化する保健医療の分野で、保健医療の専門職業人として社会の要請を的確に受け止め、これに応えることのできる能力を有する質の高い人材の育成を目指すものである。

看護学科は、本学の教育理念のもとに、看護の専門職業人である看護師及び助産師を育成するため、以下の項目を教育目標とする。

□専門職業人として幅広い教養と高い倫理観のもとに、対象者の立場を理解して対応することのできる「人に優しく思いやりのある心」を備えるとともに、専門知識と技術を身につける。

□“チーム医療”における自己の立場及び協働する他の職種、対象者やその家族の立場を理解し、信頼関係を築くことのできるコミュニケーション能力を身につける。

□少子社会における女性の健康、妊娠・出産・育児への支援及び高齢社会における健康増進や生活の質の維持・向上のため、地域の保健医療福祉の必要性を認識し、行政の取組みや役割及び医療機関・福祉施設等の実情を理解して、地域における保健医療のリーダーとして貢献できる能力を身につける。

□卒業後も、対象者に適した最新の知識や技術に基づく看護を提供することを目的に、常に、最新の情報に関心を持ち、生涯にわたって学習するという姿勢及び社会が抱える課題を自ら見出して探究し、研究する心構えを身につける。

3　学科の教育課程の編成の考え方と特色

（1）教育課程の編成の考え方

看護学科の教育課程は、本学の教育理念とそれに基づく本学科の教育目標を達成するために、「教養分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」の３つの基本的枠組によって構成し、専門職業人としての目的意識や幅広い教養と高い倫理観を備え、専門知識と技術を培うことを基本としている。

①「教養分野」では、「ものの見方・考え方」「生活と文化」「人間と環境」「グローバルコミュニケーション」「大学における学び」の５領域に分けた科目配置を行った。目指す職業を理解し、専門職業人としてふさわしい人間性を形成するための基本的知識を身につけるとともに、生涯にわたる自立した高度な教養を身につけることを目指している。

②「専門基礎分野」では、「専門科目」へと繋がる基盤となる科目群であり「人体の構造と機能」である、形態機能学、「疾病の成り立ちと回復の促進」である疾病に関する病理学、感染免疫学、診断・治療学、「健康支援と社会保障制度」である臨床心理学・生涯発達論、保健医療・福祉制度などについて学習する科目を配置している。これらの科目を学習した後に、専門分野への学習へと繋げていく。

③「専門分野」では、専門職業人として生涯学んでいくという姿勢を育むことを目的とする３領域からなる科目群を配置している。「看護の専門職性の発展の基盤」「看護実践の基盤」「看護の探究の基盤」である。

（2）特色

①「専門職業人の意識付け」に関する教育

目指す職業を意識して学習するために、教養分野における「ものの見方・考え方」などを学習し、専門分野における「看護専門職性の発展の基盤」科目を１年次から４年次まで段階的に学ぶこととしている。この科目群は看護職が専門職であることの理解と、自ら専門職者としての価値観の形成や社会の変革の中で、看護の役割、責務を自覚し、生涯に亘って成長発展する人材の基盤形成をねらいとしている。

②「人に優しく思いやりのある心」を育む教育

保健医療福祉の専門職業人として必要な「人に優しく思いやりのある心」での対応を身につける。入学当初の教養分野における学習の中で、「哲学」「倫理学」「生命倫理」では、本学の教育理念の一つである「仁愛」を学習し、高い倫理観のもとに対象者の置かれている立場を理解して対応できる「人に優しく思いやりのある心」を育み、さらに、臨地実習での看護実践を通して、「人に優しく思いやりのある心」を身につけ、実現できるようにする。

③「看護実践の基盤」を意識した教育

現在の医療は“チーム医療”として医師、看護師等の関連する医療従事者の協働によって行われ、看護においては看護実践能力が問われる。このため、学生は各看護学における講義を

受講し、演習科目にて看護技術を磨き、チーム医療の一員としてお互いの立場を理解し、より広い視野で「専門分野」における学習を行うことができるようにしている。

このチーム医療を修得するには、チーム医療の意義を理解し、医療従事者の職種と役割を認識した上で、医療従事者・対象者等とのコミュニケーション能力を身につけ、その上で、チーム医療を実践していくという段階的な学習が必要であると考えている。このため、1 年次前期の「グローバルコミュニケーション」領域の科目である「コミュニケーション論」において対象者とのコミュニケーションの必要性と実践的なコミュニケーションのとり方を学習する。

さらに、3 年次前期に学ぶ「チーム医療論」では、看護における関係職種間との連携についてのコミュニケーションシステムをはじめ、チームワークの技法についても学習する。また、実習を通してチーム医療に参画し、チーム医療に対する実践力も身につけていく。

④「地域の保健医療福祉を重視」した教育

現在、看護を必要とする人の現場は、病院等の医療機関から生活の場である在宅など地域へと広がり、在宅看護が重視されてきている。このため、1 年次の「教養分野」領域の科目として「生活と文化」、「東京の中の多摩を知るセミナー」において「東京」と「多摩」をキーワードとして地域文化や地域環境を学習する。多摩地区は丘陵が多いという特徴もあり、多摩地区に住む人々の生活の特徴を知ることで、地域に住む高齢者への生活支援の方法を考える基盤を育む。

これを土台に、専門分野の「老年看護学」「精神看護学」「在宅看護学」を学ぶよう
に配置し、病院等の医療施設内だけからみた高齢者のイメージを作り上げないようにしている。また、在宅看護学の「在宅看護学実習」では「地域包括支援センター」での実習を組み入れ、地域で生活する人々がどのようなシステムの中で包括的なケアを受けているのかを学べるようにしている。さらに、「公衆衛生看護学概論」1 単位（15 時間）を 3 年次前期に必修科目として設定し、それまでに学習した個人および家族への看護を踏まえ、公衆衛生看護の理念、目的、活動の方法を学び、人間の健康とその援助について、生活環境や社会情勢の変化に対応しつつ、個人のみならず地域・集団を対象とした人々の健康維持・増進への援助について考察し、看護は、「あらゆる健康レベルへの看護を提供すること」であるということを学び、理解を深める。

「専門分野」の「在宅看護学実習」では、訪問看護ステーションや地域包括支援センターにおける多摩周辺地域の保健医療福祉に関する行政の取組みと役割を学び、地域の保健医療についての実情を理解し、地域での看護及び助産の在り方を学ぶ。

４　科目区分の設定及びその理由

（１）教養分野科目群

中央教育審議会の答申「新しい時代における教養教育のあり方について」（平成 14 年 2 月）の「大学における教養教育」を踏まえ、教養分野の科目群は、看護に求められるものとして、人間や地域社会の要請を感受するための幅広い教養を身につけて豊かな人間性を涵養し、また、専門職業人として必要な基礎的知識、多様な表現力と理解力、判断力や洞察力を身につけることを目的として「ものの見方・考え方」、「生活と文化」、「人間と環境」、「グローバルコミュニケーション」、「大学における学び」の５つの科目群で構成する。

①　「ものの見方・考え方」

人間は多様な「考え方」を持っていることの自覚や、科学的なものの見方・考え方および技術的なものの見方・考え方を学ぶ「哲学」「科学と技術」を配置した。さらに、物事の歴史的見方を学ぶ「歴史学」、他者に対して援助行為をとる看護専門職として、何が「善」であるかなど、人間の価値観がどのように形成されていくのかを学ぶ「倫理学」や「生命倫理」、身体の概念を広げ深めることを目標にした「身体論」を配置している。その他「情報と人間」「情報活用演習」を配置した。

②　「生活と文化」

現代社会において、家族は人間のつながりの原点であると言われている。その「つながり」とは何か。家族の有り様と社会の変化との関連を理解し、家族についての考え方を深める「家族と社会」、健康は単に身体だけの問題ではないことから、文化の有り様が健康と密接に関連していることを、多くの事例をとおして理解するための「文化と健康」を必修科目で配置した。この科目に関連する科目として、「文学の中の人間」「法と人権」「生活と経済学」「東京の中の多摩を知るセミナー」を配置し生活と文化について多角的に学べる様に配置した。さらに、教養分野として、人間の感性を磨く内容が必要であると考え「芸術論」を配置した。

③　「人間と環境」

生命現象の基本について理解を深め、遺伝子診断や遺伝子組み換え食品など、日常生活における生物学的な諸問題を理解するための「生命科学」を必修科目で配置した。このほかに、生物にかかわる現象について、生命と生物の視点でわかりやすく学ぶ「生物と進化」や看護ケアや医療機器操作の基本的原理の物理的基礎を学ぶ「物理学」を選択科目で配置した。さらに、現代の地球環境問題等に関する理解と考えが持てるようにするため、「人間と環境」の区分の中に「環境科学」を選択科目として設定した。

④　　「グローバルコミュニケーション」

看護の中では、看護の対象者および家族、医療チーム内のコミュニケーションは不可欠であり、その上、現代医療の中では、グローバルな視点から広く他者とのコミュニケーションを図る力が求められている。そのため、人間にとってのコミュニケーションの意味を問い、

理解し、実践できるための基礎となる「コミュニケーション論」を配置した。また、日常生活において、自由自在に操っている自国語である「日本語」の表現について対象化し見つめ考えることを目標に「日本語表現」を配置し、国際共通言語として使用されている英語の基本的な読み、書き、会話ができるようになり、さらに医療英語のテクニカルタームを理解するための「英語Ⅰ～Ⅳ」を配置して必修科目とした。このほか、選択科目として、外国語については隣国の「韓国語」を配置し、英語論文読解として専門性を深めるための「英語Ⅴ」を配置した。また、「異文化」を手がかりとした他者理解の実践を行う「異文化体験セミナー」を配置した。

⑤　「大学における学び」

学生が早期に大学に慣れ、快適な学生生活が送れるように、入学当初に学習方法などを学ぶ「学習と教育」「スタディスキルセミナー」を配置した。大学における学習では、高校までの学びと異なり、「講義」「演習」「実習」「セミナー」等を通して、「与えられる」学習から、授業内容について自ら「意味」を読み取り、深め、広く考えられるようになることが重要である。そのために大学生としてのスタディスキルを磨くことには十分な意味があり、効果的な学習方法について学ぶ。ほかには「問題解決技法」「ボランタリーワークセミナー」を選択科目として配置した。

（2）専門基礎分野科目群

「専門基礎科目」は、「専門科目」へと繋がるものであり、「専門科目」で学ぶ知識と技術を理解し、修得するための基盤となる重要な科目群であると位置づけて、1 年次と 2 年次で学習することとしている。この「専門基礎科目」は、人の身体の形態と構造・機能について学ぶ「形態機能学Ⅰ～Ⅳ」、「疾病の成り立ちと回復の促進」の科目である「生化学」、「病理学」「臨床薬理学」「感染免疫学」「診断・治療学Ⅰ～Ⅲ」「健康支援と社会保障制度」の科目である「臨床心理学」「医療と法」「保健統計学」「疫学」「生涯発達論」「社会保障論」「チーム医療論」で構成した。

（3）専門分野科目群

基礎専門分野に続く看護の「専門分野」は、看護学の学修の導入や基盤となる分野であり大きく「看護の専門職性の発展の基盤」、「看護実践の基盤」、「看護の探究の基盤」と３領域で学修区分した。

[看護の専門職性の発展の基盤]

看護の専門職性の発展の基盤科目は看護職が専門職であることの理解と自ら専門職者としての価値観の形成、社会の変革の中で、看護の役割、責務を自覚し、生涯に亘って成長発展する人材の基盤を形成することを目的として６科目を配置した。１年次から４年次まで段階的に成長発展していけるように置いた。本領域では学生自身が考え、自ら深め、発展できることを中心に据え

る。また、学生相互の交流、多様な考えを持つ教員に触発され、多様な世界観や価値観に触れ、考えられるように「演習」科目として設定する。学生の演習グループの編成は、毎年編成替えをし、担当教員も変わるように配置する。科目及び全体のコーディネーターを１名配置する。

１年次「専門職の世界」「セルフディブロップメント」

２年次「キャリアディブロップメント」

３年次「医療チーム内のマネジメント」

４年次「医療以外の多職種との交流と発展」

「キャリアマネジメント論」（選択科目）

［看護実践の基盤］

「看護実践の基盤」領域は、教養分野及び専門基礎分野で学修した知識と技術をもとに、各看護学に関する概論、方法論、援助論、演習、臨地実習を系統的に学習して、臨地における看護実践力を高めていくことを目的に「基礎看護学」、「成人看護学」、「老年看護学」、「小児看護学」、「母性看護学」「精神看護学」、「在宅看護学」、「統合看護学」及び「助産学」の９つの科目群を配置している。

①「各領域別看護学」

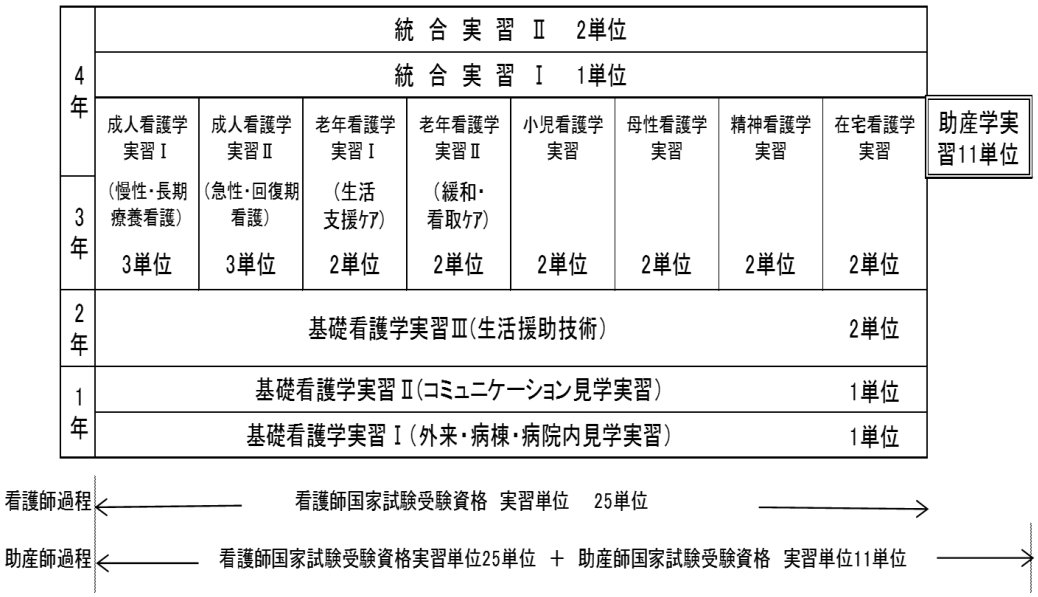
授業科目の概要参照

②「臨地実習」

本学の建学の精神である「人に優しく、社会に貢献できる人材の育成」という人材養成の目的をふまえ、専門職者としての資質として、「人に優しく」を身につけることを援助の基本姿勢として位置づける。看護が実践の科学であることを自ら体現することで、看護実践能力を習得するための授業形態の一つとして実習を配置する。また、各看護学領域（助産学含）における実習は、学内での講義や演習により習得した理論や知識、技術を、看護の対象に適用・実践し、既習の理論と実践の統合、深化、検証し知の探究能力が発展することで、理論的に裏付けられた実践を身につけ、看護の探究、創造性、活用力を養うことを目的とする。また、対象との相互関係のもとに看護実践を発展させる過程を通して、看護観の形成や看護の専門職業人としての基盤を発展させることを習得することである。実習における学習内容は先行する学内での学習に対応して、①対象に適した看護実践の展開能力、②幅広い教養や高い倫理観に基づく、看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力、③援助的関係を形成する能力、④社会資源の活用とチーム連携に関する能力の実践的統合力を養うこととする。これらの実習教育の目的と内容を達成するため、学年進度や各看護学領域の科目特性に基づいた実習を計画している。

実習に先行する学内実習では、各看護学領域に演習形態の科目を配置して、講義で学んだ知識と技術の統合を図るとともに、事例展開による応用発展的学習や看護技術の向上を図るため

の学習を計画する。さらに、実習オリエンテーションを企画、実施し、学生に対して実習の目的と課題の明確化、実習意欲の高揚を図ることとする。また、実習終了後には各自の実習成果に関し、学生間で学びを共有し学習を深められるような計画を行う。(図参照)



[看護の探究の基盤]

① 看護の探究Ⅰ

看護の知を探究する能力の基盤を形成するため、看護実践における質的量的に異なる多様な疑問や、学問的問いを具体的な形にして問い、その知を明確化するための基礎的な作法を学ぶ。具体的には①問いの立ち上がり②知の検索の方法（質的・量的）③探究方法（what・why・how を探究する）④批判方法（知の確かさ・不確かさ）⑤研究と論文の作法について学ぶ。

② 看護の探究Ⅱ～Ⅸ

看護の探究Ⅰの学習を受けて、各看護学領域における研究疑問に基づき、研究テーマを選択し、研究方法の計画、実施、論文の作成を実施する。

これは、５単位の選択必修科目であり４年次通年をかけて学ぶ。

五　教員組織の編成の考え方及び特色

１　教員の配置

（１）保健医療学部看護学科の専任教員は 28 名で構成することとした。専任教員には、当該分野の著書・学術論文などにより研究業績が認められる者、また、専門とする分野で相応の教育実績及び臨床経験を有する者を、教授、准教授、講師、助教として適切に配置している。

（２）教養分野における科目は、看護学科における教養科目群であり、本学の教育理念の一つである「人に優しく思いやりのある心」を育み、幅広い教養と高い倫理観及び看護の基礎となる知識を身につける科目が設置されている。このため、それぞれの専門分野における著書・学術論文などの研究業績及び教育実績を有し、かつ、臨床経験があり、博士号若しくは修士号を有している教授、准教授を中心に配置している。

（３）「専門分野」には、看護の実践に必要な専門の知識と技術を身につけるとともに、卒業後も最新の知識と技術の習得を目指して生涯にわたって探究する心構えを身につけるための科目群が設置されている。このため、看護学の分野における著書・学術論文などの研究業績や教育実績を有し、保健師、助産師、看護師として 5 年以上の臨床経験があり、学位を有している者を、教授９名、准教授４名、講師９名、助教６名の計 28 名を配置している。

２　年齢構成

１）本学の就任時における教員 28 名（学長を除く）の年齢構成は、40 歳代が 7 名、50 歳代が 10 名、60 歳から 64 歳までが 5 名、65 歳から 69 歳までが 4 名、70 歳から 74 歳までが 2 名で、その平均年齢は、55.8 歳である。特に、65 歳以上の教員が 6 名在職することについては、大学の設置に際して、本学の設置の趣旨に即した質の高い教育研究の展開と実績を積み上げるために、研究業績が顕著で、専門とする分野での豊富な教育経験と臨床経験を有する教員を必要としたためである。

２）教員組織編成の将来構想

①高齢の教員の退職時に合わせて、研究領域および教育経験を考慮しつつ、より若い年齢の教員で補充できるように、公募等において、「年齢」及び「職位」「研究領域」「教育経験」等の条件を明確にすること。

②将来的には、教員全体の年齢構成の上限は、教育経験、研究領域を考慮した上で、65 歳以下であるように計画していくこと。

③高年齢の教員は、本学の「定年規定」「再雇用規定」に基づいて、上記と②との関連において、

教育・研究領域の継続性の観点から「再雇用」等を考慮すること。

④上記、①、②、③の繰り返しを通して、教員全体の年齢、教育経験、研究領域のバランスが取れるようにし、教育研究の継続性を図ることとする。

3　助手の配置

助手は、専任教員とペアを組み、実習指導の補助にあたる者 2 名、および学内で教育活動の補助の任にあたる者 1 名、計 3 名を助手のあらたな採用基準に基づいて採用し配置する。

助手の採用基準は次の通りである。

① 助手の資格：大学設置基準第 17 条を遵守し、学士以上の学位保有者

② 臨床経験年数：臨床現場において学生に対する実践的な指導補助が行えるよう看護師や助産師等の臨床経験年数 5 年以上

③ 実務遂行能力：大学における教育活動の補助を担えるように、看護学領域の研究実績を有し、大学等でのティーチング・アシスタント経験を有する者

六　教育方法、履修指導方法及び卒業要件

（1）教育方法

① 早期での保健医療専門職業人としての意識付け

入学当初の「専門職の世界」で目指す職業を意識付け、目的達成のための学習意欲を持たせるとともに、1 年次前期に職業についての理解をより深める。

② 1 年次に学ぶ「大学における学び」

「教養分野」の「大学における学び」において「人間は本来学習する存在である」という観点で「学習と教育」の科目を必修科目として学ぶ。また、高校までの「与えられる学習」から自ら意味を読み取り、深め、考えられる大学生としてのスタディスキルを 1 年次の早期に学ぶ。

③ 1～2 年次の考え方

「教養科目」には、大学人として必要な教養と専門基礎科目や専門科目を学習するために必要な基礎的知識となる科目を、1 年次に配置している。さらに「専門基礎科目」には、専門科目を学習するのに必要な基盤となる科目を、専門科目を学習する前の 1 年次から 2 年次に配置している。

④ 少人数での臨地実習と実習施設との緊密な連携

臨地実習では、実習指導者が少人数の実習生を指導できるよう、実習施設を確保する。ま

た、実習の指導教員は、学生とともに行動し、実習指導者と緊密な情報交換によって連携を図り、円滑な運営、及び学生の臨地実習の成果が上がるように努める。

（2）履修指導方法

① 履修ガイダンスの実施

入学時及び 2 年次、3 年次の当初に履修ガイダンスを実施し、授業科目の履修モデルを提示する。新入生は、高校での履修状況等を踏まえ、教員から授業科目の概要についての説明を受けて履修科目を選択する。2 年次、3 年次は、自分の進路を確認の上、授業科目の概要を理解して履修すべき科目を選択できるように指導する。

（資料 2：履修モデル【助産師】【看護師】、時間割）

② 履修についての指導・助言

学生の具体的な学習方法について、適切な指導・助言などの支援を行うことは、学生の学習意欲を高め、また、専門職業人としての意識を深めるためにも重要なことである。このため、本学では、1 年次から 4 年次までの各学年で学生担当教員を置き、学習方法についての指導・助言などを行う。

③ 学習支援

単位の未取得者や学習意欲に問題のある学生を対象に、各学年次担当と授業担当教員とが連携して、正課とは別に、単位取得や学習意欲を高めるための補習授業を実施する。

④ オフィスアワーの導入

教員が学生からの相談に応じる時間帯（オフィスアワー）については、新入生についてはオリエンテーションのときに、在学生については年度当初のガイダンスのときに印刷物により説明して周知する。さらに、学生ホール内の掲示板に教員の最新の動向（出張、会議等）を踏まえたオフィスアワーを掲示する。

⑤ 助産師選抜者の助産学選択履修に関する指導方法

1）助産学の選択履修に関する指導方法、選抜の時期および選抜基準等について

① 助産学の選択履修に関する指導方法

＊入学時のオリエンテーション、1 年次の専門分野の「看護の専門職性の発展の基盤」科目である「専門職の世界」において、看護の専門職性を学ぶ中で、「助産師」の特性について学び、これらを土台にして、さらに 2 年次 4 月の履修ガイダンスにおける情報提供や履修モデル等の説明会、科目履修に関するアンケート調査等を実施し、科目選択の意思が明確になっていけるようにすること。

＊助産師選抜の希望や選抜にあたっての相談には、助産学の教員のみならず、他の教員も学習支援と同様に個別対応や、希望者同士の相互交流ができるような機会を持てるように関わり、選抜とその後の学習が円滑に進むように支援すること。

② 選抜時期について（学生が助産師を選択することについて、見極めをする適切な時期で

あるかどうかについて）

＊上記①に加え、1 年次前期には、「看護の専門職性の発展の基盤」の科目である「セルフディブロップメント」が終了し、自己自身のあり方についての考えを深める学習をしている。さらに、専門領域の学習においては、基礎看護学では、２年次前期には、基礎看護学実習Ⅲを除く全てが終了し、さらに、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学それぞれの「概論」が終了しており、「看護」についての理解が明確になるよう教育課程を構成している。さらに 2 年次後期には「キャリアディブロップメント」についての学習が進行中であり、自身のキャリアの発展について考え始める機会となっていることから、２年次後期 12 月には、助産師を選択することについての学生の意思が明確になるものと考えられる。

以上のことから、そのため選択の意思表示（希望申請書提出）の時期は 2 年次後期の 12 月とし、選抜の時期は、2 年次後期の１月に実施し、2 年次の２月には履修者の決定を行い、3 年次４月に履修届けを行うこととする。

③　選抜基準

＊助産師国家試験受験資格取得の意思が明確であること（面接および小論文による確認）。

＊２年次前期までに履修した必修科目の単位を取得していること。

④　選抜方法

＊書類選考：希望申請書、および 2 年次前期までの成績に基づき、書類選考を行う。

＊面接試験、小論文試験：個人面接、小論文試験

＊看護学科に選考委員会を設置し、選抜基準に基づいて選抜する。

＊選考委員会の選考結果に基づき、看護学科において履修者を決定する。

⑤　教育科目の内､助産学実習において分娩介助の学習を 10 例以上経験することが課せられていること、看護学教育機関（学校養成所）の数と学生数に対して、産科病棟を持つ施設が限られていることから、一施設あたりの受け容れ可能な学生数は３～４人が限度であるため、選抜人数は 10 人を限度とする。

⑥　受験生等には「募集要項」及び大学ホームページ等により、助産師選抜の方法等について周知する。

（３）卒業要件

保健医療学部看護学科における卒業に必要な取得単位数は、128 単位とする。卒業要件は、必修科目 107 単位（教養分野 16 単位・専門基礎分野 21 単位・専門分野 70 単位）と看護探究の基盤科目から 5 単位、教養分野から 13 単位、専門基礎分野・専門分野から 3 単位を履修し、合計 128 単位以上の履修とする。

（4）助産師国家試験受験要件

助産師国家試験受験資格希望者は、助産学科目を履修し合計 150 単位以上履修すること。

（5）年間履修の上限

履修科目単位の上限は年間 43 単位とする。

（6）教育課程と指定規則との対比

保健医療学部看護学科の教育課程は、「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」別表２及び別表３に定められた教育内容を包括し、助産師及び看護師の指定基準を満たしている。（資料 3：教育課程と指定規則との対比表）

七　施設・設備等の整備計画

1　校地、運動場等の整備計画

本学のキャンパスは、東京都多摩市から、同市落合に位置する旧市立南落合小学校跡地を平成 21 年 4 月から 30 年間有償で借用している。キャンパスの位置は、京王・小田急多摩センター駅から約 2.5km であり、所要時間は徒歩では 25 分、バス利用で 15 分と近距離にある。周辺は、住宅地であるが本キャンパスを含め緑豊かな閑静なところであり、教育研究の環境として適した環境である。

現在、校地面積は約 23,347 ㎡であり、基準面積を上回っている。また、同校地の中に学生の休息等を含む適当な空地も十分確保されている。

運動場や体育館は校地と同一敷地内にあり、運動場は約 5,880 ㎡、体育館は約 784 ㎡あり、男女更衣室や倉庫などを付設している。

2　校舎等施設の整備計画

本学のキャンパスは、現在中央棟、北棟、南棟、西棟の 4 つの校舎が計約 11,404 ㎡あり、講義室、演習室、ＰＣ教室、自習室、図書館、談話室、学生相談室、食堂、学長室、研究室、会議室、事務室等が整備しており、既存の施設を共同利用することを基本としているが、教育研究環境のさらなる充実を図り、新たに校舎を西棟に増築（西棟増築部）建築し、看護学科専用の実習室、研究室等を新たに整備する計画である。この西棟増築部校舎は約 3,486 ㎡あり、看護学科専用の実習室を 3 室、看護学科専任教員の研究室を 10 室、看護学科長室を設置する。一方、西棟増築部

の施設整備に関しては、既存学科（リハビリテーション学科）の学生への還元や教職員に対しても教育研究環境を充実させたい思いから、大講義室の 1 室、講義室の 2 室、演習室の 6 室、研究室の 14 室を既存学科専用としている。
学生の自習室は 2 室（計 272 ㎡、計 170 席）を整備し、電源コンセントや飲料自動販売機を用意する。

看護学科専任教員の研究室は 28 室を確保し、必要な机・いす、書棚、電話、パソコン及びミーティングセットを整備して、研究室にふさわしい教育研究環境を整える。この研究室 28 室の内、3 室は 4 人で 1 室を使用することとし、看護学科専任教員 28 名（教授 9 名、准教授 4 名、講師 9 名、助教 6 名）、助手 3 名分を確保している。このほか、教員が共同研究を行う場として、共同研究室を 1 室整備する。

講義室・演習室については、西棟増築部の大講義室 1 室と講義室 2 室、演習室 6 室を除き大学全体での共同利用を基本とする。

実習室については、西棟増築部の実習室 3 室を使用する。基礎・成人看護の実習室（179 ㎡）、老年・精神看護の実習室（196 ㎡）、在宅看護の実習室（151 ㎡）、小児・母性看護の実習室（125 ㎡）を整備し、学生全員分に対し専用ロッカーを備える。
（前掲参照：5　校地校舎等の図面）

3　図書館の整備計画

（1）図書館施設

図書館は、中央棟 2 階に整備しており、収容定員 720 名の 14.6%にあたる 105 の閲覧席を配置している。閲覧席にはブース席を 30 席、グループ学習席 24 席を用意し、学生の学修を支援する環境を整備している。このほか、図書情報検索等のためのパソコン 2 台を設置し、階下の 1 階に閉架書庫と情報検索のためのパソコン 18 台を設置するメディアラウンジを整備している。

図書館（面積　361.88 ㎡）　閲覧席 105 席　収蔵可能蔵書数 20,000 冊、
閉架書庫（43.68 ㎡）　収蔵可能蔵書数 10,000 冊
メディアラウンジ（30.80 ㎡）　18 席

（2）図書の整備

東京医療学院大学の図書館には約 9,500 冊の図書を所蔵しており、その内訳は和書約 7,800 冊、洋書約 1,700 冊で、その他に視聴覚資料約 120 点、学術雑誌（ジャーナル含む）88 種を有している。看護学科の開学までに 3,800 冊（和書：一般教養 950 冊、専門 2,350 冊／洋書：一般教養 20 冊、専門 480 冊）の整備を行う計画である。学術雑誌は既存の和雑誌 65 誌、洋雑誌 23 誌（うち電子ジャーナル 14 誌）に加え、和雑誌 26 誌（データベース 1 種含む）、洋雑誌 15 誌を新たに整

備する。オンラインデータベースは「医中誌 Web」「メデカルオンライン」が整備されている。（資料 4：学術雑誌一覧　）

（3）開館時間

図書室の開館時間は、原則として月曜日から金曜日までは朝 9 時から夜 9 時までとし、土曜日は 9 時から 19 時、日曜日は、試験前や試験期間中など必要に応じて開館を予定する。

4　教育上必要となる機械器具・標本模型の整備

教育上必要となる機械器具については、標本模型 15 種 29 点を有しているものに加え、標本模型 17 種、40 点を新たに整備する。また、機械器具 276 種、3,600 点、視聴覚資料 46 点を整備する。

（資料 5：教育上必要な機械器具・標本模型一覧）

八　入学者選抜の概要

1　入学者選抜の基本方針

看護学科は、看護を担う看護師及び助産師を育成する学科である。このため、本学科のアドミッションポリシーは次のとおりとしている。

[アドミッションポリシー]

本学科は、建学の精神及び教育理念のもとに、保健医療の専門職業人として求められる幅広い教養と高い倫理観を備え、社会の要請に応え得る専門知識と技術を有し、人に優しく思いやりのある心を備え、常に、最新の知識と技術を求めて学習するという探究心を持ち、保健医療を通して社会に貢献できる人材の育成を目的として、次のような人を求めています。

〇保健医療の専門職業人を目指す、向上心のある人

〇保健医療を通して、地域社会に貢献しようとする人

このことを受けて、本学科の入学試験に当たっては、必要な基礎学力を有し、保健医療の専門職業人としての目的意識が明確で、学習意欲のある学生を受け入れることを基本方針とする。

なお、入学資格は、学校教育法 90 条の規定により、高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者、若しくは通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者又は文部科学大臣の定めるところに

より、これと同等以上の学力があると認めた者とする。

２　入学試験と募集区分

学部・学科	入学定員	一般入学試験	センター試験	推薦入学試験
保健医療学部	人	人	人	人
看護学科	80	35	5	40

３　選抜方法

入学者選抜に当たっては、入試委員会により大学設置基準第２条の２及び大学入学者選抜実施要項に基づき、入試計画から募集、入試、合否判定に至るまでの一連の入試事務を、同委員会の下に全教職員で行う。

なお、初年度では、一般入学試験と推薦入学試験のみとする。

２年次以降は、一般入学試験、センター試験を利用した選抜試験、推薦入学試験を実施し、多様な学生を受け入れる予定である。

（１）一般入学試験

必要な基礎学力を判定するための学力試験を行い、その結果を評価して判定する。学力試験の教科は、外国語「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」（リスニングを除く）は必須、国語「国語総合（古文・漢文を除く）・現代文Ｂ」、数学「数学Ⅰ・数学Ａ」、理科（「化学基礎」、「生物基礎」から１科目）のうちから２教科２科目を選択する。

（２）センター試験

２年次以降は、センター試験を活用することとし、必要な基礎学力の判定は、外国語「英語（リスニングを除く）」は必須、国語（近代以降、古文・漢文を除く）、数学「数学Ⅰ・数学Ａ」、理科（理科は、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」から２科目選択、又は、「物理」、「化学」、「生物」から１科目選択）、のうちから２教科２科目選択し、センター試験の成績の結果をもとに評価して判定する。

（３）推薦入学試験

高等学校の成績が評定平均値が 3.5 以上であり、出身高等学校長の推薦を受けた高校生に小論文、面接を課し合否を判定する。

九　取得可能な資格

１　看護師国家試験の受験資格

卒業要件の単位を取得すると、卒業と同時に「学士（看護学)」の学位が授与され、看護師国家試験の受験資格を得ることができる。

２　助産師国家試験の受験資格

卒業要件の単位及び助産学科目の必要単位を取得すると、卒業と同時に「学士（看護学)」の学位が授与され、助産師国家試験の受験資格を得ることができる。

十　実習の具体的計画

１　実習の基本方針

本学の建学の精神である「人に優しく、社会に貢献できる人材の育成」という人材養成の目的をふまえ、専門職者としての資質として、「人に優しく」を身につけることを援助の基本姿勢として位置づける。看護が実践の科学であることを自ら体現することで、看護実践能力を習得するための授業形態の一つとして実習を配置する。また、各看護学領域（助産学含）における実習は、学内での講義や演習により習得した理論や知識、技術を、看護の対象に適用・実践し、既習の理論と実践の統合、深化、検証し知の探究能力が発展することで、理論的に裏付けられた実践を身につけ、看護の探究、創造性、活用力を養うことを目的とする。

また、対象との相互関係のもとに看護実践を発展させる過程を通して、看護観の形成や看護の専門職業人としての基盤を発展させることを習得することである。実習における学習内容は先行する学内での学習に対応して、①対象に適した看護実践の展開能力、②幅広い教養や高い倫理観に基づく、看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力、③援助的関係を形成する能力、④社会資源の活用とチーム連携に関する能力の実践的統合力を養うこととする。これらの実習教育の目的と内容を達成するため、学年進度や各看護学領域の科目特性に基づいた実習を計画している。

実習における教育では、学生の学習環境を整えるとともに、対象者の安全と人権を最優先した実習指導体制を整備する。そのために、本学では実習調整会議や実習指導者会議等を開催し、実習施設との綿密な協議のもとに実習を企画、運営する。実習を安全に、かつ効果的に実施するために、実習指導の連携と責任体制及び安全対策の整備、さらに大学側の実習担当教員と実習施設側の実習指導者の役割分担の明確化を図り、両者の綿密な連携によるサポート体制を整備する。

実習に先行する学内実習では、各看護学領域に演習形態の科目を配置して、講義で学んだ知識と技術の統合を図るとともに、事例展開による応用発展的学習や看護技術の向上を図るための学習を計画する。さらに、実習オリエンテーションを企画、実施し、学生に対して実習の目的と課題の明確化、実習意欲の高揚を図ることとする。また、実習終了後には各自の実習成果に関し、学生間で学びを共有し学習を深められるような計画を行う。

各領域別臨地実習は、3 年次 7 月初旬から開始し、4 年次 6 月までの約 1 年間の期間で計画をした。実習施設は、（資料 6）で示すとおりである。学生人員 80 名に対し、約 10 名を一つのグループとして 8 つのグループ（資料 7-1 参照）をつくり、各領域別実習をローテーションする方法を基本とした。

各施設における学生の配置は、一人の教員が担当する学生 10 名を限度として、一施設 2～8 名で配置計画を立てた（成人看護学実習Ⅰ、Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ、Ⅱ、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、在宅看護学実習）。

本看護学科の完成年次（平成 31 年度）における実習計画は（資料 7-1）の通りである。

計画の策定過程において実習計画の実現性の為に（資料 7-2、資料 7-3、資料 23）で検証した。特に（資料 23）においては、本看護学科の完成年次の前期・後期における「学内授業（演習を含む）、実習指導（巡回を含む）、研修日、学内会議・FD 等」について、実習指導等カレンダーに興し、一覧にしたもので学内授業と実習体制の両立を確認した。

さらに、平成 28 年度入学生の 1 年次から 4 年次までの各臨地実習を担当する教員の職位と人数を「各実習別担当教員配置計画および職位別人数（1 回生）」（資料 13）として明示する。

また、学生に対しては、1 年次から 4 年次までに受ける臨地実習について、実習目的･目標のみならず、実習オリエンテーション、実習内容、実習施設、担当教員、実習方法、評価、および緊急時の連絡方法等を記載した「臨地実習の手引き（1 回生）」（資料 18）を提示し、学生が実習について明確に理解した上で臨地実習に臨めるようにする。

上記、資料 7（7-1、7-2、7-3）、資料 13、資料 18 の確実性を示す根拠資料として、全ての専任教員の本看護学科の完成年次の前期・後期におけるカレンダーに起こし、一覧にしたものを提示する。（資料 23）

2　実習水準の確保の方策

（1）　大学側の実習指導体制

本学における実習計画全般の企画・運営に係る責任の長は学科長とし、その責任下に実習運営委員会を設置する。本委員会は、各科目の実習内容の整合性や順序性、指導体制の整備と改善状況等を掌握した上で実習を計画し、全科目の実習に関する検討事項について協議するものである。各実習科目責任者が、実習運営委員会において各実習科目の学習成

果や問題点を報告し、その対応策を検討し改善することで実習水準を維持する。

実習指導体制の基本方針

- 専任教員は原則として専門領域の実習施設における現地での指導を行う。
- 各実習施設、実習単位ごとに責任者となる専任教員を配置する。
- 同時期の実習指導において教員は、複数施設を担当せず、また、掛け持ちもせず、一つの施設に専念する体制とする。（巡回指導は除く）
- 実習期間中に専任教員が学内授業等で実習施設に不在の場合が生じる。この場合に備えて、助手が専任教員とペアを組み、専任教員の指導の下、実習施設で実習指導補助を行う。その場合、実習に先立ち、同実習施設において事前臨地研修を行うことを義務付け、教員から指導を受け、大学における臨地実習指導のあり方について、十分に理解できる体制を整える。また、臨地実習が開始されてからも、教員が学生指導を行う際に、直接、側で見たり、また、補助的行為の取り方の指導を受けるなど、単独で学生指導を任せない体制を整える。
- 専任教員が実習指導を行う日は、実習施設に 1 日単位でとどまり、大学との移動はないものとし、学生の実習状況を把握するとともに、実習施設の実習指導者との連絡・調整を行う。また助手が実習指導の補助をしている場合は、助手の指導を行い、学生への関わりについて、適切な評価及び指導・助言を行う。
- 専任教員が実習施設に不在の際の緊急の事態や指導相談のために、大学内に実習統括責任者を置いて、常に連絡できる体制を整える。なお、専用携帯電話とともに、大学内実習専用メールアドレスの設定を行い常時連絡・相談等ができる体制を整える。
- 実習期間中の学内会議や研修会等は原則として学内実習日である金曜日に行い、情報共有を図る。
- 実習教育の一定の水準と効果を確保しつつ、実習の目的を達成するために、学内責任体制と学生指導体制を整備する。

  実習指導は、教授、准教授、講師、助教の専任教員が担当するように指導体制を整える。各実習科目の担当教員は、担当学生の実習指導に責任を持ち、学生の体験や臨床実践の状況を教材化して学生に説明するなどの教育実践能力を有している。実習終了後は速やかに、学習成果や課題について教授あるいは科目責任者に報告する。学生への学習指導や指導者間の連携上の問題が生じた場合は、教授あるいは科目責任者を中心に実習担当教員間で協議、検討し、速やかにその対応を図ることとする。さらに、実習中のリスクマネジメント体制の一貫として、学内において、学外で発生する事故等についての連絡・報告を受け、状況を把握し、的確に関連部署に指示・方向付け等の対応する役割を担う者を、専任教員の中から「実習統括責任者」として 1 名選任し、配置する。（資料 10）

  原則として実習水準を確保するために、一人の実習担当教員が担当する学生数は**2～**

10 人を基準に配置している。また、実習科目の目的や内容、方法、あるいは実習場所によって、引率指導と巡回指導のいずれかの方法で行う。なお、講義等の学内業務を持つ専任教員に関しては担当の実習施設を配慮する予定である。引率指導では、実習担当教員は担当施設に出向き、実習指導者との指導上の役割分担のもとに協働、連携して臨地での指導を行う。巡回指導では、巡回による指導と学内での個別あるいは集団指導を併用することで、実習水準を確保する。巡回指導には、在宅看護学実習の訪問看護ステーション実習、地域包括支援センター等が該当し、１人の実習担当教員は１～５施設を担当する。その際、実習施設の指導者と事前協議を綿密に行うとともに、実習期間中の実習内容、指導方法等の調整は、巡回や通信手段を用いて、実習施設の実習指導者と密接に連絡を取り連携を図りながら行う。

また、専任教員と助手および実習指導者の役割分担の明確化を図り、教育の質の担保に努める。（資料 21）

（２） 実習担当教員の役割

実習担当教員は、専任教員を責任者とする。また助手が実習指導の補助をしている場合は、助手の指導を行い、学生への関わりについて、適切な評価及び指導・助言を行う。専任教員は実習先の実習指導者と実習内容や方法等について協議、調整し、学習目標の達成に向けた実習運営と指導上の責任を負う。したがって、学生への実習指導や評価に限らず、実習環境および学生の学習状況を把握し、実習が円滑に実施できるように調整する役割を担うものとする。実習施設において学生と行動をともにし、実習指導者や看護スタッフとの調整を図り、学生が学習しやすいよう環境調整を行う。

３　実習先との連携体制

（１） 大学側教員と実習施設側実習指導者の連携と役割分担

大学側教員と実習施設側実習指導者との連携については、大学と各実習施設看護部との間で年間実習計画や体制に関する管理上の調整、協議を行う場として実習調整会議を開催することとし、その方針のもとに各実習開始前および終了後に実習指導者会議を開催し、具体的な指導や連携について協議できる体制を整える。また、大学教員と実習指導者合同の実習指導者研修会を企画し、実習先との連携や交流の強化、および実習指導力向上を図ることとする。

実習期間中は、専任教員と実習施設の実習指導者が協働、連携し、学生が効果的に実習できるよう学習環境や指導内容を調整する。専任教員は、実習開始前に該当する施設、病棟で研修を行い、実習環境の把握、学生指導の計画、実習指導者および看護スタッフとの連携体制の確認等、実習に必要な準備態勢を整えることとする。

実習指導については、大学側の専任教員と実習施設側の実習指導者との役割分担の明確化を

図り、効果的に実習が行えるようにする。役割分担においては、専任教員は、実習目的、目標をふまえた実習内容や方法等の実習全般の教育計画を企画し、個々の学生の学習状況に応じた指導および評価、実習期間中の学生の指導を主に担当する。実習指導者は、大学側の実習計画に基づく教育的実習環境の調整を行うとともに、学生の担当する対象への調整および直接的な看護行為に関する指導等を主に担当する。
(資料８)

（２） 実習調整会議

実習に関する年間計画の調整、実習の企画・運営に関わる管理的、組織的な解決に向けての協議、調整を目的に、実習調整会議を企画し開催する。本会議は、各実習施設の看護部長などと、看護学科長、各実習科目の責任者で構成し、年１回以上の開催とする。実習に関わる具体的な協議、調整は、本会議での決定に基づき、各実習科目の担当教員と実習施設の部署責任者、実習指導者で構成される実習指導者会議において行う。

（３） 実習指導者会議

実習指導者会議は、各実習開始前と実習終了後に開催することを原則とする。実習開始前においては、本学の教育の理念、目的、教育課程の特色と当該実習科目の位置づけ、実習目的と目標、科目進度や履修状況等の体系について実習施設側の理解を得るとともに、具体的な実習指導方法と連携体制について協議する。また、実習生の看護実践の基盤となる専門知識や技術等の学習到達レベルの情報提供と共有化を図り、大学教員と実習指導者が連携して実習指導にあたるための検討の場とする。

実習終了時においては、実習の目的、目標の達成状況、指導方法や連携状況について評価、協議する。実習中の問題点や指導方法についての意見交換を行い、実習指導に関わる問題解決のための提案や工夫について検討し、常に実習での教育の質保証にむけた取り組みを行う。

（４） 実習指導者研修会の開催

臨地での実習指導力の向上を図るために、実習施設側の実習指導者と大学教員による合同の実習指導研修会を企画し開催する。実習施設における看護および教育水準の確保と教育方法の改善・充実のために、テーマの設定や年間活動計画を作成し、すべての実習施設の協力のもとに年１回以上の開催を目途とし、相互に研鑽を深める。

（５） 実習施設との連携内容（大学と実習施設との連携体制と方法）

① 実習前の連携内容

臨地実習は、教員と実習指導者およびスタッフ全員の協力体制により成り立っているため、両者の緊密な連携が重要である。そのため、大学における看護学の教育目的、目標、

教育方法、臨地実習の位置づけ、実習における到達目標、実習内容、実習方法、評価などに関する内容を説明し、相互理解を図る。加えて、学生のレディネスとして、既習学習の学習内容、看護技術の到達レベルなど実習指導上必要な情報の共有化を図る。また、実習が効果的に行えるよう実習施設および実習病棟の環境整備を、実習施設との連携、調整のもと実施する。カンファレンスに使用できる部屋、更衣室、休憩室等や実習に必要な看護用の物品などについて確認し調整する。必要に応じて、教員の事前準備として実習施設および実習病棟の状況を把握するための研修を行う。

具体的な実習の打ち合わせは、施設長または、病棟師長および実習指導者と行う。実習開始前に、受け持ち対象者の選定に関して、実習指導者を通して施設側と協議しておく。教員と実習指導者の間で、指導上の違いが生じないよう実習前から綿密に調整する。

② 実習中の連携内容

実習中は、日常的に連絡、指導調整を行い、いつでも相談し合える指導体制を整える。専任教員は、実習の進捗状況や学生の実習目標の到達状況、学習上の問題点、運営上の課題等について実習指導者およびスタッフと情報交換を行うことで実習の学習効果を向上させる。また、学生カンファレンスには施設または病棟の管理者および実習指導者ができるだけ出席できるよう調整し、実習における学生の状況、実習内容と実習目標の到達などに関する相互理解を深める機会とする。

大学と実習施設は、「個人情報の保護に関するガイドライン」の内容に基づき協定し、個人情報の取り扱いに関する実習中の教育および指導内容を統一する。実習施設の個人情報のルールがある場合、それらに即して調整する。教員は実習指導者から紹介を受けた学生の受け持ち予定者に、「臨地実習同意書」を用いて説明し、本人または代理同意人（家族等）から実習の同意を得る。在宅看護学実習等で、集団を対象とした実習では、実習施設による包括的同意を得ることとする。（資料９）

事故、感染症発症時には、実習施設の規程および大学の事故発生時の対応マニュアルに則り、連携をとりながら速やかに対処する。（資料 10）

③ 実習後の連携内容

実習後は、実習の目的、目標の達成状況、指導方法や連携状況について評価、協議する実習前・実習中の問題点や指導方法についての意見交換を行い、実習指導に関わる問題解決のための提案や工夫について検討し、改善部分を共通理解することにより、常に実習における教育の質保障を図ることとする。

実習の評価は専任教員の責任のもとに実習指導者と協議し、総合的に評価を行う。実習評価は臨地での実践状況、実習記録の内容、実習後レポート等をもとに実習目標と照らし、その到達度を評価する。

4　実習前の準備状況

（1） 感染予防対策（実習までの抗体検査、予防接種等）

「感染予防に関するガイドライン」に基づき、初年次から感染予防の基本的考え方、態度を指導する。実習においては、感染症のある患者は原則として受け持ち対象としないこととし、学生が感染しない、学生が感染源にならないよう対策を講じる。（資料 11）また、初年次教育としての健康支援において、日常生活におけるうがい・手洗いの励行、正しいマスクの着用方法、咳エチケット、適切な休養・栄養等について指導する。

学生は入学後の定期健康診断において胸部 X 線撮影（直接）、血液検査（血液一般・HB 抗原抗体等）、検尿、視力聴力、結核ｸｵﾝﾃｨﾌｪﾛﾝ検査、および小児感染性疾患（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の抗体価検査（ELISA 法）を受ける。小児感染性疾患抗体価検査結果が陰性･偽陽性の学生は全員ワクチン接種を行い、ワクチン接種証明書の提出を義務付ける。また、次年度の抗体検査を受ける。（資料 12）これらの検査結果は、学内で厳重保管する。

（2） 損害賠償責任保険、傷害保険等の対策

学生には、入学と同時に自賠責保険への加入を義務付ける。近年の医療の高度化、医療事故に対する国民の意識の高まりなどを背景に、学生であっても医療事故に対する責任を問われることがある。また、学生自身が事故の被害者となる危険もある。そのため、学生生活の２４時間対応の保険への加入を計画している。　対象範囲は次の通りとする。

① 傷害事故　学生自身のけが等の傷害事故（実習中も含む）
② 賠償事故　他者への傷害、物品破損、他人の物品紛失等の事故
③ 実習中の感染事故　接触感染（針刺し事故含む）、院内感染など
④ 個人情報漏えい事故

5　事前・事後における指導計画

実習にあたっては、実習目的、目標、方法、内容について実習担当教員によるオリエンテーションを実施する。これにより、学生が実習に対する留意点、心構えなど十分に理解した上で実習に臨めるようにする。また、実習の事前学習および看護技術の復習により、既習の知識と技術を再確認したうえで実習に臨む準備を整える。各実習の終了後は、学生との振り返りを行い、実習成果や課題について速やかなフィードバックを行うことで、次の実習への課題の明確化につなげていくようにする。

6　教員の配置計画ならびに巡回指導計画

各実習施設に専任教員を責任者として配置し、常時、実習指導者と連携した学生指導体制

とする。

臨地での実習指導を行う日に、担当する学内授業が入った場合には、実習施設からの移動がないように配慮する。

巡回指導形態をとる訪問看護ステーション、地域包括支援センター等の実習においては、専任教員が週１回以上の巡回指導を行い、学生指導や報告会、カンファレンスに参加する。また、実習中、必要に応じて学内での個別あるいは集団指導を実施する。実習終了後は、学習のまとめを行う。

４年次の統合実習Ⅰ・Ⅱにおいては、看護の学習を統合することを目標としている。そのため、多くの医療機関において看護実践を展開する予定であることから、実習担当教員は各看護学領域の専任教員が担当することとする。（資料 13）

7　実習施設における実習指導者の配置計画

実習施設における実習指導者の配置は、各実習グループ１～２人体制を依頼し、調整する。実習期間中、一貫性のある実習指導を行うことができるよう、可能な限り同一の実習指導者の継続を依頼し、実習指導者間および実習指導者と専任教員間の効果的な連携のもとに実習指導を行えるように計画する。

8　成績評価体制および単位認定方法（単位認定等評価方法）

（1）各施設の指導者と大学側の指導者との評価方法・連携

実習の評価は、専任教員の責任のもとに実習指導者と協議し、総合的に評価を行うこととする。実習評価は、臨地での日々の実践状況、実習記録の内容、実習後レポート等をもとに、実習目的・目標と照らし、その到達度を評価する。

（2）大学における単位認定方法等

大学においては、学則に定められているとおり、最終的な単位認定は教授会の議を経て学長が行う。

評価については評価表を用い、教員は学生と共に、学生の今後の発展的な学びの保証ができる評価を行う。

成績評価は、科目ごとに 100 点を持って満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする。成績段階については、S（100 点～90 点以上）、A（80 点以上～90 点未満）、B（70 点以上～80 点未満）、C（60 点以上～70 点未満）、D（60 点未満）

9　実習先との契約内容（個人情報保護や事故防止に関する取り決め）

（1）実習先との契約

本学と実習施設とは、「実習協定書」をもって、実習契約を締結する。協定書においては、事故発生時の対応や個人情報保護に関する取り決めを規定するとともに、これらの事項については本学および実習施設の規程に則り対応を行う。（資料 14）

（2）対象者への説明と同意および個人情報の管理

学生の実習に際して教員は、実習指導者から紹介を受けた学生の受け持ち予定者に、「臨地実習同意書」を用いてわかりやすい説明を行い、本人または代理同意人（家族等）から実習の同意を得る。

また、実習中は学生が実習対象者の診療情報を容易に入手できる環境にあり、看護師が行うケアの一部を実施するため、学生にも守秘義務が生じ、特に個人情報保護の観点から、診療情報および対象者等から得た情報の管理に十分な注意が必要になる。そのため、学内ならびに臨地実習の事前指導において、個人情報保護の考え方や、個人情報取り扱いマニュアルに基づいた取扱い方針について遵守して行動できるように指導する。

（3）　実習中の事故防止および事故発生時の対応

カリキュラムにおいて医療安全の理解を深める内容を精選する。また、実習までに、医療安全論の講義や早期の実習オリエンテーションの実施により、実習における事故防止の意識も高めておく一方、実習までに看護技術の学習を深めることを行い、到達度 80%以上の技術習得を目指して指導する。その上で臨地での実習に出ることを目安とする。質保証の到達水準は（資料 15）に示した通りである。実習において、学生が対象者に看護行為を実施する場合には、実習指導者の指導・監視のもとで実施することを原則として、質を維持することとする。学生は日々の行動計画をもとに、実習指導者、専任教員に看護行為の安全性についての事前指導を受け確認後、実施するよう指導する。大学は「臨地実習における事故発生の対応」のシステムを構築し、事故発生時に速やかに対応できるように大学教員、実習施設関係者、学生への周知を徹底する。

実習病院、その他実習施設で「ヒヤリ・ハット」事例、「事故」が発生した場合には、専任教員はその発生状況を把握し、事故の重大さの判断のもとに、事故発生時の対応システムにしたがって実習施設側と連絡・相談したうえで対応する。専任教員と学生は、所定の安全管理報告書を作成する。なお、実習施設に独自の事故報告システムがある場合は、上記報告書作成のほか、実習施設の看護関係者の指示に従って対応する。（資料 16）

あわせて、災害等の緊急の事態が発生した場合は、本学の危機管理基本マニュアルに則り、大学連絡システムを重層的に活用し常時連携を担保できる体制にて対応を図る。特に

実習において緊急の事態（事故・感染・災害等）が発生した場合は、看護の対象者の安全や学生の安全が担保されなければならない。これについては、大学との連絡・連携方法についての見直しを行い、新たに看護学科における実習統括責任者を置いて、常に連絡がとれる体制を確保した。（資料 10）

①速やかに看護学科実習統括責任者に連絡を入れる。

②連絡を受けた実習統括責任者は、安全な状況が確保できるように指示を与える。

③実習統括責任者は状況を把握し、必要に応じて速やかに実習施設と連絡をとり、対処方法を協議する。

１０　実習先が遠隔地にある場合の実習実施上の配慮

実習は病院・訪問看護ステーション・地域包括支援センターを含め 52 施設の協力を得ている。その中で、一部がやむを得ず遠隔地になった実習施設がある。しかし、交通の便から見れば、非常にアクセスが良い場所にある。

遠隔地での学生の実習配置あたっては、次の３点を考慮して優先配置する。

① 自宅から近い、当該地域出身の学生

② 遠隔地実習を希望する学生

③ 施設が実習生のために用意している宿泊所を希望する学生

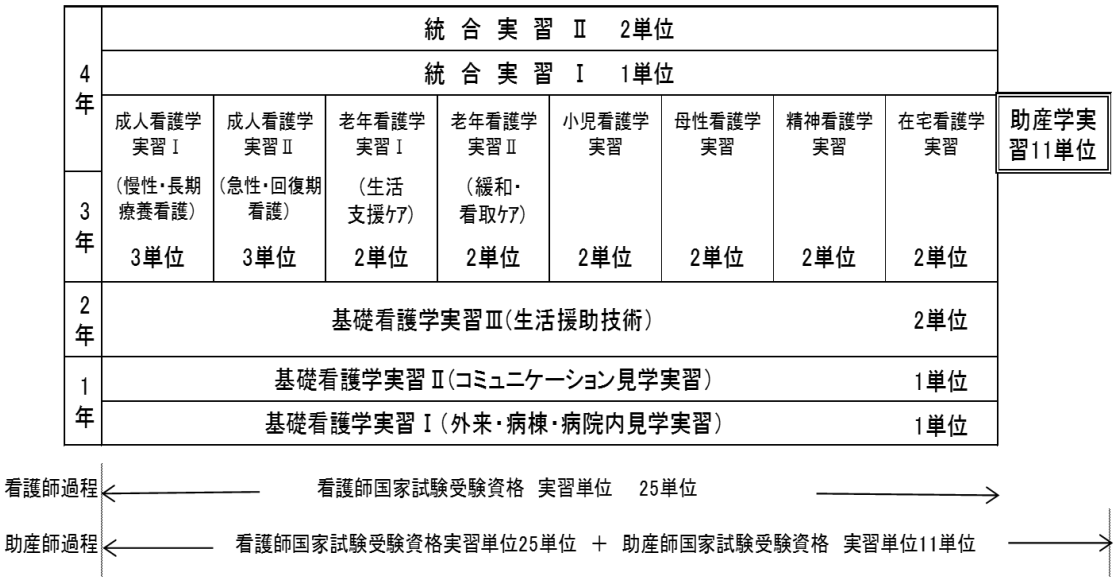
遠隔地での実習は、引率の実習形態をとるが、効果的に実習計画を実施できるよう学習環境の整備と学生の生活上の安全対策を講じる。大学側は、学生の学習支援として、実習施設へのアクセスがよく、安全な宿泊施設を確保するとともに、必要な参考書等の利用ができるように学習環境を整える。

ア．実習計画の概要

臨地実習は、本学の建学の精神である「人に優しく、社会に貢献できる人材の育成」という視座に立ち、保健・医療・福祉の様々な場において、健康の保持増進・疾病予防を含め、あらゆる健康レベルの人々のニーズに対応した看護ケアが提供できる看護者育成のために、大学 4 年間で看護学領域 25 単位を修得する。

さらに学内選抜により助産師国家試験受験資格の取得希望者は、11 単位を修得する。

実習科目の階層は図１のとおりである。



【図１　臨地実習構成図】

・実習目標（実習のねらい）、科目概要、実習単位、実習時期

１.基礎看護学実習

基礎看護学実習はⅠ・Ⅱ・Ⅲに分ける。単位はⅠ・Ⅱは各 1 単位（45 時間)、Ⅲは 2 単位（90 時間）とする。

1-1）基礎看護学実習Ⅰ

【科目概要】

病院における看護活動、療養者の生活の場である病院環境と看護の役割機能について知る。入学直後の「病院見学」をすることにより、「医療」「看護」という世界を知ることへ「導入」とし、大学において看護学を学ぶ動機付けとする。

【時期】1 年次 5 月初旬

【期間】1 週間（1 単位、45 時間）

【実習目的】

看護の対象となる人たちが、健康の維持、健康障害の診断・治療、健康回復のために多く訪れる病院において、その機能や役割とそこで働く看護師の役割を学び、看護学生としての看護観を培うための最初の機会とする。

【実習目標】

①治療や検査、または出産や検診など、様々な目的で病院外来を訪れる人々の実際を知

る。

②入院病棟の実際を知る。

③病院という施設の実際を知る。

④病院という施設で働く看護師の役割を考える。

【学習目標】

1）病院を訪れる人々の目的を説明できる。

2）病院の機能と特性を商業施設と比較して説明できる。

3）個人情報の保護、プライバシーの尊重という視点でなされていることを説明できる。

4）病院の各部署の役割を説明できる。

5）病院で働く人々と、それぞれの役割を説明できる。

6）入院病棟の特徴を説明できる。

7）病院における看護師の役割を説明できる。

8）看護学生として身だしなみを整え、礼儀正しく行動できる。

9）実習の学びから、「看護」についての考えをまとめることができる。

【実習時期】

1）前半グループ（44 名）：平成 28 年 5 月 9 日（月）～11 日（水） 臨地実習

5 月 12 日(木)～13 日（金）実践と理論の統合学習・全体発表

2）後半グループ（36 名）：平成 28 年 5 月 16 日（月）～18 日（水）臨地実習

5 月 19 日(木)～20 日（金）実践と理論の統合学習・全体発表

【実習方法】

＜臨地実習の進め方＞

1）事前に学内にて、実習オリエンテーションを受ける。

2）学習目標の達成に向け、病院の役割、訪れる人々、来院する目的などを実習グループで考え、見学実習でどのようなことを観察するか、「見学の視点」を挙げる（「基礎看護学実習Ⅰ 記録用紙」使用)。

3）実習では看護学生としての身だしなみに注意し、行動は機敏に 5 分前行動を心がける。尚、実習は病院毎に 3 つのグループに分かれ、外来・病棟・病院全体の見学を、説明・指導を受けながら行う。

4）実習においては私語を慎み、行動は機敏を心がける。実習中に、緊急の場面に遭遇した場合は、実習指導者または担当教員の指示に従い、行動する。

5）実習終了後、気付いたこと、学んだことを「基礎看護学実習Ⅰ 記録用紙」に記載。

＜実践と理論の統合学習・全体発表会＞

1）実習後の実践と理論の統合学習でグループワークを行い、実習目的に沿ってディスカッションを行い学びの共有化を図る。

2）最終実習日(金曜日)に全体発表を行う。

全体発表会のテーマ「病院の役割」「看護師になるということ」の 2 点についてグループ発表（模造紙を用いる）を行う。

【成績評価】

＊基礎看護学実習Ⅰの評価は、臨地実習における評価 50%、実習後レポート 50%である。

1．「基礎看護学実習Ⅰ　評価表」（p.96）に基づく評価。

実習終了翌日、自己評価欄に自己評価（5 段階評価）を記載して、担当教員に提出する。担当教員は、評価を行う。

2．終了レポート：テーマ課題「病院と看護」

レポートの内容は下記①②とし、合わせてA4 版用紙 3 枚以上（表紙除く）とする。

①学習目標 1)～8)に沿って、その学びを記述する（A4 版 2 枚)。

②学習目標 9)については、実習の学びから、看護をどのように捉え、さらに自分が将来どのような看護師になりたいのかを A4 版用紙 1 枚にまとめる。

・学びを深めるためには、必ず 1 冊以上の参考文献を読む。

・レポートは、2 部提出（1 部はコピー可）

3．レポート提出期限：

前半グループ　5 月 20 日(金)16 時、　後半グループ　5 月 27 日(金)16 時

1-2）基礎看護学実習Ⅱ

【科目概要】

基礎看護学実習Ⅰに続く実習である。一日の看護活動の見学や参加体験、患者とのコミュニケーションを通して、「医療」「看護」における関わりは、「コミュニケーション」という関係形成によって成立していることを知り、看護学における「関わり形成」の重要性を学ぶ動機づけとする。

【時期】1 年次 6 月中旬

【期間】1 週間（1 単位、45 時間）

【実習目的】

入院患者病棟における看護師と患者のコミュニケーション場面を見学し、看護場面におけるコミュニケーションが果たす役割を知ることができる。

【実習目標】

① 実習を通して看護師、患者と挨拶のコミュニケーションがとれる。

② 病院の看護場面におけるコミュニケーションの実際を知る。

③ 患者の個別性に応じて看護師のコミュニケーションで工夫している点に気付くことができる。

④ 看護師としてコミュニケーションの大切さに気づくことができる。

【学習目標】

1）病院職員、患者に挨拶ができる。

2）看護師のコミュニケーション場面とその目的が説明できる。

3）対象に応じたコミュニケーションの違いとその効果を説明できる。

4）患者－看護師関係における効果的なコミュニケーションを説明できる。

5）看護におけるコミュニケーションの意味を説明できる。

6）医療チームメンバーとしての看護師が行うコミュニケーションの目的を説明できる。

【実習時期】

1）前半グループ（48 名）: 平成 28 年 6 月 20 日（月）・21 日（火）臨地実習

22 日（水）・23 日（木）レポート課題達成のための学習、記録記載

24 日（金）実践と理論の統合学習・全体発表会

2）後半グループ（32 名）: 平成 28 年 6 月 22 日（水）・23 日（木）臨地実習

20 日（月）・21 日(火)　レポート課題達成のための学習、記録記載

24 日（金）　実践と理論の統合学習・全体発表

【実習方法】

＜臨地実習の進め方＞

1）事前に学内にて実習オリエンテーションを受ける。「基礎看護学実習Ⅱ　記録用紙」に、学習目標達成のために見学してくる視点を列挙しておく。

2）病棟オリエンテーションを受ける。

3）看護師に付いてシャドー見学を行う。看護師のコミュニケーションの場を見学し、コミュニケーションとして行っていること、心がけていること、さらに目的や意図を考える。

4）入院している患者にとって、看護師とコミュニケーションを取ることに何を求めているかなど、患者の立場からコミュニケーションを考える。

5）病棟看護師が行っている医療従事者とのコミュニケーションの場面を知り、その目的を考える。

6）実習中緊急の場面に遭遇した場合は、速やかに看護師に報告・連絡し、実習指導者または担当教員の指示に従い、行動する。

7）実習期間中に印象に残った、看護師と対象者のコミュニケーションの 1 場面を、「看護場面の再構築」に記載する。

8）実習終了時に、看護師長・主任・実習指導者と 15 分～30 分程度、質疑応答の時間を取って頂き、実習で考えたこと、疑問についてカンファレンスを行う。

9）最終日のカンファレンスでは、学生が司会を担い、必ずメンバー各自が発表(または質問)を行

う。カンファレンスの内容は実習終了後の実践と理論の統合学習に活かせるよう、書記 1 名を決める。

＜実践と理論の統合学習・全体発表会＞

1）実習終了後、実践と理論の統合学習にてディスカッションを行う。ディスカッションでは、各自が記載した実習記録「看護場面の再構築」を発表し、さらに実習目的に沿ってグループで学びを共通する。

2）実習最終日（6 月 24 日午後）に、全体合同発表で学びを深める。

1-3）基礎看護学実習Ⅲ

【科目概要】

医療機関において、日常生活に関する看護実践過程を展開することで、看護実践力の基本を学び看護観の醸成をすることをねらいとする。具体的には、対象の健康状態と日常生活の観点から、対象に適した看護技術を安全に提供すること、実践過程を通して対象との援助関係を形成する体験をする。初めて、看護の対象者を「受け持って」実践する。

【時期】2 年次 2 月下旬から

【期間】2 週間（2 単位、90 時間）

【実習目的】

様々な看護場面で基盤となる日常生活援助を、学内で学んだ知識や看護技術を活用しながら、入院患者に実践する。

患者の個々の健康状態や生活状況に合わせた看護の必要性、コミュニケーションの必要性を学ぶ。

【実習目標】

① コミュニケーションを通して患者のニーズや苦痛を把握できる。
② 患者個々の健康状態や生活状況にあった看護援助計画を立てることができる
③ 看護技術が指導者の指導のもと、日常生活の援助を実施することできる。
④ 患者の反応から、実践した看護を評価することができる。
⑤ 指導者との報告・相談・連絡ができる。

２．成人看護学実習

成人看護学実習は、 健康障害をもつ成人期にある人々の発達課題を踏まえ、身体的・心理的・社会的側面から理解し、治癒過程に応じた看護援助を学ぶ。

成人看護学実習はⅠとⅡに分ける。

2-1）成人看護学実習Ⅰ

【科目概要】

成人期の健康課題・問題を持つ対象と家族への看護実践能力を習得する。具体的には、慢性的経過をたどり、生涯にわたって生活のコントロールが必要な成人期にある対象の特徴を理解し、疾病・障害の受容、生活の再構築、セルフケアにむけた看護実践について学ぶ。

【時期】3 年前期～4 年前期

【期間】3 週間（3 単位、135 時間）

【実習目的】

① 慢性疾患及び長期療養生活をおくる成人期にある患者の身体的・心理的・社会的問題を理解できる。

② 長期療養患者の社会復帰に向けた必要な看護援助が実践できる。

③ 患者の健康レベルの維持、増進に向けた看護援助が実践できる。

④ 実践した看護を患者の反応から評価できる。

2-2）成人看護学実習Ⅱ

【科目概要】

成人期の健康課題・問題を持つ対象と家族への看護実践能力を習得する。具体的には、手術療法を必要とする患者の特徴を理解し、急性期から回復期における看護実践について学ぶ。

【時期】3 年前期～4 年前期

【期間】3 週間（3 単位、135 時間）

【実習目的】

① 急性期にある成人期患者に必要な看護が計画できる。

② 急性期にある成人期患者に必要な看護が指導者の支援のもと実践できる。

③ 急性期治療を受ける患者及び家族の心理的側面が理解できる。

④ 回復期にある成人期患者に必要な看護が実践できる。

⑤ 社会復帰に向け必要な看護が実践できる。

３．老年看護学実習

老年看護学実習はⅠとⅡに分ける。

【実習目的】

老年看護学実習は、健康障害のある高齢患者を対象に、健康レベルに応じた看護援助を、学内で学んだ知識・技術・態度を活用して実践する。

3-1）老年看護学実習Ⅰ

【科目概要】

療養中の健康障害を持つ老年期の対象を理解し、個々の状態に応じた看護実践について学ぶ。特に、加齢現象と健康障害が関連して起こる問題について考える。

【時期】3 年前期～4 年前期

【期間】2 週間（2 単位、90 時間）

【実習目的】

健康障害を持つ老年期の患者、加齢による健康レベルの低下によって起こっている看護問題に対して、特に日常生活の支援に焦点を当て、必要な看護援助方法を学ぶ。

【実習目標】

① 健康障害、加齢が老年期の対象に及ぼす影響を理解する。

② 個々の対象者に対して健康を維持し、低下させないために看護援助を考える。

③ 老年期にある対象者がその人らしく生活を過ごすために必要な看護援助を考える。

④ 看護学生としてできる日常生活の援助を対象に合わせて実践できる。

3-2) 老年看護学実習Ⅱ

【科目概要】

終末期にある健康障害を持つ老年期にある対象を理解し、個々の状態に応じた看護実践について学ぶ。特に、対象の生活史を踏まえながら、苦痛の緩和やＱＯＬについて考え看取りの看護について考える。

【時期】3 年前期～4 年前期

【期間】2 週間（2 単位、90 時間）

【実習目的】

終末期にある老年期の対象に必要な身体的・社会的・心理的な状況を学び、必要な看護を学ぶ。

【実習目標】

① 終末期にある対象の身体的・社会的・心理的側面で必要な看護が考えられる。

② 疼痛が老年期の人々に与える影響を理解できる。

③ 緩和ケアの実際を学ぶ。

④ 疼痛コントロールの実際を学び、看護としての観察、安楽への援助ができる。

４．小児看護学実習

【科目概要】

小児期の成長発達の特徴および、その成長発達過程における疾患、障害を持つ意味についての理解を踏まえ、実際に入院中の小児のケアを通して、小児自身への援助のみならず、家族への援助も学習する。

【時期】3 年前期～4 年前期

【期間】2 週間（2 単位、90 時間）

【実習目的】

小児看護学実習では、様々な健康レベルにある小児とその家族を理解し、個々の対象にとって必要な看護を具体的に考え、実践できる能力を取得する。

小児の正常な発達を理解したうえで、疾患や入院生活が身体的・心理的側面に及ぼす影響を考え、必要な看護援助を学ぶ。

【実習目標】

① 小児の成長発達段階を理解する。

② 健康障害のある小児の特徴を理解し健康回復への適切な援助ができる。

③ 健康障害のある小児の家族状況を理解し、適切な援助を考えることができる。

④ 医療・保障・福祉・教育の機能と連携を知り、看護の役割を考えることができる。

⑤ 対象の看護を通して、小児の人権と看護を考えることができる。

5．母性看護学実習

【科目概要】

母性看護の対象（妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族）を理解し、母子ともに健康に過ごせるように、母子とその家族に対する看護実践に必要な知識・技術・態度を習得し、生命の尊厳について学ぶ。

【時期】3 年前期～4 年前期

【期間】2 週間（2 単位　90 時間）

【実習目的】

女性のライフサイクルにおける妊娠、出産、産後育児をしている女性や新生児、その家族を対象として、必要な援助を実践できる

【実習目標】

① 正常妊娠の過程が理解できる

② 妊娠期に応じた看護がわかる。

③ 褥婦の看護が実践できる。

④ 新生児への看護が実践できる。

6．精神看護学実習

【科目概要】

精神に障害を持った対象を理解し、個別的な看護実践について学ぶ。特に、対象との関係を形成する対人関係技術と精神状態をアセスメントする技術を用いて、対象に現れている精神症状が、日常生活行動にどのように影響しているかを知り、日常生活行動の維持向上にむけた看護実践について学ぶ。また、対象とのコミュニケーションを

通して、自分自身を見つめ、自己洞察する力や共感的に理解する力を養う。

【時期】3 年前期～4 年前期

【期間】2 週間（2 単位　90 時間）

【実習目的】

入院治療をしている精神障害を持った対象者の症状をはじめとした、疾患が日常生活に及ぼす影響を理解し、必要な看護を学ぶ。

【実習目標】

① 精神疾患の症状の特徴を学ぶ。

② 精神看護学における看護の実際を学ぶ。

③ 対象者に必要な看護を考え、実践できる。

7．在宅看護学実習

【科目概要】

在宅で生活・療養している人々とその家族を理解し、在宅看護が実践できる基礎的な能力を養う。訪問看護ステーション・地域包括支援センターにおける役割や機能について、実践をとおして学ぶ。

【時期】3 年前期～4 年前期

【期間】2 週間（2 単位　90 時間）

【実習目的】

在宅療養をする人が、その人らしくより良い療養生活を送るために看護者の役割を理解し、個々の対象者に応じた看護を学ぶ。

【実習目標】

① 訪問看護を受けている対象と家族への看護の実際を学ぶ。

② 訪問看護提供までのプロセスの実際を知る。

③ 訪問の準備、訪問看護の実際と記録、他職種との連携、評価の一連の活動を理解する。

8．助産学実習

助産学選択の学生のみ実施

【科目概要】

助産の対象となる人々に対して、科学的根拠に基づく助産診断・技術を統合した助産活動を実践することを通して、助産における看護実践能力を高めることを目的にしている。実習を通して助産実践に関わるアセスメント能力、助産技術を習得する。また、助産診断に基づき、正常分娩に関する助産技術を習得する。母子及び家族に関しては、助産学の視点から母子や家族の健康を増進し、地域への継続した支援に繋がる援助が

できることを目指している。

【時期・期間】4 年次、17 週間（11 単位）

【実習目的】助産活動に必要な診断技術を、妊婦および褥婦に実践し、技術を習得する。

【実習目標】

① 妊娠経過のアセスメント・診断を行い、安全な妊娠の継続・出産・育児に向けた助産

② 正常な分娩経過に対するアセスメント・診断を行い、安全な出産に向けた助産・看護援助を実施する。

③ 出生直後の新生児に対するアセスメントと診断を適切に行い、体外生活への移行と一般状態の安定・母児の早期接触に向けた助産・看護援助を実施する。

④ 正常な分娩経過に対するアセスメント・診断を行い、安全な出産に向けた助産・看護援助を実施する。

⑤ 出生直後の新生児に対するアセスメントと診断を適切に行い、体外生活への移行と一般状態の安定・母児の早期接触に向けた助産・看護援助を実施する。

⑥ 妊婦とその家族に対する集団指導の意義を理解し、対象の特徴・ニーズに則した集団指導が実施できる。

⑦ 産後の母子の健康状態を生理的・心理的側面からアセスメント・診断し、健全な育児環境の確立に向けた、保健指導が実施できる。

⑧ 継続事例を通して助産師としての役割を学ぶ。

⑨ 出産を取り巻く医療サービスを理解し、対象に合わせたサービスの必要性を考えることができる。

９．統合実習

4 年間の集大成となる実習である統合実習は、Ⅰ とⅡに分かれる。

9-1）統合実習Ⅰ

【科目概要】

3 年間学んだ、実習を中心とした既習の知識や技術を統合させて、学びの総括から、自己の課題を見出すことを主眼とした 1 週間の実習である。

【時期】4 年次後期

【期間】1 週間（1 単位　45 時間）

【実習目的】チーム医療および他職種との調整の実際を学ぶ。

【実習目標】

① 患者の回復に向けた医療チームのかかわりの実際を学ぶ。

② 対象者の看護問題を見出し、必要な看護が考えられ、実践できる。

9-2）統合実習Ⅱ

【科目概要】

今までの実習での学びを統合し、看護・医療チームの一員として、援助の優先順位や時間管理を考慮した看護実践について学び、看護専門職としての自己の将来像をイメージしながら看護活動を統合することを目指した実習である。

【時期】4 年次後期

【期間】2 週間（2 単位　90 時間）

【実習目的】看護師としてメンバーシップ、リーダーシップを学ぶ。

複数の受け持ち患者をもち、優先順位を計画的に患者のケアが実践できる。

【実習目標】

① 複数の患者の看護問題を把握し、必要な看護ケアの優先順位が考えられる。

② 実施した看護を患者の反応から評価し、看護計画の修正ができる。

③ 医療チームの中での看護師の役割がわかる。

・実習施設の確保について

確保している実習施設は、資料６「実習依頼施設一覧」を参照。各実習別依頼施設は次頁表１の通りである。

実習開始後、実習施設に関して不測の事態が生じた場合、日本医科大学系病院より、本看護学科臨地実習に対する協力支援について了解を得ている（資料 24）ので、当該病院への依頼によって、対応することとする。

表1　実習科目別臨地実習病院一覧

	実習科目	本学の単位	年次	実習施設名		
専門分野Ⅰ	基礎看護学実習Ⅰ	1単位（45）	1	日本医科大学　多摩永山病院	国家公務員共済組合連合会立川病院	国立病院機構村山医療センター
				国立病院機構相模原病院	国立病院機構箱根病院	横浜市立大学附属市民総合医療センター
				国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院		
	基礎看護学実習Ⅱ	1単位（45）	1	日本医科大学　多摩永山病院	日本医科大学　武蔵小杉病院	国家公務員共済組合連合会立川病院
				国立病院機構村山医療センター	国立病院機構相模原病院	国立病院機構箱根病院
				埼玉県総合リハビリテーションセンター	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院	
	基礎看護学実習Ⅲ	2単位（90）	2	日本医科大学　多摩永山病院	日本医科大学　武蔵小杉病院	国家公務員共済組合連合会立川病院
				国立病院機構相模原病院	国立病院機構箱根病院	埼玉県総合リハビリテーションセンター
				国立病院機構神奈川病院	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院	国立国際医療研究センター国府台病院
専門分野Ⅱ	成人看護学実習Ⅰ（慢性長期療養看護）	3単位（135）	3・4	国家公務員共済立川病院	国立病院機構箱根病院	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院
				埼玉県総合リハビリテーションセンター	国立国際医療研究センター国府台病院	
	成人看護学実習Ⅱ（急性・回復期看護）	3単位（135）	3・4	日本医科大学　多摩永山病院	日本医科大学　武蔵小杉病院	国立病院機構村山医療センター
				国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院	社団医療法人財団石心会　川崎幸病院	横浜市立大学附属市民総合医療センター
				国家公務員共済虎ノ門病院		
	老年看護学実習Ⅰ（生活支援ケア）	2単位（90）	3・4	国立病院機構相模原病院	国立病院機構箱根病院	社会医療法人財団大和会武蔵村山病院
				医療法人愛友会上尾甦生病院	社会福祉法人東京有隣会有隣病院	医療法人財団明理会鶴川サナトリウム病院
	老年看護学実習Ⅱ（緩和・看取ケア）	2単位（90）	3・4	埼玉石心会病院	医療法人財団アドベンチスト東京衛生病院	医療法人社団崎陽会日の出ヶ丘病院
				東京ほくと医療生活協同組合王子生協病院	宗教法人救世軍救世軍ブース記念病院	社団福祉法人賛育会賛育会病院
				医療法人社団珠光会聖ヶ丘病院	社会福祉法人信愛報恩会信愛病院	川崎市立井田病院
				医療法人財団杏順会越川病院	公益財団法人東京都保健医療公社多摩南部地域病院	
	小児看護学実習	2単位（90）	3・4	日本医科大学　多摩永山病院	社会医療法人財団大和会武蔵村山病院	国立病院機構神奈川病院
				埼玉石心会病院	埼玉県立小児医療センター	都立都立北療育医療センター
	母性看護学実習	2単位（90）	3・4	日本医科大学　多摩永山病院	日本医科大学　武蔵小杉病院	東海大学医学部付属八王子病院
				町田市民病院	医療法人社団信愛会東府中病院	医療法人社団三成会新百合ヶ丘病院
				稲城市立病院		
	精神看護学実習	2単位（90）	3・4	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院	国立病院機構久里浜医療センター	国立国際医療研究センター国府台病院
				医療法人社団天紀会こころのホスピタル町田		
統合分野	在宅看護学実習	2単位（90）	3・4	川崎市立井田病院	杏順会越川病院訪問看護ステーション	訪問看護ステーションフェインケア　多摩センター・調布
				医療法人財団天翁会あい訪問看護ステーション2ヶ所	多摩丘陵病院わかば訪問看護ステーション	訪問看護ステーション さくらんぼ
				医療法人社団桐光会調布訪問看護ステーショ	社会福祉法人正吉福祉会やのくち正吉苑	つつじが丘訪問看護ステーション
				桜ヶ丘社会事業協会さくらが丘訪問看護ステーション	(株)エルハート訪問看護ステーションエルハートナースケア	多摩地域包括支援センター
	統合実習Ⅰ	1単位（45）	4	日本医科大学　多摩永山病院	国家公務員共済組合連合会立川病院	国立病院機構村山医療センター
				国立病院機構箱根病院	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院	横浜市立大学附属市民総合医療センター
				国家公務員共済虎ノ門病院	埼玉県総合リハビリテーションセンター	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院
				稲城市立病院		
	統合実習Ⅱ	2単位（90）	4	日本医科大学　多摩永山病院	国家公務員共済組合連合会立川病院	国立病院機構村山医療センター
				国立病院機構箱根病院	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院	横浜市立大学附属市民総合医療センター
				国家公務員共済虎ノ門病院	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院	横浜市立大学附属病院
				稲城市立病院		
	助産学実習	11単位	4	日本医科大学　多摩永山病院	日本医科大学　武蔵小杉病院	国家公務員共済虎ノ門病院
				ライフ・エクステンション研究所永寿総合病院	蕨市立病院	

基礎看護学実習、成人看護学実習、老年看護学実習、母性看護学実習の実習病院は、本学に隣接する日本医科大学関係施設（多摩永山病院 401 床、武蔵小杉病院 372 床）を中心に、独立行政法人国立病院機構および研究センター関係施設（村山医療センター350 床、相模原病院 458 床、箱根病院 199 床、がんセンター中央病院 600 床、神奈川病院 370 床、国立精神・神経医療研究センター病院 923 床、国府台病院 353 床）、国家公務員共済組合連合会関係施設（立川病院 500 床、虎ノ門病院 890 床）と、公立大学法人施設（横浜市立大学附属病院 631 床）、県立・都立・市立・町立関係施設（横浜市立大学附属市民総合医療センター726 床、埼玉県総合リハビリテーションセンター120 床、埼玉県立小児医療センター300 床、東京都立北療育医療センター120 床、町田市民病院 447 床、稲城市立病院 290 床）、医療法人関係 4 施設（川崎幸病院 326 床、武蔵村山病院 300 床、上尾甦生病院 186 床、埼玉石心会病院 349、多摩南部地域病院 318 床、こころのホスピタル町田 378 床、鶴川サナトリウム 587 床）など、病院関係、訪問看護ステーション、地域包括支援センターなど 52 施設を確保している。

確保した臨地実習病院は、先進医療病院、地域医療の中核病院、救急医療病院、回復期リハビリテーション病院として、質の高い看護を提供している施設である。臨地実習において、患者・家族にとって最適な医療を提供するための実践的な医療や看護を学び、チーム医療の調整役としての地域医療と施設との連携を学習するには、ふさわしい施設となっている。

各実習施設では、病院の特色に合わせた実習科目が実習できるように計画した。例えば、成人看護学実習Ⅱは、急性期および回復期の看護を実習目標としており、救命救急センターを持つ日本医科大学系 2 施設をはじめ、地域の救急拠点病院での実習であり、急性期における医療の現場と看護実践の場で、知識と技術を学ぶ。老年看護学実習Ⅱは、緩和ケア、看取り看護を実習目標として挙げており、表２に示すように、確保した実習施設は、緩和ケア病棟を確保しており、目標達成に適した施設が確保されている。

表2　老年看護学実習Ⅱ　臨地実習病院緩和ケア病棟の保有状況

病院番号	施設名	全病床数	緩和病棟の有無	緩和/ホスピス病床数
15	社会医療法人財団石心会埼玉石心会病院	349	有	8
23	医療法人社団　崎陽会日の出ヶ丘病院	168	有	20
24	東京ほくと医療生活協同組合王子生協病院	159	有	25
25	宗教法人救世軍救世軍ブース記念　病院	199	有	20
26	社会福祉法人賛育会賛育会病院	199	有	20
27	医療法人社団珠光会聖ヶ丘病院	48	有	11
28	社会福祉法人信愛報恩会 信愛病院	199	有	20
29	川崎市立井田病院	383	有	23
30	医療法人財団アドベンチスト会東京衛生病院	186	有	20
39	医療法人社団杏順会　越川病院	35	有	35
51	公益財団法人東京都保健医療公社 多摩南部地域病院	318	有	14

精神看護学実習施設は、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター、国立研究開発法人国立国際医療研究センター国府台病院と、何れも国の精神疾患の基幹医療施設およびこころのホスピタル町田など、精神障害時の看護が統合的に学べる施設を確保している。

在宅看護学実習では、本校が位置する東京都南多摩保健医療圏にある地域包括支援センターにおける実習と、訪問看護ステーションでの訪問看護実習を計画した。多摩市は、平成 24 年 1 月現在 65 歳以上の高齢者人口は約 29 万人であり、構成割合は 21.4%を占めており、平成 27 年には 24.7%、平成 47 年には 31.3%になると推測されている。そのため平成 24 年 3 月に「高齢者保健福祉計画(介護保険事業計画)」を策定、高齢になっても、障害があってもその人らしい充実した人生を全うできるような「在宅療養生活」の実現に向け、医療を含む生活全般の支援を行う体制づくりに向けた政策が推進されている。そのような地域の保健・医療・福祉を支える多職種間の協働と看護者の役割、居宅介護の実際を知り、在宅における看護実践が学べるよう計画を立てている。

各臨地実習施設における受け容れ人数は、基礎看護学実習、成人看護学実習、老年看護学実習Ⅰ、小児看護学実習、母性看護学実習および精神看護学実習は、一施設あたり 2～10 名で配置した。小児看護学実習、在宅看護学実習（訪問看護の実践）および老年看護学実習Ⅱ（緩和ケア・看取り）は 2～６名の配置になるように計画した。

・問題対応

１．実習先との契約内容と安全管理

本学看護学科と実習受け入れを承諾した施設との間で、「臨地実習に関する協定書」（資料 14）を取りかわす。さらに、学生が受け持つ対象者には、実習の目的、主旨を十分に説明し、協力の了解をいただいた場合は「臨地実習同意書」（資料 9）への署名による同意を得たうえで実習を行う。個人情報の保護や医療事故に関しては、看護学科「臨地実習の手引き」に記載し、各実習の都度学生に周知し十分な意識づけを行う。臨地実習施設においては、専任教員と実習指導者は受け持ち対象者と学生の安全確保のために連携協力を密にする。

1）個人情報保護

基礎看護学実習Ⅰは入学 1 か月後に、計画している見学実習である。実習開始までに、日本看護協会監修『新版　看護者の基本的責務－定義・概念／基本法／倫理』（日本看護協会出版会、2006 年）の「看護者の倫理綱領（2003 年）」の説明を行い、看護者の守秘義務について理解を深める指導を行う。

個人情報の保護については、本学「臨地実習の手引き」の「個人情報の保護」（カルテの閲覧、記録・メモの取り扱い、学生の個人情報の取り扱い）に基づき実習オリエンテーションを行う。特に、基礎看護学実習Ⅱ終了後、基礎看護学実習Ⅲまでには 1 年以上の間隔が開くため、

基礎看護学実習Ⅲ前に再度オリエンテーションを行い、個人情報保護についての徹底した指導を行う。

受け持ち対象者の同意を得る際は、臨地実習協力依頼書に記載されている個人情報保護について十分に説明する。

２）事故発生時の対応

事故を防止するためには、専任教員は学生個々の行動計画を確認し、援助に対しての助言や指導を行った上で実習を開始する。万一の事故に備え、事故の種類や発生時の対応の仕方（「看護学科　事故発生時の報告」資料 10 参照）については実習前オリエンテーションで学生に説明する。

事故やヒヤリ・ハットが発生した場合は、学生は直ちに実習指導者と担当の専任教員（助手）に報告し、適切な対応について指示を仰ぐ。事故収束後は、所定の報告書（「インシデントレポート」資料 16 参照）に記入し、実習病棟と担当の専任教員に提出する。助手は、専任教員の指示に従って行動し、その結果を専任教員に報告する。

事故が発生した場合に備えて、入学とともに看護学生を対象とした Will 一般社団法人日本看護学校協議会共済会の総合補償制度への加入を義務づけ、保険加入を実習の前提条件にする。さらに本学としても実習生が対象者にケガをさせた場合や、施設の備品を破損した場合に備えた日本損害賠償保険、学生本人がケガをした場合に備えて傷害保険に加入している。事故の負担が発生した場合は、傷害・倍賞保険の手続きを取るように学生に促す。

＜事故の種類と事故発生時の応急処置について＞

(1)対象者の身体に関する事故

①対象者の障害や安全の確認をする。

②可能な範囲での応急処置を行う。

③その場を離れず、周囲の人に速やかに看護師・助産師・保健師など、施設の実習場所の看護職員の応援要請を依頼する。周囲の人に応援を頼み、速やかに施設の実習指導者の応援要請を頼み、専任教員に報告する。

(2)物品の破損・紛失に関する事故

①　学生は直ちに施設の実習指導者および専任教員に報告する。

②　専任教員は、実習部署の責任者と連携を取り、その場の状況に対処する。

(3)学生の身体に関する事故

①学生は実習期間中、健康保険証および保険会員の会員証を常に携帯する。

②学生は直ちに施設の実習指導者および専任教員に報告する。

③専任教員は実習部署の責任者と連絡を取り、その場の状況に対処し、必要時に応じて受診させる。

④針刺し事故が起こった場合は、実習施設の針刺し事故発生マニュアルに沿って迅速に対応することとし、実習部署の責任者の指示に従う。

(4)学生自身の移動時の事故

①実習施設への通学は、原則、公共交通機関を利用する。

②学生は直ちに実習部署の責任者および専任教員に報告（発生時間、事故内容、被害者および加害者について、その後の対応予測など）する。

③学生から連絡を受けた専任教員は適切に指示（救急車の手配、警察や家族への連絡など）を行う。

(5)臨地実習における個人情報の取扱い

個人情報については、法令の規定により、秘密を厳守し、第三者に提供してはならない。個人情報の取り扱いは、大学で定める「個人情報保護の方針」に従うほか、実習施設の個人情報に関する規則等にも従わなければならない。

基本事項については以下に述べる。

1　守秘義務

実習中に知り得た対象者のすべての情報は、第三者に漏洩してはならない。

※ 保健師助産師看護師法第４２条の２

「保健師、看護師又は准看護師は、正当な理由がなく、その業務上知り得た人の秘密を漏らしてはならない。保健師、看護師又は准看護師でなくなった後においても、同様とする。」

1）カルテの閲覧

① 臨地実習におけるカルテの閲覧は、受け持ち患者のみとする。

② 閲覧は担当教員の管理下で定められた場所で行う。

③ 電子カルテの閲覧は、必要時、師長、実習指導者の許可のもと行う。

2）個人ＩＤとパスワード管理

① 個人ＩＤとパスワードは、他人に教えたり、貸したりしない。

② 電子カルテの閲覧が終了したら必ず画面を終了する。

2　実習に関する記録物等の取り扱いについて責任を持つ。

1）実習記録の記載方法

すべての実習記録に関し、個人が特定できる内容は最小限にとどめるため、患者氏名は記載しない。年齢は何歳代と表記する。私物パソコンに個人情報を絶対に入力しない。

2）情報の管理

対象者の情報が入ったデータ、メモ用紙、レポートなどの紛失に注意する。記憶媒体であるＵＳＢメモリーやパソコンは必ずパスワード設定をすること。また、最新版のウイルス対策ソフトを入れておくこと。

臨地実習で知り得た実習施設や対象者の個人情報等については、守秘義務の観点から、行き帰りの電車をはじめとした、あらゆる場（ﾌﾞﾛｸﾞ等含）での発言に留意すること。

※個人情報の定義：患者氏名、住所、電話番号、メールアドレス、患者ＩＤなど単独および組み合わせで患者の個人を特定できるような情報（個人識別情報）を含む資料やデータファイルのこと。

尚、個人情報の流出・漏洩の恐れが発覚した場合は、速やかに下記の対策をとる。

①学生は直ちに施設の実習指導者および実習指導教員に報告する。

②実習指導教員は実習部署の責任者と連絡を取り、報告。各実習施設の個人情報流出・漏洩に関するマニュアルに沿って行動するため、指示のもとに対処する。

(6)保護者への連絡

事故の状況、内容によっては、保護者への報告が必要となる。原則として学生から報告することとなるが、学生が報告できない場合や専門的な説明が必要な時は、授業科目担当教員が補足する。

・実習委員会の設置

1．臨地実習調整会議の開催

実習前には、当該施設担当教員が中心となり、実習部署の所属長、学生の指導にあたる実習指導者等に説明会を開催（開始１ヵ月前）。下記について説明を行い、学生が十分に学べる環境を整える。

① カリキュラム全体の説明と当該実習の位置づけ、科目の履修状況

② 実習までの学習内容、学生のレディネス

③ 実習の目的・目標・到達目標、実習方法。実習目的に適した実習環境の提供、患者および対象者の選定について

④ 臨地実習同意書について

⑤ 実習学生の人数や配置の説明
⑥ 具体的な日々の実習方法についての調整（患者の情報に関する提供方法について、記録場所、報告方法、休憩場所等）
⑦ 学生カンファレンスの持ち方
⑧ 成績評価方法
⑨ 学生へのオリエンテーションの内容

２．臨地実習における教員の役割

① 臨地実習に関しては各看護学領域の責任者（教授・准教授）が、当該実習の指導計画に責任をもつ。
② 専任教員は、実習施設における実習前研修を企画・実施し、実習環境と対象特性を把握し、施設における看護実践能力の確保に努める。
③ 臨地実習を効果的に行うためには、専任教員と実習各部署との良いコミュニケーション関係が築かれていることも大きな要素となる。そのため、実習指導者、看護スタッフとのコミュニケーションを図り、施設と学校との関係も含め、良い関係の構築に努める。
④ 受け持ち患者の選定にあたっては、専任教員が実習指導者と調整し、学生のレディネス、看護実践能力、モチベーションなどを総合的に判断し選定。対象者にとっては不利が生じないよう、学生にとっては目標が到達できるよう指導にあたる。
⑤ 専任教員は学生の実習状況を把握し、実習目標の達成度を確認し、対象者へのケアと実習内容・実習記録についての助言・指導を行う。
⑥ 学生カンファレンスの参加し、適切な助言・指導を行い、学生の実習成果が高められるように関わる。
⑦ 巡回指導の場合は、専任教員が実習施設を定期的に巡回し、実習指導者と学生実習状況について情報交換を持ち、学生の実習内容の把握、実習目標の到達状況の確認を行い、実習記録の指導を行い、連携して目標が到達できるような体制をとる。
⑧ 学生の健康管理への助言・指導
⑨ 実習成績評価についての責任を持つ。

・学生へのオリエンテーションの内容、方法

実習前に、実習の手引き（資料 18）基づき、各領域別の専任教員がオリエンテーション（資料 17）を実施する。

・学生の実習参加基準・要件等

3 年次から始まる各領域別実習の条件は、基礎看護実習Ⅲの単位の取得である。看護師教育の技術項目の卒業時の到達度」は平成 20 年 2 月 8 日医政看発０２０８００１各都道府県衛生部(局) 長宛厚生労働省医務局看護課長通知）において、「助産師教育の技術項目の卒業時の到達度」及び「看護師教育の技術項目の卒業時の到達度が作成・通達された。本看護学科においてはその到達度に則り、看護師教育、助産師教育ともに、【レベルⅢ：学内演習でできる】項目は、学内でその到達度を評価することで、実習水準の確保を行う。また、【レベルⅡ：看護師教員の指導の下で実施できる】項目が実習目標に含まれる場合は、実習指導者と連携をはかりながら、実習担当教員の指導のもとに実施することとを原則とする。

カリキュラムにおいて医療安全の理解を深める内容を精選する。実習までに看護技術の学習を深めることを行い、到達度 80%以上の技術習得を目指して指導する。その上で臨地での実習に出ることを目安とする。質保証の到達水準は（資料１５）に示した通りである。実習において、学生が対象者に看護行為を実施する場合には、実習指導者の指導・監視のもとで実施することを原則として、質を維持することとする。学生は日々の行動計画をもとに、実習指導者、実習担当教員に看護行為の安全性についての事前指導を受け確認後、実施する。

オリエンテーションでは、看護学実習の意義と目的・目標を明確にし、実習に対する心構え、対象者の特徴を踏まえた留意点の確認、事前学習についての説明を行い、学生が実習目標を達成できるように指導し、実習前には実習室の開放による看護技術練習の促進、視聴覚教材による知識の定着化、チェックリストによる到達度チェックと補習授業を行うなど、実習水準確保に向けた取り組みを授業科目担当教員が中心となり行う。

・実習までの抗体検査、予防接種、損害賠償保険などの対策について

１．感染予防について

初年次から感染予防の基本的考え方、態度を指導する。実習においては、感染症のある患者は原則として受け持ち対象としないこととし、学生が感染しない、学生が感染源にならないよう対策を講じる（資料１１）。基礎看護学実習Ⅲ開始までに、感染症の抗体を得ていることを確認し、毎年インフルエンザの予防注射をうけることを実習の条件とする。

また、初年次教育としての健康支援において、日常生活におけるうがい・手洗いの励行、正しいマスクの着用方法、咳エチケット、適切な休養・栄養等について指導する。

学生は入学後の定期健康診断において胸部 X 線撮影（直接)、血液検査（血液一般・HB 抗原抗体等)、検尿、視力聴力、結核ｸｵﾝﾃｨﾌｪﾛﾝ検査、および小児感染性疾患（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の抗体価検査（ELISA 法）を受ける。小児感染性疾患抗体価検査結果が陰性・偽陽性の学生は全員ワクチン接種を行い、ワクチン接種証明書の提出を義務付ける。また、次年度の抗体検査を受ける。(資料１２）これらの検査結果は、学内で厳重保管する。尚、アレルギーなど

で予防注射が不可能な学生に関しては、その旨を把握し、臨地実習では易感染状態の対象者の受け持ちは行わないなど、学生が感染源にならないよう注意する。

２．保険の加入

学生には、入学と同時に自賠責保険への加入を義務付け、安心して実習に臨めるようにする。近年の医療の高度化、医療事故に対する国民の意識の高まりなどを背景に、学生であっても医療事故に対する責任を問われることがある。また、学生自身が事故の被害者となる危険もある。そのため、学生生活の２４時間対応の保険への加入を計画している。

対象範囲は

①傷害事故　学生自身のけが等の傷害事故（実習中も含む）

②賠償事故　他者への傷害、物品破損、他人の物品紛失等の事故

③実習中の感染事故　接触感染（針刺し事故含む）、院内感染など

④個人情報漏えい事故

イ．実習指導体制と方法

・各班のスケジュール

各実習施設に専任教員を配置し、常時、実習指導者と連携した学生指導体制とする。基礎看護学実習、統合実習、各領域別実習スケジュールは、資料 7－1、7－２参照。

・専任教員の配置と指導計画

実習施設における実習指導者の配置は、各実習病棟に 1 名の指導者を配置する。実習期間中、一貫性のある実習指導を行うことができるよう、可能な限り同一の実習指導者の継続を依頼し、実習指導者間および実習指導者と専任教員間の効果的な連携のもとに実習指導を行えるように計画する。

実習指導体制は、各領域の専任教員の責任指導のもとに行う。開学初年度に実施される「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ」は、就任している教員が領域にとらわれず指導にあたり、初めての臨地実習において、学生が不安なく実習を経験できるような体制を計画している（資料 18 参照）。「成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ」「老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ」「精神看護学実習」「母性看護学実習」「小児看護学実習」は、原則として各領域の教員が実習を担当する。

「在宅看護学実習」の訪問看護ステーションでの訪問実習に関しては、巡回型の実習指導とする。訪問看護ステーション、地域包括支援センター等の実習においては、専任教員が１回以上の巡回指導を行い、学生指導や報告会、カンファレンスに参加する。

この場合においては、実習の進捗状況や学生の実習目標の到達状況、学習上の課題等について

綿密な報告・連絡など調整を行う。

４年次の統合実習Ⅰ・Ⅱにおいては、看護の学習を統合することを目標としている。そのため、多くの医療機関において看護実践を展開する予定であることから、実習担当教員は各看護学領域の専任教員を配置することとする。（資料１３参照）。

・各段階における学生のフィードバック、アドバイスの方法

実習中、必要に応じて学内での個別あるいは集団指導を実施する。実習終了後は、学習のまとめを行う。日々の実習計画に関しては、終了時の実習指導者のアドバイスなどを参考に翌日の実習内容について担当教員と調整を行う。臨地実習においては、対象者の状態変化などに関しては、担当教員が情報収集を行い、速やかに学生に情報提供し、実習目標達成に向けた支援を行う。また、今後の治療経過、予後などに関する情報も実習指導者から得られるようコミュニケーションをよくする。

実習では対象者とのコミュニケーション、看護実践を一緒に行い、また場面を観察することから、個々の学生の実習遂行上の問題点について判断し、学生の能力に合わせた対象者の選択なども実習指導者と調整する。また、振り返りなどの場面で具体的な助言・指導を行い、学生がスモールステップで一つ一つできることを積み上げていけるように肯定的な助言を行う。

実習施設では、実習指導開始初日には、当該施設の責任または実習指導者より、オリエンテーションを受ける時間を設定する。対象者への挨拶には担当教員も同席する。

担当教員は学生個々の実習計画を把握し、実習指導者とも情報交換・連携を密にとるよう努める。学生が計画した看護実践については、実習指導者が中心となって直接指導援助を行う。

実習では１週間に１度１時間程度のカンファレンスを開催し、実習施設責任者または実習指導者にも参加してもらう。カンファレンスでは、学生個々の看護実践経験と学びを言語化し、学びの共有化を図り、施設責任者または実習指導者の助言及び指導により、実習課題達成に向けた学習を促進する機会とする。

実習評価は、担当教員より個々の学生に実習評価をフィードバックし、学生の成長や今後の課題を明確化する。継続的な学習が必要な学生に対しては学習機会を与え、到達度の向上を図る。

・学生の実習中実習後のレポート作成提出について

臨地実習での学びと知識の定着を促進する方法としてレポートの作成、提出が効果的であると判断されるものに関してはレポート作成を行う。但し、レポート作成により、臨地実習に負担がかからないようにすることがレポート作成の原則となる。そのため、学生にどのような内容をレポート提出させる必要があるかに関しては、臨地実習指導者会議で事前に調整を行い、必要なものは各領域の事前学習で学習するものとする。また、臨地実習施設の実習指導者が、直接学生個人に課題レポートを出すことは行わないことを原則とする。

ウ．大学と実習施設との連携体制と方法

・実習前・実習中、実習後等における調整・連携の具体的方法

１．実習中における指導計画

実習指導開始初日には、当該施設の責任または実習指導者より、オリエンテーションを受ける時間を設定する。患者および対象者への挨拶には担当教員も必ず同席する。担当教員は学生個々の実習計画を把握し、実習指導者とも情報交換・連携を密にとるよう努める。学生が計画した看護実践については、実習指導者が中心となって直接指導援助を行う。

実習では１週間に１度１時間程度のカンファレンスを開催し、施設責任者または実習指導者にも参加してもらう。カンファレンスでは、学生個々の看護実践経験と学びを言語化し、学びの共有化を図り、施設責任者または実習指導者の助言及び指導により、実習課題達成に向けた学習を促進する機会とする。

２．実習後の連携

実習後は、実習の目的、目標の達成状況、指導方法や連携状況について評価、協議する実習前・実習中の問題点や指導方法についての意見交換を行い、実習指導に関わる問題解決のための提案や工夫について検討し、改善部分を共通理解することにより、常に実習における教育の質保証を図ることとする。

実習終了後には年に一度、実習施設と本学との間で連絡会を開催し、年度内の行った実習の評価と次年度の実習計画に向けた協議を行う。

・大学としての実習の質の確保に関する配慮方法

実習施設確保の段階において、「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告」（平成 23 年 3 月 11 日）に基づき、大学看護学科の臨地実習施設としてふさわしいと判断した施設に、臨地実習を依頼している。特に、国立病院機構や公立病院においては、すでに実習指導者により学生への実習指導が行われている。実習前には、各学校の実習目的やカリキュラムが異なることを十分に説明し、会議で調整を行い、了解のもとに実習を進める。

老年看護学実習を行う施設の中には、大学側と協力し、実習指導者を育成したいとの要望もある。本学の専任教員は、旧厚生労働省看護研修研究センターを終了した者が多く、臨地実習指導に関する教育を学んできている。実習開始前に施設側と調整し、必要時は専任教員が臨地研修を体験するとともに、臨地実習指導についての研修を計画し、実施、指導能力の水準を確保する方針をとる。

原則として臨地での実習指導力の向上を図るために、実習施設側の実習指導者と大学教員による合同の実習指導研修会を企画し開催する。実習施設における看護および教育水準の確保と教育方法の改善・充実のために、テーマの設定や年間活動計画を作成し、すべて

の実習施設の協力のもとに年１回以上の開催を目途とし、相互に研鑽を深める。

・緊急時の連絡体制

資料１０「看護学科　事故発生時の報告」に基づき対処

エ・実習成績評価に関する評価体制・単位認定方法

１．各施設の指導者と大学側の指導者との評価方法・連携

実習の評価は、実習担当教員の責任のもとに実習指導者と協議し、総合的に評価を行うこととする。実習評価は、臨地での日々の実践状況、実習記録の内容、実習後レポート等をもとに、実習目的・目標と照らし、その到達度を評価する。

２．大学における単位認定方法等

大学においては、学則に定められているとおり、最終的な単位認定は教授会の議を経て学長が行う。

評価については評価表を用い、教員は学生と共に、学生の今後の発展的な学びの保証ができる評価を行う。

成績評価は、科目ごとに 100 点を持って満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする。成績段階については、Ｓ（100 点～90 点以上）、Ａ（80 点以上～90 点未満）、Ｂ（70 点以上～80 点未満）、Ｃ（60 点以上～70 点未満）、Ｄ（60 点未満）

十一　管理運営

１　管理運営体制の概要

本学の管理運営の体制としては、学長が教学に関する重要な意思決定を行うにあたり、法人と大学との意思疎通を図り、かつ、教授会で審議する事項について意見を交わすことを目的に、大学運営協議会を設置している。また、学則第 52 条に基づき教授会を設置している。

各種委員会は、教授会のもとに、専門の事項について調査検討などをするため教務、学生生活、入学試験、就職、自己点検・評価等に関する委員会を設置している。

２　管理運営組織

（１）大学運営協議会

運営協議会は、学長が教学に関する重要な意思決定を行うにあたり、法人と大学との意思疎通を図り、かつ、教授会で審議する事項について意見を交わすことを目的としており、理事長、学長、学部長、学科長、教務部長、学生部長、入試センター長、キャリアセンター長、事務局長で構成している。

運営協議会は、学長（議長）が招集して開催し、次の事項について学長の求めに応じて意見を述べるものとする。

①大学の運営に関する重要事項

②教育及び研究に関する重要事項

③大学の予算に関する重要事項

④教員の人事に関する事項

⑤大学の規則等の制定及び改廃に関する事項

⑥その他学長が意見を求めることが必要と判断した事項

（２）教授会

教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとするための機関として、学長が議長となって教授、准教授及び講師で構成する。

開催は、月１回を定例とし、学長が必要に応じて臨時会を開催する。

①学生の入学、卒業及び課程の修了

②学位の授与

③前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

（３）各種委員会

各種委員会としては、教務全般について審議する「教務委員会」、学生の課外活動・福利厚生・健康管理・国家試験の支援等について審議する「学生委員会」、入学者の選考・入試広報等について審議する「入学試験委員会」、学生のキャリア形成及び就職支援等について審議する「キャリア支援委員会」、自己点検・評価の実施・公表等について審議する「自己点検・評価委員会」、教員の教授内容・方法の改善等について審議する「ＦＤ・ＳＤ委員会」、研究にかかわる計画書等の審査・研究倫理のあり方等について審議する「研究倫理委員会」を設置する。

十二　自己点検・評価

１　目的

本学の教育研究活動等について、学則第 2 条の規定に基づき自己点検・評価を実施する。自己点検・評価は、全教職員の共通理解のもとに、自己点検・評価委員会が定めた点検・評価の項目にしたがって、その実施状況等を自ら点検し、目標達成度等について評価を行う。その結果は、次の目標に反映させるなどして教育研究水準の向上や適正な管理運営に活用する。

２　実施体制

自己点検・評価の方針の策定及び自己点検・評価の実施等に関する業務を行う体制として、「東京医療学院大学自己点検・評価委員会」を設置する。委員会は、学長が指名する教員及び事務職員をもって構成し、委員長は学長が指名する。

３　実施事項

自己点検・評価委員会は、点検・評価担当者を選定し、下記事項を実施する。

①現状把握のための調査、データの収集と分析

②自己点検・評価報告書案の作成

③自己点検・評価の結果の活用及び結果に基づく業務改善に関する事項

④その他前各項に関連する事項及び委員長が必要と認める事項

４　結果の公表・活用

評価結果については、項目ごとに整理してホームページにより公表する。また、評価結果は、関係部署にフィードバックし、優れた点は更に上位の目標を、改善を要する点は対応策や改善策を策定させるなどして、大学の全教職員に評価に関する意識を高めさせるとともに、次の中期目標及び年度目標に反映させることにより教育研究水準の向上や適正な管理運営に活用する。

５　評価項目

自己点検・評価に関する項目としては、以下のものとする。

①大学の使命・目的及び教育目的に関する項目

②学生の受け入れに関する項目

③教育課程、教授方法に関する項目

④学修評価に関する項目

⑤学生への支援に関する項目

⑥教員の配置・機能開発に関する項目

⑦教育環境に関する項目

⑧経営・管理と財務に関する項目

⑨自己点検・評価と改善・改革のための方策及び将来展望に関する項目

⑩その他委員会が必要と認めた項目

６　認証評価

本学は、平成２８年７月頃に、日本高等教育評価機構に評価申込みを予定しており、平成２９年９月末から１１月末を目途に実地調査を行う予定である。

十三　情報の公表

１　公表の考え方

本学は、公的な教育機関として社会に対する説明責任を果たすとともに、本学の状況を多くの人々が知り、興味や関心をもっていただくことにより、教育研究等の質の向上が図られることを目的に、建学の精神、教育理念、本学の教育研究活動等に関する情報を公表する。これらの情報は、本学のホームページ、大学の刊行物（大学の概要、入試案内等）で公表している。

２　公表内容

情報の公表内容としては、次のようなものを予定している。

（１）建学の精神及び教育理念に関すること

（２）大学の教育研究上の目的（学部・学科の目的）に関すること

（３）教育研究上の基本組織（学部・学科・専攻組織）に関すること

（４）教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

（５）入学者に関する受入方針（アドミッションポリシー）及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

（６）授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること

（７）学修の成果に係る評価、卒業又は修了の認定に当たっての基準及び卒業認定に伴って取得する資格（国家試験受験資格）に関すること。

（８）校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

（９）授業料、入学料その他の費用（教科書代等）に関すること

（１０）大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。

（１１）その他、学則、設置認可申請書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、評価機関による認証評価の結果に関する事項

（１２）地域貢献に関すること

十四　教育内容等の改善を図るための組織的な取組

１　基本方針

本学においては、教育の質的向上を図るために組織的に取り組む活動としてＦＤ委員会を置いている。看護学科においても、教育の発展・向上に資することを目的として同様に実施する。

２　実施内容

現在、ＦＤ委員会にて実施されている内容は

① ＦＤ推進のための企画および実施に関すること
② ＦＤに関する報告書に関すること
③ ＦＤに関する調査・研究に関すること
④ 教育内容及び教育環境に関すること
⑤ 教育技法の改善・向上のための具体的活動に関すること
⑥ 学生による授業評価の実施・結果公表と授業改善に関すること
⑦ 教育職員の資質開発を図るための組織的な研修に関すること

看護学科も本学ＦＤ委員会規程に則り、ＦＤ活動や職員のＳＤ活動を実施する。

３　看護学科におけるＦＤ活動

本学教員の経歴を見ると、大学において教育実践を行った教員、臨床現場で教育実践を行った教員、専門学校において教育実践を行った教員と多岐にわたる。その中で、約半数が旧厚生労働省看護研修研究センターにおいて看護学教育について学んだ教員であり、さらに数人は幹部看護教員養成課程を修了した教員である。また、その中でも教育学修士の学位を有している教員も存在する。これらの教員は、看護教育課程開発や看護研究方法論、教育方法論、教育評価論などを習得している。看護学科内部でのＦＤ活動として、これらの教員の力を活用し教員相互間での研修や相互刺激を行うことが可能である。今後、看護学科のみならず学内全体のＦＤ文化の醸成・発展に寄与することも可能であると考える。

看護学科のＦＤ活動は日常的な教育活動を前提にして、自律的な教育実践者として専任教員が協働しながら、ＦＤの組織化を図りたい。ＦＤの組織化にあたっては伝達講習的な研修の形態のみならず、相互学習としての仲間同士が相互研修を行いながら、成員の力量の自己組織化を目指したい。

※助手のＦＤプログラムについて

本学の建学の精神を踏まえ、看護学科が掲げる教育目的や実習における教育目標達成を実現するために、大学の教育活動の補助ができるようにＦＤプログラムを初年次から、企画運営する。

助手のＦＤプログラムの内容は、大学教育に関する理解を深め、大学教育に相応しい学生対応ができるようにすることが趣旨であることから、「大学の使命」「看護学科の教育理念、教育目的・目標」「本学科が考える教育方法」等を理解できるように丁寧に説明するプログラムとする。また、大学が主催する公開授業、講演会等を設けること、担当する領域の学会や、それらへの参加を義務づけ、大学教育について、広く、かつ理解が深まるようにする。年間の実習スケジュールにおいて、実習がない期間に専任教員と懇談する機会を設け、専任教員に質問したり、話が聞けるような機会を設ける方法も取り入れることとする。講義や演習等への参加にあたっては、大学教育における授業の目的、目標、内容の説明と共に、大学における教育方法の考え方を具体的に考えられるように、説明だけではなく、具体例を挙げるなどの方法をとる。

FD プログラム開始時には、助手の教育上の能力や臨地実習指導の経験を把握する内容とする。助手のニーズの把握は、大学教育に関することについて、必要時取り入れることとする。　（資料２２）

4　学位取得のための研究支援に関わる方策

大学の教員として、教育研究の質を維持するために、「博士」の学位を有すること、すなわち、研究者として十分な能力をもつことの意味について、個々の教員が十分に認識することが重要である。そのため、大学全体として、教員相互にその認識を共有し、下記１～７について、相互に協力しあう組織的な体制となるように、学長、学部長、学科長のリーダーシップの下に組織的に取り組む。

１．各教員の実習担当科目や時間割において、研究時間を考慮して、偏った配置にならないように配慮すること。

２．研究日が確実に取れるようにする。そのために、研究日は（半日×２）という取得の方法も含め、実習指導等のために研究日の取得が困難な場合は、実習期間外に代替取得できるようにする。また、研究計画に応じて、研究日がとれるように配慮する。

３．博士課程在学中の教員に対しては、研究活動が円滑に進むように、以下の配慮をする。

①博士の学位保有者による研究への助言等を行える環境作りとして、看護学科の FD プロジェクトチームにおいて、「博士の学位保有者による研究への助言」について周知し、教員就任時から双方の教員が相談・助言がしやすいようにする。

②研究のデータ収集や論文作成段階には、それに専念できるよう、学内の委員会活動等の軽減等の配慮をする。

4．上記以外の他の教員においても、博士課程への進学や研究論文の作成への意欲がもてるように、研究助成金等に関する定期的な情報提供と応募の勧奨及び上記３-①と同様に博士の学位保有者との間で相談・助言がしやすいようにする。

5．研究紀要への投稿についても就任時から積極的に推奨する。

6．博士課程に在籍している教員が、学会発表等がある場合は、代替日を設定するなど支援体制をとることとする。

7．本学における教員の研究費については、「一般研究費（本学が専任教員に配分する教育研究費）」、及び「特定研究費」（学長の裁量により支出することができる教育研究費）の支給がある。この特定研究費の種目は、「個人研究」「共同研究」及び「若手研究」であり、規程に基づいて運用されている。したがって、博士の学位を取ろうとする専任教員には、これら特定研究費への応募を積極的に行うように、教員就任時から周知し、各領域の教員との相談、指導、相互協力・研究活動の支援を行う。

5　看護学科におけるＩＲ活動

看護学科にＩＲ活動のための担当を置き、学生の学びの質の担保に向けた取り組みを行う。

① ＦＤ活動の分析・評価

② 学生の学びの質保証分析

・入学者状況分析

（志願者状況・入学前の学生の状況分析）

・学生による授業評価の分析

・入学前の履修履歴・入学試験結果・入学後の成績の縦断的分析

・学生のリテンション率向上の要因分析

・学生の大学充実度調査（２年毎）

・就職先の教育担当者からの教育評価（卒業後１年３年５年の縦断的調査）

・看護師国家試験及び助産師国家試験合格率から見た分析

・学内外における大学改革情報収集・分析・共有

・文部科学省大学政策情報収集・共有

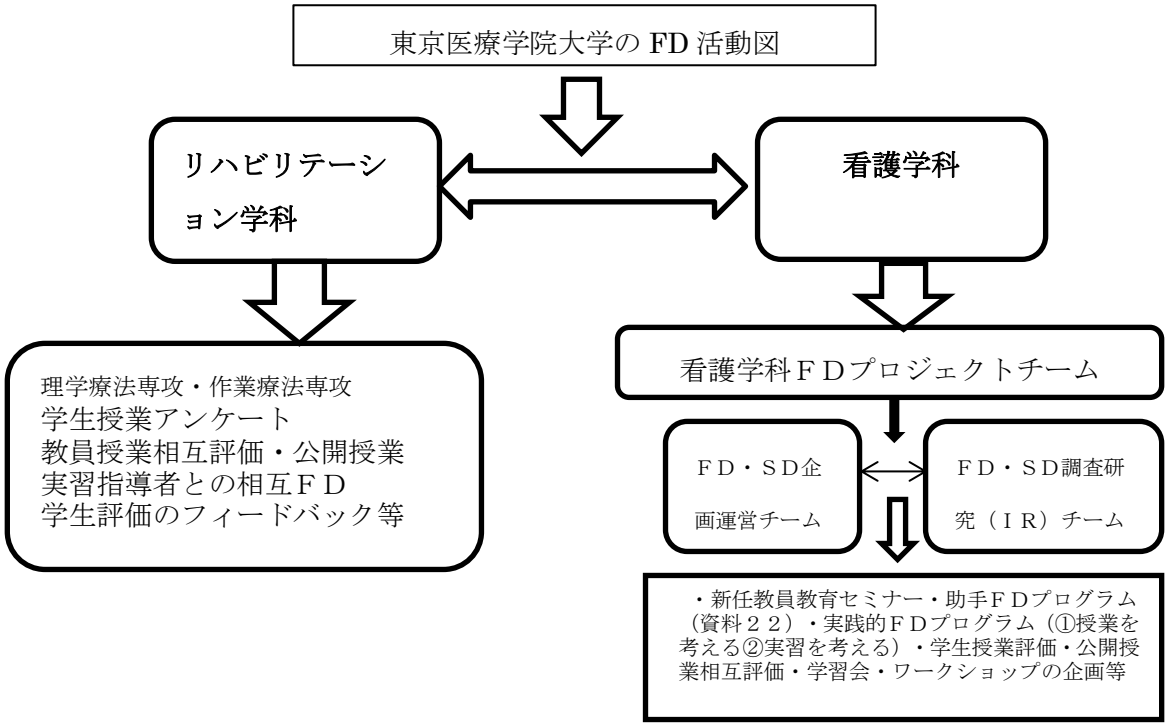
・看護学教育評価研究

③ ＩＲ活動の情報開示

なお、看護学科においては全学的なＦＤ活動の実施とあわせて、下部組織としての看護学科ＦＤプロジェクトチームを置き、さらにＦＤ・ＳＤ企画運営チーム・ＦＤ・ＳＤ調査研究

（ＩＲ）チームを設けた。

以下に東京医療学院大学のＦＤ活動図を示す。



十五　社会的・職業的自立に関する指導等および体制

ア　教育課程内の取組について

教育課程に「専門職性の発展の基盤」領域の科目を配置する、ねらいは「看護の専門職性の発展の基盤は、看護職が専門職であることの理解と自ら専門職者としての価値観の形成、社会の変革の中で、看護の役割、責務を自覚し、生涯に亘って成長発展する人材の基盤を形成することを目的としている。そのため、この領域では、学生自身が考え、自ら深め、発展できることを中心に据える。また、学生相互の交流、多様な考え方を持つ教員に触発され、多様な世界観や価値観に触れ、考えられるように、「演習」科目として設定する。」である。学生の演習グループの編成は、毎年編成替えをし、担当教員も 変わるように配置している。各科目の概要は以下のとおりである。

① 専門職の世界

「専門職」と言われる職業、それに携わっている人々の考え方、活動、世界観、価値観、人間観（他者との関係）、倫理観（専門職倫理）、職業観を概観しながら、学び、「専門職の世界」がどのような世界かを知る。 vocation, occupation, profession, calling 各々の意味およびボランティアとの相違についても考える。同業他者との交流や他領域との交流や社会における看護職への期待も考察する。一年次の演習科目である。

② セルフディブロップメント

人間の多様性の理解と個人の尊厳（考え方、心理的状態、身体的相違、文化、言語、生活様式、価値観）、自己と他者、関係性、アイデンティティ、人間としての成長（考え方の発展、経験の蓄積、健康維持・増進）を概観し自己省察と自己の成長発展を考える。看護の専門職性の発展の基盤となる科目であり、「専門職の世界」と共に、１年次の演習科目である。

③ キャリアディブロップメント

看護職としてのキャリアの多様性とキャリアデザイン（内的キャリアー外的キャリア）、職業的アイデンティティ、職業の社会的位置づけ等、看護専門職としての発展を多角的に考える。２年次の演習科目である。

④ 医療チーム内のマネジメント

看護ケアの特徴（ケアにおける個人的関わりと組織的関わり≪コミュニケーションの質≫）、看護チームの構成（「新人、中堅、ベテラン」、「プリセプター、リーダー、管理的責任者」）調整の必要性、看護チームにおける協働のマネジメントから看護の質について考える。３年次の演習科目である。

⑤ 医療以外の多職種との交流と発展

看護の発展に必要な他職種との交流や共同とネットワークについて考える。４年次での演習科目であり、１年次、２年次、３年次の学習が進むにしたがって漸次積み上げた最後の学習となる。

⑥ キャリアマネジメント論

「キャリアディベロップメント」で理解した「キャリア」の意味を、さらに「教育と学習の機会（卒後教育、継続教育）」、「雇用－報酬－昇進」などについて考察を深め、看護の専門職としてのキャリアを「マネジメント」することについての理解を深める。4 年次の演習（選択科目）である。

「専門職性の発展の基盤」領域の科目については、全教員が関わるというところが大きな特徴である。学生との相互関係の中で、学生同様専任教員もまた専門職性の発展と自立の学びが深化

するという二重構造になっている。

イ　教育課程外の取組について

① 入学前教育・初年次教育

入学前にプレ入学説明会を実施し、大学生になる覚悟や看護を学び助産師や看護師になる動機づけを行う。また、１年次支援としての初年次教育を行い、大学での学びについて自覚し４年間のスタートをきる。

② 学生サポートアドバイザー制（オフィスアワーの活用）

１人の教員が１０人の学生を受け持ち対応する。個別の相談に応じる体制をとる。学生と教員の相互関係の中で成長していく効果がある。

ウ　適切な体制の整備について

本学にはキャリアセンターがあり、連携を密に持ちながら、就職活動支援を行う。また、実習施設の看護部の協力を得て、早期にキャリアガイダンスを実施する。また、キャリアセンターでは、就職先となる保健医療機関の情報提供を行うとともに就職に関するきめ細かな就職相談にも応じる。

【資料目次】（設置の趣旨等を記載した書類）

資料 1　学校法人常陽学園の沿革
資料 2　履修モデル、時間割
資料 3　教育課程と指定規則との対比表
資料 4　学術雑誌一覧
資料 5　教育上必要な機械器具・標本模型一覧
資料 6　実習依頼施設一覧表
資料 7　完成年次実習計画・臨地実習週間計画・教員別時間割
資料 8　実習指導体制
資料 9　臨地実習同意書
資料 10　事故発生時の報告
資料 11　体調管理自己チェックフローチャート
資料 12　小児感染性疾患（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）
抗体価対応フローチャート
資料 13　各実習別担当教員配置計画および職位別配置人数（１回生）
資料 14　臨地実習に関する協定書
資料 15　求められる実践能力と卒業時の到達目標
資料 16　インシデントレポート
資料 17　看護学実習の概要（全体オリエンテーション内容）
資料 18　臨地実習の手引き（１回生）
資料 19　実習施設ごと分娩数等
資料 20　多摩市長　要望書
資料 21　実習における専任教員・助手・実習指導者の役割分担
資料 22　ＦＤ年間計画
資料 23　実習指導・授業等カレンダー
資料 24　看護学科実習への協力支援について

資料１

学校法人常陽学園の沿革

昭和２５年　４月	平川荘作、東京都中央区八丁堀に、あん摩マッサージ指圧師を養成する「東京マッサージ師養成所」を創設。
昭和４２年　９月	「東京マッサージ師養成所」を各種学校「東京マッサージ師学校」に改組。
昭和５２年　４月	「東京マッサージ師学校」を各種学校から専修学校に改組。
昭和５４年　４月	「はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧科」を増設し、学校名を「東京鍼灸マッサージ学校」と改称。
昭和５６年　４月	「東京鍼灸マッサージ学校」に専門課程を設置。
昭和５８年　４月	学校名を「東京鍼灸マッサージ専門学校」に改称。
平成　元年　４月	学校名を「東京医療福祉専門学校」に改称。
平成　４年１１月	「学校法人常陽学園」を設立。
平成　９年　４月	「理学療法学科（夜間部）」及び「作業療法学科（昼間部）」を増設。
平成１２年　４月	「はり・きゅう科（昼間部・夜間部）」を増設。
平成１４年　４月	「理学療法学科（夜間部）」に「理学療法学科（昼間部）」を、「作業療法学科（昼間部）」に「作業療法学科（夜間部）」を増設し、東京医療福祉専門学校から分離・独立した専門学校東京医療学院を設立。
平成１９年　４月	東京医療福祉専門学校に「鍼灸マッサージ教員養成科」を増設。
平成２２年　４月	東京医療福祉専門学校に「柔道整復科」を増設。
平成２４年　４月	東京都多摩市落合に、理学療法士、作業療法士を養成する「東京医療学院大学」を設置。

看護学科（助産師）履修モデル

資料2

区分		1年次(授業科目名：単位)		2年次（授業科目名：単位）		3年次（授業科目名：単位）		4年次（授業科目名：単位）	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養分野	ものの見方考え方	哲学　2	科学と技術　1			●情報活用演習　1			
		身体論　1		歴史学　1		●生命倫理　1			
				倫理学　1					
				情報と人間　1					
	生活と文化		文化と健康　1			●家族と社会　1			●芸術論　1
			●東京の中の多摩を知るセミナー　1						
					●法と人権　1				
	人間と環境	●生物と進化　1	生命科学　1						●環境科学　1
		●物理学　1							
	グローバルコミュニケーション	コミュニケーション論　1	日本語表現　1						
		英語Ⅰ（読む・書く基礎Ⅰ）　1	英語Ⅱ（読む・書く基礎Ⅱ）　1	英語Ⅲ（医療英語）　1	英語Ⅳ（日常会話）　1	●英語Ⅴ（英語論文読解）　1		●異文化体験セミナー　1	
	大学における学び	学習と教育　1				●問題解決技法　1			
		●スタディスキルセミナー　1							
専門基礎分野	専門基礎科目	形態機能学Ⅰ　1		臨床薬理学　1					
		形態機能学Ⅱ　1	形態機能学Ⅲ　1	診断・治療学Ⅰ　2					
		生化学（栄養学含）　1	形態機能学Ⅳ　1	診断・治療学Ⅱ　2	診断・治療学Ⅲ　2	臨床心理学　1			
			病理学　1	医療と法　1	社会保障論　1				
			感染免疫学　2						
			生涯発達論　2			チーム医療論　1			
専門分野	看護の専門職性の発展の基盤	専門職の世界　1			キャリアディプロップメント1	医療チーム内のマネジメント1		医療以外の多職種との交流と発展　1	
		セルフディプロップメント　1							
	看護実践の基盤 基礎看護学	基礎看護学概論　1	基礎看護学方法論Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）1	基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開）1					
		看護学援助論　1	基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術）1		基礎看護学実習Ⅲ　2				
		看護学技術論　1	基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開）1						
		基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術）1	基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）1						
		基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）1	基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）1						
		基礎看護学実習Ⅰ　1							
		基礎看護学実習Ⅱ　1							
	成人看護学			成人看護学概論　1	成人看護学方法論Ⅲ　1				
				成人看護学方法論Ⅰ　1	成人看護学方法論Ⅳ　1	←――	成人看護学実習Ⅰ　3 ―→		
				成人看護学方法論Ⅱ　1	成人看護学演習　1	←――	成人看護学実習Ⅱ　3 ―→		
	老年看護学			老年看護学概論　1	老年看護学方法論　1				
				老年看護学援助論　1	老年看護学演習　1	←――	老年看護学実習Ⅰ　2 ―→		
						←――	老年看護学実習Ⅱ　2 ―→		

看護学科（助産師）履修モデル

資料2

区分			1年次(授業科目名：単位) 前期	1年次(授業科目名：単位) 後期	2年次（授業科目名：単位） 前期	2年次（授業科目名：単位） 後期	3年次（授業科目名：単位） 前期	3年次（授業科目名：単位） 後期	4年次（授業科目名：単位） 前期	4年次（授業科目名：単位） 後期
専門分野	看護実践の基盤	小児看護学			小児看護学概論 1	小児看護学方法論Ⅱ 1	←	小児看護学実習 2 →		
					小児看護学方法論Ⅰ 1	小児看護学演習 1				
		母性看護学			母性看護学概論 1	母性看護学演習 1	←	母性看護学実習 2 →		
					母性看護学方法論Ⅰ 1					
					母性看護学方法論Ⅱ 1					
		精神看護学			精神看護学概論 1	精神看護学援助論 2	←	精神看護学実習 2 →		
						精神看護学演習 1				
		在宅看護学					在宅看護学概論 1			
							在宅看護学方法論 2			
							在宅看護学演習 1			
							←	在宅看護学実習 2 →		
		統合看護学					医療安全論 1			
							公衆衛生看護学概論 1			
										統合実習Ⅰ 1
										統合実習Ⅱ 2
		助産学					助産学概論１（看護師専門選択併用）			
							基礎助産学Ⅰ２（看護師専門選択併用）			
							基礎助産学Ⅱ 2			
							健康教育技法 1			
							助産診断・技術学概論 1			
							助産診断・技術学方法論 1			
							助産診断・技術学演習Ⅰ 2 →			
							助産管理学 1			
								助産診断・技術学演習Ⅱ 1		
								地域母子保健学 1	助産学実習 1 1 →	
								助産診断・技術学演習Ⅲ 1		
		看護の探究の基盤	看護の探究Ⅰ 1						看護の探究Ⅸ（助産学領域研究） 5 →	
履修科目計			22(3)	18 (1)	22	19 (1)	30(5＋3(※助産3単位重複))	12	22 (1)	5 (2)
卒業要件			150単位以上（助産学3単位を専門分野選択に当てる）							

●は選択科目

(　　)は履修科目中選択科目単位数

看護学科（看護師）履修モデル

資料2

区分		1年次(授業科目名：単位)		2年次（授業科目名：単位）		3年次（授業科目名：単位）		4年次（授業科目名：単位）	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養分野	ものの見方考え	哲学 2	科学と技術 1			●情報活用演習 1			
		身体論 1		歴史学 1		●生命倫理 1			
				倫理学 1					
				情報と人間 1					
	生活と文化		文化と健康 1			●家族と社会 1			●芸術論 1
			●東京の中の多摩を知るセミナー 1						
					●法と人権 1				
	人間と環境	●生物と進化 1	生命科学 1						●環境科学 1
		●物理学 1							
	グローバルコミュニケーション	コミュニケーション論 1	日本語表現 1						
		英語Ⅰ（読む・書く基礎Ⅰ） 1	英語Ⅱ（読む・書く基礎Ⅱ） 1	英語Ⅲ（医療英語） 1	英語Ⅳ（日常会話） 1	●英語Ⅴ（英語論文読解） 1		●異文化体験セミナー 1	
	大学における学び	学習と教育 1				●問題解決技法 1			
		●スタディスキルセミナー 1							
専門基礎分野	専門基礎科目	形態機能学Ⅰ 1		臨床薬理学 1					
		形態機能学Ⅱ 1	形態機能学Ⅲ 1	診断・治療学Ⅰ 2					
		生化学（栄養学含） 1	形態機能学Ⅳ 1	診断・治療学Ⅱ 2	診断・治療学Ⅲ 2	臨床心理学 1			
			病理学 1	医療と法 1	社会保障論 1	●保健統計学 1			
			感染免疫学 2						
			生涯発達論 2			チーム医療論 1			
専門分野	看護の専門職性の発展の基盤	専門職の世界 1			キャリアディプロップメント1	医療チーム内のマネジメント1		医療以外の多職種との交流と発展 1	
		セルフディプロップメント 1						●キャリアマネジメント論 1	
	看護実践の基盤 基礎看護学	基礎看護学概論 1	基礎看護学方法論Ⅱ（ｱｾｽﾒﾝﾄ） 1	基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開） 1					
		看護学援助論 1	基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術） 1		基礎看護学実習Ⅲ 2				
		看護学技術論 1	基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開） 1						
		基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術） 1	基礎看護学演習Ⅱ（ｱｾｽﾒﾝﾄ） 1						
		基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術） 1	基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術） 1						
		基礎看護学実習Ⅰ 1							
		基礎看護学実習Ⅱ 1							
	成人看護学			成人看護学概論 1	成人看護学方法論Ⅲ 1				
				成人看護学方法論Ⅰ 1	成人看護学方法論Ⅳ 1	←	成人看護学実習Ⅰ 3 →		
				成人看護学方法論Ⅱ 1	成人看護学演習 1	←	成人看護学実習Ⅱ 3 →		
	老年看護学			老年看護学概論 1	老年看護学方法論 1				
				老年看護学援助論 1	老年看護学演習 1	←	老年看護学実習Ⅰ 2 →		
						←	老年看護学実習Ⅱ 2 →		

看護学科（看護師）履修モデル

資料2

区分			1年次(授業科目名：単位)		2年次（授業科目名：単位）		3年次（授業科目名：単位）		4年次（授業科目名：単位）	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門分野	看護実践の基盤	小児看護学			小児看護学概論 1	小児看護学方法論Ⅱ 1				
					小児看護学方法論Ⅰ 1	小児看護学演習 1	←	小児看護学実習 2	→	
		母性看護学			母性看護学概論 1	母性看護学演習 1	←	母性看護学実習 2	→	
					母性看護学方法論Ⅰ 1					
					母性看護学方法論Ⅱ 1					
		精神看護学			精神看護学概論 1	精神看護学援助論 2				
						精神看護学演習 1	←	精神看護学実習 2	→	
		在宅看護学					在宅看護学概論 1			
							在宅看護学方法論 2			
							在宅看護学演習 1			
							←	在宅看護学実習 2	→	
		統合看護学					医療安全論 1			●看護倫理学 1
							公衆衛生看護学概論 1			
										統合実習Ⅰ 1
										統合実習Ⅱ 2
		助産学								
	看護の探究の基盤		看護の探究Ⅰ 1							
									看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究） 5	→
履修科目計			22 (3)	18 (1)	22	19 (1)	20(6)	9	12 (2)	6 (3)
卒業要件			128単位以上							

●は選択科目

(　　)は履修科目中選択科目単位数

平成28年度　看護学科　時間割(1年次)　　資料2

前期　　●:選択科目

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30	哲学 (榊原) W-302	●生物と進化 (福井) W-302	基礎看護学方法論Ⅰ (武田ほか)W-106		専門職の世界 (和賀ほか) W-302	
			看護学技術論 (川守田)W-107	基礎看護学概論 (三輪) W-106		
2 10:40 ～ 12:10	形態機能学Ⅰ (本田) W-302	看護の探究Ⅰ (和賀)W-106	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論 (鈴木み)W-107	形態機能学Ⅱ (本田)W-302	学習と教育 (浅田) W-302	
			看護の探究Ⅰ (和賀)W-106			
3 13:10 ～ 14:40	生化学 (高橋) W-302	●物理学 (吉岡)W-302	看護学技術論 (川守田)W-107	ｾﾙﾌﾃﾞｨﾌﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ (関川ほか)W-302	基礎看護学演習Ⅰ (三輪ほか)W-309	
			ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論 (鈴木み)W-106			
4 14:50 ～ 16:20	身体論 (菊地) W-302	基礎看護学概論 (三輪) W-106		看護学援助論 (分島)W-107	●ｽﾀﾃﾞｨｽｷﾙｾﾐﾅｰ (和賀ほか)W-302	
		看護学援助論 (分島)W-107	基礎看護学方法論Ⅰ (武田ほか)W-106	英語Ⅰ (河本)W-106		
5 16:30 ～ 18:00				英語Ⅰ (河本)W-106		
				基礎看護学演習Ⅰ (三輪ほか)W-309		

後期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30	科学と技術 (榊原) W-302	病理学 (田中) W-302	基礎看護学方法論Ⅱ (川守田)W-106	感染免疫学 (町田) W-302	基礎看護学演習Ⅲ (武田ほか)W-309	
2 10:40 ～ 12:10	形態機能学Ⅲ (本田)W-302	生命科学 (福井) W-302	形態機能学Ⅳ (本田)W-302		生涯発達論 (森岡) W-302	
3 13:10 ～ 14:40	基礎看護学方法論 Ⅲ(分島)W-106	日本語表現 (尾崎) W-302	英語Ⅱ (河本)W-107	基礎看護学演習Ⅱ (川守田ほか) W-309		
	基礎看護学方法論 Ⅳ(武田)W-107		基礎看護学方法論Ⅱ (川守田)W-106		基礎看護学演習Ⅲ (武田ほか)W-309	
4 14:50 ～ 16:20	文化と健康 (関) W-302	基礎看護学方法論 Ⅳ(武田)W-107			●東京の中の多摩 を知るセミナー (清水)W-302	
		基礎看護学方法論 Ⅲ(分島)W-106	英語Ⅱ (河本)W-107	基礎看護学演習Ⅱ (川守田ほか) W-309		
5 16:30 ～ 18:00						

資料2

平成29年度　看護学科　時間割（2年次）

前期

●:選択科目

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30		成人看護学概論 （佐藤）W-305	老年看護学概論 （櫻井）W-305	母性看護学方法論Ⅱ （内田）W-213	成人看護学方法論Ⅰ （小林）W-305	
		精神看護学概論 （関根）W-310	母性看護学方法論Ⅰ （寺岡）W-213	英語Ⅲ （河本）W-305	老年看護学援助論 （今村）W-310	
2 10:40 ～ 12:10	母性看護学概論 （甲斐）W-213	精神看護学概論 （関根）W-310	母性看護学方法論Ⅰ （寺岡）W-213	英語Ⅲ （河本）W-305	小児看護学方法論Ⅰ （廣瀬ほか）W-213	
	基礎看護学演習Ⅳ （武田ほか）W-106	成人看護学概論 （佐藤）W-305	老年看護学概論 （櫻井）W-305	母性看護学方法論Ⅱ （内田）W-213	成人看護学方法論Ⅰ （小林）W-305	
3 13:10 ～ 14:40	基礎看護学演習Ⅳ （武田ほか）W-106		情報と人間 （坂西） W-301	小児看護学概論 （廣瀬）W-213	診断治療学Ⅱ （中井） W-301	
	母性看護学概論 （甲斐）W-213	歴史学 （大庭）W-310				
4 14:50 ～ 16:20		歴史学 （大庭）W-310	臨床薬理学 （丸山） W-301		成人看護学方法論Ⅱ （松田）W-305	
		倫理学 （川元）W-305		小児看護学概論 （廣瀬）W-213	小児看護学方法論Ⅰ （廣瀬ほか）W-213	
5 16:30 ～ 18:00	医療と法 （太田） W-301	倫理学 （川元）W-305		診断・治療学Ⅰ （草間） W-301	老年看護学援助論 （今村）W-310	
					成人看護学方法論Ⅱ （松田）W-305	

後期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30			社会保障論 （入江） W-301			
2 10:40 ～ 12:10	老年看護学方法論 （櫻井ほか）W-310	小児看護学方法論Ⅱ （荻原）W-305	老年看護学演習 （今村ほか）W-306	精神看護学演習 （井上ほか）W-306	小児看護学演習 （廣瀬ほか）W-214	
			精神看護学援助論 （井上）W-310		精神看護学演習 （井上ほか）W-306	
3 13:10 ～ 14:40	成人看護学方法論Ⅲ （山田）W-305		診断・治療学Ⅲ （渡辺・紫藤） W-301	英語Ⅳ （河本）W-310	成人看護学演習 （小林ほか）W-306	
	老年看護学方法論 （櫻井ほか）W-310	小児看護学方法論Ⅱ （荻原）W-305		成人看護学方法論Ⅳ （佐藤ほか）W-305	母性看護学演習 （寺岡ほか）W-214	
4 14:50 ～ 16:20		●法と人権 （太田） W-301	精神看護学援助論 （井上）W-310	成人看護学方法論Ⅳ （佐藤ほか）W-305	母性看護学演習 （寺岡ほか）W-214	
	成人看護学方法論Ⅲ （山田）W-305		老年看護学演習 （今村ほか）W-306	英語Ⅳ （河本）W-310	成人看護学演習 （小林ほか）W-306	
5 16:30 ～ 18:00					ｷｬﾘｱﾃﾞｨﾌﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ （佐藤ほか） W-301	
				小児看護学演習 （廣瀬ほか）W-214		

平成30年度　看護学科　時間割(3年次)　　資料2

前期　　●:選択科目

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30	在宅看護学概論 (久保川)W-108 医療安全論 (和賀・廣瀬)W-109	チーム医療論 (守谷) W-303	●疫学 (野寺) W-303	医療チーム内のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ (窪島ほか)W-303	臨床心理学 (豊田)W-108 ●問題解決技法 (武田ほか)W-109	
2 10:40 ～ 12:10	医療安全論 (和賀・廣瀬)W-109 在宅看護学概論 (久保川)W-108	在宅看護学方法論 (鈴木久ほか)W-108 ●生命倫理 (川元) W-109	●保健統計学 (高柳)W-109 在宅看護学演習 (久保川ほか)W-211	助産診断・技術学概論 (渡邊淳)W-108 ●家族と社会 (佐藤麻)W-109	●問題解決技法 (和賀ほか)W-106 臨床心理学 (豊田)W-109	
3 13:10 ～ 14:40	助産学概論 (渡邊淳)W-109	●生命倫理 (川元) W-109 ●生活と経済学 (鈴木晃)W-305 在宅看護学方法論 (鈴木久ほか)W-108	●情報活用演習 (高柳)ﾒﾃﾞｨｱﾗｳﾝｼﾞ	助産診断・技術学演習Ⅰ(渡邊ほか) W-109 ●文学の中の人間 (横山)W-108	助産管理学 (渡邊淳)W-213 ●英語Ⅴ (河本)W-109	
4 14:50 ～ 16:20	公衆衛生看護学概論 (網野) W-104	基礎助産学Ⅰ (渡邊淳)W-109 ●生活と経済学 (鈴木晃)W-108	在宅看護学演習 (久保川ほか) W-211 ●情報活用演習 (高柳)ﾒﾃﾞｨｱﾗｳﾝｼﾞ	●家族と社会 (佐藤麻)W-108 ●文学の中の人間 (横山)W-109	●英語Ⅴ (河本)W-108	
5 16:30 ～ 18:00		基礎助産学Ⅱ (内田)W-108	健康教育技法 (渡邉幸)W-108 ●保健統計学 (高柳)W-109	助産診断・技術学方法論(内田)W-108	●ボランタリーワークセミナー (和賀ほか) W-303	

後期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30	○成人看護学実習Ⅰ(佐藤ほか) ○成人看護学実習Ⅱ(小林ほか) ○老年看護学実習Ⅰ(今村ほか) ○老年看護学実習Ⅱ(中込ほか) ○小児看護学実習(荻原ほか) ○母性看護学実習(寺岡ほか) ○精神看護学実習(井上ほか) ○在宅看護学実習(関川ほか)					助産診断・技術学演習Ⅱ(渡邊淳ほか)　W-214
2 10:40 ～ 12:10						助産診断・技術学演習Ⅲ(渡邊淳ほか)　W-214
3 13:10 ～ 14:40						地域母子保健学 (内田)W-108
4 14:50 ～ 16:20						助産診断・技術学演習Ⅰ(渡邊ほか) W-109
5 16:30 ～ 18:00						

資料2　　平成31年度　看護学科　時間割（4年次）

前期　　●:選択科目

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10						●異文化体験 セミナー （川元） W-104
3 13:10 ～ 14:40						医療以外の多職種 との交流と発展 （甲斐ほか） W-104
4 14:50 ～ 16:20						●キャリアマネジメ ント論 （川守田ほか） W-104
5 16:30 ～ 18:00						

○成人看護学実習Ⅱ（小林ほか）
○老年看護学実習Ⅰ（櫻井ほか）
○老年看護学実習Ⅱ（今村ほか）
○小児看護学実習（廣瀬ほか）
○母性看護学実習（甲斐ほか）
○在宅看護学実習（久保川ほか）
○助産学実習（渡邊ほか）
○看護の探究Ⅱ～Ⅸ(佐藤ほか)

後期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						●環境科学 （三上） W-104
2 10:40 ～ 12:10						●芸術論 （鏑木） W-104
3 13:10 ～ 14:40						●看護倫理学 （福士） W-104
4 14:50 ～ 16:20					●韓国語 （室屋）W-108	●災害看護学 （三浦） W-104
5 16:30 ～ 18:00					●韓国語 （室屋）W-109	

○助産学実習(渡邊ほか)
○統合実習Ⅰ（三輪ほか）
○統合実習Ⅱ（櫻井ほか）
○看護の探究Ⅱ～Ⅸ（川守田ほか）

資料3

教 育 課 程 と 指 定 規 則 と の 対 比 表

（助産師学校）（東京医療学院大学保健医療学部看護学科）

教育課程 ＼ 指定規則の教育内容				配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表２（助産師課程） 基礎助産学	助産診断・技術学	地域母子保健	助産管理	臨地実習 助産学実習	計
区　分			授業科目											
									6（5）	8	1	2	11	28（27）
教養分野	ものの見方・考え方		哲学	1前	2		15	必修科目16単位必修＋選択科目13単位以上						
			科学と技術	1後	1		30							
			歴史学	2前	1		30							
			倫理学	2前	1		30							
			身体論	1前	1		30							
			生命倫理	3前		1	15							
			情報と人間	2前	1		30							
			情報活用演習	3前		1	15							
	生活と文化		家族と社会	3前		1	15							
			文学の中の人間	3前		1	15							
			法と人権	2後		1	30							
			生活と経済学	3前		1	15							
			文化と健康	1後	1		30							
			東京の中の多摩を知るセミナー	1後		1	30							
			芸術論	4後		1	15							
	人間と環境		生物と進化	1前		1	15							
			生命科学	1後	1		15							
			物理学	1前		1	15							
			環境科学	4後		1	15							
	グローバルコミュニケーション		コミュニケーション論	1前	1		30							
			日本語表現	1後	1		30							
			英語Ⅰ（読む・書く基礎Ⅰ）	1前	1		30							
			英語Ⅱ（読む・書く基礎Ⅱ）	1後	1		30							
			英語Ⅲ（医療英語）	2前	1		30							
			英語Ⅳ（日常会話）	2後	1		30							
			英語Ⅴ（英語論文読解）	3前		1	15							
			韓国語（基礎会話）	4後		1	30							
			異文化体験セミナー	4前		1	30							
	大学における学び		学習と教育	1前	1		30							
			スタディスキルセミナー	1前		1	30							
			問題解決技法	3前		1	15							
			ボランタリーワークセミナー	3前		1	15							
	小計													
専門基礎分野	専門基礎科目		形態機能学Ⅰ	1前	1		30	必修科目21単位必修						2
			形態機能学Ⅱ	1前	1		30							
			形態機能学Ⅲ	1後	1		30							
			形態機能学Ⅳ	1後	1		30							
			生化学（栄養学含）	1前	1		30							
			病理学	1後	1		30							
			臨床薬理学	2前	1		30							
			感染免疫学	1後	2		22.5							
			診断・治療学Ⅰ	2前	2		15							
			診断・治療学Ⅱ	2前	2		15			○				
			診断・治療学Ⅲ	2後	2		15							
			臨床心理学	3前	1		15							
			医療と法	2前	1		30							
			保健統計学	3前		1	15							
			疫学	3前		1	15							
			生涯発達論	1後	2		15							
			社会保障論	2後	1		30							
			チーム医療論	3前	1		15							
	小計									2				
専門分野	看護の専門性の発展の基盤		専門職の世界	1前	1		30	必修科目5単位必修						1
			セルフディブロップメント	1前	1		30							
			キャリアディブロップメント	2後	1		30							
			医療チーム内のマネジメント	3前	1		15					○		
			医療以外の多職種との交流と発展	4前	1		30							
			キャリアマネジメント論	4前		1	30							
	小計									1				

教育課程 ＼ 指定規則の教育内容				配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表２（助産師課程）					
									基礎助産学	助産診断・技術学	地域母子保健	助産管理	臨地実習 助産学実習	計
区　分			授業科目		必修	選択			6（5）	8	1	2	11	28（27）
専門分野	看護実践の基盤	基礎看護学	基礎看護学概論	1前	1		30	必修科目64単位必修＋助産学科目25単位必修（卒業必要単位3単位を含む）						26
			看護学援助論	1前	1		30							
			看護学技術論	1前	1		30							
			基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術）	1前	1		30							
			基礎看護学方法論Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	1後	1		30							
			基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術）	1後	1		30							
			基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開）	1後	1		15							
			基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）	1前	1		30							
			基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	1後	1		30							
			基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）	1後	1		30							
			基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開）	2前	1		30							
			基礎看護学実習Ⅰ	1前	1		45							
			基礎看護学実習Ⅱ	1前	1		45							
			基礎看護学実習Ⅲ	2後	2		45							
		成人看護学	成人看護学概論	2前	1		30							
			成人看護学方法論Ⅰ	2前	1		30							
			成人看護学方法論Ⅱ	2前	1		30							
			成人看護学方法論Ⅲ	2後	1		30							
			成人看護学方法論Ⅳ	2後	1		30							
			成人看護学演習	2後	1		30							
			成人看護学実習Ⅰ	3前～4前	3		45							
			成人看護学実習Ⅱ	3前～4前	3		45							
		老年看護学	老年看護学概論	2前	1		30							
			老年看護学援助論	2前	1		30							
			老年看護学方法論	2後	1		30							
			老年看護学演習	2後	1		30							
			老年看護学実習Ⅰ	3前～4前	2		45							
			老年看護学実習Ⅱ	3前～4前	2		45							
		小児看護学	小児看護学概論	2前	1		30							
			小児看護学方法論Ⅰ	2前	1		30							
			小児看護学方法論Ⅱ	2後	1		30							
			小児看護学演習	2後	1		30							
			小児看護学実習	3前～4前	2		45							
		母性看護学	母性看護学概論	2前	1		30							
			母性看護学方法論Ⅰ	2前	1		30		○					
			母性看護学方法論Ⅱ	2前	1		30							
			母性看護学演習	2後	1		30							
			母性看護学実習	3前～4前	2		45							
		精神看護学	精神看護学概論	2前	1		30							
			精神看護学援助論	2後	2		15							
			精神看護学演習	2後	1		30							
			精神看護学実習	3前～4前	2		45							
		在宅看護学	在宅看護学概論	3前	1		30							
			在宅看護学方法論	3前	2		15							
			在宅看護学演習	3前	1		30							
			在宅看護学実習	3前～4前	2		45							
		統合看護学	医療安全論	3前	1		15							
			災害看護学	4後		1	30							
			看護倫理学	4後		1	15							
			公衆衛生看護学概論	3前	1		15							
			統合実習Ⅰ	4後	1		45							
			統合実習Ⅱ	4後	2		45							
		助産学	助産学概論	3前	1		30		○					
			基礎助産学Ⅰ	3前	2		15		○					
			基礎助産学Ⅱ	3前	2		15		○					
			健康教育技法	3前	1		30		○					
			助産診断・技術学概論	3前	1		30			○				
			助産診断・技術学方法論	3前	1		30			○				
			助産診断・技術学演習Ⅰ	3通	2		22.5			○				
			助産診断・技術学演習Ⅱ	3後	1		30			○				
			助産診断・技術学演習Ⅲ	3後	1		30			○				
			地域母子保健学	3後	1		15				○			
			助産管理学	3前	1		30					○		
			助産学実習	4通	11		45						○	
	小計									15			11	
	看護の探究の基盤		看護の探究Ⅰ	1前	1		30	必修科目1単位必修＋※の科目の中から1領域1科目のみ選択する（※※は助産師選択者必修）。						
			看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）※	4通		5	30							
			看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）※	4通		5	30							
			看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）※	4通		5	30							
			看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）※	4通		5	30							
			看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）※	4通		5	30							
			看護の探究Ⅶ（精神看護学領域研究）※	4通		5	30							
			看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）※	4通		5	30							
			看護の探究Ⅸ（助産学領域研究）※※	4通	5		30							
	小計													
卒業要件単位数								128単位以上		18			11	29
助産師国家試験を取得する場合の最低必要単位数								150単位以上		18			11	29
指定規則に対する増単位数										2			0	2

教 育 課 程 と 指 定 規 則 と の 対 比 表

（看護師学校）（東京医療学院大学保健医療学部看護学科）

別表３（看護師課程）

区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	基礎分野 科学的思考の基盤	基礎分野 人間と生活・社会の理解	専門基礎分野 人体の構造と機能	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	専門分野Ⅰ 基礎看護学	専門分野Ⅱ 成人看護学	専門分野Ⅱ 老年看護学	専門分野Ⅱ 小児看護学	専門分野Ⅱ 母性看護学	専門分野Ⅱ 精神看護学	統合分野 在宅看護論	統合分野 看護の統合と実践	臨地実習 専門分野Ⅰ 基礎看護学	臨地実習 専門分野Ⅱ 成人看護学	臨地実習 専門分野Ⅱ 老年看護学	臨地実習 専門分野Ⅱ 小児看護学	臨地実習 専門分野Ⅱ 母性看護学	臨地実習 専門分野Ⅱ 精神看護学	臨地実習 統合分野 在宅看護論	臨地実習 統合分野 看護の統合と実践	計
							１３		２１			４０								２３								９７
教養分野	ものの見方・考え方 哲学	１前	2		15	必修科目16単位必修＋選択科目13単位以上	○																				29
	ものの見方・考え方 科学と技術	１後	1		30		○																				
	ものの見方・考え方 歴史学	２前	1		30		○																				
	ものの見方・考え方 倫理学	２前	1		30			○																			
	ものの見方・考え方 身体論	１前	1		30		○																				
	ものの見方・考え方 生命倫理	３前		1	15		○																				
	ものの見方・考え方 情報と人間	２前	1		30		○																				
	ものの見方・考え方 情報活用演習	３前		1	15		○																				
	生活と文化 家族と社会	３前		1	15			○																			
	生活と文化 文学の中の人間	３前		1	15			○																			
	生活と文化 法と人権	２後		1	30			○																			
	生活と文化 生活と経済学	３前		1	15			○																			
	生活と文化 文化と健康	１後	1		30			○																			
	生活と文化 東京の中の多摩を知るセミナー	１後		1	30			○																			
	生活と文化 芸術論	４後		1	15			○																			
	人間と環境 生物と進化	１前		1	15		○																				
	人間と環境 生命科学	１後	1		15		○																				
	人間と環境 物理学	１前		1	15		○																				
	人間と環境 環境科学	４後		1	15		○																				
	グローバルコミュニケーション コミュニケーション論	１前	1		30			○																			
	グローバルコミュニケーション 日本語表現	１後	1		30			○																			
	グローバルコミュニケーション 英語Ⅰ（読む・書く基礎Ⅰ）	１前	1		30			○																			
	グローバルコミュニケーション 英語Ⅱ（読む・書く基礎Ⅱ）	１後	1		30			○																			
	グローバルコミュニケーション 英語Ⅲ（医療英語）	２前	1		30			○																			
	グローバルコミュニケーション 英語Ⅳ（日常会話）	２後	1		30			○																			
	グローバルコミュニケーション 英語Ⅴ（英語論文読解）	３前		1	15			○																			
	グローバルコミュニケーション 韓国語（基礎会話）	４後		1	30			○																			
	グローバルコミュニケーション 異文化体験セミナー	４前		1	30			○																			
	大学における学び 学習と教育	１前	1		30			○																			
	大学における学び スタディスキルセミナー	１前		1	30		○																				
	大学における学び 問題解決技法	３前		1	15		○																				
	大学における学び ボランタリーワークセミナー	３前		1	15			○																			
	小計						29																				
専門基礎分野	専門基礎科目 形態機能学Ⅰ	１前	1		30	必修科目21単位必修			○																			21
	専門基礎科目 形態機能学Ⅱ	１前	1		30				○																		
	専門基礎科目 形態機能学Ⅲ	１後	1		30				○																		
	専門基礎科目 形態機能学Ⅳ	１後	1		30				○																		
	専門基礎科目 生化学（栄養学含）	１前	1		30					○																	
	専門基礎科目 病理学	１後	1		30					○																	
	専門基礎科目 臨床薬理学	２前	1		30					○																	
	専門基礎科目 感染免疫学	１後	2		22.5					○																	
	専門基礎科目 診断・治療学Ⅰ	２前	2		15					○																	
	専門基礎科目 診断・治療学Ⅱ	２前	2		15					○																	
	専門基礎科目 診断・治療学Ⅲ	２後	2		15					○																	
	専門基礎科目 臨床心理学	３前	1		15						○																
	専門基礎科目 医療と法	２前	1		30						○																
	専門基礎科目 保健統計学	３前		1	15						○																
	専門基礎科目 疫学	３前		1	15						○																
	専門基礎科目 生涯発達論	１後	2		15						○																
	専門基礎科目 社会保障論	２後	1		30						○																
	専門基礎科目 チーム医療論	３前	1		15						○																
	小計								21																		
専門分野	看護の専門職性の発展の基盤 専門職の世界	１前	1		30	必修科目5単位必修													○								5
	看護の専門職性の発展の基盤 セルフディブロップメント	１前	1		30														○								
	看護の専門職性の発展の基盤 キャリアディブロップメント	２後	1		30														○								
	看護の専門職性の発展の基盤 医療チーム内のマネジメント	３前	1		15														○								
	看護の専門職性の発展の基盤 医療以外の多職種との交流と発展	４前	1		30														○								
	看護の専門職性の発展の基盤 キャリアマネジメント論	４前		1	30														○								
	小計											5															

別表３（看護師課程）

区分			授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	基礎分野 科学的思考の基盤	基礎分野 人間と生活・社会の理解	専門基礎分野 人体の構造と機能	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	専門分野Ⅰ 基礎看護学	専門分野Ⅱ 成人看護学	専門分野Ⅱ 老年看護学	専門分野Ⅱ 小児看護学	専門分野Ⅱ 母性看護学	専門分野Ⅱ 精神看護学	統合分野 在宅看護論	統合分野 看護の統合と実践	臨地実習 専門分野Ⅰ 基礎看護学	臨地実習 専門分野Ⅱ 成人看護学	臨地実習 専門分野Ⅱ 老年看護学	臨地実習 専門分野Ⅱ 小児看護学	臨地実習 専門分野Ⅱ 母性看護学	臨地実習 専門分野Ⅱ 精神看護学	臨地実習 統合分野 在宅看護論	臨地実習 統合分野 看護の統合と実践	計
									13		21			40								23								97
専門分野	看護実践の基盤	基礎看護学	基礎看護学概論	1前	1		30	修目必科単位必修＋専門基礎分野の選択科目2単位および看護の専門職性の発展の基盤の選択科目1単位および統合看護学選択科目2単位および※のある助産学の選択科目9単位中から3単位以上						○																67
			看護学援助論	1前	1		30							○																
			看護学技術論	1前	1		30							○																
			基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術）	1前	1		30							○																
			基礎看護学方法論Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	1後	1		30							○																
			基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術）	1後	1		30							○																
			基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開）	1後	1		15							○																
			基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）	1前	1		30							○																
			基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	1後	1		30							○																
			基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）	1後	1		30							○																
			基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開）	2前	1		30							○																
			基礎看護学実習Ⅰ	1前	1		45															○								
			基礎看護学実習Ⅱ	1前	1		45															○								
			基礎看護学実習Ⅲ	2後	2		45															○								
		成人看護学	成人看護学概論	2前	1		30								○															
			成人看護学方法論Ⅰ	2前	1		30								○															
			成人看護学方法論Ⅱ	2前	1		30								○															
			成人看護学方法論Ⅲ	2後	1		30								○															
			成人看護学方法論Ⅳ	2後	1		30								○															
			成人看護学演習	2後	1		30								○															
			成人看護学実習Ⅰ	3前～4前	3		45															○								
			成人看護学実習Ⅱ	3前～4前	3		45															○								
		老年看護学	老年看護学概論	2前	1		30									○														
			老年看護学援助論	2前	1		30									○														
			老年看護学方法論	2後	1		30									○														
			老年看護学演習	2後	1		30									○														
			老年看護学実習Ⅰ	3前～4前	2		45																○							
			老年看護学実習Ⅱ	3前～4前	2		45																○							
		小児看護学	小児看護学概論	2前	1		30										○													
			小児看護学方法論Ⅰ	2前	1		30										○													
			小児看護学方法論Ⅱ	2後	1		30										○													
			小児看護学演習	2後	1		30										○													
			小児看護学実習	3前～4前	2		45																		○					
		母性看護学	母性看護学概論	2前	1		30											○												
			母性看護学方法論Ⅰ	2前	1		30											○												
			母性看護学方法論Ⅱ	2前	1		30											○												
			母性看護学演習	2後	1		30											○												
			母性看護学実習	3前～4前	2		45																			○				
		精神看護学	精神看護学概論	2前	1		30												○											
			精神看護学援助論	2後	2		15												○											
			精神看護学演習	2後	1		30												○											
			精神看護学実習	3前～4前	2		45																				○			
		在宅看護学	在宅看護学概論	3前	1		30													○										
			在宅看護学方法論	3前	2		15													○										
			在宅看護学演習	3前	1		30													○										
			在宅看護学実習	3前～4前	2		45																					○		
		統合看護学	医療安全論	3前	1		15														○									
			災害看護学	4後		1	30														○									
			看護倫理学	4後		1	15														○									
			公衆衛生看護学概論	3前	1		15														○									
			統合実習Ⅰ	4後	1		45																						○	
			統合実習Ⅱ	4後	2		45																						○	
		助産学	助産学概論※	3前		1	30	助産学は助産師選択者が選択するが、※の科目は助産師選択者以外も選択可。									○												
			基礎助産学Ⅰ※	3前		2	15										○													
			基礎助産学Ⅱ※	3前		2	15										○													
			健康教育技法※	3前		1	30										○													
			助産診断・技術学概論※	3前		1	30										○													
			助産診断・技術学方法論※	3前		1	30										○													
			助産診断・技術学演習Ⅰ	3通		2	22.5																							
			助産診断・技術学演習Ⅱ	3後		1	30																							
			助産診断・技術学演習Ⅲ	3後		1	30																							
			地域母子保健学※	3後		1	15										○													
			助産管理学	3前		1	30																							
			助産学実習	4通		11	45																							
		小計													42							25								
	看護の探究の基盤		看護の探究Ⅰ	1前	1		30	必修科目1単位必修＋※の科目の中から1領域1科目のみ選択する（※※は助産師選択者必修）。														○									6
			看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）※	4通		5	30															○								
			看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）※	4通		5	30															○								
			看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）※	4通		5	30															○								
			看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）※	4通		5	30															○								
			看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）※	4通		5	30															○								
			看護の探究Ⅶ（精神看護学領域研究）※	4通		5	30															○								
			看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）※	4通		5	30															○								
			看護の探究Ⅸ（助産学領域研究）※※	4通		5	30															○								
		小計													6														
卒業要件単位数								128単位以上	29		21			53								25								128
指定規則に対する増単位数									16		0			13								2								31

新たに整備する学術雑誌一覧

資料4

和雑誌(25誌)

No.	種類	図書タイトル	月刊・季刊	出版社
1	和雑誌	小児看護	月刊	へるす出版
2	和雑誌	公衆衛生	月刊	医学書院
3	和雑誌	周産期医学	月刊	東京医学社
4	和雑誌	チャイルドヘルス	月刊	診断と治療社
5	和雑誌	がん看護	隔月刊	南江堂
6	和雑誌	ナーシングケアQ&A	季刊	総合医学社
7	和雑誌	病院	月刊	医学書院
8	和雑誌	看護	月刊	日本看護協会出版会
9	和雑誌	看護技術	月刊	ﾒﾃﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社
10	和雑誌	看護展望	月刊	ﾒﾃﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社
11	和雑誌	Clinical Study	月刊	ﾒﾃﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社
12	和雑誌	月刊ﾅｰｼﾝｸﾞ	月刊	学研ﾒﾃﾞｨｶﾙ秀潤社
13	和雑誌	ナーシング・キャンバス	月刊	学研ﾒﾃﾞｨｶﾙ秀潤社
14	和雑誌	急性・重症患者ケア	季刊	総合医学社
15	和雑誌	臨床栄養	月刊	医歯薬出版
16	和雑誌	医薬ｼﾞｬｰﾅﾙ	月刊	医薬ｼﾞｬｰﾅﾙ社
17	和雑誌	オペナーシング	月刊	メディカ出版
18	和雑誌	ブレインナーシング	月刊	メディカ出版
19	和雑誌	ネオネイタルケア	月刊	メディカ出版
20	和雑誌	ペリネイタルケア	月刊	メディカ出版
21	和雑誌	ハートナーシング	月刊	メディカ出版
22	和雑誌	エマージェンシーケア	月刊	メディカ出版
23	和雑誌	看護実践の科学	月刊	看護の科学社
24	和雑誌	エキスパートナース	月刊	照林社
25	和雑誌	週刊保健衛生ニュース	週刊	社会保険実務研究所

洋雑誌(15誌)

No.	種類	図書タイトル	月刊・季刊	出版社
1	洋雑誌	American journal of nursing	月刊	Lippincott Williams&Wilkins,a Wolters Kluwer Co
2	洋雑誌	Clinical Nursing Research	隔月刊	Sage Publication Inc.
3	洋雑誌	Advances in nursing science	季刊	Lippincott Williams&Wilkins,a Wolters Kluwer Co
4	洋雑誌	Journal of nursing education	月刊	Slack Incorporated
5	洋雑誌	Journal of nursing administration	年11回	Lippincott Williams&Wilkins,a Wolters Kluwer Co
6	洋雑誌	Nursing Management	月刊	Lippincott Williams&Wilkins,a Wolters Kluwer Co
7	洋雑誌	Journal of pediatric nursing	隔月刊	W.B.Saunders Co.
8	洋雑誌	Journal of Midwifery and Women's Health	隔月刊	W.B.Saunders Co.
9	洋雑誌	Clinical Nurse Specialist	隔月刊	Lippincott Williams&Wilkins,a Wolters Kluwer Co
10	洋雑誌	Cancer nursing:an international journal for cancer care	隔月刊	Lippincott Williams&Wilkins,a Wolters Kluwer Co
11	洋雑誌	Geriatric Nursing	隔月刊	Mosby,Inc.
12	洋雑誌	Evidence-Based Nursing	季刊	BMJ Publishing Group
13	洋雑誌	Public health nursing	隔月刊	Blackwell Publishing Limited
14	洋雑誌	Journal of Professional nursing	隔月刊	W.B.Saunders Co.
15	洋雑誌	International Nursing Review	季刊	Blackwell Publishing Limited

データベース(1点)

番号	データベース名
1	MedicalFinder 看護系雑誌セット

(以下の13誌を収録)

番号	雑誌名	出版社
1	保健師ｼﾞｬｰﾅﾙ	医学書院
2	看護教育	医学書院
3	精神看護	医学書院
4	看護研究	医学書院
5	看護管理	医学書院
6	助産雑誌	医学書院
7	訪問看護と介護	医学書院
8	看護学雑誌(2003-2010)	医学書院
9	看護診断	医学書院
10	日本看護科学会誌	医学書院
11	日本腎不全看護学会誌	医学書院
12	日本糖尿病教育・看護学会誌	医学書院
13	日本看護倫理学会誌	医学書院

教育上必要な機械器具・標本模型一覧　　資料5

機械器具　276種、3,600点、 標本模型17種、40点、 視聴覚資料46点			
	購入品名	数量	備考
1	コールスイッチ（ｺﾝｾﾝﾄｺｰﾙ用）	13	機械・器具
2	ベッド標準ボードタイプ（3モーター・電動）	12	機械・器具
3	ベッドサイドテーブル	13	機械・器具
4	オーバーヘッドテーブル	13	機械・器具
5	折りたたみ式ストレッチャー	1	機械・器具
6	折りたたみ式ストレッチャー	1	機械・器具
7	救護用担架（ベルカ）	1	機械・器具
8	天井走行ガードルハンガー	24	機械・器具
9	メディカルカーテン	12	機械・器具
10	チェア(ビニールレザー張）	7	機械・器具
11	チェア(ビニールレザー張）	6	機械・器具
12	メディカルカーテン	12	機械・器具
13	成人用ベッドリネン一式	26	機械・器具
14	成人用ベッドリネン一式	26	機械・器具
15	環境管理温湿度計「省エネさん」	4	機械・器具
16	入院患者識別バンド[一般患者向け]	1	機械・器具
17	血液型表示プレート5型	1	機械・器具
18	踏台	2	機械・器具
19	脚立　K20	2	機械・器具
20	ベッド標準ボードタイプ（4モーター・電動）	2	機械・器具
21	ベッドネームホルダー	2	機械・器具
22	小児用ベッド	1	機械・器具
23	小児用ベッド　1クライン	1	機械・器具
24	小児用ﾀﾞﾌﾞﾙｳｪｰﾌﾞﾏｯﾄﾚｽ	1	機械・器具
25	小児用ﾀﾞﾌﾞﾙｳｪｰﾌﾞﾏｯﾄﾚｽ	1	機械・器具
26	床頭台	13	機械・器具
27	チェア(ビニールレザー張）	7	機械・器具
28	チェア(ビニールレザー張）	6	機械・器具
29	ベッドサイドレール（スタンダード）	20	機械・器具
30	ウッディシリーズ	6	機械・器具
31	4000シリーズ	6	機械・器具
32	床頭台	13	機械・器具
33	カラー担架（布担架兼用）	1	機械・器具
34	プレグラーマットレス83cm幅	26	機械・器具
35	折りたたみベッドサイドレール	12	機械・器具
36	折りたたみベッドサイドレール	20	機械・器具
37	ベッドサイドゴミ箱	26	機械・器具
38	ベッドプレート　角フレーム仕様	24	機械・器具
39	ベッドネーム専用カード	1	機械・器具
40	ベッドネーム専用カード	1	機械・器具
41	マイスコプライベート	1	機械・器具
42	入院患者識別バンド[一般患者向け]	1	機械・器具
43	入院患者識別バンド[一般患者向け]	1	機械・器具
44	入院患者識別バンド[一般患者向け]	1	機械・器具
45	入院患者識別バンド[一般患者向け]	1	機械・器具
46	使い捨てスリッパ	5	機械・器具
47	血液型表示プレート5型	1	機械・器具
48	血液型表示プレート5型	1	機械・器具
49	血液型表示プレート5型	1	機械・器具
50	ホワイトボード	4	機械・器具
51	ワイヤー3段トローリー	4	機械・器具
52	ぞうきん掛け	4	機械・器具
53	物干し器	2	機械・器具
54	コロコロ(スタンダード）	13	機械・器具
55	コロコロ専用スペアテープ	3	機械・器具
56	テーブルホウキセット	1	機械・器具
57	ジョイント式ふとん払いブラシ	1	機械・器具
58	ベッドブラシ	1	機械・器具
59	模擬痰	3	機械・器具
60	経管栄養ポンプ＆注入セット	1	機械・器具
61	口腔ケアモデル	13	機械・器具
62	褥瘡モデル	1	機械・器具
63	臀筋注射部位クリア3Dモデル	7	機械・器具
64	“きんちゅう”くんⅡ	7	機械・器具
65	サカモト	1	機械・器具
66	AEDT－2レサシアンwithQCRP全身SimPadスキルレポータ	1	機械・器具

	購入品名	数量	備考
67	簡易型成人BLSモデル	2	機械・器具
68	男性導尿モデルⅠ型	4	機械・器具
69	導尿・浣腸モデルⅡ型	13	機械・器具
70	吸引シュミレータ “Qちゃん”	13	機械・器具
71	気管切開チューブⅡ	13	機械・器具
72	経管栄養シミュレータ	1	機械・器具
73	経管栄養シミュレータ	6	機械・器具
74	フィジカルアセスメントモデル	1	機械・器具
75	フィジコ用専用テーブル・ワゴン	1	機械・器具
76	フィジコ対応心電図C－330	1	機械・器具
77	ふくたろう	1	機械・器具
78	モデル人形収納ケースAL	1	機械・器具
79	小児看護実習モデル“まあちゃん”’(小児医療的ｹｱﾓﾃﾞﾙ)	1	機械・器具
80	乳児看護実習モデル	1	機械・器具
81	モデル人形収納ケースAL	1	機械・器具
82	万能型成人実習モデルさくらⅡ“SAKURA”新カリ対応版	4	機械・器具
83	万能型成人実習モデルさくらⅡ用男性性器	2	機械・器具
84	装着型静脈注射トレーナーI..V. Pad	3	機械・器具
85	交換用血管(標準)100本	1	機械・器具
86	模擬血液用原液100cc	6	機械・器具
87	モデル人形収納ケースAL	2	機械・器具
88	バケツ平和工業	13	機械・器具
89	アメリカ式氷のう	1	機械・器具
90	口唇開口器　ハミエール	1	機械・器具
91	ゆびガード	1	機械・器具
92	ワイダー・ミニ	1	機械・器具
93	照明開口器[ホタル]	7	機械・器具
94	嚥下・接触訓練器具	1	機械・器具
95	吸引歯ブラシ	13	機械・器具
96	吸引歯ブラシ	13	機械・器具
97	入れ歯容器	1	機械・器具
98	ピッチャー	13	機械・器具
99	ピッチャー	16	機械・器具
100	洗面器深型	13	機械・器具
101	ポリペール　容量15.5L	16	機械・器具
102	ニュータフバケツ	16	機械・器具
103	プロテック角バケツ	16	機械・器具
104	赤液棒状温度計	37	機械・器具
105	棒状温度計用金属ケース	37	機械・器具
106	スカルプブラシ	16	機械・器具
107	パワースリットドライヤー	16	機械・器具
108	食事用エプロン	13	機械・器具
109	膿盆	17	機械・器具
110	膿盆	17	機械・器具
111	3層メッシュの“そのまま洗えるﾗﾝﾄﾞﾘｰﾊﾞｽｹｯﾄﾈｯﾄ”	13	機械・器具
112	薬呑器	17	機械・器具
113	防水シーツ	20	機械・器具
114	ステン紙タオルホルダー	7	機械・器具
115	爪切り[ラッキリ]	13	機械・器具
116	ホスピタルうがい受け	16	機械・器具
117	座位保持用クッション	2	機械・器具
118	かかと用褥瘡防止クッション	1	機械・器具
119	体位変換器(バナナターン)	1	機械・器具
120	ナーセントパット	1	機械・器具
121	ビーズプチハンド	1	機械・器具
122	抜管防止手袋	1	機械・器具
123	まもって寝	1	機械・器具
124	ベッド・車いす用ベスト抑制帯	1	機械・器具
125	湯たんぽ	13	機械・器具
126	トタン湯たんぽN	1	機械・器具
127	湯たんぽカバー	1	機械・器具
128	オンリーワン病院水枕	13	機械・器具
129	水枕(締金具)	13	機械・器具
130	エコ氷のう(吊りヒモ付)	1	機械・器具
131	エコ氷のう吊り(金属製)	1	機械・器具
132	万能スコップ	7	機械・器具
133	アトム洗髪車Ⅱ型	6	機械・器具
134	シャンプーチェア	1	機械・器具
135	清拭車	1	機械・器具
136	ケリーパッド	1	機械・器具

	購入品名	数量	備考
137	洗髪器 ［サッパリさん］	7	機械・器具
138	BB型足踏み式ポンプ	7	機械・器具
139	ウォーターバックシャワーセット	1	機械・器具
140	シャンプーケープ	4	機械・器具
141	丸ケープ[リツロン]	13	機械・器具
142	ピッチャー	16	機械・器具
143	ポリエチレン手付ビーカー	13	機械・器具
144	抑制帯グリップ　5号	1	機械・器具
145	洗浄ボトル	15	機械・器具
146	ステンレス便器(米式)	13	機械・器具
147	MMI便器カバー(ベッドパン用)	13	機械・器具
148	安楽便器(専用パッド付)	13	機械・器具
149	ゴム便器セット	4	機械・器具
150	差込便器カバー付	4	機械・器具
151	透明尿器(男性用)	13	機械・器具
152	透明尿器(女性用)	13	機械・器具
153	尿器掛	13	機械・器具
154	ラック用カバー(共通)	15	機械・器具
155	安楽尿器(男性用)	1	機械・器具
156	安楽尿器(女性用)	1	機械・器具
157	失禁用バンド	1	機械・器具
158	ポータブルトイレ	1	機械・器具
159	ポータブルトイレ	1	機械・器具
160	コンファウロシステムⅡ	2	機械・器具
161	コンファウロシステムⅡ	1	機械・器具
162	潤滑ゼリー(J－5G)	2	機械・器具
163	採尿バックカバー	2	機械・器具
164	自己導尿カテーテル	4	機械・器具
165	自己導尿カテーテル	4	機械・器具
166	自己導尿カテーテル	1	機械・器具
167	自己導尿カテーテル	1	機械・器具
168	ネラトンカテーテル	2	機械・器具
169	尿器掛	3	機械・器具
170	尿器掛横用カバー	3	機械・器具
171	ポータブルトイレ用	1	機械・器具
172	丸ケープ[リツロン]	3	機械・器具
173	トンボ水切り籠セットNo.1	3	機械・器具
174	フルサワの介護用爪切り	1	機械・器具
175	介護用ニッパー式ツメキリ	1	機械・器具
176	介護シャンプー器	1	機械・器具
177	洗髪シート　爽やかさん	1	機械・器具
178	足裏やすり	1	機械・器具
179	義歯ブラシS[軟性床用]	1	機械・器具
180	テンピュール(R)	1	機械・器具
181	リネンカート(Z型)	6	機械・器具
182	ナビキャッチⅡ	3	機械・器具
183	安楽便器	3	機械・器具
184	リッチェル　レイ　洗い桶	1	機械・器具
185	アイスノンソフト	1	機械・器具
186	やわらか雪枕	4	機械・器具
187	アイス枕用カバー	2	機械・器具
188	アイスノンベルト	1	機械・器具
189	水枕(子供用)	1	機械・器具
190	ピジョン乳歯ブラシセット	2	機械・器具
191	子供用うがい用コップ	2	機械・器具
192	小児用腕固定サポート	1	機械・器具
193	みまもっ手(乳児用)	1	機械・器具
194	まもって寝	1	機械・器具
195	湯たんぽ(くまのプーさん)	1	機械・器具
196	食事用エプロン	1	機械・器具
197	ハング貯尿器	1	機械・器具
198	専用貯尿袋	1	機械・器具
199	ホスピタル差込便器(PP製)	3	機械・器具
200	MMI便器カバー(差込便器用)	3	機械・器具
201	透明尿器	3	機械・器具
202	透明尿器	3	機械・器具
203	尿器[コ・ボレーヌ]	1	機械・器具
204	尿器[コ・ボレーヌ]	1	機械・器具
205	ユリドーム	1	機械・器具
206	洗面器	7	機械・器具

	購入品名	数量	備考
207	リネンカート（Z型）	1	機械・器具
208	尿失禁学習セット	1	機械・器具
209	紙おむつ・尿とりパッド各種	1	機械・器具
210	はかせるおむつ各種	1	機械・器具
211	口腔ケア用歯ブラシ	12	機械・器具
212	くるリーナブラシ・ミニ	1	機械・器具
213	介護用360度歯ブラシ	12	機械・器具
214	舌クリーナー	13	機械・器具
215	介護粘膜ブラシ　プロ	1	機械・器具
216	[ソフラピレンチェック2WAYﾀｲﾌﾟ]	1	機械・器具
217	[ソフラピレンチェック2WAYﾀｲﾌﾟ]	1	機械・器具
218	スポジカ	1	機械・器具
219	キューティー吸引スポンジブラシ	10	機械・器具
220	舌圧子	10	機械・器具
221	メドラインスポンジブラシ	25	機械・器具
222	マウスピュア口腔ケア綿棒	1	機械・器具
223	マウスピュア口腔ケアガーゼ	2	機械・器具
224	歯間ブラシ	10	機械・器具
225	体位変換器(バナナターン)	1	機械・器具
226	体位変換器(バナナターン)	1	機械・器具
227	床ずれ防止ビーズパッセット	1	機械・器具
228	ナーセントパット　L50	1	機械・器具
229	携帯接触体圧測定器	4	機械・器具
230	小児用腕固定サポート	1	機械・器具
231	小児用腕固定サポート	1	機械・器具
232	ベディラップ	1	機械・器具
233	抑制帯グリップ　6号	1	機械・器具
234	4way抱っこ紐	1	機械・器具
235	リュックタイプのおんぶ紐	1	機械・器具
236	防水カバー（保冷用）	13	機械・器具
237	水枕（締金具）	1	機械・器具
238	防水カバー（保冷用）	1	機械・器具
239	お皿	13	機械・器具
240	蓋付きどんぶり	13	機械・器具
241	蓋付き小鉢	13	機械・器具
242	蓋付き味噌汁腕	13	機械・器具
243	はし	13	機械・器具
244	トレイ	13	機械・器具
245	哺乳瓶120mi	13	機械・器具
246	乳首と乳首カバー　各種	13	機械・器具
247	魔法瓶	3	機械・器具
248	粉ミルク	5	機械・器具
249	哺乳瓶用ブラシ	1	機械・器具
250	ミルトン用消毒容器N型（4L）	1	機械・器具
251	瓶ばさみ	1	機械・器具
252	コンビ哺乳瓶除菌ケース	4	機械・器具
253	エンゼルケアセット	3	機械・器具
254	アフター3点セット	3	機械・器具
255	死後処理用品　セフティーセット	1	機械・器具
256	エンゼルメイク　メモリーシオン	1	機械・器具
257	メディアボックス	8	機械・器具
258	メディアボックススタンド	1	機械・器具
259	紙マスク	1	機械・器具
260	手袋	1	機械・器具
261	ロールエプロン	1	機械・器具
262	ハイゼガーゼ	1	機械・器具
263	小版or中版紙タオル	1	機械・器具
264	フェイスシールド	1	機械・器具
265	ソフトLEDペンライト	13	機械・器具
266	エアーゾーン・	1	機械・器具
267	ハンド圧力計	1	機械・器具
268	ステンレス舌圧子	1	機械・器具
269	メタボリメジャー	1	機械・器具
270	BMIカロリー計算機	1	機械・器具
271	聴診器(二人用)	13	機械・器具
272	パルスオキシメータ	13	機械・器具
273	メディセーフフィット（ブルー）	13	機械・器具
274	メディセーフチップ	2	機械・器具
275	手持蛋白屈折計　D型	1	機械・器具
276	尿比重計・スポイト（ウロスペック）	1	機械・器具

	購入品名	数量	備考
277	尿比重計・スポイト（ウロスペック）	1	機械・器具
278	テステープ	1	機械・器具
279	救急蘇生セット（医師挿管用）	1	機械・器具
280	救急カートSK－157	1	機械・器具
281	喉頭鏡（マッキントッシュ氏）	1	機械・器具
282	喉頭鏡（マッキントッシュ氏）	1	機械・器具
283	喉頭鏡（マッキントッシュ氏）	1	機械・器具
284	喉頭鏡（マッキントッシュ氏）	1	機械・器具
285	板状舌圧子	1	機械・器具
286	開口器（エスマルヒ氏）	1	機械・器具
287	開口器（ハイステル氏）	1	機械・器具
288	舌鉗子（ホッチ氏）	1	機械・器具
289	マギール鉗子（S）	1	機械・器具
290	バーマン氏エアウェイ5種類	1	機械・器具
291	卓上煮沸消毒器	1	機械・器具
292	ディスポカテーテルピンセット	4	機械・器具
293	ディスポピンセット	4	機械・器具
294	ローラー鉗子	1	機械・器具
295	チューブ鉗子	2	機械・器具
296	器械鉗子	1	機械・器具
297	消息子　無鉤　18cm	1	機械・器具
298	鉗子立て	1	機械・器具
299	鉗子立てカバー	1	機械・器具
300	万能壺[ガラス]	7	機械・器具
301	ナーサスハサミ	15	機械・器具
302	ペアン＃504	30	機械・器具
303	ステンレス深型組バッド	1	機械・器具
304	投薬ケース取り外し式	1	機械・器具
305	投薬トレー(20人用)	1	機械・器具
306	ベッド用与薬袋	1	機械・器具
307	ベッド用与薬ケース	1	機械・器具
308	投薬瓶　CRボトル（未滅菌）	2	機械・器具
309	薬盃	1	機械・器具
310	磁製乳鉢[乳棒付き]	1	機械・器具
311	防護キット[ケモ用]	1	機械・器具
312	丸型カスト	1	機械・器具
313	マイスコピンセット	24	機械・器具
314	麦粒鉗子	4	機械・器具
315	鉗子立て	1	機械・器具
316	折りたたみ式シリコン桶	3	機械・器具
317	アネロイド血圧計	13	機械・器具
318	アネロイド血圧計(ワンハンド型)	13	機械・器具
319	アネロイド血圧計	1	機械・器具
320	デジタル血圧計(上腕式)	1	機械・器具
321	デジタル血圧計(手首式)	1	機械・器具
322	血圧計用マンセッター	1	機械・器具
323	血圧計用マンセッター	1	機械・器具
324	シリコンバイドブロック　大	1	機械・器具
325	折りたたみ式カート	13	機械・器具
326	ウチダ　多目的スタックテーブル	6	機械・器具
327	CPS実習ユニット	1	機械・器具
328	加湿流量計[ボンベ]	7	機械・器具
329	ダイヤル式減圧弁[ボンベ用]	7	機械・器具
330	MMI酸素マスク	3	機械・器具
331	S（スタンド型接続コネクター）	2	機械・器具
332	クリア高濃度酸素フェースマスクS	1	機械・器具
333	酸素鼻孔カニューラ[ニッセイ]	1	機械・器具
334	アジャスタブルベンチュリーマスク1個（酸素用）（Sコネクター）	1	機械・器具
335	アジャスタブルベンチュリーﾏｽｸ1個ｴｱｿﾞｰﾙ用（Sコネクター）	1	機械・器具
336	車いす用酸素ボンベ架台	1	機械・器具
337	酸素ボンベ車	12	機械・器具
338	日商式吸入用コンプレッサー	1	機械・器具
339	エマジン小型吸引器	13	機械・器具
340	膿盆	13	機械・器具
341	膿盆	13	機械・器具
342	IVスタンド	2	機械・器具
343	折りたたみ式器械台（手摺付）	13	機械・器具
344	BMI指数付テープメジャー	1	機械・器具
345	メジャー	13	機械・器具
346	携帯型心電計	1	機械・器具

	購入品名	数量	備考
347	水銀レス血圧計	18	機械・器具
348	電子体温計	20	機械・器具
349	BMI体重計	1	機械・器具
350	小型アネロイド血圧計	13	機械・器具
351	デジタル血圧計(手首式)	1	機械・器具
352	折りたたみ式器械台(手摺なし)	6	機械・器具
353	吸引・吸入両用器　セパーⅡ	1	機械・器具
354	超音波ネブライザー	1	機械・器具
355	くすり整理キープボックス	1	機械・器具
356	おくすり当番投薬カレンダー	1	機械・器具
357	抗菌聴診器ナーシングフォネット(ダブル)	5	機械・器具
358	体温計	2	機械・器具
359	体温計	2	機械・器具
360	イチジク浣腸	1	機械・器具
361	アジャスタブルベンチュリーマスク1個(酸素用)(Sコネクター)	1	機械・器具
362	アジャスタブルベンチュリーﾏｽｸ1個ｴｱｿﾞｰﾙ用(Sコネクター)	1	機械・器具
363	ボンベ架付きガードル台	1	機械・器具
364	コンプレッサー式ネブライザー	1	機械・器具
365	コンプレッサー式ネブライザ	1	機械・器具
366	低圧持続吸引器　コンスタント3	1	機械・器具
367	小児用マンシャット[布袋付]	2	機械・器具
368	小児用アニマル聴診器	2	機械・器具
369	小児用イルリガードルスタンド	1	機械・器具
370	MMI酸素マスク	1	機械・器具
371	アトム吸引器D－58	1	機械・器具
372	ペアン＃５０４	12	機械・器具
373	知覚系(オイレンブルヒ式)	1	機械・器具
374	打診器(バビンスキー式)	1	機械・器具
375	打診器(米式)多機能型	1	機械・器具
376	音叉(ルーツェ氏)	1	機械・器具
377	メディカル角度計	1	機械・器具
378	万能瞳孔計	13	機械・器具
379	ペインスケール	1	機械・器具
380	心電図スケール	1	機械・器具
381	心電図スケール	1	機械・器具
382	小児用マンシャット[布袋付]	2	機械・器具
383	小児用マンシャット[布袋付]	2	機械・器具
384	ナーシングフォネット	5	機械・器具
385	小児アニマル聴診器	2	機械・器具
386	小児アニマル聴診器	2	機械・器具
387	コードレス聴診教育システム	1	機械・器具
388	体温計	2	機械・器具
389	救急カート　縦仕切板(浅)	5	機械・器具
390	救急カート　縦仕切板(深)	2	機械・器具
391	救急カート　横仕切板(浅)	4	機械・器具
392	救急カート　横仕切板(深)	2	機械・器具
393	気道管理器具セットB	1	機械・器具
394	シリコンバイドブロック　中	1	機械・器具
395	シリコンバイドブロック　小	1	機械・器具
396	腕枕[V字ホールドタイプ]	13	機械・器具
397	専用ﾃﾞｨｽﾌﾟｶﾊﾞｰ	1	機械・器具
398	駆血帯[ラテックスフリー]	1	機械・器具
399	カラー小児駆血帯	1	機械・器具
400	駆血帯[ゴム管付]	13	機械・器具
401	クイックリリース駆血帯	1	機械・器具
402	キッズターニケット	1	機械・器具
403	止血帯[KDLﾌﾟﾚｯｼｬｰﾊﾞﾝﾃｰｼﾞ]	1	機械・器具
404	輸液ゲージ	7	機械・器具
405	輸液ゲージ	6	機械・器具
406	I.V.プロテクター	1	機械・器具
407	RCナーシングシステム	1	機械・器具
408	注射針／注射器の実習用サンプルセット	1	機械・器具
409	ナースがおこなう処置に必要な実習用サンプルセット	1	機械・器具
410	感染性廃棄物安全処理ボックス	14	機械・器具
411	ハリポイ	1	機械・器具
412	ハリポイバケット	1	機械・器具
413	ハリポイバケット専用スタンド	1	機械・器具
414	ディスポ注射器各種	1	機械・器具
415	ディスポ注射器各種	1	機械・器具
416	ディスポ注射器インシュリン用	1	機械・器具

	購入品名	数量	備考
417	注射針「皮下注射用」100本入り	1	機械・器具
418	注射針「皮下注射用」101本入り	1	機械・器具
419	注射針「筋肉用100本入り	1	機械・器具
420	注射針「筋肉用101本入り	1	機械・器具
421	注射針「静脈用」100本入り	1	機械・器具
422	注射針「静脈用」101本入り	1	機械・器具
423	翼付静脈注射	1	機械・器具
424	静脈留置カテーテル	1	機械・器具
425	静脈留置カテーテル	1	機械・器具
426	延長ﾁｭｰﾌﾞ 100×4	1	機械・器具
427	輸液セット 200セット入り	1	機械・器具
428	注射シュミレータ模擬アンプル	6	機械・器具
429	注射シュミレータ模擬アンプル	6	機械・器具
430	注射シュミレータ模擬アンプル	6	機械・器具
431	輸液実習用本体	1	機械・器具
432	輸液実習用本体	1	機械・器具
433	テーパー付きバッド	13	機械・器具
434	テーパー付きバッド	13	機械・器具
435	テーパー付きバッド	13	機械・器具
436	ネオチューブ真空採血管	1	機械・器具
437	真空採血管用針	1	機械・器具
438	真空採血管針付ホルダー	1	機械・器具
439	アルウエッティ[酒精綿]	1	機械・器具
440	消毒入りカップ綿球	1	機械・器具
441	ガーゼ[滅菌アブゴーズP・Yカット]	2	機械・器具
442	ベスケア 滅菌折りガーゼ	2	機械・器具
443	プロシェアサージカルテープ	3	機械・器具
444	プロシェアサージカルテープ	3	機械・器具
445	マルチポアTMドライ	3	機械・器具
446	マルチポアTMドライ	3	機械・器具
447	サージカルテープ[3MTMやさしくはがせるシリコーンテープ]	2	機械・器具
448	サージンフィルム30ミクロン	1	機械・器具
449	ネオフィールド栄養ボトル	13	機械・器具
450	ネオフィード栄養セット	2	機械・器具
451	胃管カテーテル14Fr	2	機械・器具
452	バードガストロストミーチューブ	1	機械・器具
453	カテーテル用シリンジ[GA]	1	機械・器具
454	ポリガードル 500ml	1	機械・器具
455	ネラトンカテーテル 11号	1	機械・器具
456	ネラトンカテーテル 12号	1	機械・器具
457	ネラトンカテーテル 13号	1	機械・器具
458	ネラトンカテーテル 15号	1	機械・器具
459	ゴム管 No. 6（アメゴム）	1	機械・器具
460	ディスポーザブルグリセリン浣腸	1	機械・器具
461	ディスポーザブルグリセリン浣腸	1	機械・器具
462	ゴム製ロート付胃洗浄	1	機械・器具
463	ゴム製ロート付胃洗浄	1	機械・器具
464	ゴム製ロート付胃洗浄	1	機械・器具
465	ゴム製ロート付胃洗浄	1	機械・器具
466	砲型シカン	1	機械・器具
467	手洗いチェッカーBLB	1	機械・器具
468	手洗いチェッカーﾛｰｼｮﾝ（250ml）	3	機械・器具
469	コンプレッサー式ネブライザ	1	機械・器具
470	アトム吸引器D－58用スタンド	3	機械・器具
471	手術着	1	機械・器具
472	手術帽	1	機械・器具
473	手術用マスク	1	機械・器具
474	手術用手袋（6号）	1	機械・器具
475	手術用手袋（6.5号）	1	機械・器具
476	手術用手袋（7号）	1	機械・器具
477	コッヘル止血鉗子（無鉤）	7	機械・器具
478	コッヘル止血鉗子（有鉤）	7	機械・器具
479	コッヘル止血鉗子（無鉤）	7	機械・器具
480	メス	1	機械・器具
481	クーパー	1	機械・器具
482	ステンレス深型組フタ	1	機械・器具
483	ポリシーラー(卓上型)	1	機械・器具
484	ステリーフ(滅菌ロールバック)	2	機械・器具
485	ステリーフ(滅菌ロールバック)	2	機械・器具
486	ステリーフ(滅菌ロールバック)	1	機械・器具

	購入品名	数量	備考
487	投薬トレー(20人用)	1	機械・器具
488	介助車	1	機械・器具
489	フルリクライニング車椅子	5	機械・器具
490	4点支持杖(ラージベース)	1	機械・器具
491	4点支持杖(スモールベース)	1	機械・器具
492	アルミ製伸縮式ステッキ	1	機械・器具
493	ニュー4ポイントステッキ	1	機械・器具
494	コンパクトウォーカー	1	機械・器具
495	立ち上がり固定式歩行器	1	機械・器具
496	歩行車(折りたたみ式)	1	機械・器具
497	酸素ボンベカー[サニー]	1	機械・器具
498	ステッキホルダー	3	機械・器具
499	杖ホルダー[転ばぬ杖C]	1	機械・器具
500	マジックリーチャー	1	機械・器具
501	マジックリーチャー	1	機械・器具
502	びん蓋開け(2個セット)	1	機械・器具
503	ペットボトルオープナー	1	機械・器具
504	ページめくり	1	機械・器具
505	ペンホルダー	1	機械・器具
506	ドレッシング・エイド	1	機械・器具
507	ボタン掛け	1	機械・器具
508	ボタン掛け	1	機械・器具
509	ストッキング・エイド	1	機械・器具
510	折り曲げスプーン	1	機械・器具
511	折り曲げフォーク	1	機械・器具
512	フードガード	1	機械・器具
513	滑り止め食器ﾒﾗﾐﾝ樹脂製	1	機械・器具
514	滑り止め食器ﾒﾗﾐﾝ樹脂製	1	機械・器具
515	もしもしフォン	1	機械・器具
516	らく飲み	1	機械・器具
517	フィーティングスプーン(介助用)	1	機械・器具
518	フィーティングスプーン(介助用)	1	機械・器具
519	フィーティングスプーン(介助用)	1	機械・器具
520	すくいやすいスプーン	1	機械・器具
521	すくいやすいフォーク	1	機械・器具
522	多機能スプーン箸　ケンジー	1	機械・器具
523	らくらく箸(クリップタイプ)	1	機械・器具
524	らくらくゴックン	1	機械・器具
525	らくらくゴックン	1	機械・器具
526	シュア・グリップマグ	1	機械・器具
527	シュア・グリップマグ	1	機械・器具
528	シュア・グリップマグ	1	機械・器具
529	マルチフードカッター	1	機械・器具
530	くねくねフォーク＆スプーン	1	機械・器具
531	くねくねフォーク＆スプーン	1	機械・器具
532	車椅子	1	機械・器具
533	肘跳ね上げ多機能介助車	5	機械・器具
534	車椅子[スチール製]	5	機械・器具
535	松葉杖(アルミ製)	1	機械・器具
536	松葉杖(アルミ製)	1	機械・器具
537	松葉杖(アルミ製)	1	機械・器具
538	座卓(折脚)角形	1	機械・器具
539	床頭台	1	機械・器具
540	環境管理温湿度計[熱中症注意]	1	機械・器具
541	ジョイント式ふとん払いブラシ	1	機械・器具
542	背もたれ	1	機械・器具
543	簡易浴槽	1	機械・器具
544	床走行式電動介護リフト	1	機械・器具
545	ハイバックRL	1	機械・器具
546	高齢者疑似体験セット(ｴﾙﾀﾞｰﾄﾗｲ)	5	機械・器具
547	文字が大きく書けるベッドネーム	3	機械・器具
548	浴槽ボード	1	機械・器具
549	入浴用キャリーベルト	1	機械・器具
550	在宅ケアベッド(福祥　HXS)	1	機械・器具
551	マットレス[低／高反発両用]	1	機械・器具
552	起き上がりマットレス	1	機械・器具
553	サイドレール	1	機械・器具
554	オーバーヘッドテーブル	2	機械・器具
555	リハビリテーブル	1	機械・器具
556	CXチェア、肘付	3	機械・器具

	購入品名	数量	備考
557	床頭台	3	機械・器具
558	脱衣カゴ2段	3	機械・器具
559	エキスパンダースクリーン	3	機械・器具
560	転倒予防シューズ(屋内用)	3	機械・器具
561	転倒予防シューズ(屋内用)	3	機械・器具
562	環境管理温湿度計「省エネさん」	1	機械・器具
563	ポジションフリーティッシュケース	1	機械・器具
564	ベッドサイド用くずかご	1	機械・器具
565	くずかご用フレーム	1	機械・器具
566	踏台	1	機械・器具
567	脚立　K20	1	機械・器具
568	コロコロ(スタンダード)	3	機械・器具
569	ホスピタルワゴン	1	機械・器具
570	温湿度計	1	機械・器具
571	天井走行ガードルハンガー	26	機械・器具
572	フードボックス	1	機械・器具
573	電子レンジ	1	機械・器具
574	冷蔵庫	1	機械・器具
575	カリスト電動低床ベッド	1	機械・器具
576	ウッディ3クランクギャジベッド	1	機械・器具
577	サポートグリップ	1	機械・器具
578	キャスターストッパー付き	2	機械・器具
579	スイングアーム介助バー	1	機械・器具
580	専用ベッドサイドレール	1	機械・器具
581	ベッドサイドレール(スタンダード)	1	機械・器具
582	ベッドサイドレール(木目タイプ)	2	機械・器具
583	ソフトカバー	1	機械・器具
584	クリアカバー	1	機械・器具
585	フットサポート	1	機械・器具
586	プチナース・ゴミ箱	4	機械・器具
587	コロコロ専用スペアテープ	1	機械・器具
588	テーブルホウキセット	1	機械・器具
589	浴室手すり	1	機械・器具
590	ぐりーんまっと	2	機械・器具
591	入浴応援手おけ	1	機械・器具
592	入浴応援手おけ	1	機械・器具
593	ステンレス製浴槽台R	1	機械・器具
594	湯おけスタンド　S	1	機械・器具
595	万能滑り止めテープⅡ	1	機械・器具
596	パッとつけられる入浴介護ｴﾌﾟﾛﾝ	1	機械・器具
597	パッとつけられる入浴介護ｴﾌﾟﾛﾝ	1	機械・器具
598	バスブーツ	1	機械・器具
599	入浴介助用ネット	1	機械・器具
600	ハンガーバスケット	1	機械・器具
601	聴覚障害体験用イヤーマフ	5	機械・器具
602	2.5ml　SS02SZ	1	機械・器具
603	5ml　SS05SZ	1	機械・器具
604	10ml　SS-10ESZ	1	機械・器具
605	20ml　SS-20ESZ	1	機械・器具
606	30ml　SS-30ESZ	1	機械・器具
607	50ml　SS-50ESZ	1	機械・器具
608	25G	1	機械・器具
609	26G	1	機械・器具
610	22G	1	機械・器具
611	ｻﾌｨｰﾄﾞ　20G	1	機械・器具
612	歯固め　コンビスマイルラボ	1	機械・器具
613	がらがらおもちゃ	1	機械・器具
614	エデュテ　KOROKOROパズル	1	機械・器具
615	紐通し	1	機械・器具
616	バランスｹﾞｰﾑ	1	機械・器具
617	ハッピーアワークロック	1	機械・器具
618	角皿　10枚組	3	機械・器具
619	多用蜂　10個組	3	機械・器具
620	離乳食の進め方目安モデル	1	機械・器具
621	イージースライド　L	1	機械・器具
622	ムーブマスター	1	機械・器具
623	移座えもんボード	1	機械・器具
624	食事立札	30	機械・器具
625	食事札替え用紙	1	機械・器具
626	絶食注意表	1	機械・器具

	購入品名	数量	備考
627	ベッド用食事制限札	1	機械・器具
628	ベッド用食事制限札2	1	機械・器具
629	ベッド用食事制限札3	1	機械・器具
630	神経・血管腕モデル	1	機械・器具
631	ガーゼねまき婦人用	15	機械・器具
632	ふとんリネン一式	1	機械・器具
633	寝巻き	1	機械・器具
634	ジュニア用掛布団	2	機械・器具
635	ベビー用フィットドレスプードル	2	機械・器具
636	ベッドリネン一式	3	機械・器具
637	掛け布団	3	機械・器具
638	ダニ防止用カバー	3	機械・器具
639	リクライニングピロー	3	機械・器具
640	ジュニア用かけ布団カバー	2	機械・器具
641	ジュニア用マトレスパッド	2	機械・器具
642	ジュニア用枕と枕カバー	2	機械・器具
643	ジュニア用綿毛布	2	機械・器具
644	ガーゼねまき婦人用	15	機械・器具
645	ガーゼねまき紳士用	7	機械・器具
646	ガーゼねまき紳士用	4	機械・器具
647	寝巻き	1	機械・器具
648	寝巻き	1	機械・器具
649	寝巻き	1	機械・器具
650	グンゼ紳士パジャマ	1	機械・器具
651	おむつカバー	2	機械・器具
652	メッシュカバー	2	機械・器具
653	メッシュカバー	1	機械・器具
654	ソフト肌着紳士用	2	機械・器具
655	胃ろう用肌着[腹帯付き]	1	機械・器具
656	ルームシューズ[ソフトケア]	1	機械・器具
657	長袖ボタン付パジャマ	2	機械・器具
658	乳児用肌着	2	機械・器具
659	乳児用おむつカバー	4	機械・器具
660	トイレトレーニングセット	1	機械・器具
661	靴下	4	機械・器具
662	スタイ	4	機械・器具
663	女児パジャマ	1	機械・器具
664	女児パンツ	1	機械・器具
665	女児肌着	1	機械・器具
666	女児靴下	1	機械・器具
667	バスタオル	1	機械・器具
668	フェイスタオル	1	機械・器具
669	ハンドタオル(白)	1	機械・器具
670	ハンドタオル(青)	1	機械・器具
671	介護用大判バスタオル	2	機械・器具
672	糖尿病1単位の食材75セット	1	機械・器具
673	腎臓病指導用食品(50種)	1	機械・器具
674	減塩食指導用食品(26種類)	1	機械・器具
675	嚥下障害献立例	1	機械・器具
676	保管用ケース	1	機械・器具
677	めだまんず	1	機械・器具
678	折り上げ卓子	3	機械・器具
679	トラウベ・木下式産科聴診器	3	機械・器具
680	樋口式産科聴診器	3	機械・器具
681	アトムフィータルドップラ	1	機械・器具
682	アトム妊娠歴	4	機械・器具
683	妊娠週数スケール	11	機械・器具
684	ボンベ架付きガードル台	1	機械・器具
685	メジャー	12	機械・器具
686	聴診器　プロフェッショナル	3	機械・器具
687	ダブル聴診器	12	機械・器具
688	抗菌聴診器ナーシングフォネット	12	機械・器具
689	ミノルタ　黄疸計	1	機械・器具
690	乳房マッサージﾓﾃﾞﾙⅢ型(装着型)	3	機械・器具
691	マミージョイ　LDR	1	機械・器具
692	コッヘル止血鉗子	6	機械・器具
693	コッヘル止血鉗子	6	機械・器具
694	ペアン止血鉗子	6	機械・器具
695	ペアン止血鉗子	6	機械・器具
696	アトム臍帯クランプ	1	機械・器具

	購入品名	数量	備考
697	臍帯剪刃	3	機械・器具
698	外科剪刃	3	機械・器具
699	子宮ピンセット(無鉤)	3	機械・器具
700	子宮ピンセット(有鉤)	3	機械・器具
701	外科ピンセット併式(MMI)	12	機械・器具
702	クスコ式膣鏡　S	3	機械・器具
703	クスコ式膣鏡　M	3	機械・器具
704	クスコ式膣鏡　L	3	機械・器具
705	デジタルストップウォッチ	3	機械・器具
706	分娩監視装置FM－20N	1	機械・器具
707	分娩監視装置FM－20N用スタンド	1	機械・器具
708	シャーレ(ステンレス製)	12	機械・器具
709	目盛付き万能壺[蓋なし]	3	機械・器具
710	ボール(ステンレス製)	3	機械・器具
711	MMI膿盆ステンレス製	3	機械・器具
712	MMI膿盆ステンレス製	3	機械・器具
713	メジャーカップ	3	機械・器具
714	器械台　四方手摺付逆盆式	3	機械・器具
715	処置・診断照明灯GS300	1	機械・器具
716	処置・診断照明灯GS300	1	機械・器具
717	キックバケツ	1	機械・器具
718	デジタルはかり(検定付)	1	機械・器具
719	ステンレスものさし　30cm	3	機械・器具
720	ラミナリア桿	1	機械・器具
721	ラミナリア桿	1	機械・器具
722	アトム羊水吸引カテーテル	2	機械・器具
723	バルーンシリンジ	2	機械・器具
724	トレー(中)	3	機械・器具
725	トレー(小)	3	機械・器具
726	セーフティーバンド(ベビー用)	1	機械・器具
727	アトム産褥椅子　チェアタイプ	1	機械・器具
728	乳帯	1	機械・器具
729	さらし木綿	2	機械・器具
730	伸縮性ママ帯[ベリーナ]	2	機械・器具
731	犬印　臍帯箱	1	機械・器具
732	洗浄ボトル	3	機械・器具
733	PROMRT分娩介助教育トレーナー	3	機械・器具
734	ベビーバス	10	機械・器具
735	コーケン未熟児モデルA	1	機械・器具
736	コーケン未熟児モデルB	1	機械・器具
737	コーケンベビー男の子	4	機械・器具
738	コーケンベビー女の子	6	機械・器具
739	コーケンベビー欧米人顔	2	機械・器具
740	沐浴人形柔シリーズ	4	機械・器具
741	新生児短肌着	40	機械・器具
742	新生児長肌着	40	機械・器具
743	新生児ワンタッチツーウェイフィットドレス	13	機械・器具
744	新生児用ベビーベスト付ツーウェイドレス	24	機械・器具
745	ベビーキャップ[新生児保温用]	2	機械・器具
746	洗面器深型	12	機械・器具
747	ボールSR－４１２	12	機械・器具
748	メジャーカップSR-439A	12	機械・器具
749	子供用手桶	12	機械・器具
750	子供用湯桶(洗面器)	12	機械・器具
751	沐浴用布ガーゼ	45	機械・器具
752	ガーゼハンカチ	5	機械・器具
753	ピジョン新生児用つめ切りハサミ	12	機械・器具
754	ビジョン　ヘアーセット	12	機械・器具
755	風呂用温度計(おさかな)	12	機械・器具
756	防水シーツ	12	機械・器具
757	折りたたみ式器械台(手摺なし)	11	機械・器具
758	ウチダ　多目的スタックテーブル	5	機械・器具
759	コンパクトベッド	1	機械・器具
760	アトム新生児ベッドBC-42B	8	機械・器具
761	ラビーインキュi(キャビネット)	1	機械・器具
762	インファウォーマI	1	機械・器具
763	ベビーカード(新生児用)	1	機械・器具
764	ベッドネーム　ﾋﾞﾆｰﾙ吊り下げﾀｲﾌﾟ	2	機械・器具
765	MMI認識バンド(小児用)	1	機械・器具
766	上掛けタオル	5	機械・器具

	購入品名	数量	備考
767	ポジショントールA	1	機械・器具
768	プローンプラス L	1	機械・器具
769	ハッピーピロー	3	機械・器具
770	ハッピーピロー用カバー	1	機械・器具
771	ガーゼマルチクッション	5	機械・器具
772	デジタル乳幼児用スケール[検定月]	4	機械・器具
773	アネロイド血圧計	1	機械・器具
774	アネロイド血圧計	1	機械・器具
775	自動血圧計	1	機械・器具
776	水銀レス血圧計	1	機械・器具
777	プライスキー骨盤計	1	機械・器具
778	マルチン骨盤計	1	機械・器具
779	児頭計測計	1	機械・器具
780	折りたたみ式ベビーボード	4	機械・器具
781	新生児蘇生モデル	1	機械・器具
782	妊婦外診モデル	1	機械・器具
783	助産演習モデルセット(内診・分娩用外陰部Ⅱ型)	1	機械・器具
784	バイタルサインベビーⅡ	1	機械・器具
785	母性総合シュミレーション	1	機械・器具
786	裂傷縫合ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾓﾃﾞﾙwith DVD	1	機械・器具
787	授乳指導人形 たぁくん	2	機械・器具
788	授乳指導人形 たぁくん	2	機械・器具
789	胎児超音波教育ユニット	1	機械・器具
790	外回転モデル	1	機械・器具
791	ピッチャー	12	機械・器具
792	マミージョイ搬入費用	1	機械・器具
793	ディスポシーツ	1	機械・器具
794	レギンスカバー	1	機械・器具
795	腹部シーツ	1	機械・器具
796	機械台シーツ	1	機械・器具
797	ベビークロス	1	機械・器具
798	ベビークロス	1	機械・器具
799	分娩シート	1	機械・器具
800	アンダーパッド	1	機械・器具
801	ガウン	1	機械・器具
802	ドクターキャップ	1	機械・器具
803	角バッド	1	機械・器具
804	手洗鉢(ステンレス製)	1	機械・器具
805	手洗鉢(ステンレス製)	1	機械・器具
806	手洗鉢(ステンレス製)	1	機械・器具
807	丸型カスト	1	機械・器具
808	丸型カスト台	1	機械・器具
809	鉗子立て	2	機械・器具
810	鉗子立てカバー	2	機械・器具
811	麦粒鉗子	1	機械・器具
812	器械鉗子	1	機械・器具
813	タオル鉗子	6	機械・器具
814	セーフティーバンド(ベビー用)	1	機械・器具
815	お産用セット	1	機械・器具
816	ホウイトボード(たて型)	2	機械・器具
817	新生児用ｺﾝﾋﾞ肌着	25	機械・器具
818	布製おむつ 10枚セット	2	機械・器具
819	成形プチ布おむつ	1	機械・器具
820	新生児用おむつカバー	25	機械・器具
821	新生児用ベビー靴下	25	機械・器具
822	アフガン(綿100%おくるみ)	13	機械・器具
823	スタイ	15	機械・器具
824	メグジョイPAF	1	機械・器具
825	スターカティングチェアー	2	機械・器具
826	床用マット	1	機械・器具
827	保育器搬入費用	1	機械・器具
828	ｲﾝﾌｧｳｫｰﾏ搬入費用	1	機械・器具
829	アトムネオテーブル	1	機械・器具
830	オムツ交換台	10	機械・器具
831	ベビーカード(新生児用)	1	機械・器具
832	ベビー用綿毛布	12	機械・器具
833	綿100%おくるみ	12	機械・器具
834	オムツ替えマット	10	機械・器具
835	かどまるマクラ	2	機械・器具
836	かどまるマクラ枕用綿製カバー	2	機械・器具

	購入品名	数量	備考
837	綿毛布とカバー	2	機械・器具
838	ベッド枕とカバー	1	機械・器具
839	マットレス用シーツ	1	機械・器具
840	マットレスパッド	1	機械・器具
841	ポジショントール超未熟児ﾀｲﾌﾟ	1	機械・器具
842	プローンプラス　M	1	機械・器具
843	プローンプラス　SS	1	機械・器具
844	ハッピーピロー4G	3	機械・器具
845	ハッピーピロー用カバー	1	機械・器具
846	ハッピーピロー用カバー	1	機械・器具
847	ハッピーピロー4G用カバー	1	機械・器具
848	ハッピーピロー4G用カバー	1	機械・器具
849	ハッピーピロー4G用カバー	1	機械・器具
850	エミット妊産婦患者衣	2	機械・器具
851	手動式吸引器	1	機械・器具
852	携帯用酸素吸入器　O_2パック	1	機械・器具
853	訪問用ヘルパーバック	3	機械・器具
854	訪問用乳児体重計・体重台セット	3	機械・器具
855	乳幼児身長計[3ツ折型]	3	機械・器具
856	小型アネロイド血圧計	3	機械・器具
857	メジャー	3	機械・器具
858	電子体温計	3	機械・器具
859	ストップウォッチ[アクアランナー]	3	機械・器具
860	体重体組成計	1	機械・器具
861	小児用マンシャット[布袋付]	2	機械・器具
862	小児用マンシャット[布袋付]	11	機械・器具
863	パルスオキシメータ	1	機械・器具
864	電子体温計	3	機械・器具
865	皮膚・耳赤外線体温計	1	機械・器具
866	婦人体温計	1	機械・器具
867	デジタルノギス	12	機械・器具
868	打鍵器（バビンスキー）	3	機械・器具
869	ソフトLEDペンライト	3	機械・器具
870	日母型有窓鈍匙　4.5mm	1	機械・器具
871	日母型有窓鈍匙　6mm	1	機械・器具
872	日母型有窓鈍匙　9mm	1	機械・器具
873	日母型有窓鈍匙　12mm	1	機械・器具
874	日母型有窓鈍匙　15mm	1	機械・器具
875	子宮頸管拡張器	1	機械・器具
876	塚原膣部鉗子　ネジ止	1	機械・器具
877	マルチン単鉤鉗子　ネジ止	1	機械・器具
878	ミューゾ双鉤鉗子　ネジ止	1	機械・器具
879	胎盤鉗子　4.5mm	1	機械・器具
880	胎盤鉗子　6mm	1	機械・器具
881	胎盤鉗子　9mm	1	機械・器具
882	胎盤鉗子　12mm	1	機械・器具
883	胎盤鉗子　15mm	1	機械・器具
884	桜井固定膣鏡	1	機械・器具
885	桜井固定膣鏡	1	機械・器具
886	京大式産科ジモン膣鏡	3	機械・器具
887	京大式産科圧定鈎	3	機械・器具
888	アトム産褥用膣鏡	3	機械・器具
889	深型フタ付ステンレスパッド	1	機械・器具
890	器械卓子兼消毒盤台	1	機械・器具
891	アトム吸引娩出器VP－450	1	機械・器具
892	アウス用嘴管セット	1	機械・器具
893	ネーゲル産科鉗子	1	機械・器具
894	外科剪刃	3	機械・器具
895	外科剪刃	3	機械・器具
896	外科ピンセット折曲式(MM)	3	機械・器具
897	外科ピンセット折曲式(MM)	3	機械・器具
898	コッヘル止血鉗子（無鉤）	3	機械・器具
899	コッヘル止血鉗子（有鉤）	3	機械・器具
900	マッチュー持針器	3	機械・器具
901	針付縫合針	2	機械・器具
902	縫合糸	2	機械・器具
903	浅型角パッド	5	機械・器具
904	救急用ポータブル型蘇生器	1	機械・器具
905	酸素ボンベ　2L	1	機械・器具
906	グリーンライン・	1	機械・器具

	購入品名	数量	備考
907	小型吸引器	1	機械・器具
908	シリコンレサシテータ	1	機械・器具
909	卓上オートクレーブ用角カスト	1	機械・器具
910	カストシート	1	機械・器具
911	折り上げ卓子	3	機械・器具
912	1人用手洗い装置　100V	1	機械・器具
913	足踏式手指消毒器	1	機械・器具
914	（肘動式・壁掛式）	1	機械・器具
915	手洗いブラシ（樹脂台）	1	機械・器具
916	ジャクソンリース蘇生回路	1	機械・器具
917	フェイスマスク(新生児用)	1	機械・器具
918	アトム酸素鼻孔カニューラ	1	機械・器具
919	セフティフローOX－202B	1	機械・器具
920	ステンレス便器(米式)	1	機械・器具
921	MMI便器カバー（ベッドバン用）	1	機械・器具
922	安楽便器(専用パッド付)	1	機械・器具
923	透明尿器(女性用)	3	機械・器具
924	ネラトンカテーテル10号	2	機械・器具
925	ポリシリンダー[PP]	1	機械・器具
926	授乳用品セット	1	機械・器具
927	口唇口蓋裂児用哺乳器	1	機械・器具
928	桶谷式直接授乳訓練用	1	機械・器具
929	調乳ポット	1	機械・器具
930	テテオ授乳のお手本	1	機械・器具
931	テテオ授乳のお手本	1	機械・器具
932	病産院用乳首	1	機械・器具
933	できるだけおっぱいで育てようセット	1	機械・器具
934	マミーホット＆クール	1	機械・器具
935	乳頭保護器(授乳用ソフトタイプ)	1	機械・器具
936	乳頭保護器(授乳用ソフトタイプ)	1	機械・器具
937	乳頭保護器	2	機械・器具
938	乳頭吸引器	2	機械・器具
939	離乳食調理セット（リッチェル）	1	機械・器具
940	離乳食まな板	1	機械・器具
941	リッチェルベビー食器セット	1	機械・器具
942	エジソンの食育セット	1	機械・器具
943	ベビーエプロン	1	機械・器具
944	ストローマグカップ	1	機械・器具
945	妊産婦食生活献立展開セット	1	機械・器具
946	裂傷縫合模型	1	機械・器具
947	縫合ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾓﾃﾞﾙ用ﾊﾟｯﾄﾞ	2	機械・器具
948	縫合ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾓﾃﾞﾙ用固定台	2	機械・器具
949	縫合ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ固定用ｽﾄｯﾊﾟｰｹﾞﾙ	1	機械・器具
950	ママニップシールドM	4	機械・器具
951	人体解剖模型　女子B－150形	1	標本・模型
952	人体骨格模型　男子SA－160形	1	標本・模型
953	血液循環系統模型　A61	1	標本・模型
954	頭蓋分解模型　H-11型　A-20	1	標本・模型
955	心臓構造模型　A型　A-58	1	標本・模型
956	呼吸器(肺臓)解剖模型　S141	1	標本・模型
957	消化器系統模型　A64	1	標本・模型
958	脳模型　B形　A28	1	標本・模型
959	脳および神経系模型　A25	1	標本・模型
960	筋肉組織模型　A74	1	標本・模型
961	皮膚組織模型　S184	1	標本・模型
962	眼球解剖模型　A型　S172	1	標本・模型
963	耳の構造模型　A形　A42	1	標本・模型
964	歯の構造模型　CIM形　A-68	1	標本・模型
965	歯磨き指導顎模型	1	標本・模型
966	歯磨き指導顎模用ブラシ	1	標本・模型
967	歯磨き指導顎模歯間ブラシ	1	標本・模型
968	鼻腔・咽頭・喉頭模型　A56	1	標本・模型
969	男性生殖器模型　A81	1	標本・模型
970	骨盤付き正規妊娠模型	1	標本・模型
971	女性子宮模型　A形　A84A	1	標本・模型
972	受胎原理　0128	1	標本・模型
973	乳房解剖模型　0124	1	標本・模型
974	骨盤底筋肉模型	1	標本・模型
975	骨盤罫線模型　0114	1	標本・模型
976	子宮頚管開大度説明ﾊﾟﾈﾙ	1	標本・模型

	購入品名	数量	備考
977	出産前の子宮頚検査実習用モデル	1	標本・模型
978	児頭付透明骨盤模型	1	標本・模型
979	ヒトの発生（卵割）模型A-140A	1	標本・模型
980	新型・妊娠支給経過モデル	1	標本・模型
981	受胎調節指導模型	3	標本・模型
982	分娩（第1期） MS45／1	1	標本・模型
983	分娩（第2期） MS45／2	1	標本・模型
984	分娩（第3期） MS45／3	1	標本・模型
985	悪露模型 F8	1	標本・模型
986	小児ふん便模型 A型20種	1	標本・模型
987	受胎調節指導標本Ⅱ	2	標本・模型
988	目で見る解剖と生理 第2版 全15巻	1	視聴覚資料
989	病気の原因・メカニズム・症状ｼﾘｰｽﾞ42巻	1	視聴覚資料
990	生命倫理を考える	1	視聴覚資料
991	救命救急シリーズ 全2巻	1	視聴覚資料
992	最新糖尿病外来診療のコツ	1	視聴覚資料
993	山内豊明教授の症状別・徴候別ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ	1	視聴覚資料
994	山内豊明教授のバイタルサインの測定 全3巻	1	視聴覚資料
995	排泄・食事・移動編 全8巻	1	視聴覚資料
996	最新基礎看護技術DVDシリーズⅡ 清潔編全8巻	1	視聴覚資料
997	診療・その他編全8巻	1	視聴覚資料
998	終末期とその後の看護技術編 全2巻	1	視聴覚資料
999	①総論・薬の知識	1	視聴覚資料
1000	②薬の管理とハイリスクの薬の知識	1	視聴覚資料
1001	4 留置針を用いた点滴静脈注射	1	視聴覚資料
1002	5 輸液ポンプを用いた点滴静脈注射	1	視聴覚資料
1003	VOL.1 検査時の看護Ⅰ	1	視聴覚資料
1004	VOL.2 検査時の看護Ⅱ	1	視聴覚資料
1005	褥瘡の予防と看護実践 全3巻セット	1	視聴覚資料
1006	術前の看護編 全3巻	1	視聴覚資料
1007	術中の看護編 全3巻	1	視聴覚資料
1008	術後の看護編 全3巻	1	視聴覚資料
1009	看護のための病態生理とアセスメント 全14巻	1	視聴覚資料
1010	看護のためのアセスメント事例集 第2版 全12巻	1	視聴覚資料
1011	目で見る老年看護学〈第2版〉	1	視聴覚資料
1012	小児看護技術(ﾅｰｼﾝｸﾞ･ｸﾞﾗﾌｨｶDVDｼﾘｰｽﾞ）全5巻	1	視聴覚資料
1013	乳幼児の発達と保育～こころとからだを育てる	1	視聴覚資料
1014	子どものフィジカルアセスメント 全4巻	1	視聴覚資料
1015	臨床で役立つ小児看護技術 全4巻	1	視聴覚資料
1016	新生児の蘇生	1	視聴覚資料
1017	目で見る母性看護学 全6巻	1	視聴覚資料
1018	母性看護学シリーズ―新生児編・褥婦編 全6巻	1	視聴覚資料
1019	目で見る新生児看護 全4巻	1	視聴覚資料
1020	ラクで楽しい母乳育児の支援 上巻 全身ケア・妊娠編	1	視聴覚資料
1021	ラクで楽しい母乳育児の支援 下巻 産褥・ﾄﾗﾌﾞﾙ対応編	1	視聴覚資料
1022	Consensus2010準拠 早産児の蘇生とケア	1	視聴覚資料
1023	カンガルーケア パワーアップ版	1	視聴覚資料
1024	DVD－ROM 3次元CGソフト	1	視聴覚資料
1025	CD－ROM付胎児心拍数モニタリング集中トレーニング	1	視聴覚資料
1026	もっと自由な出産を・フリースタイル出産の介助	1	視聴覚資料
1027	マタニティビクス 3巻組	1	視聴覚資料
1028	実践！ 訪問看護シリーズ 全4巻	1	視聴覚資料
1029	VOL.1 輸液ポンプ、シリンジポンプ	1	視聴覚資料
1030	VOL.2 除細動器	1	視聴覚資料
1031	VOL.3 低圧持続吸引器	1	視聴覚資料
1032	VOL.4 パルスオキシメーター、EtCO2モニター	1	視聴覚資料
1033	災害看護シリーズ 全4巻	1	視聴覚資料

資料6

看護学科　実習施設承諾書

No	施設名	所在地
1	日本医科大学　多摩永山病院	東京都多摩市永山1-7-1
2	日本医科大学　武蔵小杉病院	神奈川県川崎市中原区小杉町1-396
3	国家公務員共済組合連合会　立川病院	東京都立川市錦町4-2-22
4	独立行政法人　国立病院機構　村山医療センター	東京都武蔵村山市学園2-37-1
5	独立行政法人　国立病院機構　相模原病院	神奈川県相模原市南区桜台18-1
6	独立行政法人　国立病院機構　箱根病院	神奈川県小田原市風祭412
7	独立行政法人　国立がん研究センター　中央病院	東京都中央区築地5-1-11
8	社会医療法人財団石心会　川崎幸病院	神奈川県川崎市幸区大宮町31番地27
9	公立大学法人　横浜市立大学附属　市民総合医療センター	神奈川県横浜市南区浦舟町4-57
10	国家公務員共済組合連合会　虎の門病院	東京都港区虎ノ門2丁目2番地2号
11	埼玉県総合リハビリテーションセンター	埼玉県上尾市西貝塚148-1
12	社会医療法人財団大和会　武蔵村山病院	東京都武蔵村山市榎1-1-5
13	医療法人社団愛友会上尾甦生病院	埼玉県上尾市大字地頭方421番地1
14	独立行政法人　国立病院機構　神奈川病院	神奈川県秦野市落合666-1
15	社会医療法人財団石心会　埼玉石心会病院	埼玉県狭山市鵜ノ木1-33
16	埼玉県立小児医療センター	埼玉県さいたま市岩槻区大字馬込2100番地
17	東京都立北療育医療センター	東京都北区十条台1-2-3
18	独立行政法人　国立精神・神経医療研究センター　病院	東京都小平市小川東町4-1-1
19	独立行政法人　国立病院機構　久里浜医療センター	神奈川県横須賀市野比5-3-1
20	独立行政法人　国立国際医療研究センター　国府台病院	千葉県市川市国府台1-7-1
21	公立大学法人　横浜市立大学附属病院	神奈川県横浜市金沢区福浦3-9
22	公益財団法人　ライフ・エクステンション研究所付属　永寿総合病院	東京都台東区上野2-23-16
23	医療法人社団　崎陽会　日の出ヶ丘病院	東京都西多摩郡日の出町大久野310
24	東京ほくと医療生活協同組合　王子生協病院	東京都北区豊島3-4-15
25	宗教法人　救世軍　救世軍ブース記念病院	東京都杉並区和田1-40-5
26	社会福祉法人　賛育会　賛育会病院	東京都墨田区太平3-20-2
27	医療法人社団　珠光会　聖ヶ丘病院	東京都多摩市連光寺2-69-6
28	社会福祉法人信愛報恩会　信愛病院	東京都清瀬市梅園2-5-9
29	川崎市立井田病院	川崎市中原区井田2-27-1
30	多摩市　地域包括支援センター	東京都多摩市関戸6-12-1 多摩市健康福祉部高齢支援課
31	医療法人財団アドベンチスト会　東京衛生病院	東京都杉並区天沼3-17-3
32	社会福祉法人東京有隣会 有隣病院	東京都世田谷区船橋2-15-8
33	医療法人財団杏順会 越川病院訪問看護ステーション	東京都杉並区西荻北2-3-1-3F
34	蕨市立病院	埼玉県蕨市北町2-12-18
35	株式会社ファインケア　訪問看護ステーション　ファインケア多摩センター	東京都多摩市乞田895 ｽﾄｰﾝｸﾘｰｸ302
	株式会社ファインケア　訪問看護ステーション　ファインケア調布	東京都調布市下石原1-2-4 ﾔｼﾏﾋﾞﾙ1階
36	医療法人財団　天翁会　あいセーフティネット あい訪問看護ステーション	東京都多摩市貝取1431-3
	医療法人財団　天翁会　あいセーフティネット あい訪問看護ステーション平尾	東京都稲城市平尾1-43-15 ｱﾌﾞﾆｰﾙ新百合 1F
37	訪問看護ステーションさくらんぼ	東京都国分寺市戸倉1-12-49
38	医療法人社団幸隆会　多摩丘陵病院　わかば訪問看護ステーション	東京都町田市下小山田町1414
39	社会福祉法人正吉福祉会　やのくち正吉苑	東京都稲城市矢野口1804-3
40	医療法人社団杏順会　越川病院	東京都杉並区西荻北2-5-3
41	町田市民病院	東京都町田市旭町2-15-41
42	医療法人社団　桐光会　調布訪問看護ステーション	東京都調布市下石原3-45-1
43	社会福祉法人　桜ヶ丘社会事業協会 さくらが丘訪問看護ステーション	東京都多摩市連光寺1-1-1
44	つつじが丘訪問看護ステーション	東京都昭島市つつじが丘3-5-6-113
45	東海大学医学部付属八王子病院	東京都八王子市石川町1838
46	株式会社　エルハート訪問看護ステーション　エルハートナースケア	東京都調布市布田1-26-6-1A
47	医療法人社団　新愛会　東府中病院	東京都府中市若松町2-7-20
48	南東北グループ　医療法人社団　三成会 新百合ヶ丘総合病院	神奈川県川崎市麻生区古沢字都古225
49	医療法人社団 天紀会　こころのホスピタル町田	東京都町田市上小山田町2140
50	医療法人財団 明理会　鶴川サナトリウム病院	東京都町田市真光寺町197
51	公益財団法人東京都保健医療公社　多摩南部地域病院	東京都多摩市中沢2-1-2

52	稲城市立病院	東京都稲城市大丸1171

※７，１８，２０の施設は、平成２７年４月に「独立行政法人」から「国立研究開発法人」に組織および名称が変更された。

実習依頼施設一覧表

資料6

	実習病院名		住所　（実習開始年月日）	TEL	実習	人数	アクセス（多摩センターから最寄駅までの片道所要時間）	大学からの距離
1	日本医科大学　多摩永山病院	〒206-8512	東京都多摩市永山1－7－1 平成28年5月9日～	042－371－2111	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学実習Ⅱ（急性・回復期） 小児看護学実習 母性看護学実習 助産学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ	16名 16名 10名 20名 8名 16名 4名 10名 10名	京王バス永山行「消防署前」下車徒歩3分 （25分）	4.1km
2	日本医科大学　武蔵小杉病院	〒211-8533	神奈川県川崎市中原区小杉町1－396 平成28年6月20日～	044－733－5181	基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学実習Ⅱ（急性・回復期） 母性看護学実習 助産学実習	16名 10名 20名 16名 3名	JR南武線「武蔵小杉駅」より徒歩4分 （70分）	25.6km
3	国家公務員共済組合連合会 立川病院	〒190-8531	東京都立川市錦町4－2－22 平成28年5月9日～	042－523－3131	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ（慢性・長期療養） 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ	16名 16名 10名 20名 10名 10名	JR「西国立駅」より徒歩3分 （55分）	12.3km
4	独立行政法人国立病院機構 村山医療センター	〒208-0011	東京都武蔵村山市学園2－37－1 平成28年5月9日～	042－561－1221	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅱ（急性・回復期） 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ	16名 8名 10名 10名 10名	多摩都市モノレール「玉川上水駅」から立川バス立川行「学園」下車徒歩10分 （85分）	21.1km
5	独立行政法人国立病院機構 相模原病院	〒252-0392	神奈川県相模原市南区桜台18－1 平成28年5月9日～	042－742－8311	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 老年看護学実習Ⅰ（生活支援）	16名 8名 10名 24名	小田急線「相模原駅」北口下車、バスで「国立相模原病院」下車 （80分）	15.1km
6	独立行政法人国立病院機構 箱根病院	〒250-0032	神奈川県小田原市風祭412 平成28年5月16日～	0465－22－3196	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ（慢性・長期療養） 老年看護学実習Ⅰ（生活支援） 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ	8名 8名 10名 30名 32名 10名 10名	小田急線「風祭駅」下車徒歩2分 （130分）	66.3km
7	国立研究開発法人　国立がん研究センター　中央病院　（＊）	〒104-0045	東京都中央区築地5－1－1 平成30年7月2日～	03－3542－2511	成人看護学実習Ⅰ（慢性・長期療養） 成人看護学実習Ⅱ（急性・回復期） 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ	14名 12名 4名 4名	都営地下鉄大江戸線「築地市場駅」徒歩5分（90分）	36.4km
8	社会医療法人財団石心会　川崎幸病院	〒212-0014	神奈川県川崎市幸区大宮町31番地27 平成30年10月22日～	044－555－5106（看護部直通）	成人看護学実習Ⅱ（急性・回復期）	17名	JR「川崎駅」西口より徒歩7分 （85分）	33.0km
9	公立大学法人　横浜市立大学附属市民総合医療センター	〒232-0024	神奈川県横浜市南区浦舟町4－57 平成28年5月9日～	045－261－5656	基礎看護実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ（急性・回復期） 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ	8名 8名 8名 8名	横浜市営地下鉄「阪東橋駅」下車徒歩6分 （105分）	34.5km
10	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	〒105-8470	東京都港区虎ノ門2丁目2番地2号 平成31年5月13日～	03－3588－1111	成人看護学実習Ⅱ（急性・回復期） 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ 助産学実習	8名 10名 10名 3名	東京メトロ銀座線「虎ノ門」徒歩3分 （85分）	35.1km
11	埼玉県総合リハビリテーションセンター	〒362-8567	埼玉県上尾市西貝塚148－1 平成28年6月20日～	048－781－2222	基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ（慢性・長期療養） 統合実習Ⅰ	16名 10名 14名 10名	JR「大宮駅」西口より東武バス30分終点下車 （130分）	54.6km
12	社会医療法人財団大和会 武蔵村山病院	〒208-0022	東京都武蔵村山市榎1－1－5 平成30年7月2日～	042－566－3111	小児看護学実習 老年看護学実習Ⅰ（生活支援）	19名 8名	多摩都市モノレール「玉川上水」駅下車、バス「武蔵村山病院東」下車 （80分）	20.4km
13	医療法人社団愛友会　上尾甦生病院	〒362-0051	埼玉県上尾市大字地頭方421番地1 平成30年7月2日～	048－781－1101	老年看護学実習Ⅰ（生活支援）	18名	「川越駅」より東武バス上尾駅行き「壱丁目」停留所下車1分(140分)	54.1km
14	独立行政法人国立病院機構 神奈川病院	〒257-8585	神奈川県秦野市落合666－1 平成30年2月26日～	0463－81－1771	基礎看護学実習Ⅲ 小児看護学実習	10名 32名	小田急線「秦野駅」北口下車神奈中バス4番より「国立病院機構神奈川病院」終点下車(110分)	44.9km
15	社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院	〒350-1323	埼玉県狭山市稲ノ木1－33 平成30年7月2日～	04－2953－6611	小児看護学実習 老年看護学実習Ⅱ（緩和・看取）	19名 16名	西武新宿線「狭山市駅」西口下車、西武バス稲荷山公園行き「住宅入口バス停」下車徒歩5分 （110分）	42.6km
16	埼玉県立小児医療センター	〒339-8551	埼玉県さいたま市岩槻区大字馬込2100 平成30年7月2日～	048－758－1811	小児看護学実習 ※H28年～埼玉新都心へ移転	19名	JR宇都宮線「蓮田駅」東口から国際興業バス「小児医療センター」終点下車(130分)	59.4km
17	東京都立北療育医療センター	〒114-0033	東京都北区十条台1－2－3 平成30年7月2日～	03－3908－3001	小児看護学実習	10名	JR「十条駅」下車徒歩10分 （90分）	37.7km
18	国立研究開発法人　国立精神・神経医療研究センター　病院　（＊）	〒187-8551	東京都小平市小川東町4－1－1 平成28年5月9日～	042－341－2711	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ 精神看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ	16名 8名 10名 30名 10名 10名	西武拝島線「萩山駅」下車徒歩7分 （85分）	17.7km
19	独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター	〒239-0841	神奈川県横須賀市野比5－3－1 平成30年11月19日～	046－848－1550	精神看護学実習	25名	京浜急行「京急久里浜駅」からバス「久里浜医療センター」下車徒歩1分 （155分）	65.8km

	実習病院名		住所　　（実習開始年月日）	TEL	実習	人数	アクセス（多摩センターから最寄駅までの片道所要時間）	大学からの距離
20	国立研究開発法人　国立国際医療研究センター　国府台病院　（＊）	〒272-8516	千葉県市川市国府台1－7－1 平成30年2月26日～	047－372－3501	基礎看護学実習Ⅲ 精神看護学実習 成人看護学実習Ⅰ（慢性・長期療養）	10名 30名 12名	JR「市川駅」から京成バス「国立病院前」下車 （110分）	53.7km
21	公立大学法人　横浜市立大学附属病院	〒236-0004	神奈川県横浜市金沢区福浦3－9 平成31年12月9日～	045－787－2800	統合実習Ⅱ	10名	JR「新杉田駅」からシーサイドラインに乗り換え「市大医学部駅(附属病院)」下車徒歩1分 （120分）	45.3km
22	公益財団法人ライフ・エクステンション研究所付属　永寿総合病院	〒110-8645	東京都台東区上野2－23－16 平成30年7月17日～	03－3833－8383	助産学実習	2名	JR「上野駅」（浅草口）より徒歩7分 （95分）	38.8km
23	医療法人社団　崎陽会 日の出ヶ丘病院	〒190-0181	東京都西多摩郡日の出町大字大久野310 平成30年7月17日～	042－597－0811	老年看護学実習Ⅱ（緩和・看取）	14名	JR「福生駅」西口より西東京バス五日市行「落合」下車。徒歩2分。 （105分）	28.8km
24	東京ほくと医療生活協同組合 王子生協病院	〒114-0003	東京都北区豊島3－4－15 平成30年7月2日～	03－3912－2201	老年看護学実習Ⅱ（緩和・看取）	12名	JR「王子」駅より都バス「豊島3丁目」下車徒歩3分 （100分）	40.9km
25	宗教法人　救世軍 救世軍ブース記念　病院	〒166-0012	東京都杉並区和田1－40－5 平成30年7月2日～	03－3381－7236	老年看護学実習Ⅱ（緩和・看取）	12名	JR「新宿」駅より京王バス「母子寮前」下車徒歩3分 （85分）	27.3km
26	社会福祉法人　賛育会 賛育会病院	〒130-0012	東京都墨田区太平3－20－2 平成30年7月2日～	03－3622－919	老年看護学実習Ⅱ（緩和・看取）	8名	JR総武線「錦糸町」駅下車　北口より　徒歩8分 （100分）	42.6km
27	医療法人社団　珠光会 聖ヶ丘病院	〒206-0021	東京都多摩市連光寺2－69－6 平成30年7月17日～	0423－38－8111	老年看護学実習Ⅱ（緩和・看取）	8名	＋	5.6km
28	社会福祉法人信愛報恩会 信愛病院	〒204-0024	東京都清瀬市梅園2－5－9 平成30年7月2日～	0424－91－3211	老年看護学実習Ⅱ（緩和・看取）	6名	JR武蔵野線「新秋津」駅下車徒歩17分 （95分）	24.4km
29	川崎市立井田病院	〒211-0035	川崎市中原区井田2－27－1 平成30年7月17日～	044－766－2188	老年看護学実習Ⅱ（緩和・看取） 在宅看護学実習	2名 4名	JR「武蔵新城」駅より川崎市バス井田病院行「井田病院正門前」下車 （85分）	26.8km
30-1	多摩市　西部地域包括支援センター	〒206-0001	東京都多摩市和田1532	042-339-1898	在宅看護学実習	92名	京王バス「中和田」下車徒歩7分 （47分）	7.9km
30-2	多摩市　東部地域包括支援センター	〒206-0021	東京都多摩市連光寺1-1-1	042-375-3600			京王バス「大栗橋」下車徒歩8分 （33分）	6.6km
30-3	多摩市　多摩センター地域包括支援センター	〒206-0042	東京都多摩市山王下1-18-2	042-376-1815			京王バス「中組」下車徒歩6分 （32分）	6.4km
30-4	多摩市　中部地域包括支援センター	〒206-0012	東京都多摩市貝取1431-3	042-357-9551			京王バス「乞田五差路」下車徒歩0分 （19分）	4.5km
30-5	多摩市　北部地域包括支援センター	〒206-0002	東京都多摩市一ノ宮4-40-3	042-357-9200			京王バス「一の宮」下車徒歩1分 （45分）	8.2km
30-6	多摩市　南部地域包括支援センター	〒206-0032	東京都多摩市南野3-15-1	042-355-5025			京王バス「総合福祉センター」下車徒歩0分 （14分）	2.9km
31	医療法人財団アドベンチスト会 東京衛生病院	〒167-8507	東京都杉並区天沼3－17－3 平成30年11月12日～	03－3392－1489	老年看護学実習Ⅱ（緩和・看取）	3名	JR「荻窪」駅より徒歩6分 （78分）	25.0km
32	社会福祉法人東京有隣会 有隣病院	〒156-0055	東京都世田谷区船橋2-15-38 平成30年9月25日～	03－3482－3611	老年看護学実習Ⅰ（生活支援）	8名	小田急線「千歳船橋」駅より徒歩9分 （60分）	23.0km
33	医療法人財団杏順会 越川病院訪問看護ステーション	〒167-8507	東京都杉並区西荻北2－3－1－3F 平成31年1月21日～	03－3392－1489	在宅看護学実習	2名	JR「西荻窪」駅より徒歩2分 （80分）	23.1km
34	蕨市立病院	〒335-0001	埼玉県蕨市北町2－12－18 平成31年6月17日～	048－432－2277	助産学実習	2名	京浜東北線「蕨」駅西口より国際興業バス「市立病院入口」下車徒歩1分 （103分）	42.0km

	実習病院名		住所　　（実習開始年月日）	TEL	実習	人数	アクセス（多摩センターから最寄駅までの片道所要時間）	大学からの距離
35-1	株式会社ファインケア 訪問看護ステーション ファインケア多摩センター	〒336-0025	埼玉県さいたま市南区文蔵2-2-1 デイリーケアセイジョー南浦和西口店2階（本部住所） 東京都多摩市乞田895　ストーンクリーク302 平成30年11月5日～	042－357－2571	在宅看護学実習	20名	京王バス「落合東」下車徒歩9分 （20分）	3.23km
35-2	株式会社ファインケア 訪問看護ステーション ファインケア調布	〒336-0025	埼玉県さいたま市南区文蔵2-2-1 デイリーケアセイジョー南浦和西口店2階（本部住所） 東京都調布市下石原1-2-4 ヤシマビル1階 平成30年11月5日～	042－483－2260			京王線「西調布」駅下車徒歩2分 （60分）	13.5km
36-1	医療法人財団　天翁会　あいセーフティネット　あい訪問看護ステーション	〒206-0012	東京都多摩市貝取1431－3 平成30年11月5日～	042－371－6888	在宅看護学実習	16名	京王バス「乞田五差路」バス停徒歩0分 （25分）	4.25km
36-2	医療法人財団　天翁会　あいセーフティネット　あい訪問看護ステーション平尾	〒206-0012	東京都稲城市平尾 1-43-15 アブニール新百合 1F 平成30年11月5日～	042－371－6888			小田急線「栗平」駅下車徒歩20分 （60分）	9.33km
37	訪問看護ステーションさくらんぼ	〒185-0003	東京都国分寺市戸倉1－12－49 平成30年11月5日～	042－359－7388	在宅看護学実習	10名	西武国分寺線「恋ヶ窪」下車徒歩5分 （80分）	14.6km
38	医療法人社団幸隆会　多摩丘陵病院　わかば訪問看護ステーション	〒194-0202	東京都町田市下小山田町1414 平成30年11月5日～	042－797－7844	在宅看護学実習	10名	京王バス「下山田」バス停下車徒歩0分 （35分）	2.22km
39	社会福祉法人正吉福祉会 やのくち正吉苑	〒206-0812	東京都稲城市矢野口1804－3 平成31年1月21日～	042－370－2202	在宅看護学実習	4名	京王線「よみうりランド駅」下車徒歩8分 （45分）	10.6km
40	医療法人社団杏順会 越川病院	〒167-0042	東京都杉並区西荻北2－5－3 平成30年7月17日～	03－3394－1010	老年看護学実習Ⅱ（緩和・看取）	8名	JR総武線「西荻窪」駅下車徒歩3分 （80分）	25.2km
41	町田市民病院	〒194-0023	東京都町田市旭町2－15－41 平成30年7月30日～	042－722－2230	母性看護学実習	12名	神奈川中央交通「五間道路」バス停下車徒歩8分 （70分）	9.46km
42	医療法人社団　桐光会 調布訪問看護ステーション	〒182-0034	東京都調布市下石原3－45－1 平成30年11月5日～	042－443－9765	在宅看護学実習	8名	京王線「調布駅」下車徒歩16分 （55分）	12.1km
43	社会福祉法人　桜ヶ丘社会事業協会 さくらが丘訪問看護ステーション	〒206-0021	東京都多摩市連光寺1－1－1 平成30年11月5日～	042－375－6355	在宅看護学実習	8名	京王バス「大栗橋」下車徒歩8分 （35分）	6.76km
44	つつじが丘訪問看護ステーション	〒196-0012	東京都昭島市つつじが丘3－5－6－113 平成30年11月26日～	042－500－5441	在宅看護学実習	6名	JR青梅駅線　「昭島」徒歩6分 （50分）	16.0km
45	東海大学医学部付属八王子病院	〒192-0032	東京都八王子市石川町1838 平成31年1月7日～	042－639－1111	母性看護学実習	18名	京王線「京王八王子駅」下車バス20分 （70分）	20.0km
46	株式会社　エルハート訪問看護ステーション エルハートナースケア	〒182-0024	東京都調布市布田1－26－6－1A 平成30年11月26日～	042－443－8707	在宅看護学実習	6名	京王線「調布駅」下車徒歩5分 （45分）	13.0km
47	医療法人社団　　新愛会 東府中病院	〒183-0005	東京都府中市若松町2－7－20 平成31年1月7日～	042－364－0151	母性看護学実習	12名	京王線「東府中」駅下車徒歩4分 （55分）	12.3km
48	南東北グループ　医療法人社団三成会 新百合ヶ丘総合病院	〒215-0026	神奈川県川崎市麻生区古沢字都古225 平成31年1月7日～	044－322－9991	母性看護学実習	11名	小田急線「新百合ヶ丘」駅下車徒歩2分 （35分）	10.7km
49	医療法人社団 天紀会 こころのホスピタル町田	〒194-0201	東京都町田市上小山田町2140 平成30年7月2日～	042-797-0957	精神看護学実習	45人	京王線「南大沢」駅下車 京王バス「長池公園西」停留所徒歩15分 （42分）	10.2km
50	医療法人財団 明理会 鶴川サナトリウム病院	〒195-0051	東京都町田市真光寺町197 平成30年11月19日～	042-735-2222	老年看護学実習Ⅰ	30人	京王線「若葉台」駅下車 神奈川中央バス「真光寺」停留所徒歩9分 （41分）	11.6km
51	公益財団法人東京都保健医療公社 多摩南部地域病院	〒206-0036	東京都多摩市中沢2-1-2 平成30年7月17日	042-338-5111	老年看護学実習Ⅱ	24人	京王バス「中組」停留所徒歩7分 （29分）	5.6km
52	稲城市立病院	〒206-0801	東京都稲城市大丸1171 平成30年9月25日～	042-377-0931	母性看護学実習 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ	15人 10人 10人	京王「稲城」駅下車 小田急バス「南多摩駅入口」停留所徒歩4分 （36分）	13.1km

＊ 7，18，20の施設は、平成27年4月に「独立行政法人」から「国立研究開発法人」に組織および名称が変更された。

完成年次（平成31年度）　実習計画

資料7-1

基礎看護学実習

実習名	≪基礎看護学実習Ⅰ≫		≪基礎看護学実習Ⅱ≫		≪基礎看護学実習Ⅲ≫
月	5月（各1週間）		6月（1週間）		2月（2週間）
学生番号＼グループ	前半グループ	後半グループ	前半グループ	後半グループ	
1	日医多摩永山病院 分島るり子 和賀徳子		日医多摩永山病院 分島るり子 加藤和子		日医多摩永山病院 分島るり子 内田裕子
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9		日医多摩永山病院 分島るり子 和賀徳子		日医多摩永山病院 分島るり子 石川みち子	日医武蔵小杉病院 川守田千秋 小林美智子
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17	共済立川病院 佐藤和子 関根正		日医武蔵小杉病院 川守田千秋 荻原康子		共済立川病院 佐藤和子 渡邊幸恵
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25		共済立川病院 関根正 穴田博美		日医武蔵小杉病院 川守田千秋 荻原康子	
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33	国立村山医療センター 廣瀬京子 荻原康子		共済立川病院 佐藤和子 関根正		国立相模原病院 今村嘉子 窪島領子
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					
41		国立箱根病院 三輪のり子 井上聡子		共済立川病院 佐藤和子 関根正	国立箱根病院 関川久美子 中込由美
42					
43					
44					
45					
46					
47					
48					
49	国立相模原病院 関川久美子 窪島領子		国立箱根病院 櫻井美代子 和賀徳子		埼玉リハビリテーションセンター 廣瀬京子 穴田博美
50					
51					
52					
53					
54					
55					
56					
57		国立相模原病院 関川久美子 窪島領子		国立相模原病院 関川久美子 窪島領子	国立神奈川病院 久保川真由美 厚澤博美
58					
59					
60					
61					
62					
63					
64					
65	精神・神経研究センター 三輪のり子 窪島領子		埼玉リハビリテーションセンター 三輪のり子 井上聡子		精神・神経研究センター病院 三輪のり子 鈴木久子
66					
67					
68					
69					
70					
71					
72					
73	横浜市民総合病院 川守田千秋			埼玉リハビリテーションセンター 三輪のり子 廣瀬京子	
74					
75					
76					
77		横浜市民総合病院 川守田千秋			
78					
79					
80					
			＊学内：石川	＊学内：和賀	

統合実習

実習名	≪統合実習Ⅰ≫	≪統合実習Ⅱ≫
月	9月	12月
学生番号	1週間	2週間
1	日医多摩永山病院	日医多摩永山病院
2		
3		
4		
5		
6		
7	石川みち子 関川久美子	石川みち子 関川久美子
8		
9		
10		
11	共済立川病院	共済立川病院
12		
13		
14		
15		
16		
17	小林美智子 鈴木久子	小林美智子 井上聡子
18		
19		
20		
21	国立病院機構村山医療センター 中込由美 厚澤博美	国立病院機構村山医療センター 中込由美 穴田博美
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31	国立箱根病院 分島るり子 窪島領子	国立箱根病院 分島るり子 窪島領子
32		
33		
34		
35		
36		
37		
38		
39		
40		
41	横浜市立大学附属市民総合 久保川真由美 三輪のり子	横浜市立大学附属市民総合 三輪のり子 寺岡歩
42		
43		
44		
45		
46		
47		
48		
49	共済組合虎の門病院 川守田千秋 荻原康子	共済組合虎の門病院 川守田千秋 和賀徳子
50		
51		
52		
53		
54		
55		
56		
57	国立がんセンター中央病院 佐藤和子	国立がんセンター中央病院 佐藤和子
58		
59		
60		
61	精神・神経研究センター病院 今村嘉子 和賀徳子	精神・神経研究センター病院 関根正 今村嘉子
62		
63		
64		
65		
66		
67		
68		
69		
70		
71	埼玉リハビリテーションセンター 廣瀬京子 穴田博美	公立大学横浜市立大学附属病院 鈴木久子 厚澤博美
72		
73		
74		
75		
76		
77		
78		
79		
80		

助産学実習

実習名	助産学実習	
実習期間＼学生	平成31年6/17～7/26（6週間）	平成31年9/16～11/29（11週間）
1	日本医科大学多摩永山病院 （専任補充予定）	日本医科大学多摩永山病院 （助教）渡邉幸恵
2		
3		
4		
5	日本医科大学武蔵小杉病院 （助教）渡邉幸恵	日本医科大学武蔵小杉病院 （専任補充予定）
6		
7		
8	国家公務員共済虎の門病院 （講師）寺岡歩	国家公務員共済虎の門病院 （教授）渡邊淳子
9		
10		

完成年次(平成31年度)実習計画

資料7－1

学年＼月			4					5				6				7				8				9				10				11				12				1				2				3				
平成28年度	1年次	週	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	⑱	25	1	8	15	22	29	5	12	⑲	26	3	⑩	17	24	31	7	14	21	28	5	12	19	26	2	⑨	16	23	30	6	13	20	27	6	13	⑳	27
		基礎実習						基礎Ⅰ	基礎Ⅰ					基礎Ⅱ																																								
平成29年度	2年次	週	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	⑰	24	31	7	14	21	28	4	11	⑱	25	2	⑨	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	⑧	15	22	29	5	⑫	19	26	5	12	19	26
		基礎実習																																														基礎Ⅲ				
平成30年度	3年次	週	2	9	16	23	㉚	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	⑯	23	30	6	13	20	27	3	10	⑰	㉔	1	⑧	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	㉔	31	7	⑭	21	28	4	⑪	18	26	4	11	18	25
		領域実習														①クール													②クール				③クール				④クール							⑤クール				⑥クール							
平成31年度	4年次	週	1	8	15	22	㉙	⑥	13	20	27	3	10	17	24	1	8	⑮	22	29	5	12	19	26	2	9	⑯	㉓	30	7	⑭	21	28	④	11	18	25	2	9	16	㉓	30	6	⑬	20	27	3	10	17	24	2	9	16	23	30
		領域実習						⑦クール				⑧クール																																									

| 学生グループ＼助産・統合実習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

年次別実習計画　　小児看護学実習週間計画(平成31年度)　　資料7－2－1

小児看護学実習1クール(7/1～)

施設名			国病神奈川病院		都立北療育			授業予定
学生数			6人		4人			
1週	月	実習	荻原		加藤			1・2時限:廣瀬(医療安全)
	火	実習	廣瀬	荻原	加藤			
	水	実習	廣瀬	荻原	加藤			
	木	実習	荻原		加藤			3・4時限目:廣瀬(小児看護学概論)
	金	学内	廣瀬	荻原	加藤			2・4時限目:廣瀬・荻原(小児看護学方法論Ⅰ)
2週	月	実習	荻原		加藤			1・2時限:廣瀬(医療安全)
	火	実習	廣瀬	荻原	加藤			
	水	実習	廣瀬	荻原	加藤			
	木	実習	荻原		加藤			3・4時限目:廣瀬(小児看護学概論)
	金	学内	廣瀬	荻原	加藤			2・4時限目:廣瀬・荻原(小児看護学方法論Ⅰ)

小児看護学実習2クール(9/23～)

施設名			埼玉県立小児医療センター	武蔵村山病院				授業予定
学生数			5人	5人				
1週	月	実習	加藤	廣瀬				
	火	実習	加藤	廣瀬				
	水	実習	加藤	廣瀬				
	木	実習	加藤	廣瀬				
	金	学内	加藤	廣瀬				
2週	月	実習	加藤	廣瀬				
	火	実習	加藤	廣瀬				
	水	実習	加藤	廣瀬				
	木	実習	加藤	廣瀬				
	金	学内	加藤	廣瀬				2時限目加藤・廣瀬(小児看護学演習)

小児看護学実習3クール(10/14～)

施設名			国病神奈川病院		都立北療育			授業予定
学生数			8人		2人			
1週	月	実習	荻原	廣瀬	加藤			
	火	実習	廣瀬		加藤			2・3時限目:荻原(小児看護学方法論Ⅱ)
	水	実習	荻原	廣瀬	加藤			
	木	実習	廣瀬		加藤			5時限目:荻原(小児看護学演習)
	金	学内	荻原	廣瀬	加藤			2時限目荻原・廣瀬(小児看護学演習)
2週	月	実習	荻原	廣瀬	加藤			
	火	実習	廣瀬		加藤			2・3時限目:荻原(小児看護学方法論Ⅱ)
	水	実習	荻原	廣瀬	加藤			
	木	実習	廣瀬		加藤			5時限目:荻原(小児看護学演習)
	金	学内	荻原	廣瀬	加藤			2時限目加藤・荻原・廣瀬(小児看護学演習)

小児看護学実習4クール(11/18～)

施設名			国病神奈川病院		都立北療育			授業予定
学生数			8人		2人			
1週	月	実習	荻原	廣瀬	加藤			
	火	実習	廣瀬		加藤			2・3時限目:荻原(小児看護学方法論Ⅱ)
	水	実習	荻原	廣瀬	加藤			
	木	実習	廣瀬		加藤			5時限目:荻原(小児看護学演習)
	金	学内	荻原	廣瀬	加藤			2時限目加藤・荻原・廣瀬(小児看護学演習)
2週	月	実習	荻原	廣瀬	加藤			
	火	実習	廣瀬		加藤			2・3時限目:荻原(小児看護学方法論Ⅱ)
	水	実習	荻原	廣瀬	加藤			
	木	実習	廣瀬		加藤			5時限目:荻原(小児看護学演習)
	金	学内	荻原	廣瀬	加藤			2時限目加藤・荻原・廣瀬(小児看護学演習)

小児看護学実習5クール（1/13～）

施設名			埼玉県立小児医療センター	埼玉石心会病院				授業予定
学生数			5人	5人				
1週	月	実習	荻原	廣瀬				
	火	実習	荻原	廣瀬				
	水	実習	荻原	廣瀬				
	木	実習	荻原	廣瀬				
	金	学内	荻原	廣瀬				
2週	月	実習	荻原	廣瀬				
	火	実習	荻原	廣瀬				
	水	実習	荻原	廣瀬				
	木	実習	荻原	廣瀬				
	金	学内	荻原	廣瀬				

小児看護学実習6クール（2/3～）

施設名			多摩永山病院	武蔵村山病院				授業予定
学生数			5人	5人				
1週	月	実習	廣瀬	荻原				
	火	実習	廣瀬	荻原				
	水	実習	廣瀬	荻原				
	木	実習	廣瀬	荻原				
	金	学内	廣瀬	荻原				
2週	月	実習	廣瀬	荻原				
	火	実習	廣瀬	荻原				
	水	実習	廣瀬	荻原				
	木	実習	廣瀬	荻原				
	金	学内	廣瀬	荻原				

小児看護学実習7クール（5/13～）

施設名			埼玉県立小児医療センター	武蔵村山病院				授業予定
学生数			5人	5人				
1週	月	実習	加藤	荻原				
	火	実習	加藤	荻原				
	水	実習	加藤	荻原				
	木	実習	加藤	荻原				
	金	学内	加藤	荻原				2・4時限目：加藤・荻原（小児看護学方法論Ⅰ）
2週	月	実習	加藤	荻原				
	火	実習	加藤	荻原				
	水	実習	加藤	荻原				
	木	実習	加藤	荻原				
	金	学内	加藤	荻原				2・4時限目：加藤・荻原（小児看護学方法論Ⅰ）

小児看護学実習8クール（5/27～）

施設名			国病神奈川病院		多摩永山病院			授業予定
学生数			7人		3人			
1週	月	実習	荻原		加藤			1・2時限：廣瀬（医療安全）
	火	実習	荻原	廣瀬	加藤			
	水	実習	荻原	廣瀬	加藤			
	木	実習	荻原		加藤			3・4時限目：廣瀬（小児看護学概論）
	金	学内	荻原	廣瀬	加藤			2・4時限目：廣瀬・荻原（小児看護学方法論Ⅰ）
2週	月	実習	荻原		加藤			1・2時限：廣瀬（医療安全）
	火	実習	荻原	廣瀬	加藤			
	水	実習	荻原	廣瀬	加藤			
	木	実習	荻原		加藤			3・4時限目：廣瀬（小児看護学概論）
	金	学内	荻原	廣瀬	加藤			2・4時限目：廣瀬・荻原（小児看護学方法論Ⅰ）

年次別実習計画　　成人看護学実習Ⅱ週間計画(平成31年度)　　資料7－2－1

成人看護学実習Ⅱ1クール(9/23～)

施設名			多摩永山病院					授業予定
学生数			10人					
1週	月	実習	小林	助手②				
	火	実習	小林	助手②				
	水	実習	小林	助手②				
	木	実習	小林	助手②				
	金	学内	小林	助手②				
2週	月	実習	小林	助手②				
	火	実習	小林	助手②				
	水	実習	小林	助手②				
	木	実習	助手②					3・4限：小林(成人看護学方法論Ⅳ)
	金	学内	小林	助手②				3・4限：小林(成人看護学演習)・5限：小林(ｷｬﾘｱﾃﾞｨﾌﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ)
3週	月	実習	小林	助手②				
	火	実習	小林	助手②				
	水	実習	小林	助手②				
	木	実習	助手②					3・4限：小林(成人看護学方法論Ⅳ)
	金	学内	小林	助手②				3・4限：小林(成人看護学演習)・5限：小林(ｷｬﾘｱﾃﾞｨﾌﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ)

成人看護学実習Ⅱ2クール(10/21～)

施設名			川崎幸病院					授業予定
学生数			10人					
1週	月	実習	小林	助手②				
	火	実習	小林	助手②				
	水	実習	小林	助手②				
	木	実習	助手②					3・4限：小林(成人看護学方法論Ⅳ)
	金	学内	小林	助手②				3・4限：小林(成人看護学演習)
2週	月	実習	小林	助手②				
	火	実習	小林	助手②				
	水	実習	小林	助手②				
	木	実習	助手②					3・4限：小林(成人看護学方法論Ⅳ)
	金	学内	小林	助手②				3・4限：小林(成人看護学演習)
3週	月	実習	小林	助手②				
	火	実習	小林	助手②				
	水	実習	小林	助手②				
	木	実習	助手②					3・4限：小林(成人看護学方法論Ⅳ)
	金	学内	小林	助手②				3・4限：小林(成人看護学演習)

成人看護学実習Ⅱ3クール4クール(①②11/11～)

施設名			日医多摩永山病院		日医武蔵小杉病院			授業予定
学生数			10人		10人			
1週	月	実習	小林	助手①	厚澤	助手②		
	火	実習	小林	助手①	厚澤	助手②		
	水	実習	小林	助手①	厚澤	助手②		
	木	実習	助手①		厚澤	助手②		3・4限：小林(成人看護学方法論Ⅳ)
	金	学内	小林	助手①	厚澤	助手②		1・2限：小林(成人看護学方法論Ⅰ)
2週	月	実習	小林	助手①	厚澤	助手②		
	火	実習	小林	助手①	厚澤	助手②		
	水	実習	小林	助手①	厚澤	助手②		
	木	実習	助手①		厚澤	助手②		3・4限：小林(成人看護学方法論Ⅳ)
	金	学内	小林	助手①	厚澤	助手②		1・2限：小林(成人看護学方法論Ⅰ)
3週	月	実習	小林	助手①	厚澤	助手②		
	火	実習	小林	助手①	厚澤	助手②		
	水	実習	小林	助手①	厚澤	助手②		
	木	実習	助手①		厚澤	助手②		3・4限：小林(成人看護学方法論Ⅳ)
	金	学内	小林	助手①	厚澤	助手②		1・2限：小林(成人看護学方法論Ⅰ)

成人看護学実習Ⅱ5クール（1/13～）

施設名			国立がん中央病院	川崎幸病院				授業予定
学生数			6人	4人				
1週	月	実習	小林	厚澤				
	火	実習	小林	厚澤				
	水	実習	小林	厚澤				
	木	実習	小林	厚澤				
	金	学内	小林	厚澤				
2週	月	実習	小林	厚澤				
	火	実習	小林	厚澤				
	水	実習	小林	厚澤				
	木	実習	小林	厚澤				
	金	学内	小林	厚澤				
3週	月	実習	小林	厚澤				
	火	実習	小林	厚澤				
	水	実習	小林	厚澤				
	木	実習	小林	厚澤				
	金	学内	小林	厚澤				

成人看護学実習Ⅱ6クール（2/3～）

施設名			武蔵小杉病院					授業予定
学生数			10人					
1週	月	実習	小林	助手②				
	火	実習	小林	助手②				
	水	実習	小林	助手②				
	木	実習	小林	助手②				
	金	学内	小林	助手②				
2週	月	実習	小林	助手②				
	火	実習	小林	助手②				
	水	実習	小林	助手②				
	木	実習	小林	助手②				
	金	学内	小林	助手②				
3週	月	実習	小林	助手②				
	火	実習	小林	助手②				
	水	実習	小林	助手②				
	木	実習	小林	助手②				
	金	学内	小林	助手②				

成人看護学実習Ⅱ7クール(5/13～)

施設名			虎の門病院	国立がんセンター中央				授業予定
学生数			6人	4人				
1週	月	実習	厚澤	小林				
	火	実習	厚澤	小林				
	水	実習	厚澤	小林				
	木	実習	厚澤	小林				
	金	学内	厚澤	小林				1・2限：小林（成人看護学方法論Ⅰ）
2週	月	実習	厚澤	小林				
	火	実習	厚澤	小林				
	水	実習	厚澤	小林				
	木	実習	厚澤	小林				
	金	学内	厚澤	小林				1・2限：小林（成人看護学方法論Ⅰ）
3週	月	実習	厚澤	小林				
	火	実習	厚澤	小林				
	水	実習	厚澤	小林				
	木	実習	厚澤	小林				
	金	学内	厚澤	小林				1・2限：小林（成人看護学方法論Ⅰ）

成人看護学実習Ⅱ8クール(6/3～)								
施設名			国立村山医療センター					授業予定
学生数			10人					
1週	月	実習	小林	助手②				
	火	実習	小林	助手②				
	水	実習	小林	助手②				
	木	実習	小林	助手②				
	金	学内	小林	助手②				1・2限：小林(成人看護学方法論Ⅰ)
2週	月	実習	小林	助手②				
	火	実習	小林	助手②				
	水	実習	小林	助手②				
	木	実習	小林	助手②				
	金	学内	小林	助手②				1・2限：小林(成人看護学方法論Ⅰ)
3週	月	実習	小林	助手②				
	火	実習	小林	助手②				
	水	実習	小林	助手②				
	木	実習	小林	助手②				
	金	学内	小林	助手②				1・2限：小林(成人看護学方法論Ⅰ)

年次別実習計画　　成人看護学Ⅰ実習週間計画(平成31年度)　　資料7－2－1

成人看護学実習Ⅰ1クール2クール(7/1～)								
施設名			共済立川病院		国立がん研究センター中央病院			授業予定
学生数			10人		10人			
1週	月	実習	厚澤	助手②	小林	助手①		
	火	実習	厚澤	助手②	小林	助手①		
	水	実習	厚澤	助手②	小林	助手①		
	木	実習	厚澤	助手②	小林	助手①		
	金	学内	厚澤	助手②	小林	助手①		
2週	月	実習	厚澤	助手②	小林	助手①		
	火	実習	厚澤	助手②	小林	助手①		
	水	実習	厚澤	助手②	小林	助手①		
	木	実習	厚澤	助手②	小林	助手①		
	金	学内	厚澤	助手②	小林	助手①		
3週	月	実習	厚澤	助手②	小林	助手①		
	火	実習	厚澤	助手②	小林	助手①		
	水	実習	厚澤	助手②	小林	助手①		
	木	実習	厚澤	助手②	小林	助手①		
	金	学内	厚澤	助手②	小林	助手①		

成人看護学実習Ⅰ3クール(9/23～)								
施設名			共済立川病院					授業予定
学生数			10人					
1週	月	実習	佐藤	厚澤				
	火	実習	佐藤	厚澤				
	水	実習	佐藤	厚澤				
	木	実習	佐藤	厚澤				
	金	学内	佐藤	厚澤				
2週	月	実習	佐藤	厚澤				
	火	実習	佐藤	厚澤				
	水	実習	佐藤	厚澤				
	木	実習	佐藤	厚澤				
	金	学内	佐藤	厚澤				3・4限:佐藤・厚澤(成人看護学演習)
3週	月	実習	佐藤	厚澤				
	火	実習	佐藤	厚澤				
	水	実習	佐藤	厚澤				
	木	実習	佐藤	厚澤				
	金	学内	佐藤	厚澤				3・4限:佐藤・厚澤(成人看護学演習)

成人看護学実習Ⅰ4クール(10/21～)								
施設名			国立箱根病院					授業予定
学生数			10人					
1週	月	実習	厚澤	助手①				
	火	実習	厚澤	助手①				
	水	実習	厚澤	助手①				
	木	実習	厚澤	助手①				
	金	学内	厚澤	助手①				3・4限:厚澤(成人看護学演習)
2週	月	実習	厚澤	助手①				
	火	実習	厚澤	助手①				
	水	実習	厚澤	助手①				
	木	実習	厚澤	助手①				
	金	学内	厚澤	助手①				3・4限:厚澤(成人看護学演習)
3週	月	実習	厚澤	助手①				
	火	実習	厚澤	助手①				
	水	実習	厚澤	助手①				
	木	実習	厚澤	助手①				
	金	学内	厚澤	助手①				3・4限:厚澤(成人看護学演習)

成人看護学実習Ⅰ5クール（1/13～）								
施設名			国立箱根病院					授業予定
学生数			10人					
1週	月	実習	佐藤	助手①				
	火	実習	佐藤	助手①				
	水	実習	佐藤	助手①				
	木	実習	佐藤	助手①				
	金	学内	佐藤	助手①				3・4限:佐藤（成人看護学演習）
2週	月	実習	佐藤	助手①				
	火	実習	佐藤	助手①				
	水	実習	佐藤	助手①				
	木	実習	佐藤	助手①				
	金	学内	佐藤	助手①				3・4限:佐藤（成人看護学演習）
3週	月	実習	佐藤	助手①				
	火	実習	佐藤	助手①				
	水	実習	佐藤	助手①				
	木	実習	佐藤	助手①				
	金	学内	佐藤	助手①				3・4限:佐藤（成人看護学演習）
成人看護学実習Ⅰ6クール(2/3～)								
施設名			国立箱根病院					授業予定
学生数			10人					
1週	月	実習	厚澤	助手①				
	火	実習	厚澤	助手①				
	水	実習	厚澤	助手①				
	木	実習	厚澤	助手①				
	金	学内	厚澤	助手①				
2週	月	実習	厚澤	助手①				
	火	実習	厚澤	助手①				
	水	実習	厚澤	助手①				
	木	実習	厚澤	助手①				
	金	学内	厚澤	助手①				
3週	月	実習	厚澤	助手①				
	火	実習	厚澤	助手①				
	水	実習	厚澤	助手①				
	木	実習	厚澤	助手①				
	金	学内	厚澤	助手①				
成人看護学実習Ⅰ7クール（5/13～）								
施設名			国立国府台病院					授業予定
学生数			10人					
1週	月	実習	佐藤	助手①				
	火	実習	助手①					1・2限：佐藤（成人看護学概論）
	水	実習	佐藤	助手①				
	木	実習	佐藤	助手①				
	金	学内	佐藤	助手①				
2週	月	実習	佐藤	助手①				
	火	実習	助手①					1・2限：佐藤（成人看護学概論）
	水	実習	佐藤	助手①				
	木	実習	佐藤	助手①				
	金	学内	佐藤	助手①				
3週	月	実習	佐藤	助手①				
	火	実習	助手①					1・2限：佐藤（成人看護学概論）
	水	実習	佐藤	助手①				
	木	実習	佐藤	助手①				
	金	学内	佐藤	助手①				

成人看護学実習Ⅰ8クール(6/3～)								
施設名			埼玉県総合リハビリテーションセンター					授業予定
学生数			10人					
1週	月	実習	厚澤	助手①				
	火	実習	厚澤	助手①				
	水	実習	厚澤	助手①				
	木	実習	厚澤	助手①				
	金	学内	厚澤	助手①				

2週	月	実習	厚澤	助手①				
	火	実習	厚澤	助手①				
	水	実習	厚澤	助手①				
	木	実習	厚澤	助手①				
	金	学内	厚澤	助手①				
3週	月	実習	厚澤	助手①				
	火	実習	厚澤	助手①				
	水	実習	厚澤	助手①				
	木	実習	厚澤	助手①				
	金	学内	厚澤	助手①				

年次別実習計画　助産学実習週間計画(H31年度) 資料7－2－1

助産学実習1クール(6/17～)						
施設名			多摩永山病院	武蔵小杉病院	虎の門病院	授業予定
学生数			4人	3人	3人	
1週	月	実習	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	3限:渡邊淳(助産学概論)
	火	実習	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	4限:渡邊淳(基礎助産学)
	水	実習	専任補充予定	渡邊淳	渡邊淳	1･2時限:寺岡(母性看護学方法論Ⅰ)･5時限:渡邊幸(健康教育技法)
	木	実習	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	2･3時限:渡邊淳(助産診断･技術学概論･助産診断･技術学演習Ⅰ)
	金	学内	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	
2週	月	実習	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	3限:渡邊淳(助産学概論)
	火	実習	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	4限:渡邊淳(基礎助産学)
	水	実習	専任補充予定	渡邊淳	渡邊淳	1･2時限:寺岡(母性看護学方法論Ⅰ)･5時限:渡邊幸(健康教育技法)
	木	実習	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	2･3時限:渡邊淳(助産診断･技術学概論･助産診断･技術学演習Ⅰ)
	金	学内	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	
3週	月	実習	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	3限:渡邊淳(助産学概論)
	火	実習	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	4限:渡邊淳(基礎助産学)
	水	実習	専任補充予定	渡邊淳	渡邊淳	1･2時限:寺岡(母性看護学方法論Ⅰ)･5時限:渡邊幸(健康教育技法)
	木	実習	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	2･3時限:渡邊淳(助産診断･技術学概論･助産診断･技術学演習Ⅰ)
	金	学内	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	
4週	月	実習	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	3限:渡邊淳(助産学概論)
	火	実習	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	4限:渡邊淳(基礎助産学)
	水	実習	専任補充予定	渡邊淳	渡邊淳	1･2時限:寺岡(母性看護学方法論Ⅰ)･5時限:渡邊幸(健康教育技法)
	木	実習	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	2･3時限:渡邊淳(助産診断･技術学概論･助産診断･技術学演習Ⅰ)
	金	学内	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	
5週	月	実習	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	3限:渡邊淳(助産学概論)
	火	実習	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	4限:渡邊淳(基礎助産学)
	水	実習	専任補充予定	渡邊淳	渡邊淳	1･2時限:寺岡(母性看護学方法論Ⅰ)･5時限:渡邊幸(健康教育技法)
	木	実習	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	2･3時限:渡邊淳(助産診断･技術学概論･助産診断･技術学演習Ⅰ)
	金	学内	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	
6週	月	実習	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	3限:渡邊淳(助産学概論)
	火	実習	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	4限:渡邊淳(基礎助産学)
	水	実習	専任補充予定	渡邊淳	渡邊淳	1･2時限:寺岡(母性看護学方法論Ⅰ)･5時限:渡邊幸(健康教育技法)
	木	実習	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	2･3時限:渡邊淳(助産診断･技術学概論･助産診断･技術学演習Ⅰ)
	金	学内	専任補充予定	渡邊幸	寺岡	
助産学実習2クール(9/16～)						
1週	月	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	火	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	水	実習	渡邊淳	専任補充予定	渡邊淳	
	木	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	金	学内	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
2週	月	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	火	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	水	実習	渡邊淳	専任補充予定	渡邊淳	
	木	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	金	学内	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	

助産学実習2クール(9/16～)						
3週	月	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	火	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	水	実習	渡邊淳	専任補充予定	渡邊淳	
	木	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	金	学内	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
4週	月	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	火	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	水	実習	渡邊淳	専任補充予定	渡邊淳	
	木	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	金	学内	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
5週	月	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	火	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	水	実習	渡邊淳	専任補充予定	渡邊淳	
	木	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	金	学内	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
6週	月	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	火	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	水	実習	渡邊淳	専任補充予定	渡邊淳	
	木	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	金	学内	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
7週	月	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	火	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	水	実習	渡邊淳	専任補充予定	渡邊淳	
	木	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	金	学内	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
8週	月	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	火	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	水	実習	渡邊淳	専任補充予定	渡邊淳	
	木	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	金	学内	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
9週	月	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	火	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	水	実習	渡邊淳	専任補充予定	渡邊淳	
	木	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	金	学内	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
10週	月	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	火	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	水	実習	渡邊淳	専任補充予定	渡邊淳	
	木	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	金	学内	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
11週	月	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	火	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	水	実習	渡邊淳	専任補充予定	渡邊淳	
	木	実習	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	
	金	学内	渡邊幸	専任補充予定	渡邊淳	

年次別実習計画　　老年看護学実習Ⅰ週間計画(平成31年度)　　資料7－2－1

老年看護学実習Ⅰ1クール(7/1～)

施設名			国立相模原病院	上尾甦生病院				授業予定
学生数			6人	4人				
1週	月	実習	石川	中込				
	火	実習	石川	中込				
	水	実習	石川	中込				
	木	実習	石川	中込				
	金	学内	石川	中込				
2週	月	実習	石川	中込				
	火	実習	石川	中込				
	水	実習	石川	中込				
	木	実習	石川	中込				
	金	学内	石川	中込				

老年看護学実習Ⅰ2クール(9/23～)

施設名			有隣病院	武蔵村山病院				授業予定
学生数			6人	4人				
1週	月	実習	石川	中込				
	火	実習	石川	中込				
	水	実習	石川	中込				
	木	実習	石川	中込				
	金	学内	石川	中込				
2週	月	実習	石川	中込				
	火	実習	石川	中込				
	水	実習	石川	中込				
	木	実習	石川	中込				
	金	学内	石川	中込				

老年看護学実習Ⅰ3クール(10/27～)

施設名			国立相模原病院	国立箱根病院				授業予定
学生数			5人	5人				
1週	月	実習	石川	中込				
	火	実習	石川	中込				
	水	実習	石川	中込				
	木	実習	石川	中込				
	金	学内	石川	中込				
2週	月	実習	石川	中込				
	火	実習	石川	中込				
	水	実習	石川	中込				
	木	実習	石川	中込				
	金	学内	石川	中込				

老年看護学実習Ⅰ4クール(11/18～)

施設名			鶴川サナトリウム病院					授業予定
学生数			5人	5人				
1週	月	実習	石川	中込				
	火	実習	石川	中込				
	水	実習	石川	中込				
	木	実習	石川	中込				
	金	学内	石川	中込				
2週	月	実習	石川	中込				
	火	実習	石川	中込				
	水	実習	石川	中込				
	木	実習	石川	中込				
	金	学内	石川	中込				

老年看護学実習Ⅰ5クール（1/13～）								
施設名			鶴川サナトリウム病院					授業予定
学生数			5人	5人				
1週	月	実習	石川	中込				
	火	実習	石川	中込				
	水	実習	石川	中込				
	木	実習	石川	中込				
	金	学内	石川	中込				
2週	月	実習	石川	中込				
	火	実習	石川	中込				
	水	実習	石川	中込				
	木	実習	石川	中込				
	金	学内	石川	中込				

老年看護学実習Ⅰ6クール（1/28～）								
施設名			鶴川サナトリウム病院					授業予定
学生数			5人	5人				
1週	月	実習	石川	中込				
	火	実習	石川	中込				
	水	実習	石川	中込				
	木	実習	石川	中込				
	金	学内	石川	中込				
2週	月	実習	石川	中込				
	火	実習	石川	中込				
	水	実習	石川	中込				
	木	実習	石川	中込				
	金	学内	石川	中込				

老年看護学実習Ⅰ7クール8クール（①②5/13～）								
施設名			①国立相模原病院	②上尾甦生病院	②国立箱根病院	②武蔵村山病院		授業予定
学生数			5人	5人	6人	4人		
1週	月	実習	石川	今村	大山	中込		
	火	実習	石川	今村	大山	中込		
	水	実習	石川	今村	大山	中込		
	木	実習	石川	今村	大山	中込		
	金	学内	石川	今村	大山	中込		1・2時限：今村（老年看護学援助論）
2週	月	実習	石川	今村	大山	中込		
	火	実習	石川	今村	大山	中込		
	水	実習	石川	今村	大山	中込		
	木	実習	石川	今村	大山	中込		
	金	学内	石川	今村	大山	中込		1・2時限：今村（老年看護学援助論）

年次別実習計画　　老年看護学実習Ⅱ週間計画(平成31年度)　　資料7－2－1

老年看護学実習Ⅱ1クール(7/15～)

施設名			埼玉石心会	多摩南部地域						授業予定
学生数			4人	6人						
1週	月	実習	今村	大山						
	火	実習	今村	大山						
	水	実習	今村	大山						
	木	実習	今村	大山						
	金	学内	今村	大山						1･5時限:今村(老年看護学援助論)
2週	月	実習	今村	大山						
	火	実習	今村	大山						
	水	実習	今村	大山						
	木	実習	今村	大山						
	金	学内	今村	大山						1･5時限:今村(老年看護学援助論)

老年看護学実習Ⅱ2クール3クール(①②10/7～)

施設名			①埼玉石心会	①多摩南部地域	②日の出ヶ丘	②救世軍	②王子生協			授業予定
学生数			4人	6人	4人	3人	3人			
1週	月	実習	今村	鈴木	櫻井	石川	中込			
	火	実習	今村	鈴木	櫻井	石川	中込			
	水	実習	今村	鈴木	櫻井	石川	中込			
	木	実習	今村	鈴木	櫻井	石川	中込			
	金	学内	今村	鈴木	櫻井	石川	中込			
2週	月	実習	今村	鈴木	櫻井	石川	中込			
	火	実習	今村	鈴木	櫻井	石川	中込			
	水	実習	今村	鈴木	櫻井	石川	中込			
	木	実習	今村	鈴木	櫻井	石川	中込			
	金	学内	今村	鈴木	櫻井	石川	中込			

老年看護学実習Ⅱ4クール(11/11～)

施設名			埼玉石心会	多摩南部地域						授業予定
学生数			4人	6人						
1週	月	実習	今村	大山						
	火	実習	今村	大山						
	水	実習	今村	大山						
	木	実習	今村	大山						
	金	学内	今村	大山						
2週	月	実習	今村	大山						
	火	実習	今村	大山						
	水	実習	今村	大山						
	木	実習	今村	大山						
	金	学内	今村	大山						

老年看護学実習Ⅱ5クール(1/13～)

施設名			聖ヶ丘病院	東京衛生病院	日の出ヶ丘病院					授業予定
学生数			3人	3人	4人					
1週	月	実習	今村	大山	鈴木					
	火	実習	今村	大山	鈴木					
	水	実習	今村	大山	鈴木					
	木	実習	今村	大山	鈴木					
	金	学内	今村	大山	鈴木					
2週	月	実習	今村	大山	鈴木					
	火	実習	今村	大山	鈴木					
	水	実習	今村	大山	鈴木					
	木	実習	今村	大山	鈴木					
	金	学内	今村	大山	鈴木					

老年看護学実習Ⅱ6クール（2/3～）

施設名			聖ヶ丘病院	救世軍ブース	王子生協病院					授業予定
学生数			3人	4人	3人					
1週	月	実習	今村	大山	櫻井					
	火	実習	今村	大山	櫻井					
	水	実習	今村	大山	櫻井					
	木	実習	今村	大山	櫻井					
	金	学内	今村	大山	櫻井					
2週	月	実習	今村	大山	櫻井					
	火	実習	今村	大山	櫻井					
	水	実習	今村	大山	櫻井					
	木	実習	今村	大山	櫻井					
	金	学内	今村	大山	櫻井					

老年看護学実習Ⅱ7クール8クール（①②5/27～）

施設名			埼玉石心会	②多摩南部地域	日の出ヶ丘病院	救世軍	賛育会			授業予定
学生数			4人	6人	4人	3人	3人			
1週	月	実習	今村	大山	鈴木	石川	中込			
	火	実習	今村	大山	鈴木	石川	中込			
	水	実習	今村	大山	鈴木	石川	中込			
	木	実習	今村	大山	鈴木	石川	中込			
	金	学内	今村	大山	鈴木	石川	中込			1・5時限：今村（老年看護学援助論）
2週	月	実習	今村	大山	鈴木	石川	中込			
	火	実習	今村	大山	鈴木	石川	中込			
	水	実習	今村	大山	鈴木	石川	中込			
	木	実習	今村	大山	鈴木	石川	中込			
	金	学内	今村	大山	鈴木	石川	中込			1・5時限：今村（老年看護学援助論）

年次別実習計画　　精神看護学実習週間計画　　資料7－2－1

精神看護学実習1クール（7/1～）

施設名			こころのホスピタル町田					授業予定
学生数			10人					
1週	月	実習	関根	井上				
	火	実習	関根	井上				
	水	実習	関根	井上				
	木	実習	関根	井上				
	金	学内	関根	井上				
2週	月	実習	関根	井上				
	火	実習	関根	井上				
	水	実習	関根	井上				
	木	実習	関根	井上				
	金	学内	関根	井上				

精神看護学実習2クール3クール（①8/20～・②9/3～）

施設名			①国立国府台病院			②国立国府台病院		授業予定
学生数			10人			10人		
1週	月	実習	関根	井上		関根	井上	
	火	実習	関根	井上		関根	井上	
	水	実習	関根	井上		関根	井上	
	木	実習	関根	井上		関根	井上	
	金	学内	関根	井上		関根	井上	
2週	月	実習	関根	井上		関根	井上	
	火	実習	関根	井上		関根	井上	
	水	実習	関根	井上		関根	井上	
	木	実習	関根	井上		関根	井上	
	金	学内	関根	井上		関根	井上	

精神看護学実習4クール（9/23～）

施設名			精神神経センター病院					授業予定
学生数			10人					
1週	月	実習	関根	井上				
	火	実習	関根	井上				
	水	実習	関根	井上				
	木	実習	関根	井上				
	金	学内	関根	井上				
2週	月	実習	関根	井上				
	火	実習	関根	井上				
	水	実習	関根					2・4時限：井上（精神看護学援助論）
	木	実習	井上					2限：関根（精神看護学演習）
	金	学内	関根	井上				2限：関根・井上（精神看護学演習）

精神看護学実習5クール（10/28～）

施設名			こころのホスピタル町田					授業予定
学生数			10人					
1週	月	実習	関根	井上				
	火	実習	関根	井上				
	水	実習	関根					2・4時限：井上（精神看護学援助論）
	木	実習	井上					2限：関根・井上（精神看護学演習）
	金	学内	関根	井上				2限：関根・井上（精神看護学演習）
2週	月	実習	関根	井上				
	火	実習	関根	井上				
	水	実習	関根					2・4時限：井上（精神看護学援助論）
	木	実習	井上					2限：関根・井上（精神看護学演習）
	金	学内	関根	井上				2限：関根・井上（精神看護学演習）

精神看護学実習6クール（11/18～）

施設名			こころのホスピタル町田					授業予定
学生数			10人					
1週	月	実習	関根	井上				
	火	実習	関根	井上				
	水	実習	関根					2・4時限：井上（精神看護学援助論）
	木	実習	井上					2限：関根・井上（精神看護学演習）
	金	学内	関根	井上				2限：関根・井上（精神看護学演習）
2週	月	実習	関根	井上				
	火	実習	関根	井上				
	水	実習	関根					2・4時限：井上（精神看護学援助論）
	木	実習	井上					2限：関根・井上（精神看護学演習）
	金	学内	関根	井上				2限：関根・井上（精神看護学演習）

精神看護学実習7クール（1/13～）

施設名			精神神経センター病院					授業予定
学生数			10人					
1週	月	実習	関根	井上				
	火	実習	関根	井上				
	水	実習	関根	井上				
	木	実習	関根	井上				
	金	学内	関根	井上				
2週	月	実習	関根	井上				
	火	実習	関根	井上				
	水	実習	関根	井上				
	木	実習	関根	井上				
	金	学内	関根	井上				

精神看護学実習8クール（5/13～）

施設名			こころのホスピタル町田					授業予定
学生数			10人					
1週	月	実習	関根	井上				
	火	実習	関根	井上				
	水	実習	関根	井上				
	木	実習	関根	井上				
	金	学内	関根	井上				
2週	月	実習	関根	井上				
	火	実習	関根	井上				
	水	実習	関根	井上				
	木	実習	関根	井上				
	金	学内	関根	井上				

年次別実習計画　　母性看護学実習週間計画(平成31年度)　資料7－2－1

母性看護学実習1クール(7/29～)

施設名			町田市民病院				授業予定
学生数			5人	5人			
1週	月	実習	寺岡	内田			
	火	実習	寺岡	内田			
	水	実習	寺岡	内田			
	木	実習	寺岡	内田			
	金	学内	寺岡	内田			
2週	月	実習	寺岡	内田			
	火	実習	寺岡	内田			
	水	実習	寺岡	内田			
	木	実習	寺岡	内田			
	金	学内	寺岡	内田			

母性看護学実習2クール(9/23～)

施設名			多摩永山病院	武蔵小杉病院	稲城市立病院		授業予定
学生数			4人	3人	3人		
1週	月	実習	寺岡	内田	甲斐		
	火	実習	寺岡	内田	甲斐		
	水	実習	寺岡	内田	甲斐		
	木	実習	寺岡	内田	甲斐		
	金	学内	寺岡	内田	甲斐		
2週	月	実習	寺岡	内田	甲斐		
	火	実習	寺岡	内田	甲斐		
	水	実習	寺岡	内田	甲斐		
	木	実習	寺岡	内田	甲斐		
	金	学内	寺岡	内田	甲斐		2･3限目:寺岡(母性看護学演習)

母性看護学実習3クール(10/21～)

施設名			多摩永山病院	武蔵小杉病院	稲城市立病院		授業予定
学生数			4人	3人	3人		
1週	月	実習	寺岡	内田	甲斐		
	火	実習	寺岡	内田	甲斐		
	水	実習	寺岡	内田	甲斐		
	木	実習	寺岡	内田	甲斐		
	金	学内	寺岡	内田	甲斐		2･3限目:寺岡(母性看護学演習)
2週	月	実習	寺岡	内田	甲斐		
	火	実習	寺岡	内田	甲斐		
	水	実習	寺岡	内田	甲斐		
	木	実習	寺岡	内田	甲斐		
	金	学内	寺岡	内田	甲斐		2･3限目:寺岡(母性看護学演習)

母性看護学実習4クール（11/11～）

施設名			多摩永山病院	武蔵小杉病院	稲城市立病院		授業予定
学生数			4人	3人	3人		
1週	月	実習	寺岡	内田	甲斐		
	火	実習	寺岡	内田	甲斐		
	水	実習	寺岡	内田	甲斐		
	木	実習	寺岡	内田	甲斐		
	金	学内	寺岡	内田	甲斐		2･3限目：寺岡（母性看護学演習）
2週	月	実習	寺岡	内田	甲斐		
	火	実習	寺岡	内田	甲斐		
	水	実習	寺岡	内田	甲斐		
	木	実習	寺岡	内田	甲斐		
	金	学内	寺岡	内田	甲斐		2･3限目：寺岡（母性看護学演習）

母性看護学実習5クール（1/6～）

施設名			東海大学八王子病院	東府中病院			授業予定
学生数			4人	6人			
1週	月	実習	内田	甲斐			
	火	実習	内田	甲斐			
	水	実習	内田	甲斐			
	木	実習	内田	甲斐			
	金	学内	内田	甲斐			
2週	月	実習	内田	甲斐			
	火	実習	内田	甲斐			
	水	実習	内田	甲斐			
	木	実習	内田	甲斐			
	金	学内	内田	甲斐			

母性看護学実習6クール（2/3～）

施設名			多摩永山病院	稲城市立病院			授業予定
学生数			4人	6人			
1週	月	実習	寺岡	甲斐			
	火	実習	寺岡	甲斐			
	水	実習	寺岡	甲斐			
	木	実習	寺岡	甲斐			
	金	学内	寺岡	甲斐			
2週	月	実習	寺岡	甲斐			
	火	実習	寺岡	甲斐			
	水	実習	寺岡	甲斐			
	木	実習	寺岡	甲斐			
	金	学内	寺岡	甲斐			

母性看護学実習7クール（5/6～）

			東海大学八王子病院	新百合ヶ丘病院			
学生数			4人	6人			
1週	月	実習	内田	寺岡・専任補充予定			2･3時限：甲斐（母性看護学概論）
	火	実習	甲斐	寺岡・専任補充予定			5時限目：内田（基礎助産学Ⅱ）
	水	実習	甲斐・内田	専任補充予定			1･2限目：寺岡（母性看護学方法論Ⅰ
	木	実習	甲斐	寺岡・専任補充予定			1･2限　内田（母性看護学方法論Ⅱ）　5限　内田（助産診断・技術学方法論）
	金	学内	甲斐・内田	寺岡・専任補充予定			
2週	月	実習	内田	寺岡・専任補充予定			2･3時限：甲斐（母性看護学概論）
	火	実習	甲斐	寺岡・専任補充予定			5時限目：内田（基礎助産学Ⅱ）
	水	実習	甲斐・内田	専任補充予定			1･2限目：寺岡（母性看護学方法論Ⅰ）5時限目：渡邉幸（健康教育技法）
	木	実習	甲斐	寺岡・専任補充予定			1･2限　内田（母性看護学方法論Ⅱ）　5限　内田（助産診断・技術学方法論）
	金	学内	甲斐・内田	寺岡・専任補充予定			

母性看護学実習8クール（5/27～）							
施設名			東府中病院	武蔵小杉病院			授業予定
学生数			6人	4人			
1週	月	実習	内田	寺岡・専任補充予定			2・3時限：甲斐（母性看護学概論）
	火	実習	甲斐	寺岡・専任補充予定			5時限目：内田（基礎助産学Ⅱ）
	水	実習	甲斐・内田	専任補充予定			1・2限目：寺岡（母性看護学方法論Ⅰ）
	木	実習	甲斐	寺岡・専任補充予定			1・2限　内田（母性看護学方法論Ⅱ）　5限　内田（助産診断・技術学方法論）
	金	学内	甲斐・内田	寺岡・専任補充予定			

2週	月	実習	内田	寺岡・専任補充予定			2・3時限：甲斐（母性看護学概論）
	火	実習	甲斐	寺岡・専任補充予定			5時限目：内田（基礎助産学Ⅱ）
	水	実習	甲斐・内田	専任補充予定			1・2限目：寺岡（母性看護学方法論Ⅰ）5時限目：渡邉幸（健康教育技法）
	木	実習	甲斐	寺岡・専任補充予定			1・2限　内田（母性看護学方法論Ⅱ）　5限　内田（助産診断・技術学方法論）
	金	学内	甲斐・内田	寺岡・専任補充予定			

年次別実習計画　　在宅看護学実習週間計画（平成31年度）　資料7-2-2

在宅看護学実習　1クール（地域包括支援センター実習）（7/22～）

施設名			東部地区	西部地区	多摩センター	南部地区	北部地区	授業予定
学生数			4人	4人	4人	4人	4人	
1週	月	実習	（久保川）	（久保川）	関川	関川	窪島	1・2限久保川（在宅看護概論）
	火	実習	（久保川）	久保川	（関川）	（関川）	（窪島）	2・3限関川（在宅看護学方法論）
	水	実習	（久保川）	（久保川）	（関川）	（関川）	（窪島）	2・4限久保川・関川・窪島（在宅看護学演習）
	木	実習	久保川	久保川	関川	関川	窪島	
	金	学内	久保川		関川		窪島	

巡回指導：同日に2施設以上を巡回する場合は、AM,PMに分けて行う。

在宅看護学実習　1クール（在宅訪問看護実習）（11/25～）

施設名			ファインケア多摩	ファインケア調布	さくらんぼ	わかば	さくらが丘	授業予定
学生数			2人	2人	2人	2人	2人	
2週	月	実習	久保川	久保川	（久保川）	窪島	窪島	
	火	実習	（久保川）	（久保川）	久保川	（窪島）	（窪島）	
	水	実習	（久保川）	（久保川）	久保川	（窪島）	（窪島）	
	木	実習	久保川	久保川	（久保川）	窪島	窪島	
	金	学内	久保川			窪島		

施設名			調布	エル	つつじヶ丘	あい	あい平尾	授業予定
学生数			2人	2人	2人	2人	2人	
2週	月	実習	（鈴木）	（鈴木）	鈴木	（関川）	関川	
	火	実習	鈴木	鈴木	（鈴木）	関川	（関川）	
	水	実習	（鈴木）	（鈴木）	鈴木	（関川）	（関川）	
	木	実習	鈴木	鈴木	（鈴木）	関川	関川	
	金	学内	鈴木			関川		

巡回指導：同日に2施設以上を巡回する場合は、AM,PMに分けて行う。

在宅看護学実習　2クール（地域包括支援センター実習）（10/28～）

施設名			東部地区	西部地区	多摩センター	授業予定
学生数			3人	3人	4人	
1週	月	実習	久保川	（久保川）	鈴木	
	火	実習	（久保川）	久保川	（鈴木）	
	水	実習	（久保川）	（久保川）	（鈴木）	
	木	実習	久保川	久保川	鈴木	
	金	学内	久保川		鈴木	

巡回指導：同日に2施設以上を巡回する場合は、AM,PMに分けて行う。

在宅看護学実習　2クール（在宅訪問看護実習）（11/4～）

施設名			ファインケア多摩	ファインケア調布	さくらんぼ	わかば	さくらが丘	授業予定
学生数			2人	2人	2人	2人	2人	
2週	月	実習	（久保川）	（久保川）	久保川	（鈴木）	（鈴木）	
	火	実習	（久保川）	久保川	（久保川）	鈴木	鈴木	
	水	実習	（久保川）	（久保川）	久保川	（鈴木）	（鈴木）	
	木	実習	久保川	久保川	（久保川）	鈴木	鈴木	
	金	学内	久保川			鈴木		

巡回指導：同日に2施設以上を巡回する場合は、AM,PMに分けて行う。

施設名			あい	あい平尾	調布	授業予定
学生数			2人	2人	2人	
2週	月	実習	鈴木	鈴木	久保川	
	火	実習	（鈴木）	（鈴木）	（久保川）	
	水	実習	鈴木	鈴木	久保川	
	木	実習	（鈴木）	（鈴木）	（久保川）	
	金	学内	鈴木		久保川	

在宅看護学実習　3クール（地域包括支援センター実習）（1/13～）

施設名			多摩センター	南部地区	北部地区	授業予定
学生数			3人	3人	4人	
1週	月	実習	（関川）	（関川）	（窪島）	
	火	実習	関川	関川	窪島	
	水	実習	（関川）	（関川）	（窪島）	
	木	実習	関川	関川	窪島	
	金	学内	関川		窪島	

巡回指導：同日に2施設以上を巡回する場合は、AM,PMに分けて行う。
括弧書き部分は実習地には行っていない。

在宅看護学実習　3クール（在宅訪問看護実習）（1/20～）

施設名			越川	ファインケア多摩	わかば	やのくち	さくらんぼ	授業予定
学生数			2人	2人	2人	2人	2人	
2週	月	実習	関川	（関川）	（関川）	窪島	（窪島）	
	火	実習	（関川）	関川	関川	（窪島）	窪島	
	水	実習	関川	（関川）	（関川）	（窪島）	（窪島）	
	木	実習	（関川）	関川	関川	窪島	窪島	
	金	学内	関川			窪島		

巡回指導：同日に2施設以上を巡回する場合は、AM,PMに分けて行う。
括弧書き部分は実習地には行っていない。

在宅看護学実習　4クール（地域包括支援センター実習）（2/3～）

施設名			東部地区	西部地区	多摩センター	南部地区	北部地区	授業予定
学生数			4人	4人	4人	4人	4人	
1週	月	実習	（久保川）	鈴木	（鈴木）	（関川）	窪島	
	火	実習	久保川	鈴木	鈴木	関川	窪島	
	水	実習	（久保川）	（鈴木）	（鈴木）	（関川）	（窪島）	
	木	実習	久保川	鈴木	鈴木	関川	窪島	
	金	学内	久保川	鈴木	鈴木	関川	窪島	

在宅看護学実習　4クール（在宅訪問看護実習）（2/10～）

施設名			ファインケア多摩	ファインケア調布	さくらんぼ	やのくち	さくらが丘	わかば	授業予定
学生数			2人	2人	2人	2人	2人	2人	
2週	月	実習	（久保川）	久保川	（久保川）	鈴木	窪島	鈴木	
	火	実習	久保川	（久保川）	久保川	鈴木	（窪島）	鈴木	
	水	実習	（久保川）	（久保川）	久保川	（鈴木）	窪島	（鈴木）	
	木	実習	久保川	久保川	（久保川）	鈴木	窪島	鈴木	
	金	学内	久保川			鈴木	窪島	（鈴木）	

施設名			調布	エル	つつじヶ丘	あい	あい平尾	井田病院	授業予定
学生数			2人	2人	2人	2人	2人	2人	
2週	月	実習	（関川）	関川	関川	（窪島）	窪島	鈴木	
	火	実習	関川	（関川）	（関川）	窪島	（窪島）	鈴木	
	水	実習	関川	（関川）	（関川）	（窪島）	窪島	（鈴木）	
	木	実習	（関川）	関川	関川	窪島	窪島	鈴木	
	金	学内	関川			窪島		鈴木	

在宅看護学実習　5クール（地域包括支援センター実習）（5/6～）

施設名			東部地区	西部地区	多摩センター	南部地区	北部地区	授業予定
学生数			4人	4人	4人	4人	4人	
1週	月	実習	（久保川）	（久保川）	鈴木	鈴木	（久保川）	1･2限久保川：在宅看護学概論
	火	実習	久保川	（久保川）	（鈴木）	（鈴木）	久保川	2･3限鈴木在宅看護学方法論
	水	実習	（久保川）	（久保川）	（鈴木）	（鈴木）	（久保川）	2･4限久保川･鈴木在宅看護学演習
	木	実習	久保川	久保川	鈴木	鈴木	窪島	
	金	学内	久保川		鈴木			

在宅看護学実習　5クール（在宅訪問看護実習）（5/13～）

施設名			ファインケア多摩	ファインケア調布	さくらんぼ	わかば	さくらが丘	授業予定
学生数			2人	2人	2人	2人	2人	
2週	月	実習	（久保川）	（久保川）	（久保川）	（鈴木）	鈴木	1･2限久保川：在宅看護学概論
	火	実習	久保川	久保川	久保川	（鈴木）	（鈴木）	2･3限鈴木在宅看護学方法論
	水	実習	（久保川）	（久保川）	（久保川）	（鈴木）	（鈴木）	2･4限久保川･鈴木在宅看護学演習
	木	実習	久保川	久保川	久保川	鈴木	鈴木	
	金	学内	久保川					

資料7-2-2

年次別実習計画　　基礎看護学実習週間計画（平成31年度）

基礎看護学実習Ⅰ1クール（5/6～）

施設名			日医多摩永山病院	共済立川病院	国病村山医療センター	国病相模原病院	精神・神経研究センター病院	横浜市民総合病院	備考
学生数			8人	8人	8人	8人	8人	4人	
1週	月	実習	分島	佐藤・関根	廣瀬・荻原	関川・窪島	三輪・井上	川守田	1･2限：和賀（医療安全論）
	火	実習	分島・和賀	佐藤	廣瀬・荻原	関川・窪島	三輪・井上	川守田	1･2限：関根（精神看護学概論）1・2限：佐藤（2年休講）
	水	実習	分島・和賀	佐藤・関根	廣瀬・荻原	関川・窪島	三輪・井上	川守田	
	木	学内	分島	佐藤	荻原	川守田	三輪	川守田	
	金	学内	1クール実践と理論の統合・学習討議・発表（三輪・川守田・分島・佐藤）						

基礎看護学実習Ⅰ2クール（5/13～）

施設名			日医多摩永山病院	共済立川病院	国病箱根病院	国病相模原病院	横浜市民総合病院	備考
学生数			8人	8人	8人	8人	4人	
1週	月	実習	分島	穴田・関根	三輪・井上	関川・窪島	川守田	1･2限：和賀（医療安全論）
	火	実習	分島・和賀	穴田	三輪・井上	関川・窪島	川守田	1･2限：関根（精神看護学概論）
	水	実習	分島・和賀	穴田・関根	三輪・井上	関川・窪島	川守田	
	木	学内	分島	穴田・関根	三輪・井上	川守田		
	金	学内	2クール実践と理論の統合学習・討議・発表（川守田・分島）					

基礎看護学実習Ⅱ　1クール（6/17～、臨地は17･18）

施設名			日医多摩永山病院	日医武蔵小杉病院	共済立川病院	国病箱根病院	国病相模原病院	埼玉リハビリテーションセンター	授業予定
学生数			8人	8人	8人	8人	8人	8人	
1週	月	実習	分島・加藤	川守田・荻原	佐藤・関根	櫻井	関川・窪島	三輪・井上	1.2限和賀（医療安全論）（1年　講義休講）
	火	実習	分島・加藤	川守田・荻原	佐藤	櫻井・和賀	関川・窪島	三輪・井上	1･2限：関根（精神看護学概論）（1年　講義休講）
	水	学内	実践と理論の統合学習（和賀）						
	木	学内	実践と理論の統合学習（和賀）						
	金	学内	1．2クール合同クラス内発表・討議（三輪・川守田・分島・佐藤・櫻井・関川・荻原・廣瀬）						

基礎看護学実習Ⅱ　2クール（6/17～、臨地は19･20）

施設名			日医多摩永山病院	日医武蔵小杉病院	共済立川病院	埼玉リハビリテーションセンター	授業予定
学生数			8人	8人	8人	8人	
1週	月	学内	実践と理論の統合学習（石川）				
	火	学内	実践と理論の統合学習（石川）				
	水	実習	分島・石川	川守田・荻原	佐藤・関根	三輪・廣瀬	（1年　講義休講）
	木	実習	分島・石川	川守田・荻原	佐藤・関根	三輪	3･4限廣瀬（小児看護学概論）　（1年　講義休講）
	金	学内	1．2クール合同クラス内発表・討議（三輪・川守田・分島・佐藤・櫻井・関川・荻原・廣瀬）				

基礎看護学実習Ⅲ （2/24～）

施設名			日医多摩永山病院	日医武蔵小杉病院	共済立川病院	国病相模原病院	国病箱根病院	埼玉リハビリテーションセンター	国病神奈川病院	精神・神経研究センター病院
学生数			10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人
1週	月	実習	内田	川守田・小林	佐藤・渡邊幸	今村・窪島	関川・中込	廣瀬・穴田	厚澤・久保川	三輪・鈴木
	火	実習	内田	川守田・小林	佐藤・渡邊幸	今村・窪島	関川・中込	廣瀬・穴田	厚澤・久保川	三輪・鈴木
	水	実習	分島・内田	小林	佐藤・渡邊幸	今村・窪島	関川・中込	廣瀬・穴田	厚澤・久保川	三輪・鈴木
	木	実習	分島・内田	川守田・小林	佐藤・渡邊幸	今村・窪島	関川・中込	廣瀬・穴田	厚澤・久保川	三輪・鈴木
	金	学内	分島	川守田	佐藤	今村	中込	穴田	厚澤	三輪

			授業予定
1週	月	実習	3限：分島（基礎看護学方法論Ⅲ）（2年　講義休講）
	火	実習	4限：分島（基礎看護学方法論Ⅲ）（2年　講義休講）
	水	実習	1・3限：川守田（基礎看護学方法論Ⅱ）（2年　講義休講）
	木	実習	なし（2年　講義休講）
	金	学内	

施設名			日医多摩永山病院	日医武蔵小杉病院	共済立川病院	国病相模原病院	国病箱根病院	埼玉リハビリテーションセンター	国病神奈川病院	精神・神経研究センター病院
学生数			10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人
2週	月	実習	内田	川守田・小林	佐藤・渡邊幸	今村・窪島	関川・中込	廣瀬・穴田	厚澤・久保川	三輪・鈴木
	火	実習	内田	川守田・小林	佐藤・渡邊幸	今村・窪島	関川・中込	廣瀬・穴田	厚澤・久保川	三輪・鈴木
	水	実習	分島・内田	小林	佐藤・渡邊幸	今村・窪島	関川・中込	廣瀬・穴田	厚澤・久保川	三輪・鈴木
	木	実習	分島・内田	川守田・小林	佐藤・渡邊幸	今村・窪島	関川・中込	廣瀬・穴田	厚澤・久保川	三輪・鈴木
	金	学内	分島	川守田	佐藤	今村	中込	穴田	厚澤	三輪

			授業予定
2週	月	実習	3限：分島（基礎看護学方法論Ⅲ）（2年　講義休講）
	火	実習	4限：分島（基礎看護学方法論Ⅲ）（2年　講義休講）
	水	実習	1・3限：川守田（基礎看護学方法論Ⅱ）（2年　講義休講）
	木	実習	なし（2年　講義休講）
	金	学内	

年次別実習計画　　統合実習週間計画（平成31年度）　　資料7-2-2

統合実習Ⅰ（9/9～）

施設名			日医多摩永山病院	共済立川病院	国病村山医療センター	国病箱根病院	横浜市民総合病院	虎の門病院	国立がん研究センター中央	精神・神経研究センター病院	埼玉総合リハビリテーションセンター
学生数			10人	10人	10人	10人	8	8人	4人	10人	10人
1週	月	実習	関川・石川	小林・鈴木	中込・厚澤	分島・窪島	三輪・久保川	川守田・荻原	佐藤	今村・和賀	穴田・廣瀬
	火	実習	関川・石川	小林・鈴木	中込・厚澤	分島・窪島	三輪・久保川	川守田・荻原	佐藤	今村・和賀	穴田・廣瀬
	水	実習	関川・石川	小林・鈴木	中込・厚澤	分島・窪島	三輪・久保川	川守田・荻原	佐藤	今村・和賀	穴田・廣瀬
	木	実習	関川・石川	小林・鈴木	中込・厚澤	分島・窪島	三輪・久保川	川守田・荻原	佐藤	今村・和賀	穴田・廣瀬
	金	学内	関川・石川	小林・鈴木	中込・厚澤	分島・窪島	三輪・久保川	川守田・荻原	佐藤	今村・和賀	穴田・廣瀬

			授業予定
1週	月	実習	
	火	実習	
	水	実習	
	木	実習	
	金	学内	

統合実習Ⅱ（12/9～）

施設名			日医多摩永山病院	共済立川病院	国病村山医療センター	国病箱根病院	横浜市民総合病院	虎の門病院	国立がん研究センター中央	精神・神経研究センター病院	横浜市大病院
学生数			10人	10人	10人	10人	8人	8人	4人	10人	10人
1週	月	実習	関川・石川	小林・井上	穴田	窪島	三輪・寺岡	川守田・和賀	佐藤	関根・今村	鈴木・厚澤
	火	実習	関川・石川	小林・井上	中込・穴田	窪島	三輪・寺岡	川守田・和賀	佐藤	関根・今村	鈴木・厚澤
	水	実習	関川・石川	小林	穴田	分島・窪島	三輪・寺岡	和賀	佐藤	関根	鈴木・厚澤
	木	実習	関川・石川	小林	中込・穴田	分島・窪島	三輪・寺岡	川守田・和賀	佐藤	今村	鈴木・厚澤
	金	学内	関川・石川	井上	中込	分島・窪島	三輪・寺岡	川守田・和賀	佐藤	関根・今村	鈴木・厚澤

			授業予定
1週	月	実習	
	火	実習	なし
	水	実習	2・4限：中込・今村（老年看護学演習）、2・4限：井上（精神看護学援助論）、1・3限：川守田（基礎看護学方法論Ⅱ）
	木	実習	2限：関根：井上（精神看護学演習）
	金	学内	2限：関根：井上（精神看護学演習）5限：和賀（ｷｬﾘｱﾃﾞｨﾌﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ）

施設名			日医多摩永山病院	共済立川病院	国病村山医療センター	国病箱根病院	横浜市民総合病院	虎の門病院	国立がん研究センター中央	精神・神経研究センター病院	横浜市大病院
学生数			10人	10人	10人	10人	8人	8人	4人	10人	10人
2週	月	実習	関川・石川	小林・井上	穴田	窪島	三輪・寺岡	川守田・和賀	佐藤	関根・今村	鈴木・厚澤
	火	実習	関川・石川	小林・井上	中込・穴田	窪島	三輪・寺岡	川守田・和賀	佐藤	関根・今村	鈴木・厚澤
	水	実習	関川・石川	小林	穴田	分島・窪島	三輪・寺岡	和賀	佐藤	関根	鈴木・厚澤
	木	実習	関川・石川	小林	中込・穴田	分島・窪島	三輪・寺岡	川守田・和賀	佐藤	今村	鈴木・厚澤
	金	学内	関川・石川	井上	中込	分島・窪島	三輪・寺岡	川守田・和賀	佐藤	関根・今村	鈴木・厚澤

			授業予定
2週	月	実習	
	火	実習	
	水	実習	2・4限：櫻井・中込・今村（老年看護学演習）、2・4限：井上（精神看護学援助論）、1・3限：川守田（基礎看護学方法論Ⅱ）
	木	実習	2限：関根：井上（精神看護学演習）、
	金	学内	2限：関根：井上（精神看護学演習）5限：和賀（ｷｬﾘｱﾃﾞｨﾌﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ）

資料7-3　　教員別時間割　　石川みち子

前期

※1前 基礎看護学実習ⅠⅡ 3前 老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4前 老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4通 看護の探究Ⅳ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30				3前 医療チーム内のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ （窪島ほか）W-303		
2 10:40 ～ 12:10						
3 13:10 ～ 14:40						
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00						

後期

※2後 基礎看護学実習Ⅲ 4前 老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4後 統合実習Ⅰ・Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10	2後 老年看護学方法論 （櫻井ほか）W-310		2後 老年看護学演習 （今村ほか）W-306			
3 13:10 ～ 14:40	2後 老年看護学方法論 （櫻井ほか）W-310					
4 14:50 ～ 16:20			2後 老年看護学演習 （今村ほか）W-306			
5 16:30 ～ 18:00						

資料7-3　　教員別時間割　　和賀徳子

前期　　※1前　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30	3前 医療安全論 (和賀・廣瀬)W-109			3前 医療チーム内のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ (窪島ほか)W-303	1前(共同) 専門職の世界 (和賀ほか)W-302 3前(共同) 問題解決技法 (武田ほか) W-109	
2 10:40 ～ 12:10	3前 医療安全論 (和賀・廣瀬)W-110	1前 看護の探究Ⅰ (和賀)W-106	1前 看護の探究Ⅰ (和賀)W-107		3前 問題解決技法 (和賀ほか) W-109	
3 13:10 ～ 14:40				1前 ｾﾙﾌﾃﾞｨﾌﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ (和賀・三輪・川守田・佐藤和・櫻井・分島・関川・井上・武田・内田)W-302		4前 医療以外の多職種との交流と発展 (甲斐ほか)W-104
4 14:50 ～ 16:20					1前 ｽﾀﾃﾞｨｽｷﾙｾﾐﾅｰ (和賀ほか)W-302	4前 ｷｬﾘｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 (川守田ほか)W-104
5 16:30 ～ 18:00					3前 ボランタリー ワークセミナー (和賀ほか) W-303	

後期　　※2後　基礎看護学実習Ⅱ・4後　統合実習Ⅰ・Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10						
3 13:10 ～ 14:40						
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00					2後 ｷｬﾘｱﾃﾞｨﾌﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ (穴田・和賀・佐藤・櫻井・小林・今村・厚澤) W-301	

資料7-3　　教員別時間割　　川守田千秋

前期　　※1前　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4通　看護の探究Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30			1前 看護学技術論 （川守田）W-107		1前 専門職の世界 （和賀・三輪・川守田・分島・関川・井上・内田・武田）W-302	
2 10:40 ～ 12:10	2前 基礎看護学演習Ⅳ （武田ほか）W-106					
3 13:10 ～ 14:40	2前 基礎看護学演習Ⅳ （武田ほか）W-106		1前 看護学技術論 （川守田）W-107	1前 ｾﾙﾌﾃﾞｨﾌﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ （和賀・三輪・川守田・佐藤和・櫻井・分島・関川・井上・武田・内田）W-302	1前 基礎看護学演習Ⅰ （三輪ほか）W-309	
4 14:50 ～ 16:20						4前 ●キャリアマネジメント論 （川守田ほか） W-104
5 16:30 ～ 18:00				1前 基礎看護学演習Ⅰ （三輪ほか）W-309		

後期　　※2後　基礎看護学実習Ⅲ・4後　統合実習Ⅰ・Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30			1後 基礎看護学方法論Ⅱ （川守田）W-106		1後 基礎看護学演習Ⅲ （武田ほか）W-309	
2 10:40 ～ 12:10						
3 13:10 ～ 14:40			1後 基礎看護学方法論Ⅱ （川守田）W-106	1後 基礎看護学演習Ⅱ （川守田ほか）W-309	1後 基礎看護学演習Ⅲ （武田ほか）W-309	
4 14:50 ～ 16:20				1後 基礎看護学演習Ⅱ （川守田ほか）W-309		
5 16:30 ～ 18:00						

資料7-3　　教員別時間割　　佐藤和子

前期　　※1前 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・3前 成人看護学実習Ⅰ・4前 成人看護学実習Ⅱ・4通 看護の探究Ⅲ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30		2前 成人看護学概論 （佐藤)W-305			1前 専門職の世界 (和賀・三輪・川守田・分島・関川・井上・内田・武田) W-302	
2 10:40 ～ 12:10	2前 基礎看護学演習Ⅳ （武田ほか）W-106	2前 成人看護学概論 （佐藤)W-305				
3 13:10 ～ 14:40	2前 基礎看護学演習Ⅳ （武田ほか）W-106			1前 ｾﾙﾌﾃﾞｨﾌﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ (和賀・三輪・川守田・佐藤和・櫻井・分島・関川・井上・武田・内田) W-302		
4 14:50 ～ 16:20					1前 ｽﾀﾃﾞｨｽｷﾙｾﾐﾅｰ （和賀ほか）W-302	
5 16:30 ～ 18:00						

後期　　※2後 基礎看護学実習Ⅲ・3後成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4後 統合実習Ⅰ・Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10						
3 13:10 ～ 14:40				2後 成人看護学方法論Ⅳ （佐藤ほか）W-305	2後 成人看護学演習 （小林ほか）W-306	
4 14:50 ～ 16:20				2後 成人看護学方法論Ⅳ （佐藤ほか）W-305	2後 成人看護学演習 （小林ほか）W-306	
5 16:30 ～ 18:00					2後 ｷｬﾘｱﾃﾞｨﾌﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ (穴田・和賀・佐藤・櫻井・小林・今村・厚澤) W-301	

資料7-3　　教員別時間割　　櫻井美代子

前期　　※1前　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・3前・4前　老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4通　看護の探究Ⅳ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30			2前 老年看護学概論 （櫻井）W-305	3前 医療チーム内のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ （窪島ほか）W-303	1前 専門職の世界 （和賀・三輪・川守田・分島・関川・井上・内田・武田） W-302	
2 10:40 ～ 12:10			2前 老年看護学概論 （櫻井）W-305			
3 13:10 ～ 14:40				1前 ｾﾙﾌﾃﾞｨﾌﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ （和賀・三輪・川守田・佐藤和・櫻井・分島・関川・井上・武田・内田）W-302		
4 14:50 ～ 16:20					1前 ｽﾀﾃﾞｨｽｷﾙｾﾐﾅｰ （和賀ほか）W-302	
5 16:30 ～ 18:00						

後期　　※3後　老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4後　統合実習Ⅰ・Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10	2後 老年看護学方法論 （櫻井）W-310		2後 老年看護学演習 （今村ほか）W-306			
3 13:10 ～ 14:40	2後 老年看護学方法論 （櫻井）W-310					
4 14:50 ～ 16:20			2後 老年看護学演習 （今村ほか）W-306			
5 16:30 ～ 18:00					2後 ｷｬﾘｱﾃﾞｨﾌﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ （穴田・和賀・佐藤・櫻井・小林・今村・厚澤） W-301	

資料7-3　　教員別時間割　　久保川真由美

前期　　※3前　老年看護学実習Ⅱ・4前　在宅看護学実習・4通　看護の探究Ⅷ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30	3前 在宅看護学概論 (久保川)W-108			3前 医療チーム内のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ (窪島ほか)W-303		
2 10:40 ～ 12:10	3前 在宅看護学概論 (久保川)W-108		3前 在宅看護学演習 (久保川ほか)W-211			
3 13:10 ～ 14:40						
4 14:50 ～ 16:20			3前 在宅看護学演習 (久保川ほか)W-211			
5 16:30 ～ 18:00						

後期　　※ 2後　基礎看護学実習Ⅲ・3後　在宅看護学実習・老年看護学実習Ⅱ・4後　統合実習Ⅰ・Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10						
3 13:10 ～ 14:40						
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00						

資料7-3　　教員別時間割　　関根正

前期　　※1前　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4通　看護の探究Ⅶ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30		2前 精神看護学概論 （関根）W-310				
2 10:40 ～ 12:10		2前 精神看護学概論 （関根）W-310				
3 13:10 ～ 14:40						
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00					3前 ボランタリー ワークセミナー （和賀ほか） W-303	

後期　　※3後　精神看護学実習・4後　統合実習Ⅰ・Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10				2後 精神看護学演習 （井上ほか）W-306	2後 精神看護学演習 （井上ほか）W-306	
3 13:10 ～ 14:40						
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00						

資料7-3　　教員別時間割　　甲斐寿美子

前期　　※3前　小児看護学実習・4前　母性看護学実習・4通　看護の探究Ⅴ・Ⅵ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10	2前 母性看護学概論 （甲斐）W-213					
3 13:10 ～ 14:40	2前 母性看護学概論 （甲斐）W-213					4前 医療以外の多職種 との交流と発展 （甲斐ほか）W-104
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00						

後期　　※3後　母性看護学実習・小児看護学実習・4後　統合実習Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10						
3 13:10 ～ 14:40					2後 母性看護学演習 （寺岡ほか）W-214	
4 14:50 ～ 16:20					2後 母性看護学演習 （寺岡ほか）W-214	
5 16:30 ～ 18:00						

資料7-3　　教員別時間割　　渡邊淳子

前期　　※1前　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4通　看護の探究Ⅵ・Ⅸ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30				3前 医療チーム内のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ （窪島ほか）W-303		
2 10:40 ～ 12:10				3前 助産診断・技術学概論(渡邊淳)W-108		
3 13:10 ～ 14:40	3前 助産学概論 （渡邊淳）W-109			3通 助産診断・技術学演習Ⅰ（渡邊淳ほか） W-109	3前 助産管理学 （渡邊淳）W-213	
4 14:50 ～ 16:20		3前 基礎助産学Ⅰ （渡邊淳）W-109				
5 16:30 ～ 18:00						

後期　　※4前後　助産学実習

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						3後 助産診断・技術学演習Ⅱ（渡邊淳ほか）　W-214
2 10:40 ～ 12:10						3後 助産診断・技術学演習Ⅲ（渡邊淳ほか）　W-214
3 13:10 ～ 14:40				1後 基礎看護学演習Ⅱ （川守田ほか）W-309 3通 助産診断・技術学演習Ⅰ （渡邊淳ほか） W-109		
4 14:50 ～ 16:20				1後 基礎看護学演習Ⅱ （川守田ほか）W-309		
5 16:30 ～ 18:00						

資料7-3　　教員別時間割　　三輪のり子

前期　　※1前　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4通　看護の探究Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30			1前 基礎看護学方法論Ⅰ （武田ほか）W-106	1前 基礎看護学概論 （三輪）W-106	1前 専門職の世界 (和賀・三輪・川守田・分島・関川・井上・内田・武田)W-302	
2 10:40 ～ 12:10	2前 基礎看護学演習Ⅳ （武田ほか）W-106					
3 13:10 ～ 14:40	2前 基礎看護学演習Ⅳ （武田ほか）W-106			1前 ｾﾙﾌﾃﾞｨﾌﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ (和賀・三輪・川守田・佐藤和・櫻井・分島・関川・井上・武田・内田)W-302	1前 基礎看護学演習Ⅰ （三輪ほか）W-309	
4 14:50 ～ 16:20		1前 基礎看護学概論 （三輪）W-106	1前 基礎看護学方法論Ⅰ （三輪ほか）W-106			
5 16:30 ～ 18:00				1前 基礎看護学演習Ⅰ （三輪ほか）W-309		

後期　　※2後　基礎看護学実習Ⅲ・4後　統合実習Ⅰ・Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30					1後 基礎看護学演習Ⅲ （武田ほか）W-309	
2 10:40 ～ 12:10						
3 13:10 ～ 14:40				1後 基礎看護学演習Ⅱ （川守田ほか）W-309	1後 基礎看護学演習Ⅲ （武田ほか）W-309	
4 14:50 ～ 16:20				1後 基礎看護学演習Ⅱ （川守田ほか）W-309		
5 16:30 ～ 18:00						

資料7-3　　教員別時間割　　分島るり子

前期　　※1前　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・3前　成人看護学実習Ⅰ・4前　成人看護学実習Ⅱ・4通　看護の探究Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30					1前 専門職の世界 (和賀・三輪・川守田・佐藤・櫻井・分島・関川・井上・内田・武田) W-302	
2 10:40 ～ 12:10	2前 基礎看護学演習Ⅳ (武田ほか)W-106					
3 13:10 ～ 14:40	2前 基礎看護学演習Ⅳ (武田ほか)W-106			1前 ｾﾙﾌﾃﾞｨﾌﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ (和賀・川守田・佐藤和・櫻井・分島・関川・井上・武田・内田)W-302	1前 基礎看護学演習Ⅰ (分島ほか)W-309	
4 14:50 ～ 16:20		1前 看護学援助論 (分島)W-107		1前 看護学援助論 (分島)W-107		
5 16:30 ～ 18:00				1前 基礎看護学演習Ⅰ (鈴木ほか)W-309		

後期　　※2後　基礎看護学実習Ⅲ・3後　成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4後　統合実習Ⅰ・Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30					1後 基礎看護学演習Ⅲ (武田ほか)W-309	
2 10:40 ～ 12:10						
3 13:10 ～ 14:40	1後 基礎看護学方法論Ⅲ (分島)W-106			1後 基礎看護学演習Ⅱ (川守田ほか)W-309	1後 基礎看護学演習Ⅲ (武田ほか)W-309	
4 14:50 ～ 16:20		1後 基礎看護学方法論Ⅲ (分島)W-106		1後 基礎看護学演習Ⅱ (川守田ほか)W-309		
5 16:30 ～ 18:00						

資料7-3　　教員別時間割　　小林美智子

前期　　※3前　成人看護学実習Ⅰ・4前　成人看護学実習Ⅱ・4通　看護の探究Ⅲ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30					2前 成人看護学方法論 Ⅰ（小林）W-305	
2 10:40 ～ 12:10					2前 成人看護学方法論 Ⅰ（小林）W-305	
3 13:10 ～ 14:40						
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00						

後期　　※3後　成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4前　成人看護学実習Ⅱ・4後　統合実習Ⅰ・Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10						
3 13:10 ～ 14:40				2後 成人看護学方法論 Ⅳ （佐藤ほか）W-305	2後 成人看護学演習 （小林ほか）W-306	
4 14:50 ～ 16:20				2後 成人看護学方法論 Ⅳ （佐藤ほか）W-305	2後 成人看護学演習 （小林ほか）W-306	
5 16:30 ～ 18:00					2後 ｷｬﾘｱﾃﾞｨﾌﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ （穴田・和賀・佐藤・櫻井・小林・今村・厚澤） W-301	

資料7-3　　教員別時間割　　今村嘉子

前期　　※3前　老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4前　老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4通　看護の探究Ⅳ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30					2前 老年看護学援助論 （今村）W-310	
2 10:40 ～ 12:10						
3 13:10 ～ 14:40						
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00					2前 老年看護学援助論 （今村）W-310	

後期　　※4前　老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4後　統合実習Ⅰ・Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10			2後 老年看護学演習 （今村ほか）W-306			
3 13:10 ～ 14:40						
4 14:50 ～ 16:20			2後 老年看護学演習 （今村ほか）W-306			
5 16:30 ～ 18:00					2後 ｷｬﾘｱﾃﾞｨﾌﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ （穴田・和賀・佐藤・櫻井・小林・今村・厚澤） W-301	

資料7-3　　教員別時間割　　中込由美

前期　　※1前　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・3前4前　老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4通　看護の探究Ⅳ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10						
3 13:10 ～ 14:40						4前 医療以外の多職種 との交流と発展 （甲斐ほか）W-104
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00						

後期　　※2後　基礎看護学実習Ⅲ・3後　老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4後　統合実習Ⅰ・Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10			2後 老年看護学演習 （今村ほか）W-306			
3 13:10 ～ 14:40						
4 14:50 ～ 16:20			2後 老年看護学演習 （今村ほか）W-306			
5 16:30 ～ 18:00						

資料7-3　　教員別時間割　　鈴木久子

前期　　※3前　老年看護学実習Ⅱ・4前　在宅看護学実習・4通　看護の探究Ⅷ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30				3前 医療チーム内のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ （窪島ほか）W-303		
2 10:40 ～ 12:10		3前 在宅看護学方法論 (鈴木久ほか)W-108	3前 在宅看護学演習 （久保川ほか）W-211			
3 13:10 ～ 14:40		3前 在宅看護学方法論 (鈴木久ほか)W-108				
4 14:50 ～ 16:20			3前 在宅看護学演習 （久保川ほか）W-211			
5 16:30 ～ 18:00						

後期　　※2後　基礎看護学実習Ⅲ・3後　在宅看護学実習・4後　統合実習Ⅰ・Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10						
3 13:10 ～ 14:40						
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00						

資料7-3　　教員別時間割　　廣瀬京子

前期　　※1前　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・3前　小児看護学実習・4前　小児看護学実習・4通　看護の探究Ⅴ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30	3前 医療安全論 (和賀・廣瀬)W-109			3前 医療チーム内のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ (窪島ほか)W-303		
2 10:40 ～ 12:10	3前 医療安全論 (和賀・廣瀬)W-110				2前(共同) 小児看護学方法論Ⅰ (廣瀬・荻原)W-213	
3 13:10 ～ 14:40				2前 小児看護学概論 (廣瀬)W-213	1前 基礎看護学演習Ⅰ (三輪ほか)W-309	
4 14:50 ～ 16:20				2前 小児看護学概論 (廣瀬)W-213	2前(共同) 小児看護学方法論Ⅰ (廣瀬・荻原)W-213	
5 16:30 ～ 18:00				1前 基礎看護学演習Ⅰ (三輪ほか)W-309		

後期　　※2後　基礎看護学実習Ⅲ・3後　小児看護学実習・4後　統合実習Ⅰ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10					2後 小児看護学演習 (廣瀬・荻原) W-213	
3 13:10 ～ 14:40						
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00				2後 小児看護学演習 (廣瀬・荻原)W-213		

資料7-3　　教員別時間割　　穴田博美

前期　　※1前　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・3前　成人看護学実習Ⅰ・4前　成人看護学実習Ⅱ・4通　看護の探究Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10	2前 基礎看護学演習Ⅳ （武田ほか）W-106					
3 13:10 ～ 14:40	2前 基礎看護学演習Ⅳ （武田ほか）W-106				1前 基礎看護学演習Ⅰ （三輪ほか）W-309	
4 14:50 ～ 16:20						4前 ｷｬﾘｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 （川守田ほか）W-104
5 16:30 ～ 18:00				1前 基礎看護学演習Ⅰ （三輪ほか）W-309		

後期　　※1後　基礎看護学方法論Ⅳ・2後　基礎看護学実習Ⅲ・3後　成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4後　統合実習Ⅰ・Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30					1後 基礎看護学演習Ⅲ （武田ほか）W-309	
2 10:40 ～ 12:10						
3 13:10 ～ 14:40				1後 基礎看護学演習Ⅱ （川守田ほか）W-309	2後 成人看護学演習 （小林ほか）W-306 1後 基礎看護学演習Ⅲ （武田ほか）W-309	
4 14:50 ～ 16:20				1後 基礎看護学演習Ⅱ （川守田ほか）W-309	2後 成人看護学演習 （小林ほか）W-306	
5 16:30 ～ 18:00					2後 ｷｬﾘｱﾃﾞｨﾍﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ （穴田・三輪・佐藤・櫻井・小林・今村・厚澤） W-301	

資料7-3　　教員別時間割　　大山裕子

前期　　※3前・4前　老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4通　看護の探究Ⅳ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30					3前 問題解決技法 （武田ほか）W-109	
2 10:40 ～ 12:10					3前 問題解決技法 （和賀ほか）W-109	
3 13:10 ～ 14:40						4前 医療以外の多職種 との交流と発展 （甲斐ほか）W-104
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00					3前 ボランタリー ワークセミナー （和賀ほか） W-303	

後期　　※3後老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10	2後 老年看護学方法論 （櫻井・大山）W-310		2後 老年看護学演習 （今村ほか）W-306			
3 13:10 ～ 14:40	2後 老年看護学方法論 （櫻井・大山）W-310					
4 14:50 ～ 16:20			2後 老年看護学演習 （今村ほか）W-306			
5 16:30 ～ 18:00						

資料7-3　　教員別時間割　　関川久美子

前期　　※1前　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4前　在宅看護学実習・4通　看護の探究Ⅷ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30					1前 専門職の世界 (和賀・三輪・川守田・分島・関川・井上・内田・武田)W-302	
2 10:40 ～ 12:10	2前 基礎看護学演習Ⅳ (武田ほか)W-106	3前 在宅看護学方法論 (鈴木久ほか)W-108	3前 在宅看護学演習 (久保川ほか)W-211			
3 13:10 ～ 14:40	2前 基礎看護学演習Ⅳ (武田ほか)W-106	3前 在宅看護学方法論 (鈴木久ほか)W-108		1前 ｾﾙﾌﾃﾞｨﾌﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ (和賀・三輪・川守田・佐藤和・櫻井・分島・関川・井上・武田・内田)W-302		
4 14:50 ～ 16:20			3前 在宅看護学演習 (久保川ほか)W-211			
5 16:30 ～ 18:00						

後期　　※2後　基礎看護学実習Ⅲ・3後　在宅看護学実習・4後　統合実習Ⅰ・Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10						
3 13:10 ～ 14:40						
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00						

資料7-3　　教員別時間割　　荻原康子

前期　　※1前　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・3前　小児看護学実習・4前　小児看護学実習

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30				3前 医療チーム内のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ （窪島ほか）W-303		
2 10:40 ～ 12:10					2前 小児看護学方法論Ⅰ （廣瀬・荻原 ） W-213	
3 13:10 ～ 14:40						
4 14:50 ～ 16:20					2前 小児看護学方法論Ⅰ （廣瀬・荻原） W-213	
5 16:30 ～ 18:00						

後期　　※2後　基礎看護学実習Ⅲ・3後　小児看護学実習・4後　統合実習Ⅰ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30					1後 基礎看護学演習Ⅲ （武田ほか）W-309	
2 10:40 ～ 12:10		2後 小児看護学方法論Ⅱ（荻原）W-305			2後 小児看護学演習 （廣瀬・荻原） W-213	
3 13:10 ～ 14:40		2後 小児看護学方法論Ⅱ（荻原）W-305			1後 基礎看護学演習Ⅲ （武田ほか） W-309	
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00				2後 小児看護学演習 （廣瀬・荻原） W-213		

資料7-3　　教員別時間割　　井上聡子

前期　　※1前　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4通　看護の探究Ⅶ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30					1前 専門職の世界 (和賀・三輪・川守田・分島・関川・井上・内田・武田)W-302	
2 10:40 ～ 12:10	2前 基礎看護学演習Ⅳ (武田ほか)W-106					
3 13:10 ～ 14:40	2前 基礎看護学演習Ⅳ (武田ほか)W-106			1前 ｾﾙﾌﾃﾞｨﾌﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ (和賀・三輪・川守田・佐藤和・櫻井・分島・関川・井上・武田・内田)W-302		
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00						

後期　　※3後　精神看護学実習・4後　統合実習Ⅰ・Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10			2後 精神看護学援助論 (井上) W-310	2後 精神看護学演習 (井上ほか) W-306	2後 精神看護学演習 (井上ほか) W-306	
3 13:10 ～ 14:40						
4 14:50 ～ 16:20			2後 精神看護学援助論 (井上) W-310			
5 16:30 ～ 18:00						

資料7-3　　教員別時間割　　寺岡歩

前期　　※4前　母性看護学実習・助産学実習・4通　看護の探究Ⅵ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30			2前 母性看護学方法論Ⅰ （寺岡）W-213	3前 医療チーム内のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ （窪島ほか）W-303		
2 10:40 ～ 12:10			2前 母性看護学方法論Ⅰ （寺岡）W-213			
3 13:10 ～ 14:40						
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00						

後期　　※3後　母性看護学実習・4後　助産学実習・統合実習Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10						
3 13:10 ～ 14:40					2後 母性看護学演習 （寺岡ほか）W-214	
4 14:50 ～ 16:20					2後 母性看護学演習 （寺岡ほか）W-214	
5 16:30 ～ 18:00						

資料7-3　　教員別時間割　　武田真

前期　　※4通　看護の探究Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30			1前 基礎看護学方法論Ⅰ （武田ほか）W-106		1前 専門職の世界 （和賀・三輪・川守田・分島・関川・井上・内田・武田）W-302 3前 問題解決技法（和賀ほか） W-109	
2 10:40 ～ 12:10	2前 基礎看護学演習Ⅳ （武田ほか）W-106				3前 問題解決技法 （和賀ほか） W-109	
3 13:10 ～ 14:40	2前 基礎看護学演習Ⅳ （武田ほか）W-106			1前 ｾﾙﾌﾃﾞｨﾌﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ （和賀・三輪・川守田・佐藤和・櫻井・分島・関川・井上・武田・内田）W-302	1前 基礎看護学演習Ⅰ （三輪ほか）W-309	
4 14:50 ～ 16:20			1前 基礎看護学方法論Ⅰ （武田ほか）W-106			
5 16:30 ～ 18:00				1前 基礎看護学演習Ⅰ （三輪ほか）W-309	3前 ボランタリー ワークセミナー （和賀ほか） W-303	

後期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30					1後 基礎看護学演習Ⅲ （武田ほか）W-309	
2 10:40 ～ 12:10						
3 13:10 ～ 14:40	1後 基礎看護学方法論Ⅳ （武田） W-107			1後 基礎看護学演習Ⅱ （川守田ほか）W-309	1後 基礎看護学演習Ⅲ （武田ほか）W-309	
4 14:50 ～ 16:20		1後 基礎看護学方法論Ⅳ （武田） W-107		1後 基礎看護学演習Ⅱ （川守田ほか）W-309	2後 成人看護学演習 （小林ほか）W-306	
5 16:30 ～ 18:00						

資料7-3　　教員別時間割　　厚澤博美

前期　　※3前　成人看護学実習Ⅰ・4前　成人看護学実習Ⅱ・4通　看護の探究Ⅲ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10						
3 13:10 ～ 14:40						
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00						

後期　　※2後　基礎看護学実習Ⅲ・3後　成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4後　統合実習Ⅰ・Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10						
3 13:10 ～ 14:40					2後 成人看護学演習 （小林ほか）W-306	
4 14:50 ～ 16:20					2後 成人看護学演習 （小林ほか）W-306	
5 16:30 ～ 18:00					2後 ｷｬﾘｱﾃﾞｨﾍﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ （穴田・和賀・佐藤・櫻井・小林・今村・菊地・厚澤） W-301	

資料7-3　　教員別時間割　　窪島領子

前期　　※1前　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4前　在宅看護学実習・4通　看護の探究Ⅶ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30				3前 医療チーム内のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ （窪島ほか）W-303		
2 10:40 ～ 12:10			3前 在宅看護学演習 （久保川ほか）W-211			
3 13:10 ～ 14:40						
4 14:50 ～ 16:20			3前 在宅看護学演習 （久保川ほか）W-211			4前 ｷｬﾘｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 （川守田ほか）W-104
5 16:30 ～ 18:00						

後期　　※2後　基礎看護学実習Ⅲ・3後　在宅看護学実習・4後　統合実習Ⅰ・Ⅱ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10						
3 13:10 ～ 14:40						
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00						

資料7-3　　教員別時間割　　内田裕子

前期　　※1前　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4前　母性看護学実習

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30				2前 母性看護学方法論 Ⅱ（内田）W-213	1前 専門職の世界 （和賀・三輪・川守田・佐藤・ 櫻井・分島・関川・井上・内 田・武田） W-302	
2 10:40 ～ 12:10				2前 母性看護学方法論 Ⅱ（内田）W-213		
3 13:10 ～ 14:40				1前 ｾﾙﾌﾃﾞｨﾌﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ （和賀・三輪・川守田・佐 藤和・櫻井・分島・関川・ 井上・武田・内田）W-302		
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00		3前 基礎助産学Ⅱ （内田）W-108		3前 助産診断・技術学方 法論（内田）W-108		

後期　　※2後　基礎看護学実習Ⅲ・3後　母性看護学実習

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30					1後 基礎看護学演習Ⅲ （武田ほか）W-309	
2 10:40 ～ 12:10						
3 13:10 ～ 14:40					1後 基礎看護学演習Ⅲ （武田ほか）W-309	3後 地域母子保健学 （内田）　W-108
4 14:50 ～ 16:20					2後 母性看護学演習 （寺岡ほか）W-214	
5 16:30 ～ 18:00						

資料7-3　　教員別時間割　　渡邉幸恵

前期　　※1前　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・4前　母性看護学実習・助産学実習・4通　看護の探究Ⅸ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10						
3 13:10 ～ 14:40				3通 助産診断・技術学演習Ⅰ（渡邊ほか） W-109	1前 基礎看護学演習Ⅰ （三輪ほか)W-309	4前 医療以外の多職種との交流と発展 （甲斐ほか)W-104
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00			3前 健康教育技法 （渡邉幸）W-108	1前 基礎看護学演習Ⅰ （三輪ほか)W-309		

後期　　※2後　基礎看護学実習Ⅲ・3後　母性看護学実習・4後　助産学実習

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						3後 助産診断・技術学演習Ⅱ（渡邊ほか） W-214
2 10:40 ～ 12:10						3後 助産診断・技術学演習Ⅲ（渡邊ほか） W-214
3 13:10 ～ 14:40				3通 助産診断・技術学演習Ⅰ（渡邊ほか） W-109		
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00						

資料7-3　　教員別時間割　　加藤和子

前期　　※1前　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・3前　小児看護学実習・4前　小児看護学実習　4通看護の探究Ⅴ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10					2前 小児看護学方法論 Ⅰ （廣瀬・荻原ほか） W-213	
3 13:10 ～ 14:40						4前 医療以外の多職種 との交流と発展 （甲斐ほか)W-104
4 14:50 ～ 16:20					2前 小児看護学方法論 Ⅰ （廣瀬・荻原ほか） W-213	
5 16:30 ～ 18:00						

後期　　※2後　基礎看護学実習Ⅲ　3後　小児看護学実習　　4後　統合実習ⅠⅡ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ～ 10:30						
2 10:40 ～ 12:10					2後 小児看護学演習 （廣瀬・荻原ほか） W-213	
3 13:10 ～ 14:40						
4 14:50 ～ 16:20						
5 16:30 ～ 18:00				2後 小児看護学演習 （廣瀬・荻原ほか　） W-213		

実習指導体制

資料8

東京医療学院大学

実習内容	大学実習担当教員	実習指導者
実習準備	①実習目標・目的に基づき、効果的な実習となるよう、関連部署との連絡・調整を行う。必要に応じて、実習環境把握のため事前臨地研修等を行う。 ②学生の学習到達度等の確認を行う。 ③実習指導者と実習目的・目標の共有化を図り連携を行う。	①実習目的・目標をスタッフに伝え、実習が円滑に実施されるよう、実習環境を整える。 ②実習担当教員との事前調整を行う。
受け持ち対象の選定	①実習目的・目標に応じた受け持ち対象の選定について、学生の個々のレディネス等を把握し、実習指導者と相談する。 ②学生に受け持ち対象決定に際し、助言を行う。	①実習目的・目標に応じた受け持ち対象を教員と相談しリストアップする。 ②学生の実習の受け入れが可能であるか、受け持ち対象本人・家族へ事前確認を行い実習が円滑に実施されるよう調整を図る。 ③学生の受け持ち受け持ち対象についてスタッフに伝える。
オリエンテーション	①実習の目的・目標及び実習の手引きにそって、学内で実習の詳細について説明する。 ②学生が実習の段階や領域における自己の課題を明確にすることができるよう助言を行う。	①施設・設備・物品等に関する説明を行う。 ②学生をスタッフや受け持ち患者に紹介し、実習が円滑に実施されるよう対人関係の調整を図る。
情報収集	①受け持ち対象に関する情報源や情報収集の方法について助言を行う。 ②個人情報の取り扱いについての指導を再度行う。	①受け持ち受け持ち対象の概要について、学生へ説明を行い、学生からの質問に対して助言を行う。 ②電子カルテの場合については、使用方法についての説明を行う。
実習指導	①実習における日々の行動計画が受け持ち受け持ち対象に適しているかを判断し、指導・助言を行う。 ②個々の学生の行動計画にそって、実習指導者との調整を行う。 ③個々の学生の安全や感染予防の観点から適宜、指導・助言を行う。	①日々の行動計画が受け持ち受け持ち対象に適しているかを判断し、指導・助言を行う。　②受け持ち受け持ち対象の直接的なケアの実施についての指導・助言を行う。 ③学生個々の状況について担当教員と調整を行う。
指導・助言	①実習の目的・目標にそって、学生の学習過程での問題等を発見し助言を行う。 ②根拠に基づいたケアができているかの確認を行う。	①適宜、受け持ち受け持ち対象に関する報告を受け、指導・助言を行う。
カンファレンス	①カンファレンスおよび受け持ち対象報告会の計画・運営に関する指導・助言を行う。 ②資料の作成に関し、指導・助言を行う	①カンファレンスおよび受け持ち対象報告会の準備・運営に協力する。 ②カンファレンスおよび受け持ち対象報告会に参加し、指導・助言を行う。
評価	①実習の形成的評価や総括評価を行い、最終的な単位認定を行う。	①実習の評価に関する情報を提供する。

臨地実習同意書　　資料９

東京医療学院大学保健医療学部看護学科の学生の臨地実習にあたり、　　月　　日より　　月　　日なでの間、受け持ちとして日常生活の援助および診療の補助等の看護援助をさせていただきたくお願いいたします。

なお、学生の臨地実習は、以下の考えで臨むことにしております。看護学教育の必要性を御理解いただき御協力をお願いいたします。

１　看護援助を行う場合は、事前に説明を行い、患者さんまたは御家族の同意を得ておこないます。
２　学生が看護援助を行う場合は、安全の確保を最優先とし、事前に教員や看護師の助言・指導を受け、実践可能なレベルまで技術を習得してから臨みます。
３　学生の実習に関する意見や質問をいつでも教員や看護師に聞くことができます。
４　学生の受け持ちに同意した後も、無条件で受け持ちを拒否することができます。拒否したことを理由に看護および診療上不利益を被ることはありません。
５　学生は、臨地実習をとおして知り得た情報は、他者に漏らしません。
６　実習終了後に実習での体験を振り返り、看護研究としてまとめ発表させていただくことがあります。その際には、患者様が特定されないよう細心の注意を払い、迷惑がかかることのないようにいたします。

平成　　年　　月　　日

実習施設＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　職名　　氏名＿＿＿＿＿＿

説明者　東京医療学院大学＿＿＿＿＿＿　教員＿＿＿＿＿＿＿＿

私は、上記の内容の説明に納得したので、東京医療学院大学（　　）年生（　　）が受け持つことに同意します。

平成　　年　　月　　日

患 者氏 名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

代理同意人＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

臨地実習における説明と同意

１　臨地実習における同意書の必要性

（看護基礎教育における看護技術教育のあり方に関する検討会報告書）

国民の権利意識及び医療安全への関心が高まっている今日、患者の権利を保障し、安全性の確保を最優先に実習を進めることは最も重要なことであり、臨地実習の開始にあたっては、受け持ち患者の同意を得ることは必須である。従って、学生の実習に際しては、患者・家族に対して、事前に十分かつ分かりやすい説明を行い、患者が納得した上で、協力の同意を得る必要がある。

２　「臨地実習同意書」の記載手順

看護師および実習指導教員が実習の必要性について説明を行い、大学および実習施設双方が連名で患者（家族）と文書で同意を交わす。

（１） 受け持ち患者は、病棟師長・実習指導者・実習指導教員が協議の上、決定する。

（２） 実習初日、病棟師長から「臨地実習同意書」に署名をいただき、その後、学生および実習指導教員が氏名を記入する。

（３） 学生と実習指導教員は「臨地実習同意書」を持って患者に説明する。

（４） 同意を得られたならば、患者に署名をいただく。

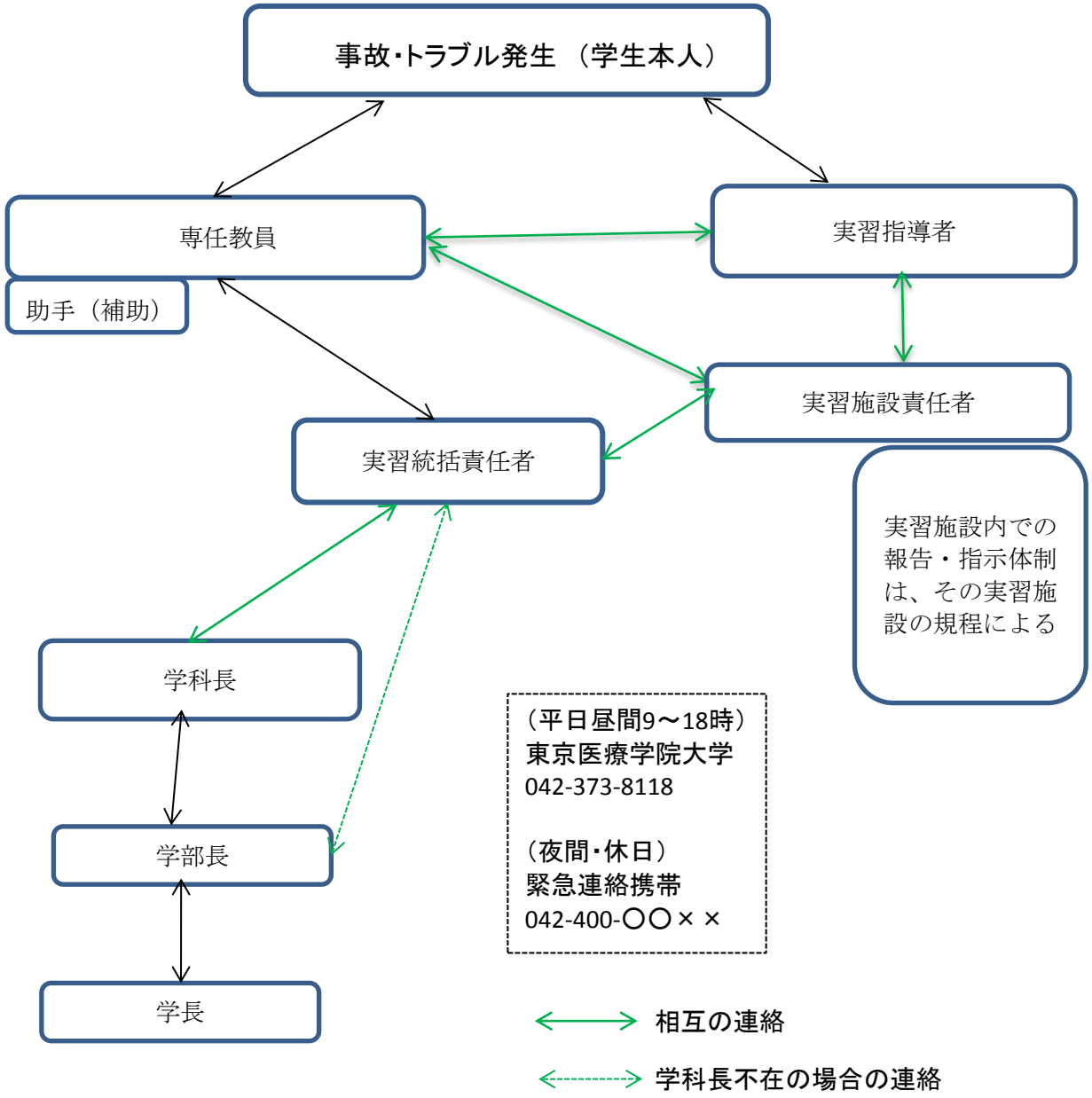
（５） 「臨地実習同意書」は患者・病棟（病院等）・大学が保管する。（３枚複写）

３　記載上の留意点

（１） 同意の署名は患者または代理同意人（家族等）のどちらか１人でよい。

看護学科　事故発生時の報告

看護学科　事故発生時の報告



① 事故(感染症の発症なども含む)･トラブルが発生したら、学生は直ちに担当の専任教員および実習指導者へ報告。学生は、実習指導者、または専任教員とともに、患者の状態を把握し、安全を第1に確保し、適切な対応を行う。

② 専任教員は、事故の状況を把握し、実習指導者に連絡すると共に患者および学生の安全を確認し必要な初期対応をする。さらに、実習施設の責任者に事態の状況を報告すると共に、学内の実習統括責任者に報告し、事態の改善に向けて、指示･方向付けをうける。

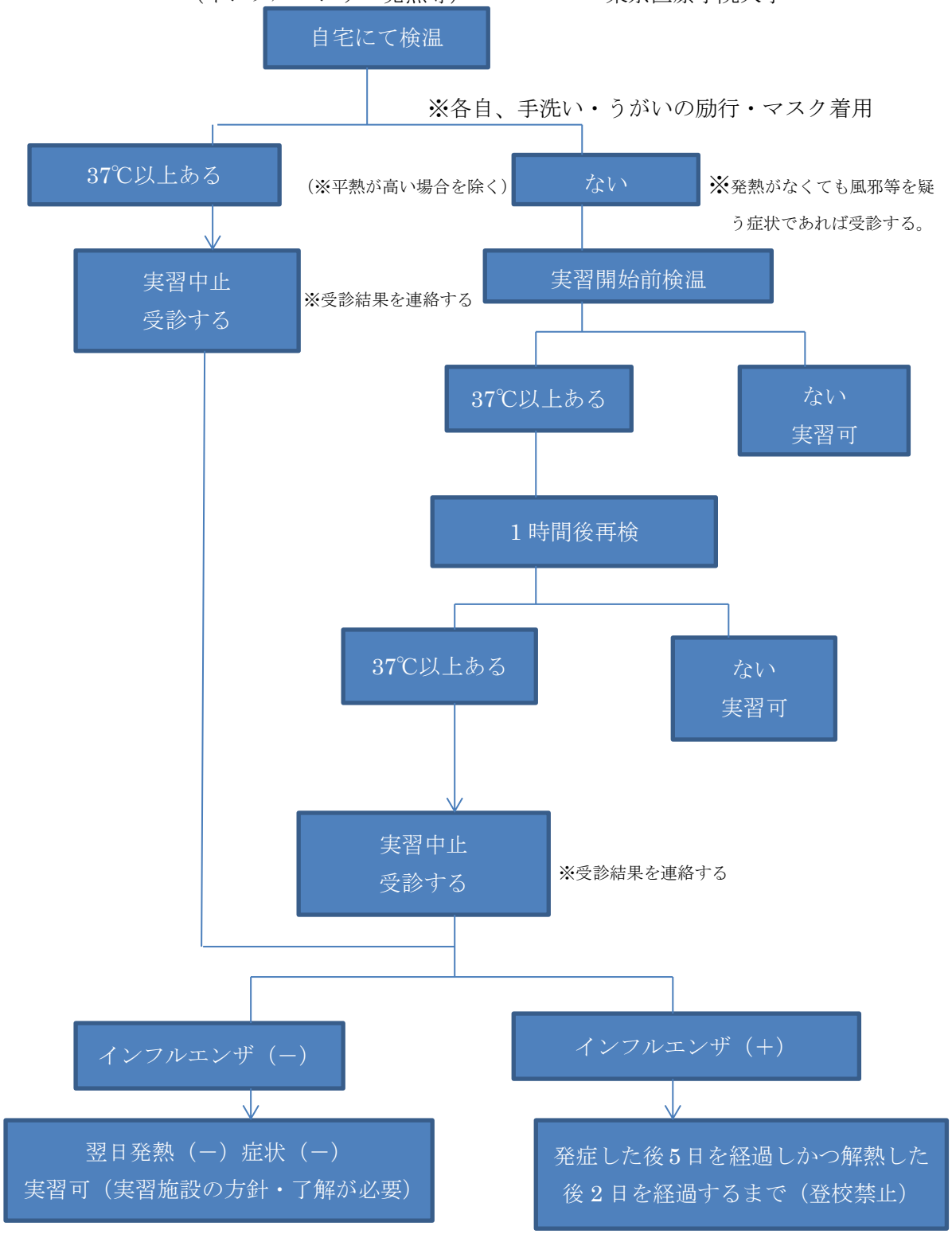
③ 実習統括責任者は、学内において、臨地実習に関する連絡･報告･相談を受け、状況を把握し、的確に関連部署に指示方向付けを行う。

④ 助手は、専任教員の指示の下に、事態の改善に向けて行動し、その結果を専任教員に報告する。

資料 11

体調管理自己チェックフローチャート（実習編）

（インフルエンザ・発熱等）　　東京医療学院大学

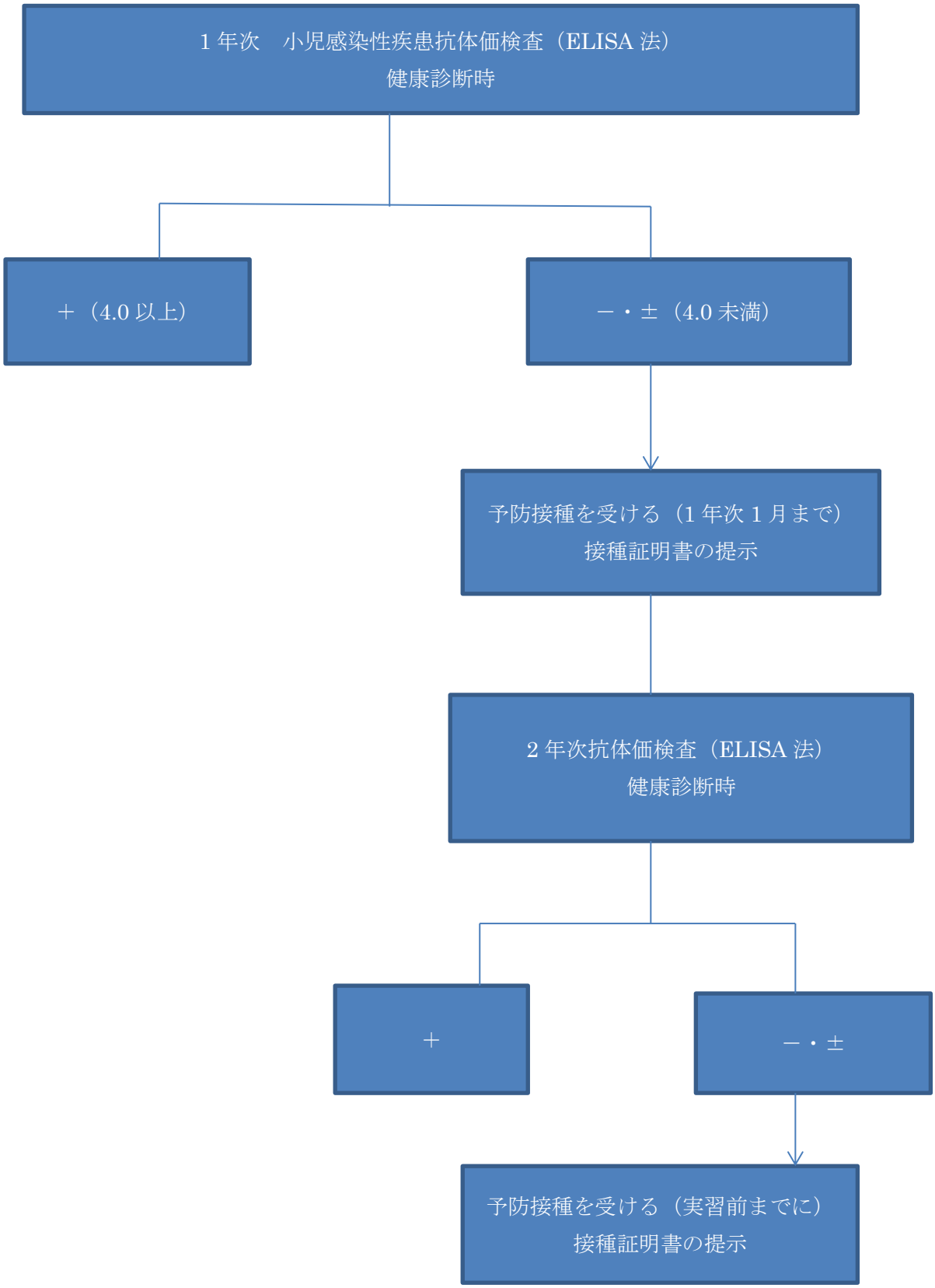


※上記の如何を問わずインフルエンザ濃厚接触者は、必ず申し出ること。

インフルエンザ予防接種については全員接種を行う。（接種証明書の提示）

小児感染性疾患（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）抗体価対応フローチャート

※出席停止の基準については学校保健安全法施行規則参照すること



資料13

各実習別担当教員配置計画

および職位別配置人数

（1回生）

【基礎看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】担当教員配置計画

職位	基礎実習Ⅰ	基礎実習Ⅱ	基礎実習Ⅲ
教授	5名	5名	3名
准教授	1名	1名	4名
講師	4名	5名	5名
助教	3名	3名	4名
配置教員合計数	13名	14名	16名

学生番号	基礎看護学実習Ⅰ		基礎看護学実習Ⅱ		基礎看護学実習Ⅲ
	平成28年　5／9～	5／16～	6／20･21	6/22･23	平成30年　2／26～
学生数	44名	36名	48名	32名	80名
1 2 3 4 5 6 7 8	日本医科大学多摩永山病院 （准教授）分島るり子 （助教）内田裕子		日本医科大学多摩永山病院 （准教授）分島るり子 （助教）内田裕子		日本医科大学多摩永山病院 （准教授）分島るり子 （助教）内田裕子
9 10 11 12 13 14 15 16		日本医科大学多摩永山病院 （准教授）分島るり子 （助教）内田裕子		日本医科大学多摩永山病院 （准教授）分島るり子 （助教）内田裕子	日医武蔵小杉病院 （教授)川守田千秋 （講師）小林美智子
17 18 19 20 21 22 23 24	共済組合立川病院 （教授）佐藤和子 （助教）渡邉幸恵		日医武蔵小杉病院 （教授)川守田千秋 （講師）荻原康子		共済組合立川病院 （教授）佐藤和子 （助教）渡邉幸恵
25 26 27 28 29 30 31 32		共済組合立川病院 （教授）佐藤和子 （助教）渡邉幸恵		日医武蔵小杉病院 （教授)川守田千秋 （講師）荻原康子	国立病院機構相模原病院 （准教授）今村嘉子 （助教）窪島領子
33 34 35 36 37 38 39 40	国立病院機構村山病院 （講師）廣瀬京子 （講師）荻原康子		共済組合立川病院 （教授）佐藤和子 （助教）渡邉幸恵		
41 42 43 44 45 46 47 48		国立病院機構箱根病院 （教授）渡邊淳子 （教授）櫻井美代子		共済組合立川病院 （教授）佐藤和子 （助教）渡邉幸恵	国立病院機構箱根病院 （准教授）中込由美 （講師）関川久美子
49 50 51 52 53 54 55 56	国立病院機構相模原病院 （講師）関川久美子 （助教）窪島領子		国立病院機構箱根病院 （教授）渡邊淳子 （教授）櫻井美代子		埼玉総合リハビリ （講師）廣瀬京子 （講師)穴田博美
57 58 59 60 61 62 63 64		国立病院機構相模原病院 （講師）関川久美子 （助教）窪島領子	国立病院機構相模原病院 （講師）関川久美子 （助教）窪島領子		国立病院機構神奈川病院 （准教授）久保川真由美 （助教）厚澤博美
65 66 67 68 69 70 71 72	国立精神・神経医療研究センター病院 （教授）三輪のり子 （講師）井上聡子		埼玉総合リハビリ （教授）三輪のり子 （講師）井上聡子		
73 74 75 76	横浜市民 （教授）川守田千秋			埼玉総合リハビリ （教授）三輪のり子 （講師）廣瀬京子	国立精神・神経医療研究センター病院 （教授）三輪のり子 （講師）鈴木久子
77 78 79 80		横浜市民 （教授）川守田千秋			
			*学内担当　和賀徳子(講師)		

【成人看護学実習Ⅰ】 担当教員配置計画

＜担当教員＞

教員数	氏名	職位		
1	佐藤和子	成人看護学教授	教授	1名
2	小林美智子	成人看護学講師	講師	1名
3	厚澤博美	成人看護学助教	助教	1名
4	助手①	助手	助手	2名
5	助手②	助手		（計5名）

①②クール				③クール		④クール	
平成30年7/2～7/20				9/25～10/12		10/22～11/19	
21		31		41		51	
22		32		42		52	
23	国家公務員共済 立川病院	33	国立がん研究センター 中央病院	43	国家公務員共済 立川病院	53	国立病院機構 箱根病院
24		34		44		54	
25		35		45		55	
26		36		46		56	
27	厚澤博美	37	小林美智子	47	佐藤和子	57	厚澤博美
28	助手②	38	助手①	48	厚澤博美	58	助手①
29		39		49		59	
30		40		50		60	

⑤クール		⑥クール		⑦クール		⑧クール	
平成31年1/15～2/1		2/4～2/22		5/13～5/31		6/3～6/21	
61		71		1		11	
62		72		2		12	
63	国立病院機構 箱根病院	73	国立病院機構 箱根病院	3	国立国際医療研究ｾﾝﾀｰ 国府台病院	13	埼玉県立総合 ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ
64		74		4		14	
65		75		5		15	
66		76		6		16	
67	佐藤和子	77	厚澤博美	7	佐藤和子	17	厚澤博美
68	助手①	78	助手①	8	助手①	18	助手①
69		79		9		19	
70		80		10		20	

【成人看護学実習Ⅱ】 担当教員配置計画

＜担当教員＞

教員数	氏名	職位
1	佐藤和子	成人看護学教授
2	小林美智子	成人看護学講師
3	厚澤博美	成人看護学助教
4	助手①	助手
5	助手②	助手

教授	1名
講師	1名
助教	1名
助手	2名
	（計5名）

①クール 9/25～10/12		②クール 10/22～11/19		③④クール 11/12～11/30			
51	日本医科大学 多摩永山病院	41	社団医療法人財団 石心会川崎幸病院	21	日本医科大学 多摩永山病院	31	日本医科大学 武蔵小杉病院
52		42		22		32	
53		43		23		33	
54		44		24		34	
55		45		25		35	
56		46		26		36	
57	小林美智子	47	小林美智子	27	小林美智子	37	厚澤博美
58	助手②	48	助手②	28	助手①	38	助手②
59		49		29		39	
60		50		30		40	
⑤クール 平成31年1/15～2/1		⑥クール 2/4～2/22		⑦クール 5/13～5/31		⑧クール 6/3～6/21	
71	国立がん研究ｾﾝﾀｰ 中央病院	61	日本医科大学 武蔵小杉病院	11	国家公務員共済 虎の門病院	1	国立病院機構 村山医療センター
72		62		12		2	
73		63		13		3	
74		64		14		4	
75	小林美智子	65		15	厚澤博美	5	
76		66		16		6	
77	社団医療法人財団 石心会川崎幸病院	67	小林美智子	17	国立がん研究ｾﾝﾀｰ 中央病院	7	小林美智子
78		68	助手②	18		8	助手②
79	厚澤博美	69		19	小林美智子	9	
80		70		20		10	

【老年看護学実習Ⅰ】 担当教員配置計画

＜担当教員＞

教員数	氏名	職位
1	櫻井美代子	老年看護学教授
2	石川みち子	老年看護学教授
3	今村嘉子	老年看護学准教授
4	中込由美	老年看護学准教授
5	大山裕子	老年看護学助教

教授	2名
准教授	2名
助教	1名
	（計5名）

	①クール		②クール		③クール		④クール	
	平成30年7/2～7/13		9/25～10/5		10/29～11/9		11/19～11/30	
51	国立病院機構 相模原病院 石川みち子	71	社会福祉法人東京 有隣会有隣病院 石川みち子	1	国立病院機構 相模原病院 石川みち子	61	医療法人明理会 鶴川サナトリウム病院 石川みち子 中込由美	
52		72		2		62		
53		73		3		63		
54		74		4		64		
55		75		5		65		
56		76		6	国立病院機構 箱根病院 中込由美	66		
57	医療法人愛友会 上尾甦生病院 中込由美	77	社会医療法人財団大和 会武蔵村山病院 中込由美	7		67		
58		78		8		68		
59		79		9		69		
60		80		10		70		
	⑤クール		⑥クール		⑦⑧クール			
	平成31年1/15～1/25		1/28～2/8		5/13～5/24			
11	医療法人明理会 鶴川サナトリウム病院 石川みち子 中込由美	21	医療法人明理会 鶴川サナトリウム病院 石川みち子 中込由美	31	国立病院機構 相模原病院 石川みち子	41	国立病院機構 箱根病院 大山裕子	
12		22		32		42		
13		23		33		43		
14		24		34		44		
15		25		35		45		
16		26		36	医療法人愛友会 上尾甦生病院 今村嘉子	46		
17		27		37		47	社会医療法人財団大和 会武蔵村山病院 中込由美	
18		28		38		48		
19		29		39		49		
20		30		40		50		

【老年看護学実習Ⅱ】 担当教員配置計画

＜担当教員＞

教員数	氏名	職位
1	櫻井美代子	老年看護学教授
2	石川みち子	老年看護学教授
3	今村嘉子	老年看護学准教授
4	中込由美	老年看護学准教授
5	大山裕子	老年看護学助教
6	鈴木久子	在宅看護学講師

教授	2名
准教授	2名
講師	1名
助教	1名
	（計6名）

	①クール		②③クール		④クール	
	平成30年7/17～7/27		10/9～10/19		11/12～11/22	
61	埼玉石心会病院	1	王子生協病院	11	埼玉石心会病院	71	埼玉石心会病院
62		2		12		72	
63	今村嘉子	3	中込由美	13	今村嘉子	73	今村嘉子
64		4	宗教法人救世軍救世軍ブース記念病院	14		74	
65	東京都保健医療公社多摩南部地区病院	5		15	東京都保健医療公社多摩南部地区病院	75	東京都保健医療公社多摩南部地区病院
66		6	石川みち子	16		76	
67		7	医療法人社団崎陽会日の出ヶ丘病院	17		77	
68		8		18		78	
69	大山裕子	9	櫻井美代子	19	鈴木久子	79	大山裕子
70		10		20		80	
	⑤クール		⑥クール		⑦クール		⑧クール
	平成31年1/15～1/25		1/28～2/8		5/27～6/7		5/27～6/7
21	医療社団法人珠光会聖ヶ丘病院	31	王子生協病院	41	社会福祉法人賛育会賛育会病院	51	東京都保健医療公社多摩南部地区病院
22		32		42		52	
23	今村嘉子	33	櫻井美代子	43	中込由美	53	
24	アドベンチスト会東京衛生病院	34	医療社団法人珠光会聖ヶ丘病院	44	医療法人社団崎陽会日の出ヶ丘病院	54	
25		35		45		55	大山裕子
26	大山裕子	36	今村嘉子	46	鈴木久子	56	
27	医療法人社団崎陽会日の出ヶ丘病院	37	宗教法人救世軍救世軍ブース記念病院	47		57	埼玉石心会病院
28		38		48	宗教法人救世軍救世軍ブース記念病院	58	
29	鈴木久子	39	大山裕子	49		59	今村嘉子
30		40		50	石川みち子	60	

【小児看護学実習】 担当教員配置計画

＜担当教員＞

教員数	氏名	職位
1	加藤和子	小児看護学教授
2	廣瀬京子	小児看護学講師
3	荻原康子	小児看護学講師

教授	1名
講師	2名
	（計3名）

	①クール		②クール		③クール		④クール	
	平成30年7/2～7/13		9/25～10/5		10/15～10/26		11/19～11/30	
1	独立行政法人国立病院機構神奈川病院 廣瀬京子 荻原康子	21	社会医療法人財団大和武蔵村山病院 廣瀬京子	31	独立行政法人国立病院機構神奈川病院 廣瀬京子 荻原康子	11	独立行政法人国立病院機構神奈川病院 廣瀬京子 荻原康子	
2		22		32		12		
3		23		33		13		
4		24		34		14		
5		25		35		15		
6		26	埼玉県立小児医療センター 加藤和子	36		16		
7	東京都都立北療育センター 加藤和子	27		37		17		
8		28		38		18		
9		29		39	東京都都立北療育ｾﾝﾀｰ	19	東京都都立北療育ｾﾝﾀｰ	
10		30		40	加藤和子	20	加藤和子	
	⑤クール		⑥クール		⑦クール		⑧クール	
	平成31年1/15～1/25		2/4～2/15		5/13～5/24		5/27～6/7	
41	埼玉県立小児医療センター 荻原康子	51	社会医療法人財団大和武蔵村山病院 荻原康子	61	社会医療法人財団大和武蔵村山病院 荻原康子	71	独立行政法人国立病院機構神奈川病院 荻原康子 廣瀬京子	
42		52		62		72		
43		53		63		73		
44		54		64		74		
45		55		65		75		
46	社会医療法人財団石心会埼玉石心会病院 廣瀬京子	56	日本医科大学多摩永山病院 廣瀬京子	66	埼玉県立小児医療センター 加藤和子	76		
47		57		67		77		
48		58		68		78	日本医科大学多摩永山病院 加藤和子	
49		59		69		79		
50		60		70		80		

【母性看護学実習】 担当教員配置計画

教員数	氏名	職位
1	甲斐寿美子	母性看護学教授
2	寺岡歩	母性看護学講師
3	内田裕子	母性看護学助教
4	専任補充予定	

教授	1名
講師	1名
助教	1名
専任補充予定	1名
	（計4名）

	①クール		②クール		③クール		④クール	
	平成30年7/30～8/10		9/25～10/5		10/22～11/2		11/12～11/22	
71	町田市民病院 寺岡歩 内田裕子	11	日本医科大学多摩永山病院 寺岡歩	21	日本医科大学多摩永山病院 寺岡歩	1	日本医科大学多摩永山病院 寺岡歩
72		12		22		2	
73		13		23		3	
74		14		24		4	
75		15	日本医科大学武蔵小杉病院 内田裕子	25	日本医科大学武蔵小杉病院 内田裕子	5	日本医科大学武蔵小杉病院 内田裕子
76		16		26		6	
77		17		27		7	
78		18	稲城市立病院 甲斐寿美子	28	稲城市立病院 甲斐寿美子	8	稲城市立病院 甲斐寿美子
79		19		29		9	
80		20		30		10	
	⑤クール		⑥クール		⑦クール		⑧クール	
	平成31年1/7～1/18		2/4～2/15		5/7～5/17		5/27～6/7	
31	東海大学医学部付属八王子病院 内田裕子	41	日本医科大学多摩永山病院 寺岡歩	51	東海大学医学部付属八王子病院 甲斐寿美子 内田裕子	61	信愛会東府中病院 甲斐寿美子 内田裕子	
32		42		52		62		
33		43		53		63		
34		44		54		64		
35	信愛会東府中病院 甲斐寿美子	45	稲城市立病院 甲斐寿美子	55	三成会新百合ヶ丘病院 （専任補充予定） 寺岡歩	65		
36		46		56		66		
37		47		57		67	日本医科大学武蔵小杉病院 （専任補充予定）	
38		48		58		68		
39		49		59		69		
40		50		60		70	寺岡歩	

【精神看護学実習】 担当教員配置計画

教員数	氏名	職位
1	関根正	精神看護学教授
2	井上聡子	精神看護学講師

教授	1名
講師	1名
	（計2名）

①クール		②クール		③クール		④クール	
平成30年7/2～7/13		8/20～8/31		9/3～9/14		9/25～10/5	
41	医療法人社団天紀会こころのホスピタル町田 関根正 井上聡子	11	国立国際医療研究センター国府台病院 関根正 井上聡子	31	国立国際医療研究ｾﾝﾀｰ国府台病院 関根正 井上聡子	61	国立精神・神経医療研究ｾﾝﾀｰ病院 関根正 井上聡子
42		12		32		62	
43		13		33		63	
44		14		34		64	
45		15		35		65	
46		16		36		66	
47		17		37		67	
48		18		38		68	
49		19		39		69	
50		20		40		70	
⑤クール		⑥クール		⑦クール		⑧クール	
10/29～11/2		11/19～11/30		平成31年1/15～1/25		5/13～5/24	
71	医療法人社団天紀会こころのホスピタル町田 関根正 井上聡子	51	医療法人社団天紀会こころのホスピタル町田 関根正 井上聡子	1	国立精神・神経医療研究ｾﾝﾀｰ病院 関根正 井上聡子	21	医療法人社団天紀会こころのホスピタル町田 関根正 井上聡子
72		52		2		22	
73		53		3		23	
74		54		4		24	
75		55		5		25	
76		56		6		26	
77		57		7		27	
78		58		8		28	
79		59		9		29	
80		60		10		30	

【在宅看護学実習】 担当教員配置計画

氏名	職位
久保川真由美	在宅看護学准教授
鈴木久子	在宅看護学講師
関川久美子	在宅看護学講師
窪島領子	在宅看護学助教

准教授　1名
講師　2名
助教　1名

（計　4名）

時期 / 施設名	3年次									4年次
			H30年 11/5～	11/26～		平成31年1/21～		2/12～		5/13～
川崎市立井田病院								窪島 4名		
医療法人財団天翁会あい訪問看護ステーション2ヶ所			鈴木 4名	関川 4名				鈴木 4名		
医療法人社団桐光会調布訪問看護ステーション			久保川 2名	鈴木 2名				関川 2名		鈴木 2名
桜ヶ丘社会事業協会さくらが丘訪問看護ステーション			鈴木 2名	窪島 2名				窪島 2名		鈴木 2名
杏順会越川病院訪問看護ステーション						関川 2名				
多摩丘陵病院わかば訪問看護ステーション			鈴木 2名	窪島 2名		関川 2名				鈴木 2名
社会福祉法人正吉福祉会やのくち正吉苑						窪島 2名		鈴木 2名		
(株)エルハート訪問看護ステーションエルハートナースケア				鈴木 2名				関川 2名		
訪問看護ステーションファインケア　多摩センター・調布			久保川 4名	久保川 4名		関川 2名		久保川 4名		久保川 2名
訪問看護ステーションさくらんぼ			久保川 2名	久保川 2名		窪島 2名		久保川 2名		久保川 2名
つつじが丘訪問看護ステーション				鈴木 2名				関川 2名		
（学生数）			（16名）	（20名）		（10名）		（24名）		（10名）
訪問看護実習担当教員			久保川	久保川		関川		久保川		久保川
			鈴木	鈴木		窪島		鈴木		鈴木
				関川				関川		
				窪島				窪島		

多摩地域包括支援センター担当教員

多摩地域包括支援センター	H30年 7/23～	10/29～			H31年1/15～		2/4～		5/7～	
実習学生数	20名	10名			10名		20名		20名	
東部地域	久保川 4名	久保川 3名					久保川 4名		久保川 4名	
多摩センター地域	関川 4名	鈴木 4名			関川 3名		鈴木 4名		鈴木 4名	
北部地域	窪島 4名				窪島 4名		窪島 4名		窪島・久保川 4名	
西部地域	久保川 4名	久保川 3名					鈴木 4名		久保川 4名	
南部地域	関川 4名				関川 3名		関川 4名		鈴木 4名	

【統合実習Ⅰ・Ⅱ】 担当教員配置計画

職位	統合実習Ⅰ	統合実習Ⅱ
教授	4名	5名
准教授	4名	3名
講師	7名	7名
助教	2名	2名
合計	17名	17名

学生番号	統合実習Ⅰ 平成31年9/9～13	統合実習Ⅱ 平成31年12/9～20
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	日本医科大学多摩永山病院 （教授）石川みち子 （講師）関川久美子	日本医科大学多摩永山病院 （教授）石川みち子 （講師）関川久美子
11 12 13 14 15 16 17 18 19 20	国家公務員共済組合連合会 立川病院 （講師）小林美智子 （講師）鈴木久子	国家公務員共済組合連合会 立川病院 （講師）小林美智子 （講師）井上聡子
21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	国立病院機構 村山医療センター （准教授）中込由美 （助教）厚澤博美	国立病院機構 村山医療センター （准教授）中込由美 （講師）穴田博美
31 32 33 34 35 36 37 38 39 40	国立病院機構 箱根病院 （准教授）分島るり子 （助教）窪島領子	国立病院機構 箱根病院 （准教授）分島るり子 （助教）窪島領子
41 42 43 44 45 46 47 48	横浜市立大学附属 市民総合医療センター （教授）三輪のり子 （准教授）久保川真由美	横浜市立大学附属 市民総合医療センター （教授）三輪のり子 （講師）寺岡歩
49 50 51 52 53 54 55 56	国家公務員共済組合連合会 虎ノ門病院 （教授）川守田千秋 （講師）荻原　康子	国家公務員共済組合連合会 虎ノ門病院 （教授）川守田千秋 （講師）和賀徳子
57 58 59 60	国立病院機構相模原病院 （教授）佐藤和子	国立がん研究センター中央病院 （教授）佐藤和子
61 62 63 64 65 66 67 68 69 70	国立精神・神経医療 研究センター病院 （准教授）今村嘉子 （講師）和賀徳子	国立精神・神経医療 研究センター病院 （教授）関根正 （准教授）今村嘉子
71 72 73 74 75 76 77 78 79 80	埼玉県総合 リハビリテーションセンター （講師）廣瀬京子 （講師）穴田博美	公立大学横浜市立大学附属病院 （講師）鈴木久子 （助教）厚澤博美

年次別実習計画【助産学実習】担当教員および人数

	氏名	職位
1	渡邊淳子	助産学教授
2	渡邉幸恵	助産学助教
3	寺岡歩	母性看護学講師
4	専任補充予定	

教授	1名
講師	1名
助教	1名
専任補充予定	1名
	（計4名）

学生番号	実習病院名	平成31年6/17～7/26(6週間)	平成31年9/16～11/29(11週間)
1	日本医科大学多摩永山病院	専任補充予定	(助教)渡邉幸恵
2			
3			
4			
5	日本医科大学武蔵小杉病院	(助教)渡邉幸恵	専任補充予定
6			
7			
8	国家公務員共済虎の門病院	(講師)寺岡歩	(教授)渡邊淳子
9			
10			

資料 14

臨地実習に関する協定書

学校法人常陽学園東京医療学院大学（以下「甲」という。）と　　病院（以下「乙」という。）とは、甲の学生が乙において行う臨地実習に関する協定を、次のとおり締結する。

（臨地実習等）

第１条　乙は、甲の依頼に基づき、学生を可能な範囲で受け入れるものとする。

２　甲は、乙に対して毎年度、実習の開始前に実習計画表を提出するものとする。

３　この協定期間は、実習計画表に基づき、当該年度の３月 31 日までの間において甲、乙協議のうえ定めるものとする。

（実習謝金）

第２条　甲は、乙に対して、学生１名につき１日　○○円の実習謝礼金を支払うものとする。ただし、毎年度実習計画を協議する段階で、両者で確認するものとする。支払い方法は甲乙協議のうえ決定する。

（諸規定の遵守）

第３条　甲は、学生に乙の諸規定を遵守し、実習させるものとする。

（守秘義務）

第４条　甲は、学生に対し、実習期間中に知り得た秘密について、実習期間中はもとより実習終了後においても守秘義務を負わせるものとする。

（損害賠償）

第５条　甲は、学生が実習中に故意または過失により第三者に損害を与えた場合は、その損害を賠償する責任を負うものとする。ただし、その損害が乙の責めによる場合は、その限りではない。

（協定の中止・延期）

第６条　乙は、次のいずれかの事由に該当するときは、甲と協議のうえ、学生の受け入れを中止または延期することができるものとする。

（１）　甲または学生がこの協定に違反をしたとき

（２）　災害その他やむを得ない事由により、乙が学生の受け入れを継続することができないと判断するとき

（協議）

第７条　この協定に定めない事項またはこの協定の履行について疑義が生じた場合は、甲乙協議のうえ、定めるものとする。

以上、この協議の締結を証とするため、本証２通作成し、甲・乙両者併記押印のうえ各１通を保有するものとする。

平成　　年　　月　　日

甲　東京都多摩市落合 4-11
学校法人　常陽学園
東京医療学院大学
理事長　渡 邊 賢 二

乙

求められる実践能力と卒業時の到達目標　　資料15

実践能力	構成要素		卒業時の到達目標
Ⅰ群 ヒューマンケアの基本的な能力	対象の理解	1	看護の視点から人間を総合的に捉え説明できる
		2	人間のライフサイクルと発達について説明できる
		3	対象を身体的、心理的、社会的、文化的側面から理解できる
	実施する看護についての説明責任	4	実施する看護の根拠・目的・方法について相手に分かるように説明できる
		5	自らの役割範囲を認識し説明できる
		6	自らの能力を超えると判断する場合は、適切な人に助言を求められる
	倫理的な看護実践	7	対象のプライバシーや個人情報を保護できる
		8	対象の価値観、生活習慣、慣習、信条などを尊重できる
		9	対象の尊厳や人権を守り、擁護的立場で行動することの重要性が理解できる
		10	対象の選択権、自己決定を尊重できる
		11	組織の倫理規定、行動規範に従って行動できる
	援助的関係の形成	12	対象と自分の境界を尊重しながら援助的関係を維持できる
		13	対人技法を用いて、対象との援助的なコミュニケーションをとることができる
		14	対象に必要な情報を対象に合わせた方法で提供できる
		15	対象からの質問、要請に誠実に対応できる
Ⅱ群 根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力	アセスメント	16	健康状態のアセスメントに必要な客観的・主観的情報を収集できる
		17	情報を整理し、分析、解釈、統合し課題を抽出できる
	計画	18	対象およびチームメンバーと協力しながら実施可能な計画を立案できる
		19	根拠に基づいた個別的な看護が計画できる
	実施する看護についての説明責任	20	計画した看護を対象の反応を捉えながら実施できる
		21	計画した看護を安全・安楽・自立に留意し実施できる
		22	看護援助技術を対象に合わせて適切に実施できる
		23	予測しない状況の変化について指導者またはスタッフに報告できる
		24	実施した看護と対象の反応を記録できる
	評価	25	予測した成果を照らし合わせて実施した看護の結果を評価できる
		26	評価に基づいて計画を修正できる
Ⅲ群 健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力	健康の保持増進、疾病の予防	27	生涯各期における健康の保持増進や疾病予防における看護の役割が理解できる
		28	環境の変化が健康に及ぼす影響と予防策について理解できる
		29	健康増進と健康教育のために必要な資源を理解できる
		30	対象および家族に合わせて必要な保健指導を実施できる
		31	妊娠、出産、育児にかかわる援助の方法が理解できる
	急激な健康状態の変化にある対象への看護	32	急激な健康状態の変化にある対象の病態と治療について理解できる
		33	急激な健康状態の変化にある対象への治療が及ぼす影響について理解できる
		34	対象の健康状態や治療を踏まえ、看護の優先順位が理解できる
		35	状態の急激な変化に備え、基本的な救急救命処置の方法が理解できる
		36	状態の変化に対処することを理解し、症状の変化について迅速に報告できる
		37	合併症予防のについて理解できる
		38	日常生活の自立に向けたリハビリテーションを支援することができる
		39	対象の心理を理解し、状況を受け止められるように支援できる

実践能力	構成要素	卒業時の到達目標	
Ⅲ群 健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力	慢性的な健康状態にある対象への看護	40	慢性的経過をたどる対象の病態と治療について理解できる
		41	慢性的経過をたどる対象の治療が及ぼす影響について説明できる
		42	対象および家族が健康状態を受容していく過程を支援することができる
		43	必要な生活の再構築を促進するための支援ができる
		44	必要な治療を継続できるようなソーシャルサポートについて理解できる
		45	急性増悪の予防に向けて継続的に観察できる
		46	慢性的な健康状態を有しながら生活の質（QOL）向上に向けての支援ができる
	終末期にある対象への看護	47	死の受容過程を理解し、その人らしく過ごせる支援方法が理解できる
		48	終末期にある対象の治療と苦痛を理解し、緩和方法が理解できる
		49	看取りをする家族をチームで支援することの重要性が理解できる
Ⅳ群 ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力	看護専門職の役割	50	看護職の役割と機能が理解できる
		51	看護師として自らの役割と機能を理解できる
	看護チームにおける責務	52	法的範囲に従って仕事を他者へ委任することが理解できる
		53	委任した仕事について様々な側面から支援することが理解できる
		54	部分的に他者へ委任した仕事であっても、自らに説明責任や責任があることが理解できる
	安全なケア環境の確保	55	医療安全の基本的な考え方と看護師の役割について理解できる
		56	医療の中で安全文化を形成する意義について理解できる
		57	医療事故防止対策について、必要な行動をとることができる
		58	感染防止対策・標準予防策について、必要な行動をとることができる
		59	関係法規・各種ガイドラインに従って行動できる
	保健・医療・福祉チームにおける多職種との連携・協働	60	保健・医療・福祉チームにおける看護および多職種の機能・役割が理解できる
		61	対象を取り巻く保健・医療・福祉従事者間の連携と協働の必要性が理解できる
		62	対象を取り巻くチームメンバー間で報告・連絡・相談等を行うことができる
		63	対象に関するケアについての意思決定はチームメンバーとともに行うことができる
		64	チームメンバーとともに、ケアを評価し、再検討することができる
	保健・医療・福祉システムにおける看護の役割	65	看護を実践する場における組織の機能と役割について理解できる
		66	保健・医療・福祉システムと看護の役割について理解できる
		67	国際的観点から医療・看護の役割が理解できる
		68	保健・医療・福祉の動向と課題が理解できる
		69	さまざまな場における保健・医療・福祉の連携について理解できる
Ⅴ群 専門職者として研鑽し続ける基本能力	継続的な学習	70	看護実践における自らの課題に取り組むことの重要性が理解できる
		71	自律的・継続的に自分の能力の維持・向上に努めることができる
	看護の質の改善に向けた活動	72	看護の質の向上に向けて看護師として専門性を発展させていく重要性が理解できる
		73	看護実践に研究成果を活用することの重要性が理解できる

インシデントレポート

資料 16

東京医療学院大学看護学科

●報告者氏名　保健医療学部看護学科 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

●報告日時　　平成　　年　　月　　日　　曜日

●インシデント日時　　平成　　年　　月　　日　　曜日　　時　　分頃

●発生場所　　施設名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　場所＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

●実習担当教員名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

●今回のインシデント

●今回の種類

○療養上の世話に関するもの

□転倒　□転落　□誤嚥　□誤飲　□熱傷・凍傷　□入浴　□排泄

□抑制　□移送　□その他（　　）

○診療の補助に関するもの

□与薬　□注射　□点滴　□輸血　□機器類　□モニター　□チューブ　□

□酸素　□手術に関すること　□検査に関すること　□感染　□その他（　　）

○その他

□記録　□紛失　□報告　□観察　□暴力　□その他（　　）

●インシデントの内容、発生時の状況、経過

●発生時の対応

●発生原因

●今後の解決策

資料 17

看護学実習の概要（全体オリエンテーション内容）

東京医療学院大学保健医療学部看護学科

※看護学実習の心得については、臨地実習の手引きを参照のこと。（資料 18）

基礎看護学実習

基礎看護学実習はⅠ・ⅡとⅢに分かれています。それぞれ１年生と２年生で行います。

【基礎看護学実習Ⅰ】

１年生の前期に実施します。この実習では、病院、病棟で看護師はどのような活動をしているかを知るとともに、病院における患者の生活について学びます。

【基礎看護学実習Ⅱ】

１年生の前期に患者・家族とのコミュニケーションを通して、看護の対象についての理解を深めます。

【基礎看護学実習Ⅲ】

２年生の後期に２週間にわたって、日常生活援助を中心とした実習を行います。実際に入院されている患者さんの受け持ち学生となり、これまで学んできた知識や技術を活かしながら、対象のニードを把握し必要な看護援助を行います。

領域別看護学実習

領域別実習は、３年次後期から４年次に、４人～６人程度のグループに分かれ、「成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ」「老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ」「小児看護学実習」「母性看護学実習」「精神看護学実習」を行います。４年次には「在宅看護学実習」「統合実習Ⅰ・Ⅱ」「助産学実習」も行います。

【成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ】

成人看護学実習は、成人看護学実習Ⅰと成人看護学実習Ⅱからなります。この実習では成人期の特性を理解した上で、健康上の問題を持つ患者の健康状態に応じた看護実践を目標としています。

成人看護学実習Ⅰでは、慢性期看護の知識・技術を整理し、学習を深めた上で、病棟において実践的な看護援助を行います。

成人看護学実習Ⅱでは、手術を必要とする患者の特徴を理解した上で、急性期から回復期にかけての心身の苦痛の緩和、健康回復への援助について学びます。

【老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ】

老年看護学実習は、老年看護学実習Ⅰと老年看護学実習Ⅱからなります。この実習では老年期の特性を理解した上で、加齢や健康上の問題を持つ患者の健康状態に応じた看護実践を目標としています。

老年看護学実習Ⅰでは、老年期にある患者とその家族を理解し、加齢や健康障害に応じた日常生活の自立支援について学びます。

老年看護学実習Ⅱでは、苦痛・死への不安がある老年期の患者とその家族を理解し、苦痛の緩和とともに看取りの看護についても学びます。

【小児看護学実習】

小児看護学実習では、小児病棟において、小児期にある対象とその家族を理解し、成長・発達段階、健康状態に応じた看護実践について学びます。

【母性看護学実習】

母性看護学実習では、産科病棟において母性看護の対象（妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族）を理解し、母子ともに健康に過ごせるように、母子とその家族に対する看護実践に必要な看護実践や生命の尊厳について学びます。

【精神看護学実習】

精神看護学実習では、精神障害を持つ患者への関わりを通して、患者理解を深め、個別性に応じた看護について学びます。

【在宅看護学実習】

在宅看護学実習では、訪問看護ステーションや地域包括支援センターにおいて、地域で生活・療養している人々とその家族を理解し、個人・家族・集団を対象とした看護活動の展開に必要な看護の機能と役割について学びます。

【助産学実習】

助産学実習では、助産学および関連領域の関する知識や技術を踏まえ、基本的な助産診断・技術、地域母子保健及び助産管理、母子保健における助産師の役割と責任について学びます。

分娩の取り扱い実習においては、分娩の自然な経過を理解するため、助産師又は医師の監督の下に、正常産 10 例の実践を行います。（原則として正常産・経膣分娩・頭位単胎とし、分娩第 1 期～第 3 期終了より 2 時間）また、実習中に妊娠中期から産後 1 か月まで継続して受け持つ実習を 2 - 3 例行います。妊婦健康診査においては

妊娠経過の診断を行う能力及び産褥期の授乳指導や新生児期のアセスメントを行う能力を強化する実習を目指しています。

統合看護実習

統合看護実習は、統合看護学実習Ⅰと統合看護学実習Ⅱからなります。この実習では３年間学んだ、既習の知識や技術を統合させて、看護の対象である人間理解と多職種との協働の中で、リーダーシップやメンバーシップを発揮し、看護実践力を高めることを目指しています。

統合看護実習Ⅰでは既習の学びを総括して、課題を見出すことに主眼をおいています。

統合看護実習Ⅱでは、看護専門職としての自己の将来像をイメージしながら、看護活動を統合することを目指しています。

臨地実習の手引き

東京医療学院大学
保健医療学部　看護学科

１回生

目　次

A　看護学科の臨地実習　・・・3～5

1．臨地実習の概要

2．臨地実習の目的

3．本学における臨地実習の階層性

B　実習オリエンテーション　・・・6～13

1．臨地実習に関する基本事項

2．臨地実習にあたっての心得

3．個人情報の保護

4．事故対応

5．病棟実習におけるオリエンテーション内容(各領域共通)

6．実習評価

C　各実習別実施要項

臨地実習年次計画表　・・・15

1．基礎看護学実習Ⅰ　・・・16～18

2．基礎看護学実習Ⅱ　・・・19～21

3．基礎看護学実習Ⅲ　・・・22～24

4．成人看護学実習Ⅰ　・・・25～26

5．成人看護学実習Ⅱ　・・・27～29

6．老年看護学実習Ⅰ　・・・30～31

7．老年看護学実習Ⅱ　・・・32～33

8．小児看護学実習　・・・34～36

9．母性看護学実習　・・・37～39

10．精神看護学実習　・・・40～41

11．在宅看護学実習　・・・42～45

12．統合実習Ⅰ　・・・46～47

13．統合実習Ⅱ　・・・48～49

14．助産学実習　・・・50～52

D　実習別学生・教員配置表　・・・53～66

E　経験録

・看護技術の経験録（母性・小児・助産学を除く）　・・・68～69

・＜助産学実習＞経験録　・・・70

F　各種記録用紙　・・・71～94

・基礎看護学実習Ⅰ　記録用紙
・基礎看護学実習Ⅱ　記録用紙　（基礎看護学実習Ⅱ記録用紙 1）
・看護場面の再構築　（基礎看護学実習Ⅱ記録用紙 2）
・患者基本情報シート　（基礎看護学実習Ⅲ記録用紙 1）
・受け持ち患者自立と看護の必要度　（基礎看護学実習Ⅲ記録用紙 2）
・看護計画の立案　（基礎看護学実習Ⅲ記録用紙 3）
・成人看護学実習　受け持ち患者記録（データベース）　（成人看護学実習記録用紙 1－①）
・成人看護学実習　受け持ち患者記録（データベース）　（成人看護学実習記録用紙 1－②）
・成人看護学実習　受け持ち患者記録（関連図）　（成人看護学実習記録用紙 1－③）
・成人看護学実習　受け持ち患者記録（看護計画）　（成人看護学実習記録用紙 1－④）
・老年看護学　看護計画(基礎情報)　（老年看護学実習記録用紙 1）
・老年看護学　看護計画(基礎情報)　（老年看護学実習記録用紙 2）
・老年看護学　看護計画（全体像・関連図)　（老年看護学実習記録用紙 3）
・老年看護学　看護計画(看護診断と計画)　（老年看護学実習記録用紙 4）
・患者データベース　（精神看護学実習記録 1）
・患者看護計画用紙　（精神看護学実習記録 2）
・在宅看護学（訪問）実習記録　（在宅看護学実習記録用紙 1）
・訪問看護ステーション実習記録　（在宅看護学実習記録用紙 2）
・訪問看護記録　（在宅看護学実習記録用紙 3）
・在宅看護学（地域包括支援センター）実習記録　（在宅看護学実習記録用紙 4）
・在宅看護学実習　出欠席表
・分娩介助事例記録　（助産学実習記録 1）

G　評価表
・基礎看護実習Ⅰ評価表　・・・96
・基礎看護実習Ⅱ評価表　・・・97

H　付録資料　・・・98～104
・付録１：求められる実践能力と卒業時の到達目標
・付録２：体調管理自己チェックフローチャート(実習編)
・付録３：看護学科　事故発生時の報告フローチャート
・付録４：インシデントレポート

A. 看護学科の臨地実習

1. 臨地実習の概要

看護師教育は、職業教育の性格を併せ持つという特徴をもち、あらゆる健康レベルの対象者に、責任を持って看護ケアを実践していく能力の習得が求められる。さらに、近年の高齢化社会といった社会状況なども踏まえ、看護師には健康の保持増進・疾病予防の分野においても指導を含めた看護実践活動が期待されている。臨地実習は、学内で学んだ看護の基本となる知識・技術・態度を、対象者のニーズに合わせた看護実践能力を身につける、貴重な学びの場である。

本学では、建学の精神である「人に優しく、社会に貢献できる人材の育成」という視座に立ち、保健・医療・福祉の様々な場において、健康の保持増進・疾病予防を含め、あらゆる健康レベルの人々のニーズに対応した看護ケアが提供できる看護者育成のために、臨地実習では大学 4 年間で看護学領域 25 単位の取得を目指す。さらに学内選抜により助産師国家試験受験資格の取得希望者は、受験資格条件となる助産学臨地実習 11 単位を取得する。

臨地実習では、学内で学習した内容を実際の看護場面で統合させ、看護実践能力の修得をめざす。しかし、学生は資格を有していないことから、臨地実習における看護の実践は、患者・家族の同意のもとに実施されること、看護教育として正当な目的を有するものであること、相当な手段・方法を持って行う、といった要件が求められる。そのため、臨地実習において看護技術を実施するにあたっては、以下に挙げる事柄を守り、対象者にとって安全な医療・看護の提供を行わなければならない。

① 看護技術の実施にあたっては、患者の権利の保障と、安全性に確保を最優先に考える。
② 看護技術の実施にあたっては、事前に患者・家族に十分なわかりやすい説明を行い、同意を得て、承諾書へのサインを受け実習を開始する。
③ 看護技術の実践にあたっては、事前の学内で実践可能なまでの練習を積み重ねる。
④ 患者技術の実施にあたっては、必ず臨地実習指導者の助言、指導を受け、実施する水準に合わせて実施する。

水準レベルは 3 段階に区分される

1：教員や看護師の助言・指導により学生が単独で実施できる
2：教員や看護師の指導・監督のもとで実施できるもの
3：原則として看護師や医師の実施を見学するもの

臨地実習は、対象者の方々や臨地実習指導者の協力なしには成り立たない事を十分に認識し、感謝と敬意の気持ちを持って誠実に実習に取り組むことが必要である。

実習で学ぶ看護学の内容は 付録１求められる実践能力と卒業時の到達目標 を参照

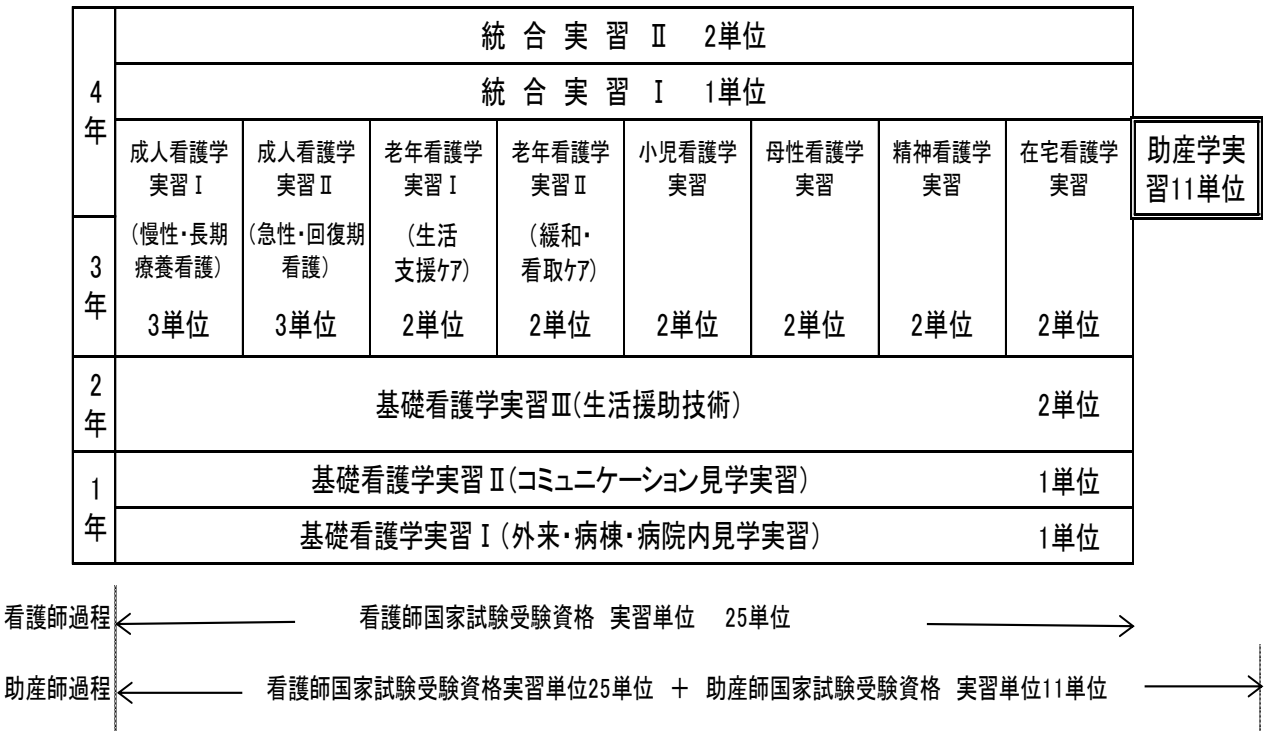
２．臨地実習の目的

本学の建学の精神である「人に優しく、社会に貢献できる人材の育成」という視座に立ち、保健・医療・福祉の様々な場において、健康の保持増進・疾病予防を含め、あらゆる健康レベルの人々のニーズに対応した看護ケアが提供できる看護者の育成を目指している。臨地実習は、看護学科の人材養成の目的である豊かな人間性を培い、看護師の専門性が求められる医療・保健・福祉の現場において、人々のニーズに合った適切な看護ケアが提供できる判断力、看護実践能力、調整能力を学習するために設定されている。そのため、学内で学習が困難である、あらゆる健康レベル、発達段階にある対象者の特性に多く触れ、看護ケアの経験を積み重ね、看護者としての基本を学ぶ貴重な機会である。

３．本学における臨地実習における階層性

看護学科では卒業時の看護師国家試験または助産師国家試験の受験資格のためには、必修科目である看護学実習の単位を修得しなければならない。看護学実習は基礎看護学実習（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）、成人看護学実習（Ⅰ・Ⅱ）、老年看護学実習（Ⅰ・Ⅱ）、精神看護学実習、在宅看護学実習、母性看護学実習、小児看護学実習、統合看護学実習（Ⅰ・Ⅱ）がある。助産師を希望する場合は、助産学実習がある。

臨地実習における構成は下記図１のとおりである。



[図１：臨地実習構成図]

Ｂ．実習オリエンテーション

１．臨地実習に関する基本事項

１）臨地実習施設

臨地実習施設としては、実習目標に適した様々な病院をはじめ、訪問看護ステーションなどがある。看護学生は、これらの実習施設の理解と協力のもとに行われるものであることを認識し、常に感謝の気持ちを持って臨地実習に臨まなければならない。

２）実習指導者

病院の臨地実習で実習指導を担当してくださるのは、病棟の看護師長をはじめ、副師長・主任助産師看護師、そして実習指導者である。実習指導者とは、臨地実習施設の職員であり、実習目標達成のための指導をすることのできる、経験３年以上の助産師及び看護師である。また、訪問看護ステーションでは、看護師をはじめとした職員各位が指導者となる。

実習指導者は、学生の臨地実習の目的・目標が達成できるように配慮し、実習計画の立案、実施の指導･助言を行うが､指導者自身､看護職員としての看護ケアの仕事も行いながらの指導である。

２．臨地実習に当たっての心得

臨地実習では、看護技術の実践に承諾をして下さった患者及び家族の方々がいることで、実習目的・目標の達成できることを十分に認識し、実習期間は休むことのないように、健康管理には最新の注意をはらうこと。特に、病院入院中の方や御高齢の方々は、抵抗力が低い状況にあることを理解し、学生自身が感染症の媒体にならないようにしなければならない。

臨地実習は実習施設の理解と協力のもとに看護職員の育成のために行われるものである。実習指導者にとっては、日常の業務のほかに実習生への指導業務が加わるということを認識し、時間の約束を守り、連絡・報告・相談を心掛ける。

なお、実習生は、臨地実習期間中、実習施設の規則や実習指導者の指示が守れない、または社会規範や常識的な振る舞いから逸脱した行動を行い、それが改善されない場合には、臨地実習が中止になることを留意しなければならない。臨地実習は大学看護学科看護学科として使用が許可されたものである。そのため、大学の代表という姿勢で臨み、続く後輩が臨地実習として使用できなくならないように心掛ける。

臨地実習で知りえた対象者の情報、施設について、または臨地実習指導に関することなどを、ツイッターや LINE などで話題として取り上げることは社会的にも許されるものではなく、看護者としての倫理観に基づき、してはならない。

１）実習前の準備

学生は、付録２：体調管理自己チェックフローチャートに基づき、準備をして実習に臨む。

(1) 感染予防対策

① 入学が決定した段階で、入学生と保護者に、指定された感染症抗体価（HB 抗原・抗体の有無、水痘、流行性耳下腺炎、麻疹、風疹）の検査を受けること、必要時は予防接種の勧奨を文書により通知する。

② 基礎看護学実習Ⅲ開始までに、感染症の抗体を得ていることを確認する。

③ 毎年インフルエンザの予防注射をうけた上で実習を行う。
④ 健康診断は毎年実施し、体調管理に最新の注意を払う。
⑤ 常日頃より感染防止に努め、手洗い、嗽を励行し感染予防習慣を身につける。

(2) 保険の加入

入学とともに看護学生を対象とした保険、例えば Will 一般社団法人日本看護学校協議会共済会の総合補償制度などへの加入を義務づけ、安心して実習ができるようにする。

2） 一般的マナー

(1)挨拶

人間関係を築く上で基本となるものである。職員、対象者、家族などに対して、必ず挨拶と自己紹介を行うこと。また、実習終了時にも必ず終了することを対象者に伝えること。

(2)時間の管理

「5 分前行動」を心がけ、時間に余裕を持ち、始業時間や、ミーティングなどには遅れず時間は厳守すること。その際、周囲の状況を速やかに把握して率先して準備、後片付けを行う。

(3)言葉・態度

実習生は臨地実習施設の職員、対象者、家族その他、当該施設の利用者など常に誰にでも良識ある言葉や態度で接すること。特に、対象者への挨拶を始め、話す時には、目の高さを合わる、相手のコミュニケーション能力に合わせて行なう（話すスピード、声の大きさなど）など、対象者には尊敬の念をもち、優しい言葉と行動で対応し、「人に優しい」心を育むこと。また、高齢者には、「おばあちゃん」「おじいちゃん」などの言葉がけではなく、〇〇さんと呼称で呼び、個人の尊厳を尊重する。

指導者に対して、報告・連絡・相談を一般的なマナーとして実施し、自己の勝手な判断で絶対に行動しないこと。

(4)服装

原則的には、大学指定のユニフォームまたは臨地実習先が指定する服とし、名前を記入した上で着用し常に清潔を心掛けること。靴下はユニフォームにあった色のものを着用すること。また通学時の服装についても臨地実習場所にふさわしい服装とし、清潔感を心掛ける。

実習中、靴の清潔にも注意し、踵を潰してはくことはしない。

(5)整容

臨地実習施設の職員、対象者、家族、その他当該施設の利用者などに対して、不安や悪印象を与えないように、以下の点に注意する。

・爪を短く切り、マニュキュアは不可。手は清潔に保つ。
・髪は清潔で見苦しくないように心を配る。肩にかかる場合は結わく。実習場所では更衣室も限られることを考え、自宅にて髪は整えて実習に向うこと。

・茶髪や金髪は禁止。アクセサリー、カラーコンタクト禁止。
・男子は、毎朝髭を剃り、不潔な印象を与えない。
・女子の化粧は、実習場所である病院や訪問看護ステーションに相応しいものとし、脱落の危険のあるつけまつげはしない。
・毎日入浴し、汗臭い状態で実習に臨まない。

3）遵守事項

(1)個人情報保護について

臨地実習期間中は、臨地実習施設の規則や指示、実習指導者の指導及び関係者の注意には従わなければならない。特にカルテを含め、個人情報の取扱いに関しては後述する「個人情報の保護」を遵守する。

(2)感染防止対策

感染防止に務め、各施設の感染防止マニュアルについて予めオリエンテーションを受け、実習中は規則を守る。自分が感染の媒体にならないよう、健康管理に留意し、「学校保健安全法施行規則第十八条」に規定されている伝染病(麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・インフルエンザなど)に罹患した場合、速やかに実習担当教員に報告する。

(3)個人としての情報交換、依頼の禁止

対象者との関係は、あくまでも実習協力の依頼に同意をしてくださった方であり、個人情報に関わる内容の交換は行わない。また、洗濯、買い物といった個人的な依頼は原則引き受けてはいけない。但し、依頼内容が生活支援や日常生活の拡大、心理的な援助を含めた必要な看護と考えられる場合は、臨地実習指導者に報告・連絡し、助言・指導を受けること。

(4)病状・疾患の説明について

対象者から疾患や治療についての質問があった場合は、個人の判断で回答をする、調べた内容をレポートにして渡すなどの行動は行わないこと。疾患について質問があった事実などは、きちんと臨地実習指導者に報告し、助言・指示を受けること。

4）臨地実習中の学習面に関する基本事項

(1) 臨地実習は準備して臨むことが基本であり、そのための予習を重視すること。
(2) 臨地実習に際してメモを取ることを心掛ける。但し、個人情報に関する内容はメモの取り扱いは、「個人情報の保護」に順じること。

5）遅刻・早退・欠席

(1)臨地実習は、全日の出席を原則とする。
(2)不足の事態、あるいはやむを得ない事情により、欠席・早退をしなければならないときは、直ちに、実習担当教員に連絡・報告・相談をし、許可を得ること。その際、担当している対

象者に迷惑が係らないように、実習指導者への連絡も教員を通して行う。

(3)「学校保健安全法施行規則第十八条」に規定されている伝染病(麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・インフルエンザなど)に罹患した場合は、医師の診断により登校は禁止される。速やかにその旨を担当教員に報告する。

(4)災害時の対応

台風・地震・降雪などにより、学生の通学が困難である、危険性が高いと判断された場合は、本学の規定に沿って授業が中止となる。その場合は、臨地実習においても同様に処遇となるが、実習担当教員と連絡をとること。また、各実習施設には実習担当教員から連絡を入れる。

6）ハラスメント対策

臨地実習において、被害を受けた場合は、直ちに実習担当教員に報告する。

セクシャルハラスメントとは、行為者の意図にかかわらず、性的な含意のある言動により、相手に不快の念を抱かせること、または不特定の相手に同様の不快感を与える環境を作り出す行為。臨地実習においては、ハラスメントの被害にならないよう十分に留意すること。たとえば、対象者である異性と個室で1対1になり、必要以上の看護ケアを強要され場合は、直ちに実習担当教員または実習指導者に相談すること。またケアは複数で行うこと。

3．個人情報保護

1）「看護者の倫理綱領（2003年）」の理解

基礎看護学実習Ⅰは入学1か月後に、計画している見学実習である。実習開始までに、日本看護協会監修『新版　看護者の基本的責務－定義・概念／基本法／倫理』（日本看護協会出版会、2006年）の「看護者の倫理綱領（2003年）」を充分に理解して実習に臨む。

2）個人情報の保護

臨地実習では、対象者の個人情報の保護には十分な配慮を行う。

(1) カルテの閲覧は、各施設の指示に従い、個人が特定されるようなものは決して施設より持ち出さない。

(2) メモには個人が特定できるような情報は書き込まない。メモ帳は白衣にチェーン繋ぐ方法をとり紛失をしない。

(3)実習中の記録は、評価後学内でシュレッター処理を行う。　受け持ち対象者の同意を得る際は、臨地実習同意書に記載されている個人情報保護について十分に説明する。

(4)臨地実習中に知りえた対象者の情報は、家族・友人にも他言してはならない。実習行き帰りの電車をはじめとした公共機関での発言にも留意すること。

(5)対象者の情報に関する書類などを万が一紛失してしまった場合は、直ちに実習担当教員と臨地実習指導者に報告（付録３：看護学科事故発生時の報告フローチャート）し、対処方法について指示を仰ぐ。大学には事故報告書（付録４：インシデントレポート）を、実習担当教員を介して提出する。

４．事故発生時の対応

臨地実習において、事故やヒヤリハットが発生した場合は、付録３：看護学科事故発生時の報告フローチャートに基づき臨地実習指導者と実習担当教員に直ちに報告し、適切な対応について指示を仰ぐ。尚、事故の状況、内容によっては、保護者への報告が必要となる。原則として当事者である学生から報告することになるが、学生が報告できない場合や専門的な説明が必要な時は、授業科目教員が補足する。

１）事故の種類と事故発生時の応急処置について

(1)対象者の身体に関する事故

対象者の障害や安全の確認をする。可能な範囲での応急処置を行う。

その場を離れず、周囲の人に速やかに看護師・助産師・保健師など、実習施設の看護職員の応援要請を依頼する。

(2)物品の破損・紛失に関する事故

学生は直ちに施設の実習指導者および実習担当教員に報告する。

実習担当教員は、実習部署の責任者と連携を取り、その場の状況に対処する。

(3)学生の身体に関する事故

学生には実習期間中、健康保険証および傷害保険加入を証明するものを常に携帯する。

学生は直ちに施設の実習指導者および実習担当教員に報告する。

実習担当教員は実習部署の責任者と連絡を取り、その場の状況に対処し、必要時に応じて受診させる。

針刺し事故が起こった場合は、実習施設の針刺し事故発生マニュアルに沿って迅速に対応することとし、実習部署の責任者の指示に従う。

２）個人情報の流出・漏洩

①学生は直ちに施設の実習指導者および実習担当教員に報告する。

②実習担当教員は実習部署の責任者と連絡を取り、報告。各実習施設の個人情報流出・漏洩に関するマニュアルに沿って行動するため、指導者の指示のもとに対処する。

３）学生自身の移動時の事故

①実習施設への移動は、原則、公共交通機関を利用する。

②学生は直ちに実習部署の責任者および実習担当教員に報告（発生時間、事故内容、被害者および加害者について、その後の対応予測など）する。

③学生から連絡を受けた実習担当教員は、適切に指示（救急車の手配、警察や家族への連絡など）を行う。

5．病棟実習におけるオリエンテーション内容（各領域共通）

＊　実習初日に以下の内容について説明を受ける。

1）病棟オリエンテーション

(1)病棟の特性：診療科、患者数、入院患者の主な疾患・年齢、主な治療方法

(2)学生が使用する病棟の構造と物品について

① 病棟の構造：ナースステーション、病室、処置室、リネン室、汚物処理室、ゴミの分別方法、洗面所、浴室、洗髪室、洗濯室、デイルーム、避難経路、トイレ、など。

② 実習で使用する物品や場所に関する使用方法・後始末の方法：看護用品（血圧計、体温計、清拭車、清潔関係の看護物品、車椅子・ストレッチャー、排泄関係の看護用品類と汚物の処理方法、洗浄機の取り扱い、リネン類の取り扱い、環境整備物品、食器の後片付け方法、ゴミの分別方法、など。

③ 学生の荷物置き場:使用方法、施錠、貴重品の管理に関して

④ 学生の記録場所、カンファレンスの場所

(3)病棟の記録物の取り扱いについて

① 実習で活用する記録物について（電子カルテの場合の情報収集方法、印刷の禁止）

② 閲覧可能、使用可能な時間帯について、使用時の報告と使用後の後始末について

(4)病棟管理

① 病棟の看護体制：プライマリーナーシング、チームナーシング、2 交代制、3 交代制

② 指導体制：看護師長、副師長、主任、実習指導者、その他指導に関わる看護師

③ 病棟の 1 日の流れ：勤務者の引き継ぎ、食事時間、入浴時間など

④ 病棟の週間予定:シーツ交換、診療科の回診、検査など

⑤ 救護区分：担送、護送、独歩

⑥ 病棟で働く多職種の人々：医療事務、看護助手、清掃係他

2）受け持ち患者についてのオリエンテーション

(1)　医学的診断名

(2)　現在の状況

(3)　治療方針と主な治療経過

(4)　看護方針と主な看護内容

(5)　受け持ち看護師

(6)　主治医

(7)　その他必要な内容（対応、言動の統一が必要なこと）

６．実習評価

１）各施設の指導者と大学側の指導者との評価方法・連携

実習の評価は、実習担当教員の責任のもとに実習指導者と協議し、総合的に評価を行うこととする。実習評価は、臨地での日々の実践状況、実習記録の内容、実習後レポート等をもとに、実習目的・目標と照らし、その到達度を評価する。

２）大学における単位認定方法等

大学においては、学則に定められているとおり、最終的な単位認定は教授会の議を経て学長が行う。

評価については評価表を用い、学生・教員が一体化し学生の今後の発展的な学びの保証ができる評価を行う。

成績評価は、科目ごとに 100 点を持って満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする。成績段階については、S（100 点～90 点以上)、A（80 点以上～90 点未満)、B（70 点以上～80 点未満)、C（60 点以上～70 点未満)、D（60 点未満）

Ｃ．各実習別実施要項

臨地実習は、1・2 年次に計画されている基礎看護学実習（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）を始めとして、3 年次 7 月からは、各領域別実習として成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、在宅看護学実習（訪問看護・地域包括支援センターでの実習）を約 1 年間の期間で行います。さらに 4 年次後期には、統合実習Ⅰ・Ⅱの実習があり、4 年間で計 13 の実習が必修として計画されています。この 13 の実習を各学生が、どのような順番で実習を行うのか、その巡回計画を次ページの≪臨地実習年次計画表≫に示してあります。各自、自分の学生番号を確認してください。

次に、この「Ｃ．各実習別実施要項」では、各実習別に実習の目的・目標・学習目標・単位・臨地実習施設とその所在地・実習担当教員・実習方法・成績評価方法を明示しました。各実習で学習する内容は何か、受け持ち患者を通して何を学ぶのか、どのような記録用紙を使用し、どのように実習を行うのか、その方法が書いてあります。充分に読んで実習に臨みましょう。

尚、助産学選択の学生はさらに、助産学の臨地実習があります。

≪臨地実習計画年次計画表≫

月		5				6			7			8			9		10			11		12			1			2			3	
基礎実習		基礎Ⅰ	基礎Ⅰ					基礎Ⅱ																							
実習ｸｰﾙ		⑦クール				⑧クール			①クール								②クール			③クール			④クール				⑤クール			⑥クール			
A	1			成人看護学実習Ⅰ				成人看護学実習Ⅱ			小児看護学実習				統合実習Ⅰ			老年看護学実習Ⅱ			老年看護学実習Ⅰ			母性看護学実習	在宅実習			精神看護学実習			地域包括		
	2																														
	3																														
	4																														
	5																														
	6																														
	7																														
	8																														
	9																														
	10																														
B	11			成人看護学実習Ⅱ				成人看護学実習Ⅰ					精神看護学実習				母性看護学実習			老年看護学実習Ⅱ		在宅実習		小児看護学実習				老年看護学実習Ⅰ			地域包括		
	12																														
	13																														
	14																														
	15																														
	16																														
	17																													在宅	
	18																														
	19																														
	20																														
C	21			精神看護学実習							成人看護学実習Ⅰ		地域包括				小児看護学実習			母性看護学実習			成人看護学実習Ⅱ				老年看護学実習Ⅱ			老年看護学実習Ⅰ		在宅実習
	22																														
	23																														
	24																														
	25																														
	26																														
	27																														
	28																														
	29																														
	30																														
D	31		地域包括	老年看護学実習Ⅰ							成人看護学実習Ⅰ				精神看護学実習			小児看護学実習			成人看護学実習Ⅱ				母性看護学実習			老年看護学実習Ⅱ		在宅実習
	32																														
	33																														
	34																														
	35																														
	36																														
	37																														
	38																														
	39																														
	40																														
E	41		地域包括	老年看護学実習Ⅰ			老年看護学実習Ⅱ				精神看護学実習				統合実習Ⅰ			成人看護学実習Ⅰ			成人看護学実習Ⅱ			在宅実習				小児看護学実習			母性看護学実習		
	42																														
	43																														
	44																														
	45																														
	46																														
	47																														
	48																														
	49																														
	50																														
F	51		母性看護学実習			老年看護学実習Ⅱ			老年看護学実習Ⅰ								成人看護学実習Ⅱ			成人看護学実習Ⅰ			精神看護学実習				地域包括	在宅実習		小児看護学実習		
	52																														
	53																														
	54																														
	55																														
	56																														
	57																														
	58																														
	59																														
	60																														
D	61			小児看護学実習			母性看護学実習				老年看護学実習Ⅱ						精神看護学実習			地域包括	在宅実習		老年看護学実習Ⅰ				成人看護学実習Ⅰ			成人看護学実習Ⅱ		
	62																														
	63																														
	64																														
	65																														
	66																														
	67																														
	68																														
	69																														
	70																														
H	71			在宅実習			小児看護学実習				地域包括			母性看護学実習			老年看護学実習Ⅰ			精神看護学実習			老年看護学実習Ⅱ				成人看護学実習Ⅱ			成人看護学実習Ⅰ		
	72																														
	73																														
	74																														
	75																														
	76																														
	77																														
	78																														
	79																														
	80																														
助産学実習						助産学実習6週間									統Ⅰ		助産学実習11週間						統合Ⅱ									

１．≪基礎看護学実習Ⅰ≫

Ⅰ.科目概要

病院における看護活動、療養者の生活の場である病院環境と看護の役割機能について知る。入学直後の「病院見学」をすることにより、「医療」「看護」という世界を知ることへの「導入」とし、大学において看護学を学ぶ動機付けとする。

Ⅱ．実習目的・実習目標・学習目標

1.実習目的

看護の対象となる人たちが、健康の維持、健康障害の診断・治療、健康の回復のために多く訪れる病院において、その機能や役割とそこで働く看護師の役割を学び、看護学生として看護観を培うための最初の機会とする。

2.実習目標

1）治療や検査、または出産や健診など、様々な目的で病院外来を訪れる人々の実際を知る。
2）入院病棟の実際を知る。
3）病院という施設の実際を知る。
4）病院という施設で働く看護師の役割を考える。

3.学習目標

1）病院を訪れる人々の目的を説明できる。
2）病院の機能と特性を商業施設と比較して説明できる。
3）個人情報の保護、プライバシーの尊重という視点でなされていることを説明できる。
4）病院の各部署の役割を説明できる。
5）病院で働く人々と、それぞれの役割を説明できる。
6）入院病棟の特徴を説明できる。
7）病院における看護師の役割を説明できる。
8）看護学生として身だしなみを整え、礼儀正しく行動できる。
9）実習の学びから、「看護」についての考えをまとめることができる。

Ⅲ．実習単位、実習施設、実習期間、担当教員、学生配置

1．実習単位：1 週間（1 単位、45 時間）
2．実習施設（7 施設）

・日本医科大学多摩永山病院　　〒206-8512　東京都多摩市永山 1-7-1
・国家公務員共済組合連合会立川病院　　〒190-8531　東京都立川市錦町 4-2-22
・独立行政法人国立病院機構村山医療センター　〒208-0011　東京都武蔵村山市学園 2-37-1
・独立行政法人国立病院機構相模原病院　〒252-0392　神奈川県相模原市南区桜台 18-1
・独立行政法人国立病院機構箱根病院　　〒250-0032　神奈川県小田原市風祭 412
・国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院

〒187-8551　東京都小平市小川東町 4-1-1

・横浜市立大学附属市民総合医療センター　〒232-0024　神奈川県横浜市南区浦舟町 4-57

3．実習時期

1）前半グループ（44 名）：平成 28 年 5 月 9 日（月）～11 日（水） 臨地実習

5 月 12 日(木)～13 日（金）実践と理論の統合学習・全体発表

2）後半グループ（36 名）：平成 28 年 5 月 16 日（月）～18 日（水）臨地実習

5 月 19(木)～20（金）実践と理論の統合学習・全体発表

4．担当教員（○は科目責任者）

○	教授	川守田千秋(基礎看護学)	教授	三輪のり子(基礎看護学)
	准教授	分島るり子(基礎看護学)	教授	櫻井美代子（老年看護学)
	教授	佐藤和子（成人看護学)	教授	渡邊淳子（助産学)
	講師	関川久美子（在宅看護学)	講師	廣瀬京子(小児看護学)
	講師	荻原康子(小児看護学)	講師	井上聡子（精神看護学)
	助教	渡邉幸恵（助産学)	助教	窪島領子（在宅看護学)
	助教	内田裕子(母性看護学)		

5．学生配置：【基礎看護学実習Ⅰ】施設別学生・教員配置表（p. 54）参照

Ⅳ．実習方法

＜臨地実習の進め方＞

1）事前に学内にて、実習オリエンテーションを受ける。

2）学習目標の達成に向け、病院の役割、訪れる人々、来院する目的などを実習グループで考え、見学実習でどのようなことを観察するか、「見学の視点」を挙げる（「基礎看護実習Ⅰ 記録用紙」p. 72 使用)。

3）実習では看護学生としての身だしなみに注意し、行動は機敏に 5 分前行動を心がける。
尚、実習は病院毎に 3 つのグループに分かれ、外来・病棟・病院全体の見学を、説明・指導を受けながら行う。

4）実習においては私語を慎み、行動は機敏を心がける。実習中に、緊急の場面に遭遇した場合は、実習指導者または担当教員の指示に従い、行動する。

5）実習終了後、気付いたこと、学んだことを「基礎看護実習Ⅰ 記録用紙」に記載。

＜実践と理論の統合学習・全体発表会＞

1）実習後の実践と理論の統合学習でグループワークを行い、実習目的に沿ってディスカッションを行い学びの共有化を図る。

2）最終実習日(金曜日)に全体発表を行う。
全体発表会のテーマ：「病院の役割」「看護師になるということ」の 2 点についてグループ発表（模造紙を用いる）を行う。

Ⅴ．成績評価

＊基礎看護学実習Ⅰの評価は、臨地実習における評価 50%、実習後レポート 50%である。

1．「基礎看護実習Ⅰ　評価表」(p. 96) に基づく評価。

実習終了翌日、自己評価欄に自己評価（5 段階評価）を記載して、担当教員に提出する。
担当教員は、評価を行う。

2．終了レポート：テーマ課題「病院と看護」

レポートの内容は下記①②とし、合わせてA4 版用紙 3 枚以上（表紙除く）とする。
①学習目標 1)～8)に沿って、その学びを記述する（A4 版 2 枚)。
②学習目標 9)については、実習の学びから、看護をどのように捉え、さらに自分が将来どのような看護師になりたいのかを A4 版用紙 1 枚にまとめる。
・学びを深めるためには、必ず 1 冊以上の参考文献を読む。
・レポートは、2 部提出（１部はコピー可）

3．レポート提出期限：前半グループ　5 月 20 日(金)16 時、　後半グループ　5 月 27 日(金)16 時

レポートの提出方法

＊表紙を付け、左上をホッチキスで止める

実習名 終了レポート 学籍番号 学生氏名 担当教員名 実習施設名	書式 ・ポイント10.5 ・明朝体 ・40字×40行 ・横書	①学習目標 1)～8)A42枚 ②学習目標 9)A41枚	文末に 参考文献明記 ・著者名 ・書籍名 ・発行元 ・発行年

２．≪基礎看護学実習Ⅱ≫

Ⅰ．科目概要

基礎看護学実習Ⅰに続く実習である。一日の看護活動の見学や参加体験、患者とのコミュニケーションを通して、「医療」「看護」における関わりは、「コミュニケーション」という関係形成によって成立していることを知り、看護学における「関わり形成」の重要性を学ぶ動機づけとする。

Ⅱ．実習目的・実習目標・学習目標

１．実習目的

入院患者病棟における看護師と患者のコミュニケーション場面を見学し、看護場面におけるコミュニケーションが果たす役割を知ることができる。

２．実習目標

1）実習を通して看護指導者、患者と挨拶のコミュニケーションがとれる。
2）病院の看護場面におけるコミュニケーションの実際を知る。
3）患者の個別性に応じて看護師のコミュニケーションで工夫している点に気付くことができる。
4）看護師としてコミュニケーションの大切さに気づくことができる。

３．学習目標

1）病院職員、患者に挨拶ができる。
2）看護師のコミュニケーション場面とその目的が説明できる。
3）対象に応じたコミュニケーションの違いとその効果を説明できる。
4）患者－看護師関係における効果的なコミュニケーションを説明できる。
5）看護におけるコミュニケーションの意味を説明できる。
6）医療チームメンバーとしての看護師が行うコミュニケーションの目的を説明できる。

Ⅲ．実習単位、実習施設、実習時期、担当教員、学生配置

１．実習単位：1 週間（１単位、45 時間）

２．実習施設（6 施設）

・日本医科大学多摩永山病院　〒206-8512　東京都多摩市永山 1-7-1
・日本医科大学武蔵小杉病院　〒211-8533　神奈川県川崎市中原区小杉町 1-396
・国家公務員共済組合連合会立川病院　〒190-8531　東京都立川市錦町 4-2-22
・独立行政法人国立病院機構箱根病院　〒250-0032　神奈川県小田原市風祭 412
・独立行政法人国立病院機構相模原病院　〒252-0392　神奈川県相模原市南区桜台 18-1
・埼玉県総合リハビリテーションセンター　〒362-8567　埼玉県上尾市西貝塚 148-1

３．実習時期

１）前半グループ（48 名）：平成 28 年 6 月 20 日（月）・21 日（火）臨地実習
22 日（水）・23 日（木）レポート課題達成のための学習、記録記載
24 日（金）実践と理論の統合学習・全体発表会

２）後半グループ（32 名）：平成 28 年 6 月 22 日（水）・23 日（木）臨地実習
20 日（月）・21 日(火)　レポート課題達成のための学習、記録記載
24 日（金）　実践と理論の統合学習・全体発表会

４．担当教員（○は科目責任者）

○	教授	三輪のり子(基礎看護学)	教授	川守田千秋(基礎看護学)
	准教授	分島るり子(基礎看護学)	教授	佐藤和子（成人看護学）
	教授	櫻井美代子（老年看護学）	教授	渡邊淳子（助産学）
	講師	和賀徳子(統合看護学)	講師	関川久美子（在宅看護学）
	講師	廣瀬京子(小児看護学)	講師	荻原康子(小児看護学)
	講師	井上聡子（精神看護学）	助教	内田裕子(母性看護学)
	助教	渡邉幸恵（助産学）	助教	窪島領子（在宅看護学）

５．学生配置：【基礎看護学実習Ⅱ】施設別学生・教員配置表（p. 55）参照

Ⅳ．実習方法

＜臨地実習の進め方＞

１）事前に学内にて実習オリエンテーションを受ける。「基礎看護実習Ⅱ　記録用紙」（p73）に、学習目標達成のために見学してくる視点を列挙しておく。

２）病棟オリエンテーションを受ける。

３）看護師に付いてシャドー研修を行う。看護師のコミュニケーションの場を見学し、コミュニケーションとして行っていること、心がけていること、さらに目的や意図を考える。

４）入院している患者にとって、看護師とコミュニケーションを取ることに何を求めているかなど、患者の立場からコミュニケーションを考える。

５）病棟看護師が行っている医療従事者とのコミュニケーションの場面を知り、その目的を考える。

６）実習中緊急の場面に遭遇した場合は、速やかに看護師に報告・連絡し、実習指導者または担当教員の指示に従い、行動する。

７）実習期間中に印象に残った、看護師と対象者のコミュニケーションの１場面を「看護場面の再構築」（p.74）に記載する。

８）実習終了時に、師長・主任・臨床実習指導者と 15 分～30 分程度、質疑応答の時間を取って頂き、実習で考えたこと、疑問についてカンファレンスを行う。

９）最終日のカンファレンスでは、学生が司会を担い、必ずメンバー各自が発表(または質問)を行う。カンファレンスの内容は実習終了後の実践と理論の統合学習に活かせるよう、書記１名を決める。

＜実践と理論の統合学習・全体発表会＞

1）実習終了後、実践と理論の統合学習にてディスカッションを行う。ディスカッションでは、各自が記載した実習記録「看護場面の再構築」を発表し、さらに実習目的に沿ってグループで学びを共通する。

2）実習最終日（6 月 24 日午後）に、全体合同発表で学びを深める。

全体発表テーマ

「看護の場面の再構築から学んだ看護におけるコミュニケーションの重要性」

Ⅴ．成績評価

＊基礎看護学実習Ⅱの評価は、臨地実習における評価 50%、実習後レポート 50%である。

1．「基礎看護実習Ⅱ　評価表」（p97）に基づく評価。
実習終了翌日、自己評価欄に自己評価（5 段階評価）を記載して、担当教員に提出する。
担当教員は、評価を行う。

2．実習終了後期日までに以下の 2 点を提出する。（2 部提出：1 部はコピー可）

1）印象に残った場面の再構築

「看護場面の再構築」（基礎看護学実習Ⅱ記録用紙２）に記入。

2）テーマ課題「看護とコミュニケーション」のレポート提出。

・考察での学びを深めるためには、必ず 1 冊以上の参考文献を読み、考察に加える。

・レポートは、Ａ４版用紙 2 頁以上（表紙除く）とする。

レポートの提出方法

＊表紙を付け、左上をホッチキスで止める

実習名 終了レポート 学籍番号 学生氏名 担当教員名 実習施設名	基礎看護学Ⅱ 記録用紙 「看護場面の 再構築」	書式 ・ポイント10.5 ・明朝体 ・40字×40行 ・横書	文末に 参考文献明記 ・著者名 ・書籍名 ・発行元 ・発行年

3．提出期限：平成 28 年 7 月 1 日(金)16 時

３．≪基礎看護学実習Ⅲ≫

Ⅰ．科目概要

医療機関において、日常生活に関する看護実践過程を展開することで、看護実践力の基本を学び看護観の醸成をすることをねらいとする。具体的には、対象の健康状態と日常生活の観点から、対象に適した看護技術を安全に提供すること、実践過程を通して対象との援助関係を形成する体験をする。初めて、看護の対象者を「受け持って」実践する。

Ⅱ．実習目的・実習目標・学習目標

１．実習目的

様々な看護場面で基盤となる日常生活援助を、学内で学んだ知識や看護技術を活用しながら、入院患者に実践する。患者の個々の健康状態や生活状況に合わせた看護の必要性、コミュニケーションの必要性を学ぶ。

２．実習目標

１）コミュニケーションを通して患者のニーズや苦痛を把握できる。
２）患者個々の健康状態や生活状況にあった看護援助計画を立てることができる。
３）看護技術が指導者の指導のもと、日常生活の援助を実施することできる。
４）患者の反応から、実践した看護を評価することができる。
５）指導者との報告・相談・連絡ができる。

３．学習目標

１）受け持ち患者の入院目的について述べることができる。
２）受け持ち患者の療養生活パターンを説明できる。
３）健康障害がその人の生活行動に及ぼしている状況・変化を述べることができる。
４）受け持ち患者が健康障害について、生活行動の変化をどのように認識しているかを説明できる。
５）受け持ち患者の日常生活動作（ADL）を説明できる。
６）受け持ち患者のバイタルサインを適切に測定できる。
７）受け持ち患者の状態に配慮したコミュニケーションをとることができる。
８）受け持ち患者の状態に合わせた日常生活援助の計画が立案できる。
９）立案した計画をもとに、指導者の指導のもと看護援助が実践できる。
10）看護援助の実施では、患者に説明し同意を得ることができる。
11） 実施した看護を患者の反応から評価できる。
12） 観察した患者の一般状態、ケアの実施を、指導者に速やかに報告できる。
13） 定められた規則に従って、患者情報や実習記録を適切に取り扱うことができる。
14） 病院における看護師の役割を考え、自分の課題とその達成に向けた具体策を述べることができる。
15） 自己の健康管理を行い、実習を休むことなく、行うことができる。

Ⅲ．実習単位、実習施設、実習時期、担当教員、学生配置

１．実習単位：２週間（2 単位、90 時間）

２．実習施設（8 施設）

・日本医科大学多摩永山病院　　〒206-8512　東京都多摩市永山 1-7-1
・日本医科大学　武蔵小杉病院　　〒211-8533　神奈川県川崎市中原区小杉町 1-396
・国家公務員共済組合連合会立川病院　〒190-8531　東京都立川市錦町 4-2-22
・独立行政法人国立病院機構相模原病院　〒252-0392　神奈川県相模原市南区桜台 18-1
・独立行政法人国立病院機構箱根病院　〒250-0032　神奈川県小田原市風祭 412
・埼玉県総合リハビリテーションセンター　〒362-8567　埼玉県上尾市西貝塚 148-1
・独立行政法人国立病院機構神奈川病院　〒257-8585　神奈川県秦野市落合 666-1
・国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院
　〒187-8551　東京都小平市小川東町 4-1-1

３．実習時期：平成 30 年 2 月 26 日～3 月 9 日　9:00～17:00　80 名

４．担当教員（○は科目責任者）

教授	川守田千秋(基礎看護学)	○教授	三輪のり子(基礎看護学)
准教授	分島るり子(基礎看護学)	講師	穴田博美（基礎看護学）
教授	佐藤和子（成人看護学）	准教授	今村嘉子（老年看護学）
准教授	久保川真由美（在宅看護学）	准教授	中込由美(老年看護学)
講師	関川久美子（在宅看護学）	講師	廣瀬京子(小児看護学)
講師	鈴木久子(在宅看護学)	講師	小林美智子（成人看護学）
助教	内田裕子(母性看護学)	助教	渡邉幸恵（助産学）
助教	窪島領子（在宅看護学）	助教	厚澤博美（成人看護学）

５．学生配置：【基礎看護学実習Ⅲ】施設別学生・教員配置表（p. 56）参照

Ⅳ．実習方法

１）日常生活援助の必要とされる患者１名を受け持ち、患者にバイタルサインや日常生活の援助を実施することを通して、実習の目的・目標の達成を目指す。
２）受け持ちをするにあたっては、病棟責任者より説明、同意を得た後、「臨地実習同意書」の署名をいただいたのち、担当教員と挨拶をし、実習を開始する。
３）患者の情報は個人情報の取扱いに則り、実習指導者、担当教員の指導のもとに行う。
受け持ち患者への援助は「毎日の実習記録」（p.75）で発表し臨床実習指導者の指導を受ける。
４）ケアの実施に際しては、担当教員・実習指導者と基本的には一緒に実施する。
５）昼休憩は、受け持ち患者への援助計画やカンファレンスの時間を考慮して１時間設定する。
６）常にスタンダードプリコーションを実践し、感染予防に努める。

7）受け持ち患者の記録は、「患者基本情報シート」（p.76)、「受け持ち患者自立度と看護の必要性」（p.77)、「看護計画の立案(全体像から看護介入まで)（p.78）を使用。

8）看護計画は、上記記録用紙 3 種類を実習 2 週目月曜日に担当教員に提出し、指導・助言を受ける。

9）同室者からの看護ケアの依頼があった場合は、速やかに指導者に報告する。

10）毎日実習終了時に指導者を中心に 1 日にまとめの時間を設け、フィードバック、質疑応答、翌日の計画についての指導を受ける時間とする。

11）最終日には師長および実習指導者の参加によるカンファレンスを行い、2 週間の学びを深める。

12） 実習最終日には、受け持ち患者に実習が終了することと謝辞を述べること。

13） 病棟実習では、白衣を着ていることに自覚を持ち、身だしなみに注意し、機敏な行動を心がける。また、場合により緊急の場面に遭遇した場合は、実習指導者または担当教員の指示に従い、行動する。

Ⅴ．成績評価

「基礎看護実習Ⅲ　評価表」を用いて実習担当教員が指導者からの意見も参考に評価。

４．≪成人看護学実習Ⅰ≫

Ⅰ．科目概要

成人期の健康課題・問題を持つ対象と家族への看護実践能力を習得する。具体的には、慢性的経過をたどり、生涯にわたって生活のコントロールが必要な成人期にある対象の特徴を理解し、疾病・障害の受容、生活の再構築、セルフケアにむけた看護実践について学ぶ。

Ⅱ．実習目的・実習目標・学習目標

１．実習目的

１）慢性疾患及び長期療養生活をおくる成人期にある患者の身体的・心理的・社会的問題を理解できる。

２）長期療養患者の社会復帰に向けた必要な看護援助が実践できる。

３）患者の健康レベルの維持、増進に向けた看護援助が実践できる。

４）実践した看護を患者の反応から評価できる。

２．実習目標

１）受け持ち患者を通して看護過程を学ぶ。

２）慢性疾患の病態・症状を、受け持ち患者を通して理解する。

３）慢性疾患に対する治療・検査の種類と効果を、受け持ち患者を通して理解する。

４）診断経過を、受け持ち患者を通して理解する。

５）合併症予防と異常の早期発見の必要性を、受け持ち患者を通して理解する。

６）長期療養患者に必要な支援を、受け持ち患者またはカンファレンスを通して理解する。

７）生活の再構築に向けた社会資源、看護支援の重要性を理解する。

８）治療・検査に伴う看護の役割を理解する

９）完治が困難な患者の心理を、受け持ち患者またはカンファレンスを通して理解する。

３．学習目標

＊受け持ち患者を通して以下のことを行う。

１）発達課題を述べることができる。

２）観察技術を用いて、基礎情報が収集できる。

３）患者に起こっている健康障害の部位・病因・程度、今後起こりうる状態を説明できる。

４）アセスメントツールに沿って情報が整理でき、看護問題を診断できる。

５）看護目標を達成するための具体策を計画、立案できる。

６）必要な看護が実習指導者の指導のもと実践できる。

７）行われている治療に必要な観察が計画に沿ってできる。

８）倫理的配慮を行いながら看護が実践できる。

９）実施した看護を患者の反応から評価し、実習指導者に報告できる。

10）計画した看護計画に沿って実習指導者の指導のもと、看護が実践できる。

11）診療の補助業務が実習指導者の指導のもと、実施できる。

Ⅲ．実習単位・実習施設・担当教員・実習期間

１．実習単位：３週間（3 単位、135 時間）

２．実習施設（5 施設）

・国家公務員共済組合連合会立川病院　　〒190-8531　東京都立川市錦町 4-2-22

・独立行政法人国立病院機構箱根病院　　〒250-0032　神奈川県小田原市風祭 412

・国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院　　〒104-0045　東京都中央区築地 5-1-1

・国立国際医療研究センター国府台病院　〒271－8516　　千葉県市川市国府台 1-7-1

・埼玉県総合リハビリテーションセンター　〒362-8567　埼玉県上尾市西貝塚 148-1

３．実習時期：

①②クール（20 名）：平成 30 年 7 月 2 日～7 月 20 日

③クール（10 名）：平成 30 年 9 月 25 日～10 月 12 日

④クール（10 名）：平成 30 年 10 月 22 日～11 月 9 日

⑤クール（10 名）：平成 31 年 1 月 15 日～2 月 1 日

⑥クール（10 名）：平成 31 年 2 月 4 日～2 月 22 日

⑦クール（10 名）：平成 31 年 5 月 13 日～5 月 31 日

⑧クール（10 名）：平成 31 年 6 月 3 日～6 月 21 日

４．担当教員（○は科目責任者）

○教授	佐藤和子（成人看護学）	講師	小林美智子（成人看護学）
助教	厚澤博美（成人看護学）	助手（2 名）	

５．学生配置：【成人看護学実習Ⅰ】施設別学生・教員配置表（p. 57）参照

Ⅳ・実習方法

１）慢性疾患または長期療養を余儀なくされている入院患者を 1 名受け持つ。

２）「成人看護学実習受け持ち患者記録(データベース)①」（p.79）、「成人看護学実習受け持ち患者記録(データベース)②」（p.79）、「成人看護学実習受け持ち患者記録③(関連図)」（p.81）、「成人看護学実習受け持ち患者記録④(看護計画)」（p.82）の 4 種類を用いて看護過程を展開する。（実習 2 週目の月曜日に看護計画を担当教員に提出。）

３）患者の情報は個人情報の取扱いに則り、実習指導者、担当教員の指導のもとに行う。

４）毎朝行動計画を実習指導者に発表、指導・助言を受ける。

５）環境整備やシーツ交換、配膳、下膳などは、原則として受け持ち患者に関してのみ行う。

６）その日の実習終了時に、行った看護についての評価を実習指導者より受ける。

７）カンファレンスは 2 週目と 3 週目に 2 回開催（各 1 時間）運営は学生が主体的に行う。

・2 週目：受け持ち患者の全体像、看護過程展開の経過や困りなどを各自発表する。

・3 週目：実習を通して「慢性疾患患者と長期療養患者の看護」の学びについて、各自発表するとともに、今後の自己の課題についても発表する。

Ⅶ．成績評価

「成人看護学実習　Ⅰ評価表」を使用。実習指導者の意見も参考に実習担当教員が評価を行う。

5．≪成人看護学実習Ⅱ≫

Ⅰ．科目概要

成人期の健康課題・問題を持つ対象と家族への看護実践能力を習得する。具体的には、手術療法を必要とする患者の特徴を理解し、急性期から回復期における看護実践について学ぶ。

Ⅱ．実習目的・実習目標・学習目標

1．実習目的

1）急性期疾患に必要な看護が計画できる。
2）急性期にある成人期患者に必要な看護が指導者の支援のもと実践できる。
3）急性期治療を受ける患者及び家族の心理的側面が理解できる。
4）回復期にある成人期患者に必要な看護が実践できる。
5）社会復帰に向け必要な看護を理解する。

2．実習目標

1）受け持ち患者を通して看護過程を展開する。
2）急性期にある患者への必要な看護を理解する。
3）周手術期にある患者およびその家族の権利や尊厳、価値観を尊重した医療の在り方を知る。
4）手術を受けようとする患者の健康障害の特性、および患者の心理的・社会的側面への影響を発達課題とともに考える。
5）急性疾患に対する診断経過、治療を、受け持ち患者を通して理解する。
6）手術による生体侵襲を理解し、周手術期にある患者の経過に応じて、基本的な看護を実践できる。
7）治療からの回復、生活の再構築に向けた社会資源、看護支援の必要性を理解する。
8）治療・検査に伴う看護の役割を理解する
9）急性期・回復期にある患者の心理を、受け持ち患者またはカンファレンスを通して理解する。
10）成人期にある患者の社会復帰のための支援を、受け持ち患者を通して学ぶ。

3．学習目標

＊受け持ち患者を通して以下のことを行う。
1）急性期、または回復期にある受け持ち患者の基礎情報が収集できる。
2）患者に起こっている健康障害の部位・病因・程度、今後起こりうる状態を説明できる。
3）アセスメントツールに沿って情報が整理でき、看護問題を診断できる。
4）看護目標を達成するための具体策を計画が立案できる。
5）薬物療法を受けている患者と家族に対する援助方法を述べることができる。
6）化学療法・放射線療法を受けている患者への看護援助方法を述べることができる。
7）周手術期の患者に必要な観察、看護ケアが、計画に沿って実習指導者の指導のもとに実践できる。

8）症状に応じた看護が、倫理的配慮を行いながら実習指導者の指導のもとに実践できる。
9）創傷管理技術と観察が、実習指導者の指導のもとに実施できる。
10）与薬の技術と観察が、実習指導者の指導のもとに実施できる。
11）実施した看護を患者の反応から評価し、実習指導者に報告できる。
12） 受け持ち患者の社会復帰に向けた支援が、実習指導者の指導のもとに実践できる。

Ⅲ．実習単位・実習施設・実習時期・担当教員・学生配置

1．実習単位：3 週間（3 単位、135 時間）

2．実習施設（6 施設）

・日本医科大学多摩永山病院　〒206-8512　東京都多摩市永山 1-7-1
・日本医科大学武蔵小杉病院　〒211-8533　神奈川県川崎市中原区小杉町 1-396
・社会医療法人財団石心会川崎幸病院　〒212-0014　神奈川県川崎市幸区大宮町 31 番地 27
・国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院　〒104-0045　東京都中央区築地 5-1-1
・国家公務員共済組合連合会虎の門病院　〒105-8470　東京都港区虎ノ門 2-2-2
・独立行政法人国立病院機構村山医療センター　〒208-0011　東京都武蔵村山市学園 2-37-1

3．実習時期

①クール（10 名）：平成 30 年 9 月 25 日～10 月 12 日
②クール（10 名）：平成 30 年 10 月 22 日～11 月 9 日
③④クール（20 名）：平成 30 年 11 月 12 日～11 月 30 日
⑤クール（10 名）：平成 31 年 1 月 15 日～2 月 1 日
⑥クール（10 名）：平成 31 年 2 月 4 日～2 月 22 日
⑦クール（10 名）：平成 31 年 5 月 13 日～5 月 31 日
⑧クール（10 名）：平成 31 年 6 月 3 日～6 月 21 日

4．教員担当（○は科目責任者）

○教授　佐藤和子（成人看護学）　講師　小林美智子（成人看護学）
助教　厚澤博美（成人看護学）　助手（2 名）

5．学生配置：【成人看護学実習Ⅱ】施設別学生・教員配置表（p. 58）参照

Ⅳ．実習方法

1）周手術期にある患者または回復期にある入院患者を 1 名受け持つ。
2）「成人看護学実習受け持ち患者記録(データベース)①」（p.79）、「成人看護学実習受け持ち患者記録(データベース)②」（p.79）、「成人看護学実習受け持ち患者記録③(関連図)」（p.81）、「成人看護学実習受け持ち患者記録④(看護計画)」（p.82）の 4 種類を用いて看護過程を展開する。（実習 2 週目の月曜日に看護計画を担当教員に提出。）
3）患者の情報は個人情報の取扱いに則り、実習指導者、担当教員の指導のもとに行う。

4）毎朝行動計画を実習指導者に発表、指導・助言を受ける。
5）環境整備やシーツ交換、配膳、下膳などは、原則として受け持ち患者に関してのみ行う。
6）その日の実習終了時に、実施と実施についての評価を実習指導者より受ける。
7）カンファレンスは2週目と3週目に2回開催（各1時間）運営は学生が主体的に行う。
・2週目：受け持ち患者の全体像、看護過程展開の経過や困りなどを各自発表する。
・3週目：実習を通して「周手術期にある患者、回復期にある患者の看護」の学びについて、各自発表するとともに、今後の自己の課題についても発表する。

Ⅴ．評価

「成人看護学実習Ⅱ　評価表」を使用。実習指導者の意見も参考に実習担当教員が評価を行う。

６．≪老年看護学実習Ⅰ≫

Ⅰ．科目概要

療養中の健康障害を持つ老年期の対象を理解し、個々の状態に応じた看護実践について学ぶ。特に、加齢現象と健康障害が関連して起こる問題について考える。

Ⅱ．実習目的・目標・学習目標

１．実習目的

健康障害を持つ老年期の患者、加齢による健康レベルの低下によって起こっている看護問題に対して、特に日常生活の支援に焦点を当て、必要な看護援助方法を学ぶ。

２．実習目標

１）健康障害、加齢が老年期の対象に及ぼす影響を理解する。
２）個々の対象者に対して健康を維持し、低下させないための看護援助を考える。
３）老年期にある対象者がその人らしく生活を過ごすために必要な看護援助を考える。
４）看護学生としてできる日常生活の援助を対象に合わせて実践できる。

３．学習目標

１）慢性期疾患が高齢者の身体的、社会的、精神面に及ぼす影響を説明できる。
２）年齢や健康障害の程度から危険性を予測し、安全に看護援助が実施できる。
３）入院前の生活習慣、生活環境を説明できる。
４）日常生活、セルフケア能力のアセスメントができる。
５）健康レベルの低下を予防し、その人らしい生活を維持するために必要な援助計画が立案できる。
６）患者の理解度、コミュニケーショ能力に応じた援助を説明できる。
７）加齢の影響や健康障害の程度を考慮した援助が、実習指導者の指導のもと実施できる。
８）健康レベル維持、合併症予防のために、看護の必要性を理解する。
９）慢性的な健康課題を有する患者への治療法（薬物療法、放射線療法、精神療法、リハビリテーション療法）の種類とその効果について説明ができる。
10）患者を尊重した言葉、態度で対応できる。
11）患者の反応を観察し、実施した看護の効果を評価できる。

Ⅲ．実習単位・実習施設・実習時期・担当教員・学生配置

１．実習単位：2 週間（2 単位、90 時間）

２．実習施設（6 施設）

・独立行政法人国立病院機構相模原病院　〒252-0392　神奈川県相模原市南区桜台 18-1
・医療法人社団愛友会上尾甦生病院　〒362-0051　埼玉県上尾市大字地頭方 421 番地 1
・独立行政法人国立病院機構箱根病院　〒250-0032　神奈川県小田原市風祭 412

・社会医療法人財団大和会武蔵村山病院　〒208-0022　東京都武蔵村山市榎 1-1-5
・社会福祉法人東京有隣会有隣病院　〒156-0055　東京都世田谷区船橋 2-15-38
・医療法人財団明理会鶴川サナトリウム病院　〒195-0051　東京都町田市真光寺町 197

３．実習時期

①クール(10 名)：平成 30 年 7 月 2 日～7 月 13 日
②クール(10 名)：平成 30 年 9 月 25 日～10 月 5 日
③クール(10 名)：平成 30 年 10 月 29 日～11 月 9 日
④クール(10 名)：平成 30 年 11 月 19 日～11 月 30 日
⑤クール(10 名)：平成 31 年 1 月 15 日～1 月 25 日
⑥クール(10 名)：平成 31 年 1 月 28 日～2 月 8 日
⑦⑧クール(20 名)：平成 31 年 5 月 13 日～5 月 24 日

４．担当教員（○は科目責任者）

教授	櫻井美代子（老年看護学）	○教授	石川みち子（老年看護学）
准教授	今村嘉子（老年看護学）	准教授	中込由美　（老年看護学）
助教	大山裕子（老年看護学）		

５．学生配置：【老年看護学実習Ⅰ】施設別学生・教員配置表（p59）参照

Ⅳ．実習方法

１）高齢期にある患者で日常生活の支援が必要な入院患者を 1 名受け持つ。
２）「老年看護学　看護計画（基礎情報)」(p.83)、「老年看護学　看護計画（基礎情報)」(p.84)、「老年看護学　看護計画（全体像・関連図)」(p.85)、「老年看護学　看護計画（看護診断と計画)」(p.86)」を用いて看護過程を展開する。
　（実習 2 週目の月曜日に看護計画を担当教員に提出。）
３）患者の情報は個人情報の取扱いに則り、実習指導者、担当教員の指導のもとに行う。
４）毎朝行動計画を実習指導者に発表、指導を受ける
５）環境整備やシーツ交換、配膳、下膳などは、原則として受け持ち患者に関してのみ行う。
６）その日の実習終了時に、実施と実施についての評価を実習指導者より受ける。
７）カンファレンスは実習最終日に企画（1 時間程度)。運営は学生が主体的に行う。
テーマは、「高齢者に対する日常生活の支援」として、受け持ち患者を通して行った看護と学びを症例紹介とともに各自が発表。今後の自己の課題についても発表する。

Ⅴ．評価

「老年看護学実習Ⅰ　評価表」を用いて実習担当教員が評価。

７．≪老年看護学実習Ⅱ≫

Ⅰ．科目概要

終末期にある健康障害を持つ老年期にある対象を理解し、個々の状態に応じた看護実践について学ぶ。特に、対象の生活史を踏まえながら、苦痛の緩和やＱＯＬについて考え看取りの看護について考える。

Ⅱ．実習目的・実習目標・学習目標

１．実習目的

終末期にある老年期の対象に必要な身体的･社会的･心理的な状況を学び、必要な看護を学ぶ。

２．実習目標

１）終末期にある対象の身体的・社会的・心理的側面で必要な看護が考えられる。
２）疼痛が老年期の人々に与える影響を理解できる。
３）緩和ケアの実際を学ぶ。
４）疼痛コントロールの実際を学び、看護としての観察、安楽への援助ができる。

３．学習目標

１）老年期にある患者の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。
２）老年期にある患者のコミュニケーション能力に応じた関わりができる。
３）終末期にある患者の症状緩和、疼痛コントロール、緩和ケアについて説明できる。
４）終末期にある患者の心理的苦痛の理解と看護援助について説明できる。
５）加齢や病状の悪化による身体的な機能低下への看護援助方法が説明できる。
６）疼痛のアセスメントについて説明できる。
７）疼痛コントロール評価のための観察が実習指導者の指導のもとに実施できる。
８）終末期における医療チームのかかわり方について説明できる。
９）看取る家族の体験について、理解と支援方法が説明できる。
10）受け持ち患者を通して安楽への援助が、実習指導者の指導のもとに実施できる。

Ⅲ．実習単位・実習施設・実習時期・担当教員・学生配置

１．実習単位：2 週間（2 単位、90 時間）

２．実習施設（8 施設）

・東京ほくと医療生活協同組合王子生協病院　　〒114-0003　　東京都北区豊島 3-4-15
・宗教法人救世軍救世軍ブース記念病院　　〒166-0012　東京都杉並区和田 1-40-5
・社会福祉法人賛育会賛育会病院　　〒130-0012　東京都墨田区太平 3-20-2
・医療法人社団珠光会聖ヶ丘病院　　〒206-0021　東京都多摩市連光寺 2-69-6
・社会医療法人財団石心会埼玉石心会病院　〒350-1323　埼玉県狭山市鵜ノ木 1-33
・医療法人社団崎陽会日の出ヶ丘病院　〒190-0181　東京都西多摩郡日の出町大字大久野 310

・医療法人財団アドベンチスト会東京衛生病院　　〒167-8507　　東京都杉並区天沼 3-17-3
・公益財団法人東京都保健医療公社多摩南部地域病院　〒206－0036　東京多摩市中沢 2-1-2

3．実習時期

①クール(10 名)：平成 30 年 7 月 17 日～7 月 27 日
②③クール(20 名)：平成 30 年 10 月 9 日～10 月 19 日
④クール(10 名)：平成 30 年 11 月 12 日～11 月 22 日
⑤クール(10 名)：平成 31 年 1 月 15 日～1 月 25 日
⑥クール(10 名)：平成 31 年 1 月 28 日～2 月 8 日
⑦⑧クール(20 名)：平成 31 年 5 月 27 日～6 月 7 日

4．担当教員（○は科目責任者）

教授	櫻井美代子（老年看護学）	教授	石川みち子（老年看護学）
○准教授	今村嘉子（老年看護学）	准教授	中込由美（老年看護学）
助教	大山裕子（老年看護学）	講師	鈴木久子(在宅看護学)

5．学生配置：【老年看護学実習Ⅱ】施設別学生・教員配置表（p. 60）参照

Ⅳ．実習方法

1）高齢期にある患者で日常生活の支援が必要な入院患者を 1 名受け持つ。
2)「老年看護学　看護計画（基礎情報)」(p.83)、「老年看護学　看護計画（基礎情報)」(p.84)、「老年看護学　看護計画（全体像・関連図)」(p.85)、「老年看護学　看護計画（看護診断と計画)」(p.86)」を用いて看護過程を展開する。
（実習 2 週目の月曜日に看護計画を担当教員に提出。）
3）患者の情報は個人情報の取扱いに則り、実習指導者、担当教員の指導のもとに行う。
4）毎朝行動計画を実習指導者に発表、指導を受ける
5）環境整備やシーツ交換、配膳、下膳などは、原則として受け持ち患者に関してのみ行う。
6）その日の実習終了時に、実施と実施についての評価を実習指導者より受ける。
7）カンファレンスは実習最終日に企画（1 時間程度)。運営は学生が主体的に行う。
テーマは、「高齢者に対する日常生活の支援」として、受け持ち患者を通して行った看護と学びを症例紹介とともに各自が発表。今後の自己の課題についても発表する。

Ⅴ．評価

「老年看護学実習Ⅱ　評価表」を用いて実習担当教員が評価

８．≪小児看護学実習≫

Ⅰ．科目概要

小児期の成長発達の特徴および、その成長発達過程における疾患、障害を持つ意味についての理解を踏まえ、実際に入院中の小児のケアを通して、児自身への援助のみならず、家族への援助も学習する。

Ⅱ．実習目的・実習目標・学習目標

１．実習目的

小児看護学実習では、様々な健康レベルにある小児とその家族を理解し、個々の対象にとって必要な看護を具体的に考え、実践できる能力を取得する。

小児の正常な発達を理解したうえで、疾患や入院生活が身体的・心理的側面に及ぼす影響を考え、必要な看護援助を学ぶ。

２．実習目標

１） 小児の成長発達段階を理解する。
２） 健康障害のある小児の特徴を理解し健康回復への適切な援助ができる。
３） 健康障害のある小児の家族状況を理解し、適切な援助を考えることができる。
４） 医療・保健・福祉・教育の機能と連携を知り、看護の役割を考えることができる。
５） 対象の看護を通して、小児の人権と看護を考えることができる。

３．学習目標

１） 小児の成長発達課題を観察し、評価できる。
２） 小児の入院に伴う問題について述べることができる。
３） 小児の疾病の病態生理・治療について述べることができる。
４） 小児の健康障害に応じた援助ができる。
５） 成長・発達段階・健康状態に応じた日常生活援助ができる。
６） 小児の安全を守るために必要な援助が理解できる。
７） 小児・家族との信頼関係を築くことができる。
８） 入院に伴う家族の問題を考えることができる。
９） 小児に関わる医療・保健・福祉・教育の連携を考えることができる。
10） 小児の最善利益を守ることについて考えることができる
11） 小児看護を通して、小児観について考えることができる。

４．学習内容　＜小児看護学実習学習内容＞　p35 参照

Ⅲ．実習単位・実習施設・実習時期・担当教員・学生配置

１．実習単位：2 週間（2 単位、90 時間）

＜小児看護学実習＞学習内容

実習目標	学習目標	学習内容
１．小児の成長・発達段階を理解する。	１）小児の成長・発達段階を観察し、評価できる。	（１）小児の成長・発達段階の観察と評価 ・身体発育・カウプ指数・ローレル指数 ・デンバー式発達スクリーニング ・感覚運動機能・知的情緒機能・社会性・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ機能・栄養・食事・食生活の段階・排泄段階・休息・睡眠状況・清潔・衣生活・移動・活動状況・遊び・学習状況 ・成育歴・家庭環境
２．健康障害のある小児の特徴を理解し健康回復への適切な援助ができる。	１）入院に伴う問題について述べることができる。	（１）健康障害による影響・理解度 （２）入院による影響 （３）身体的・心理的・社会的影響 （４）小児の日常生活の変化
	２）疾病の病態生理、治療について述べることができる。	（１）病態生理・検査・治療方針・治療内容 （２）健康障害の段階
	３）健康障害に応じた援助ができる。	（１）疾病の経過に応じた援助 ・身体の苦痛の緩和・環境適応への援助・母子分離不安への援助・安静を守るための援助・治療処置に伴う援助・合併症の予防・学業継続への援助・退院に向けての自己管理と生活指導 （２）バイタルサイン測定・身体計測 （３）治療・検査時の援助
	４）成長・発達段階、健康状態に応じた日常生活援助ができる。	（１）環境・栄養と食事・排泄・休息と睡眠 （２）清潔と衣生活への援助 （３）移動・活動への援助 （４）遊び・学習への援助 （５）プレパレーション
	５）小児の安全を守るために必要な援助ができる。	（１）安全な環境（安全マップの作成） （２）発達段階と起こりやすい事故 （３）事故防止 （４）スタンダードプリコーション
３．健康障害のある小児の家族状況を理解し、適切な援助を考えることができる。	１）入院に伴う家族の問題を理解し、適切な援助を考えることができる。	（１）小児の健康障害・入院に対する家族の反応 （２）家族に日常生活の変化 （３）家族の付添・面会状況 （４）家族の不安・苦痛への援助・保健指導
	２）小児・家族との信頼関係を気づくかかわりができる。	（１）コミュニケーション （２）小児を尊重した言語
４．医療・保健・福祉・教育の機能と連携を知り、看護の役割について考えることができる。	１）小児に関わる医療・保健・福祉・教育の連携を考えることができる。	（１）外来・在宅・地域・学校との連携 （２）小児保健対策（公費負担制度等） （３）チームの中での看護師の役割
５．対象の看護を通して小児の人権と看護を考えることができる。	１）小児の最善の利益を守ることについて考えることができる	（１）生命倫理 （２）児童の権利に関する条約 （３）ｱﾄﾞﾎﾞｶｼｰ
	２）小児看護を通して、小児観について考えることができる。	（１）実施した援助を振り返る （２）小児観

２．実習施設（6 施設）

・社会医療法人財団石心会埼玉石心会病院　〒350-1323　埼玉県狭山市鵜ノ木 1-33
・社会医療法人財団大和会武蔵村山病院　〒208-0022　東京都武蔵村山市榎 1-1-5
・独立行政法人国立病院機構神奈川病院　　〒257-8585　神奈川県秦野市落合 666-1
・埼玉県立小児医療センター　　〒339-8551　埼玉県さいたま市岩槻区大字馬込 2100 番地
・東京都立北療育医療センター　　〒114-0033　東京都北区十条台 1-2-3
・日本医科大学多摩永山病院　　〒206-8512　東京都多摩市永山 1-7-1

３．実習時期　（各クール学生 10 名配置）

①クール：平成 30 年 7 月 2 日～7 月 13 日
②クール：平成 30 年 9 月 25 日～10 月 5 日
③クール：平成 30 年 10 月 15 日～10 月 26 日
④クール：平成 30 年 11 月 19 日～11 月 30 日
⑤クール：平成 31 年 1 月 15 日～1 月 25 日
⑥クール：平成 31 年 2 月 4 日～2 月 15 日
⑦クール：平成 31 年 5 月 13 日～5 月 24 日
⑧クール：平成 31 年 5 月 27 日～6 月 7 日

４．担当教員（○は科目責任者）

○教授　加藤和子（小児看護学）　　講師　　廣瀬京子(小児看護学)
講師　荻原康子（小児看護学）

５．学生配置：【小児看護学実習】施設別学生・教員配置表（p. 61）　参照

Ⅳ．実習方法

１）1 名の患児を受け持つ。
２）受け持ち患児の情報収集を行い、看護計画を立案する。(2 週目月曜日に担当教員に提出)。
３）入院生活における一日の患児のスケジュールに沿って、必要な看護援助を指導者の指導のもと、安全に配慮して実施する。
４）面会時間などを利用して、家族とコミュニケーションをとるよう心掛ける。
５）様々な発達段階にある入院している患児に、看護援助や診療の補助を見学し、小児看護学の特性を理解するよう努める。
６）実施した看護援助の評価を実習指導者の指導のもとに行う。
７）実習最終日には病棟管理者、実習指導者の参加のもと、カンファレンスを企画(1 時間程度)。テーマは、「実習で学んだ小児観」。受け持ち患児を通して各自の学びを発表、共通する。

Ⅴ．評価

「小児看護学　評価表」を用いて実習担当教員が評価

９．≪母性看護学実習≫

Ⅰ．科目概要

母性看護の対象（妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族）を理解し、母子ともに健康に過ごせるように、母子とその家族に対する看護実践に必要な知識・技術・態度を習得し、生命の尊厳について学ぶ。

Ⅱ．実習目的・実習目標・学習目標

１．実習目的

女性のライフサイクルにおける妊娠、出産、産後育児をしている女性や新生児、その家族を対象として、必要な援助を実践できる

２．実習目標

１） 正常妊娠の過程が理解できる。
２） 妊娠期に応じた看護がわかる。
３） 褥婦の看護が実践できる。
４） 新生児への看護が実践できる。

３．学習目標

１）妊婦の看護

(1) 妊娠経過のアセスメントに必要なデータを収集し、アセスメントできる。
(2) 妊婦・胎児の健康状態を、適切な手技を用いて指導者の指導のもと観察できる。
(3) 妊婦・胎児の健康状態の評価について説明できる。
(4) 今後の妊娠経過を予測し、必要な保健指導が説明できる。
(5) 分娩開始兆候について説明できる。
(6) 正常な妊娠経過が説明できる。
(7) 妊婦に対する医療のシステム、母子手帳について理解する。
(8) 母親学級（両親学級）に参加して妊婦が安心して出産に臨めるような取り組みの実際を学ぶ。

２）産婦・褥婦の看護

(1) 指導者の指導のもと、分娩経過が観察できる。
(2) 胎盤を観察し、褥婦のアセスメントに必要な情報が収集できる。
(3) 出生直後の新生児に必要な観察が説明できる。
(4) 出生直後の新生児のアセスメントに必要な観察が指導者の指導のもと実施できる。
(5) 産婦の基本的ニードの充足をアセスメントし、必要な看護が実践できる。
(6) 産婦の状態に適した産痛緩和が指導者の指導のもと実施できる。
(7) 早期母子接触の意義を説明できる。
(8) 褥婦の身体回復、子宮復古、乳房の変化、心理的変化について説明できる。

(9) 褥婦の身体回復、子宮復古、乳房の変化、心理的変化について情報収集できる。
(10) 産褥日数と褥婦の状態に合わせたケアが指導者の指導のもと実施できる。
(11) 母子関係について評価し、必要な保健指導が説明できる。

3）新生児の看護
(1) 新生児のアセスメントに観察項目が説明できる。
(2) 新生児の一般状態、身体的所見、胎外生活への適応、生理的変化、哺乳状態を指導者の指導のもと適切な手技を用いて情報収集できる。
(3) 新生児の状態に合わせた清潔の援助、臍部消毒の処置を指導者の指導のもと、適切に実施できる。
(4) 新生児の適切な環境を整えることができる。

4．学習内容

妊娠期の学習内容	産婦への学習内容	新生児・褥婦への学習内容
・妊婦健診の介助 ・母親学級・両親学級 ・妊娠各期の保健指導 ・正常な分娩経過 ・児心音の測定 ・分泌物 ・陣痛の状態 ・リラックス法 ・内診台への誘導（ﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰへの配慮） ・マイナートラブル（腰痛・めまい・立ちくらみ・つわり・便秘・静脈瘤・こむら返しなど） ・生命の尊顔	・分娩の回旋機序 ・胎盤娩出後の子宮底の観察 ・胎盤の観察、計測 ・母児同室の意義と方法 ・母子のコミュニケーション ・褥婦の全身観察 ・退行性変化の観察と援助 （子宮収縮と子宮底に高さ、後陣痛、悪露の変化、外陰部の変化） ・進行性変化の観察と援助 (乳房、乳頭、乳汁分泌の状態、乳房マッサージ理解） ・産痛緩和方法 ・補助動作の緩和(体位の工夫） ・タッチング、声掛け ・呼吸法	・アプガースコアー ・原始反応 ・新生児呼吸確立のための援助 ・新生児適切な体温維持への援助 ・母子標識の装着 ・新生児出生2時間後の観察 ・新生児生理的変化の理解と援助 ・栄養補給の援助 ・排泄状態の観察 ・オムツ交換、陰部の清潔 ・児の抱き方、支え方 ・経皮的黄疸測定 ・沐浴の目的と方法 ・与薬（K_2シロップ）

Ⅲ．実習単位、実習施設、実習時期、担当教員、学生配置

1．実習単位：2 週間（2 単位、90 時間）

2．実習施設（7 施設）
・日本医科大学多摩永山病院　〒206-8512　東京都多摩市永山 1-7-1
・日本医科大学武蔵小杉病院　〒211-8533　神奈川県川崎市中原区小杉町 1-396
・医療法人社団新愛会東府中病院　〒183-0005　東京都府中市若松町 2-7-20
・東海大学医学部付属八王子病院　〒192-0032　東京都八王子市石川町 1838
・南東北グループ医療法人社団三成会新百合ヶ丘総合病院　〒215-0026
神奈川県川崎市麻生区古沢字都古 225
・町田市民病院　〒194－0023　東京都町田市旭町 2-15-41

・稲城市立病院　　〒206-0801　東京都稲城市大丸 1171

3．実習時期（各クール学生 10 名配置）

①クール：平成 30 年 7 月 30 日～8 月 10 日
②クール：平成 30 年 9 月 25 日～10 月 5 日
③クール：平成 30 年 10 月 22 日～11 月 2 日
④クール：平成 30 年 11 月 12 日～11 月 22 日
⑤クール：平成 31 年 1 月 7 日～1 月 18 日
⑥クール：平成 31 年 2 月 4 日～2 月 15 日
⑦クール：平成 31 年 5 月 7 日～5 月 17 日
⑧クール：平成 31 年 5 月 27 日～6 月 7 日

4．担当教員（○は科目責任者）

○教授　　甲斐寿美子(母性看護学)　　講師　　寺岡歩（母性看護学）
助教　　内田裕子(母性看護学)
1 名　　専任補充予定

5．学生配置：【母性看護学実習】施設別学生・教員配置表（p. 62）参照

Ⅳ．実習方法

1）褥婦を 1 名受け持ち、看護過程を展開する。
2）受け持ち患者の看護計画を立案し、2 週目月曜日に担当教員に提出する。
3）分娩目的で入院されてきた産婦に対しては、承諾を得て分娩の看護に参加し、行動目標に沿って実習を行う。
4）男子学生については、異性であることから、受け持ち拒否や看護を断られるケースも予測される。男子学生が父性としてのありように視点を転換して考えを深めること、さらには、保健師助産師看護師法の業務を念頭に置き、正常な経過をたどる褥婦・新生児の看護実践を行うなど、担当教員の支援を受け、実習を進める。
5）妊婦への保健指導の実際を知るため、臨床の協力を得て半日程度外来実習を行い、妊婦の看護を行動目標に沿って実習を行う。外来では、看護学生として身だしなみに注意し、私語を慎み、機敏な行動を心がける。
6）母親学級(両親学級)に、1 回は参加するように行動計画を立てる。
7）新生児については安全な看護の提供を第 1 として、実習指導者または担当教員の指導のもとに看護を実施する。
8）実習最終日にカンファレンスを行い、受け持ち患者を通して学んだ母性看護について各自発表する。

Ⅴ．評価

「母性看護学　評価表」を用いて実習担当教員が評価

10. ≪精神看護学実習≫

Ⅰ．科目概要

精神に障害を持った対象を理解し、個別的な看護実践について学ぶ。特に、対象との関係を形成する対人関係技術と精神状態をアセスメントする技術を用いて、対象に現れている精神症状が、日常生活行動にどのように影響しているかを知り、日常生活行動の維持向上にむけた看護実践について学ぶ。また、対象とのコミュニケーションを通して、自分自身を見つめ、自己洞察する力や共感的に理解する力を養う。

Ⅱ．実習目的・実習目標・学習目標

1．実習目的

入院治療をしている精神障害を持った対象者の症状をはじめとした、疾患が日常生活に及ぼす影響を理解し、必要な看護を学ぶ。

2．実習目標

1）精神疾患の症状の特徴を学ぶ。
2）精神看護学における看護の実際を学ぶ。
3）対象者に必要な看護を考え、実践できる。

3．学習目標

1）入院治療を必要とする精神疾患患者の特性が説明できる。
2）受け持ち患者を通して看護介入の必要な看護問題をアセスメントする。
3） 受持ち患者に必要な看護ケアを指導者の指導のもとに実施する。
4）受け持ち患者を通して治療効果を判定するための観察ができる。
5）受け持ち患者に必要な診療の補助業務(与薬など)に係わる看護が説明できる。
6）精神疾患患者とのコミュニケーションのあり方を知り、適切な関係を築くことができる。
7）受け持ち患者との看護の一場面を「プロセスレコード」で再構築ができる。
8）精神疾患患者の社会支援の実際を知る。

Ⅲ．実習単位、実習施設、実習時期、担当教員、学生配置

1．実習単位：2 週間（2 単位、90 時間）

2．実習施設（3 施設）

・国立国際医療研究センター国府台病院　〒271－8516　　千葉県市川市国府台 1-7-1
・国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院
〒187-8551　東京都小平市小川東町 4-1-1
・医療法人社団天紀会こころのホスピタル町田　〒194-0201　東京都町田市上小山田町 2140

3．実習時期（各クール学生配置 10 名）

①クール：平成 30 年 7 月 2 日～7 月 13 日

②クール：平成 30 年 8 月 20 日～8 月 31 日

③クール：平成 30 年 9 月 3 日～9 月 14 日

④クール：平成 30 年 9 月 25 日～10 月 5 日

⑤クール：平成 30 年 10 月 29 日～11 月 2 日

⑥クール：平成 30 年 11 月 19 日～11 月 30 日

⑦クール：平成 31 年 1 月 15 日～1 月 25 日

⑧クール：平成 31 年 5 月 13 日～5 月 24 日

4．担当教員（○は科目責任者）

○教授　関根正（精神看護学）　　講師　井上聡子（精神看護学）

5．学生配置：【精神看護学実習】施設別学生・教員配置表（p63）参照

Ⅳ．実習方法

1）病棟オリエンテーションでは、精神科病棟における管理についても説明を受ける。

2）１名受け持ち、看護過程を展開する。

3）受け持ち患者の社会復帰に向けた活動へは、指導者に相談し積極的に参加することとする（作業療法、散歩、ラジオ体操、買い物など）。

4）受け持ち患者の看護過程の展開には、「患者データベース（精神看護学実習記録１）」（p.87）、「患者看護計画（精神看護学実習記録２）」（p.88）を用いる。

（実習 2 週目の月曜日に看護計画を担当教員に提出。）

5）プロセスレコードは 2 週目水曜日に提出。

6）実習最終日にカンファレンスを行い、受け持ち患者を通して学んだ精神看護について各自発表する。

Ⅴ．評価

「精神看護学　評価表」を用いて実習担当教員が評価

11. ≪在宅看護学実習≫

Ⅰ．科目概要

在宅で生活・療養している人々とその家族を理解し、在宅看護が実践できる基礎的な能力を養う。訪問看護ステーション・地域包括支援センターにおける役割や機能について、実践をとおして学ぶ。

Ⅱ．実習目的・実習目標・学習目標

1．実習目的

在宅療養をする人が、その人らしくより良い療養生活を送るために看護者の役割を理解し、個々の対象者に応じた看護を学ぶ。

2．実習目標

1）訪問看護を受けている対象と家族への看護の実際を学ぶ。

2）訪問看護提供までのプロセスの実際を知る。

3）訪問の準備、訪問看護の実際と記録、多職種との連携、評価の一連の活動を理解する。

3．学習目標

1）訪問看護ステーションにおける看護の役割

(1) 地域で生活する療養者の身体的･精神的･社会的側面における看護介入に必要性を知る。

(2) 地域での生活する療養者と家族のニーズを知る。

(3) 訪問看護ステーションの機能・役割・医療・福祉の連携の実際を知る。

(4) 訪問看護における看護師の役割を知る(看護計画・記録などの実際を含む)。

(5) 訪問看護師として地域で生活する療養者・家族との信頼関係を構築する実際を学ぶ。

(6) 看護学生として対象者(訪問先)を尊重した態度で実習を行うことができる。

2)地域包括支援センターにおける看護の役割

(1) 要援助者のニーズを理解し、その人らしく生活を維持するための支援の実際を知る。

(2) 地域における人々の健康の保持に向けた地域包括支援センターの役割を知る。

(3) 健康問題をもつ要支援者に対するセンターの役割と看護職の役割を学ぶ。

(4) 地域にある様々な社会資源とその活用方法を理解する。

(5) 多摩地区における在宅医療、地域医療の特性を理解する。

Ⅲ．実習単位、実習施設、実習時期、担当教員、学生配置

1．実習単位：2 週間（90 時間）

2．実習施設

＜訪問看護ステーション＞　　11 施設

・医療法人財団天翁会あい訪問看護ステーション２ヶ所

〒206-0012　東京都多摩市貝取 1431-3　042-371-6888

〒206-0012　東京都稲城市平尾 1-43-15 アブニール新百合 1F　042-371-6888

・医療法人社団桐光会調布訪問看護ステーション

〒182-0034　東京都調布市下石原 3-45-1　042-443-9765

・桜ヶ丘社会事業協会さくらが丘訪問看護ステーション

〒206-0021　東京都多摩市連光寺 1-1-1　042-375-6355

・杏順会越川病院訪問看護ステーション

〒167-8507　東京都杉並区西荻北 2-3-1-3F　03-3394-1010

・多摩丘陵病院わかば訪問看護ステーション

〒194-0202　東京都町田市下小山田町 1414　042-797-7844

・社会福祉法人正吉福祉会やのくち正吉苑

〒206-0812　東京都稲城市矢野口 1804-3　042-370-2202

・(株）エルハート訪問看護ステーションエルハートナースケア

〒182-0024　　東京都調布市布田 1-26-6-1A　042-443-8707

・訪問看護ステーションファインケア　多摩ｾﾝﾀｰ・調布

〒336-0025　　東京都多摩市乞田 895　ストーンクリーク 302

〒336-0025　　東京都調布市下石原 1-2-4 ヤシマビル 1 階

・訪問看護ステーションさくらんぼ

〒185-0003　　東京都国分寺市戸倉 1-12-49　042-359-7388

・つつじが丘訪問看護ステーション

〒196-0012　　東京都昭島市つつじが丘 3-5-6-113　042-500-5441

・川崎市立井田病院　　〒211-0035　川崎市中原区井田 2-27-11　044-766-2188

＜多摩地域包括支援センター＞

・西部地域包括支援センター　多摩市和田 1532　（担当地区：和田・桜ヶ丘・東寺方 3 丁目）

・東部地域包括支援センター　多摩市連光寺 1-1-1

（担当地区：連光寺・聖ヶ丘・馬引沢・諏訪）

・多摩センター地域包括支援センター　　多摩市山王下 1-18-2

（担当地区：落合・鶴牧・唐木田・中沢・山王下）

・北部地域包括支援センター　多摩市一ノ宮 4-40-3　1 階

(担当地区：一ノ宮・百草・落川・関戸・３丁目を除く東寺方)

・南部地域包括支援センター　多摩市南野 3-15-1(担当地区：貝取 1 ～5 丁目、豊ヶ丘、南野)

３．実習時期

１）訪問看護ステーション

①クール：平成 30 年 11 月 5 日～11 月 9 日　　16 名

②クール：平成 30 年 11 月 26 日～11 月 30 日　　20 名

③クール：平成 31 年 1 月 21 日～1 月 25 日　　10 名

④クール：平成 31 年 2 月 12 日~2 月 15 日　　24 名

⑤クール：平成 31 年 5 月 13 日 5 月 17 日　　10 名

２）多摩地域包括支援センター

1 クール：平成 30 年 7 月 23 日～7 月 27 日　　20 名
2 クール：平成 30 年 10 月 29 日～11 月 2 日　　10 名
3 クール：平成 31 年 1 月 15 日～1 月 18 日　　10 名
4 クール：平成 31 年 2 月 4 日~2 月 8 日　　20 名
5 クール：平成 31 年 5 月 7 日 5 月 10 日　　20 名

４．担当教員（○は科目責任者）

○准教授　久保川真由美(在宅看護学)　　講師　鈴木久子(在宅看護学)
講師　　関川久美子(在宅看護学)　　助教　窪島領子（在宅看護学）

５．学生配置：【在宅看護学実習】施設別学生・教員配置表（p. 64）参照

Ⅳ．実習方法

１）持参物品：①名札　②アネロイド体温計　③体温計　④アルコール綿　⑤手指消毒
⑦石鹸　⑧ハンドタオル　⑨エプロン　⑩レインコート　⑪筆記用具
⑫白衣のズボン　（②～④は学校より借用し、実習最終日に返却する）

２）学生は、指定された訪問看護ステーション、または地域包括支援センターに訪問し、看護職員から指導を受ける。（担当教員は巡回指導のため、訪問は本学教員の同行のない場合がある）

３）訪問看護ステーション、地域包括支援センターでは、以下の内容のオリエンテーションを受ける。
組織、管理運営、療養者の状況、1 日及び週間予定など

４）「在宅看護学実習　出欠席表」（p.93）（地域包括支援センターと訪問看護ステーションで各学生 1 枚使用）を持参し、担当者に確認サインをもらう。

５）家庭訪問は、原則同一利用者 1 回限りとなることを理解し、訪問前に、看護記録や看護者から情報を得て、訪問目的を理解した上で、訪問看護の実習を行う。

６）訪問看護師に同行し、訪問看護の実際を見学する。可能な範囲で指示のもとに看護に参加する。ただし、事前に指導者に申し出て、指導・助言を受け、準備などは家族の意向を尊重し、確認しながら行う。

７）地域包括支援センターでは、指導者の指示のもと、来所者の面接及び電話相談に同席し、または家庭訪問に同行し、要援助者のニーズの把握、支援方法の実際を学ぶ。

８）地域包括支援センターでの行事などには積極的に参加し、体験の中から企画の目的なども考える機会とする。

９）実習終了時に担当看護師とカンファレンスを実施し、質問を行い学びを深める。

10）実習開始時、終了時挨拶はきちんと行う。不明なことや迷ったことがあれば、実習担当者に相談し、独断で行動しない。

11）記録用紙は「在宅看護学(訪問)実習記録」（p.89）、「訪問看護ステーション実習記録」（p.90）、「訪問看護記録」（p.91）」、「在宅看護学(地域包括支援センター)実習記録」（p.92）の 4 種類を使用する。

Ⅴ．在宅看護学実習にあたっての注意事項

１．公共交通機関の利用を原則とする。実習施設が学校より近く、自転車で行く場合は、担当教員と相談する。また、その旨を実習施設の担当者に報告し、駐輪場所は必ず指示の場所に止めること。学校の自転車を利用した場合は、サドルの高さや空気の状態は復元して、返却する。自転車に乗れない場合は、事前に科目責任者に申し出ること。交通事故には十分に注意する。

２．事業への参加費や移動に伴う交通費は原則として実習生個人の負担となる。

３．服装・身だしなみ・持ち物について

・名札を必ずつける。
・服装は華美なもの、肌の露出の多いものは避け、清潔な衣服を着用する。靴下(シンプルな無地)は必ず着用し、雨の日には必ず履き替え用を持参する。
・履物は活動しやすいもの、音がするもの、ヒールの高いものは避け、清潔なものとする。
・実習上で必要な場合は、白衣のズボン(紺)、ポロシャツ、エプロンを着用する。
・爪は短く切り、頭髪はきちんと整え、髪の色は良識の範囲とする。
・アクセサリー、香水、マニュキュアはつけない。化粧品は身だしなみ程度にする。
・男子学生は髭を剃り、対象者に不快な思いをさせないように心配りをする。

４．家庭訪問の注意事項

・玄関先では靴をそろえ、挨拶をする。
・自分の荷物はソファーの上などには置かない。
・対象者（家族に対しても）のコミュニケーションの能力に合わせて会話を心がける。
・家の中をキョロキョロと見ない。
・テキパキと行動する。
・訪問で知りえた個人情報に関しては秘密を厳守し、実習時間外の言動にも注意する。
・訪問先で出されたお茶や菓子等の対応については、指導者の指示に従う。

Ⅵ．評価

・評価は以下の 4 点にて行う。

①「訪問看護記録(在宅看護学実習記録用紙 3)」（p.91）を最終日に担当教員に提出。
②課題レポート「訪問看護における看護師の役割」　A4 版 2 枚(表紙を除く)
③課題レポート「地域包括支援センターの役割と看護」A4 版 2 枚(表紙を除く)
＊レポートの提出方法は基礎看護学実習 I レポートの提出方法に準ずる。
＊レポート提出期限：在宅看護学実習終了後、翌週金曜日に所定の場所に提出。
但し、地域と訪問看護の実習期間が離れている場合は、各実習の翌週金曜日に提出とする。
④出席状況「在宅看護学実習　出欠席表」（p.93）

12.≪統合実習Ⅰ≫

Ⅰ．科目概要

３年間学んだ、実習を中心とした既習の知識や技術を統合させて、学びの総括から、自己の課題を見出すことを主眼とした１週間の実習である。

Ⅱ．実習目的・実習目標・学習目標

１．実習目的

チーム医療および他職種との調整の実際を学ぶ。

２．実習目標

１）患者の回復に向けた医療チームのかかわりの実際を学ぶ。

２）対象者の看護問題を見出し、必要な看護が考えられ、実践できる。

３．学習目標

１）看護チームの実際を知る。

２）受け持ち患者の個別性に合わせた看護問題と介入方法が考えられる。

３）様々な医療チームの役割と、病院におけるチーム医療の意義を説明できる。

４）横断的に活躍する認定看護師の活動の実際を知り、その意義を説明できる。

Ⅲ．実習単位、実習施設、実習時期、担当教員、学生配置

１．実習単位：1 単位（1 週間、45 時間）

２．実習施設（9 施設）

・日本医科大学多摩永山病院　〒206-8512　東京都多摩市永山 1-7-1

・国家公務員共済組合連合会立川病院　〒190-8531　東京都立川市錦町 4-2-22

・独立行政法人国立病院機構村山医療センター

〒208-0011　東京都武蔵村山市学園 2-37-1

・独立行政法人国立病院機構箱根病院　〒250-0032　神奈川県小田原市風祭 412

・横浜市立大学附属市民総合医療センター　〒232-0024　神奈川県横浜市南区浦舟町 4-57

・国家公務員共済組合連合会虎の門病院　〒105-8470　東京都港区虎ノ門 2-2-2

・国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院　〒104-0045　東京都中央区築地 5-1-1

・国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院

〒187-8551　東京都小平市小川東町 4-1-1

・埼玉県総合リハビリテーションセンター　〒362-8567　埼玉県上尾市西貝塚 148-1

３．実習時期

平成 31 年 9 月 9 日～9 月 13 日　　80 名

4．担当教員（○は科目責任者）

教授	川守田千秋(基礎看護学)	教授	三輪のり子(基礎看護学)
教授	石川みち子（老年看護学)	教授	佐藤和子（成人看護学)
准教授	分島るり子(基礎看護学)	准教授	中込由美（老年看護学)
准教授	久保川真由美(在宅看護学)	准教授	今村嘉子（老年看護学)
講師	関川久美子（在宅看護学)	講師	小林美智子（成人看護学)
講師	鈴木久子（在宅看護学)	講師	廣瀬京子（小児看護学)
講師	荻原康子(小児看護学)	講師	穴田博美（基礎看護学)
○講師	和賀徳子（統合看護学)	助教	厚澤博美（成人看護学)
助教	窪島領子(在宅看護学)		

5．学生配置：【統合実習Ⅰ・Ⅱ】施設別学生・教員配置表（p. 65）参照

Ⅳ．実習方法

1）　入院患者または、多職種の医療従事者とのかかわりのある患者 1 例を受け持つ。

2）　毎日の行動計画を立て、実習の始まりに実習指導者に報告し指導・助言を受ける。

3）　受け持ち患者記録に実習期間中の計画を立案し、実施したことを SOAP で記載する。

4）　緩和ケアチーム、呼吸器ケアサポート(RST) チーム、栄養サポートチーム（NST)、褥瘡対策チーム、理学療法士の活動、口腔ケアサポートチーム、ソーシャルワーカー、臨床工学技士などの活動の場面を見学し、その実際を学ぶ。

5）　認定看護師(がん放射線療法、フットケア、リンパマッサージ)が活動する場面を見学する機会があれば、積極的に見学を申し出て、活動の実際とその意義を学ぶ。

6）　15 時から実習指導者参加のもとにミニカンファレンスを開催し、学びを深める。

7）　最終日にカンファレンスを行い、チーム医療についての討議を行う。

Ⅴ．評価

評価は以下の 3 点にて総合的に評価する。

①「受け持ち患者記録」

② 最終日カンファレンスへの参加態度

③ 実習後レポート「医療チームと看護」提出。A４版２枚以上(表紙除く、要参考文献)。

13.≪統合実習Ⅱ≫

Ⅰ．科目概要

今までの実習での学びを統合し、看護・医療チームの一員として、援助の優先順位や時間管理を考慮した看護実践について学び、看護専門職としての自己の将来像をイメージしながら看護活動を統合することを目指した実習である。

Ⅱ．実習目的・実習目標・学習目標

1．実習目的

看護師としてメンバーシップ、リーダーシップを学ぶ。

複数の受け持ち患者をもち、優先順位を考え計画的に患者のケアが実践できる。

2．実習目標

1）複数の患者の看護問題を把握し、必要な看護ケアの優先順位が考えられる。

2）実施した看護を患者の反応から評価し、看護計画の修正ができる。

3）医療チームの中での看護師の役割がわかる。

3．学習目標

1）複数の患者を受け持ちの看護問題を見出し、看護目標を立てることができる。

2）複数の患者への看護を優先順位を考えて出来るよう、実習における行動計画が立案できる。

3）立案した行動計画に沿って複数の患者の看護が指導者の指導・助言のもとに実施できる。

4）実施した看護の評価をもとに、翌日の行動計画が立案できる。

5）リーダー看護師のシャドー研修を行い、看護リーダーの役割を述べることができる。

6）チームメンバーの活動の実際を知り、看護活動におけるメンバーシップの意義を述べることができる。

7）看護師長のシャドー研修を体験し、看護マネージメントの実際を知り、看護マネージメントの意義を述べることができる。

8）医療安全・感染予防対策など、病院における取組を知る。

9）様々な医療チームの役割と、病院におけるチーム医療の意義を説明できる。

10）横断的に活躍する認定看護師の活動の実際を知り、その意義を説明できる。

11）地域連携室の役割を知る

12）自分の看護観を述べることができる。

Ⅲ．実習単位、実習施設、実習時期、担当教員、学生配置

1．実習単位：２単位（２週間、90 時間）

2．実習施設（9 施設）

・日本医科大学多摩永山病院　　〒206-8512　東京都多摩市永山 1-7-1

・国家公務員共済組合連合会立川病院　　〒190-8531　東京都立川市錦町 4-2-22
・独立行政法人国立病院機構村山医療センター　〒208-0011　東京都武蔵村山市学園 2-37-1
・独立行政法人国立病院機構箱根病院　　〒250-0032　神奈川県小田原市風祭 412
・横浜市立大学附属市民総合医療センター　〒232-0024　神奈川県横浜市南区浦舟町 4-57
・国家公務員共済組合連合会虎の門病院　〒105-8470　東京都港区虎ノ門 2-2-2
・国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院　〒104-0045　東京都中央区築地 5-1-1
・国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院
〒187-8551　東京都小平市小川東町 4-1-1
・公立大学法人横浜市立大学附属病院　〒236-0004　神奈川県横浜市金沢区福浦 3-9

3．実習時期

平成 31 年 12 月 9 日～12 月 20 日　　80 名

4．担当教員（○は科目責任者）

教授	川守田千秋(基礎看護学)	教授	三輪のり子(基礎看護学)
教授	関根正(精神看護学)	教授	石川みち子（老年看護学)
教授	佐藤和子（成人看護学)	准教授	中込由美（老年看護学)
准教授	今村嘉子（老年看護学)	准教授	分島るり子(基礎看護学)
講師	関川久美子（在宅看護学)	講師	小林美智子（成人看護学)
講師	井上聡子（精神看護学)	講師	寺岡歩（母性看護学)
講師	鈴木久子(在宅看護学)	講師	穴田博美（基礎看護学)
○講師	和賀徳子(統合看護学)	助教	厚澤博美（成人看護学)
助教	窪島領子(在宅看護学)		

5．学生配置：【統合実習Ⅰ・Ⅱ】施設別学生・教員配置表（p.65）参照

Ⅳ．実習方法

1）　多床部屋（2～4 人部屋）の複数患者を受け持つ。
2）　受け持ち患者の基礎情報を収集し、実習期間における看護目標と看護計画を立案する。
3）　受け持ち患者の看護ケアの優先順位を考えた行動計画を立案し、指導者の指導・助言のもと、看護ケアを実践する。
4）　実施した看護を受け持ち患者記録に SOAP で記載する。
5）　看護師長とリーダー看護師のシャドー研修をそれぞれ 1 日体験する。
6）　15 時から実実習指導者参加のもとにミニカンファレンスを開催し、学びを深める。
7）　最終日に、2 週間の学びについて各グループでテーマを選定したカンファレンスを行い、学びを深める。

Ⅴ．評価

評価は以下の 3 点にて総合的に評価する。

①「受け持ち患者記録」　　② 最終日カンファレンスへの参加態度

③ 実習後レポート「私の看護観」提出。A４版２枚以上(表紙除く、要参考文献)。

14. ≪助産学実習≫

＊助産学選抜の学生のみ実施

Ⅰ．科目概要

助産の対象となる人々に対して、科学的根拠に基づく助産診断・技術を統合した助産活動を実践することを通して、助産における看護実践能力を高めることを目的にしている。実習を通して助産実践に関わるアセスメント能力、助産技術を習得する。また、助産診断に基づき、正常分娩に関する助産技術を習得する。母子及び家族に関しては、助産学の視点から母子や家族の健康を増進し、地域への継続した支援に繋がる援助ができることを目指している。

Ⅱ．実習目的・実習目標・学習目標

１．実習目的

助産活動に必要な診断技術を、妊婦および褥婦に実践し、技術を習得する。

２．実習目標

１）妊娠経過のアセスメント・診断を行い、安全な妊娠の継続・出産・育児に向けた助産・看護援助を実施する。

２）正常な分娩経過に対するアセスメント・診断を行い、安全な出産に向けた助産・看護援助を実施する。

３）出生直後の新生児に対するアセスメントと診断を適切に行い、体外生活への移行と一般状態の安定・母児の早期接触に向けた助産・看護援助を実施する。

４）妊婦とその家族に対する集団指導の意義を理解し、対象の特徴・ニーズに則した集団指導が実施できる。

５）産後の母子の健康状態を生理的・心理的側面からアセスメント・診断し、健全な育児環境の確立に向けた、保健指導が実施できる。

６）継続事例を通して助産師としての役割を学ぶ。

７）出産を取り巻く医療サービスを理解し、対象に合わせたサービスの必要性を考えることができる。

３．学習目標

１）妊婦に対する助産が実施できる。

(1) 妊娠経過と胎児の発育・健康状態を、適切な技術を用いて診断できる。

(2) 診断結果と妊娠時期の応じた助産計画が立案できる。

(3) 妊娠検診の診断技法を正確に実施、医師に診断結果と統合して妊娠経過を診断できる。

(4) 妊婦のセルフケア能力を評価し、安全な妊娠の継続・出産に向けた指導が実施できる。

(5) 母親学級（両親学級）の中で、妊婦とそのパートナーのニーズに則した指導ができる。

(6) 母子手帳の意義を理解し、妊婦指導に活用できる。

(7) 妊婦健診とケアの結果を評価し、今後の経過の予測と助産のケアの方針を明示できる。

2）産婦・褥婦・新生児に対する助産が実施できる。

(1) 妊娠経過および心理・社会的側面を総合的に判断し、産婦・胎児の健康状態、胎児付属物の状態を診断できる。

(2) 妊娠経過および心理･社会的側面を総合的に判断し､分娩開始の有無や分娩進行状態を診断し、予測できる。

(3) 診断結果と分娩開始、分娩進行状態に応じた助産目標が設定でき、助産計画が立案できる。

(4) 分娩第Ⅰ期の経過、産婦・胎児の健康、分娩進行状態を診断し、適宜計画を修正しながら、正常な分娩進行を促進するためのケアが実践できる。

(5) 分娩第Ⅱ期の産婦・胎児の健康、分娩進行状態を診断し、児の娩出を安全に介助できる。

(6) 出生直後の児の状態を適切に評価し、蘇生の必要を判断できる。

(7) 安全に胎盤を娩出し、分娩の終了を正しく判断できる。

(8) 分娩経過を総合的に評価し、分娩第Ⅳ期のケア計画が立案できる。

(9) 分娩第Ⅳ期の母児の健康状態を診断し、安全にケアを実施できる。

(10) 分娩各期の異常の早期発見のための観察ができ、異常発生時には、指導者の指導のもとに対処行動がとれる。

(11) 介助した児の健康状態をアセスメントし、早期新生児期のケア方針について検討できる。

(12) 感染管理の基本に従い、分娩の介助行動がとれる。

(13) 出生直後の新生児を総合的にアセスメントし、安全に母児接触を開始することができる。

(14) 必要な助産記録を指導者の指導のもと、記載することができる。

(15) 退院までの褥婦の健康状態を診断し、必要な援助が実施できる。

(16) 退院までの新生児の健康状態を診断し、必要な援助が実施できる。

3）継続事例に対して助産を実施できる。

(1) 妊娠・分娩経過から、母児の健康状態が診断できる。

(2) 産後の心理的な変化や家族の役割調整、児の愛着形成などの健康生活状態が診断できる。

(3) 診断結果に基づき、助産計画が立案できる。

(4) 母児の経過や生活背景を捉えたうえで、必要な退院指導計画が立案できる。

(5) 立案した看護計画に基づき、退院指導が実施できる。

Ⅲ．実習単位、実習施設、実習時期、担当教員、学生配置

1．実習単位：11 単位

2．実習施設（3 施設）

・日本医科大学多摩永山病院　　〒206-8512　東京都多摩市永山 1-7-1

・日本医科大学武蔵小杉病院　　〒211-8533　　神奈川県川崎市中原区小杉町 1-396

・国家公務員共済組合連合会虎の門病院　〒105-8470　東京都港区虎ノ門 2-2-2

3．実習時期

前半（6 週間）：平成 31 年 6 月 17 日～7 月 26 日

後半（11 週間）：平成 31 年 9 月 17 日～11 月 29 日

4．担当教員（○は科目責任者）

○　教授　渡邊淳子(助産学)　　講師　寺岡歩（母性看護学）

助教　渡邉幸恵（助産学）

1 名　専任補充予定

5．学生配置：【助産学実習】施設別学生・教員配置表（p. 66）参照

Ⅳ．実習方法

1）実習時間：9:00 から 17:00 まで（15:00 からはまとめおよび記録時間とする）

但し、16:30 の時点で分娩第 4 期終了予測時間が 19:00 頃の場合は延長して実習を行う。その場合の実習の終了時間は、20:00 を目処とする。実習時間の延長の判断は、教員が行う。

2）前期・後期の実習期間(計 17 週)で、正常分娩の介助を 10 例とる。

3）目標達成の基準として＜助産学実習経験録＞（p94）を用いて経験を積み重ねる。

4）外来実習・母親学級・両親学級では、学生としての自己紹介、身だしなみに注意し、プライバシーを尊重した態度で実習に臨む。

5）妊娠中期および末期の妊婦を 4 例程度受け持ち、助産計画を立案する。助産計画の提出は、担当教員と相談して行う。

6）受け持ちに際しては、説明後書面にて同意を得る。

7）妊婦の検診は担当教員の指導のもとに実施する。

8）妊婦、新生児の安全を最優先し、担当教員または実習指導者に報告・連絡・相談を心がけ、指導・指示のもとに実習を行う。

9）分娩介助のために実習時間を延長する場合は、通学に際しては安全を考えて行動をすること。

Ⅴ．評価

「助産学実習　評価表」を用いて実習指導者の意見を参考に実習担当教員が評価。

D　実習別学生・教員配置表

【基礎看護学実習Ⅰ】施設別学生・教員配置表

時期	平成28年5／9～			5／16～		
実習施設名	学生番号	学生数	担当教員	学生番号	学生数	担当教員
日本医科大学多摩永山病院	1 2 3 4 5 6 7 8	8名	分島るり子 内田裕子	9 10 11 12 13 14 15 16	8名	分島るり子 内田裕子
国家公務員共済組合連合会 立川病院	17 18 19 20 21 22 23 24	8名	佐藤和子 渡邉幸恵	25 26 27 28 29 30 31 32	8名	佐藤和子 渡邉幸恵
国立病院機構 村山医療センター	33 34 35 36 37 38 39 40	8名	廣瀬京子 荻原康子			
国立病院機構 箱根病院				41 42 43 44 45 46 47 48	8名	渡邊淳子 櫻井美代子
国立病院機構 相模原病院	49 50 51 52 53 54 55 56	8名	関川久美子 窪島領子	57 58 59 60 61 62 63 64	8名	関川久美子 窪島領子
国立精神・神経医療 研究センター病院	65 66 67 68 69 70 71 72	8名	三輪のり子 井上聡子			
横浜市立大学附属市民 総合医療センター	73 74 75 76	4名	川守田千秋	77 78 79 80	4名	川守田千秋

【基礎看護学実習Ⅱ】施設別学生・教員配置表

時期	前半グループ			後半グループ		
	平成28年6／20・21			6／22・23		
実習施設名	学生番号	学生数	担当教員	学生番号	学生数	担当教員
日本医科大学多摩永山病院	1 2 3 4 5 6 7 8	8名	分島るり子 内田裕子	9 10 11 12 13 14 15 16	8名	分島るり子 内田裕子
日本医科大学武蔵小杉病院	17 18 19 20 21 22 23 24	8名	川守田千秋 荻原康子	25 26 27 28 29 30 31 32	8名	川守田千秋 荻原康子
国家公務員共済組合連合会 立川病院	33 34 35 36 37 38 39 40	8名	佐藤和子 渡邉幸恵	41 42 43 44 45 46 47 48	8名	佐藤和子 渡邉幸恵
国立病院機構箱根病院	49 50 51 52 53 54 55 56	8名	渡邊淳子 櫻井美代子			
国立病院機構 相模原病院	57 58 59 60 61 62 63 64	8名	関川久美子 窪島領子			
埼玉県総合 リハビリテーションセンター	65 66 67 68 69 70 71 72	8名	三輪のり子 井上聡子	73 74 75 76 77 78 79 80	8名	三輪のり子 廣瀬京子

＊学内担当：和賀徳子

【基礎看護学実習Ⅲ】施設別学生・教員配置表

実習時期:　　平成30年2月26日～3月9日

実習施設名	学生番号	学生数	担当教員	実習施設名	学生番号	学生数	担当教員
日本医科大学多摩永山病院	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	10名	分島るり子 内田裕子	国立病院機構箱根病院	41 42 43 44 45 46 47 48 49 50	10名	中込由美 関川久美子
日本医科大学武蔵小杉病院	11 12 13 14 15 16 17 18 19 20	10名	川守田千秋 小林美智子	埼玉県総合リハビリテーションセンター	51 52 53 54 55 56 57 58 59 60	10名	廣瀬京子 穴田博美
国家公務員共済組合連合会立川病院	21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	10名	佐藤和子 渡邉幸恵	国立病院機構神奈川病院	61 62 63 64 65 66 67 68 69 70	10名	久保川真由美 厚澤博美
国立病院機構相模原病院	31 32 33 34 35 36 37 38 39 40	10名	今村嘉子 窪島領子	国立精神・神経医療研究センター病院	71 72 73 74 75 76 77 78 79 80	10名	三輪のり子 鈴木久子

【成人看護学実習Ⅰ】 施設別学生･教員配置表

	①②クール	③クール	④クール	⑤クール	⑥クール	⑦クール	⑧クール
	平成30年7/2～7/20	9/25～10/12	10/22～11/19	平成31年1/15～2/1	2/4～2/22	5/13～5/31	6/3～6/21
国家公務員共済立川病院	21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 厚澤博美 助手②	41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 佐藤和子 厚澤博美					
国立がん研究センター中央病院	31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 小林美智子 助手①						
国立病院機構箱根病院			51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 厚澤博美 助手①	61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 佐藤和子 助手①	71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 厚澤博美 助手①		
国立国際医療研究ｾﾝﾀｰ国府台病院						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 佐藤和子 助手①	
埼玉県立総合リﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ							11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 厚澤博美 助手①

【成人看護学実習Ⅱ】 施設別学生･教員配置表

	①クール	②クール	③④クール	⑤クール	⑥クール	⑦クール	⑧クール
	9/25～10/12	10/22～11/19	11/12～11/30	平成31年1/15～2/1	2/4～2/22	5/13～5/31	6/3～6/21
日本医科大学多摩永山病院	51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 小林美智子 助手②		21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 小林美智子 助手①				
社団医療法人財団石心会川崎幸病院		41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 小林美智子 助手②		77 78 79 80 厚澤博美			
日本医科大学武蔵小杉病院			31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 厚澤博美 助手②		61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 小林美智子 助手②		
国立がん研究センター中央病院				71 72 73 74 75 76 小林美智子		17 18 19 20 小林美智子	
国家公務員共済虎の門病院						11 12 13 14 15 16 厚澤博美	
国立病院機構村山医療センター							1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 小林美智子 助手②

【老年看護学実習Ⅰ】施設別学生･教員配置表

	①ｸｰﾙ	②クール	③クール	④クール	⑤クール	⑥クール	⑦⑧クール
	平成30年 7/2～7/13	9/25～ 10/5	10/29～ 11/9	11/19～11/30	平成31年1/15 ～1/25	1/28～2/8	5/13～ 5/24
国立病院機構 相模原病院	51 52 53 54 55 56 石川みち子		1 2 3 4 5 石川みち子				31 32 33 34 35 石川みち子
医療法人愛友会 上尾甦生病院	57 58 59 60 中込由美						36 37 38 39 40 今村嘉子
社会福祉法人東京有隣 会有隣病院		71 72 73 74 75 76 石川みち子					
社会医療法人財団 大和会武蔵村山病院		77 78 79 80 中込由美					47 48 49 50 中込由美
国立病院機構 箱根病院			6 7 8 9 10 中込由美				41 42 43 44 45 46 大山裕子
医療法人明理会 鶴川サナトリウム病院				61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 石川みち子 中込由美	11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 石川みち子 中込由美	21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 石川みち子 中込由美	

【老年看護学実習Ⅱ】 施設別学生・教員配置計画

	①クール		②③クール		④クール		⑤クール		⑥クール		⑦クール		⑧クール	
	平成30年 7/17～7/27		10/9～ 10/19		11/12～ 11/22		平成31年 1/15～1/25		1/28～2/8		5/27～6/7		5/27～6/7	
埼玉石心会病院	61 62 63 64	今村嘉子	11 12 13 14	今村嘉子	71 72 73 74	今村嘉子							57 58 59 60	今村嘉子
東京都保健医療公社 多摩南部地区病院	65 66 67 68 69 70	大山裕子	15 16 17 18 19 20	鈴木久子	75 76 77 78 79 80	大山裕子							51 52 53 54 55 56	大山裕子
王子生協病院			1 2 3	中込由美					31 32 33	櫻井美代子				
宗教法人救世軍救世軍 ブース記念病院			4 5 6	石川みち子					37 38 39 40	大山裕子	48 49 50	石川みち子		
医療法人社団崎陽会 日の出ヶ丘病院			7 8 9 10	櫻井美代子			27 28 29 30	鈴木久子			44 45 46 47	鈴木久子		
医療社団法人珠光会聖ヶ 丘病院							21 22 23	今村嘉子	34 35 36	今村嘉子				
アドベンチスト会 東京衛生病院							24 25 26	大山裕子						
社会福祉法人賛育会 賛育会病院											41 42 43	中込由美		

【小児看護学実習】施設別学生・教員配置表

	①クール	②クール	③クール	④クール	⑤クール	⑥クール	クール	⑧クール
	平成30年7/2～7/13	9/25～10/5	10/15～10/26	11/19～11/30	平成31年1/15～1/25	2/4～2/15	5/13～5/24	5/27～6/7
独立行政法人国立病院機構神奈川病院	1 2 3 4 5 6 廣瀬京子 荻原康子		31 32 33 34 35 36 37 38 廣瀬京子 荻原康子	11 12 13 14 15 16 17 18 廣瀬京子 荻原康子				71 72 73 74 75 76 77 廣瀬京子 荻原康子
東京都都立北療育センター	7 8 9 10 加藤和子		39 40 加藤	19 20 加藤				
社会医療法人財団大和武蔵村山病院		21 22 23 24 25 廣瀬京子				51 52 53 54 55 荻原康子	61 62 63 64 65 荻原康子	
埼玉県立小児医療センター		26 27 28 29 30 加藤和子			41 42 43 44 45 荻原康子		66 67 68 69 70 加藤和子	
社会医療法人財団石心会埼玉石心会病院					46 47 48 49 50 廣瀬京子			
日本医科大学多摩永山病院						56 57 58 59 60 廣瀬京子		78 79 80 加藤和子

【母性看護学実習】 施設別学生･教員配置表

	①クール	②クール	③クール	④クール	⑤クール	⑥クール	⑦クール	⑧クール
	平成30年7/30～8/10	9/25～10/5	10/22～11/2	11/12～11/22	平成31年1/7～1/18	2/4～2/15	5/7～5/17	5/27～6/7
町田市民病院	71 寺岡歩 72 寺岡歩 73 寺岡歩 74 寺岡歩 75 寺岡歩 76 寺岡歩 77 内田裕子 78 内田裕子 79 内田裕子 80 内田裕子							
日本医科大学多摩永山病院		11 寺岡歩 12 寺岡歩 13 寺岡歩 14 寺岡歩	21 寺岡歩 22 寺岡歩 23 寺岡歩 24 寺岡歩	1 寺岡歩 2 寺岡歩 3 寺岡歩 4 寺岡歩		41 寺岡歩 42 寺岡歩 43 寺岡歩 44 寺岡歩		
日本医科大学武蔵小杉病院		15 内田裕子 16 内田裕子 17 内田裕子	25 内田裕子 26 内田裕子 27 内田裕子	5 内田裕子 6 内田裕子 7 内田裕子				67 寺岡歩 68 寺岡歩 69 寺岡歩 70 専任補充予定
稲城市立病院		18 甲斐寿美子 19 甲斐寿美子 20 甲斐寿美子	28 甲斐寿美子 29 甲斐寿美子 30 甲斐寿美子	8 甲斐寿美子 9 甲斐寿美子 10 甲斐寿美子		45 甲斐寿美子 46 甲斐寿美子 47 甲斐寿美子 48 甲斐寿美子 49 甲斐寿美子 50 甲斐寿美子		
東海大学医学部付属八王子病院					31 内田裕子 32 内田裕子 33 内田裕子 34 内田裕子		51 内田裕子 52 内田裕子 53 甲斐寿美子 54 甲斐寿美子	
信愛会東府中病院					35 甲斐寿美子 36 甲斐寿美子 37 甲斐寿美子 38 甲斐寿美子 39 甲斐寿美子 40 甲斐寿美子			61 内田裕子 62 内田裕子 63 甲斐寿美子 64 甲斐寿美子 65 甲斐寿美子 66 甲斐寿美子
三成会新百合ヶ丘病院							55 寺岡歩 56 寺岡歩 57 寺岡歩 58 寺岡歩 59 専任補充予定 60 専任補充予定	

【精神看護学実習】 担当教員配置計画

	①クール	②クール	③クール	④クール	⑤クール	⑥クール	⑦クール	⑧クール
	平成30年 7/2～7/13	8/20～ 8/31	9/3～9/14	9/25～ 10/5	10/29～ 11/2	11/19～ 11/30	平成31年 1/15～ 1/25	5/13～ 5/24
医療法人社団天紀会 こころのホスピタル 町田	41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 関根正 井上聡子				71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 関根正 井上聡子	51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 関根正 井上聡子		21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 関根正 井上聡子
国立国際医療研究 ｾﾝﾀｰ国府台病院		11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 関根正 井上聡子	31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 関根正 井上聡子					
国立精神・神経医療 研究ｾﾝﾀｰ病院				61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 関根正 井上聡子			1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 関根正 井上聡子	

【在宅看護学実習】施設別学生・教員配置表

＜訪問看護ステーション＞

実習施設名		3年次								4年次
			平成30年			平成31年				
			11/5～	11/26～		1/21～		2/12～		5/13～
川崎市立井田病院	学生							17・18		
	教員							鈴木		
医療法人財団天翁会あい訪問看護ステーション2ヶ所	学生		11・12	1・2				19・20		
	教員		鈴木	関川				窪島		
	学生		13・14	3・4				21・22		
	教員		鈴木	関川				鈴木		
医療法人社団桐光会調布訪問看護ステーション	学生		15・16	5・6				23・24		71・72
	教員		久保川	鈴木				関川		鈴木
桜ヶ丘社会事業協会さくらが丘訪問看護ステーション	学生		61・62	7・8				25・26		73・74
	教員		鈴木	窪島				窪島		鈴木
杏順会越川病院訪問看護ステーション	学生					51・52				
	教員					関川				
多摩丘陵病院わかば訪問看護ステーション	学生		63・64	9・10		53・54		27・28		75・76
	教員		鈴木	窪島		関川		鈴木		鈴木
社会福祉法人正吉福祉会やのくち正吉苑	学生					55・56		29・30		
	教員					窪島		鈴木		
(株)エルハート訪問看護ステーションエルハートナースケア	学生			41・42				31・32		
	教員			鈴木				関川		
訪問看護ステーションファインケア　多摩センター	学生		65・66	43・44		57・58		33・34		77・78
	教員		久保川	久保川		関川		久保川		久保川
訪問看護ステーションファインケア　調布	学生		67・68	45・46				35・36		
	教員		久保川	久保川				久保川		
訪問看護ステーションさくらんぼ	学生		69・70	47・48		59・60		37・38		79・80
	教員		久保川	久保川		窪島		久保川		久保川
つつじが丘訪問看護ステーション	学生			49・50				39・40		
	教員			鈴木				関川		
（学生数）			16名	20名		10名		24名		10名

＜多摩地域包括支援センター＞

施設名		3年次								4年次
	日程	7/23～	10/29～			1/15～		2/4～		5/7～	
東部地域	学生	21・22・23・24	61・62・63					1・2・3・4		31・32・33・34	
	教員	久保川	久保川					久保川		久保川	
多摩地域	学生	25・26・27・28	64・65・66・67			51・52・53		5・6・7・8		35・36・37・38	
	教員	関川	鈴木			関川		鈴木		鈴木	
北部地域	学生	29・30・71・72				54・55・56・57		9・10・11・12		39・40・41・42	
	教員	窪島				窪島		窪島		窪島	
西部地域	学生	73・74・75・76	68・69・70					13・14・15・16		43・44・45・46	
	教員	久保川	久保川					鈴木		久保川	
南部地域	学生	77・78・79・80				58・59・60		17・18・19・20		47・48・49・50	
	教員	関川				関川		関川		鈴木	
（学生数）		20名	10名			10名		20名		20名	

【統合実習Ⅰ・Ⅱ】施設別学生・教員配置表

統合実習Ⅰ				統合実習Ⅱ			
平成31年9/9～13				平成31年12/9～20			
実習施設名	学生番号	学生数	担当教員	実習施設名	学生番号	学生数	担当教員
日本医科大学 多摩永山病院	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	**10名**	**石川みち子 関川久美子**	**日本医科大学 多摩永山病院**	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	**10名**	**石川みち子 関川久美子**
国家公務員共済組合連合会 立川病院	11 12 13 14 15 16 17 18 19 20	**10名**	**小林美智子 鈴木久子**	**国家公務員共済組合連合会 立川病院**	11 12 13 14 15 16 17 18 19 20	**10名**	**小林美智子 井上聡子**
国立病院機構 村山医療センター	21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	**10名**	**中込由美 厚澤博美**	**独立行政法人国立病院機構 村山医療センター**	21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	**10名**	**中込由美 穴田博美**
国立病院機構 箱根病院	31 32 33 34 35 36 37 38 39 40	**10名**	**分島るり子 窪島領子**	**独立行政法人国立病院機構 箱根病院**	31 32 33 34 35 36 37 38 39 40	**10名**	**分島るり子 窪島領子**
横浜市立大学附属 市民総合医療センター	41 42 43 44 45 46 47 48	8名	久保川真由美 三輪のり子	横浜市立大学附属 市民総合医療センター	41 42 43 44 45 46 47 48	8名	三輪のり子 寺岡歩
国家公務員共済組合連合会 虎ノ門病院	49 50 51 52 53 54 55 56	8名	川守田千秋 荻原康子	国家公務員共済組合連合会 虎ノ門病院	49 50 51 52 53 54 55 56	8名	川守田千秋 和賀徳子
国立がん研究センター 中央病院	57 58 59 60	4名	佐藤和子	国立がん研究センター 中央病院	57 58 59 60	4名	佐藤和子
独立行政法人国立精神・神 経医療研究センター病院	61 62 63 64 65 66 67 68 69 70	**10名**	**今村嘉子 和賀徳子**	**独立行政法人国立精神・神経 医療研究センター病院**	61 62 63 64 65 66 67 68 69 70	**10名**	**関根正 今村嘉子**
埼玉県総合 リハビリテーションセンター	71 72 73 74 75 76 77 78 79 80	**10名**	**廣瀬京子 穴田博美**	**公立大学横浜市立大学 附属病院**	71 72 73 74 75 76 77 78 79 80	**10名**	**鈴木久子 厚澤博美**

【助産学実習】 施設別学生･教員配置表

学生番号	実習病院名	平成31年6/17～7/26(6週間)	平成31年9/16～11/29(11週間)	学生数
1 2 3 4	日本医科大学多摩永山病院	(専任補充予定)	(助教)渡邉幸恵	4名
5 6 7	日本医科大学　武蔵小杉病院	(助教)渡邉幸恵	(専任補充予定)	3名
8 9 10	国家公務員共済虎の門病院	(講師)寺岡歩	(教授)渡邊淳子	3名

E　経験録

東京医療学院大学

看護技術の経験録 （母性・小児・助産学実習を除く）

卒業時の到達目標は以下のとおりである
Ⅰ：回数を繰り返し、卒業時には一人でできることを目指す。
Ⅱ：指導のもとに実施。
Ⅲ：知識としてわかる、見学のみ。

＜経験録の活用方法＞

＊ 実習で経験する項目、学習内容を列挙してあります（実施したものにレ点をつける）

＊ 看護技術では後始末までが一連の行為です。各施設の決まりを守り、後片付けを行い、定位置に戻すところまでを責任を持って行いましょう。

＊ 基礎看護実習Ⅲでは、受け持ち患者を通して学ぶ日常生活の援助技術について〇をつけています。実習での行動目標の目安にしましょう。また、対象が異なれば援助方法も変わります。各論実習での経験も記録に残すよう心がけましょう。

＊ Ⅰの項目についても、実習指導者、または担当教員の指示・助言のもとに行うことが原則です。個人の判断での実施はしないでください。

項目		学習目標	目安	基礎Ⅲ実習	実施	各論実習	各論実習	各論実習
ルールの順守	1	看護学生にふさわしい身だしなみ	Ⅰ	〇				
	2	健康管理	Ⅰ	〇				
	3	病院スタッフ、対象者への挨拶	Ⅰ	〇				
	4	看護や処置の前に説明を行い、同意を得る	Ⅰ	〇				
	5	患者間違い防止のための患者確認の実施	Ⅰ	〇				
	4	ごみの分別	Ⅰ	〇				
	5	守秘義務の厳守、プライバシーへの配慮	Ⅰ	〇				
	6	報告・連絡・相談	Ⅰ	〇				
	7	時間・提出物の厳守	Ⅰ	〇				
環境調整技術	1	療養環境の調整（臭気・採光など）	Ⅰ	〇				
	2	患者受け入れのためのベッドメーキング	Ⅰ	〇				
	3	安全を配慮したベッド周囲の整備	Ⅰ	〇				
	4	臥床患者のリネン交換	Ⅱ	〇				
	5	手術患者の帰室ベッド作成	Ⅱ					
食事の援助技術	1	安全・安楽な食事のセッティング	Ⅰ	〇				
	2	臥床患者の食事介助	Ⅱ	〇				
	3	嚥下障害のある患者の食事介助	Ⅱ					
	4	食事状態の観察の記録(実習記録)	Ⅰ	〇				
	5	経管栄養法の準備	Ⅱ					
	6	経過栄養法患者の観察・実施	Ⅱ					
	7	疾患、病状・状態に応じた食事内容の工夫	Ⅱ					
排泄の援助技術	1	排泄状態の観察の記録(実習記録)	Ⅰ	〇				
	2	尿器を用いた援助	Ⅰ	〇				
	3	便器を用いた援助	Ⅰ	〇				
	4	導尿、または留置カテーテルの準備	Ⅰ	〇				
	5	留置カテーテル留置中患者の観察	Ⅰ	〇				
	6	浣腸の必要物品の準備、体位の準備	Ⅰ	〇				
	7	摘便の必要性の判断	Ⅱ					
活動・休息への援助技術	1	転倒・転落のアセスメント	Ⅱ					
	2	転倒転落防止のための介入（ベッド柵）	Ⅰ	〇				
	3	歩行介助	Ⅰ	〇				
	4	車いすへの移乗の介助	Ⅱ	〇				
	5	車椅子での安全な移送	Ⅰ	〇				
	6	ストレッチャーへの移乗介助	Ⅱ	〇				
	7	ストレッチャーでの安全な移送	Ⅰ	〇				
	8	良肢位を保持するための援助	Ⅰ	〇				
	9	安楽な体位保持への援助	Ⅰ	〇				
	10	患者の状態に合わせた体位変換	Ⅱ	〇				

項目		学習目標	目安	基礎Ⅲ実習	実施	各論実習	各論実習	各論実習
活動・休息への援助技術	11	関節可動域訓練・廃用性症候群予防への援助	Ⅱ					
	12	体動、移動に注意が必要な患者への援助	Ⅱ	○				
	13	行った活動・休息の援助の記録(実習記録)	Ⅰ	○				
	14	弾性ストッキングの着用	Ⅱ					
	14	エアーマットの準備	Ⅲ					
清潔・衣生活援助技術	1	手浴の援助	Ⅰ	○				
	2	足浴の援助	Ⅰ	○				
	3	全身清拭	Ⅰ	○				
	4	床上での洗髪の援助	Ⅰ	○				
	5	口腔ケアの援助	Ⅰ	○				
	6	義歯の取り扱い	Ⅰ	○				
	7	陰部ケア	Ⅰ	○				
	8	入浴、またはシャワー浴の介助	Ⅱ	○				
	9	寝衣交換	Ⅰ	○				
	10	個別性に合わせたオムツ交換	Ⅰ	○				
	11	清潔ケア後の観察と記録(実習記録)	Ⅰ	○				
入院退院	1	入院患者のアナムネーゼ聴取	Ⅱ	○				
	2	退院指導	Ⅱ					
呼吸・循環を整える援助技術	1	体温測定と正常異常の判断	Ⅰ	○				
	2	パルスオキシメータによる測定	Ⅰ	○				
	3	体温調整のための援助(温罨法・冷罨法)	Ⅰ	○				
	4	酸素吸入の援助(中央配管)	Ⅰ	○				
	5	酸素吸入の援助(酸素ボンベ)	Ⅰ	○				
	6	医師の指示に基づく体位ドレナージ	Ⅱ					
	7	気管内吸引(閉鎖式除く)	Ⅱ					
	8	呼吸を整える援助後の記録(実習記録)	Ⅰ					
	9	医師の指示に基づくネブライザーの実施	Ⅱ					
	10	人工呼吸装着中患者の観察	Ⅲ					
創傷管理技術	1	ブレーデンスケールによる褥瘡の発生リスクの判断	Ⅱ					
	2	基本的な包帯法の実施	Ⅰ					
	3	手術後の創の観察	Ⅱ					
	4	創傷の観察と処置後の記録(実習記録)	Ⅰ					
	5	ドレーン類の管理と記録(実習記録)	Ⅱ					
	6	患者の褥瘡リスクに合わせた褥瘡予防援助	Ⅱ					
与薬の技術	1	薬の自己管理のアセスメント	Ⅱ					
	2	指示通りの経口与薬	Ⅱ					
	3	指示通りの外用薬(目薬・塗布など)の与薬	Ⅱ					
	4	直腸内与薬と反応の観察	Ⅲ					
	5	皮下注射の実施	Ⅲ					
	7	筋肉注射の実施	Ⅲ					
	8	持続点滴中の患者の観察	Ⅲ					
	9	輸液ポンプの管理	Ⅲ					
	10	副作用についての観察	Ⅲ					
	11	インシュリンの種類の理解と実施記録(実習記録)	Ⅲ					
	12	鎮痛剤使用患者の効果・副作用の観察	Ⅱ					
	13	向精神薬使用患者の効果・副作用の観察	Ⅱ					
	14	輸血中患者の前・中・後のマニュアルに沿った観察	Ⅱ					
	15	輸血の種類による保管方法の原則	Ⅲ					
症状・生体機能管理技術	1	血圧測定	Ⅰ					
	2	身長・体重・腹囲測定	Ⅱ					
	3	血糖測定	Ⅱ					
	4	検査の説明と同意	Ⅱ					
	5	心電図12誘導	Ⅲ					
感染予防	1	意識レベルの判断	Ⅱ					
	2	看取りの看護	Ⅱ					
	3	スタンダートプリコーションの実施	Ⅰ	○				
	4	必要な防御用具の装着(マスク・手袋・ゴーグル)	Ⅰ	○				

東京医療学院大学　助産学実習記録 2

＜助産学実習＞ 経験録

学籍番号　　名前

＊経験した項目にレチェックを記載

実習経験項目		／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
妊娠期	腹囲・子宮底長測定・浮腫											
	触診による胎位胎向の診断											
	児心音の聴取											
	NSTの実施と判断											
	保健指導											
	(実施/見学)											
産褥期	初回授乳											
	母児同室指導											
	分娩想起											
	褥瘡の観察・ケア											
	保健指導											
	(実施/見学)											
新生児期	母児同室が始まるまでのケア											
	沐浴											
	生後1日目以降、退院までのケア											
分娩期	分娩監視装置装着と判読											
	内診による分娩進行状況の判断											
	産痛緩和											
	導尿											
	外陰部消毒											
	清潔野の作成											
	分娩直接介助(児娩出)											
	児の吸引と気道確保											
	臍帯の処置											
	胎盤娩出											
	胎盤計測											
	分娩直後の観察											
	分娩1時間後の観察											
	分娩2時間後の観察											
	出生直後の新生児の観察(直接介助)											
	早期母児接触中の新生児の観察											
	帰室											
	初回歩行											
	関節介助											
	出生直後の新生児の観察(間接介助)											
	鉗子/吸引分娩の介助											
書類の記載	出生証明書											
	母子健康手帳											
	助産録											

Ｆ　各種記録用紙

基礎看護実習Ⅰ　記録用紙

氏名		学籍番号	
実習施設名			
病院の特徴			

	見学の視点	気づいたこと、学んだこと
病棟での学び		
外来での学び		
病院を知る		

基礎看護実習Ⅱ　記録用紙

氏名		学籍番号	
実習施設名(病棟名)			
病棟の特徴			

	見学の視点	気づいたこと、学んだこと
一日目		
二日目		

看護場面の再構築

実習病院:	学籍番号	氏名

場面の説明（対象者の状況、時間、など）		
・患者の年齢、性別、どのような場面を取り上げたのかが分かるように書く。		
対象者の状況・言動	**看護師の対応**	**思ったこと感じたこと**
・対象者の思いなどの観察する。 ・観察した対象者の言動などをの事実書く。	・看護師のコミュニケーションを具体的に記載。 ・言葉がけだけでなく、ノンバーバルな点についても観察する。	・看護師と患者とのコミュニケーション場面を観察し、その結果も観察する。 ・その結果をもたらしたことを、看護師のコミュニケーションの視点から考える。 ・

東京医療学院大学　保健医療学部　看護学科　　月　　日(　　)　　受け持ち(　　)日目

毎 日 の 実 習 記 録

患者名　　年齢　　部屋番号 (　　)　　年 (学籍番号　　)　　氏名

実習目標・計画		実際に行ったこと、観察内容、患者の反応	結果(評価)
本日の実習目標 **本日の看護目標**		・SOR記録でおこなう S:患者が発した言葉 O:観察項目 R:レスポンス(患者の反応)	・看護介入の結果、患者の反応から看護目標がに近づいたかを評価する。 ・患者の状態から介入の追加が必要と判断したものを記載し、翌日の実習計画に反映する。
行動計画(時系列)	**予定時間**		
・看護の方法がわかるように実施場所、方法を明記 ・観察をする目的と項目 ・行った看護ケアの評価をする視点 など、指導者にわかるように書く			

患者基本情報シート

実習日　　月　　日（　　）

学生番号:　　学生氏名:

患者名 （イニシャルで明記）	年齢	男・女	診断名	

1. 現病歴

・入院までの経過
・既往歴
・今回の入院目的
・治療計画(クリニカルパスの適応について)

感染症:
HBs　（　）
HCV　（　）
HIV　（　）
その他:

2. 患者の基礎情報

以下の視点に沿って情報の収集を行い、患者さんが健康障害、入院によって何に困り、何を望んでいるのかを考える

【栄養－代謝パターン】
・食事の回数、食事の内容
・食事を作る人
・義歯などの関する情報
・食事制限に関する情報（水分制限、食事制限など）
・食事の援助に関する情報
・食欲やなど食に関わる症状（胃痛、腹痛、曖気など）について

【排泄パターン】
・便の回数
・尿の回数
・排泄行動に関する情報（おむつ使用の有無など）
・排泄に関する本人の困りなど

【活動－運動、睡眠－休息パターン】
・睡眠に関する情報（眠剤の使用の有無）
・活動に関する情報（通勤時間や、趣味など）
・移動手段
・麻痺や変形などに関する情報
・活動を妨げている障碍などに関する情報(既往歴を含む)
・清潔行動に関する情報

【認知―知覚パターン】
・コミュニケーション能力に関する情報
・疼痛に関する情報(痛みの程度、部位、疼痛に対する対処方法など)

【役割―関係パターン】
・社会的役割、家庭における役割
・入院による本人の困り

【疾患・入院に対する受け止め方】

受け持ち患者自立と看護の必要度

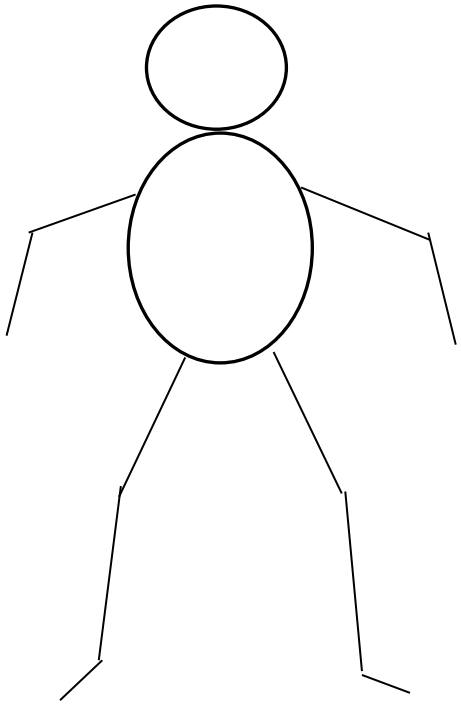
実習日　　月　　日（　　）

学生番号:　　学生氏名:

患者名 （イニシャルで明記）	年齢	男・女	診断名	

患者の状態を書いてみよう

・ドレーン(挿入部位、挿入されているもの)
・痛み(部位．範囲など)
・傷の部位　など
・酸素
・胃瘻、ストマ
・手術の部位、傷の状態
・麻痺や変形の部位
・点滴に関する情報



移動	1.自由に歩ける 3.歩行時の見守り必要 [看護の介入の必要性と具体策]	2.補助具を用いて自由に移動 4.車椅子を用いて移動
食事	1．デイルームにて自立 3．補助具があれば摂取可能 [看護の介入の必要性と具体策]	2．要セッティングで摂取 4．介助必要
清潔・更衣	1・自立してできている [看護の介入の必要性と具体策]	2．自立して行為ができない
排泄	1・自立している 3．床上で便器・尿器を使用 [看護の介入の必要性と具体策]	2．車いすでの移動介助必要 4．自立して排泄できない

看護計画の立案（全体像から看護介入まで）

実習日　　月　　日（　　）

学生番号:　　学生氏名:

患者名 （イニシャルで明記）	年齢	男・女	診断名	

全体像

・受け持ち患者が現在どのような状況にあるのかを考える。
・日常生活能力などから、看護介入として何が必要かを考える。
・入院によって生じている本人の困りを心理的側面、社会的側縁、身体的側面から考える。

看護問題（PES方式で記載）

＃１
＃２
＃３
＃４
＃５

看護目標

○長期目標

○短期目標(実習期間中の到達目標、看護の目標を考える)

具体的な介入計画

成人看護学実習　受け持ち患者記録(データベース)

実習期間　　月　　日～　　月　　日

学生番号　　学生氏名

名前　＊イニシャル記載	部屋番号	年齢	男・女
医学的疾患名			
入院までの経過(現病歴・既往歴)			
医師からの患者・家族への説明内容			
入院・疾患に対する本人および家族の受け止め方			
治療方針(予定術式・麻酔・予定の治療方針など)			
入院から受け持ちまでの経過			**感染症:** HBs　(　　) HCV　(　　) HIV　(　　) その他:
病棟の看護方針			

	データ	解釈・推論
健康知覚－健康管理ﾊﾟﾀｰﾝ	健康の保持・増進のために本人が行っている事柄に関するデータ ・健康管理の方法 ・予防行動 ・受診行動 ・服薬の管理 など	・今回の健康障害の状況に与えた影響はないかを考える。 ・受診行動、服薬行動などから、介入の必要性の有無を判断する
栄養－代謝ﾊﾟﾀｰﾝ	・代謝に係わる、食物や水分摂取関するデータ(検査データを含む) ・食事習慣(食事時間など) ・食に関する嗜好(ｱﾙｺｰﾙに関する情報) ・食事の特徴(外食が多いなど) ・栄養剤やビタミンの補充など ・入院後の食に関する変化 ・食に関する本人の困りなど	・食事パターンと健康障害の関係を考える

成人看護学実習　受け持ち患者記録(データベース)

実習期間　　月　　日～　　月　　日

学生番号　　学生氏名

	データ	解釈・推論
排泄パターン	・排泄習慣、排泄の規則性 ・排泄方法 ・下剤の服用の有無 ・排泄量 ・排泄に関する本人の困り ・排泄・代謝に関係する検査データ	・排泄状況から看護介入の必要性を考える
活動－運動パターン	・運動に関するデータ ・活動に関するデータ ・炊事買い物、仕事、家庭管理・趣味などに関するデータ ・疾患、症状、入院からくる活動、運動に関する本人の困り ・心臓や肺の状態など、活動－運動に関係する検査データ	・データから現在の状態をアセスメントする
睡眠－休息パターン	・睡眠に関するデータ ・眠剤の服用の有無と種類 ・休息とリラクゼーションに関するパターン ・睡眠に関する本人の困り	・眠剤の服用など転倒転落のリスクになることはないかも判断する。
認知－知覚パターン	・視覚の関するデータ ・聴覚に関するデータ ・味覚に関するデータ ・触覚に関するデータ ・嗅覚に関するデータ ・言語障害の有無 ・認知の程度に関するデータ	・認知に関する状態を判断し、看護介入の必要性を判断する
自己知覚－自己概念パターン	・自己に対する認識に関するデータ ・自分の能力に関するデータ ・ボディイメージに関する認識	
役割―関係パターン	・家庭、社会における役割 ・役割における満足度 ・入院にかかわる困り	
セクシャリティー生殖パターン	・性に対する満足度 ・生殖の段階	
コーピング－ストレス耐性パター	・ストレスへの対処方法 ・サポート体制 ・現在のストレスに関する本人の訴え	
価値－信念パターン	・人生の目標・信念 ・生活に質など ・治療に対する思いなど	

成人看護学実習　受け持ち患者記録(関連図)

実習期間　　月　　日～　　月　　日

学生番号　　学生氏名

関連図

成人看護学実習 受け持ち患者記録(看護計画)

実習期間　　月　　日～　　月　　日

学生番号　　学生氏名

全体像

・患者の問題状況を解釈、推論し、看護介入が必要な看護問題は何かを考える。

・これまでの経過、現在の状態、今後の治療の方向性、可能性について、情報で得られた患者・家族の希望や想いをふまえ、身体的・精神的・社会的環境側面から総合的にアセスメントする。

看護問題（PES方式で記載）

＃１
＃２
＃３
＃４
＃５

看護目標(実習中の達成目標)

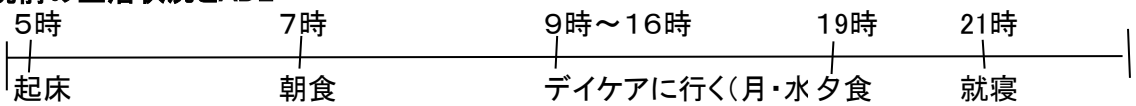
具体的な介入計画

老年看護学　看護計画(基礎情報)

学生番号:　　学生氏名:

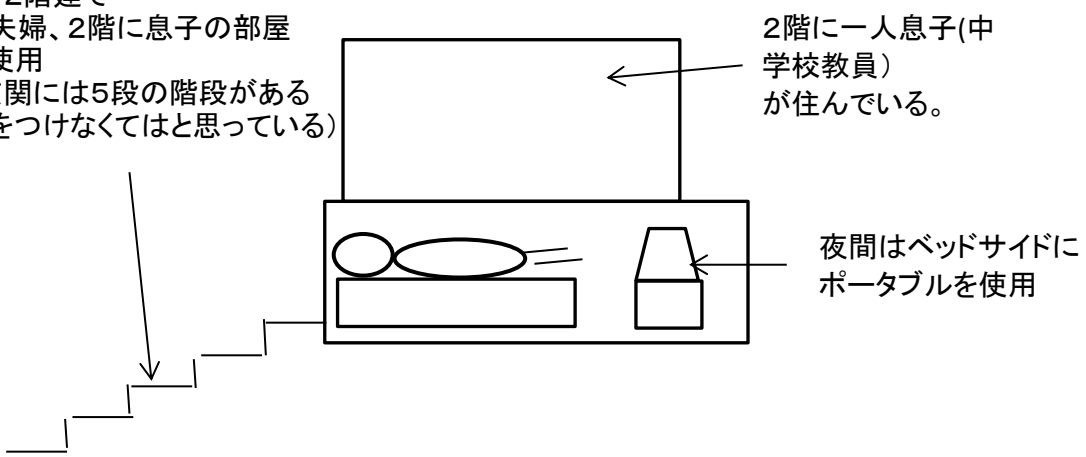
患者名 (イニシャルで明記)	年齢	男・女	診断名	
既往歴		**入院から受け持ちまでの経過**		
医師からの説明. 患者・家族の反応		**今後の治療方針・看護方針**		
家族構成:キーパーソン		**社会資源の活用状況:**		**感染症:** HBs　(　) HCV　(　) HIV　(　) その他:

入院前の生活状況とADL



・・起床から1日の過ごし方を時間経過で表す

・家出の過ごし方、居室に関する情報の整理(図式)し、社会復帰に向けた支援の必要性(退院指導も含む)を判断するデータ・情報とする
(例)
・持家の2階建て
・1階を夫婦、2階に息子の部屋
・ベッド使用
・家の玄関には5段の階段がある
(手すりをつけなくてはと思っている)



老年看護学　看護計画(基礎情報)

学生番号:　　学生氏名:

	データ	分析
症状に関するデータ		
栄養	・食事パターン ・食事制限の有無 ・水分制限の有無 ・食事行動に関する情報 ・義歯の有無 ・補食や嗜好品に関する情報 ・嚥下障害の有無 ・関連する検査データ	
排泄	・排泄パターン ・排泄行動に関する情報 ・夜間排尿の有無 ・排泄に関する本人の困り ・関連する検査デー ・ドレーン類に関する情報	
活動	・活動範囲 ・活動に影響している事柄 ・関連する検査データ ・痛みにより制限されていること ・肺や心臓に関するデータ	
睡眠	・本人の熟睡感 ・睡眠に関する困り ・眠剤服用の有無 ・眠剤の種類 ・眠剤の管理方法 ・昼寝の有無	
清潔	・清潔パターン ・生活に関する認識	
社会的側面	・社会的役割 ・性別役割 ・家庭内役割	
認知・心理面	・薬の管理方法 ・疾患に対する受け止め	

老年看護学　看護計画(全体像・関連図)

学生番号:　　学生氏名:

関連図

・発達課題からくる潜在的問題についても考える

全体像

老年看護学　看護計画(看護診断と計画)

学生番号:　　学生氏名:

看護問題

看護目標(立案日　　)

・評価日、評価で何を見るのかその視点も明確にする

看護計画

・観察プラン・ケアプラン・指導プランを立案

患者データベース

実習日　　月　　日（　　）

学生番号:　　学生氏名:

患者名 （イニシャルで明記）	年齢	男・女	診断名	

1. 基本情報

入院年月日、入院形態、保険種別、障害者手帳の有無、家族構成、職業など

２．現病歴

・成育歴（どのような環境で育ったか、育児のキーパーソンは、学生生活、社会生活について）

・成長発達の課題

・入院に至るまでの経過、

３．入院時の状態

・バイタルサイン、身体状態

・精神状態、セルフケアのレベル

４．受け持ちまでの経過と現在の状態

・入院後の治療経過

・看護目標、看護内容

・身体状況

・生活状況、セルフケアのレベル

５．今後の方向性

・患者の希望・治療方針

・看護目標

・家族の希望、支援体制

６．支援体制（利用できる社会資源）

患者看護計画用紙

実習日　　月　　日（　　）

学生番号:　　学生氏名:

患者名 （イニシャルで明記）	年齢	男・女	診断名	

全体像

・患者の問題状況を解釈、推論し、看護介入が必要な看護問題は何かを考える。

・これまでの経過、現在の状態、今後の治療の方向性、可能性について、情報で得られた患者・家族の希望や想いをふまえ、身体的・精神的・社会的環境側面から総合的にアセスメントする。

看護問題（PES方式で記載）

＃１

＃２

＃３

＃４

＃５

看護目標(実習中の達成目標)

具体的な介入計画

在宅看護学(訪問)実習記録

実習期間　　月　日～　月　日

訪問ステーション名

学生番号　　学生氏名

実習目標

・訪問看護ステーションでの自分の目標について記載する。
・実習初日に指導担当者に見せ、指導を受ける。

行動目標

・実習目標達成のために希望する見学・実施内容や、訪問したい利用者について記載。

目標の達成状況及び学び

訪問看護ステーション実習記録

実習日　　月　　日（　　）

学生番号　　学生氏名

1. 本日の行動目標

2. 訪問看護対象者に関する情報

実習内容	学んだこと・考えたこと

訪問看護記録

実習日　　月　　日（　　）

学生番号　　学生氏名

実習施設名

<table>
<tr><td>名前</td><td>男
女</td><td>年齢
歳</td><td>疾患名
状態・症状</td></tr>
<tr><td colspan="3">訪問開始時期・訪問の目的</td><td>訪問看護　　介護保険・医療保険
・介護区分（要支援　1　2　）
（要介護 1　2　3　4　5 ）
・障害者の手帳制度および階級等
（　　）
・その他（　　）</td></tr>
<tr><td colspan="3">本人の健康状態・生活状況</td><td>家族のキーパーソン:
家族構成・家族の健康状況・生活状況</td></tr>
<tr><td colspan="4">本人・家族の希望など</td></tr>
<tr><td colspan="4">訪問看護における看護目標　（長期・短期）</td></tr>
<tr><td colspan="4">当日実施した看護（精神的な係わりも含む）</td></tr>
<tr><td colspan="3">事例の分析(今後必要と考えられる看護支援）</td><td>社会資源の利用状況
・訪問看護　　／週
・訪問入浴　　／週
・訪問介護　　／週
・訪問ﾘﾊﾋﾞﾘ　　／週
・通所介護（デイサービス）　　／週
・通所リハビリ（デイケア）　　／週
・福祉用具の貸与・購入（有・内容　　）
・住宅改修（有・内容）
・その他</td></tr>
</table>

在宅看護学(地域包括支援センター)　実習記録

実習期間　　月　日～　月　日

施設名

学生番号　　学生氏名

実習目標	
本日(　　)の行動目標	
実習内容	**学んだこと・考えたこと**

東京医療学院大学　保健医療学部　看護学科

在宅看護学実習　出欠席表

学籍番号　　氏名

実習先	日付	実習施設名	出席確認	備考 （欠席・遅刻・早退の理由、時間）
訪問看護ステーション	月　日			
	月　日			
	月　日			
	月　日			
	月　日			

担当教員	

多摩地域包括支援センター	月　日			
	月　日			
	月　日			
	月　日			
	月　日			

＊出席確認を実習施設指導担当者に記入してもらうこと。

担当教員	

分娩介助事例記録

学籍番号　　名前

分娩例数／実習日	例目/　月　日	例目/　月　日	例目/　月　日	例目/　月　日	例目/　月　日
産婦の年齢／妊娠分娩歴	歳/　経妊　経産	歳/　経妊　経産	歳/　経妊　経産	歳/　経妊　経産	歳/　経妊　経産
在胎週数	週　日	週　日	週　日	週　日	週　日
分娩様式	自然･吸引･鉗子分娩	自然･吸引･鉗子分娩	自然･吸引･鉗子分娩	自然･吸引･鉗子分娩	自然･吸引･鉗子分娩
誘発･促進の有無	誘発　促進	誘発　促進	誘発　促進	誘発　促進	誘発　促進
硬膜外麻酔使用の有無	有　無	有　無	有　無	有　無	有　無
分娩開始時間	時　分	時　分	時　分	時　分	時　分
児娩出時間	時　分	時　分	時　分	時　分	時　分
胎盤娩出時間	時　分	時　分	時　分	時　分	時　分
分娩所要時間	時間　分	時間　分	時間　分	時間　分	時間　分
出血量	g	g	g	g	g
児の性別	男児　・　女児	男児　・　女児	男児　・　女児	男児　・　女児	男児　・　女児
児の体重／身長	g/　cm	g/　cm	g/　cm	g/　cm	g/　cm
Aps(1分－5分)	―	―	―	―	―
特記事項					
指導者名･教員名					
受け持ち開始日時	月　日　時頃	月　日　時頃	月　日　時頃	月　日　時頃	月　日　時頃
受け持ち終了日時	月　日　時頃	月　日　時頃	月　日　時頃	月　日　時頃	月　日　時頃

G　　評　価　表

東京医療学院大学　保健医療学部　看護学科

基礎看護学実習　Ⅰ　評価表

学籍番号			学生氏名			
実習期間		平成　　年　　月　　日		実習時間45時間	欠席　　時間	
評価項目		評　価　細　目			自己評価	評価
1	実習態度	見学の視点を列挙し、実習に臨むことができる。				
2		実習での学びを記録することができる。				
3		報告・連絡・相談ができる				
4	専門職業人としての知識・態度	対象者のプライバシーの保護の必要性がわかる。				
5		病院における看護師の役割を知る。				
6		感染予防行動がとれる。				
7	看護学生としての基本的な態度	挨拶ができる。				
8		身だしなみがいつも整っている。				
9		適切な言葉遣いができる。				
10		時間・期日が守れる。				
評価基準		5:大変良い　4:良い　3:だいたい良い　2:努力が必要　1:かなり努力が必要				

指導者所見	合計点数		／50
	指導教員　　印		

実習評価合計	臨地実習	点	実習後レポート	点	合計　　点（　　）

東京医療学院大学　保健医療学部　看護学科

基礎看護学実習　Ⅱ　評価表

学籍番号			学生氏名			
実習期間		平成　　年　　月　　日		実習時間45時間	欠席　　時間	
評価項目		評　価　細　目			自己評価	評価
1	実習態度	見学の視点、実習の学びを記録に書くことができる。				
2		報告・連絡・相談ができる				
3	専門職業人としての知識・技術・態度	対象者のプライバシーの保護の必要性がわかる。				
4		職員、患者とコミュニケーションが取れる。				
5		コミュニケーションの重要性に気づくことができる				
6		感染予防行動がとれる。				
7	看護学生としての基本的な態度	挨拶ができる。				
8		身だしなみがいつも整っている。				
9		適切な言葉遣いができる。				
10		時間・期日が守れる。				
評価基準		5:大変良い　4:良い　3:だいたい良い　2:努力が必要　1:かなり努力が必要				
指導者所見					合計点数	／50
			指導教員			印
実習評価合計	臨地実習	点	実習後レポート	点	合計　　点（　　）	

H　付録資料

付録１：求められる実践能力と卒業時の到達目標

東京医療学院大学

求められる実践能力と卒業時の到達目標

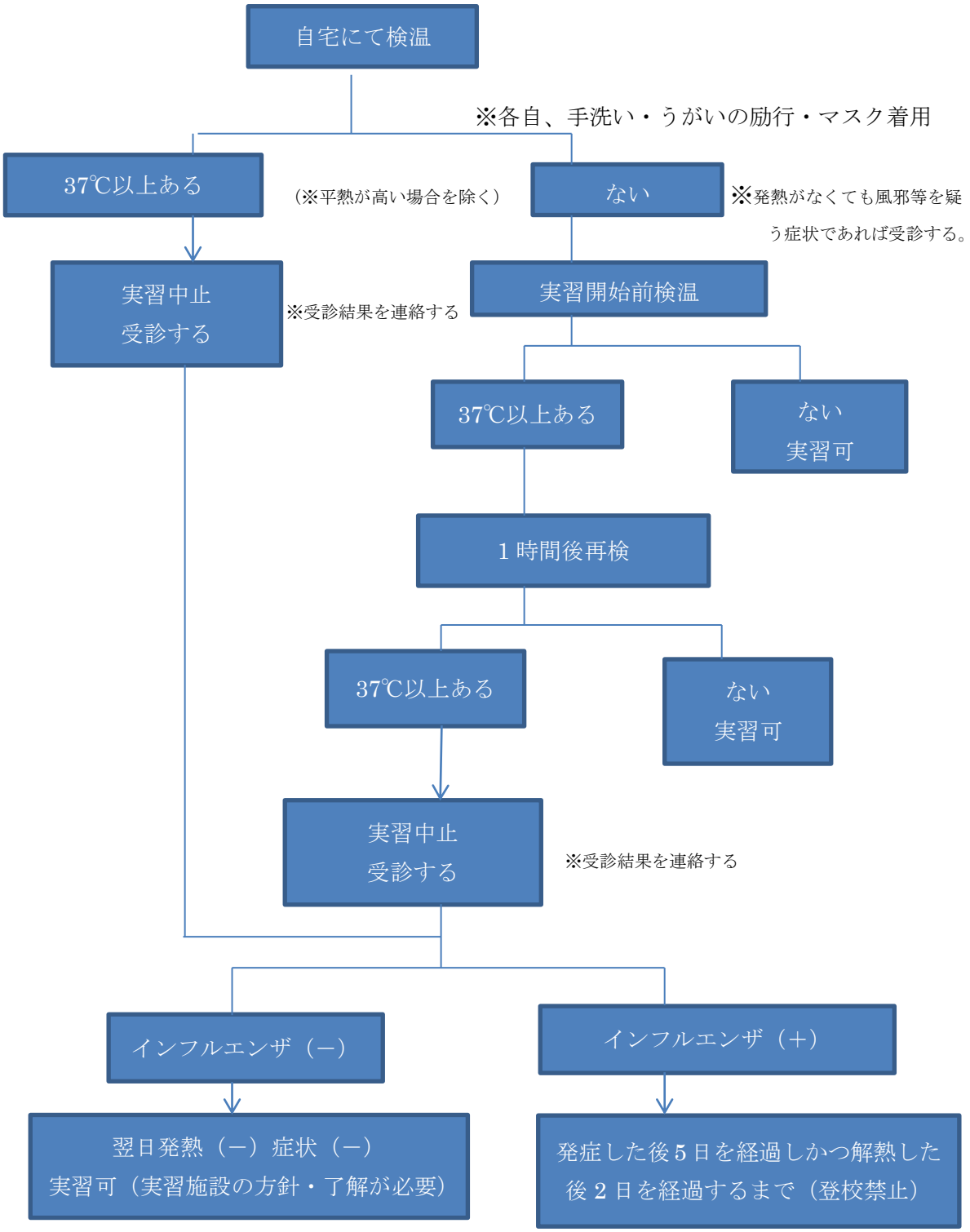
実践能力	構成要素		卒業時の到達目標
Ⅰ群 ヒューマンケアの基本的な能力	対象の理解	1	看護の視点から人間を総合的に捉え説明できる
		2	人間のライフサイクルと発達について説明できる
		3	対象を身体的、心理的、社会的、文化的側面から理解できる
	実施する看護についての説明責任	4	実施する看護の根拠・目的・方法について相手に分かるように説明できる
		5	自らの役割範囲を認識し説明できる
		6	自らの能力を超えると判断する場合は、適切な人に助言を求められる
	倫理的な看護実践	7	対象のプライバシーや個人情報を保護できる
		8	対象の価値観、生活習慣、慣習、信条などを尊重できる
		9	対象の尊厳や人権を守り、擁護的立場で行動することの重要性が理解できる
		10	対象の選択権、自己決定を尊重できる
		11	組織の倫理規定、行動規範に従って行動できる
	援助的関係の形成	12	対象と自分の境界を尊重しながら援助的関係を維持できる
		13	対人技法を用いて、対象との援助的なコミュニケーションをとることができる
		14	対象に必要な情報を対象に合わせた方法で提供できる
		15	対象からの質問、要請に誠実に対応できる
Ⅱ群 根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力	アセスメント	16	健康状態のアセスメントに必要な客観的・主観的情報を収集できる
		17	情報を整理し、分析、解釈、統合し課題を抽出できる
	計画	18	対象およびチームメンバーと協力しながら実施可能な計画を立案できる
		19	根拠に基づいた個別的な看護が計画できる
	実施する看護についての説明責任	20	計画した看護を対象の反応を捉えながら実施できる
		21	計画した看護を安全・安楽・自立に留意し実施できる
		22	看護援助技術を対象に合わせて適切に実施できる
		23	予測しない状況の変化について指導者またはスタッフに報告できる
		24	実施した看護と対象の反応を記録できる
	評価	25	予測した成果を照らし合わせて実施した看護の結果を評価できる
		26	評価に基づいて計画を修正できる
Ⅲ群 健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力	健康の保持増進、疾病の予防	27	生涯各期における健康の保持増進や疾病予防における看護の役割が理解できる
		28	環境の変化が健康に及ぼす影響と予防策について理解できる
		29	健康増進と健康教育のために必要な資源を理解できる
		30	対象および家族に合わせて必要な保健指導を実施できる
		31	妊娠、出産、育児にかかわる援助の方法が理解できる
	急激な健康状態の変化にある対象への看護	32	急激な健康状態の変化にある対象の病態と治療について理解できる
		33	急激な健康状態の変化にある対象への治療が及ぼす影響について理解できる
		34	対象の健康状態や治療を踏まえ、看護の優先順位が理解できる
		35	状態の急激な変化に備え、基本的な救急救命処置の方法が理解できる
		36	状態の変化に対処することを理解し、症状の変化について迅速に報告できる
		37	合併症予防のについて理解できる
		38	日常生活の自立に向けたリハビリテーションを支援することができる
		39	対象の心理を理解し、状況を受け止められるように支援できる
	慢性的な健康状態にある対象への看護	40	慢性的経過をたどる対象の病態と治療について理解できる
		41	慢性的経過をたどる対象の治療が及ぼす影響について説明できる
		42	対象および家族が健康状態を受容していく過程を支援することができる
		43	必要な生活の再構築を促進するための支援ができる
		44	必要な治療を継続できるようなソーシャルサポートについて理解できる
		45	急性増悪の予防に向けて継続的に観察できる
		46	慢性的な健康状態を有しながら生活の質（QOL）向上に向けての支援ができる
	終末期にある対象への看護	47	死の受容過程を理解し、その人らしく過ごせる支援方法が理解できる
		48	終末期にある対象の治療と苦痛を理解し、緩和方法が理解できる
		49	看取りをする家族をチームで支援することの重要性が理解できる

Ⅳ群 ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力	看護専門職の役割	50	看護職の役割と機能が理解できる
		51	看護師として自らの役割と機能を理解できる
	看護チームにおける責務	52	法的範囲に従って仕事を他者へ委任することが理解できる
		53	委任した仕事について様々な側面から支援することが理解できる
		54	部分的に他者へ委任した仕事であっても、自らに説明責任や責任があることが理解できる
	安全なケア環境の確保	55	医療安全の基本的な考え方と看護師の役割について理解できる
		56	医療の中で安全文化を形成する意義について理解できる
		57	医療事故防止対策について、必要な行動をとることができる
		58	感染防止対策・標準予防策について、必要な行動をとることができる
		59	関係法規・各種ガイドラインに従って行動できる
	保健・医療・福祉チームにおける多職種との連携・協働	60	保健・医療・福祉チームにおける看護および多職種の機能・役割が理解できる
		61	対象を取り巻く保健・医療・福祉従事者間の連携と協働の必要性が理解できる
		62	対象を取り巻くチームメンバー間で報告・連絡・相談等を行うことができる
		63	対象に関するケアについての意思決定はチームメンバーとともに行うことができる
		64	チームメンバーとともに、ケアを評価し、再検討することができる
	保健・医療・福祉システムにおける看護の役割	65	看護を実践する場における組織の機能と役割について理解できる
		66	保健・医療・福祉システムと看護の役割について理解できる
		67	国際的観点から医療・看護の役割が理解できる
		68	保健・医療・福祉の動向と課題が理解できる
		69	さまざまな場における保健・医療・福祉の連携について理解できる
Ⅴ群 専門職者として研鑽し続ける基本能力	継続的な学習	70	看護実践における自らの課題に取り組むことの重要性が理解できる
		71	自律的・継続的に自分の能力の維持・向上に努めることができる
	看護の質の改善に向けた活動	72	看護の質の向上に向けて看護師として専門性を発展させていく重要性が理解できる
		73	看護実践に研究成果を活用することの重要性が理解できる

付録２：体調管理自己チェックフローシート(実習編)

体調管理自己チェックフローチャート（実習編）

（インフルエンザ・発熱等）

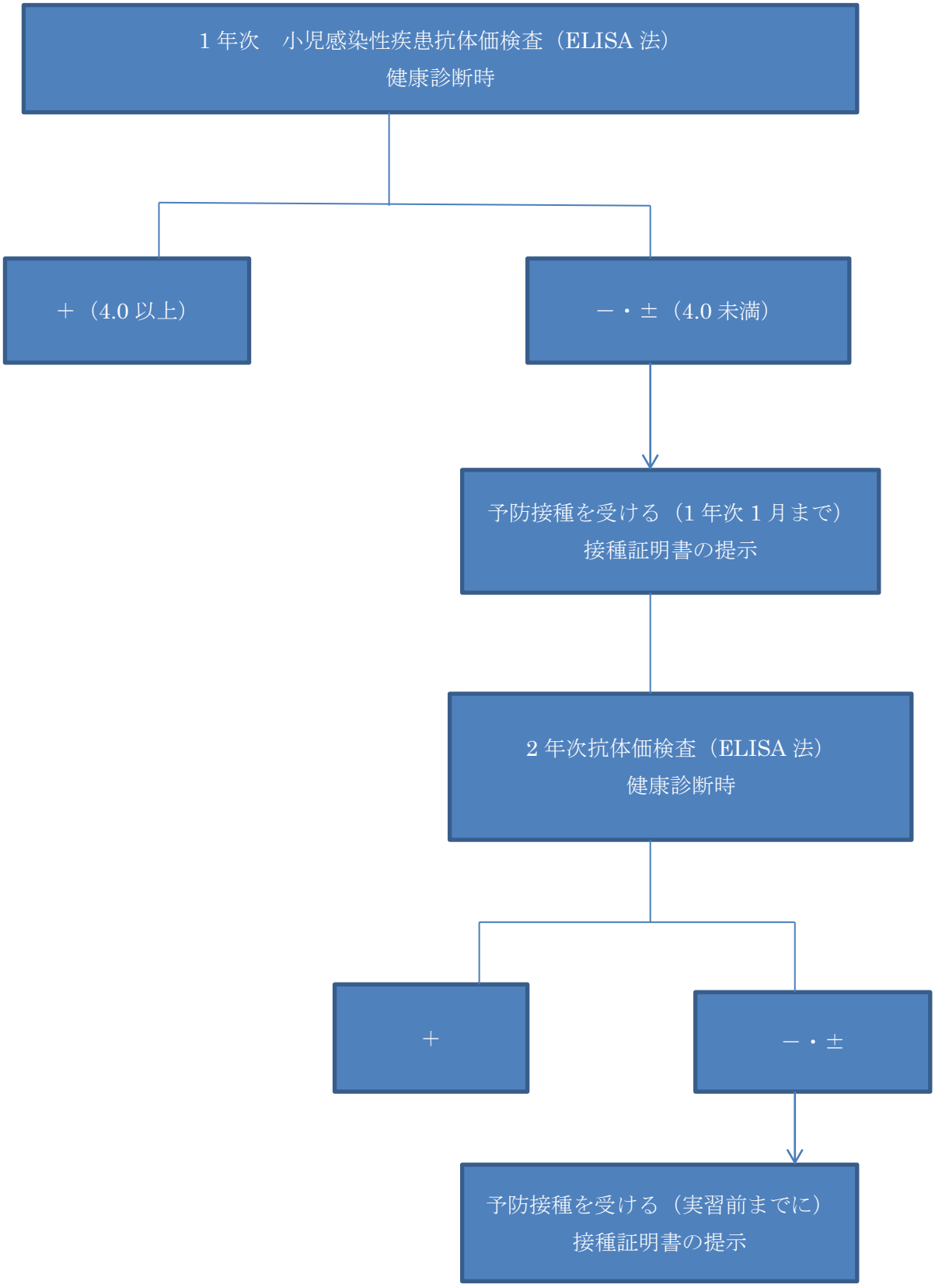


※上記の如何を問わずインフルエンザ濃厚接触者は、必ず申し出ること。

インフルエンザ予防接種については全員接種を行う。（接種証明書の提示）

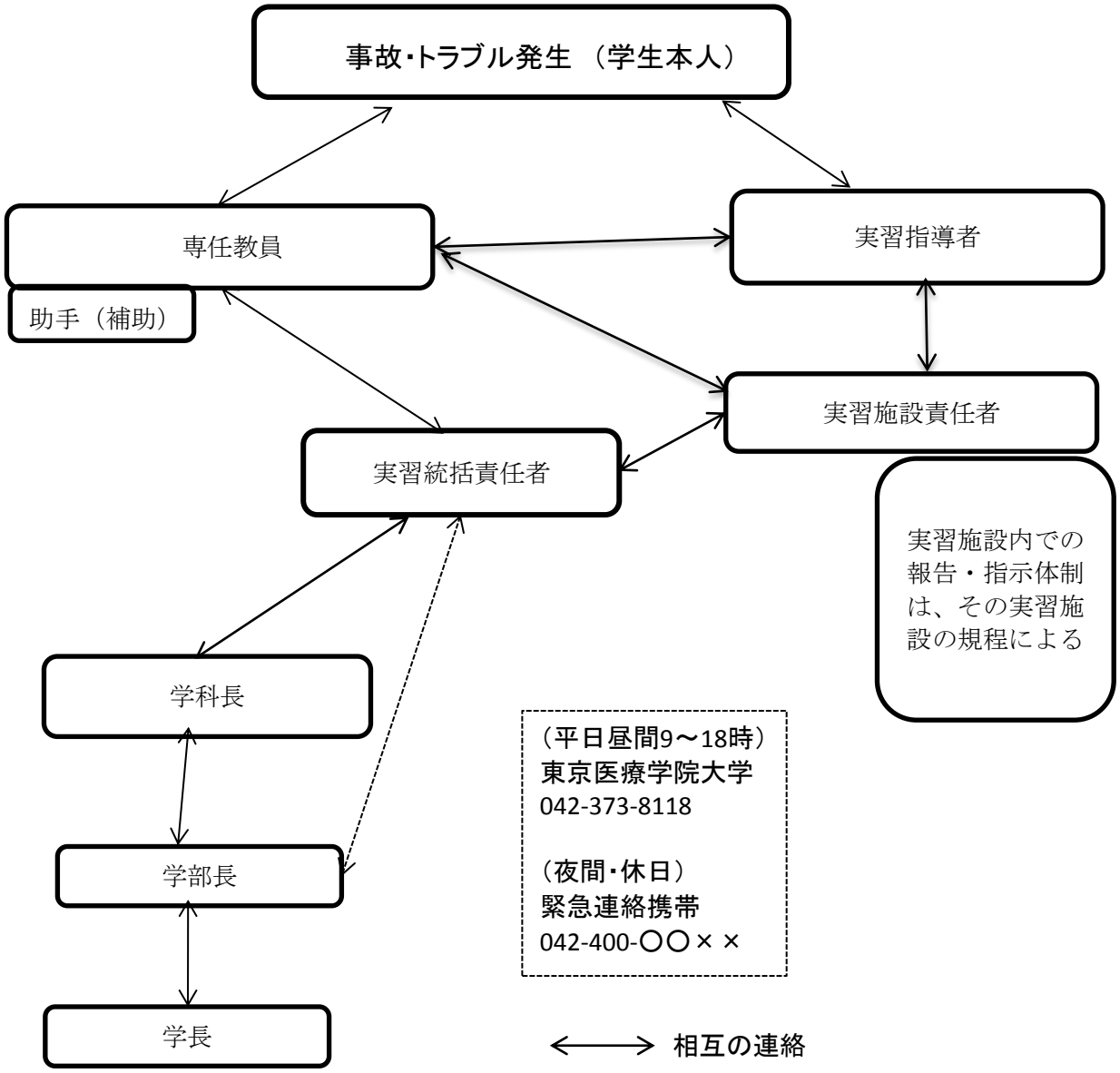
小児感染性疾患（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）抗体価対応フローチャート

※出席停止の基準については学校保健安全法施行規則参照すること



付録3:看護学科　事故発生時の報告フローチャート

看護学科　事故発生時の報告



① 事故(感染症の発症なども含む)・トラブルが発生したら、学生は直ちに担当の専任教員および実習指導者へ報告。学生は、実習指導者、または専任教員とともに、患者の状態を把握し、安全を第1に確保し、適切な対応を行う。

② 専任教員は、事故の状況を把握し、実習指導者に連絡すると共に患者および学生の安全を確認し必要な初期対応をする。さらに、実習施設の責任者に事態の状況を報告すると共に、学内の実習統括責任者に報告し、事態の改善に向けて、指示・方向付けをうける。

③ 実習統括責任者は、学内において、臨地実習に関する連絡・報告・相談を受け、状況を把握し、的確に関連部署に指示方向付けを行う。

④ 助手は、専任教員の指示の下に、事態の改善に向けて行動し、その結果を専任教員に報告する。

付録４：インシデントレポート

インシデントレポート

東京医療学院大学

●報告者氏名　保健医療学部看護学科 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

●報告日時　　平成　　年　　月　　日　　曜日

●インシデント日時　　平成　　年　　月　　日　　曜日　　時　　分頃

●発生場所　　施設名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　場所＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

●実習担当教員名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

●今回のインシデント

●今回の種類

○療養上の世話に関するもの

□転倒　□転落　□誤嚥　□誤飲　□熱傷・凍傷　□入浴　□排泄

□抑制　□移送　□その他（　　）

○診療の補助に関するもの

□与薬　□注射　□点滴　□輸血　□機器類　□モニター　□チューブ　□

□酸素　□手術に関すること　□検査に関すること　□感染　□その他（　　）

○その他

□記録　□紛失　□報告　□観察　□暴力　□その他（　　）

●インシデントの内容、発生時の状況、経過

●発生時の対応

●発生原因

●今後の解決策

資料19

助産学実習施設における分娩数

蕨市立病院

	延べ分娩総数	正常分娩数／月平均数
平成25年度	476人	295人／24.0人
平成26年度	536人	350人／29.0人

虎の門病院

	延べ分娩総数	正常分娩数／月平均数
平成25年度	255人	190人／15.8人
平成26年度	260人	187人／15.0人

日医多摩永山病院

	延べ分娩総数	正常分娩数／月平均数
平成25年度	594人	302人／25.0人
平成26年度	602人	261人／21.1人

日医武蔵小杉病院

	延べ分娩総数	正常分娩数／月平均数
平成25年度	981人	592人／49.0人
平成26年度	990人	568人／47.0人

永寿総合病院

	延べ分娩総数	正常分娩数／月平均数
平成25年度	483人	387人／32.0人
平成26年度	539人	430人／35.1人

（資料　）

２７多企行第１７７号
平成２７年６月１９日

文部科学大臣　下村　博文　殿

多摩市長　阿部　裕行

東京医療学院大学の保健医療学部看護学科（仮称）設置の要望について

平素より、本市に対して格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、標記の件につきましては、本市から貴殿に対して、平成２７年１月２６日付２６多企行第５９２号文書で要望させていただいているところですが、要望理由について補足をさせていただきます。

本市は、多摩ニュータウンの開発により人口は急増したものの、人口構成が特定の世代に偏っていることから、高齢化が加速しているため、東京医療学院大学による保健医療学部看護学科（仮称）の早期の開設を強く望んでいる旨を、前の要望書で申し述べさせていただきました。

しかし、本市は高齢化だけでなく、少子化についても重く受け止め、各種対策に取り組んでいるところです。そうした中で、同大学の保健医療学部看護学科（仮称）では、看護師だけでなく、助産師の育成も計画されていることから、看護学科（仮称）が設置されることにより、医療に関わる多くの人材が育成されるとともに、卒業生の地域貢献など、本市の保健医療や福祉のサービス等の充実と向上に加え、少子化対策の取り組みにも更なる大きな貢献が得られるものと期待しています。

本市における状況をご賢察の上、東京医療学院大学保健医療学部看護学科（仮称）の設置が早期に実現されますよう、特段のご高配を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

実習における専任教員･助手･実習指導者の役割分担

資料２１

東京医療学院大学

実習内容	専任教員	助手	実習指導者
実習準備	①実習目標・目的に基づき、効果的な実習となるよう、関連部署との連絡・調整を行う。必要に応じて、実習環境把握のため事前臨地研修等を行う。 ②学生の学習到達度等の確認を行う。 ③実習指導者と実習目的・目標の共有化を図り連携を行う。	①実習目的・目標に基づき、効果的な実習となるよう専任教員とともに、実習環境把握のための事前臨地研修等を行う。また、学内のＦＤ研修会に出席する。 ②専任教員と実習指導者の事前調整の場に参加する。	①実習目的・目標をスタッフに伝え、実習が円滑に実施されるよう、実習環境を整える。 ②実習担当教員との事前調整を行う。
受け持ち対象の選定	①実習目的・目標に応じた受け持ち対象の選定について、学生の個々のレディネス等を把握し、実習指導者と相談する。 ②学生に受け持ち対象決定に際し、助言を行う。	①専任教員とともに受け持ち対象の選定について適宜情報を得ながら、実習指導者と相談する。 ②学生の受け持ち対象決定についての、アドバイスを受ける。	①実習目的・目標に応じた受け持ち対象を教員と相談しリストアップする。 ②学生の実習の受け入れが可能であるか、受け持ち対象本人・家族へ事前確認を行い実習が円滑に実施されるよう調整を図る。 ③学生の受け持ち受け持ち対象についてスタッフに伝える。
オリエンテーション	①実習の目的・目標及び実習の手引きにそって、学内で実習の詳細について説明する。 ②学生が実習の段階や領域における自己の課題を明確にすることができるよう助言を行う。	①専任教員のオリエンテーション及び、実習指導者のオリエンテーション時は、共に参加し実習が円滑に実施されるよう全体把握を行う。 ②専任教員の指導を受けながら、学生への適切な助言を行う。	①施設・設備・物品等に関する説明を行う。 ②学生をスタッフや受け持ち患者に紹介し、実習が円滑に実施されるよう対人関係の調整を図る。
情報収集	①受け持ち対象に関する情報源や情報収集の方法について助言を行う。 ②個人情報の取り扱いについての指導を再度行う。	①必要時、専任教員及び実習指導者のｱﾄﾞﾊﾞｲｽを受けながら、受け持ち受け持ち対象の情報について、学生へ助言を行う。 ②個人情報の取り扱いについての指導を確認し必要な助言を行う。	①受け持ち受け持ち対象の概要について、学生へ説明を行い、学生からの質問に対して助言を行う。 ②電子カルテの場合については、使用方法についての説明を行う。
実習指導	①実習における日々の行動計画が受け持ち受け持ち対象に適しているかを判断し、指導・助言を行う。 ②個々の学生の行動計画にそって、実習指導者との調整を行う。 ③個々の学生の安全や感染予防の観点から適宜、指導・助言を行う。	①日々の行動計画が受け持ち受け持ち対象に適しているかを判断し、実習指導補助を行う。 ②個々の学生の行動計画にそって、専任教員及び実習指導者と相談し、調整を行う。 ③学生個々の状況について専任教員及び実習指導者と調整を行い助言を行う。 ④問題発生時は施設担当者及び実習指導者へ報告・連絡・相談を行うと同時に、大学に連絡し必要な対策を講じる。	①日々の行動計画が受け持ち受け持ち対象に適しているかを判断し、指導・助言を行う。 ②受け持ち受け持ち対象の直接的なケアの実施についての指導・助言を行う。 ③学生個々の状況について担当教員と調整を行う。
指導・助言	①実習の目的・目標にそって、学生の学習過程での問題等を発見し助言を行う。 ②根拠に基づいたケアができているかの確認を行う。	①適宜、受け持ち受け持ち対象に関する報告を受け、指導・助言を行う。 ②専任教員の指示のもと、根拠に基づいたケアができているか確認し、適宜助言を行う。	①適宜、受け持ち受け持ち対象に関する報告を受け、指導・助言を行う。
カンファレンス	①カンファレンスおよび受け持ち対象報告会の計画・運営に関する指導・助言を行う。 ②資料の作成に関し、指導・助言を行う	①カンファレンスおよび受け持ち対象報告会の準備・運営に協力し、参加する。 ②カンファレンスおよび受け持ち対象報告会に参加し、専任教員指導のもと、必要時学生への助言を行う。	①カンファレンスおよび受け持ち対象報告会の準備・運営に協力する。 ②カンファレンスおよび受け持ち対象報告会に参加し、指導・助言を行う。
評価	①実習の形成的評価や総括評価を行い、最終的な単位認定を行う。	①実習指導上の評価に関する情報を提供し、専任教員の評価について助言を受ける。	①実習の評価に関する情報を提供する。

FD年間計画(平成28年度)資料22

	看護学科FD	専任教員・助手FDプログラム
4月	・看護学科スタート ・新任教員研修（大学、学部の教育方針・教育目標・授業内容のオリエンテーション） ・全体説明会 ・授業評価	・新任助手研修
5月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	第１回看護学科ＦＤ研修会 ①大学のミッションとＦＤ（学長） ②教育力とＦＤ ③看護学科の学士力とは ④入学生の状況と学生気質 ⑤交流セッション
6月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	・公開授業参観会（相互授業参観・評価） ・基礎看護学演習の参加
7月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	※ＦＤ講演会 ①今あらためてＦＤ・ＳＤとは ②ＩＲの現状について ③実習におけるリスクマネジメント入門
8月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	第２回看護学科ＦＤ研修会 ①それぞれの実習経験を語る ②実習指導で抱える問題について語る(助手対象研修)
9月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会 前期授業アンケートからみた授業改善について	・公開授業参観会（相互授業参観・評価）
10月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	
11月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	
12月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会（シラバス修正・評価）	・公開授業参観会（相互授業参観・評価）
1月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	
2月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	※ＦＤ報告会（各領域別）
3月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会 （開学１年総括・評価）授業評価 ・授業改善報告書 ・第１回学生充実度調査	第３回看護学科ＦＤ研修会 ①看護学科における臨地実習の意味 ②実習における課題について （次年度以降の課題を決定し臨地実習指導能力向上を目指す。）

赤字については助手ＦＤプログラムの必修研修

FD年間計画(平成29年度)　資料22

	看護学科FD	専任教員･助手FDプログラム
4月	・2年目スタート ・新任教員研修（大学、学部の教育方針・教育目標・授業内容のオリエンテーション） ・ ・授業評価	・新任助手研修
5月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	第４回看護学科ＦＤ研修会 ①大学のｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝﾎﾟﾘｼｰ・ｶﾘｷｭﾗﾑﾎﾟﾘｼｰ・ﾃﾞﾌﾟﾛｰﾏﾎﾟﾘｼｰ（学長） ②看護学科2年目のＦＤについて ③入学生の状況 ④交流セッション
6月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	・公開授業参観会（相互授業参観・評価） ・領域別看護学講義の参観
7月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	※ＦＤ講演会 ①実習体験の教材化について ②実習におけるリスクマネジメントⅡ
8月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	第５回看護学科ＦＤ研修会 ①領域別課題について ②交流セッション
9月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会 前期授業アンケートからみた授業改善について	・公開授業参観会（相互授業参観・評価）
10月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	・領域別看護学演習参加
11月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	
12月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会（シラバス修正・評価）	・公開授業参観会（相互授業参観・評価）
1月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	
2月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	※ＦＤ報告会（各領域別）
3月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会 （開学１年総括・評価）授業評価 ・授業改善報告書 ・第２回学生充実度調査	第６回看護学科ＦＤ研修会 ①看護臨地実習の準備性について ②実習における課題について （次年度以降の課題を決定し臨地実習指導能力向上を目指す。）

赤字については助手ＦＤプログラムの必修研修

FD年間計画(平成30年度)　　資料22

	看護学科FD	専任教員・助手FDプログラム
4月	・３年目スタート ・新任教員研修（大学、学部の教育方針・教育目標・授業内容のオリエンテーション） ・授業評価	・新任助手研修
5月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	第７回看護学科ＦＤ研修会 ①大学のガバナンスについて（学長） ②看護学科３年目のＦＤについて（看護学科学科長） ③入学生の状況 ④交流セッション
6月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	・公開授業参観会（相互授業参観・評価）
7月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	※ＦＤ講演会 ①実習評価について ②実習調整能力とは ③実習におけるリスクマネジメントⅢ（助手対象講演会）
8月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	第８回看護学科ＦＤ研修会 ①領域別課題について ②交流セッション
9月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会 前期授業アンケートからみた授業改善について	・公開授業参観会（相互授業参観・評価）
10月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	
11月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	
12月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会 （シラバス修正・評価）	・公開授業参観会（相互授業参観・評価）
1月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	
2月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会	※ＦＤ報告会（各領域別）
3月	・看護学科ＦＤプロジェクト委員会 （開学３年総括・評価）授業評価 ・授業改善報告書 ・第３回学生充実度調査	第９回看護学科ＦＤ研修会 ①看護臨地実習の困難事例検討 ②実習における課題について （次年度以降の課題を決定し臨地実習指導能力向上を目指す。）

赤字については助手ＦＤプログラムの必修研修

資料 23

実習指導・授業等カレンダー 平成31年(2019年)度前期

| | | | | 1週目 | | | | | | | 2週目 | | | | | | | 3週目 | | | | | | | 4週目 | | | | | | | 5週目 | | | | | | | 6週目 | | | | | | | 7週目 | | | | | | | 8週目 | | | | | | | 9週目 | | | | | | | 10週目 | | | | | | | 11週目 | | | | | | | 12週目 | | | | | | | 13週目 | | | | | | |
|---|---|---

資料23

実習指導・授業等カレンダー

平成31年（2019年）度前期

| | | | | 14週目 | | | | | | | 15週目 | | | | | | | 16週目 | | | | | | | 17週目 | | | | | | | 18週目 | | | | | | | 19週目 | | | | | | | 20週目 | | | | | | | 21週目 | | | | | | | 22週目 | | | | | | | 23週目 | | | | | | | 24週目 | | | | | | | 25週目 | | | | | | | 26週目 | | | | | | | 週目 |
|---|---|---

資料23

実習指導・授業等カレンダー

平成31年（2019年）度後期

| | | | | 1週目 | | | | | | | 2週目 | | | | | | | 3週目 | | | | | | | 4週目 | | | | | | | 5週目 | | | | | | | 6週目 | | | | | | | 7週目 | | | | | | | 8週目 | | | | | | | 9週目 | | | | | | | 10週目 | | | | | | | 11週目 | | | | | | | 12週目 | | | | | | | 13週目 | | | | | | |
|---|---|---

資料23

実習指導・授業等カレンダー

平成31年（2019年）度後期

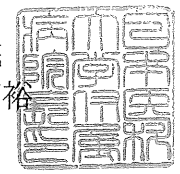
| | | | | 14週目 | | | | | | | 15週目 | | | | | | | 16週目 | | | | | | | 17週目 | | | | | | | 18週目 | | | | | | | 19週目 | | | | | | | 20週目 | | | | | | | 21週目 | | | | | | | 22週目 | | | | | | | 23週目 | | | | | | | 24週目 | | | | | | | 25週目 | | | | | | | 26週目 | | | |
|---|---|---

資料24

平成２７年１０月１５日

東京医療学院大学
　学長　佐久間康夫 殿

日本医科大学付属病院
院長　　坂本　篤裕



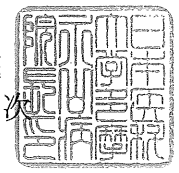
看護学科実習への協力支援について

貴学において、平成２８年４月開設を目途に計画している看護学科の実習計画に当たり、実習科目及び受入学生数を増やすなど実習施設として全面的に協力支援いたします。

平成２７年１０月１５日

東京医療学院大学
　学長　佐久間康夫 殿

日本医科大学多摩永山病院
院長　新　博次



看護学科実習への協力支援について

貴学において、平成２８年４月開設を目途に計画している看護学科の実習計画に当たり、実習科目及び受入学生数を増やすなど実習施設として全面的に協力支援いたします。

学生確保の見通し等を記載した書類

学生の確保の見通し等を記載した書類

１　学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

（１）学生確保の見通し

①定員充足の見込み

日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センターの『私立大学・短期大学等 入学志願動向（平成 22～26 年度)』によると、全国的に大学志願倍率は平成 22 年度で 7.05 倍、23 年度で 7.09 倍、24 年度で 7.02 倍、25 年度で 7.39 倍、26 年度で 7.53 倍と安定しており、26 年度定員充足率は 103.78%である。学部統計別の保健系（看護等保健医療分野）の動向では、平成 22 年度で 5.12 倍、23 年度で 5.53 倍、24 年度で 5.92 倍、25 年度で 6.37 倍、26 年度で 6.09 倍であり、26 年度定員充足室は 107.85%である。（資料 1）

全国の看護系大学の入学状況では、『平成 25 年版看護関係統計資料集』によると、平成 22 年では､学校数は 193 校､1 学年定員は 15,504 人に対し競争率が 4.6 倍､充足率が 110.2%であり、平成 25 年では、学校数は 218 校、1 学年定員は 17,878 人に対し競争率が 5.6 倍、充足率が 108.4%であることから、全国的に看護系大学への志望が増加している。(資料 2)

また、本学の近隣大学における看護系学部等の入試状況について公開情報を調査したところ、一般入試の競争倍率は平均 5.0 倍、定員充足率は 111.9%を示しており、少子化社会の状況において比較的に安定している。(資料 3)

看護学科の入学定員の設定にあたっては、以上のことや地域の要請（資料 4)、後述する・進学需要等に関するアンケート調査、・人材需要と人口動態、・採用意向等、人材需要に関するアンケート調査等を総合的に踏まえたうえで、看護学科の入学定員を 80 名にすることとした。

②定員充足の根拠となる調査結果の概要

東京医療学院大学のリハビリテーション学科（既設学科）における入学者出身都道府県別の上位から 2 都県（東京都、神奈川県）を中心としたエリアに所在する高等学校の 2 年生を対象とし、進学需要等に関するアンケート調査を実施した。

「4 年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 10,852 人のうち「新学科に対する興味・関心について」にて「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」

「すこし興味・関心がある」「わからない」「その他」と回答した 4,733 人に対する東京医療学院大学の看護学科への受験意向では、約 4.0%にあたる 189 人が「受験してみたい」と回答しており、「受験先として検討したい」188 人、「受験先として検討するかもしれない」511 人を合わせると、約 18.8%にあたる計 888 人が受験意向を示している。

また、受験意向を示した 888 人と、「わからない」と回答した 1,574 人、合計 2,462 人に対する東京医療学院大学の看護学科への入学意向では、約 9.8%にあたる 242 人が「入学を希望する」と回答しており、「入学を検討する」788 人と合わせると、計 1,030 人（41.8%）が入学意向を示している。

なお、「新学科への入学意向について」にて、東京医療学院大学保健医療学部看護学科への入学意向を示した 1,030 人に、取得したい資格について調査した結果、「看護師のみ」が 521 人（50.6%）、「看護師と助産師」223 人（21.7%）であった。

この結果、東京医療学院大学の看護学科への受験意向と入学意向の高さがうかがえることができる。また、本アンケート調査への協力が得られなかった多くの学校の高校生の中には、本学への進学を希望する生徒がいる可能性もあり、入学意向者数の増加も推察されることから安定的に志願者を確保できると考える。（資料 5）

③学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、本学の近隣大学の看護系学部等における学生納付金の設定状況や、大学運営上の財務的状況等を十分考慮し設定した。（資料 6）

（２）学生確保に向けた具体的な取組状況

本学の広報委員会が主体となり入試委員会と協同して、学生確保に向けた取り組みを行っている。

本学ホームページや受験情報誌等の各種広告媒体への掲載等により、広く社会に情報発信していくことはもとより、高校訪問や出張講義、オープンキャンパスなどを行い、志願者自身やその身近な者と直接話し合える機会を設けている。また、平成 24 年 4 月に東京都多摩市に本学を開学して以来、地域の大学として根付かせるため、地域の高校等を中心とした学生確保に取り組んでおり、看護学科の学生確保においても、本学看護学科開設準備室員がこれらと同じ取り組みを行う予定である。

○高校訪問では、教職員が本学への進学実績のある高校を中心に訪問し、本学の看護学科の教育内容等について進路指導担当教員へ説明する。

○本学のリハビリテーション学科（既設学科）の学生確保の取り組みにおいて実績のある高校や病院等医療施設、進学関係業者の協力を得て、看護学科についての出張

講義、講演、ガイダンス等を行う。

○オープンキャンパスでは、入試相談会や模擬授業等を行い、積極的に直接対話できる機会を作り、本学看護学科の理解や関心を高める。

○本学看護学科のパンフレットやホームページを作成し、本学の看護学科の教育内容等を受験生や保護者、高校の進路指導教員等へ伝える。

○受験情報誌等進学関係業者の広告媒体を利用した広報を展開する。

なお、今年度（本学のリハビリテーション学科）の学生確保の取り組み状況では、オープンキャンパス（全 5 回）の参加者は延べ 655 人であった。高校訪問、出張講義、講演、ガイダンスは、合計 176 件行い、これらを行った高校から延べ 198 人が出願している。

２　人材需要の動向等社会の要請

（１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

１　大学の教育理念

近年の保健医療分野において、社会構造の変化に起因する疾病や障害、高齢社会おける健康増進や生活の質の維持･向上のためのリハビリテーション及び看護の知識と技術による支援と医療現場の在宅など地域への広がりは、リハビリテーション及び看護の従事者の活動領域を拡大させ、様々な場所で、対の態様に応じて適切に対応できる資質が求められる。本学では、これら社会の要請に適正に応えるべく、様々な人を対象とする保健医療の専門職業人として、幅広い教養と高い倫理観のもとに対象者の立場を理解し、「人に優しく思いやりのある心」とともに専門知識と技術を備え、卒業後においても最新の知識と技術を学習して提供できるような人材を育成することを目的に、本学の教育理念は、建学の精神を踏まえ「仁愛・知識・技術」としている。

２　学部、学科の教育目標

保健医療学部では、多様化する保健医療の分野で、保健医療の専門職業人として社会の要請を的確に受け止め、これに応えることのできる能力を有する質の高い人材の育成を目指すものである。

看護学科は、本学の教育理念のもとに、看護の専門職業人である看護師及び助産師を育成するため、以下の項目を教育目標とする。

□専門職業人として幅広い教養と高い倫理観のもとに、対象者の立場を理解して対応することのできる「人に優しく思いやりのある心」を備えるとともに、専門知識と技術を身につける。
□“チーム医療”における自己の立場及び協働する他の職種、対象者やその家族の立場を理解し、信頼関係を築くことのできるコミュニケーション能力を身につける。
□高齢社会における健康増進や生活の質の維持・向上のため、地域の保健医療福祉の必要性を認識し、行政の取組みや役割及び医療機関・福祉施設等の実情を理解して、地域における保健医療のリーダーとして貢献できる能力を身につける。
□卒業後も、対象者に適した最新の知識や技術に基づく看護を提供することを目的に、常に、最新の情報に関心を持ち、生涯にわたって学習するという姿勢及び社会が抱える課題を自ら見出して探究し、研究する心構えを身につける。

（２）上記（１）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

①人材需要と人口動態

『平成 25 年看護関係統計資料集』の都道府県別病院勤務看護職員数では、平成 24 年 10 月 1 日現在の東京都における人口 1 万人あたり看護職員数は 63.8 人であり、全国平均の 74.1 人より低く 47 都道府県のうち下位から 7 番目である。また、人口 1 万人あたり看護職員数は神奈川県では 53.0 人（下位から 2 番目）、埼玉県では 51.3 人（最下位）であり、東京都に隣接する神奈川県、埼玉県においても極めて低い水準である。（資料 7）

東京都保健医療計画（平成 25 年 3 月改定）の“第 2 部 第 1 章 第 2 節　保健医療を担う人材の確保と資質の向上”では、高齢者人口の更なる増加や医療の高度化・専門化、患者を取り巻く社会環境の変化等に伴い、医療需要の一層の増加が見込まれる中で、都民ニーズに応えるため、都の地域特性を活かした保健医療を担う人材の養成・確保と質の向上を図ることとしている。看護職員に関しては、都における看護職員数は毎年増加傾向にあるが、高齢化の進展に伴う介護保険施設や在宅療養のニーズの増大、医療施設における配置基準の変更、さらに、医療技術の高度化や専門化等により、看護職員の需要は一層増加しており、また、平成 24 年 4 月の介護保険制度改正により、重度者をはじめとした要介護高齢者の在宅生活を支えるため、訪問介護と訪問看護とを一体的に提供するなどの新しいサービスが創設されるなど、訪問看護を担う人材の確保・育成の必要性がますます高まっている。（資料 8）

本学が位置する東京都及び多摩市の人口動態は、国立社会保障・人口問題研究所『日本

の地域別将来推計人口（平成 25（2013）年３月推計)』によると、東京都の 15～19 歳人口は、平成 22 年で 551,734 人、平成 27 年で 544,958 人、平成 32 年で 523,116 人となり、平成 52 年では 415,176 人になると予測されている。東京都多摩市の 15～19 歳人口は、平成 22 年で 7,078 人、平成 27 年で 6,639 人、平成 32 年で 6,368 人となり、平成 52 年では 4,669 人になると予測されており、少子化の傾向である。（資料 9）

しかし、その一方で東京都の高齢者人口（65 歳以上）は、平成 22 年で 2,679,265 人、平成 27 年で 3,077,320 人、平成 32 年で 3,240,999 人となり、平成 52 年では 4,117,563 人になると予測されている。東京都多摩市の高齢者人口（65 歳以上）は、平成 22 年で 30,909 人、平成 27 年で 39,301 人、平成 32 年で 43,165 人となり、平成 52 年では 48,655 人になると予測されており、高齢者人口の増加が見込まれる。高齢者は、他の年齢層よりも加療率が高いことから、看護師の需要は増えるものと考える。（資料 9）

②採用意向等、人材需要に関するアンケート調査

卒業後の具体的な進路や地域の人材需要の見通しなどについて、東京都とこれに隣接する神奈川県と埼玉県に所在する保健医療機関を対象として、看護職員の昨年度採用状況や人材配置状況、本学の看護学科設置の社会的必要性、本学の卒業生に対する採用意向等、人材需要に関するアンケート調査を実施した。

その結果、病院等における看護職員の人材配置状況は、回答のあった病院等 608 件のうち、「人数は不足気味である」が 236 件（38.8%）と最も多く回答しており、今後の看護師の人材採用予定については、回答のあった病院等 608 件のうち、「積極的に採用を増やしていくと思う」が 309 件（50.8%）と最も多い回答であった。

また、本学の看護学科の社会的必要性について調査したところ、回答のあった病院等 608 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 457 件（75.2%）と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」97 件（16.0%）の回答があった。

このことから、本学の看護学科の必要性を示し、また保健医療機関がその必要性を認めている。

なお、本学の看護学科卒業生に対する採用意向については、回答のあった病院等 608 件のうち、「採用したい」が 261 件（42.9%）と最も多く、次いで「採用を検討したい」208 件（34.2%）の回答があり、肯定的な採用意向を示した 469 件に対して、新学科（保健医療学部看護学科）卒業生の採用人数（看護師）について調査したところ、「人数は未確定」が 206 件（43.9%）と最も多く、次いで「1 人」92 件（19.6%）、「2 人」77 件（16.4%）、「5 人以上」44 件（9.4%）、「3 人」42 件（9.0%）、「無回答」5 件（1.1%）、「4 人」3 件（0.6%）の順になった。

本学の看護学科卒業生（看護師）の将来的な採用意向人数は、「採用したい」のみで合計した場合、546 人分となる。入学定員は 80 名であるため、約 6.82 倍の採用意向を確保できる見込みとなる。また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向

人数は 810 人分となり、これは、入学定員 80 名に対して、約 10.12 倍となる。

一方、新学科（保健医療学部看護学科）卒業生（助産師）の採用意向について調査したところ、回答のあった病院等 608 件のうち、「採用を検討したい」41 件（6.7%）、「採用したい」35 件（5.8%）の回答があり、肯定的な採用意向を示した 76 件に対して、新学科（保健医療学部看護学科）卒業生の採用人数（助産師）について調査したところ、「1 人」15 件（19.7%）、「2 人」7 件（9.2%）、「5 人以上」3 件（3.9%）、「3 人」2 件（2.6%）、「4 人」1 件（1.3%）となった。

また、本学の看護学科卒業生（助産師）の採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、55 人分となる。助産師の養成予定人数は 10 名であるため、5.5 倍の採用意向を確保できる見込みとなる。また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は 98 人分となり、これは、助産師の養成予定人数である 10 名に対して、9.8 倍となる。（資料 10）

これらのことから、本学の看護学科で学んだ人材への需要は高く、定員 80 人に対する進路先は十分に確保できると見込んでいる。

「学生確保の見通し等を記載した書類」　　資料目次

資料 1　　私立大学の志願倍率と定員充足率

資料 2　　全国の看護系大学入学者の推移

資料 3　　本学の看護学科と類似する近隣大学　学部学科の一般入試競争倍率及び入学定員充足率

資料 4　　東京医療学院大学保健医療学部看護学科（仮称）設置に関する要望書

資料 5　　高校生の入学意向に関するアンケート調査報告

資料 6　　本学の看護学科と類似する近隣大学　学部学科の学費一覧

資料 7　　都道府県別病院勤務看護職員数

資料 8　　東京都保健医療計画（抜粋）

資料 9　　東京都及び多摩市の人口動態

資料 10　　卒業生に対する病院等の採用意向に関するアンケート調査報告

資料1

私立大学の志願倍率と定員充足率

大学全体	志願倍率（倍）	入学定員充足率（%）
平成22年度	7.05	108.48
平成23年度	7.09	106.39
平成24年度	7.02	104.19
平成25年度	7.39	105.56
平成26年度	7.53	103.78

保健系	志願倍率（倍）	入学定員充足率（%）
平成22年度	5.12	109.49
平成23年度	5.53	109.21
平成24年度	5.92	109.80
平成25年度	6.37	110.40
平成26年度	6.09	107.85

・平成22年度から平成26年度の日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センター「私立大学・短期大学等 入学志願動向」より作成

資料2

全国の看護系大学入学者の推移

平成	学校数	1学年定員	応募者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争倍率	充足率
年	ヵ所	人	人	人	人	人	倍	%
22	193	15,504	87,308	79,165	25,803	17,085	4.6	110.2
23	200	16,059	98,206	89,806	26,758	17,457	5.1	108.7
24	211	16,975	107,265	98,054	29,277	18,569	5.3	109.4
25	218	17,878	118,098	108,708	31,531	19,376	5.6	108.4

・株式会社日本看護協会出版会「平成25年　看護関係統計資料集」より作成

資料3

本学の看護学科と類似する近隣大学　学部学科の一般入試競争倍率及び入学定員充足率

平成26年度	学科	専攻	募集人数（人）	受験者数（人）	合格者数（人）	競争倍率（倍）	入学定員（人）	入学者（人）	定員充足率（%）
杏林大学	看護	◇看護学	61	1622	221	7.3	120	140	116.7
上智大学	看護		45	557	115	4.8	70	76	108.6
聖路加国際大学	看護		60	444	91	4.9	75	80	106.7
帝京大学	看護		92	1543	180	8.6	130	151	116.2
帝京科学大学	看護		45	463	86	5.4	80	92	115.0
帝京平成大学	看護		54	833	158	5.3	135	150	111.1
東京有明医療大学	看護		40	323	87	3.7	50	60	120.0
東京医療保健大学	看護		70	1496	313	4.8	100	120	120.0
東京医療保健大学	看護		150	1327	369	3.6	200	231	115.5
東京工科大学	看護		97	1599	339	4.7	120	126	105.0
東邦大学	看護		55	430	96	4.5	102	114	111.8
文京学院大学	看護		70	612	130	4.7	100	105	105.0
武蔵野大学	看護		92	1324	177	7.5	120	122	101.7
神奈川工科大学	新設校								
関東学院大学	看護		50		286	3.7	80	81	101.3
北里大学	看護		50	879	176	5	100	109	109.0
国際医療福祉大学	看護		29	585	109	5.4	50	59	118.0
松蔭大学	新設校								
湘南医療大学	新設校								
昭和大学	看護		65	555	189	2.9	95	104	109.5
東海大学	看護		45	697	112	6.2	75	87	116.0
横浜創英大学	看護		40	415	139	3	80	98	122.5

競争倍率の平均	4.7 倍

入学定員充足率の平均	111.80%

・この表は、各大学HP 及び 株式会社旺文社 「大学受験　パスナビ」 入試結果　のHP（http://passnavi.evidus.com/exam_data/bairitsu）から作成

資料４

２６多企行第５９２号
平成２７年１月２６日

文部科学大臣　下村　博文　殿

多摩市長　阿部　裕行

東京医療学院大学の保健医療学部看護学科（仮称）設置に関する要望書

平素より、本市に対して格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本市は、多摩ニュータウンの開発により人口が急増してきた経緯がありますが、人口構成が特定の世代に偏っていたことにより少子高齢化が急速に進んでいます。市内の小中学校は、平成６年３月から現在に至るまで１０校が閉校しました。

このような状況から、本市では、平成１６年１２月に「多摩市学校跡地施設の恒久活用方針」を策定し、閉校後の学校跡地施設を速やかに恒久活用し、まちづくりに寄与すべく取り組みを進めてまいりました。そして本方針に基づく初めての学校跡地施設の活用事例として、多摩市立南落合小学校跡地において、学校法人常陽学園が東京医療学院大学を設置しました。

平成２４年４月に東京医療学院大学が開校してから現在に至るまで、同大学からは本市の健康福祉行政に対する様々な貢献がありましたが、本市の高齢化の加速に伴う保健医療、福祉や介護に対するサービスの需要が増していくことが予測されることを踏まえると、今後ますます同大学への本市の期待は大きくなります。そうした中で同大学より保健医療学部看護学科（仮称）の設置についての意向を確認しました。

看護学科（仮称）が設置されることにより、医療に関わる多くの人材が育成されるとともに、卒業生の地域貢献など、本市の保健医療や福祉のサービス向上が図られものと期待しており、本市としても早期の開設を強く望んでおります。

本市における状況をご賢察の上、東京医療学院大学保健医療学部看護学科（仮称）の設置が早期に実現されますよう、特段のご配慮を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

東京医療学院大学 保健医療学部 看護学科（仮称）への

高校生の入学意向に関するアンケート調査報告

平成２７年２月

一般財団法人　日本開発構想研究所

東京医療学院大学 保健医療学部 看護学科（仮称）への
高校生の入学意向に関するアンケート調査報告

１．調査概要

(1)　調査目的

平成 28 年 4 月に予定している東京医療学院大学保健医療学部看護学科（仮称）の開設に向けて、設置年度の進学対象層に対する東京医療学院大学保健医療学部看護学科（仮称）への入学意向を把握することを目的とする。

(2)　調査対象高校及び対象者

近隣に所在する高等学校、または、東京医療学院大学に進学実績のある高等学校を中心とした 1 都 2 県（東京都、神奈川県、山梨県）に所在する高等学校の在学者で、平成 28 年度大学進学対象となる高校 2 年生。

(3)　調査方法

近隣に所在する高等学校、または、東京医療学院大学に進学実績のあるものを中心とした高等学校 97 校へ 17,000 人分のアンケート用紙及び東京医療学院大学保健医療学部看護学科（仮称）についてのリーフレットを送付し、教室等で直接アンケート用紙に記入する方法により実施。回答用紙は第三者機関へ高校から直接郵送。

この結果、高校 2 年生 11,895 人から有効回答（有効回収率約 70.0%）があった。

集計結果より、東京医療学院大学保健医療学部看護学科（仮称）への入学意向を分析した。

(4)　調査実施期間

平成 26 年 11 月～平成 27 年 1 月

(5)　調査対象者数等

調査対象者数：高等学校 97 校 17,000 人

有効回答者数：高等学校 94 校 12,278 人の回答のうち、高校 2 年生 11,895 人

有効回収率：約 70.0%（有効回答者数 11,895 人　÷　調査対象者数 17,000 人）

※東京医療学院大学にて設置を構想している保健医療学部看護学科は仮称であるが、本文中ではその旨の表示を省略した。

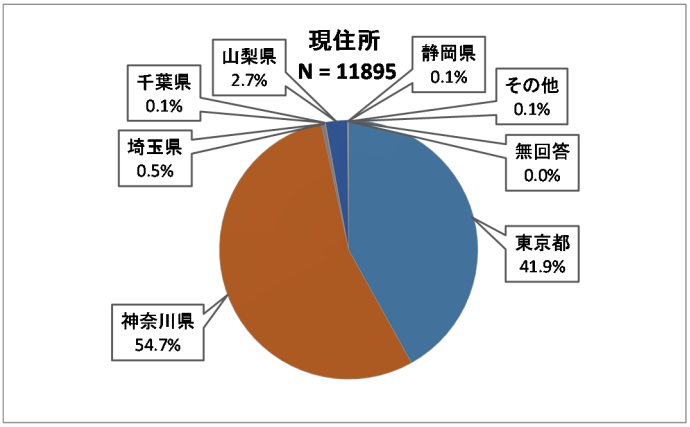
２．調査結果

（1）現住所について

現住所について調査した結果、高校 2 年生 11,895 人のうち、「神奈川県」が 6,503 人（54.7%）と最も多かった。次いで「東京都」4,985 人（41.9%）、「山梨県」324 人（2.7%）、「埼玉県」54 人（0.5%）、「千葉県」10 人（0.1%）、「静岡県」9 人（0.1%）、「その他」6 人（0.1%）、「無回答」4 人（0.0%）の順になっている。

現住所

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東京都	4,985	41.9
2	神奈川県	6,503	54.7
3	埼玉県	54	0.5
4	千葉県	10	0.1
5	山梨県	324	2.7
6	静岡県	9	0.1
7	その他	6	0.1
	無回答	4	0.0
	N（%ベース）	11,895	100

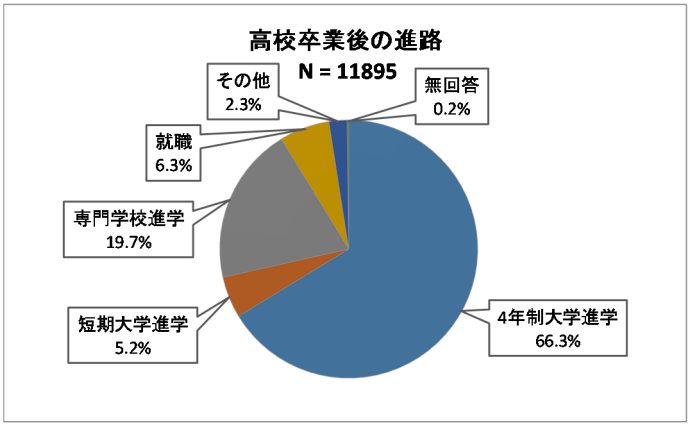


（2）高校卒業後の進路について

高校卒業後の進路について調査した結果、高校2年生11,895人のうち、7,886人（66.3%）が「4年制大学進学」を希望しており、「短期大学進学」は617人（5.2%）、合わせて8,503人（71.5%）が国内の高等教育機関への進学を希望している。さらに、「専門学校進学」2,349人（19.7%）を合わせると、10,852人（91.2%）が高等学校卒業後進学を希望している。

高校卒業後の進路

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	4年制大学進学	7,886	66.3
2	短期大学進学	617	5.2
3	専門学校進学	2,349	19.7
4	就職	749	6.3
5	その他	268	2.3
	無回答	26	0.2
	N（%ベース）	11,895	100



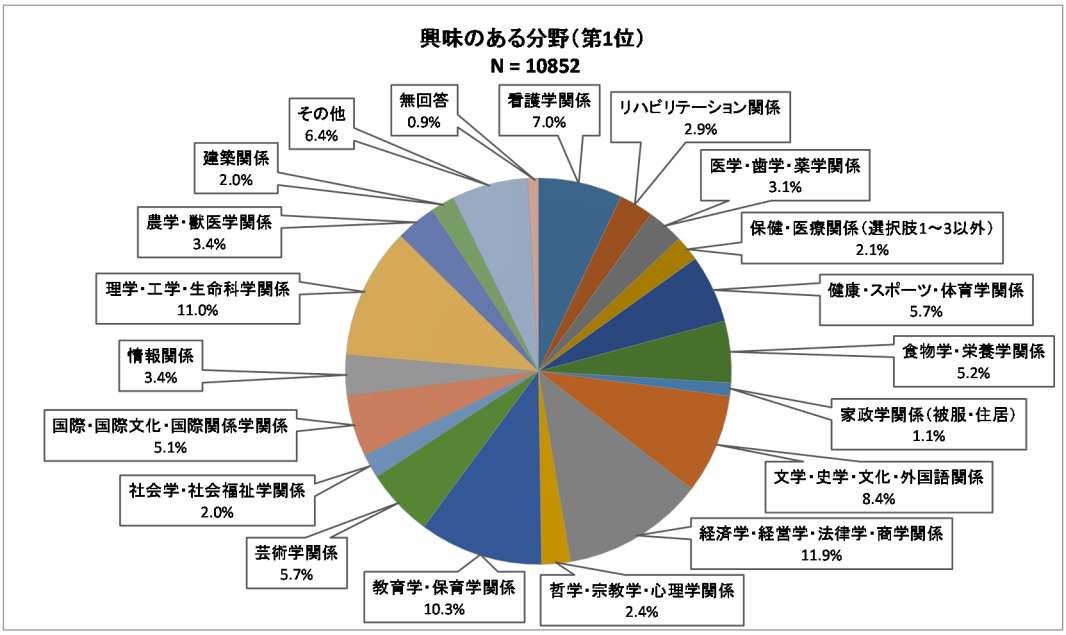
（3）興味のある分野について

3-1　興味のある分野（第 1 位）について

興味のある分野（第 1 位）については「4 年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 10,852 人のうち、「経済学・経営学・法律学・商学関係」が 1,293 人（11.9%）と最も多い。次いで「理学・工学・生命科学関係」1,192 人（11.0%）、「教育学・保育学関係」1,123 人（10.3%）、「文学・史学・文化・外国語関係」907 人（8.4%）、「看護学関係」763 人（7.0%）、「その他」692 人（6.4%）、「芸術学関係」619 人（5.7%）、「健康・スポーツ・体育学関係」618 人（5.7%）、「食物学・栄養学関係」559 人（5.2%）、「国際・国際文化・国際関係学関係」557 人（5.1%）の順になっている。

興味のある分野(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	看護学関係	763	7.0
2	リハビリテーション関係	311	2.9
3	医学・歯学・薬学関係	334	3.1
4	保健・医療関係(選択肢1～3以外)	232	2.1
5	健康・スポーツ・体育学関係	618	5.7
6	食物学・栄養学関係	559	5.2
7	家政学関係(被服・住居)	118	1.1
8	文学・史学・文化・外国語関係	907	8.4
9	経済学・経営学・法律学・商学関係	1,293	11.9
10	哲学・宗教学・心理学関係	264	2.4
11	教育学・保育学関係	1,123	10.3
12	芸術学関係	619	5.7
13	社会学・社会福祉学関係	221	2.0
14	国際・国際文化・国際関係学関係	557	5.1
15	情報関係	368	3.4
16	理学・工学・生命科学関係	1,192	11.0
17	農学・獣医学関係	366	3.4
18	建築関係	218	2.0
19	その他	692	6.4
	無回答	97	0.9
	N（%ベース）	10,852	100

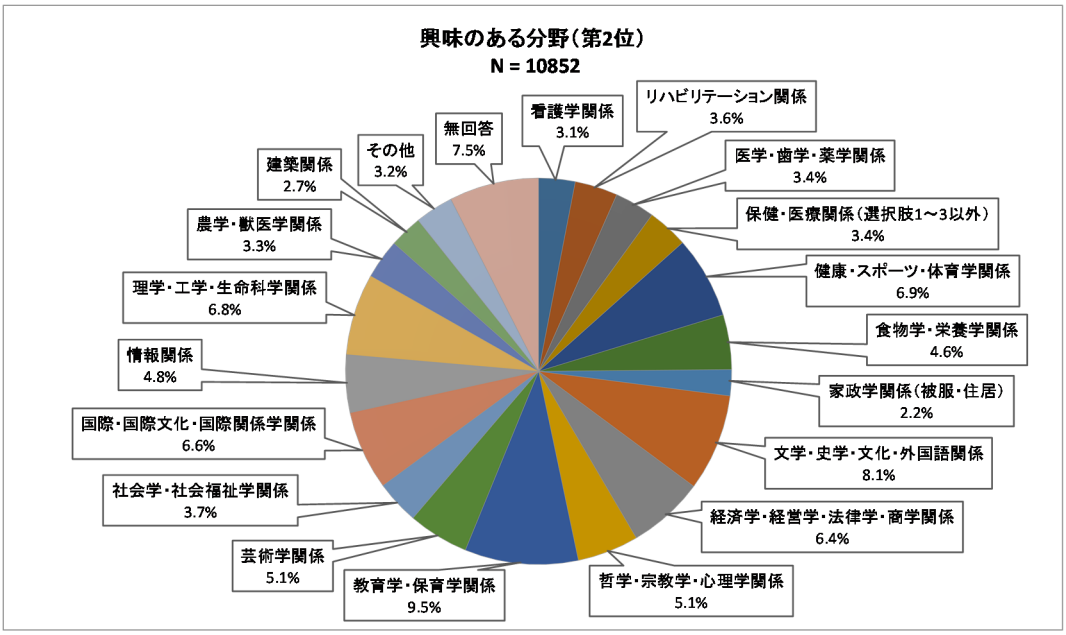


3-2　興味のある分野（第 2 位）について

興味のある分野（第 2 位）については「4 年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 10,852 人のうち、「教育学・保育学関係」が 1,031 人（9.5%）と最も多い。次いで「文学・史学・文化・外国語関係」880 人（8.1%）、「無回答」815 人（7.5%）、「健康・スポーツ・体育学関係」746 人（6.9%）、「理学・工学・生命科学関係」742 人（6.8%）、「国際・国際文化・国際関係学関係」719 人（6.6%）、「経済学・経営学・法律学・商学関係」695 人（6.4%）、「哲学・宗教学・心理学関係」558 人（5.1%）、「芸術学関係」551 人（5.1%）の順になっている。

興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	看護学関係	331	3.1
2	リハビリテーション関係	389	3.6
3	医学・歯学・薬学関係	364	3.4
4	保健・医療関係(選択肢1～3以外)	370	3.4
5	健康・スポーツ・体育学関係	746	6.9
6	食物学・栄養学関係	497	4.6
7	家政学関係(被服・住居)	237	2.2
8	文学・史学・文化・外国語関係	880	8.1
9	経済学・経営学・法律学・商学関係	695	6.4
10	哲学・宗教学・心理学関係	558	5.1
11	教育学・保育学関係	1,031	9.5
12	芸術学関係	551	5.1
13	社会学・社会福祉学関係	397	3.7
14	国際・国際文化・国際関係学関係	719	6.6
15	情報関係	524	4.8
16	理学・工学・生命科学関係	742	6.8
17	農学・獣医学関係	359	3.3
18	建築関係	298	2.7
19	その他	349	3.2
	無回答	815	7.5
	N（%ﾍﾞｰｽ）	10,852	100

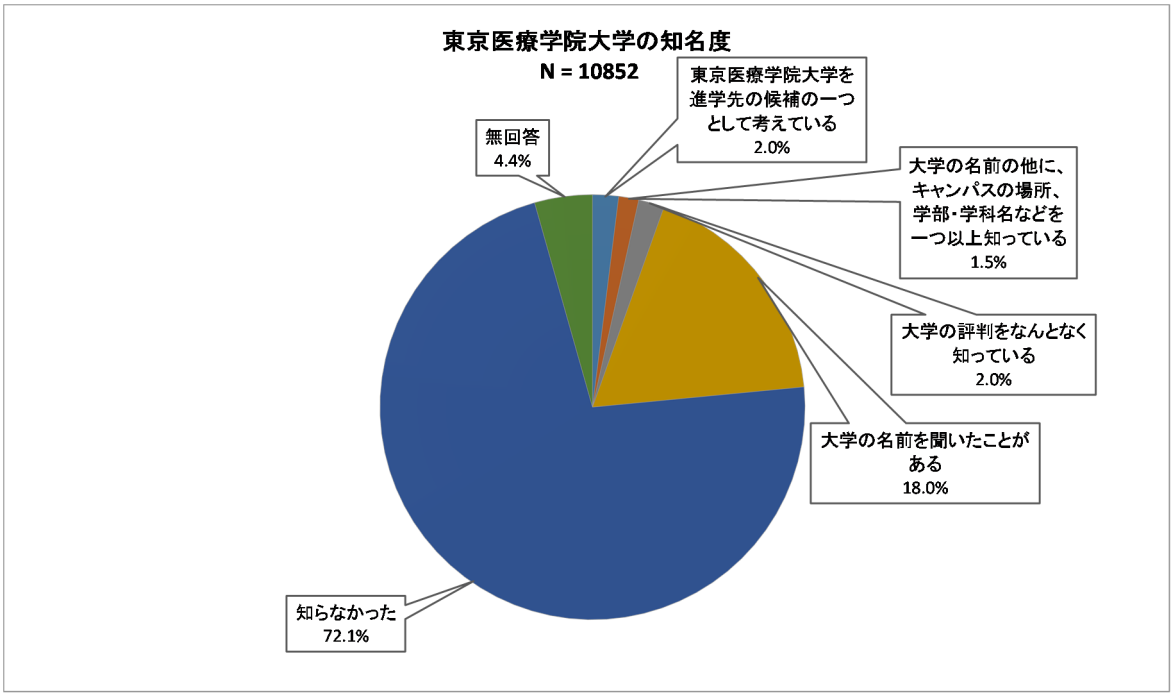


（4）東京医療学院大学の知名度について

「4 年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 10,852 人の内、東京医療学院大学の知名度について、「知らなかった」が 7,827 人（72.1%）と最も多く、次いで「大学の名前を聞いたことがある」1,955 人（18.0%）、「無回答」477 人（4.4%）、「東京医療学院大学を進学先の候補の一つとして考えている」214 人（2.0%）、「大学の評判をなんとなく知っている」213 人（2.0%）、「大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部・学科名などを一つ以上知っている」166 人（1.5%）の順になっている。

東京医療学院大学の知名度

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東京医療学院大学を進学先の候補の一つとして考えている	214	2.0
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部・学科名などを一つ以上知っている	166	1.5
3	大学の評判をなんとなく知っている	213	2.0
4	大学の名前を聞いたことがある	1,955	18.0
5	知らなかった	7,827	72.1
	無回答	477	4.4
	N（%ﾍﾞｰｽ）	10,852	100

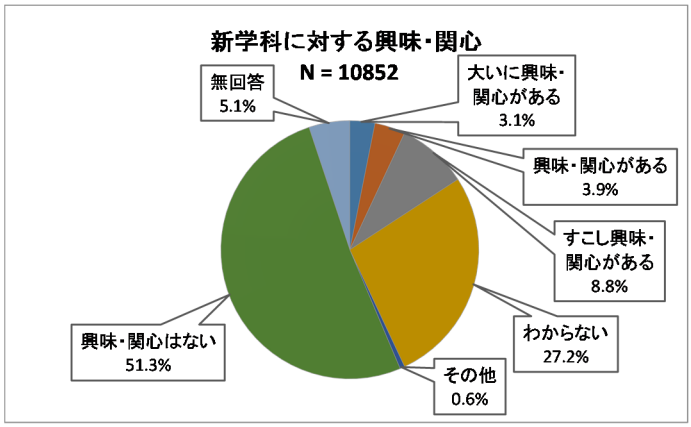


（5）新学科に対する興味・関心について

「4 年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 10,852 人のうち、東京医療学院大学保健医療学部看護学科について「大いに興味・関心がある」と回答したのは 340 人（3.1%）である。また、「興味・関心がある」418 人（3.9%）、「すこし興味・関心がある」958 人（8.8%）との回答があり、「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「すこし興味・関心がある」の合計 1,716 人（15.8%）が東京医療学院大学保健医療学部看護学科に興味・関心を示している。

新学科に対する興味･関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味･関心がある	340	3.1
2	興味･関心がある	418	3.9
3	すこし興味･関心がある	958	8.8
4	わからない	2,952	27.2
5	その他	65	0.6
6	興味･関心はない	5,562	51.3
	無回答	557	5.1
	N（%ベース）	10,852	100

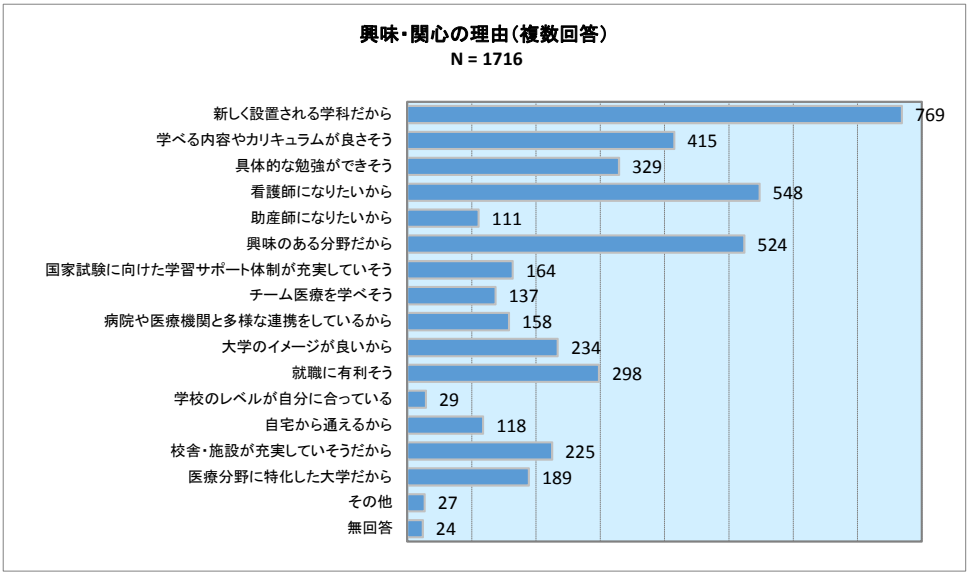


（6）興味・関心の理由について（複数回答）

興味・関心の理由については、「(5) 新学科に対する興味・関心について」にて東京医療学院大学保健医療学部看護学科に興味・関心を示した 1,716 人のうち、「新しく設置される学科だから」が 769 人（44.8%）と最も多かった。次いで、「看護師になりたいから」548 人（31.9%）、「興味のある分野だから」524 人（30.5%）、「学べる内容やカリキュラムが良さそう」415 人（24.2%）、「具体的な勉強ができそう」329 人（19.2%）、「就職に有利そう」298 人（17.4%）、「大学のイメージが良いから」234 人（13.6%）、「校舎・施設が充実していそうだから」225 人（13.1%）、「医療分野に特化した大学だから」189 人（11.0%）、「国家試験に向けた学習サポート体制が充実していそう」164 人（9.6%）、「病院や医療機関と多様な連携をしているから」158 人（9.2%）、「チーム医療を学べそう」137 人（8.0%）、「自宅から通えるから」118 人（6.9%）、「助産師になりたいから」111 人（6.5%）の順になっている。

興味・関心の理由（複数回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	新しく設置される学科だから	769	44.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	415	24.2
3	具体的な勉強ができそう	329	19.2
4	看護師になりたいから	548	31.9
5	助産師になりたいから	111	6.5
6	興味のある分野だから	524	30.5
7	国家試験に向けた学習サポート体制が充実していそう	164	9.6
8	チーム医療を学べそう	137	8.0
9	病院や医療機関と多様な連携をしているから	158	9.2
10	大学のイメージが良いから	234	13.6
11	就職に有利そう	298	17.4
12	学校のレベルが自分に合っている	29	1.7
13	自宅から通えるから	118	6.9
14	校舎・施設が充実していそうだから	225	13.1
15	医療分野に特化した大学だから	189	11.0
16	その他	27	1.6
	無回答	24	1.4
	N（%ベース）	1,716	100



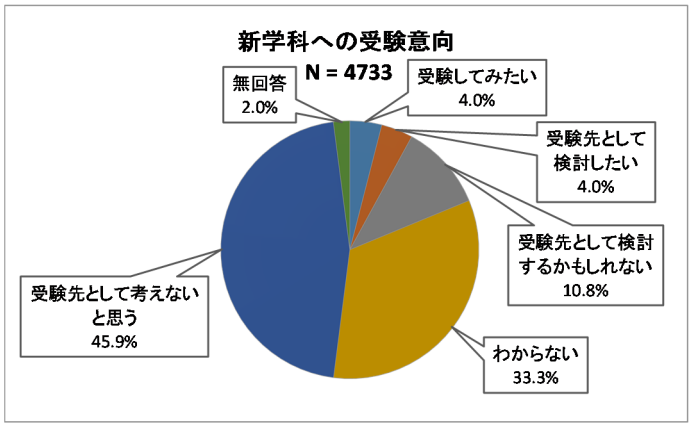
（7）新学科への受験意向について

「4 年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 10,852 人のうち、「(5) 新学科に対する興味・関心について」にて「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「すこし興味・関心がある」「わからない」「その他」と回答した 4,733 人に、東京医療学院大学保健医療学部看護学科への受験意向について調査した。

その結果、「受験してみたい」189 人（4.0%）、「受験先として検討したい」188 人（4.0%）、「受験先として検討するかもしれない」511 人（10.8%）の合計 888 人（18.8%）が受験意向を示している。

新学科への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験してみたい	189	4.0
2	受験先として検討したい	188	4.0
3	受験先として検討するかもしれない	511	10.8
4	わからない	1,574	33.3
5	受験先として考えないと思う	2,174	45.9
	無回答	97	2.0
	N（%ﾍﾞｰｽ）	4,733	100



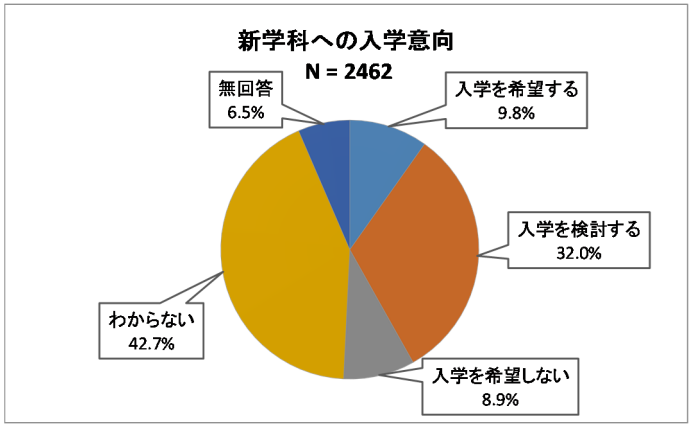
（8）新学科への入学意向について

「(7) 新学科への受験意向について」にて、東京医療学院大学保健医療学部看護学科への受験意向を示した 888 人と、「わからない」と回答した 1,574 人、合計 2,462 人に東京医療学院大学保健医療学部看護学科への入学意向について調査した。

その結果は、「入学を希望する」242 人（9.8%）、「入学を検討する」788 人（32.0%）となり、合計 1,030 人（41.8%）が入学意向を示している。

新学科への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	242	9.8
2	入学を検討する	788	32.0
3	入学を希望しない	220	8.9
4	わからない	1,052	42.7
	無回答	160	6.5
	N（%ﾍﾞｰｽ）	2,462	100



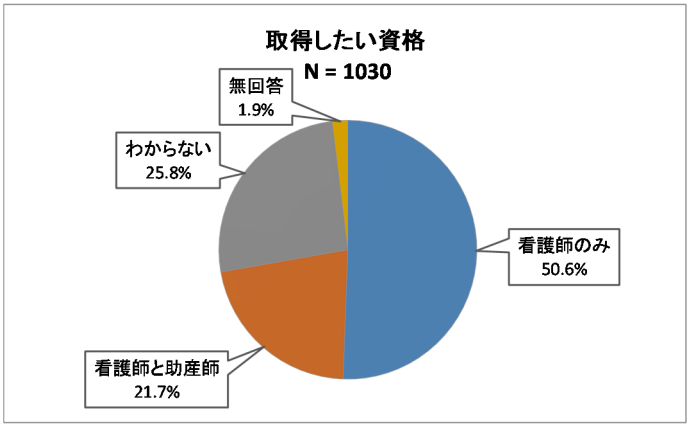
（9）取得したい資格について

「（8）新学科への入学意向について」にて、東京医療学院大学保健医療学部看護学科への入学意向を示した 1,030 人に、取得したい資格について調査した。

その結果は、「看護師のみ」が 521 人（50.6%）と最も多く、次いで「わからない」266 人（25.8%）、「看護師と助産師」223 人（21.7%）、「無回答」20 人（1.9%）の順になっている。

取得したい資格

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	看護師のみ	521	50.6
2	看護師と助産師	223	21.7
3	わからない	266	25.8
	無回答	20	1.9
	N（%ベース）	1,030	100



３．調査結果のまとめ

「(8) 新学科への入学意向について」より、東京医療学院大学保健医療学部看護学科へ「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 242 人いることがわかる。これによって、東京医療学院大学保健医療学部看護学科の入学定員 80 名に対して約 3.02 倍の入学意向を確保しているといえる。

また、「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生が、合算で 1,030 人いることから、東京医療学院大学保健医療学部看護学科の入学定員 80 名に対して約 12.87 倍の入学意向を示したといえる。

さらに、「(7) 新学科への受験意向について」と「(8) 新学科への入学意向について」の調査結果のクロス集計を実施したところ、「受験してみたい」と回答した上で、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生が 121 名となり、これは東京医療学院大学保健医療学部看護学科の入学定員 80 名に対して約 1.51 倍の入学意向を確保しているといえる。

新学科への受験意向 × 新学科への入学意向

上段:度数 下段:%		新学科への受験意向				
		合計	受験してみたい	受験先として検討したい	受験先として検討するかもしれない	わからない
新学科への入学意向	全体	2,462 100.0	189 7.7	188 7.6	511 20.8	1,574 63.9
	入学を希望する	242 100.0	121 50.0	39 16.1	38 15.7	44 18.2
	入学を検討する	788 100.0	53 6.7	121 15.4	336 42.6	278 35.3
	入学を希望しない	220 100.0	4 1.8	8 3.6	40 18.2	168 76.4
	わからない	1,052 100.0	8 0.8	18 1.7	94 8.9	932 88.6
	無回答	160 100.0	3 1.9	2 1.3	3 1.9	152 95.0

以上の調査結果と、調査対象の高等学校以外からの高校生の進学も考えられることから、東京医療学院大学保健医療学部看護学科の入学定員を満たす学生は十分に確保できるものと考える。

調査票

「東京医療学院大学保健医療学部 看護学科（仮称）の設置に係るアンケート調査」

・このアンケート調査は、2016 年４月に設置予定の新学科（看護学科（仮称））の設置計画の基礎資料にするため、
高校２年生のみなさんの卒業後の進路等についてお聞きするものです。ご協力をお願いいたします。
・このアンケート結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。
・回答は、該当する番号を直接解答欄へ記入してください。

■東京医療学院大学保健医療学部の新学科（看護学科（仮称））において予定している入学金、授業料等［予定］
○看護学科（仮称） 入学定員：80 名（予定） 初年度学納金：185 万円（入学金を含む）（予定）
【取得可能な資格】看護師国家試験受験資格、助産師国家試験受験資格
【看護学科（仮称）がめざすもの】
仁愛 品性が人の道にかなったあり方に仕上げられ、高められてあり、深い心で人を思いやる行動・態度をなせる看護師及び助産師を育みます
知識 専門知識のみならず、常に専門性を向上させる学習意欲と課題解決に向けた探究心を備える看護師及び助産師を育みます
技術 常に学習や研究を行い、最新の知識や臨床技術を身に付けて提供できる看護師及び助産師を育みます
【予想される将来の活躍の場】病院、助産所、訪問看護ステーション、老人保健施設、大学等研究機関、大学院への進学など

＊新学科設置は計画中であり、学部・学科名称、取得可能資格等については正式に決まったものではありません。

［ あなたに関することについてお答えください ］ 【回答欄】

問１ あなたの性別についておたずねします。
１ 男子 ２ 女子 □

問２ あなたの学年をおたずねします。
１ 高校２年生 ２ その他（ ） □

問３ あなたのお住まい（現住所）についておたずねします。
１ 東京都 ３ 埼玉県 ５ 山梨県 ７ その他
２ 神奈川県 ４ 千葉県 ６ 静岡県 （ ） □

問４ あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。次の中から１つだけ選んでください。
１ ４年制大学進学
２ 短期大学進学
３ 専門学校進学
４ 就職
５ その他（ ）
→ 1、2、3を選ばれた方は問５へお進みください。
4、5を選ばれた方は問 12 へお進みください。 □

問５ あなたは進学先（大学、短期大学、専門学校）で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか。次の中であてはまるものを第２位まで選んでください。
１ 看護学関係
２ リハビリテーション関係
３ 医学・歯学・薬学関係
４ 保健・医療関係（選択肢 1～3 以外）
５ 健康・スポーツ・体育学関係
６ 食物学・栄養学関係
７ 家政学関係（被服・住居）
８ 文学・史学・文化・外国語関係
９ 経済学・経営学・法律学・商学関係
10 哲学・宗教学・心理学関係
11 教育学・保育学関係
12 芸術学関係
13 社会学・社会福祉学関係 第１位 □
14 国際・国際文化・国際関係学関係
15 情報関係
16 理学・工学・生命科学関係 第２位 □
17 農学・獣医学関係
18 建築関係
19 その他
（具体的に ）

ー裏面へお進みくださいー

ここからは看護学科（仮称）の概要（リーフレット）と
新学科と類似する近隣の大学･学部･学科一覧をご覧いただいた上でお答えください。

問６　あなたは東京医療学院大学を知っていますか。次の中から１つだけ選んでください。
１　東京医療学院大学を進学先の候補の一つとして考えている
２　大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部・学科名などを一つ以上知っている
３　大学の評判をなんとなく知っている
４　大学の名前を聞いたことがある
５　知らなかった

問７　あなたは東京医療学院大学が新たに設置を計画している看護学科（仮称）について、どのように考えますか。
次の中から１つだけ選んでください。

１　大いに興味・関心がある
２　興味・関心がある
３　すこし興味・関心がある
４　わからない
５　その他（具体的に　　）
６　興味・関心はない

１、２、３を選ばれた方は問８へお進み下さい
４、５を選ばれた方は問９へお進み下さい
６を選ばれた方は問 12 へお進み下さい

問８　問７で「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「すこし興味・関心がある」
と回答された方におたずねします。それは、どのような理由からですか。次の中から
３つまで選んでください。回答後は問９へお進みください。

１　新しく設置される学科だから
２　学べる内容やカリキュラムが良さそう
３　具体的な勉強ができそう
４　看護師になりたいから
５　助産師になりたいから
６　興味のある分野だから
７　国家試験に向けた学習サポート体制が充実していそう
８　チーム医療を学べそう
９　病院や医療機関と多様な連携をしているから
１０　大学のイメージが良いから
１１　就職に有利そう
１２　学校のレベルが自分に合っている
１３　自宅から通えるから
１４　校舎・施設が充実していそうだから
１５　医療分野に特化した大学だから
１６　その他（具体的に　　）

問９　設置準備をしている東京医療学院大学の新学科（看護学科（仮称））について、
受験したいと思いますか。次の中から１つだけ選んでください。

１　受験してみたい
２　受験先として検討したい
３　受験先として検討するかもしれない
４　わからない
５　受験先として考えないと思う

1～4 を選択された方は問 10 へお進み下さい。
5 を選択された方は問 12 へお進みください。

問 10　問９にて、「受験してみたい」「受験先として検討したい」「受験先として検討するかもしれない」
「わからない」と回答された方におたずねします。
設置準備をしている東京医療学院大学の新学科（看護学科（仮称））を受験し、
合格された場合の入学意向について、次の中から１つだけ選んでください。

１　入学を希望する
２　入学を検討する
３　入学を希望しない
４　わからない

1、2 を選択された方は問 11 へお進み下さい。
3、4 を選択された方は問 12 へお進みください。

問 11　問 10 にて「入学を希望する」、「入学を検討する」を回答された方におたずねします。
取得したい資格について次の中から１つだけ選んでください。

１　看護師のみ　　２　看護師と助産師　　３　わからない

問 12　東京医療学院大学の新学科の設置計画にあたって、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

◆ご協力ありがとうございました

新学科と類似する近隣の大学・学部・学科一覧

国公立	大学名	学部学科名	所在地	入学定員	取得可能資格（国家試験受験資格）			入学初年度年間学納金等（単位：円）			2年次以降年間学納金等（単位：円）
					看護師	保健師	助産師	総額	内訳		
									入学金	学納金等	学納金等
私	杏林大学	保健学部 看護学科 （看護学専攻）	東京都　三鷹市	90	○	△	△	1,900,000	250,000	1,650,000	1,650,000
私	上智大学	総合人間科学部 看護学科	東京都　千代田区	70	○	△		1,866,300	270,000	1,596,300	1,596,300
私	聖路加国際大学	看護学部 看護学科	東京都　中央区	75	○	△		1,950,000	400,000	1,550,000	1,550,000
私	帝京大学	医療技術学部 看護学科	東京都　板橋区	130	○	△		1,975,000	250,000	1,725,000	2年 3年:1,725,000 4年:1,793,000
私	帝京科学大学	医療科学部 看護学科	東京都　足立区	80	○			1,880,000	250,000	1,630,000	1,670,000
私	帝京平成大学	ヒューマンケア学部 看護学科	東京都　中野区	119	○	△	△	1,933,000	300,000	1,633,000	1,673,000
私	東京有明医療大学	看護学部 看護学科	東京都　江東区	50	○	△		2,050,000	300,000	1,750,000	1,750,000
私	東京医療保健大学	医療保健学部 看護学科	東京都　品川区	100	○	△		1,900,000	500,000	1,400,000	2年 4年:1,450,000 3年:1,550,000
私	東京医療保健大学	医療保健学部 看護学科	東京都　目黒区	200	○			1,900,000	500,000	1,400,000	2年 4年:1,450,000 3年:1,550,000
私	東京工科大学	医療保健学部 看護学科	東京都　大田区	120	○	△		2,100,000	450,000	1,650,000	2年:1,680,000 3年:1,716,000 4年:1,750,000
私	東邦大学	看護学部 看護学科	東京都　大田区	102	○	△	△	2,400,000	500,000	1,900,000	1,900,000
私	文京学院大学	保健医療技術学部 看護学科	東京都　文京区	100	○	△		1,898,000	280,000	1,618,000	2年:1,602,000 3年:1,608,000 4年:1,594,000
私	武蔵野大学	看護学部 看護学科	東京都　西東京市	120	○	△		1,810,000	250,000	1,560,000	2年:1,644,000 3年 4年:1,647,000
私	神奈川工科大学	看護学部 看護学科	神奈川県　厚木市	80	○	△		1,850,000	190,000	1,660,000	2年:1,670,000 3年:1,680,000 4年:1,690,000
私	関東学院大学	看護学部 看護学科	横浜市　金沢区	80	○			1,830,000	280,000	1,550,000	1,550,000
私	北里大学	看護学部 看護学科	神奈川県　相模原市	100	○	△	△	1,900,000	400,000	1,500,000	1,650,000 助産教育課程 指定科目履修料 別途 300,000
私	国際医療福祉大学	小田原保健医療学部 看護学科	神奈川県　小田原市	50	○	○		1,550,000	300,000	1,250,000	1,450,000
私	松蔭大学	看護学部 看護学科	神奈川県　厚木市	100	○			約1,880,000	330,000	約1,550,000	約1,500,000
私	湘南医療大学	保健医療学部 看護学科	神奈川県　茅ヶ崎市	80	○	△	△	1,710,000	330,000	1,380,000	1,630,000
私	昭和大学	保健医療学部 看護学科	神奈川県　横浜市	95	○	△		1,550,000	500,000	1,050,000	1,630,000
私	東海大学	健康科学部 看護学科	神奈川県　伊勢原市	75	○	△		1,604,000	300,000	1,304,000	1,304,000
私	横浜創英大学	看護学部 看護学科	神奈川県　横浜市	80	○	△		1,868,000	300,000	1,568,000	1,568,000
私	**東京医療学院大学**	**保健医療学部 看護学科（仮称）**	**東京都　多摩市**	**80**	**○**		**△**	**1,850,000**	**300,000**	**1,550,000**	**1,550,000**

※日本私立大学団体連合会『学生納付金等調査（平成 25 年度入学生）』及びホームページ等より調査しました。
※各大学で取得できる資格等はホームページ等より調査しましたが、正しくは各大学にご確認下さい。
※△印は選抜等の制限等が付されています。詳細は各大学にご確認ください。
※各大学の学費については、諸会費などを含んでいない場合があるため、概算として参考にして下さい。
※東京医療学院大学の収容定員、学費等は予定であり、変更する場合があります。



人に優しく社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

東京医療学院大学
University of Tokyo Health Sciences

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更する場合があります。

美しい東京の多摩の地に
看護のさらなる発展を担う
看護学科※〈仮称〉を新たに設置予定です。



看護学科※〈仮称〉がめざすもの

仁愛

品性が人の道にかなったあり方に仕上げられ、高められてあり、
深い心で人を思いやる行動・態度をなせる看護師及び助産師を育みます。

知識

専門知識のみならず、常に専門性を向上させる学習意欲と
課題解決に向けた探究心を備える看護師及び助産師を育みます。

技術

常に学習や研究を行い、最新の知識や臨床技術を身に付けて
提供できる看護師及び助産師を育みます。





仁愛 知識 技術 を礎にした人材教育

最新の知識と技術を求め、生涯にわたる学習意欲と
課題解決に向けて探究し、医療機関や福祉施設等で
活躍し、自らの成長とともに、地域の保健医療のリー
ダーとして社会に貢献できる看護師及び助産師を育
成します。

総合力は看護の実践力

看護の**専門性**、**実践力**、**学び続ける探究心**。
専門職としての**教養**。
これらを統合する力を育成します。



コミュニティに立脚

子供からお年寄り、病気や障がいのある人々、妊娠から子育てまでの段階にある人々など、それぞれの健康を地域やコミュニティ、家庭といった**それぞれの生活の場で支える**ことができる看護師及び助産師の育成を目指します。



学びのグループ

対話力、**思考力**、**人間力**、**協働する力**が必要とされる看護。本学では新しい学びの形を追求しつつ、**高い実践力**をつけます。また、リハビリテーション学科の学生と共に学ぶチーム医療教育を行います。

発展する看護

日々発展し変化し続ける看護の知識や技術。その変化に対応できる**幅広い教養**や**高い倫理観**。看護師及び助産師として将来に対応できるよう育成します。

取得可能資格

●国家試験受験資格

看護師
(定員80名予定)

助産師
(選択制：学内選抜予定人数未定)

予想される将来の活躍の場

病院、助産所、訪問看護ステーション、
老人保健施設、大学等研究機関、
大学院への進学 など





※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更する場合があります。

東京都西部地域の中心地の１つである『多摩センター』で学ぶ。



教育環境

東京都西部地区の中心駅の一つである「多摩センター」は、京王線・小田急線・多摩モノレールの３つの路線が通ります。新宿駅・立川駅・町田駅の他、神奈川県からも30分圏内で通えます。大学は、緑豊かで開放感いっぱいの閑静なキャンパスであり、学習に最適な環境です。



多摩中央公園にて



アクセス

- 最寄り駅／京王線・小田急線・多摩モノレール「多摩センター」駅
- バスターミナル10番乗り場より約5分「東京医療学院大学前」下車、すぐ。8番乗り場より約7分「豊ヶ丘五丁目」下車、徒歩5分。
- 最寄駅より徒歩25分。

東京医療学院大学
University of Tokyo Health Sciences

［保健医療学部］リハビリテーション学科
●理学療法学専攻 ●作業療法学専攻
NEW 看護学科（仮称）

〒206-0033 東京都多摩市落合4-11 http://www.u-ths.ac.jp

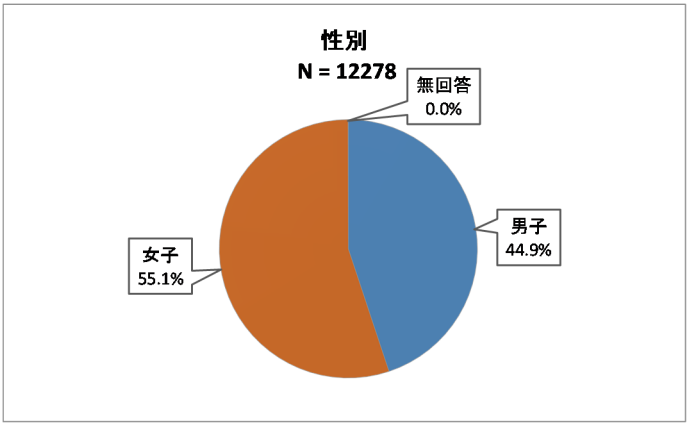
看護学科（仮称）新設に関するお問い合わせ▶東京医療学院大学 看護学科増設準備室 TEL：042-373-8118

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更する場合があります。

単純集計表

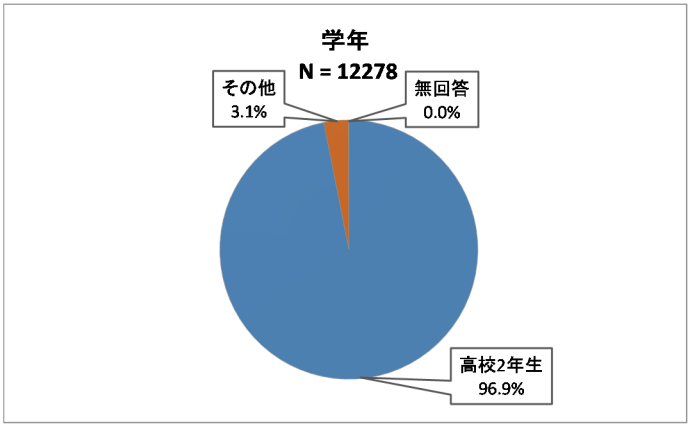
性別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	男子	5,512	44.9
2	女子	6,761	55.1
	無回答	5	0.0
	N（%ﾍﾞｰｽ）	12,278	100



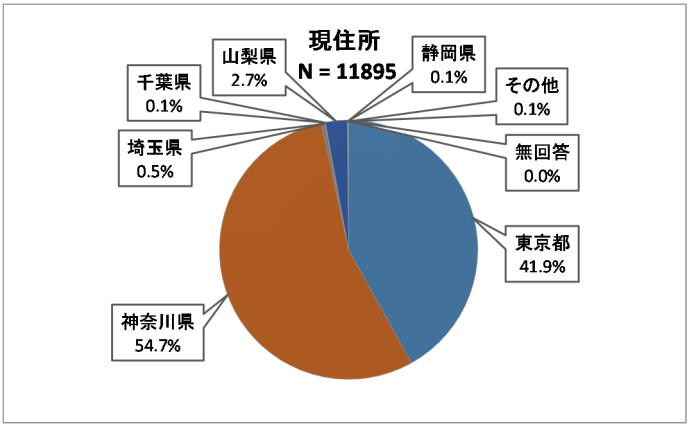
学年

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	高校2年生	11,895	96.9
2	その他	379	3.1
	無回答	4	0.0
	N（%ﾍﾞｰｽ）	12,278	100



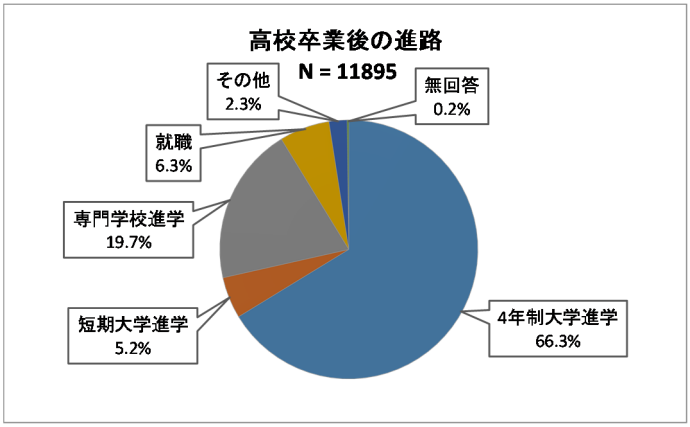
現住所

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東京都	4,985	41.9
2	神奈川県	6,503	54.7
3	埼玉県	54	0.5
4	千葉県	10	0.1
5	山梨県	324	2.7
6	静岡県	9	0.1
7	その他	6	0.1
	無回答	4	0.0
	N（%ﾍﾞｰｽ）	11,895	100



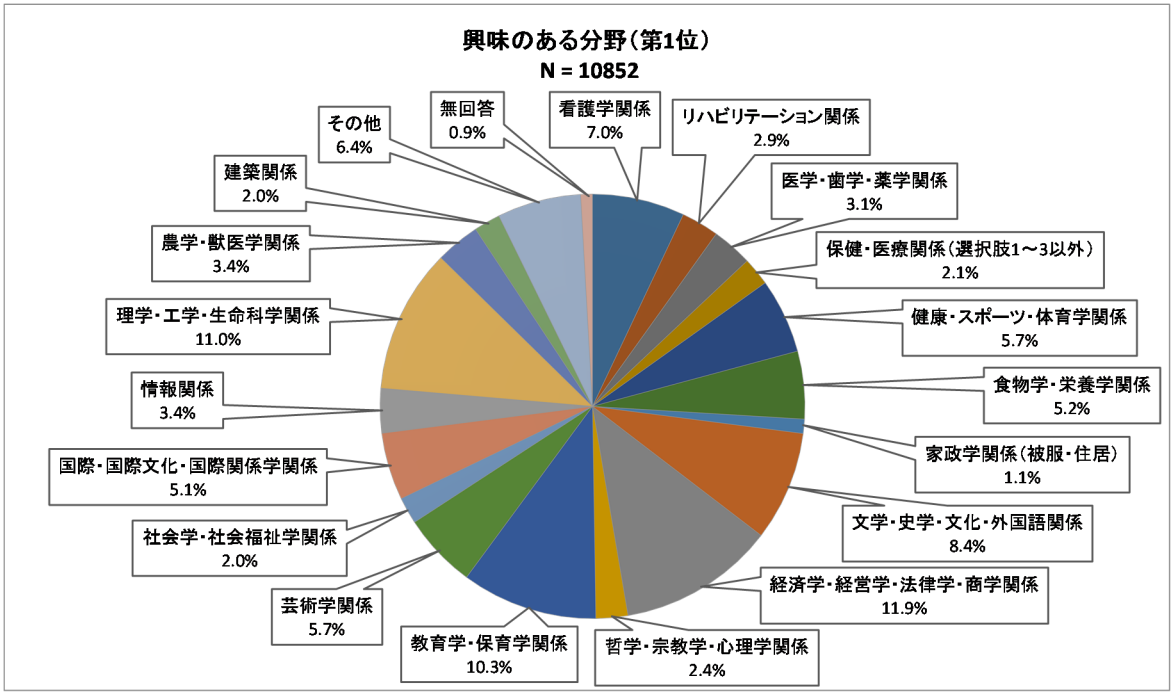
高校卒業後の進路

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	4年制大学進学	7,886	66.3
2	短期大学進学	617	5.2
3	専門学校進学	2,349	19.7
4	就職	749	6.3
5	その他	268	2.3
	無回答	26	0.2
	N（%ﾍﾞｰｽ）	11,895	100



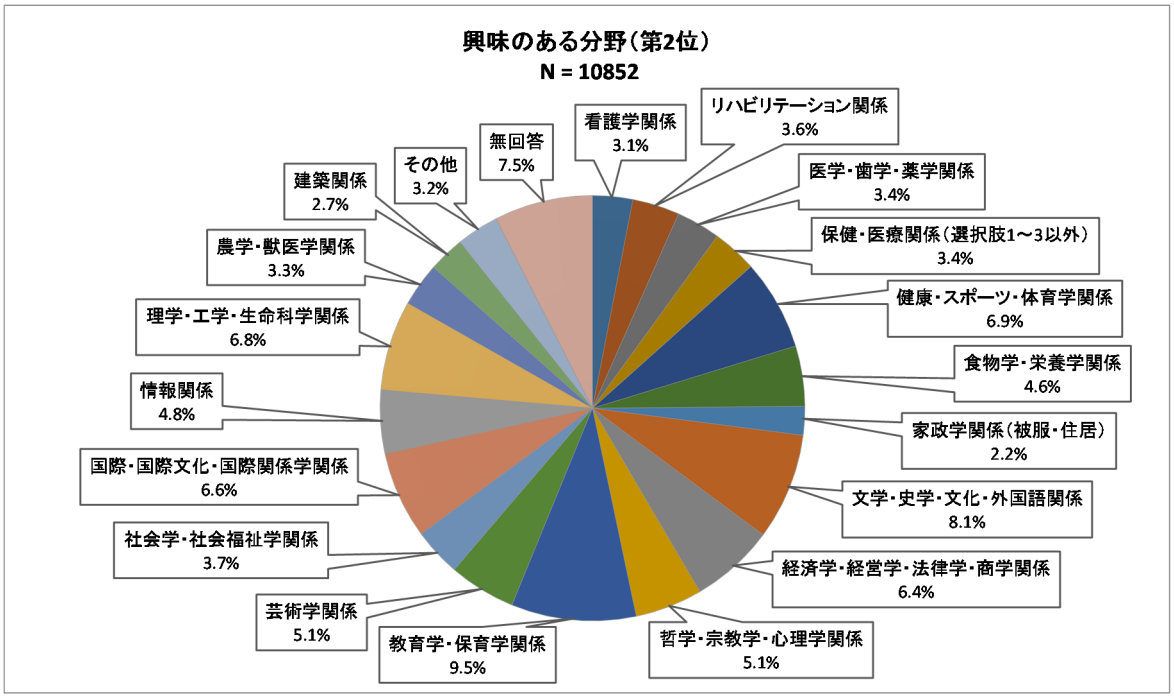
興味のある分野（第1位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	看護学関係	763	7.0
2	リハビリテーション関係	311	2.9
3	医学・歯学・薬学関係	334	3.1
4	保健・医療関係（選択肢1～3以外）	232	2.1
5	健康・スポーツ・体育学関係	618	5.7
6	食物学・栄養学関係	559	5.2
7	家政学関係（被服・住居）	118	1.1
8	文学・史学・文化・外国語関係	907	8.4
9	経済学・経営学・法律学・商学関係	1,293	11.9
10	哲学・宗教学・心理学関係	264	2.4
11	教育学・保育学関係	1,123	10.3
12	芸術学関係	619	5.7
13	社会学・社会福祉学関係	221	2.0
14	国際・国際文化・国際関係学関係	557	5.1
15	情報関係	368	3.4
16	理学・工学・生命科学関係	1,192	11.0
17	農学・獣医学関係	366	3.4
18	建築関係	218	2.0
19	その他	692	6.4
	無回答	97	0.9
	N（%ベース）	10,852	100



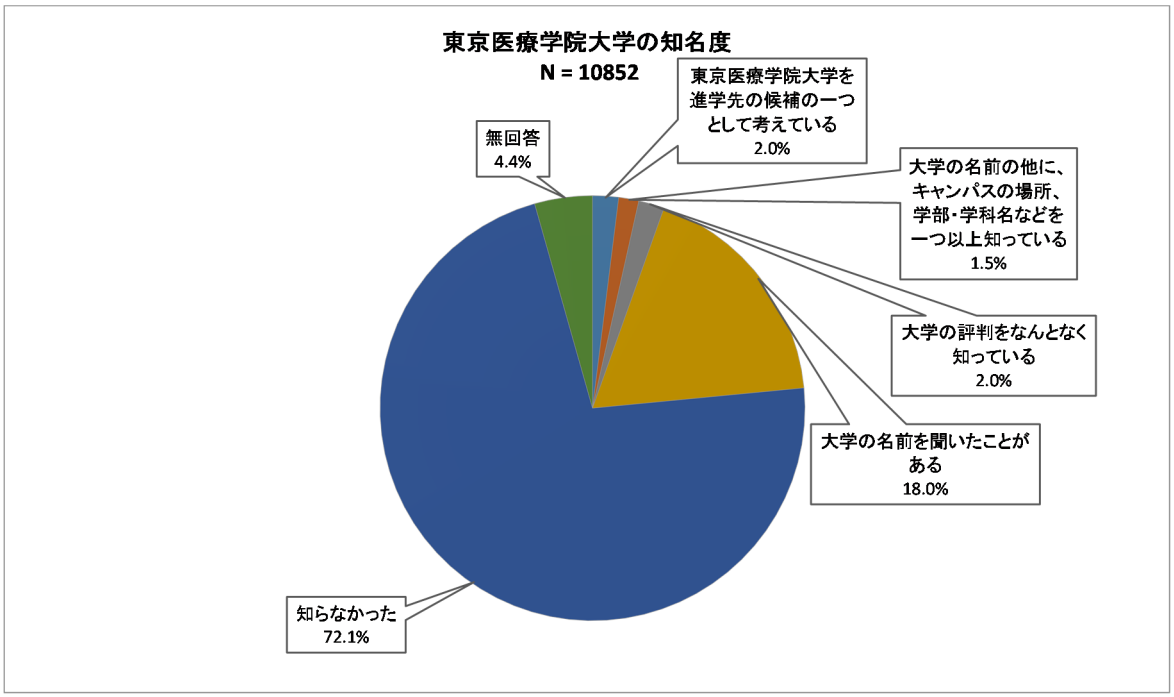
興味のある分野（第2位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	看護学関係	331	3.1
2	リハビリテーション関係	389	3.6
3	医学・歯学・薬学関係	364	3.4
4	保健・医療関係（選択肢1～3以外）	370	3.4
5	健康・スポーツ・体育学関係	746	6.9
6	食物学・栄養学関係	497	4.6
7	家政学関係（被服・住居）	237	2.2
8	文学・史学・文化・外国語関係	880	8.1
9	経済学・経営学・法律学・商学関係	695	6.4
10	哲学・宗教学・心理学関係	558	5.1
11	教育学・保育学関係	1,031	9.5
12	芸術学関係	551	5.1
13	社会学・社会福祉学関係	397	3.7
14	国際・国際文化・国際関係学関係	719	6.6
15	情報関係	524	4.8
16	理学・工学・生命科学関係	742	6.8
17	農学・獣医学関係	359	3.3
18	建築関係	298	2.7
19	その他	349	3.2
	無回答	815	7.5
	N（%ベース）	10,852	100



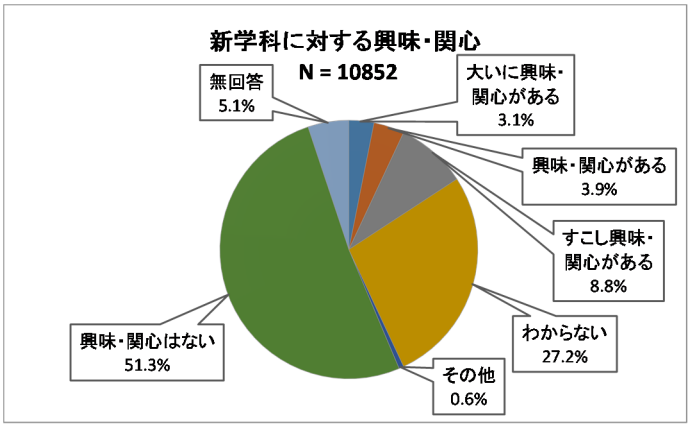
東京医療学院大学の知名度

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東京医療学院大学を進学先の候補の一つとして考えている	214	2.0
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部・学科名などを一つ以上知っている	166	1.5
3	大学の評判をなんとなく知っている	213	2.0
4	大学の名前を聞いたことがある	1,955	18.0
5	知らなかった	7,827	72.1
	無回答	477	4.4
	N（%ベース）	10,852	100



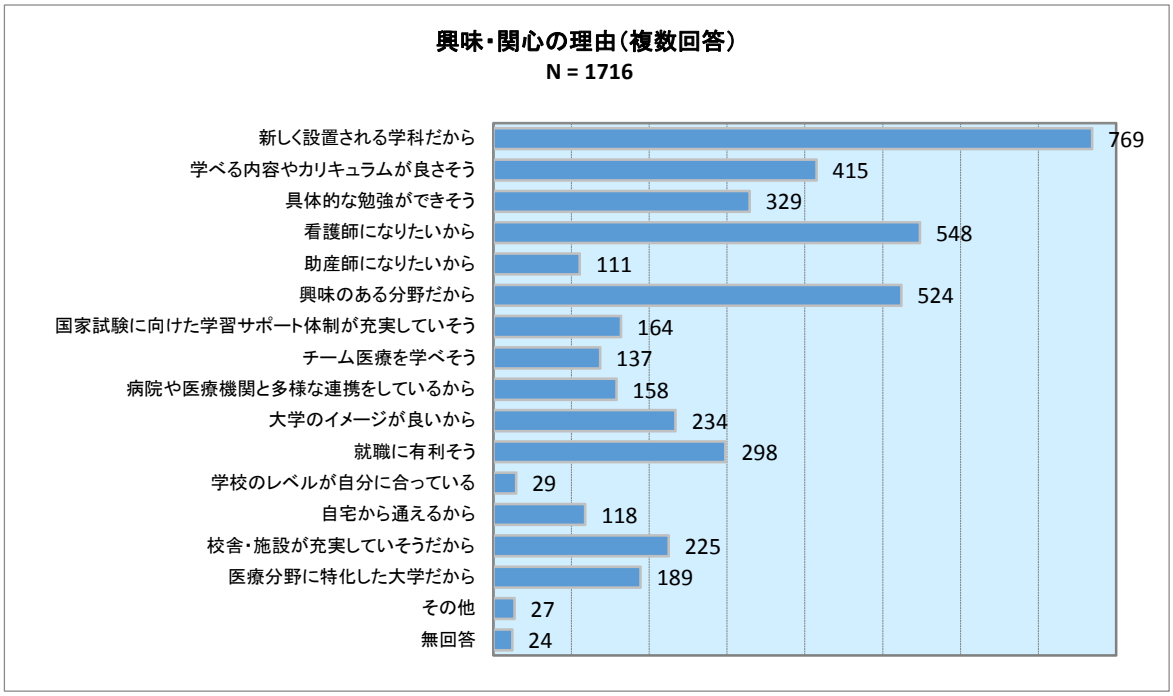
新学科に対する興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	340	3.1
2	興味・関心がある	418	3.9
3	すこし興味・関心がある	958	8.8
4	わからない	2,952	27.2
5	その他	65	0.6
6	興味・関心はない	5,562	51.3
	無回答	557	5.1
	N（%ベース）	10,852	100



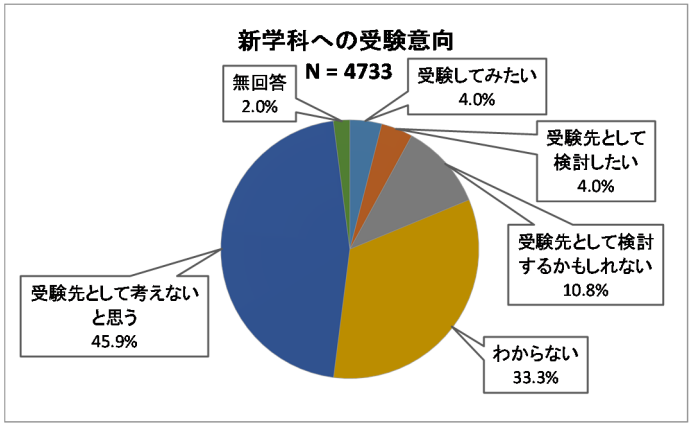
興味・関心の理由（複数回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	新しく設置される学科だから	769	44.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	415	24.2
3	具体的な勉強ができそう	329	19.2
4	看護師になりたいから	548	31.9
5	助産師になりたいから	111	6.5
6	興味のある分野だから	524	30.5
7	国家試験に向けた学習サポート体制が充実していそう	164	9.6
8	チーム医療を学べそう	137	8.0
9	病院や医療機関と多様な連携をしているから	158	9.2
10	大学のイメージが良いから	234	13.6
11	就職に有利そう	298	17.4
12	学校のレベルが自分に合っている	29	1.7
13	自宅から通えるから	118	6.9
14	校舎・施設が充実していそうだから	225	13.1
15	医療分野に特化した大学だから	189	11.0
16	その他	27	1.6
	無回答	24	1.4
	N（%ﾍﾞｰｽ）	1,716	100



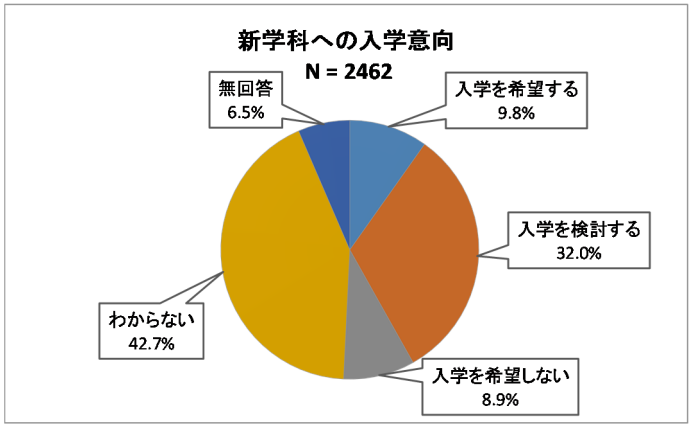
新学科への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験してみたい	189	4.0
2	受験先として検討したい	188	4.0
3	受験先として検討するかもしれない	511	10.8
4	わからない	1,574	33.3
5	受験先として考えないと思う	2,174	45.9
	無回答	97	2.0
	N（%ﾍﾞｰｽ）	4,733	100



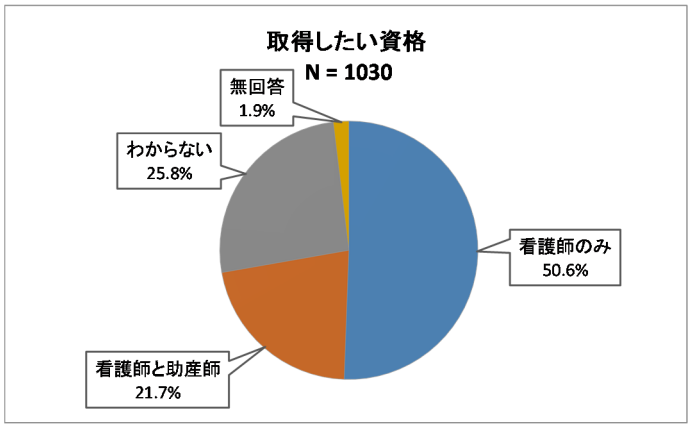
新学科への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	242	9.8
2	入学を検討する	788	32.0
3	入学を希望しない	220	8.9
4	わからない	1,052	42.7
	無回答	160	6.5
	N（%ﾍﾞｰｽ）	2,462	100



取得したい資格

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	看護師のみ	521	50.6
2	看護師と助産師	223	21.7
3	わからない	266	25.8
	無回答	20	1.9
	N（%ﾍﾞｰｽ）	1,030	100



資料6

本学の看護学科と類似する近隣大学　学部学科の学費一覧

国公立	大学名	学部学科名	所在地	入学定員	取得可能資格（国家試験受験資格）			入学初年度年間学納金等（単位：円）			2年次以降年間学納金等（単位：円）
					看護師	保健師	助産師	総額	内訳		
									入学金	学納金等	学納金等
私	杏林大学	保健学部 看護学科 （看護学専攻）	東京都　三鷹市	90	○	△	△	1,900,000	250,000	1,650,000	1,650,000
私	上智大学	総合人間科学部 看護学科	東京都　千代田区	70	○	△		1,866,300	270,000	1,596,300	1,596,300
私	聖路加国際大学	看護学部 看護学科	東京都　中央区	75	○	△		1,950,000	400,000	1,550,000	1,550,000
私	帝京大学	医療技術学部 看護学科	東京都　板橋区	130	○	△		1,975,000	250,000	1,725,000	2年 3年:1,725,000 4年:1,793,000
私	帝京科学大学	医療科学部 看護学科	東京都　足立区	80	○			1,880,000	250,000	1,630,000	1,670,000
私	帝京平成大学	ヒューマンケア学部 看護学科	東京都　中野区	119	○	△	△	1,933,000	300,000	1,633,000	1,673,000
私	東京有明医療大学	看護学部 看護学科	東京都　江東区	50	○	△		2,050,000	300,000	1,750,000	1,750,000
私	東京医療保健大学	医療保健学部 看護学科	東京都　品川区	100	○	△		1,900,000	500,000	1,400,000	2年 4年:1,450,000 3年:1,550,000
私	東京医療保健大学	医療保健学部 看護学科	東京都　目黒区	200	○			1,900,000	500,000	1,400,000	2年 4年:1,450,000 3年:1,550,000
私	東京工科大学	医療保健学部 看護学科	東京都　大田区	120	○	△		2,100,000	450,000	1,650,000	2年:1,680,000 3年:1,716,000 4年:1,750,000
私	東邦大学	看護学部 看護学科	東京都　大田区	102	○	△	△	2,400,000	500,000	1,900,000	1,900,000
私	文京学院大学	保健医療技術学部 看護学科	東京都　文京区	100	○	△		1,898,000	280,000	1,618,000	2年:1,602,000 3年:1,608,000 4年:1,594,000
私	武蔵野大学	看護学部 看護学科	東京都　西東京市	120	○	△		1,810,000	250,000	1,560,000	2年:1,644,000 3年 4年:1,647,000
私	神奈川工科大学	看護学部 看護学科	神奈川県　厚木市	80	○	△		1,850,000	190,000	1,660,000	2年:1,670,000 3年:1,680,000 4年:1,690,000
私	関東学院大学	看護学部 看護学科	横浜市　金沢区	80	○			1,830,000	280,000	1,550,000	1,550,000
私	北里大学	看護学部 看護学科	神奈川県　相模原市	100	○	△	△	1,900,000	400,000	1,500,000	1,650,000 助産教育課程 指定科目履修料 別途 300,000
私	国際医療福祉大学	小田原保健医療学部 看護学科	神奈川県　小田原市	50	○	○		1,550,000	300,000	1,250,000	1,450,000
私	松蔭大学	看護学部 看護学科	神奈川県　厚木市	100	○			約1,880,000	330,000	約1,550,000	約1,500,000
私	湘南医療大学	保健医療学部 看護学科	神奈川県　茅ヶ崎市	80	○	△	△	1,710,000	330,000	1,380,000	1,630,000
私	昭和大学	保健医療学部 看護学科	神奈川県　横浜市	95	○	△		1,550,000	500,000	1,050,000	1,630,000
私	東海大学	健康科学部 看護学科	神奈川県　伊勢原市	75	○	△		1,604,000	300,000	1,304,000	1,304,000
私	横浜創英大学	看護学部 看護学科	神奈川県　横浜市	80	○	△		1,868,000	300,000	1,568,000	1,568,000
私	**東京医療学院大学**	**保健医療学部 看護学科（仮称）**	**東京都　多摩市**	**80**	**○**		**△**	**1,930,000**	**300,000**	**1,630,000**	**1,630,000**

※日本私立大学団体連合会『学生納付金等調査（平成 25 年度入学生）』及びホームページ等より調査した。
※各大学で取得できる資格等はホームページ等より調査した。
※△印は選抜等の制限等が付されている。
※各大学の学費については、諸会費などを含んでいない場合がある。

資料7

都道府県別病院勤務看護職員数

順位	都道府県名	人口1万対 看護職員数
1	高知	129.2
2	鹿児島	111.5
3	長崎	108.2
・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・
41	**東京**	**63.8**
42	茨城	60.3
43	静岡	60.2
44	愛知	59.6
45	千葉	53.2
46	**神奈川**	**53.0**
47	**埼玉**	**51.3**

全　国	**74.1**

・株式会社日本看護協会出版会「平成25年　看護関係統計資料集」より作成

東京都保健医療計画

平成25年3月改定





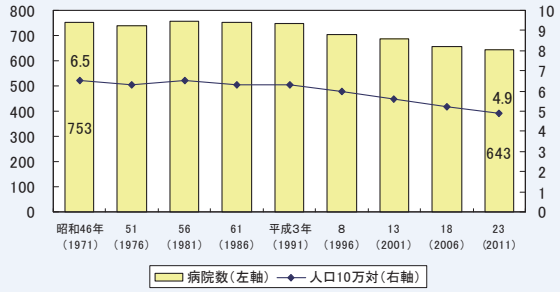


東京都

第２節　保健医療資源の現状

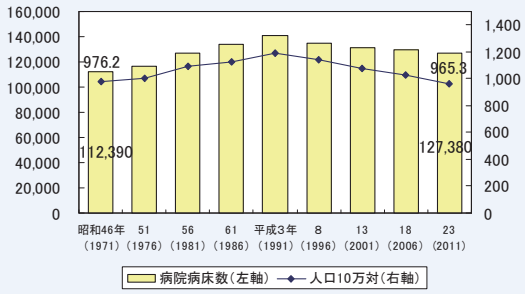
1　保健医療施設数の推移

病院数の推移（東京都）



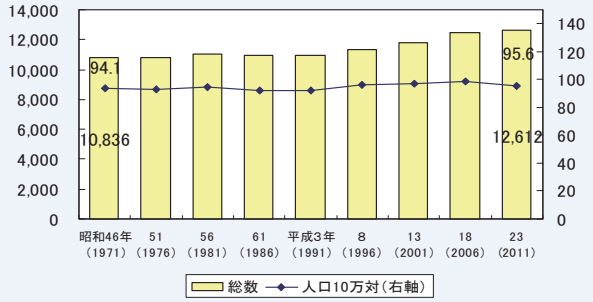
資料：厚生労働省「医療施設調査」

病院病床数の推移（東京都）



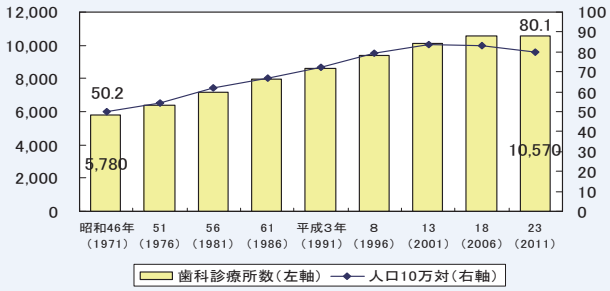
資料：厚生労働省「医療施設調査」

一般診療所数の推移（東京都）



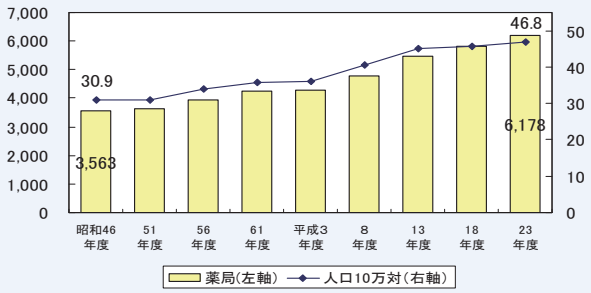
資料：厚生労働省「医療施設調査」

歯科診療所数の推移（東京都）



資料：厚生労働省「医療施設調査」

薬局数の推移（東京都）



資料：厚生労働省「衛生行政報告例」

○　病院

病院数は平成３年から約１００施設減少しており、平成２３年の病院数は６４３施設、人口１０万対は４．９施設となっています。病院病床数も減少傾向にあり、平成２３年は127,380 床、人口１０万対は９６５．３床となっています。

○　一般診療所

一般診療所数は昭和６１年頃から増加傾向にあります。平成２３年の一般診療所数は12,612 施設、人口１０万対は９５．６施設となっています。

○　歯科診療所

歯科診療所数は増加傾向が続いています。平成２３年の歯科診療所数は 10,570 施設、人口１０万対は８０．１施設となっています。

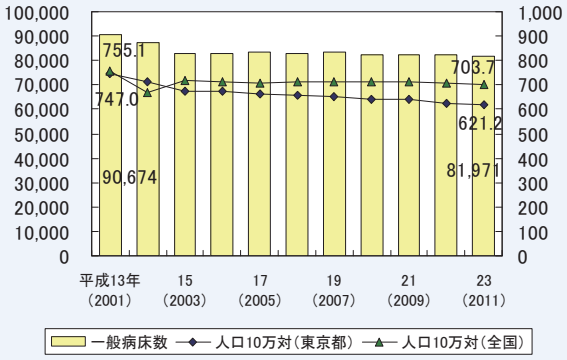
○　薬局

薬局数は増加傾向が続いています。平成２３年度の薬局数は 6,178 施設、人口１０万対は４６．８施設となっています。

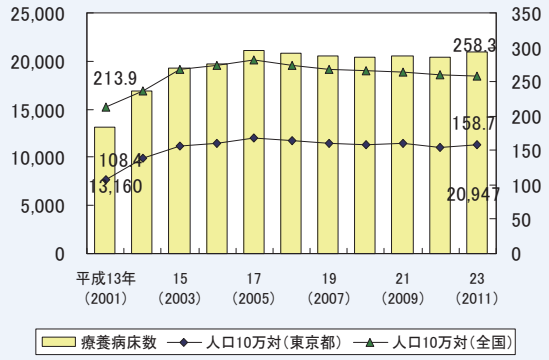
病床の種類別病院病床数及び一般診療所病床数（東京都）
並びに人口１０万対病床数（東京都・全国）

病院病床数

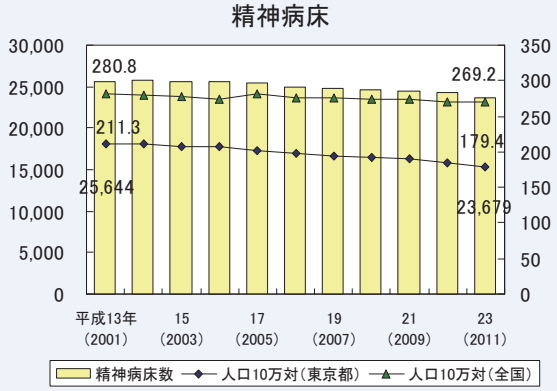
一般病床



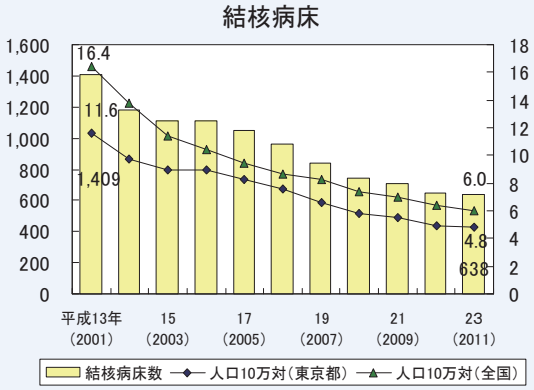
療養病床



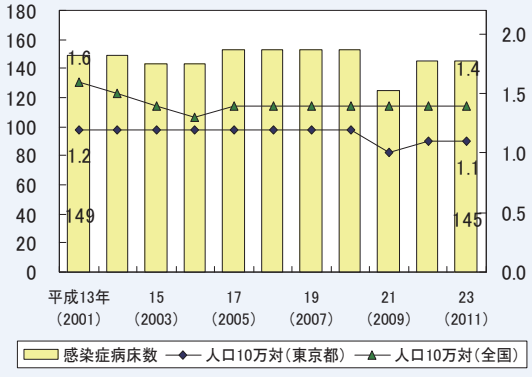
精神病床



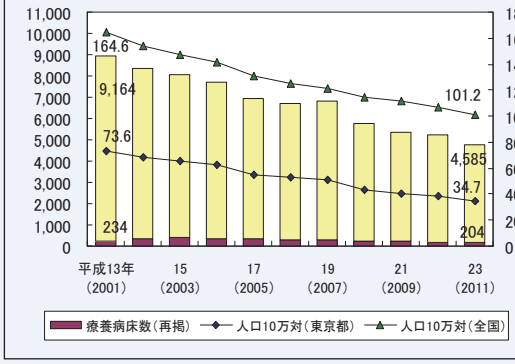
結核病床



感染症病床



一般診療所病床数



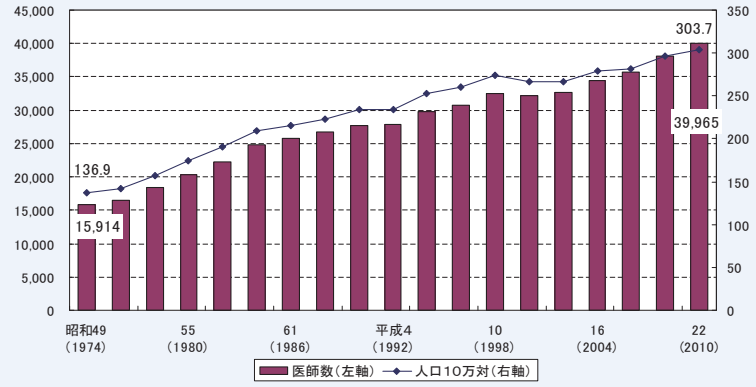
注１　平成１３年、１４年の「一般病床」は、「一般病床」及び「経過的旧その他の病床」から「旧経過的療養型病床群」を除いたものである。

注２　平成１３年、平成１４年の「療養病床」は、「療養病床」及び「旧経過的療養型病床群」である。

資料：厚生労働省「医療施設調査」

2　保健医療従事者数の推移

医師数の推移（東京都）



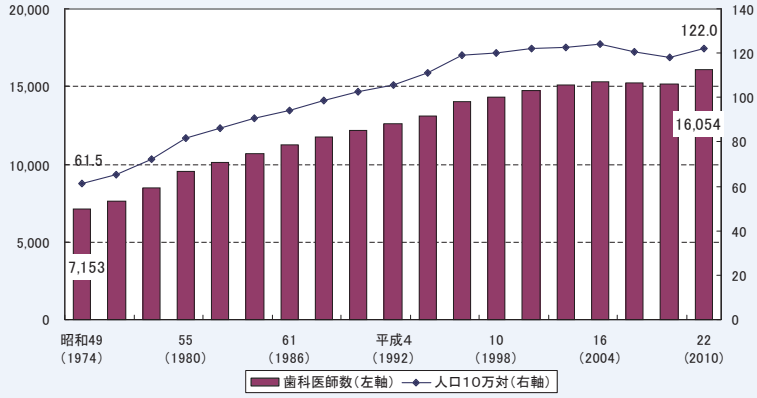
資料：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」

○　医師

東京都における医師数は増加傾向が続いています。平成２２年には、39,965 人、人口１０万対では３０３．７人となっています。

このうち、病院・診療所に従事している医師数は、37,552 人です。

歯科医師数の推移（東京都）



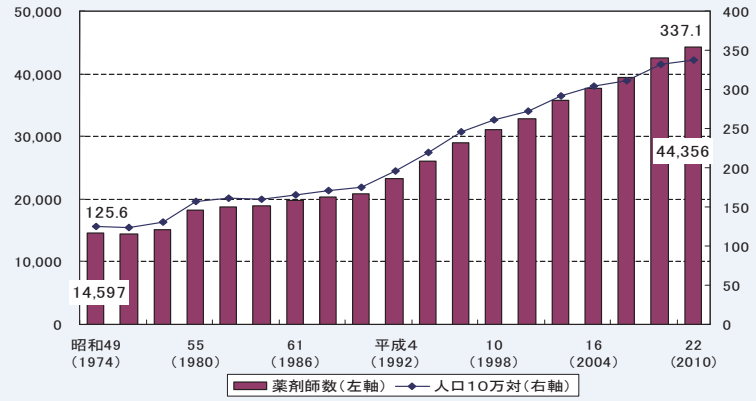
資料：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」

○　歯科医師

東京都における歯科医師数は、平成１８年に減少に転じましたが、平成２２年には再び増加しています。平成２２年の歯科医師数は、16,054 人、人口１０万対では１２２．０人となっています。

このうち、病院・診療所に従事している歯科医師数は、15,619 人です。

薬剤師数の推移（東京都）



資料：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」

○　薬剤師

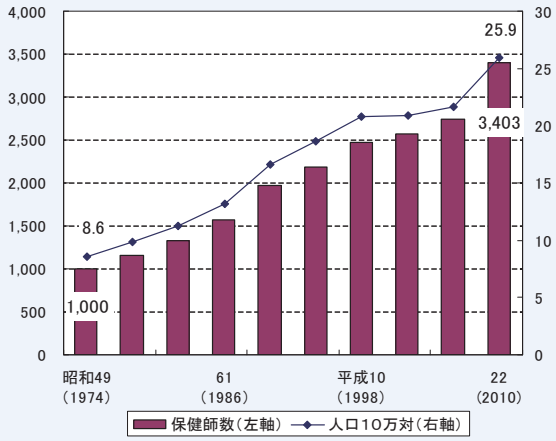
東京都における薬剤師数は近年急増しています。平成２２年には、44,356 人、人口１０万対で３３７．１人となっています。

このうち、薬局・病院・診療所に従事している薬剤師数は、24,994 人です。

注：医師数・歯科医師数・薬剤師数は、医師法（昭和２３年法律第２０１号）第６条３項、歯科医師法（昭和２３年法律第２０２号）第６条３項及び薬剤師法（昭和３５年法律第１４６号）第９条による届出数（人数は実人数であり、病院・診療所・薬局等の従事者及び無職の者を含む。）。

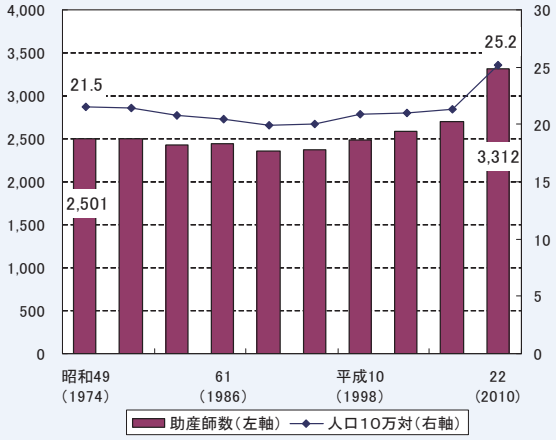
就業看護職員（保健師・助産師・看護師・准看護師）数の推移（東京都）

保健師数の推移（東京都）



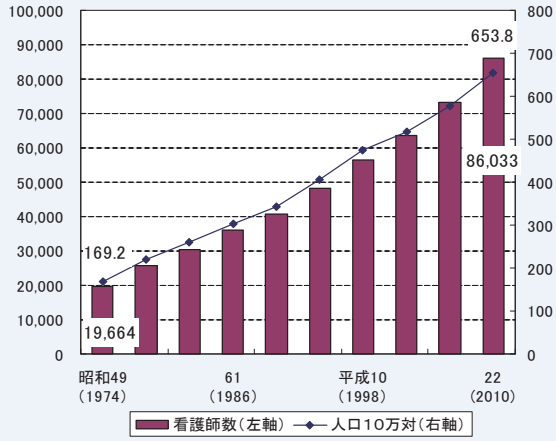
資料：厚生労働省「保健・衛生行政業務報告」

助産師数の推移（東京都）



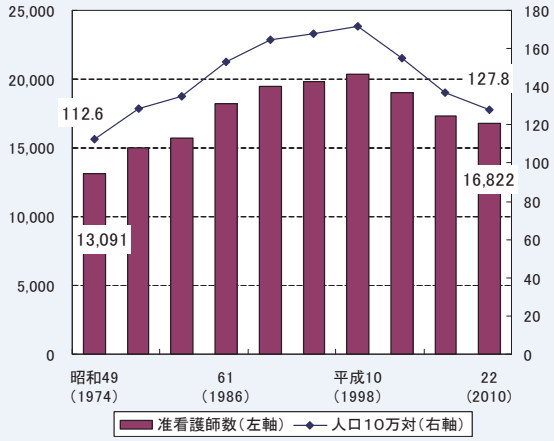
資料：厚生労働省「保健・衛生行政業務報告」

看護師数の推移（東京都）



資料：厚生労働省「保健・衛生行政業務報告」

准看護師数の推移（東京都）



資料：厚生労働省「保健・衛生行政業務報告」

○　保健師

東京都の就業保健師数は増加傾向が続いています。平成２２年には 3,403 人、人口１０万対で２５．９人となっています。

○　助産師

東京都の就業助産師数は減少傾向でしたが、平成６年頃から増加に転じています。平成２２年には 3,312 人、人口１０万対で２５．２人となっています。

○　看護師

東京都の就業看護師数は増加を続けています。平成２２年には 86,033 人、人口１０万対で６５３．８人となっています。

○　准看護師

東京都の就業准看護師数は、平成１０年頃まで増加を続けていましたが、その後減少に転じています。平成２２年は 16,822 人、人口１０万対で１２７．８人となっています。

医療施設（病院・一般診療所・歯科診療所）における従事者数（東京都・全国）

区　分	東京都				全国
		区部	多摩地域	島しょ	
医師	44,435 (337.7)	34,853 (389.6)	9,544 (228.0)	39 (140.6)	319,500 (249.5)
歯科医師	17,386 (132.1)	13,812 (154.4)	3,547 (86.4)	27 (98.1)	105,097 (82.1)
薬剤師	5,288 (40.2)	3,937 (44.0)	1,343 (32.7)	7 (25.9)	49,800 (38.9)
保健師	1,502 (11.4)	1,191 (13.3)	310 (7.6)	0 (0.0)	9,797 (7.7)
助産師	3,194 (24.3)	2,436 (27.2)	755 (18.4)	4 (14.4)	25,906 (20.2)
看護師	74,982 (569.8)	53,091 (593.5)	21,830 (531.9)	62 (223.3)	799,604 (624.4)
准看護師	12,340 (93.8)	7,312 (81.7)	5,014 (122.2)	14 (51.4)	236,479 (184.7)
歯科衛生士	11,382 (86.5)	8,806 (98.4)	2,561 (62.4)	14 (50.7)	99,138 (77.4)
歯科技工士	1,076 (8.2)	897 (10.0)	174 (4.2)	5 (18.0)	11,790 (9.2)
理学療法士	4,638 (35.2)	3,184 (35.6)	1,450 (35.3)	4 (14.7)	61,621 (48.1)
作業療法士	2,391 (18.2)	1,380 (15.4)	1,009 (24.6)	2 (7.5)	35,427 (27.7)
視能訓練士	857 (6.5)	698 (7.8)	159 (3.9)	0 (0.0)	6,819 (5.3)
義肢装具士	34 (0.3)	31 (0.3)	3 (0.1)	0 (0.0)	138 (0.1)
言語聴覚士	834 (6.3)	527 (5.9)	307 (7.5)	0 (0.0)	11,456 (8.9)
診療放射線技師	5,619 (42.7)	4,379 (49.0)	1,235 (30.1)	6 (19.8)	49,106 (38.3)
診療エックス線技師	235 (1.8)	184 (2.1)	51 (1.2)	0 (0.0)	1,442 (1.1)
臨床検査技師	8,152 (61.9)	6,504 (72.7)	1,646 (40.1)	2 (7.2)	62,459 (48.8)
衛生検査技師	70 (0.5)	58 (0.6)	12 (0.3)	0 (0.0)	512 (0.4)
臨床工学技士	2,303 (17.5)	1,736 (19.4)	563 (13.7)	4 (14.4)	20,001 (15.6)
あん摩マッサージ指圧師	881 (6.7)	692 (7.7)	187 (4.6)	2 (7.5)	6,158 (4.8)
柔道整復師	714 (5.4)	586 (6.5)	129 (3.1)	0 (0.0)	4,091 (3.2)
栄養士	1,210 (9.2)	869 (9.7)	337 (8.2)	4 (14.4)	12,773 (10.0)
精神保健福祉士	808 (6.1)	451 (5.0)	357 (8.7)	0 (0.0)	9,390 (7.3)
社会福祉士	796 (6.1)	531 (5.9)	263 (6.4)	2 (7.2)	9,398 (7.3)
介護福祉士	4,227 (32.1)	2,389 (26.7)	1,805 (44.0)	33 (119.4)	66,589 (52.0)
医療社会事業従事者	865 (6.6)	550 (6.1)	315 (7.7)	0 (0.0)	10,685 (8.3)

資料：厚生労働省「医療施設調査・病院報告」（平成２３年）

注１：平成２３年１０月１日現在
注２：従事者数は、常勤換算（従事者について、その職務に従事した１週間の勤務時間を当該医療施設の通常の１週間の勤務時間で除した数）である。
注３：医師・歯科医師・薬剤師・看護師・准看護師・歯科衛生士・歯科技工士は病院、一般診療所及び歯科診療所の従事者の計。その他の職種は病院及び一般診療所の従事者の計である。
注４：医療社会事業従事者には、生活相談員、保護相談員、ケースワーカー、セラピスト、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー等を含む。
注５：下段（　）内は人口 10 万対。算出基準となる人口は、総務省「国勢調査」（平成 22 年 10 月 1 日現在）

第２節　保健医療を担う人材の確保と資質の向上

○　高齢者人口の更なる増加や医療の高度化・専門化、患者を取り巻く社会環境の変化等に伴い、医療需要の一層の増加が見込まれる中で、都民ニーズに応えるため、都の地域特性を活かした保健医療を担う人材の養成・確保と質の向上を図ります。

現状と課題

○　現代の医療においては、医師、歯科医師、薬剤師、看護師をはじめとする様々な職種が、その専門性を活かすとともに相互に連携することによって、質の高いサービスを提供する必要があります。

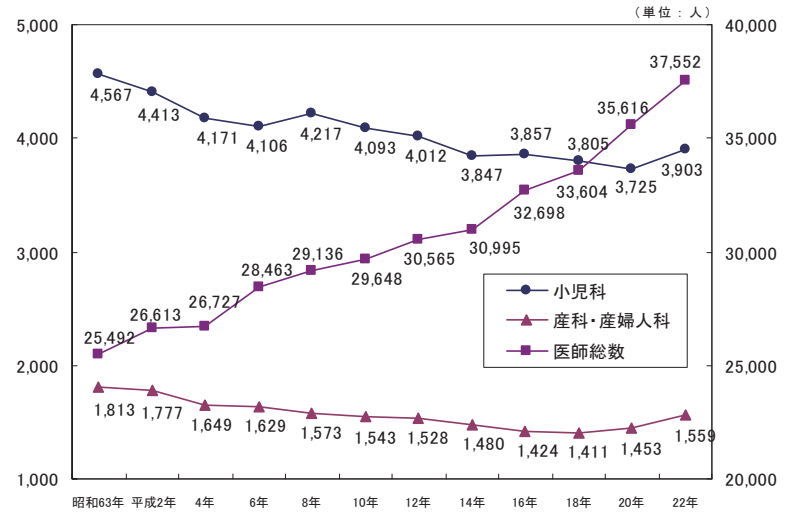
医療技術の高度化・専門化や、保健医療に関するニーズの多様化などに対応し、安定したサービスを提供していくため、保健医療従事者の養成・確保と質の向上を図っていくことが重要な課題となっています。

１　医師

○　都内で医療施設に従事している医師数は、37,552 人、人口１０万人当たり２８５．４人（平成２２年データ）であり、全国平均の２１９．０人を大きく上回っていますが、東京都の特徴として、患者の流入や昼間人口が多いことも挙げられます。

○　都内の医師総数は増加が続いている一方で、小児科や産科・産婦人科の医師は減少傾向にありました。近年その傾向に歯止めがかかっていますが、引き続き推移を見守っていく必要があります。

都内の医療施設に従事する小児科・産婦人科医師数（年次推移）

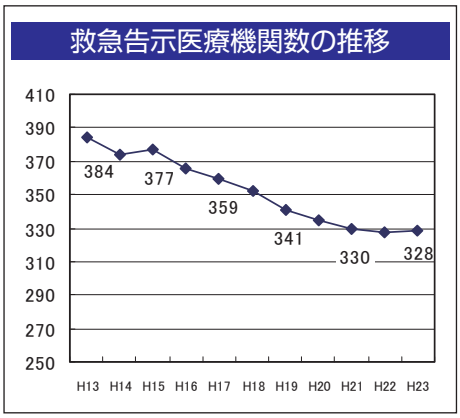


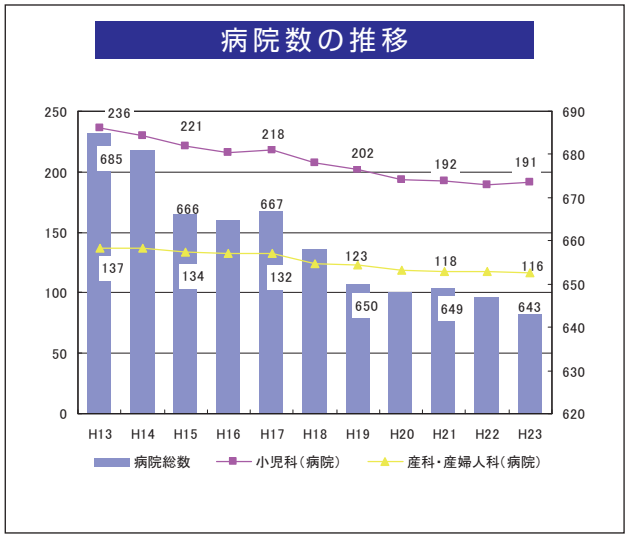
資料：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」（診療科は重複計上）

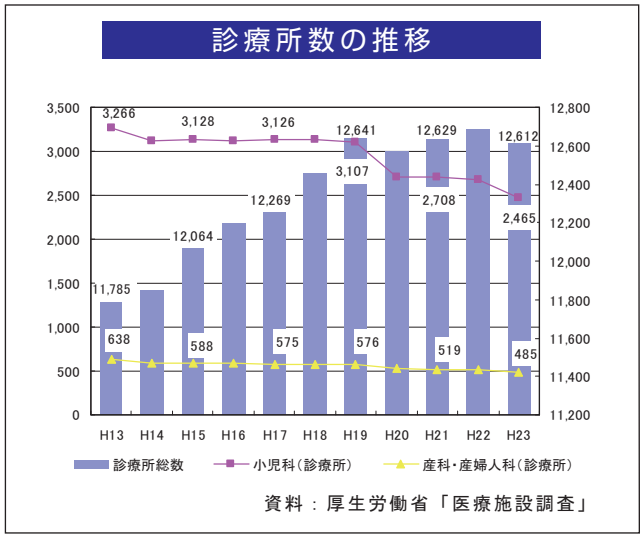
○　産科・産婦人科や小児科を標榜する医療機関や救急告示医療機関は減少傾向にあります。

○　また、小児医療、周産期医療、救急医療に携わる医師を中心に病院に勤務する医師は、当直を含め長時間勤務を余儀なくされています。

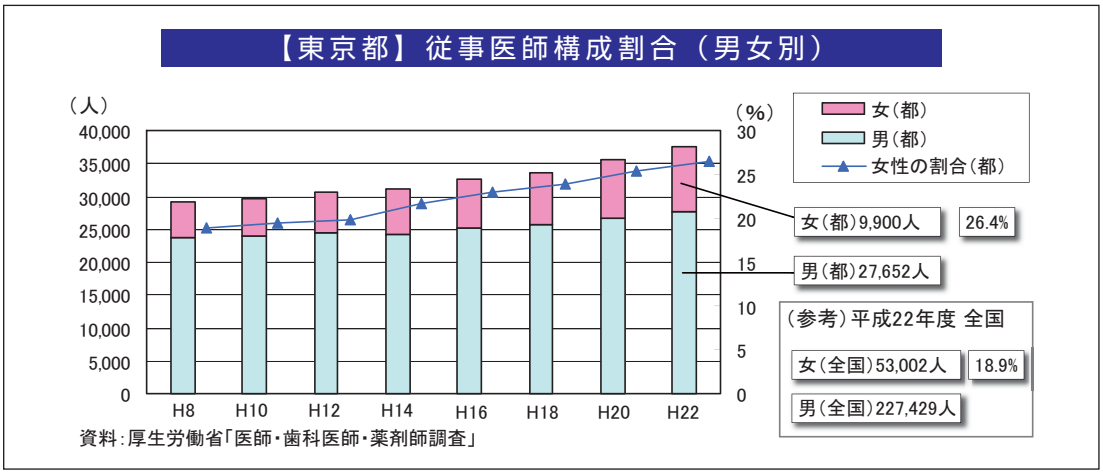
○　そのため、これらの分野に従事する医師を確保するとともに、病院勤務医の負担を軽減する取組が求められています。







○　さらに、都では女性医師の占める比率が２６．４％であり、全国の１８．９％と比較して高く、産科・産婦人科や小児科では、全体の約４割が女性医師となっています。特に２０代が顕著であり、産科・産婦人科は７２．５％、小児科は６０．５％と高い割合を占めています。そのため、出産や育児等にかかわらず、生涯にわたって女性医師が安心して医療に携わることができるよう、勤務の継続や再就業などの支援が必要です。



○　診療科における医師の偏在だけでなく、地域的な偏在状況もあり、島しょ地域等においては、キャリア形成への不安等から、医師確保が困難な状況が続いています。

○　また、都は、医育機関附属の病院に従事する医師を中心に、３０代の割合が全国と比較して高くなっています。現在、国においては、臨床研修制度の見直しや専門医のあり方に関する検討が行われており、地域医療の安定的確保に大きな影響を与える可能性があることから、国の動向を注視していく必要があります。

２　歯科医師

○　都における歯科医師数は、それまでの増加傾向から平成１８年にはいったん減少に転じましたが、再び微増を続け、現在概ね横ばいとなっています。都における平成２２年の歯科医師数は16,054人、人口１０万人当たりの歯科医師数は１２２．０人となっています。今後とも、かかりつけ歯科医を中心とした歯科医療連携を推進し、障害者や高齢者等の在宅療養患者も含め、誰もが身近な地域で適切な歯科疾患の予防・治療が受けられる体制を整備する必要があります。

３　薬剤師

○　都における薬剤師数は増加を続け、平成２２年の薬剤師数は44,356人、人口１０万人当たりの薬剤師数は３３７．１人となっています。良質な医療を提供する体制を確立するため、薬剤師によるかかりつけ薬局機能を一層充実させるとともに、在宅療養患者の居宅等において調剤業務の一部を行うなど、在宅療養への体制整備を図っています。

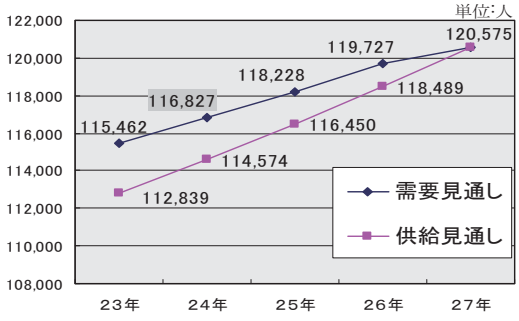
○　医療機関では医療の高度化によって、チーム医療における薬剤師の役割が高まっています。また、医薬分業の進展に伴い地域医療に貢献する薬局の重要性も増しており、質の高い薬剤師の養成が求められています。

４　看護職員（保健師・助産師・看護師・准看護師）

○　都における看護職員数は毎年増加傾向にありますが、高齢化の進展に伴う介護保険施設や在宅療養のニーズの増大、医療施設における配置基準の変更、さらに、医療技術の高度化や専門化等により、看護職員の需要は一層増加しています。

○　都では、看護職員の需給については、平成２１年に実施した「東京都看護職員就業実態調査」に基づき、平成２３年から平成２７年までの「東京都看護職員需給見通し」を策定しました。看護職員の需給均衡に向けて、確保策を強化していくことが必要です。

東京都看護職員需給見通し（平成23年～平成２７年）



○　医療の高度化・多様化や医療技術の進歩、患者のニーズが増大する中で、新人看護職員の看護実践能力と医療現場の期待する能力とのギャップにより、新人看護職員が早期に離職する傾向があります。また、妊娠・出産・育児等で医療の現場を離れると復帰できない看護師等がいます。

新人看護職員の離職の防止や離職した看護師等の再就業の促進が必要です。

○　このほか、平成２４年４月の介護保険制度改正により、重度者をはじめとした要介護高齢者の在宅生活を支えるため、訪問介護と訪問看護とを一体的に提供するなどの新しいサービスが創設されるなど、訪問看護を担う人材の確保・育成の必要性がますます高まっています。

５　リハビリテーション従事者

○　リハビリテーションを行う理学療法士、作業療法士、言語聴覚士は、患者の早期回復や急性期医療から回復期、維持期等の医療連携の推進に当たって、重要な役割を担っています。

○　リハビリテーション専門職の国家資格取得者が年々増加傾向にある現状を踏まえ、現場経験が不足する若手理学療法士等の資質の向上を図ることが求められています。

○　また、訪問リハビリテーションの普及促進のためには、総合的な技術や判断力、コミュニケーション能力を有した訪問リハビリテーションを担う人材の育成が求められています。

６　介護人材

（１）介護職員

○　平成２１年１０月現在、都内における介護職員数（介護福祉士・訪問介護員（ホームヘルパー）等の直接処遇を行う、常勤及び非常勤職員の合計）は約１１万４千人で、平成２６年度には約１３万９千人必要であると見込まれます。

○　近年の少子高齢化による労働力人口の減少や、他の業種の求人状況の動向に影響され、新規採用者の獲得が困難な状況にあり、また、全産業平均と比較して離職率も高いことから、人手不足が深刻化しています。

○　在宅や介護保険施設等において、医療的ケアが必要な要介護高齢者が増加していることから、業務上必要な医療的知識を有する介護職員を育成し、より安全で質の高いサービスの提供を図ることが求められます。

（２）介護支援専門員

○　高齢者の在宅生活を支えるためには、多様なサービス主体が連携して高齢者を支援できるよう、介護支援専門員が中核的役割を担い、利用者の自立支援に資するケアマネジメントを適切に行うことが重要です。

○　特に、今後増大することが見込まれる医療ニーズに応えるためには、医療職との連携に必要な医療的知識や視点を有し、多職種が参画するケアカンファレンス等を踏まえて、適切なケアマネジメントを実施し、必要な医療サービス等につなぐことができる、より質の高い介護支援専門員を育成することが求められています。

７　その他の保健医療従事者

（１）医療社会事業従事者の役割

○　医療連携や地域ケア体制を支えるためには、患者や他の医療機関や福祉施設等との調整などを行う医療社会事業従事者（医療ソーシャルワーカー等）の役割は重要です。疾病や障害などをきっかけに生じる心理的・社会的問題の諸要因を患者や家族が自立的に解決できるよう援助するため、常に最新の知識を習得し、患者の生活支援に必要な幅広い分野に精通することが求められています。

（２）多様な専門職種の役割

○　医療技術の高度化や専門化、保健医療ニーズの多様化に伴い、専門職種が対応する場面が増加しています。保健医療サービスを支えるためには、専門職種の確保とともに質の向上が重要であり、職能団体等と連携の下、必要に応じた支援を行うことが求められています。

施策の方向

１　養成・確保に向けた取組

（１）医師確保対策

①　東京都地域医療対策協議会

○　都では、平成１９年６月に東京都地域医療対策協議会を設置し、都内の医療施設に従事する医師確保策等について地域の医療機関や関係団体などと協議を行っています。今後とも、地域や診療科における医師の偏在の解消に向け、協議会の意見を踏まえた医師確保対策を展開していきます。

②　医師の確保・育成の取組

ア　東京都地域医療医師奨学金

都では、平成２１年度より、医師確保が困難な、小児医療・周産期医療・救急医療・へき地医療に将来医師として従事する意思がある学生に奨学金を貸与しています。奨学金を借りた人が医師免許取得後にこれらの分野に従事することで、医師不足の医療分野の医師を確保し、医療提供体制の長期的な安定を図っていきます。

イ　東京医師アカデミーの取組

都立病院・公社病院において、専門臨床研修カリキュラムの整備や豊富な臨床例の活用、複数の都立病院等の連携による研修等の多角的な取組により、総合診療能力を有する専門医の育成を推進していきます。

ウ　東京都地域医療支援ドクター事業

多摩・島しょの公立病院等を支援し地域の医療体制を確保するため、地域医療の支援に意欲を持つ医師を、へき地医療機関及び市町村公立病院に一定期間派遣します。

エ　へき地勤務医師の確保

自治医科大学卒業医師の育成及び派遣、へき地勤務医師等確保協議会による派遣計画の策定及び派遣、へき地専門医療確保事業を引き続き実施し、へき地医療の安定的な確保を図ります。

オ　安定的な医師確保に向けた養成研修

安定的な医師確保が課題となっている医療分野において、地域でその医療を支える人材を養成・確保するため、研修事業を実施していきます。

③　医師の勤務環境改善に向けた取組

○　医療技術の高度・専門化や診察以外の事務的作業など病院勤務医師の業務量が増加しています。交代制勤務等の新たな勤務形態の導入や、医師と看護師･その他の職種等との連携、病院勤務医の事務を補助する医療補助者（医療クラーク）の導入を支援するなど、医師の負担軽減を図っていきます。

○　医師確保が困難な診療科においては、勤務医に対する手当に関し支援を行い、医療機関において医師を安定的に確保していきます。

○　また、女性医師が出産後も働き続けられるよう、短時間正職員勤務の拡充や当直の免除など新たな勤務形態を導入する病院や、離職した女性医師の復帰を支援するための再就業に向けた研修等に取り組む病院を支援していきます。

○　その他、医療機関が院内保育施設を設置する取組について支援を行うなど、女性医師が働きやすい環境の整備を促進します。

④　地域医療支援センター（仮称）の設置

○　都では、診療科や地域における医師の偏在対策に取り組んできました。今後もより効果的に医師不足の解消を推進していくため、「地域医療支援センター（仮称）」を設置し、医師確保に関する施策を総合的に実施していきます。

○　地域医療医師奨学金については、奨学金を借りた人が医師不足の医療分野で地域医療に携わる医師として定着していくことが重要です。そのため、「地域医療支援センター（仮称）」において、地域医療を知るための研修による動機付け、就業支援、へき地医療に携わる医師のキャリア形成支援などを行います。

○　加えて、自治医科大学卒業医師や東京都地域医療支援ドクターの活用、病院勤務医師の負担軽減等、医師確保に関する施策を一体的に展開し、医師不足の地域や診療科における医師確保をより効果的・効率的に実施していきます。

（２）看護職員の確保対策

「東京都看護職員需給見通し」を踏まえ、養成・定着・再就業対策を着実に実施しながら、より効果的、安定的な看護職員確保のための施策を推進していきます。

①　養成対策

○　都立看護専門学校（看護学科３年課程　７校（一学年定員合計　６００人））を運営するとともに、都内の看護師等養成所の運営支援、修学資金貸与、看護教員の養成など、看護職員の着実な養成に取り組みます。

また、首都大学東京[1]において、看護学科（一学年定員　８０人）や助産学専攻科（定員１０人）等を設置し、看護職員の養成に努めています。

②　定着対策

ア　看護職員の定着に向けた基盤整備

○　医療機関における働きやすい職場環境の整備や院内保育施設の運営などについて支援を行うとともに、東京都ナースプラザにおいて最新の知識や技術に関する資質向上研修を受講する機会を提供し、都内施設における看護職員の定着促進を図ります。

イ　新人看護職員の定着に向けた取組

○　「新人看護職員研修ガイドライン」に沿った新人看護職員の研修実施に対する支援を行うとともに、研修責任者や教育担当者等に対する研修を実施し、臨床研修の実施内容や方法の普及を図り、新人看護職員の早期離職の防止と都内の看護職員の定着促進を図ります。

ウ　中小病院における定着促進

○　看護職員の確保が困難な中小病院を対象に、二次保健医療圏ごとに配置する就業協力員が巡回訪問を行い、看護職員の確保と離職防止に向けた勤務環境の改善、研修体制の充実について助言を行うなど、都内施設における定着促進の取組を支援していきます。

○　また、中小病院における看護職員の専門性を高め、働き続ける意欲を向上させるため、認定看護師の資格取得についても支援を行っていきます。

[1] 首都大学東京：看護学科のほか、理学療法学科、作業療法学科、放射線学科を設置し、質の高い医療技術者を育成

③　再就業対策

ア　ナースプラザを拠点とした取組

○　看護師等の再就業を促進するため、東京都ナースプラザを拠点として再就業に向けた研修や就業相談、看護に関する情報提供を行うとともに、都民に対する普及啓発活動を実施します。

イ　地域の医療機関等における再就業の支援

○　育児等で離職した看護師等が再就業する際に、身近な地域の病院等で必要な最新の知識や技術の研修や再就業の相談を受けられる仕組みを提供し、都内の看護師等の再就業を促進します。

④　訪問看護を担う人材の確保

在宅療養のニーズの増加等により、訪問看護を担う人材についても、以下の取組により確保・育成を図っていきます。

ア　訪問看護師の育成と定着支援

○　訪問看護師の人材確保・定着・育成を図り、訪問看護ステーションの整備を進めるための効果的な支援策について、総合的・多角的視点から検討を進め、訪問看護の施策を充実させていきます。

イ　訪問看護ステーションへの再就業促進

○　訪問看護ステーションにおける再就業支援研修の充実を図るなど、訪問看護ステーションへの再就業を促進します。

⑤　外国人看護師の受入支援

経済連携協定（ＥＰＡ）[2] に基づき、外国人看護師候補者を受け入れた病院が行う、看護師国家資格取得に必要な知識及び技術の習得に要する研修など、国家資格取得に向けた取組を支援します。

（３）介護人材の確保対策

○　都内で必要とされる介護人材の安定した確保・定着・育成に向け、介護・福祉の仕事に関する普及啓発、複数の施設が合同で行う採用試験の実施等への支援、職場改善の推進、就職活動中の高校生・大学生等への資格取得支援や潜在的有資格者の再就職支援など、総合的な取組を進めます。

○　介護職員等の研究発表会、就職説明会等の機会や「介護の日」（１１月１１日）の活用などにより、福祉の仕事に対する都民の理解を深め、社会的評価の向上につなげます。

[2] 経済連携協定（ＥＰＡ）：Economic Partnership Agreement の略

○　特別養護老人ホーム・介護老人保健施設等が経済連携協定（ＥＰＡ）に基づき外国人介護福祉士候補者を受け入れる場合、在留期間内（上限は４年）に国家試験に合格して引き続き就労ができるよう、日本語学習や介護福祉士等の国家資格取得に向けて支援します。

○　介護人材の確保・定着は、基本的に事業者自らの責任で行うべき取組ですが、適正な給与水準の確保をはじめ、労働環境の改善、介護職員のキャリアアップの支援等を行っていくことにより、介護職員一人ひとりがその能力を最大限発揮できる、働きやすい環境の整備を支援していきます。

２　保健医療従事者の資質の向上

（１）医師

○　患者中心の医療の実現に向けて医療連携体制を構築するためには、患者やその家族と身近に接するかかりつけ医の役割は非常に重要です。東京都医師会の協力のもと、引き続き、在宅療養などかかりつけ医の機能強化を図っていきます。

○　また、五疾病・五事業及び在宅療養の取組をはじめとする各分野において、東京都医師会の協力のもと、必要な人材の育成を図っていきます。

疾病・事業	項　　目	該当頁
がん医療	（目標２）がんと診断されたときからの切れ目のない緩和ケアを提供する	62
糖尿病医療	（目標２）地域連携に係る実効性のある取組を行う	84
精神疾患医療	（目標１）日常診療体制の構築を推進する	92
認知症対策	（目標３）専門医療や介護、地域連携を支える人材を育成する	99
災害医療	（目標２）医療機関の受入体制や搬送方法など医療救護活動を確保する	122
在宅療養	（目標４）在宅療養に関わる人材の育成・確保を図る	156
リハビリテーション医療	（施策の方向）１　各リハビリテーション期に応じたリハビリテーション医療の推進	162

（２）歯科医師

○　かかりつけ歯科医の定着・促進を推進するとともに、障害者や在宅療養患者などが身近な地域で適切な診療が受けられるよう、引き続き東京都歯科医師会と協力してかかりつけ歯科医の資質向上を図っていきます。

（３）薬剤師

○　平成１８年度に大学の薬学教育が６年制へ移行し、平成２４年４月には６年制課程を修了した初の薬剤師が誕生しました。都では、在宅療養などの新たなニーズに対応できるよう、東京都薬剤師会と協力し、薬剤師の更なる資質向上を図っていきます。

（4）看護職員

○　医療の高度化、多様化に対応できるよう、看護管理者連絡会議を通じて管理者の資質向上を図るとともに、東京都看護協会・東京都ナースプラザにおいて、様々な分野で活躍できる看護職員を育成する研修の充実を図ります。（一部再掲）

○　患者の生活に密着したきめ細かなケアや療養指導等を行う看護外来相談の実施を促進していくことで、医師との効果的・機能的な役割分担の明確化のもと、専門的な看護の実践による看護職員の資質向上を図っていきます。

○　加えて、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる認定看護師の資格取得について支援を行い、専門性の高い看護職員を育成します。《再掲》

（5）リハビリテーション従事者

○　おおむね二次保健医療圏ごとに指定された地域リハビリテーション支援センターにおいて、現場経験が不足する若手理学療法士等のリハビリテーション専門職の技術等の底上げを図ります。

○　訪問リハビリテーションを行う人材を育成するため、理学療法士等の医療従事者に対し、訪問リハビリテーションの知識・技術の向上と介護支援専門員など多職種の理解と連携に関する研修を実施し、訪問リハビリテーションを普及することにより、高齢者が自立した在宅生活を送れるよう支援します。

（6）介護人材

①　介護職員

○　施設や在宅サービスに従事する介護職員が、働きながら介護福祉士・社会福祉士等の国家資格の取得に取り組むことを支援し、職員の定着・育成及び介護サービスの質の向上に努めます。

○　介護職員を対象に、業務上必要な医療的知識に関する研修を実施し、適切なサービス提供を促進します。

○　在宅サービス及び施設サービスにおける質の向上を図るため、介護職員等を対象としてたんの吸引等に関する研修を実施するとともに、実施状況を踏まえ、研修体制等について検討していきます。

②　介護支援専門員

○　介護保険サービスや他の保健・医療・福祉サービスとの連携、他の介護支援専門員に対する助言・指導など、ケアマネジメントを適切かつ円滑に提供するための知識及び技術を修得した主任介護支援専門員を養成し、その活躍を通じてケアマネジメントの質の向上を

図ります。

○　福祉サービスと保健・医療サービスを総合的・一体的に提供できるよう、医療職との連携に必要な医療的知識を有した介護支援専門員を育成します。

（７）医療社会事業従事者

○　医療機関等に勤務する医療社会事業従事者に対して、患者の生活支援に必要な、介護サービス等、社会福祉に関する幅広い知識を習得できるよう、情報提供や講習会を実施して、資質向上を図っていきます。

（８）医療従事者研修事業等

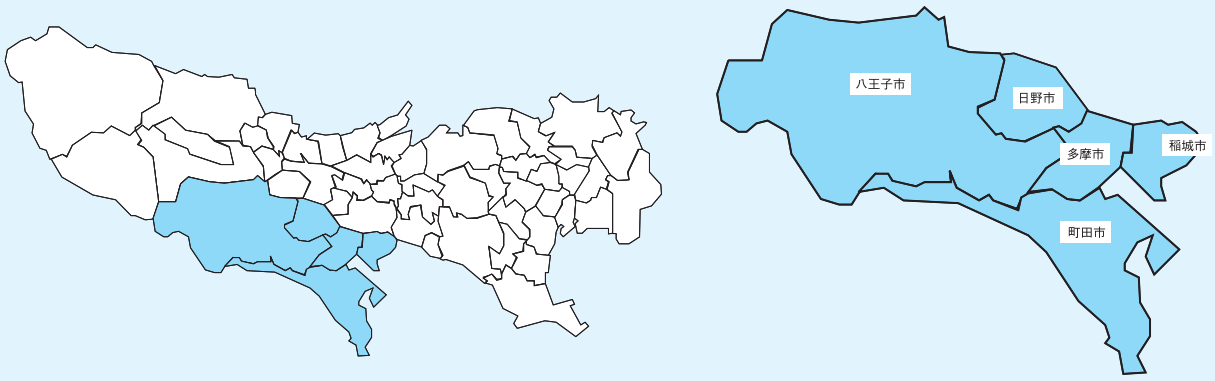
○　医療従事者に求められる知識・技術など、関係団体との連携の下で研修を実施し、医療従事者の更なる資質の向上を図っていきます。

取組のポイント

○　地域医療支援センター（仮称）における医師確保策の推進
○　地域における看護師等の定着・再就業の支援
○　介護人材の安定した確保・定着・育成
○　医療と介護の連携強化のための研修の実施

9　南多摩保健医療圏

地理上の位置



1 基本情報

1　人口・面積

図表　人口・面積・人口密度・世帯数等

区　分	人　口　（人）			面　積	人口密度	世帯数	一世帯当たり人員
	総　数	男　性	女　性	（㎢）	（人／㎢）	（世帯）	（人）
東京都	13,159,388	6,512,110	6,647,278	2,187.65	6,016	6,393,768	2.06
南多摩	1,419,575	710,646	708,929	324.52	4,374	609,110	2.33

出典：総務省「国勢調査」（平成 22 年）・国土交通省国土地理院「平成 22 年全国都道府県市区町村別面積調査」

図表　年齢区分別人口

	総　数	0～14 歳（年少人口）	15～64 歳（生産年齢人口）	65 歳以上（老年人口）
東　京　都	13,159,388	1,477,371 （11.2）	8,850,225 （67.3）	2,642,231 （20.1）
南　多　摩	1,419,575	183,796 （12.9）	932,178 （65.7）	294,265 （20.7）

注　：下段（　）内は構成比（%）
出典：総務省「国勢調査」（平成 22 年）

人口は平成２２年１０月１日現在1,419,575 人であり、東京都の人口の１０．８%に当たります。

また、年齢区分別人口の構成割合では、年少人口・生産年齢人口が東京都全域よりもやや高くなっています。

2　医療施設・医療従事者の状況

図表　病院数

区　　分	南多摩	東京都
病　院　総　数	78	643
一　般　病　院	63	592
精神科病院	15	51
結核療養所	0	0
【再掲】地域医療支援病院	1	18
【再掲】救急告示病院	25	306
【再掲】療養病床を有する病院	32	238

出典：厚生労働省「医療施設調査」（平成 23 年 10 月）

図表　病院病床数

区　　分	病床数		人口 10 万対病床数	
	南多摩	東京都	南多摩	東京都
病院病床総数	17,551	127,380	1236.4	968.0
一般病床	6,295	81,971	443.4	622.9
療養病床	3,808	20,947	268.2	159.2
精神病床	7,406	23,679	521.7	179.9
結核病床	34	638	2.4	4.8
感染症病床	8	145	0.6	1.1

注　：人口 10 万対病床数の算出基準となる人口は、総務省「国勢調査」（平成 22 年）を用いた。
出典：厚生労働省「医療施設調査」（平成 23 年 10 月）

図表　一般診療所数

区　　分	南多摩	東京都
一般診療所	949 (66.9)	12,612 (95.8)
【再掲】有床診療所	43 (3.0)	536 (4.1)

注　：下段（　）内は人口 10 万対。算出基準となる人口は、総務省「国勢調査」（平成 22 年）を用いた。
出典：厚生労働省「医療施設調査」（平成 23 年 10 月）

図表　医療施設（病院・一般診療所・歯科診療所）における従事者の状況

区　分	南多摩	人口１０万対	（参考　昼間）	東京都	人口１０万対	（参考　昼間）
医師	2,828	199.2	(211.3)	44,435	337.7	(285.3)
歯科医師	1,142	80.5	(85.3)	17,386	132.1	(111.6)
薬剤師	466	32.8	(34.8)	5,288	40.2	(33.9)
保健師	198	13.9	(14.8)	1,502	11.4	(9.6)
助産師	178	12.5	(13.3)	3,194	24.3	(20.5)
看護師	6,244	439.8	(466.6)	74,982	569.8	(481.4)
准看護師	1,938	136.5	(144.8)	12,340	93.8	(79.2)
歯科衛生士	883	62.2	(66.0)	11,382	86.5	(73.1)
歯科技工士	48	3.4	(3.6)	1,076	8.2	(6.9)
理学療法士	454	32.0	(33.9)	4,638	35.2	(29.8)
作業療法士	392	27.6	(29.3)	2,391	18.2	(15.4)
診療放射線技師	393	27.7	(29.4)	5,619	42.7	(36.1)
診療エックス線技師	23	1.6	(1.7)	235	1.8	(1.5)
臨床工学技師	149	10.5	(11.1)	2,303	17.5	(14.8)

注１：従事者数は、常勤換算（従事者について、その職務に従事した１週間の勤務時間を当該医療施設の通常の１週間の勤務時間で除した数）である。
注２：病院、一般診療所及び歯科診療所の従事者の計である。
注３：人口 10 万対従事者数の算出基準となる人口は、総務省「国勢調査」（平成 22 年）を用いた。
出典：厚生労働省「医療施設調査・病院報告」（平成 23 年 10 月１日現在）

病院は７８施設、病院病床数は 17,551 床です。人口１０万人当たりの病床数は 1,236.4 床で東京都全域を上回っています。病床の種類別では、一般病床は東京都全域を下回る一方、療養病床・精神病床については大きく上回っています。

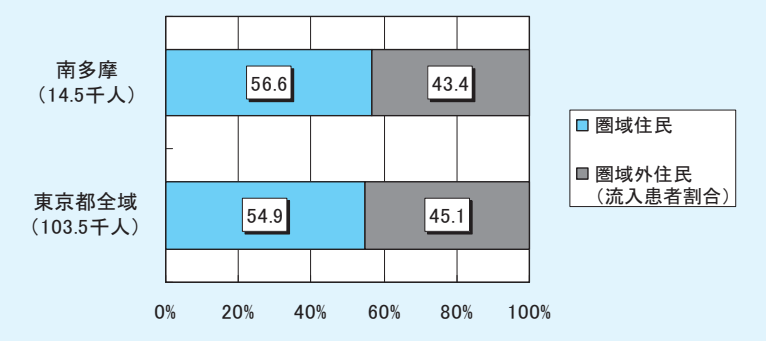
この圏域には市町村立病院が３病院（町田市民病院、日野市立病院、稲城市立病院）と、公益財団法人東京都保健医療公社多摩南部地域病院があります。

一般診療所数については、人口１０万人当たりでは東京都全域を下回っています。

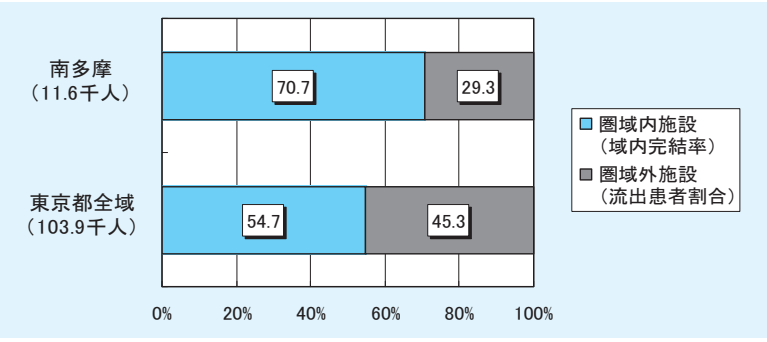
医療施設における従事者についても、人口１０万人当たり従事者数では、ほとんどの職種で東京都全域を下回っています。

2 受療の状況

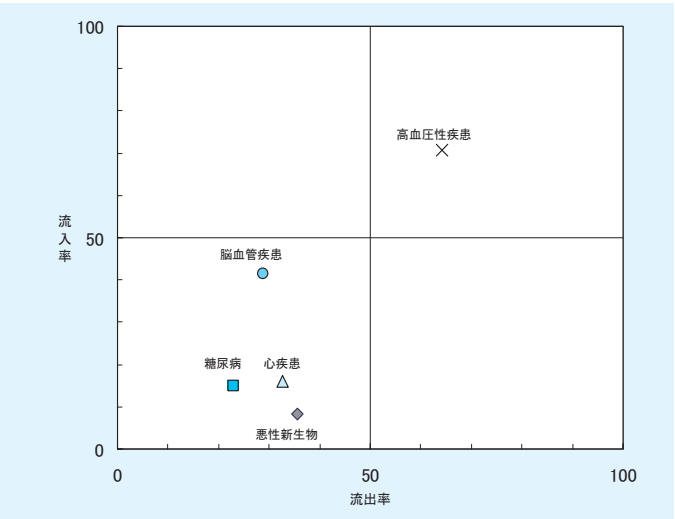
図表　南多摩保健医療圏内施設における
圏域住民－圏域外住民の受療割合
（病院の推計入院患者）



図表　南多摩保健医療圏内住民の
圏域内－圏域外受療割合
（病院の推計入院患者）



図表　南多摩の主要傷病別流入流出状況
（病院の推計入院患者）



資料：厚生労働省「患者調査」（平成 20 年）

この圏域における病院（入院）の受療割合をみると、流入患者割合４３．４％に対して流出患者割合２９．３％と流入超過になっています。

域内完結率は７０．７％と東京都全域の割合を大幅に上回っています。

主要傷病別流入流出状況をみると、高血圧性疾患以外の傷病については流入・流出率とも５０％以内に収束しています。

東京都及び多摩市の人口動態　　資料9

（単位：人）

東京都	平成22年	平成27年	平成32年	・・・	平成52年
総数	13,159,388	13,349,453	13,315,321	・・・	12,307,641
0～4歳	503,215	491,075	430,825	・・・	332,244
5～9歳	487,164	502,544	487,905	・・・	354,116
10～14歳	495,721	490,575	502,675	・・・	374,704
15～19歳	**551,734**	**544,958**	**523,116**	**・・・**	**415,176**
20～24歳	803,751	703,748	653,746	・・・	532,211
25～29歳	972,643	856,863	740,609	・・・	633,089
30～34歳	1,058,410	986,763	865,713	・・・	662,532
35～39歳	1,182,105	1,061,427	984,608	・・・	661,227
40～44歳	1,068,383	1,184,583	1,057,592	・・・	693,633
45～49歳	918,149	1,069,034	1,179,781	・・・	744,647
50～54歳	750,007	908,350	1,055,439	・・・	849,500
55～59歳	770,963	732,390	887,089	・・・	947,984
60～64歳	917,878	739,823	705,224	・・・	989,015
65～69歳	781,490	873,566	706,403	・・・	1,064,871
70～74歳	663,691	731,238	822,134	・・・	913,588
75～79歳	552,355	596,953	662,597	・・・	721,407
80～84歳	372,127	458,165	502,129	・・・	514,652
85～89歳	200,430	267,172	337,526	・・・	412,779
90歳以上	109,172	150,226	210,210	・・・	490,266
（再掲）0～14歳	1,486,100	1,484,194	1,421,405	・・・	1,061,064
（再掲）15～64歳	8,994,023	8,787,939	8,652,917	・・・	7,129,014
（再掲）65歳以上	**2,679,265**	**3,077,320**	**3,240,999**	**・・・**	**4,117,563**
（再掲）75歳以上	1,234,084	1,472,516	1,712,462	・・・	2,139,104

（単位：人）

多摩市	平成22年	平成27年	平成32年	・・・	平成52年
総数	147,648	148,075	146,682	・・・	127,469
0～4歳	5,907	5,493	4,743	・・・	3,524
5～9歳	5,936	6,104	5,611	・・・	3,867
10～14歳	5,891	5,880	6,049	・・・	4,061
15～19歳	**7,078**	**6,639**	**6,368**	**・・・**	**4,669**
20～24歳	9,468	8,183	7,453	・・・	5,784
25～29歳	9,121	7,715	7,193	・・・	5,876
30～34歳	10,486	8,595	7,423	・・・	6,141
35～39歳	12,158	10,539	8,622	・・・	6,086
40～44歳	10,983	12,151	10,509	・・・	6,355
45～49歳	9,286	10,936	12,082	・・・	6,929
50～54歳	8,094	9,207	10,823	・・・	7,353
55～59歳	9,737	7,884	8,985	・・・	8,310
60～64歳	12,594	9,448	7,656	・・・	9,859
65～69歳	10,693	12,371	9,264	・・・	11,202
70～74歳	8,164	10,241	11,868	・・・	9,764
75～79歳	5,732	7,502	9,427	・・・	7,762
80～84歳	3,424	4,971	6,493	・・・	6,076
85～89歳	1,792	2,636	3,810	・・・	5,959
90歳以上	1,104	1,580	2,303	・・・	7,892
（再掲）0～14歳	17,735	17,477	16,403	・・・	11,452
（再掲）15～64歳	99,004	91,297	87,114	・・・	67,362
（再掲）65歳以上	**30,909**	**39,301**	**43,165**	**・・・**	**48,655**
（再掲）75歳以上	12,053	16,689	22,033	・・・	27,689

・国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）』の都道府県別、市区町村別より作成

東京医療学院大学 保健医療学部 看護学科（仮称）の

卒業生に対する病院等の採用意向に関するアンケート調査報告

平成２７年２月

一般財団法人　日本開発構想研究所

東京医療学院大学 保健医療学部 看護学科（仮称）の
卒業生に対する病院等の採用意向に関するアンケート調査報告

１．調査概要

(1)　調査目的

平成 28 年 4 月に予定している東京医療学院大学保健医療学部看護学科（仮称）の開設に向けて、東京医療学院大学の卒業生の就職が見込まれる、近隣 1 都 2 県（東京都、埼玉県、神奈川県）の病院、訪問看護ステーション等の採用担当者にアンケートを実施し、東京医療学院大学保健医療学部看護学科（仮称）の卒業生に対する病院等の採用意向を把握することを目的とする。

(2)　調査対象

東京医療学院大学の卒業生の就職が見込まれる病院、訪問看護ステーション等 2,219 施設の採用担当者にアンケートを実施し、608 件の有効回答があった。

(3)　調査方法

東京医療学院大学の卒業生の就職が見込まれる病院、訪問看護ステーション等 2,219 施設の採用担当者にアンケート用紙及び東京医療学院大学保健医療学部看護学科（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、アンケートを実施した。回答については第三者機関へ病院等から直接郵送。

集計結果より、東京医療学院大学保健医療学部看護学科（仮称）卒業生に対する採用意向を分析した。

(4)　調査実施期間

平成 26 年 12 月～平成 27 年 1 月

(5)　有効回収率等

配布数：2,219 施設

有効回答数：608 件

有効回収率：約 27.4%

※東京医療学院大学にて設置を構想している保健医療学部看護学科は仮称であるが、本文中ではその旨の表示を省略した。

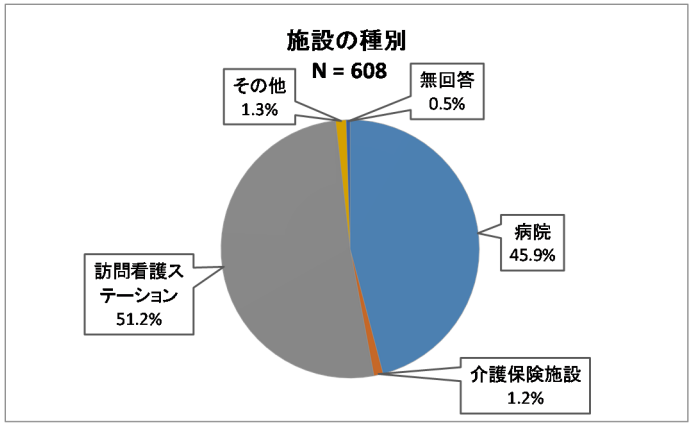
２．調査結果

（1）施設の種別について

施設の種別について調査したところ、回答のあった病院等608件のうち、「訪問看護ステーション」が 311 件（51.2%）と最も多く、次いで「病院」279 件（45.9%）、「その他」8 件（1.3%）、「介護保険施設」7 件（1.2%）、「無回答」3 件（0.5%）の順になっている。

施設の種別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	病院	279	45.9
2	介護保険施設	7	1.2
3	訪問看護ステーション	311	51.2
4	その他	8	1.3
	無回答	3	0.5
	N（%ベース）	608	100

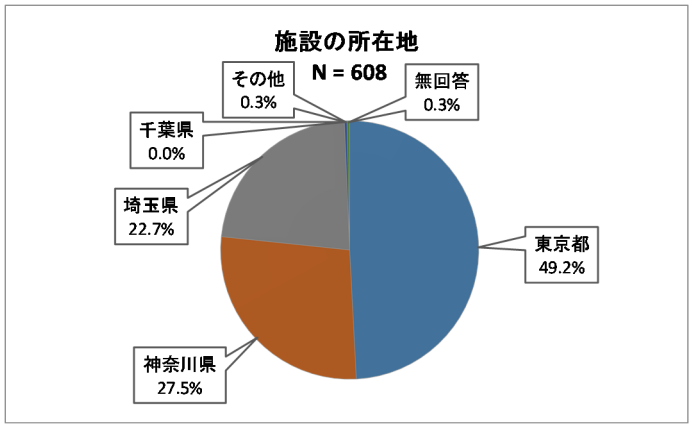


（2）施設の所在地について

施設の所在地について調査したところ、回答のあった病院等608件のうち、「東京都」が 299 件（49.2%）と最も多く、次いで「神奈川県」167 件（27.5%）、「埼玉県」138 件（22.7%）、「その他」2 件（0.3%）、「無回答」2 件（0.3%）の順になっている。

施設の所在地

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東京都	299	49.2
2	神奈川県	167	27.5
3	埼玉県	138	22.7
4	千葉県	0	0.0
5	その他	2	0.3
	無回答	2	0.3
	N（%ベース）	608	100



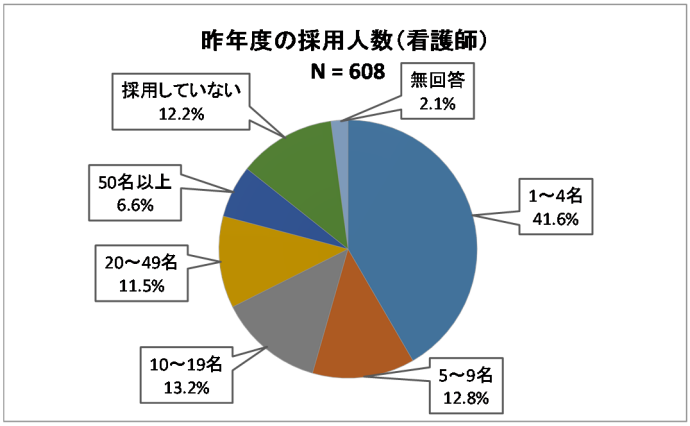
（3）昨年度の採用人数について

3-1　昨年度の採用人数（看護師）について

昨年度の看護師の採用人数について調査したところ、回答のあった病院等 608 件のうち、「1～4 名」が 253 件（41.6%）と最も多く、次いで「10～19 名」80 件（13.2%）、「5～9 名」78 件（12.8%）、「採用していない」74 件（12.2%）、「20～49 名」70 件（11.5%）、「50 名以上」40 件（6.6%）、「無回答」13 件（2.1%）の順になっている。

昨年度の採用人数（看護師）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1～4名	253	41.6
2	5～9名	78	12.8
3	10～19名	80	13.2
4	20～49名	70	11.5
5	50名以上	40	6.6
6	採用していない	74	12.2
	無回答	13	2.1
	N（%ベース）	608	100

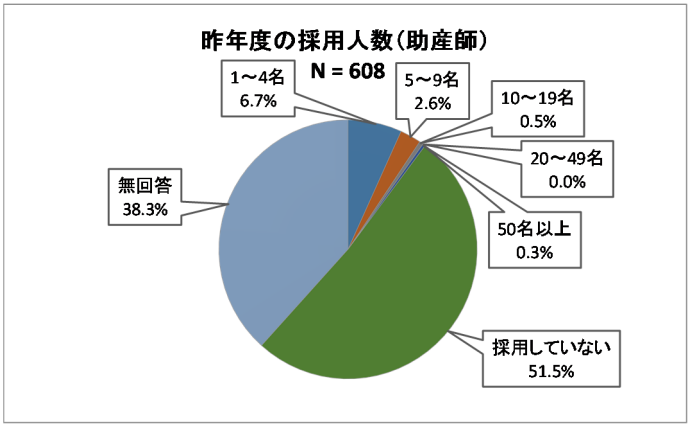


3-2　昨年度の採用人数（助産師）について

昨年度の助産師の採用人数について調査したところ、回答のあった病院等 608 件のうち、「採用していない」が 313 件（51.5%）と最も多く、次いで「無回答」233 件（38.3%）、「1～4 名」41 件（6.7%）、「5～9 名」16 件（2.6%）、「10～19 名」3 件（0.5%）、「50 名以上」2 件（0.3%）の順になっている。

昨年度の採用人数（助産師）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1～4名	41	6.7
2	5～9名	16	2.6
3	10～19名	3	0.5
4	20～49名	0	0.0
5	50名以上	2	0.3
6	採用していない	313	51.5
	無回答	233	38.3
	N（%ベース）	608	100



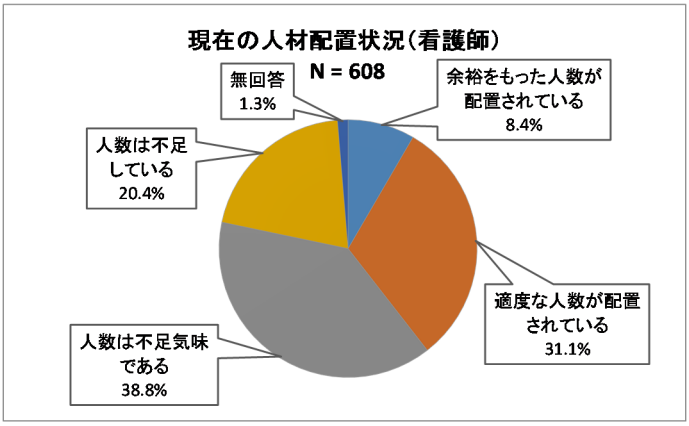
（4）現在の人材配置状況について

4-1　現在の人材配置状況（看護師）について

現在の看護師の人材配置状況について調査したところ、回答のあった病院等 608 件のうち、「人数は不足気味である」が 236 件（38.8%）と最も多く、次いで「適度な人数が配置されている」189 件（31.1%）、「人数は不足している」124 件（20.4%）、「余裕をもった人数が配置されている」51 件（8.4%）、「無回答」8 件（1.3%）の順になっている。

現在の人材配置状況(看護師)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	余裕をもった人数が配置されている	51	8.4
2	適度な人数が配置されている	189	31.1
3	人数は不足気味である	236	38.8
4	人数は不足している	124	20.4
	無回答	8	1.3
	N（%ﾍﾞｰｽ）	608	100

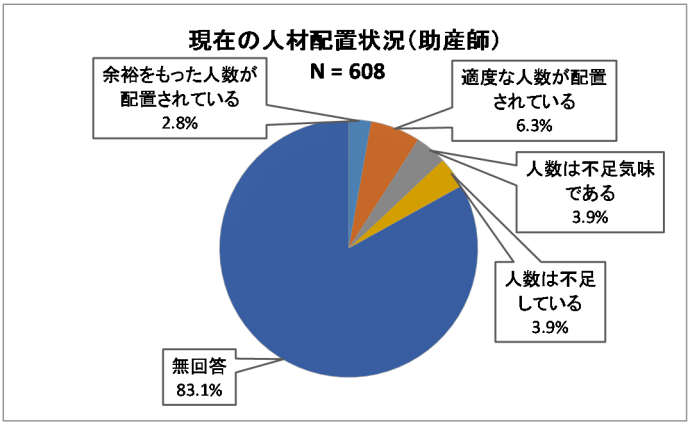


4-2　現在の人材配置状況（助産師）について

現在の助産師の人材配置状況について調査したところ、回答のあった病院等 608 件のうち、「無回答」が 505 件（83.1%）と最も多く、次いで「適度な人数が配置されている」38 件（6.3%）、「人数は不足気味である」24 件（3.9%）、「人数は不足している」24 件（3.9%）、「余裕をもった人数が配置されている」17 件（2.8%）の順になっている。

現在の人材配置状況(助産師)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	余裕をもった人数が配置されている	17	2.8
2	適度な人数が配置されている	38	6.3
3	人数は不足気味である	24	3.9
4	人数は不足している	24	3.9
	無回答	505	83.1
	N（%ﾍﾞｰｽ）	608	100



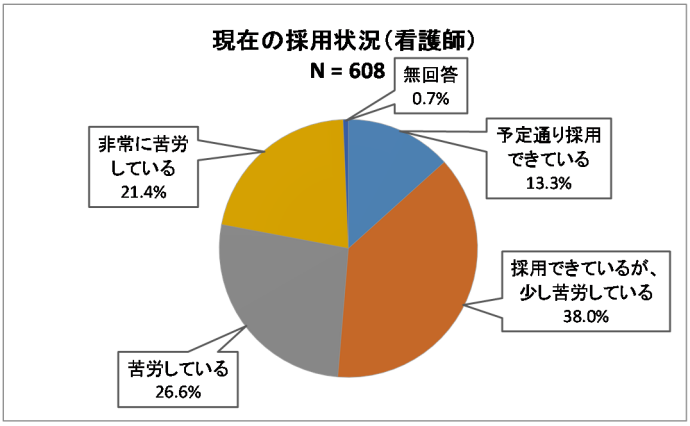
（5）現在の採用状況について

5-1　現在の採用状況（看護師）について

現在の看護師の採用状況について調査したところ、回答のあった病院等 608 件のうち、「採用できているが、少し苦労している」が 231 件（38.0%）と最も多く、次いで「苦労している」162 件（26.6%）、「非常に苦労している」130 件（21.4%）、「予定通り採用できている」81 件（13.3%）、「無回答」4 件（0.7%）の順になっている。

現在の採用状況（看護師）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	予定通り採用できている	81	13.3
2	採用できているが、少し苦労している	231	38.0
3	苦労している	162	26.6
4	非常に苦労している	130	21.4
	無回答	4	0.7
	N（%ﾍﾞｰｽ）	608	100

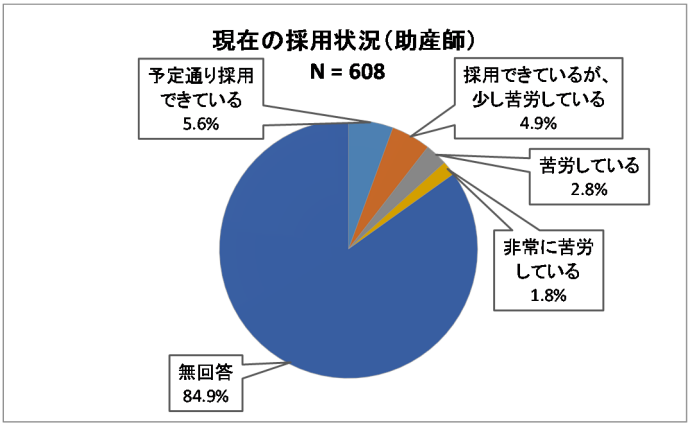


5-2　現在の採用状況（助産師）について

現在の助産師の採用状況について調査したところ、回答のあった病院等 608 件のうち、「無回答」が 516 件（84.9%）と最も多く、次いで「予定通り採用できている」34 件（5.6%）、「採用できているが、少し苦労している」30 件（4.9%）、「苦労している」17 件（2.8%）、「非常に苦労している」11 件（1.8%）の順になっている。

現在の採用状況（助産師）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	予定通り採用できている	34	5.6
2	採用できているが、少し苦労している	30	4.9
3	苦労している	17	2.8
4	非常に苦労している	11	1.8
	無回答	516	84.9
	N（%ﾍﾞｰｽ）	608	100



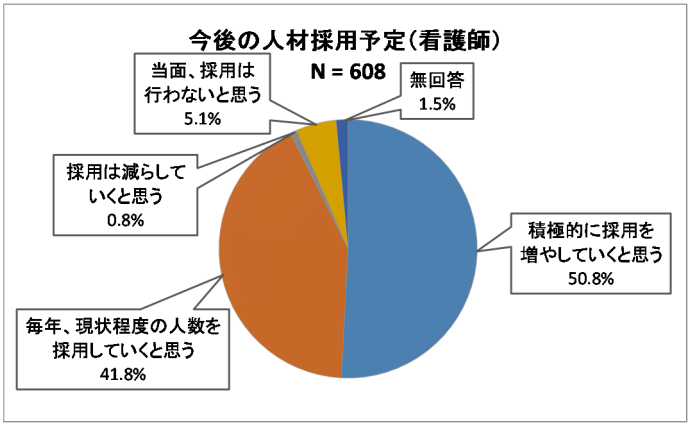
（6）今後の人材採用予定について

6-1　今後の人材採用予定（看護師）について

今後の看護師の人材採用予定について調査したところ、回答のあった病院等 608 件のうち、「積極的に採用を増やしていくと思う」が 309 件（50.8%）と最も多く、次いで「毎年、現状程度の人数を採用していくと思う」254 件（41.8%）、「当面、採用は行わないと思う」31 件（5.1%）、「無回答」9 件（1.5%）、「採用は減らしていくと思う」5 件（0.8%）の順になっている。

今後の人材採用予定（看護師）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	積極的に採用を増やしていくと思う	309	50.8
2	毎年、現状程度の人数を採用していくと思う	254	41.8
3	採用は減らしていくと思う	5	0.8
4	当面、採用は行わないと思う	31	5.1
	無回答	9	1.5
	N（%ベース）	608	100

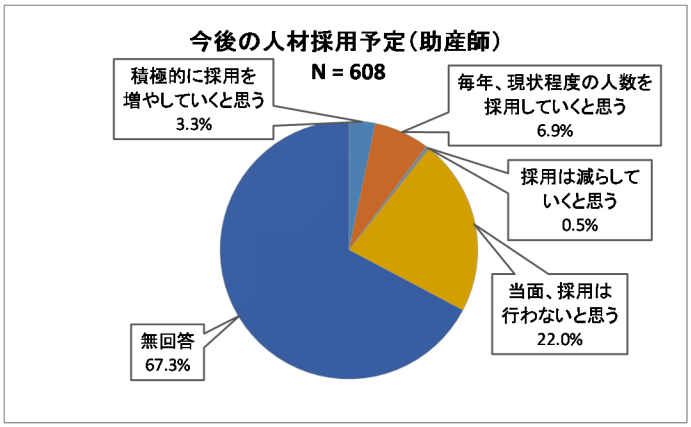


6-2　今後の人材採用予定（助産師）について

今後の助産師の人材採用予定について調査したところ、回答のあった病院等 608 件のうち、「無回答」が 409 件（67.3%）と最も多く、次いで「当面、採用は行わないと思う」134 件（22.0%）、「毎年、現状程度の人数を採用していくと思う」42 件（6.9%）、「積極的に採用を増やしていくと思う」20 件（3.3%）、「採用は減らしていくと思う」3 件（0.5%）の順になっている。

今後の人材採用予定（助産師）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	積極的に採用を増やしていくと思う	20	3.3
2	毎年、現状程度の人数を採用していくと思う	42	6.9
3	採用は減らしていくと思う	3	0.5
4	当面、採用は行わないと思う	134	22.0
	無回答	409	67.3
	N（%ﾍﾞｰｽ）	608	100

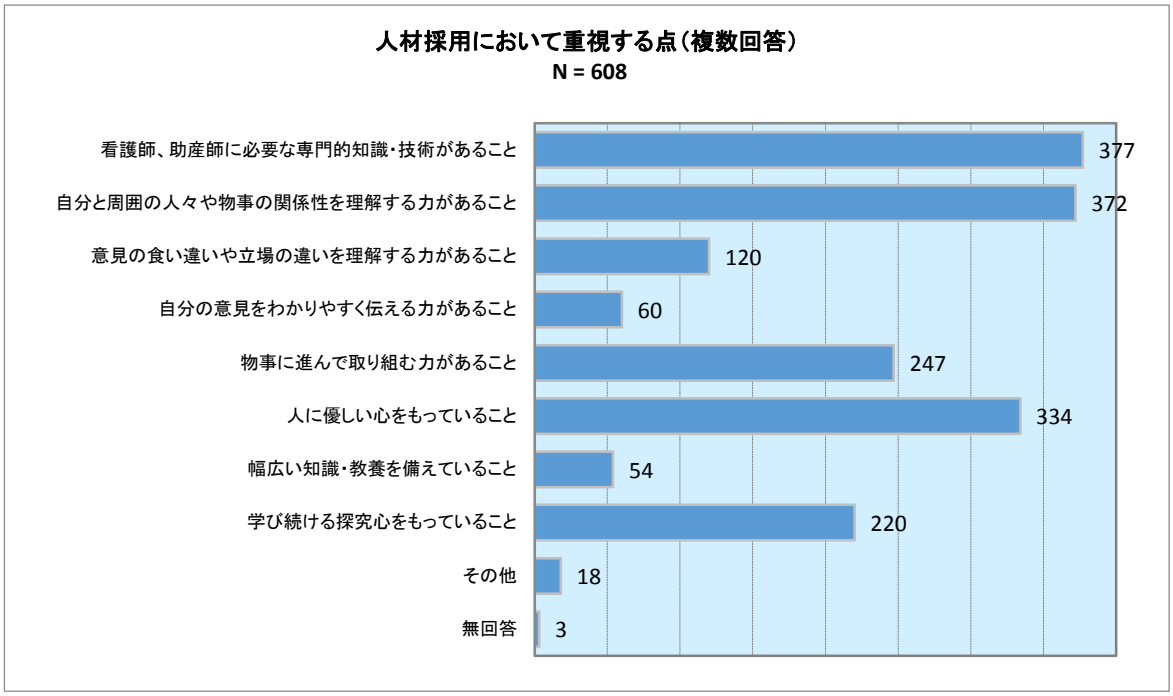


（7）人材採用において重視する点（複数回答）

人材採用において重視する点について調査したところ、回答のあった病院等 608 件のうち、「看護師、助産師に必要な専門的知識・技術があること」が 377 件（62.0%）と最も多く、次いで「自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること」372 件（61.2%）、「人に優しい心をもっていること」334 件（54.9%）、「物事に進んで取り組む力があること」247 件（40.6%）、「学び続ける探究心をもっていること」220 件（36.2%）、「意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること」120 件（19.7%）、「自分の意見をわかりやすく伝える力があること」60 件（9.9%）、「幅広い知識・教養を備えていること」54 件（8.9%）、「その他」18 件（3.0%）、「無回答」3 件（0.5%）の順になっている。

人材採用において重視する点（複数回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	看護師、助産師に必要な専門的知識・技術があること	377	62.0
2	自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること	372	61.2
3	意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること	120	19.7
4	自分の意見をわかりやすく伝える力があること	60	9.9
5	物事に進んで取り組む力があること	247	40.6
6	人に優しい心をもっていること	334	54.9
7	幅広い知識・教養を備えていること	54	8.9
8	学び続ける探究心をもっていること	220	36.2
9	その他	18	3.0
	無回答	3	0.5
	N（%ﾍﾞｰｽ）	608	100



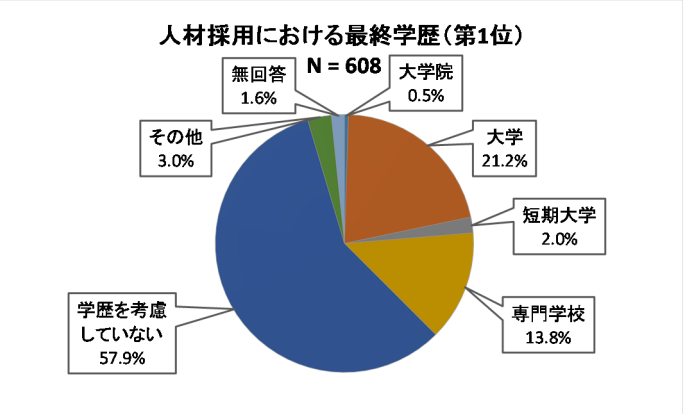
（8）人材採用における最終学歴について

8-1　人材採用における最終学歴（第 1 位）について

人材採用における最終学歴（第 1 位）について調査したところ、回答のあった病院等 608 件のうち、「学歴を考慮していない」が 352 件（57.9%）と最も多く、次いで「大学」129 件（21.2%）、「専門学校」84 件（13.8%）、「その他」18 件（3.0%）、「短期大学」12 件（2.0%）、「無回答」10 件（1.6%）、「大学院」3 件（0.5%）の順になっている。

人材採用における最終学歴（第1位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	3	0.5
2	大学	129	21.2
3	短期大学	12	2.0
4	専門学校	84	13.8
5	学歴を考慮していない	352	57.9
6	その他	18	3.0
	無回答	10	1.6
	N（%ベース）	608	100

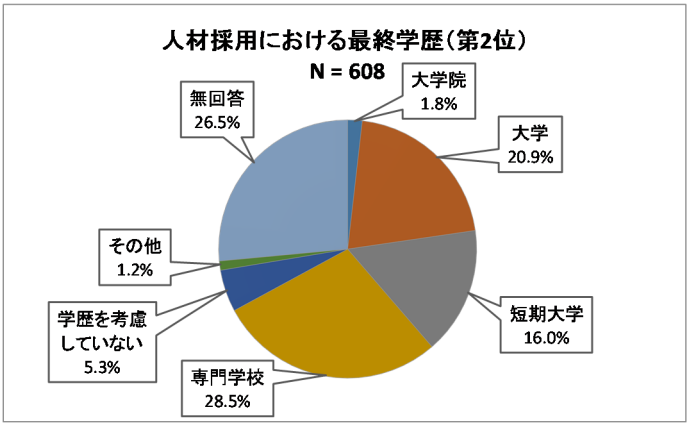


8-2　人材採用における最終学歴（第 2 位）について

人材採用における最終学歴（第 2 位）について調査したところ、回答のあった病院等 608 件のうち、「専門学校」が 173 件（28.5%）と最も多く、次いで「無回答」161 件（26.5%）、「大学」127 件（20.9%）、「短期大学」97 件（16.0%）、「学歴を考慮していない」32 件（5.3%）、「大学院」11 件（1.8%）、「その他」7 件（1.2%）の順になっている。

人材採用における最終学歴（第2位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	11	1.8
2	大学	127	20.9
3	短期大学	97	16.0
4	専門学校	173	28.5
5	学歴を考慮していない	32	5.3
6	その他	7	1.2
	無回答	161	26.5
	N（%ベース）	608	100

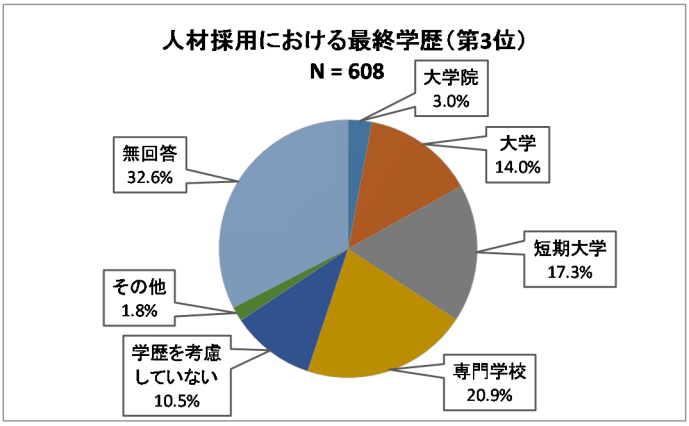


8-3　人材採用における最終学歴（第 3 位）について

人材採用における最終学歴（第 3 位）について調査したところ、回答のあった病院等 608 件のうち、「無回答」が 198 件（32.6%）と最も多く、次いで「専門学校」127 件（20.9%）、「短期大学」105 件（17.3%）、「大学」85 件（14.0%）、「学歴を考慮していない」64 件（10.5%）、「大学院」18 件（3.0%）、「その他」11 件（1.8%）の順になっている。

人材採用における最終学歴（第3位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	18	3.0
2	大学	85	14.0
3	短期大学	105	17.3
4	専門学校	127	20.9
5	学歴を考慮していない	64	10.5
6	その他	11	1.8
	無回答	198	32.6
	N（%ベース）	608	100



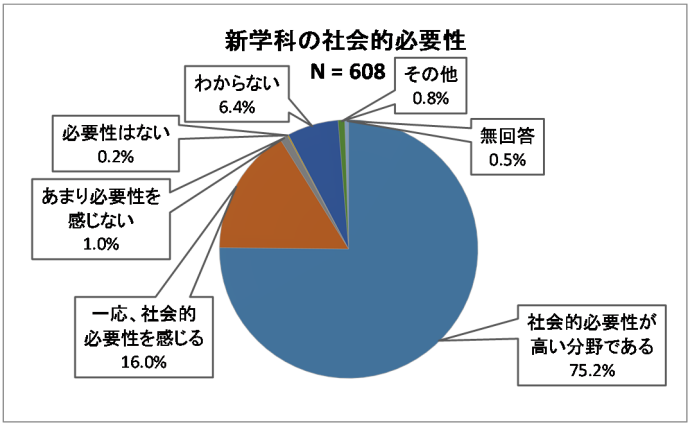
（9）新学科の社会的必要性について

新学科（保健医療学部看護学科）の社会的必要性について調査したところ、回答のあった病院等 608 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 457 件（75.2%）と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」97 件（16.0%）、「わからない」39 件（6.4%）、「あまり必要性を感じない」6 件（1.0%）、「その他」5 件（0.8%）、「無回答」3 件（0.5%）、「必要性はない」1 件（0.2%）の順になっている。

なお、新学科（保健医療学部看護学科）について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、554 件（91.1%）となっている。

新学科の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	457	75.2
2	一応、社会的必要性を感じる	97	16.0
3	あまり必要性を感じない	6	1.0
4	必要性はない	1	0.2
5	わからない	39	6.4
6	その他	5	0.8
	無回答	3	0.5
	N（%ベース）	608	100

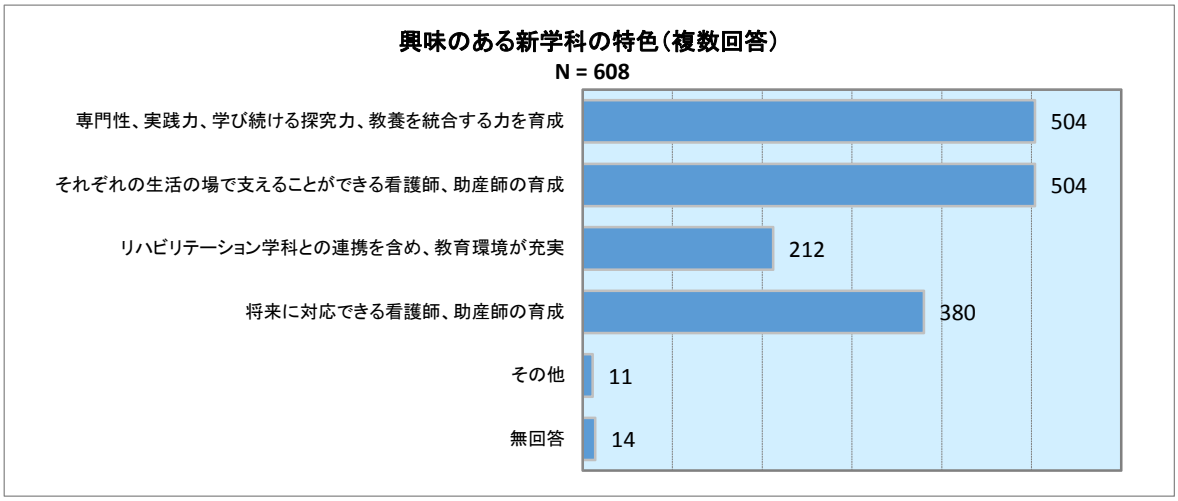


（10）興味のある新学科の特色について（複数回答）

新学科（保健医療学部看護学科）の興味のある特色について調査したところ、回答のあった病院等 608 件のうち、「専門性、実践力、学び続ける探究力、教養を統合する力を育成」が 504 件（82.9%）、「それぞれの生活の場で支えることができる看護師、助産師の育成」が 504 件（82.9%）と最も多く、次いで「将来に対応できる看護師、助産師の育成」380 件（62.5%）、「リハビリテーション学科との連携を含め、教育環境が充実」212 件（34.9%）、「無回答」14 件（2.3%）、「その他」11 件（1.8%）の順になっている。

興味のある新学科の特色（複数回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	専門性、実践力、学び続ける探究力、教養を統合する力を育成	504	82.9
2	それぞれの生活の場で支えることができる看護師、助産師の育成	504	82.9
3	リハビリテーション学科との連携を含め、教育環境が充実	212	34.9
4	将来に対応できる看護師、助産師の育成	380	62.5
5	その他	11	1.8
	無回答	14	2.3
	N（%ﾍﾞｰｽ）	608	100



（11）新学科卒業生の採用意向について

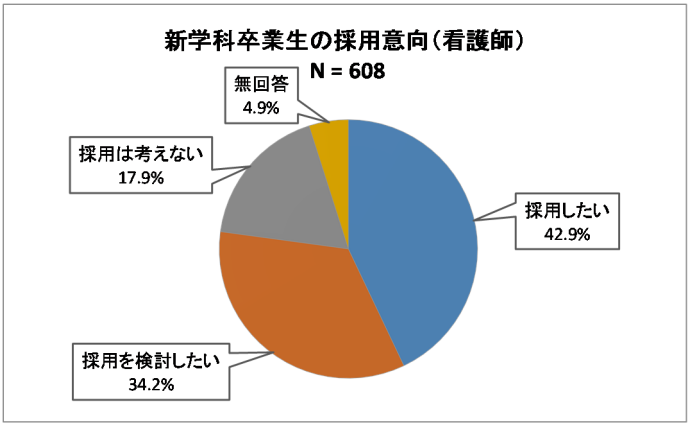
11-1　新学科卒業生の採用意向（看護師）について

新学科（保健医療学部看護学科）卒業生の採用意向（看護師）について調査したところ、回答のあった病院等 608 件のうち、「採用したい」が 261 件（42.9%）と最も多く、次いで「採用を検討したい」208 件（34.2%）、「採用は考えない」109 件（17.9%）、「無回答」30 件（4.9%）の順になっている。

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、469 件（77.1%）となっている。

新学科卒業生の採用意向（看護師）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	261	42.9
2	採用を検討したい	208	34.2
3	採用は考えない	109	17.9
	無回答	30	4.9
	N（%ベース）	608	100



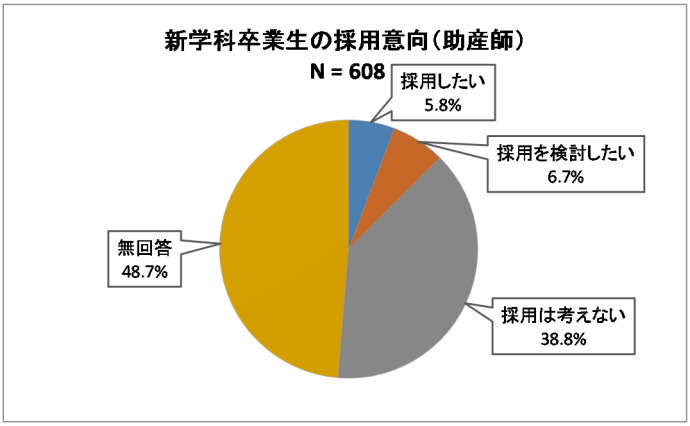
11-2　新学科卒業生の採用意向（助産師）について

新学科（保健医療学部看護学科）卒業生の採用意向（助産師）について調査したところ、回答のあった病院等 608 件のうち、「無回答」が 296 件（48.7%）と最も多く、次いで「採用は考えない」236 件（38.8%）、「採用を検討したい」41 件（6.7%）、「採用したい」35 件（5.8%）の順になっている。

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、76 件（12.5%）となっている。

新学科卒業生の採用意向（助産師）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	35	5.8
2	採用を検討したい	41	6.7
3	採用は考えない	236	38.8
	無回答	296	48.7
	N（%ベース）	608	100



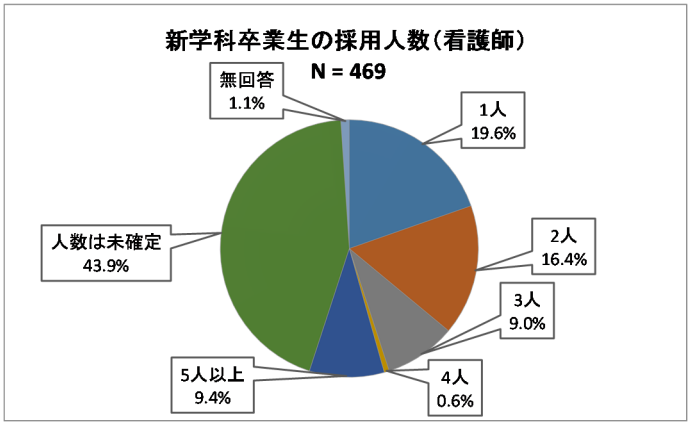
（12）新学科卒業生の採用人数について

12-1　新学科卒業生の採用人数（看護師）について

「（11）11-1　新学科卒業生の採用意向（看護師）について」で肯定的な採用意向を示した 469 件に対して、新学科（保健医療学部看護学科）卒業生の採用人数（看護師）について調査したところ、「人数は未確定」が 206 件（43.9%）と最も多く、次いで「1 人」92 件（19.6%）、「2 人」77 件（16.4%）、「5 人以上」44 件（9.4%）、「3 人」42 件（9.0%）、「無回答」5 件（1.1%）、「4 人」3 件（0.6%）の順になっている。

新学科卒業生の採用人数(看護師)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	92	19.6
2	2人	77	16.4
3	3人	42	9.0
4	4人	3	0.6
5	5人以上	44	9.4
6	人数は未確定	206	43.9
	無回答	5	1.1
	N（%ベース）	469	100

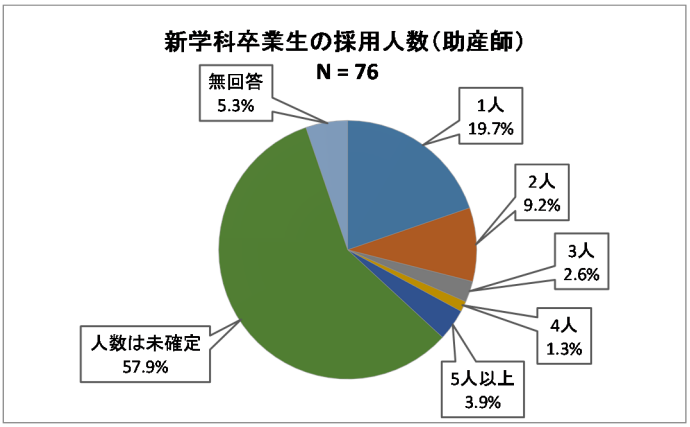


12-2　新学科卒業生の採用人数（助産師）について

「（11）11-2　新学科卒業生の採用意向（助産師）について」で肯定的な採用意向を示した 76 件に対して、新学科（保健医療学部看護学科）卒業生の採用人数（助産師）について調査したところ、「人数は未確定」が 44 件（57.9%）、次いで「1 人」15 件（19.7%）、「2 人」7 件（9.2%）、「無回答」4 件（5.3%）、「5 人以上」3 件（3.9%）、「3 人」2 件（2.6%）、「4 人」1 件（1.3%）の順になっている。

新学科卒業生の採用人数(助産師)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	15	19.7
2	2人	7	9.2
3	3人	2	2.6
4	4人	1	1.3
5	5人以上	3	3.9
6	人数は未確定	44	57.9
	無回答	4	5.3
	N（%ベース）	76	100



３．調査結果のまとめ

東京医療学院大学保健医療学部看護学科への将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「(11) 新学科卒業生の採用意向について」の回答数と、「(12) 新学科卒業生の採用人数について」の将来的な採用人数の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上」、「人数は未確定（※）」）を乗じ、これを合計し、算出した。

※「人数は未確定」とは、「(11) 新学科卒業生の採用意向について」にて、「採用したい」「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である１人として計算した。

看護師

下記の表より、保健医療学部看護学科卒業生の看護師の採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、546 人分となる。入学定員は 80 名であるため、約 6.82 倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は 810 人分となり、これは、入学定員 80 名に対して、約 10.12 倍となる。

看護師

回答数（件） 人数（人）	「採用したい」のみ		合計	
1人 (A)	36	(a)	(A) × (a)	36
2人 (B)	54	(b)	(B) × (b)	108
3人 (C)	31	(c)	(C) × (c)	93
4人 (D)	3	(d)	(D) × (d)	12
5人以上 (E)	41	(e)	(E) × (e)	205
人数は未確定 (F)	92	(f)	(F) × (f)	92
無回答	4			
			合計採用意向	546人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

回答数（件） 人数（人）	「採用したい」「採用を検討したい」の合計		合計	
1人 (A)	92	(a)	(A) × (a)	92
2人 (B)	77	(b)	(B) × (b)	154
3人 (C)	42	(c)	(C) × (c)	126
4人 (D)	3	(d)	(D) × (d)	12
5人以上 (E)	44	(e)	(E) × (e)	220
人数は未確定 (F)	206	(f)	(F) × (f)	206
無回答	5			
			合計採用意向	810人

助産師

下記の表より、保健医療学部看護学科卒業生の助産師の採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、55 人分となる。助産師の養成予定人数は 10 名であるため、5.5 倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は 98 人分となり、これは、助産師の養成予定人数である 10 名に対して、9.8 倍となる。

助産師

回答数（件） 人数（人）	「採用したい」のみ		合計	
1人（A）	6	(a)	(A) × (a)	6
2人（B）	5	(b)	(B) × (b)	10
3人（C）	1	(c)	(C) × (c)	3
4人（D）	1	(d)	(D) × (d)	4
5人以上（E）	3	(e)	(E) × (e)	15
人数は未確定（F）	17	(f)	(F) × (f)	17
無回答	2			
			合計採用意向	55人

回答数（件） 人数（人）	「採用したい」「採用を検討したい」の合計		合計	
1人（A）	15	(a)	(A) × (a)	15
2人（B）	7	(b)	(B) × (b)	14
3人（C）	2	(c)	(C) × (c)	6
4人（D）	1	(d)	(D) × (d)	4
5人以上（E）	3	(e)	(E) × (e)	15
人数は未確定（F）	44	(f)	(F) × (f)	44
無回答	4			
			合計採用意向	98人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

以上の調査結果と、今回の調査対象以外の進路も考えられることから、東京医療学院大学保健医療学部看護学科の卒業生の進路は十分に確保できるものと考える。

調査票

東京医療学院大学 保健医療学部 看護学科（仮称）の設置に係るアンケート調査

・このアンケート調査は2016年４月に予定している東京医療学院大学保健医療学部看護学科（仮称）の設置計画の基礎資料とするため、貴施設の採用状況･意向についてお聞きするものです。
・このアンケート結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。
・回答は、該当する番号を回答欄の□に記入してください。

★調査回答締切のお願い
2014年12月26日（金）までに、ご投函頂きますようお願いいたします。
※ 同封の返信用封筒にてご投函ください。

【 貴施設についてお聞きします 】

【回答欄】

Q1．貴施設の種類についてお聞きします。次の中から該当する番号を１つお選びください。
1．病院　　3．訪問看護ステーション
2．介護保険施設　　4．その他（　　）　□

Q2．貴施設の所在地についてお聞きします。次の中から該当する番号を１つお選びください。
1．東京都　　3．埼玉県　　5．その他（県名：　　）
2．神奈川県　　4．千葉県　□

Q3．貴施設において、昨年度に採用された「看護師」「助産師」の方の人数はどのくらいですか。
資格ごとに該当する番号を１つお選びください。
1．1～4名　　3．10～19名　　5．50名以上
2．5～9名　　4．20～49名　　6．採用していない
a：看護師 → □　　b：助産師 → □　**※番号でご回答ください。**

Q4．貴施設における「看護師」「助産師」の現在の配置状況について、資格ごとに該当する番号を１つお選びください。
1．余裕をもった人数が配置されている　　3．人数は不足気味である
2．適度な人数が配置されている　　4．人数は不足している
a：看護師 → □　　b：助産師 → □

Q5．貴施設における「看護師」「助産師」の現在の採用状況について、資格ごとに該当する番号を１つお選びください。
1．予定通り採用できている　　3．苦労している
2．採用できているが、少し苦労している　　4．非常に苦労している
a：看護師 → □　　b：助産師 → □

Q6．貴施設における「看護師」「助産師」の今後の採用について、どのようにお考えですか。
資格ごとにお考えに近い番号を１つお選びください。
1．積極的に採用を増やしていくと思う　　3．採用は減らしていくと思う
2．毎年、現状程度の人数を採用していくと思う　　4．当面、採用は行わないと思う
a：看護師 → □　　b：助産師 → □

Q7．「看護師」「助産師」を採用する際に、貴施設ではどのようなことを重視していますか。
当てはまる番号を下記より3つまでお選びください。
1．看護師、助産師に必要な専門的知識・技術があること
2．自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること
3．意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること
4．自分の意見をわかりやすく伝える力があること
5．物事に進んで取り組む力があること
6．人に優しい心をもっていること
7．幅広い知識・教養を備えていること
8．学び続ける探究心をもっていること
9．その他（　　）
□ □ □

⇒裏面へお進み下さい。

Q8．今後、「看護師」「助産師」の新卒採用にあたり、どのような出身学歴（最終学歴）の方の採用をお考えですか。「採用対象となる」と思われる番号を第3位までお選びください。

1．大学院　　3．短期大学　　5．学歴を考慮していない
2．大学　　4．専門学校　　6．その他（　　）

a：第1位 →　　b：第2位 →　　c：第3位 →

ここからは、同封した「看護学科（仮称）の概要（リーフレット）」をご覧になりながらお答えください。

Q9．本学設置予定の新学科（保健医療学部看護学科（仮称））の社会的必要性についてどのようにお考えになりましたか。次の中から該当する番号を１つお選びください。

1．社会的必要性が高い分野である　　4．必要性はない
2．一応、社会的必要性を感じる　　5．わからない
3．あまり必要性を感じない　　6．その他（具体的に　　）

Q10．以下の本学設置予定の新学科（保健医療学部看護学科（仮称））の特徴や目指している事柄の中で、興味のあるものはどれですか。あてはまる番号を3つまでお選びください。

1．専門性、実践力、学び続ける探究力、教養を統合する力を育成
2．それぞれの生活の場で支えることができる看護師、助産師の育成
3．リハビリテーション学科との連携を含め、教育環境が充実
4．将来に対応できる看護師、助産師の育成
5．その他（　　）

Q11．本学設置予定の新学科（保健医療学部看護学科（仮称））の卒業生の将来的な採用意向についておたずねします。資格ごとに次の中から該当する番号を１つお選びください。

1．採用したい　　2．採用を検討したい　　3．採用は考えない

a：看護師 →
b：助産師 →

いずれかで1、2を選択された方はQ12へお進み下さい。
両方とも3を選択された方はQ13へお進みください。

Q12．将来的に、本学設置予定の新学科（保健医療学部看護学科（仮称））の卒業生を毎年何人程度採用したいと考えますか。Q11で「1．採用したい」「2．採用を検討したい」を選択した資格について、次の中から該当する番号を１つお選びください。

1．1人　2．2人　3．3人　4．4人　5．5人以上　6．人数は未確定

a：看護師 →　　b：助産師 →

Q13．本学設置予定の新学科（保健医療学部看護学科（仮称））の計画にあたって、ご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。その他、大学の教育内容・活動等についてご希望があれば、あわせてご記入ください。

◆◆　最後までご協力いただき、ありがとうございました　◆◆

東京医療学院大学　看護学科設置準備室　担当：大柄（おおがら）
〒206-0033　東京都多摩市落合4-11　　電話：042-373-8118



人に優しく社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

東京医療学院大学
University of Tokyo Health Sciences

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更する場合があります。

美しい東京の多摩の地に
看護のさらなる発展を担う
看護学科※〈仮称〉を新たに設置予定です。



看護学科※〈仮称〉がめざすもの

仁愛

品性が人の道にかなったあり方に仕上げられ、高められてあり、
深い心で人を思いやる行動・態度をなせる看護師及び助産師を育みます。

知識

専門知識のみならず、常に専門性を向上させる学習意欲と
課題解決に向けた探究心を備える看護師及び助産師を育みます。

技術

常に学習や研究を行い、最新の知識や臨床技術を身に付けて
提供できる看護師及び助産師を育みます。





仁愛 知識 技術 を礎にした人材教育

最新の知識と技術を求め、生涯にわたる学習意欲と
課題解決に向けて探究し、医療機関や福祉施設等で
活躍し、自らの成長とともに、地域の保健医療のリー
ダーとして社会に貢献できる看護師及び助産師を育
成します。

総合力は看護の実践力

看護の**専門性**、**実践力**、**学び続ける探究心**。
専門職としての**教養**。
これらを統合する力を育成します。



コミュニティに立脚

子供からお年寄り、病気や障がいのある人々、妊娠から子育てまでの段階にある人々など、それぞれの健康を地域やコミュニティ、家庭といった**それぞれの生活の場で支える**ことができる看護師及び助産師の育成を目指します。



学びのグループ

対話力、**思考力**、**人間力**、**協働する力**が必要とされる看護。本学では新しい学びの形を追求しつつ、**高い実践力**をつけます。また、リハビリテーション学科の学生と共に学ぶチーム医療教育を行います。

発展する看護

日々発展し変化し続ける看護の知識や技術。その変化に対応できる**幅広い教養**や**高い倫理観**。看護師及び助産師として将来に対応できるよう育成します。

取得可能資格

●国家試験受験資格

看護師
(定員80名予定)

助産師
(選択制：学内選抜予定人数未定)

予想される将来の活躍の場

病院、助産所、訪問看護ステーション、
老人保健施設、大学等研究機関、
大学院への進学 など





※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更する場合があります。

東京都西部地域の中心地の１つである『多摩センター』で学ぶ。



教育環境

東京都西部地区の中心駅の一つである「多摩センター」は、京王線・小田急線・多摩モノレールの３つの路線が通ります。新宿駅・立川駅・町田駅の他、神奈川県からも30分圏内で通えます。大学は、緑豊かで開放感いっぱいの閑静なキャンパスであり、学習に最適な環境です。



多摩中央公園にて



アクセス

- 最寄り駅／京王線・小田急線・多摩モノレール「多摩センター」駅
- バスターミナル10番乗り場より約5分「東京医療学院大学前」下車、すぐ。8番乗り場より約7分「豊ヶ丘五丁目」下車、徒歩5分。
- 最寄駅より徒歩25分。

東京医療学院大学
University of Tokyo Health Sciences

［保健医療学部］リハビリテーション学科
●理学療法学専攻 ●作業療法学専攻
NEW 看護学科（仮称）

〒206-0033 東京都多摩市落合4-11 http://www.u-ths.ac.jp

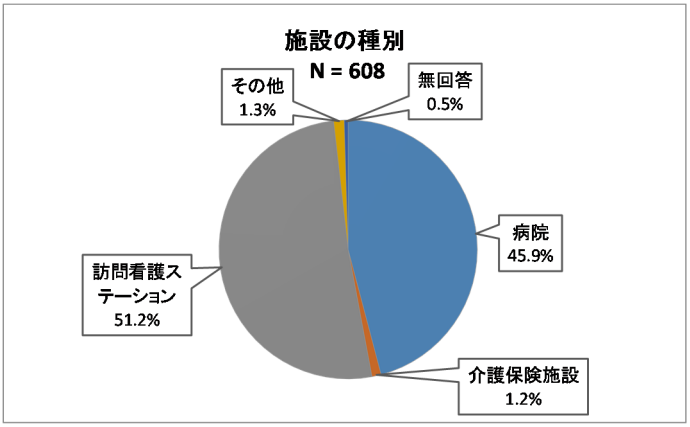
看護学科（仮称）新設に関するお問い合わせ▶東京医療学院大学 看護学科増設準備室 TEL：042-373-8118

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更する場合があります。

単純集計表

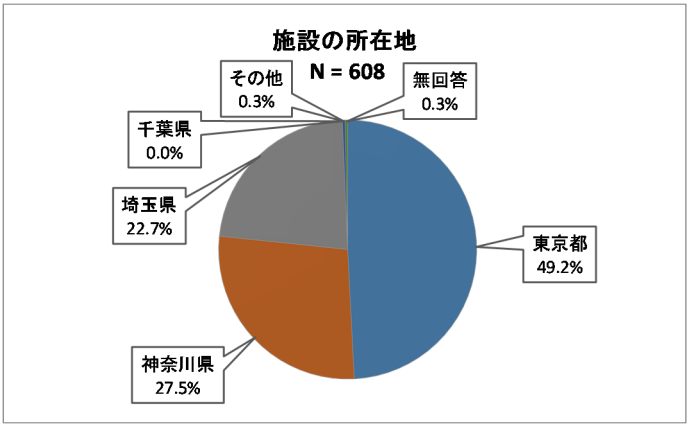
施設の種別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	病院	279	45.9
2	介護保険施設	7	1.2
3	訪問看護ステーション	311	51.2
4	その他	8	1.3
	無回答	3	0.5
	N（%ﾍﾞｰｽ）	608	100



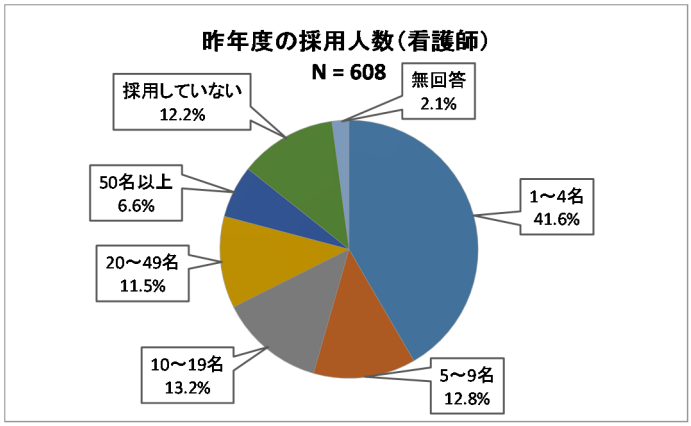
施設の所在地

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東京都	299	49.2
2	神奈川県	167	27.5
3	埼玉県	138	22.7
4	千葉県	0	0.0
5	その他	2	0.3
	無回答	2	0.3
	N（%ﾍﾞｰｽ）	608	100



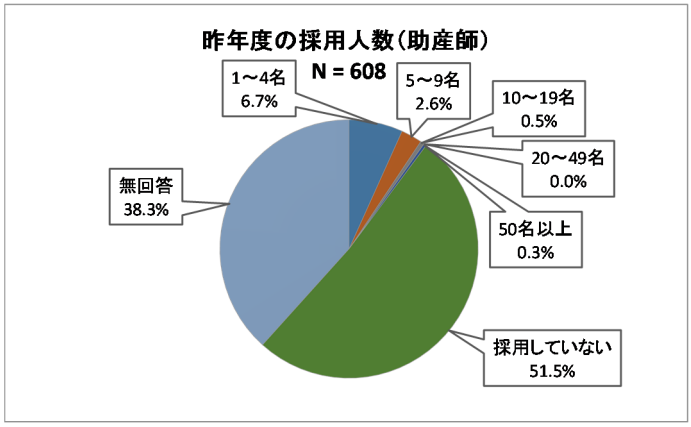
昨年度の採用人数(看護師)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1～4名	253	41.6
2	5～9名	78	12.8
3	10～19名	80	13.2
4	20～49名	70	11.5
5	50名以上	40	6.6
6	採用していない	74	12.2
	無回答	13	2.1
	N（%ベース）	608	100



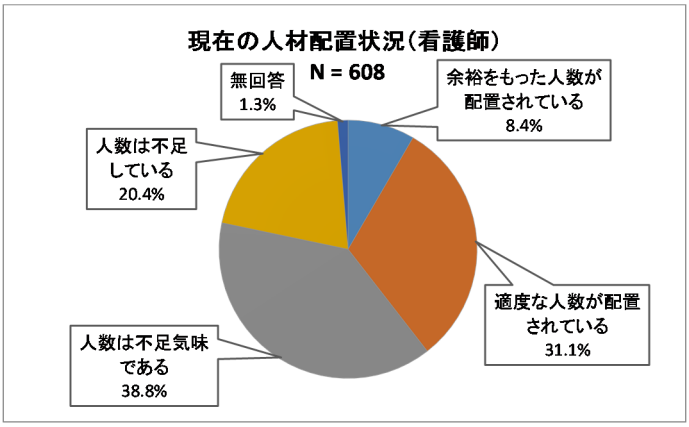
昨年度の採用人数(助産師)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1～4名	41	6.7
2	5～9名	16	2.6
3	10～19名	3	0.5
4	20～49名	0	0.0
5	50名以上	2	0.3
6	採用していない	313	51.5
	無回答	233	38.3
	N（%ベース）	608	100



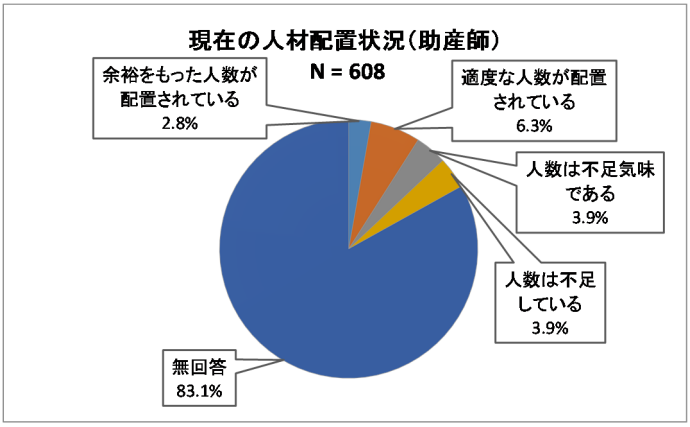
現在の人材配置状況(看護師)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	余裕をもった人数が配置されている	51	8.4
2	適度な人数が配置されている	189	31.1
3	人数は不足気味である	236	38.8
4	人数は不足している	124	20.4
	無回答	8	1.3
	N (%ﾍﾞｰｽ)	608	100



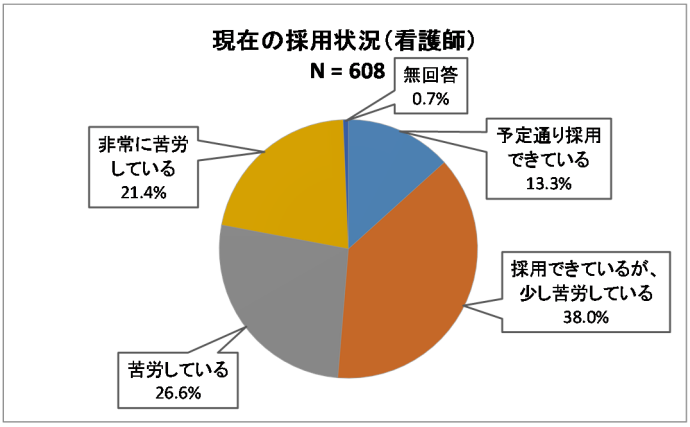
現在の人材配置状況(助産師)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	余裕をもった人数が配置されている	17	2.8
2	適度な人数が配置されている	38	6.3
3	人数は不足気味である	24	3.9
4	人数は不足している	24	3.9
	無回答	505	83.1
	N (%ﾍﾞｰｽ)	608	100



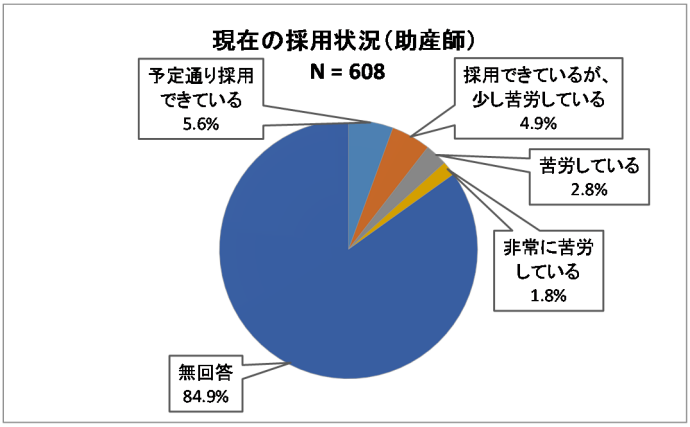
現在の採用状況（看護師）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	予定通り採用できている	81	13.3
2	採用できているが、少し苦労している	231	38.0
3	苦労している	162	26.6
4	非常に苦労している	130	21.4
	無回答	4	0.7
	N（%ﾍﾞｰｽ）	608	100



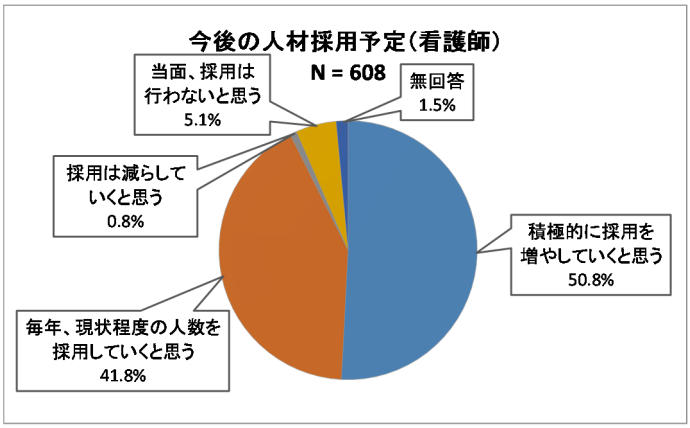
現在の採用状況（助産師）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	予定通り採用できている	34	5.6
2	採用できているが、少し苦労している	30	4.9
3	苦労している	17	2.8
4	非常に苦労している	11	1.8
	無回答	516	84.9
	N（%ﾍﾞｰｽ）	608	100



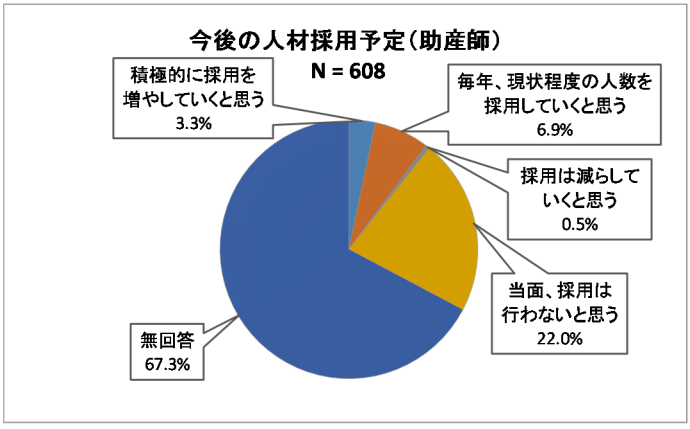
今後の人材採用予定（看護師）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	積極的に採用を増やしていくと思う	309	50.8
2	毎年、現状程度の人数を採用していくと思う	254	41.8
3	採用は減らしていくと思う	5	0.8
4	当面、採用は行わないと思う	31	5.1
	無回答	9	1.5
	N（%ﾍﾞｰｽ）	608	100



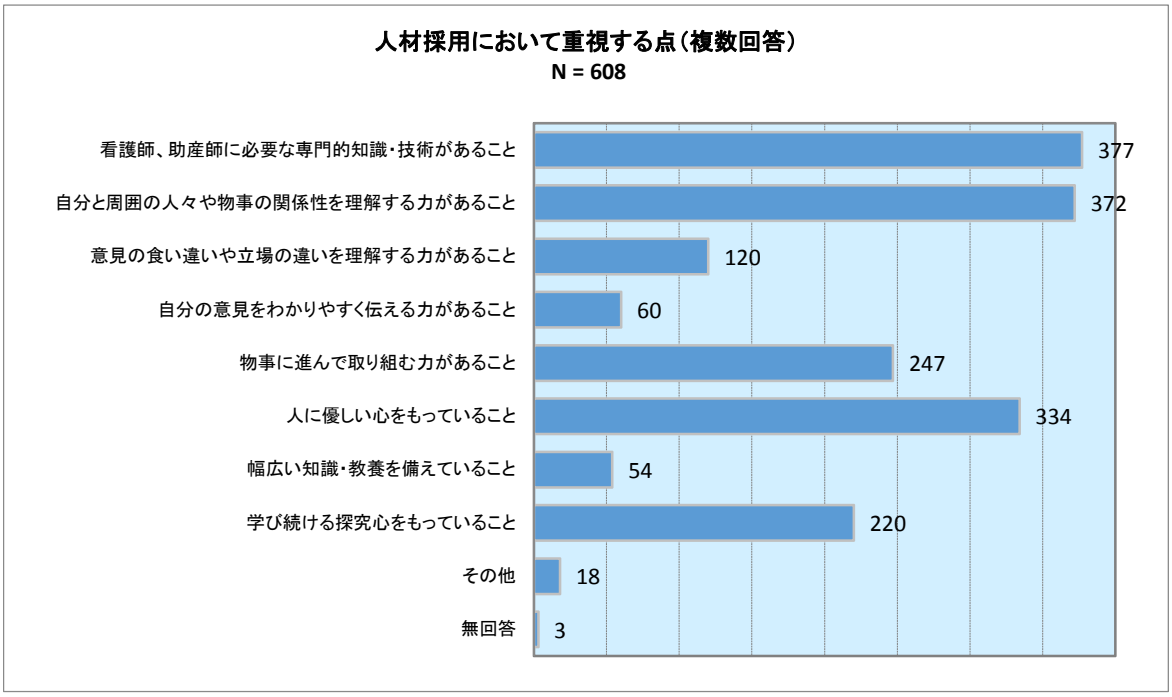
今後の人材採用予定（助産師）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	積極的に採用を増やしていくと思う	20	3.3
2	毎年、現状程度の人数を採用していくと思う	42	6.9
3	採用は減らしていくと思う	3	0.5
4	当面、採用は行わないと思う	134	22.0
	無回答	409	67.3
	N（%ﾍﾞｰｽ）	608	100



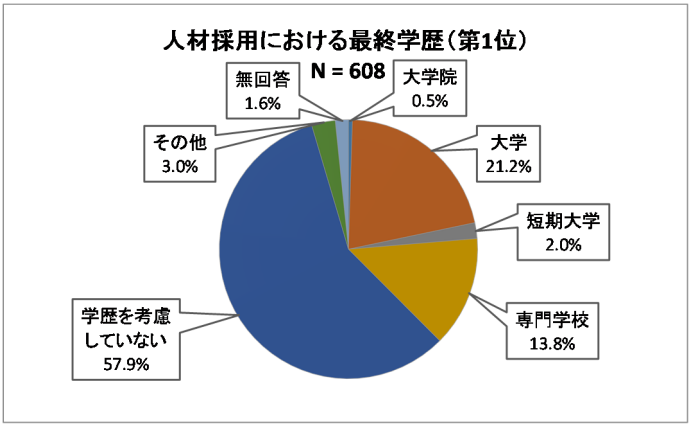
人材採用において重視する点（複数回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	看護師、助産師に必要な専門的知識・技術があること	377	62.0
2	自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること	372	61.2
3	意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること	120	19.7
4	自分の意見をわかりやすく伝える力があること	60	9.9
5	物事に進んで取り組む力があること	247	40.6
6	人に優しい心をもっていること	334	54.9
7	幅広い知識・教養を備えていること	54	8.9
8	学び続ける探究心をもっていること	220	36.2
9	その他	18	3.0
	無回答	3	0.5
	N（%ﾍﾞｰｽ）	608	100



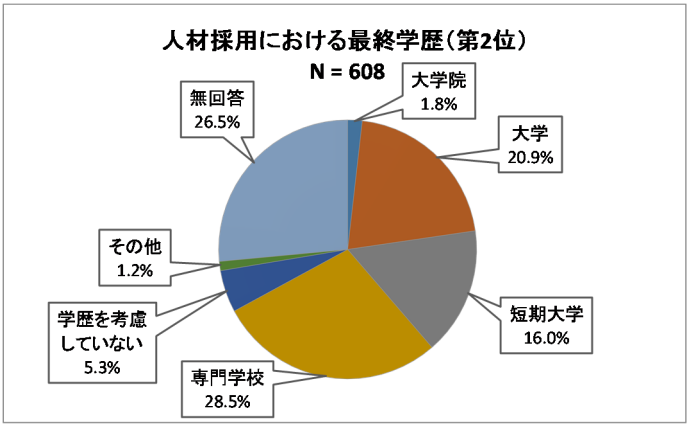
人材採用における最終学歴（第1位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	3	0.5
2	大学	129	21.2
3	短期大学	12	2.0
4	専門学校	84	13.8
5	学歴を考慮していない	352	57.9
6	その他	18	3.0
	無回答	10	1.6
	N（%ﾍﾞｰｽ）	608	100



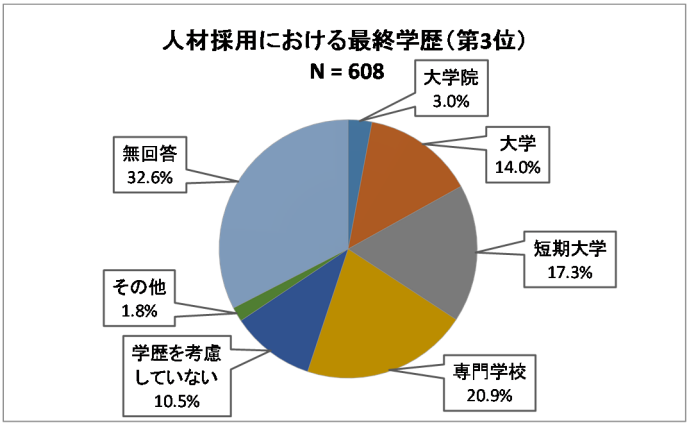
人材採用における最終学歴（第2位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	11	1.8
2	大学	127	20.9
3	短期大学	97	16.0
4	専門学校	173	28.5
5	学歴を考慮していない	32	5.3
6	その他	7	1.2
	無回答	161	26.5
	N（%ﾍﾞｰｽ）	608	100



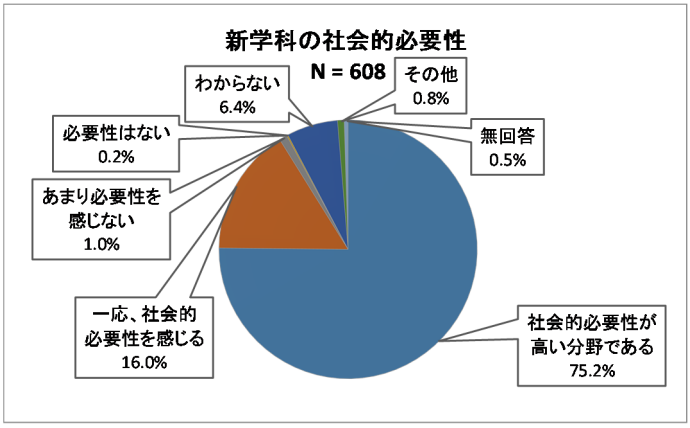
人材採用における最終学歴（第3位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	18	3.0
2	大学	85	14.0
3	短期大学	105	17.3
4	専門学校	127	20.9
5	学歴を考慮していない	64	10.5
6	その他	11	1.8
	無回答	198	32.6
	N（%ﾍﾞｰｽ）	608	100



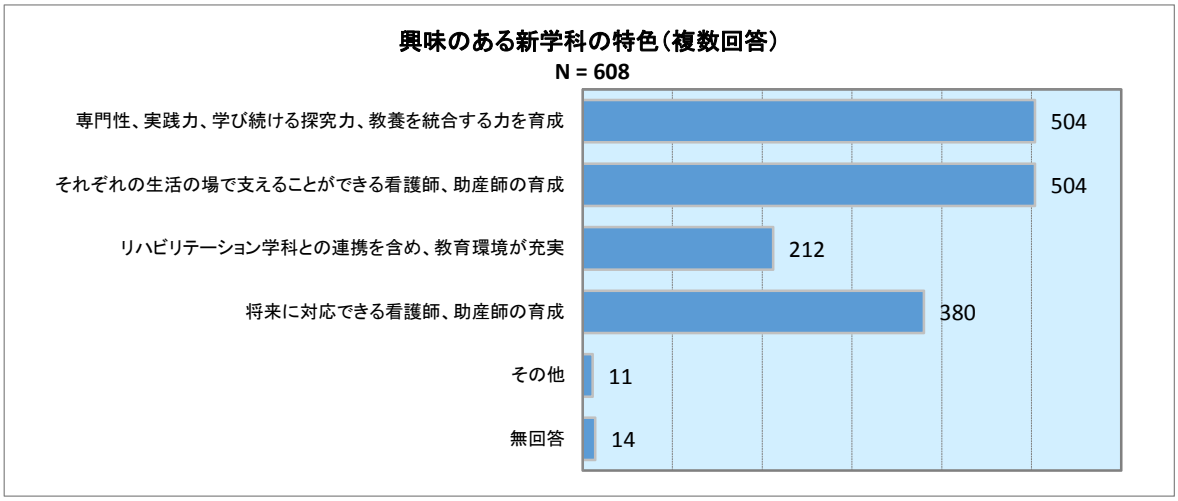
新学科の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	457	75.2
2	一応、社会的必要性を感じる	97	16.0
3	あまり必要性を感じない	6	1.0
4	必要性はない	1	0.2
5	わからない	39	6.4
6	その他	5	0.8
	無回答	3	0.5
	N（%ﾍﾞｰｽ）	608	100



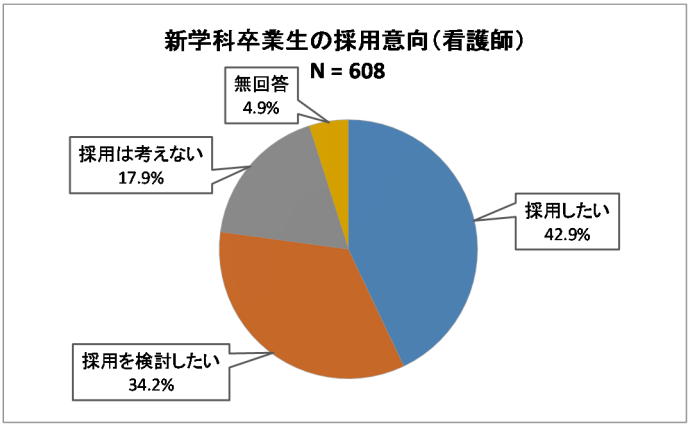
興味のある新学科の特色（複数回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	専門性、実践力、学び続ける探究力、教養を統合する力を育成	504	82.9
2	それぞれの生活の場で支えることができる看護師、助産師の育成	504	82.9
3	リハビリテーション学科との連携を含め、教育環境が充実	212	34.9
4	将来に対応できる看護師、助産師の育成	380	62.5
5	その他	11	1.8
	無回答	14	2.3
	N（%ﾍﾞｰｽ）	608	100



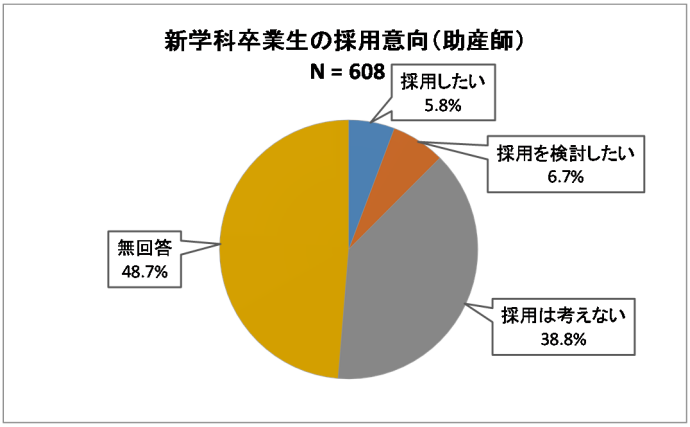
新学科卒業生の採用意向（看護師）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	261	42.9
2	採用を検討したい	208	34.2
3	採用は考えない	109	17.9
	無回答	30	4.9
	N（%ﾍﾞｰｽ）	608	100



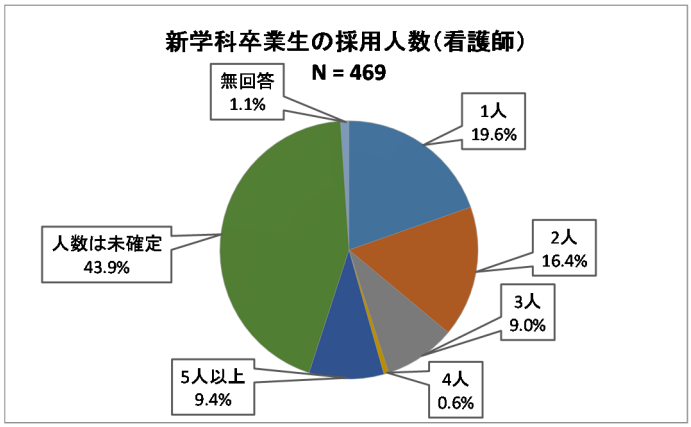
新学科卒業生の採用意向（助産師）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	35	5.8
2	採用を検討したい	41	6.7
3	採用は考えない	236	38.8
	無回答	296	48.7
	N（%ﾍﾞｰｽ）	608	100



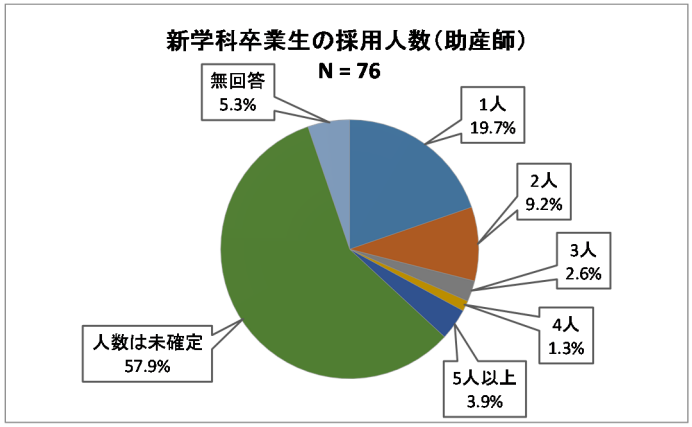
新学科卒業生の採用人数(看護師)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	92	19.6
2	2人	77	16.4
3	3人	42	9.0
4	4人	3	0.6
5	5人以上	44	9.4
6	人数は未確定	206	43.9
	無回答	5	1.1
	N (%ベース)	469	100



新学科卒業生の採用人数(助産師)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	15	19.7
2	2人	7	9.2
3	3人	2	2.6
4	4人	1	1.3
5	5人以上	3	3.9
6	人数は未確定	44	57.9
	無回答	4	5.3
	N (%ベース)	76	100



別記様式第３号（その１）

教　　員　　名　　簿

学　　長　　の　　氏　　名　　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
―	学長	サクマ　ヤスオ 佐久間　康夫 ＜平成24年4月＞		医学博士		東京医療学院大学　学長 （平24.4）

別記様式第３号（その２の１）

教　員　の　氏　名　等

（保健医療学部　看護学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
①	専	講師	ワガ　トクコ 和賀　徳子 ＜平成28年4月＞		※修士（学術）		スタディスキルセミナー	1前	1	1	学校法人常陽学園　看護学科新設準備室長（平25.4）	５日
							問題解決技法	3前	2	2		
							ボランタリーワークセミナー	3前	1	1		
							専門職の世界	1前	1	1		
							セルフディプロップメント	1前	1	1		
							キャリアディプロップメント	2後	1	1		
							医療チーム内のマネジメント	3前	1	1		
							医療以外の多職種との交流と発展	4前	1	1		
							キャリアマネジメント論	4前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅰ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅱ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅲ	2後	2	1		
							医療安全論※	3前	1.4	2		
							統合実習Ⅰ	4後	1	1		
							統合実習Ⅱ	4後	2	1		
							看護の探究Ⅰ	1前	2	2		
②	専	教授	カワモリタ　チアキ 川守田　千秋 ＜平成28年4月＞		修士(都市科学)		専門職の世界	1前	1	1	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科　講師（平15.4）	５日
							セルフディプロップメント	1前	1	1		
							キャリアマネジメント論	4前	1	1		
							看護学技術論	1前	2	2		
							基礎看護学方法論Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	1後	2	2		
							基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）	1前	2	2		
							基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	1後	2	2		
							基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）	1後	2	2		
							基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開）	2前	2	2		
							基礎看護学実習Ⅰ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅱ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅲ	2後	2	1		
							統合実習Ⅰ	4後	1	1		
							統合実習Ⅱ	4後	2	1		
							看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）	4通	5	1		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
③	専	教授	サトウ　ヨシコ 佐藤　和子 ＜平成28年4月＞		修士（教育学）		スタディスキルセミナー	1前	1	1	昭和大学保健医療学部看護学科教授（平23.4）	5日
							専門職の世界	1前	1	1		
							セルフディブロップメント	1前	1	1		
							キャリアディブロップメント	2後	1	1		
							基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開）	2前	2	2		
							基礎看護学実習Ⅰ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅱ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅲ	2後	2	1		
							成人看護学概論	2前	2	2		
							成人看護学方法論Ⅳ	2後	2	2		
							成人看護学演習	2後	2	2		
							成人看護学実習Ⅰ	3前~4前	3	1		
							成人看護学実習Ⅱ	3前~4前	3	1		
							統合実習Ⅰ	4後	1	1		
							統合実習Ⅱ	4後	2	1		
							看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）	4通	5	1		
							看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）	4通	5	1		
④	専	教授（学科長）	サクライ　ミヨコ 櫻井　美代子 ＜平成28年4月＞		社会学修士		スタディスキルセミナー	1前	1	1	東京慈恵会医科大学医学部看護学科　学科長（平3.2）	5日
							専門職の世界	1前	1	1		
							セルフディブロップメント	1前	1	1		
							キャリアディブロップメント	2後	1	1		
							医療チーム内のマネジメント	3前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅰ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅱ	1前	1	1		
							老年看護学概論	2前	2	2		
							老年看護学方法論	2後	2	2		
							老年看護学演習	2後	2	2		
							老年看護学実習Ⅰ	3前~4前	2	1		
							老年看護学実習Ⅱ	3前~4前	2	1		
							統合実習Ⅰ	4後	1	1		
							統合実習Ⅱ	4後	2	1		
							看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）	4通	5	1		
⑤	専	准教授	クボカワ　マユミ 久保川　真由美 ＜平成29年4月＞		修士（看護学）		医療チーム内のマネジメント	3前	1	1	茨城キリスト教大学看護学部　看護学科　教授（平20.4）	5日
							基礎看護学実習Ⅲ	2後	2	1		
							老年看護学実習Ⅱ	3前~4前	2	1		
							在宅看護学概論	3前	2	2		
							在宅看護学演習	3前	2	2		
							在宅看護学実習	3前~4前	2	1		
							統合実習Ⅰ	4後	1	1		
							統合実習Ⅱ	4後	2	1		
							看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）	4通	5	1		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
⑥	専	教授	セキネ　タダシ 関根　正 ＜平成29年4月＞		修士(教育学)		ボランタリーワークセミナー	3前	1	1	群馬県立県民健康科学大学看護学部　准教授（平21.4）	5日
							基礎看護学実習Ⅰ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅱ	1前	1	1		
							精神看護学概論	2前	2	2		
							精神看護学演習	2後	2	2		
							精神看護学実習	3前~4前	2	1		
							統合実習Ⅰ	4後	1	1		
							統合実習Ⅱ	4後	2	1		
							看護の探究Ⅶ（精神看護学領域研究）	4通	5	1		
⑦	専	教授	カイ　スミコ 甲斐　寿美子 ＜平成29年4月＞		※修士（心理学）		医療以外の多職種との交流と発展	4前	1	1	了徳寺大学健康科学部看護学科専任教授（平24.4）	5日
							小児看護学実習	3前~4前	2	1		
							母性看護学概論	2前	2	2		
							母性看護学演習	2後	2	2		
							母性看護学実習	3前~4前	2	1		
							統合実習Ⅱ	4後	2	1		
							地域母子保健学	3後	1	1		
							看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）	4通	5	1		
							看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）	4通	5	1		
⑧	専	教授	ワタナベ　ジュンコ 渡邊　淳子 ＜平成28年4月＞		博士（看護学）		医療チーム内のマネジメント	3前	1	1	聖マリアンナ医科大学総合企画室参与（平26.4）	5日
							基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	1後	2	2		
							基礎看護学実習Ⅰ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅱ	1前	1	1		
							助産学概論	3前	1	1		
							基礎助産学Ⅰ	3前	2	1		
							助産診断・技術学概論	3前	1	1		
							助産診断・技術学演習Ⅰ	3通	2	1		
							助産診断・技術学演習Ⅱ	3後	1	1		
							助産診断・技術学演習Ⅲ	3後	1	1		
							助産管理学	3前	1	1		
							助産学実習	4通	11	1		
							看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）	4通	5	1		
							看護の探究Ⅸ（助産学領域研究）	4通	5	1		
⑨	専	教授	ミワ　ノリコ 三輪　のり子 ＜平成28年4月＞		博士(看護学)		専門職の世界	1前	1	1	情報・システム研究機構　統計数理研究所特任研究員（平27.4）	5日
							セルフディブロップメント	1前	1	1		
							基礎看護学概論	1前	2	2		
							基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術）	1前	2	2		
							基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）	1前	2	2		
							基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	1後	2	2		
							基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）	1後	2	2		
							基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開）	2前	2	2		
							基礎看護学実習Ⅰ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅱ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅲ	2後	2	1		
							統合実習Ⅰ	4後	1	1		
							統合実習Ⅱ	4後	2	1		
							看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）	4通	5	1		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	イシカワ　ミチコ 石川　みち子 ＜平成29年4月＞		修士（カウンセリング）		基礎看護学実習Ⅰ	1前	1	1	常葉大学健康科学部看護学科教授（平26.4）	5日
							基礎看護学実習Ⅱ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅲ	2後	2	1		
							老年看護学方法論	2後	2	2		
							老年看護学演習	2後	2	2		
							医療チーム内のマネジメント	3前	1	1		
							老年看護学実習Ⅰ	3前~4前	2	1		
							老年看護学実習Ⅱ	3前~4前	2	1		
							統合実習Ⅰ	4後	1	1		
							統合実習Ⅱ	4後	2	1		
							看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）	4通	5	1		
2	専	教授	カトウ　カズコ 加藤　和子 ＜平成29年4月＞		博士（経済学）		基礎看護学実習Ⅰ	1前	1	1	常葉大学健康科学部看護学科教授（平25.4）	5日
							基礎看護学実習Ⅱ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅲ	2後	2	1		
							小児看護学演習	2後	2	2		
							小児看護学方法論Ⅰ	2前	2	2		
							小児看護学実習	3前~4前	2	1		
							医療以外の多職種との交流と発展	4前	1	1		
							統合実習Ⅰ	4後	1	1		
							統合実習Ⅱ	4後	2	1		
							看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）	4通	5	1		
⑩	専	准教授	ワケシマ　ルリコ 分島　るり子 ＜平成28年4月＞		修士(看護学)		専門職の世界	1前	1	1	佐賀大学医学部看護学科　看護基礎科学講座専任講師（平16.4）	５日
							セルフディプロップメント	1前	1	1		
							看護学援助論	1前	2	2		
							基礎看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術）	1後	2	2		
							基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）	1前	2	2		
							基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	1後	2	2		
							基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）	1後	2	2		
							基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開）	2前	2	2		
							基礎看護学実習Ⅰ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅱ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅲ	2後	2	1		
							成人看護学実習Ⅰ	3前~4前	3	1		
							成人看護学実習Ⅱ	3前~4前	3	1		
							統合実習Ⅰ	4後	1	1		
							統合実習Ⅱ	4後	2	1		
							看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）	4通	5	1		
⑪	専	講師	コバヤシ（シミズ）ミチコ 小林(清水)美智子 ＜平成29年4月＞		修士（教育学）		キャリアディプロップメント	2後	1	1	日本医療科学大学保健医療学部看護学科　講師（平24.4）	５日
							基礎看護学実習Ⅲ	2後	2	1		
							成人看護学方法論Ⅰ	2前	2	2		
							成人看護学方法論Ⅳ	2後	2	2		
							成人看護学演習	2後	2	2		
							成人看護学実習Ⅰ	3前~4前	3	1		
							成人看護学実習Ⅱ	3前~4前	3	1		
							統合実習Ⅰ	4後	1	1		
							統合実習Ⅱ	4後	2	1		
							看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）	4通	5	1		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
⑫	専	准教授	イマムラ　ヨシコ 今村　嘉子 ＜平成29年4月＞		修士（人間科学）		キャリアディプロップメント	2後	1	1	国立病院機構嬉野医療センター附属看護学校教育主事（平25.4）	5日
							基礎看護学実習Ⅰ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅱ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅲ	2後	2	1		
							老年看護学援助論	2前	2	2		
							老年看護学演習	2後	2	2		
							老年看護学実習Ⅰ	3前~4前	2	1		
							老年看護学実習Ⅱ	3前~4前	2	1		
							統合実習Ⅰ	4後	1	1		
							統合実習Ⅱ	4後	2	1		
							看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）	4通	5	1		
⑬	専	准教授	ナカゴメ　ユミ 中込　由美 ＜平成29年4月＞		修士（老年学）		医療以外の多職種との交流と発展	4前	1	1	東京家政大学人文学部心理カウンセリング学科　専任准教授（平21.4）	5日
							基礎看護学実習Ⅰ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅱ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅲ	2後	2	1		
							老年看護学演習	2後	2	2		
							老年看護学実習Ⅰ	3前~4前	2	1		
							老年看護学実習Ⅱ	3前~4前	2	1		
							統合実習Ⅰ	4後	1	1		
							統合実習Ⅱ	4後	2	1		
							看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）	4通	5	1		
⑭	専	講師	スズキ（ハラダ）ヒサコ 鈴木(原田)久子 ＜平成29年4月＞		修士（文学） 修士（教育学）		医療チーム内のマネジメント	3前	1	1	日本医療科学大学保健医療学部看護学科　准教授（平24.4）	5日
							基礎看護学実習Ⅲ	2後	2	1		
							老年看護学実習Ⅱ	3前~4前	2	1		
							在宅看護学方法論	3前	4	2		
							在宅看護学演習	3前	2	2		
							在宅看護学実習	3前~4前	2	1		
							統合実習Ⅰ	4後	1	1		
							統合実習Ⅱ	4後	2	1		
							看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）	4通	5	1		
1	専	講師	ヒロセ　キョウコ 廣瀬　京子 ＜平成28年4月＞		修士（教育学）		医療チーム内のマネジメント	3前	1	1	学校法人常陽学園　看護学科新設準備室（平26.10）	5日
							基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）	1前	2	2		
							基礎看護学実習Ⅰ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅱ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅲ	2後	2	1		
							小児看護学概論	2前	2	2		
							小児看護学方法論Ⅰ	2前	2	2		
							小児看護学演習	2後	2	2		
							小児看護学実習	3前~4前	2	1		
							医療安全論※	3前	0.6	2		
							統合実習Ⅰ	4後	1	1		
							看護の探究Ⅴ（小児看護学領域研究）	4通	5	1		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
⑯	専	講師	アナダ　ヒロミ 穴田　博美 ＜平成29年4月＞		修士（心身健康科学）		キャリアディプロップメント	2後	1	1	人間総合科学大学保健医療学部看護学科　講師（平26.4）	5日
							キャリアマネジメント論	4前	1	1		
							基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開）	1後	2	2		
							基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）	1前	2	2		
							基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	1後	2	2		
							基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）	1後	2	2		
							基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開）	2前	2	2		
							基礎看護学実習Ⅰ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅱ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅲ	2後	2	1		
							成人看護学演習	2後	2	2		
							成人看護学実習Ⅰ	3前~4前	3	1		
							成人看護学実習Ⅱ	3前~4前	3	1		
							統合実習Ⅰ	4後	1	1		
							統合実習Ⅱ	4後	2	1		
							看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）	4通	5	1		
(1)	専	講師	セキカワ（ヨシダ）クミコ 関川（吉田）久美子 ＜平成28年4月＞		修士（看護学）		専門職の世界	1前	1	1	東京医科大学看護専門学校　教員（平18.4）	5日
							セルフディプロップメント	1前	1	1		
							基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開）	2前	2	2		
							基礎看護学実習Ⅰ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅱ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅲ	2後	2	1		
							在宅看護学方法論	3前	4	2		
							在宅看護学演習	3前	2	2		
							在宅看護学実習	3前~4前	2	1		
							統合実習Ⅰ	4後	1	1		
							統合実習Ⅱ	4後	2	1		
							看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）	4通	5	1		
⑱	専	講師	オギハラ　ヤスコ 荻原　康子 ＜平成28年4月＞		修士（キャリアデザイン学）		医療チーム内のマネジメント	3前	1	1	了徳寺大学健康科学部看護学科講師（平26.10）	5日
							基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）	1後	2	2		
							基礎看護学実習Ⅰ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅱ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅲ	2後	2	1		
							小児看護学方法論Ⅰ	2前	2	2		
							小児看護学方法論Ⅱ	2後	2	2		
							小児看護学演習	2後	2	2		
							小児看護学実習	3前~4前	2	1		
							統合実習Ⅰ	4後	1	1		
⑲	専	講師	イノウエ　サトコ 井上　聡子 ＜平成28年4月＞		修士（看護学）		専門職の世界	1前	1	1	横浜創英大学看護学部看護学科助教（平24.4）	5日
							セルフディプロップメント	1前	1	1		
							基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開）	2前	2	2		
							基礎看護学実習Ⅰ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅱ	1前	1	1		
							精神看護学援助論	2後	4	2		
							精神看護学演習	2後	2	2		
							精神看護学実習	3前~4前	2	1		
							統合実習Ⅰ	4後	1	1		
							統合実習Ⅱ	4後	2	1		
							看護の探究Ⅶ（精神看護学領域研究）	4通	5	1		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
⑳	専	講師	テラオカ　アユミ 寺岡　歩 ＜平成29年4月＞		修士（保健学）		医療チーム内のマネジメント	3前	1	1	大和大学保健医療学部看護学科助教（平26.4）	5日
							母性看護学方法論Ⅰ	2前	2	2		
							母性看護学演習	2後	2	2		
							母性看護学実習	3前~4前	2	1		
							統合実習Ⅱ	4後	2	1		
							助産学実習	4通	11	1		
							看護の探究Ⅵ（母性看護学領域研究）	4通	5	1		
㉑	専	助教	タケダ　シン 武田　真 ＜平成28年4月＞		修士(看護学)		問題解決技法	3前	2	2	横山厚生会山形厚生看護学校　専任教員（平15.8）	5日
							ボランタリーワークセミナー	3前	1	1		
							専門職の世界	1前	1	1		
							セルフディブロップメント	1前	1	1		
							基礎看護学方法論Ⅰ（生活援助技術）	1前	2	2		
							基礎看護学方法論Ⅳ（看護の計画的展開）	1後	2	2		
							基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）	1前	2	2		
							基礎看護学演習Ⅱ（ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ）	1後	2	2		
							基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）	1後	2	2		
							基礎看護学演習Ⅳ（看護の計画的展開）	2前	2	2		
							成人看護学演習	2後	2	2		
							看護の探究Ⅱ（基礎看護学領域研究）	4通	5	1		
(2)	専	助教	アツザワ　ヒロミ 厚澤　博美 ＜平成29年4月＞		修士（看護学）		キャリアディブロップメント	2後	1	1	帝京大学医療技術学部看護学科助教（平25.4）	5日
							基礎看護学実習Ⅲ	2後	2	1		
							成人看護学演習	2後	2	2		
							成人看護学実習Ⅰ	3前~4前	3	1		
							成人看護学実習Ⅱ	3前~4前	3	1		
							統合実習Ⅰ	4後	1	1		
							統合実習Ⅱ	4後	2	1		
							看護の探究Ⅲ（成人看護学領域研究）	4通	5	1		
26	専	助教	クボシマ　リョウコ 窪島　領子 ＜平成28年4月＞		修士（教育学）		医療チーム内のマネジメント	3前	1	1	元首都大学東京都市教養学部都市教養学科リサーチアシスタント（平27.1まで）	5日
							キャリアマネジメント論	4前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅰ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅱ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅲ	2後	2	1		
							在宅看護学演習	3前	2	2		
							在宅看護学実習	3前~4前	2	1		
							統合実習Ⅰ	4後	1	1		
							統合実習Ⅱ	4後	2	1		
							看護の探究Ⅷ（在宅看護学領域研究）	4通	5	1		
27	専	助教	ウチダ　ヒロコ 内田　裕子 ＜平成28年4月＞		修士（看護学）		専門職の世界	1前	1	1	吉備国際大学保健医療福祉学部看護学科　非常勤講師（平26.4）	5日
							セルフディブロップメント	1前	1	1		
							基礎看護学演習Ⅲ（臨床看護技術）	1後	2	2		
							基礎看護学実習Ⅰ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅱ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅲ	2後	2	1		
							母性看護学方法論Ⅱ	2前	2	2		
							母性看護学演習	2後	2	2		
							母性看護学実習	3前~4前	2	1		
							基礎助産学Ⅱ	3前	2	1		
							助産診断・技術学方法論	3前	1	1		
							地域母子保健学	3後	1	1		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
㉓	専	助教	ワタナベ（カンノ）サチエ 渡邉（菅野）幸恵 ＜平成28年4月＞		修士（看護学）		医療以外の多職種との交流と発展	4前	1	1	帝京大学医療技術学部看護学科助教（平25.4）	5日
							基礎看護学演習Ⅰ（生活援助技術）	1前	2	2		
							基礎看護学実習Ⅰ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅱ	1前	1	1		
							基礎看護学実習Ⅲ	2後	2	1		
							母性看護学実習	3前~4前	2	1		
							健康教育技法	3前	1	1		
							助産診断・技術学演習Ⅰ	3通	2	1		
							助産診断・技術学演習Ⅱ	3後	1	1		
							助産診断・技術学演習Ⅲ	3後	1	1		
							助産学実習	4通	11	1		
							看護の探究Ⅸ（助産学領域研究）	4通	5	1		
㉔	専	助教	オオヤマ　ユウコ 大山　裕子 ＜平成28年4月＞		修士(看護学)		問題解決技法	3前	2	2	日本医科大学千葉北総病院副看護部長（平27.4）	5日
							ボランタリーワークセミナー	3前	1	1		
							医療以外の多職種との交流と発展	4前	1	1		
							老年看護学方法論	2後	2	2		
							老年看護学演習	2後	2	2		
							老年看護学実習Ⅰ	3前~4前	2	1		
							老年看護学実習Ⅱ	3前~4前	2	1		
							看護の探究Ⅳ（老年看護学領域研究）	4通	5	1		
29	兼任	講師	サカキバラ　テツヤ 榊原　哲也 ＜平成28年4月＞		博士（文学）		哲学	1前	2	1	東京大学文学部・大学院人文社会系研究科教授（平15.4）	
							科学と技術	1後	1	1		
30	兼任	講師	オオバ　ユウスケ 大庭　裕介 ＜平成29年4月＞		博士(人文科学)		歴史学	2前	2	2	國學院大學栃木高等学校（平26.4）	
31	兼任	講師	カワモト　カツヒデ 川元　克秀 ＜平成29年4月＞		博士(情報科学)		倫理学	2前	2	2	埼玉大学教育学部准教授（平12.4）	
							生命倫理	3前	2	2		
							異文化体験セミナー	4前	1	1		
32	兼任	講師	バンザイ　トモヒデ 坂西　友秀 ＜平成29年4月＞		博士（教育心理）		情報と人間	2前	1	1	埼玉大学教育学部教授（昭58.8）	
33	兼任	講師	タカヤナギ　リョウタ 高柳　良太 ＜平30年4月＞		修士（教育学）		情報活用演習	3前	2	2	川崎市立看護短期大学講師（平26.4）	
							保健統計学	3前	2	2		
34	兼任	講師	サトウ　マイ 佐藤　麻衣 ＜平成30年4月＞		博士（社会学）		家族と社会	3前	2	2	淑徳大学看護学部　兼任講師（平22.4）	
35	兼任	講師	キクチ　アキラ 菊地　暁 ＜平成28年4月＞		博士（文学）		身体論	1前	1	1	京都大学人文科学研究所　助教（平11.4）	
36	兼任	講師	ヨコヤマ　ミワ 横山　美和 ＜平成30年4月＞		博士(学術)		文学の中の人間	3前	2	2	大妻女子大学非常勤講師（平26.4）	
37	兼任	講師	スズキ　アキヒト 鈴木　晃仁 ＜平成30年4月＞		理学博士		生活と経済学	3前	2	2	慶應義塾大学　経済学部　教授（昭52.4）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
38	兼任	講師	オオタ　マサシ 太田　昌志 ＜平成29年4月＞		修士（法学）		医療と法 法と人権	2前 2後	1 1	1 1	千葉商科大学　准教授（平19.4）	
39	兼任	講師	セキ　ユキコ 関　由起子 ＜平成28年10月＞		博士（保健学）		文化と健康	1後	1	1	埼玉大学教育学部　准教授（平18.4）	
40	兼任	講師	シミズ　ユウスケ 清水　裕介 ＜平成28年10月＞		修士（文学）		東京の中の多摩を知るセミナー	1後	1	1	公益財団法人　多摩市文化振興財団　学芸員（主事）（平19.4）	
41	兼任	講師	フクイ　ユリコ 福井　由理子 ＜平28年4月＞		理学博士		生物と進化 生命科学	1前 1後	1 1	1 1	東京女子医科大学　医学部一般教育（生物学）　教授（昭51.4）	
42	兼任	講師	スズキ　ミドリ 鈴木　みどり ＜平成28年4月＞		高等学校		コミュニケーション論	1前	2	2	親業訓練協会　インストラクター（平5.11）	
43	兼任	講師	ヨシオカ　アリフミ 吉岡　有文 ＜平成28年4月＞		博士（学術）		物理学	1前	1	1	立教大学文学部教育学科　特別任用准教授（平23.4）	
44	兼任	講師	オザキ　ワカコ 尾崎　和香子 ＜平成28年10月＞		修士（Language studies）		日本語表現	1後	1	1	亜細亜大学非常勤講師（平19.4）	
45	兼任	講師	カワモトアンドレアケイコ 河本アンドレア恵子 ＜平成28年4月＞		博士（English language）		英語Ⅰ（読む・書く基礎Ⅰ） 英語Ⅱ（読む・書く基礎Ⅱ） 英語Ⅲ（医療英語） 英語Ⅳ（日常会話） 英語Ⅴ（英語論文読解）	1前 1後 2前 2後 3前	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	世田谷区非常勤講師（平22.4）	
46	兼任	講師	ムロヤ　マサフミ 室屋　正史 ＜平成31年10月＞		修士（韓国語学）		韓国語（基礎会話）	4後	2	2	拓殖大学商学部　非常勤講師（平20.4）	
47	兼任	講師	アサダ　タダシ 浅田　匡 ＜平成28年4月＞		学術修士		学習と教育	1前	1	1	早稲田大学人間科学学術院　教授（平14.4）	
48	兼任	講師	ホンダ　トモコ 本田　智子 ＜平成28年4月＞		修士(看護学)		形態機能学Ⅰ 形態機能学Ⅱ 形態機能学Ⅲ 形態機能学Ⅳ	1前 1前 1後 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	東京純心女子大学看護学部設置準備室　特任准教授（平26.4）	
㉕	兼任	講師	タカハシ　ミユキ 高橋　美由紀 ＜平成28年4月＞		修士(理学)		生化学（栄養学含）	1前	1	1	首都大学東京理工学研究科　後期課程履修中（平27.4）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
49	兼任	講師	タナカ　ヒデクニ 田中　秀邦 ＜平成28年10月＞		博士（歯学）		病理学	1後	1	1	日本大学松戸歯学部非常勤講師（平10.4）	
50	兼任	講師	マルヤマ　ケイ 丸山　敬 ＜平成29年4月＞		博士（医学）		臨床薬理学	2前	1	1	埼玉医科大学医学部薬理学教室教授（平12.10）	
51	兼任	講師	マチダ　サナエ 町田　早苗 ＜平成28年10月＞		博士(医学)		感染免疫学	1後	2	1	埼玉医科大学　医学部助教（昭59.4）	
52	兼任	講師	クサマ　ヨシキ 草間　芳樹 ＜平成29年4月＞		医学博士		診断・治療学Ⅰ	2前	2	1	日本医科大学多摩永山病院　内科・循環器科部長（平21.7）	
53	兼任	講師	ナカイ　アキヒト 中井　章人 ＜平成29年4月＞		医学博士（産婦人科学）		診断・治療学Ⅱ	2前	2	1	日本医科大学産婦人科教授（平18.10）	
54	兼任	講師	ワタナベ　シュウイチロウ 渡辺　修一郎 ＜平成29年10月＞		医学博士		診断・治療学Ⅲ※	2後	1	1	桜美林大学大学院老年学研究科教授（平14.4）	
55	兼任	講師	シドウ　マサヒコ 紫藤　昌彦 ＜平成29年10月＞		医学博士		診断・治療学Ⅲ※	2後	1	1	医療法人コスモス会紫藤クリニック　院長（平19.1）	
56	兼任	講師	トヨダ　エイコ 豊田　英子 ＜平成30年4月＞		修士（教育学）		臨床心理学	3前	2	2	立教大学学生相談所カウンセラー（平23.5）	
57	兼任	講師	ノデラ　マコト 野寺　誠 ＜平成30年4月＞		博士（医学）		疫学	3前	1	1	埼玉医科大学　准教授（平19.4）	
58	兼任	講師	モリオカ　マリ 森岡　真梨 ＜平成28年10月＞		博士（保健学）		生涯発達論	1後	2	1	女子栄養大学　特別研究員（平25.6）	
59	兼任	講師	イリエ　キミヤス 入江　公康 ＜平成29年10月＞		修士（人間科学）		社会保障論	2後	1	1	立教大学非常勤講師（平21.4）	
60	兼任	講師	モリヤ　アキコ 守谷　明子 ＜平成30年4月＞		修士（経営学）		チーム医療論	3前	1	1	埼玉県総合リハビリテーションセンター看護部長（昭59.1）	
61	兼任	講師	ミウラ　マユミ 三浦　まゆみ ＜平成31年4月＞		修士（学術）		災害看護学	4後	1	1	岩手県立大学看護学部教授（平10.4）	
62	兼任	講師	マツダ　ヤスヒロ 松田　安弘 ＜平成29年4月＞		博士（看護学）		成人看護学方法論Ⅱ	2前	2	2	群馬県立県民健康科学大学看護学部　教授（平17.4）	
63	兼任	講師	ヤマダ　タクミ 山田　巧 ＜平成29年10月＞		修士（看護学）		成人看護学方法論Ⅲ	2後	2	2	東京医療保健大学東が丘看護学部准教授（平25.4）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
㉖	兼任	講師	カブラギ　ヨウコ 鏑木　陽子 ＜平成31年10月＞		博士（音楽）		芸術論	4後	1	1	東京純心大学看護学部看護学科教員（平24.4）	
㉗	兼任	講師	ミカミ　タケヒコ 三上　岳彦 ＜平成31年10月＞		理学博士		環境科学	4後	1	1	首都大学東京大学院都市環境科学名誉教授（平17.4）	
㉘	兼任	講師	フクシ　キミヨ 福士　公代 ＜平成31年10月＞		修士(人間科学)		看護倫理学	4後	1	1	上智学院聖母看護学校専任教員（平27.4）	
㉙	兼任	講師	アミノ　ヒロコ 網野　寛子 ＜平成31年10月＞		博士(教育学)		公衆衛生看護学概論	3前	1	1	帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科教授(学科長)（平21.4）	
	専任補充						基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			
							基礎看護学実習Ⅱ	1前	1			
							専門職の世界	1前	1			
							セルフディブロップメント	1前	1			
							スタディスキルセミナー	1前	1			
							キャリアディブロップメント	2後	1			
							母性看護学演習	2後	2			
							母性看護学実習	3前~4前	2			
							助産診断・技術学演習Ⅰ	3通	2			
							助産診断・技術学演習Ⅱ	3後	1			
							助産診断・技術学演習Ⅲ	3後	1			
							地域母子保健学	3後	1			
							助産学実習	4通	11			
							看護の探究Ⅸ（助産学領域研究）	4通	5			

別記様式第３号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

職　位	学　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	1人	1人	人	人	1人	3人	
	修　士	人	人	1人	1人	1人	2人	1人	6人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	3人	人	1人	人	4人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	1人	3人	4人	1人	人	9人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	4人	2人	人	人	人	6人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	人	1人	1人	人	人	1人	3人	
	修　士	人	人	6人	9人	5人	4人	1人	25人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	